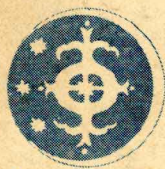


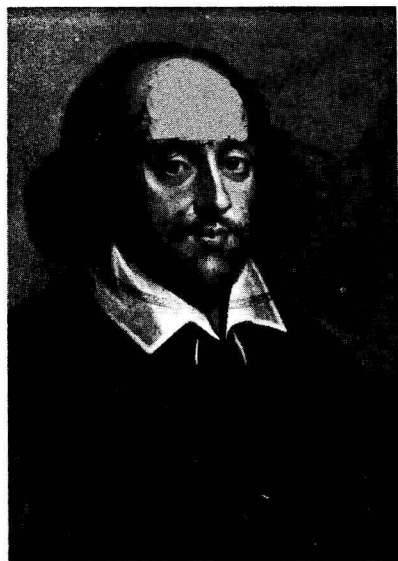


Plays
of
William Shakespeare



沙翁傑作集

橫山有策譯



新潮出版社

非賣品

世界文學全集(3)

沙翁傑作集

第二十七回配本

昭和四年五月十日印刷
昭和四年五月二十日發行

共同印刷製本部納

翻譯者 横山有策

發行者 佐藤義亮

東京市牛込區矢來町

發行所 新潮社

電話牛込

八八八八八
〇〇〇〇〇
九八七六五
番番番番番

振替東京二三、四五〇番

解 說

(一) ハムレット

『ハムレット』は、シェイクスピアの數多い著作中最も有名であり、且又最も多く讀まれてゐる物である。ハムレットはデンマークの王家に生れた温厚篤實な青年だつた。學問も好きであり、劍道にも疎くなく、勇氣にも富んでゐれば、情にも厚い王子だつた。生れながらの優雅な動作、秀麗な眉目、それでゐて機智縱横、而かも誠實と虚偽との區別に對して炯眼であり、敏感である。誠實な者は兩手を擴げて迎へるが、追従者は何處迄も輕蔑し、遠ざける。そして人の世の虚偽と罪惡に對する本能的な醜惡感はどうしても制しきれず、彼の心を暗くする。伯父の爲に父を亡ひ、母を奪はれたと云ふ事實が如何に彼の思想を悲痛に、暗鬱になさしめたであらう。

ゲエテは『ハムレット』を評して、「立派な、崇高い、そして最も道德的な人物だが、英雄たるの氣力に缺けてゐるため、自ら背負ひきれず、又投げ捨てる事も出来ない重荷の下に倒れてしまつた。」と云ふ意味の事を述べてゐるが、ハムレットの生活は無反省な、外面的、境遇順應的の性格を持つた者には理解されないだらう。イワン・ツルゲーネフは人間の性格をハムレット型、ドンキホーテ型、即ち反省的と、實行的との二つに分ち得る事を説いた。誠にハムレットこそ人間の反省の永遠の象徴である。そしてその意味に於てこそ『ハムレット』一篇が時處を絶して愛讀されるのである。

ハムレットが居なかつたら、クロロディヤス王家は安泰だつたらう。クロロディヤスも、ガーツルドも、ポローニヤ

スも、オフイリヤも、皆平穩無事の一生を送つたゞらう。だが反省無き生活は空虚であり、死である。『ハムレット』劇中の主要なる人物は悉く横死を遂げて、この劇は暗澹たる結末を遂げる。だが人の世に正しい道念と反省とを必要とする限り、悲劇は遂に絶えないだらう。その意味で「ハムレット」はいつ、如何なる時代でも常に存在に値する人物でなければならぬ。

(二) ジューリヤス・シーザー

『マクベス』劇はマクベス王の行狀記であるけれども、『ジューリヤス・シーザー』はそれと同じ意味でのシーザー行狀記ではない。シーザーは第三幕でたゞ殞れ、ブルータスが代つて劇の主要人物となる。

この劇の筋は比較的簡單である。『ヴェニスの商人』や、『ハムレット』の様に、いろ／＼な運命の経過が同時に進行を續けるのではなく、劇全體が唯一つの筋の發展に過ぎない。即ちブルータスを盟主とする「黨が政争の爲めにジューリヤス・シーザーを暗殺する。シーザーの友人アントニの一味がシーザーの爲めにブルータス、カシヤスの黨を討つて仇を復すると云ふ筋である。シーザーの死後、アントニが追悼演説を試みて、群衆の人氣をブルータスから奪ふ場面や、妻の諫めを聞かず、暗殺の當日議事堂へ出かける途中、その日(三月十五日)に兇事が起ることを警告した豫言者とシーザーが對面する場面、それから又、ブルータスが夜の陣營にシーザーの亡靈と會ふ場面などは殊に名高いものである。

この作品で注意すべきはシェイクスピアのシーザーの性格に對する觀察である。多くの歴史家はシーザーを殆ど理想的な偉人に祭り上げてゐるが、シェイクスピアはシーザーをもつと臆病で、迷信的な人物に描いてゐる。勿論この作で

は性格の解剖より人物の政治生活の描寫が目的であるのだが。

(三) ヴェニススの商人

ヴェニススの商人アントーニオが親友のために自分の肉體の一部を質入して、シャイロックと云ふ猶太人に金を借り、思ひがけない商業上の破綻に返金の途無く、遂に法廷で命を投げ出さうとするのを、その親友の妻のポーシャの機智によつて一命を救はれたと云ふ物語を經とし、これにポーシャ家の三つの函とその戀物語を緯として作り上げた喜劇である。一體人肉を質入して金策をする事は、古書に往々散見する事實で、その借主は或ひは商用資金に窮した商人であつたり、或ひは自分の戀愛のために金が入用な男だつたりするが、シェイクスピアのこの作品に現れた人肉質入の動機は、純粹な友情に基いてゐる。アントーニオは名利に恬淡な、偏屈な程に友愛、任侠を重んずる當時のビュリタンの代表者である。この情の人に對して、智の人であるポーシャあり、更に物慾の權化とも云ふべきシャイロックがある。

最初に刊行されたこの作品の表題には、「ヴェニススの商人の物語。その中には殘忍なる猶太人、及び三つの函の話あり。」と記されてある。當時世人は猶太人を貪婪飽くなき、冷酷な人種と見做してゐたので、シャイロックの無慈悲を憤り、その失敗を嘲笑ふために多くの民衆は劇場へ押しかけた事とも思はれる。全篇和やかな情愛に充ちた氣分を湛へてゐる中を、冷たい、鋭い風がシャイロックを圍つて吹く。若しこれを喜劇とするならば、それは基督教徒に執つての喜劇で、財産を失ひ、唯一人の娘を失ひ、危く一命さへも失はんとした老猶太人に執つては永久の悲劇でなければならぬ。

(四) マクベス

『マクベス』は野心の悲劇であり、同時に又良心の悲劇でもある。野心の動きと、その道ならぬ達成と、更に達成の後に起る苦悶との、精細な研究であり、解剖である。

わが『太閤記』はその一部に同じく主殺しの題材を取扱つてゐるが、マクベスと光秀、この兩者の叛逆は必ずしも同じ経過を伴つてゐない。光秀には幾分その行爲を是認さるべき理由があるが、マクベスにはそれが無い。唯彼自らの武勇に對する誇りと、利己的野心と、不思議な魔女の宿命的暗示とがあるだけである。更に光秀の妻と、マクベス夫人との性格にも多大の相違がある。

マクベスは單なる荒武者ではない。彼の性情は思ひの外想像的で、よく幻想を見、又迷信に煩よづはされる。道德的の弱さと、肉體的の勇氣とを以て、絶えず恐怖と斷行との間を彷徨する人である。かうした性質の男は野心に驅られて遂げようとする兇行の結果が餘りに明らかに想像されて、いざと云ふ場合に躊躇しがちである。そしてそれを尻押しするのがマクベス夫人である。實際的で、意志が強く、而かも夫思ひで、夫の志を遂げさせたいと云ふ願ひで胸一杯なのが彼女である。この二人の人物を中心に、『マクベス』悲劇は凄慘な、悲壯な、幾多の場面を展開するのである。

『ハムレット』や、『オセロー』と並んで、この作はシェイクスピアの大悲劇中で最も人氣があり、彼の生存中も屢々上演されて多大の成功を見たものと云はれてゐる。

(五) ヴェローナの二紳士

ヴェローナの二紳士グレンタインとブローチュウスとの戀物語である。グレンタインはミラン侯の息女シルヴィヤと相愛の仲になり、彼の親友ブローチュウスは故郷に残した戀人ジュウリヤを忘れて同じくシルヴィヤに戀し、烈しい煩惱の焰に友情を焼き盡して、術策を用ひ彼の女を我が物としようとする。森のロマンスが其處に展開される。

この劇が作者の數多い著作中、最も初期に屬するものであることは、内容を一讀すれば、誰しも容易く領ける事實である。若い、謂はゞ修業時代の作品である故に、名篇大作とは云ひ難いが、我々にはいろ／＼の意味に於いて興味が少ない。全篇に漲る若々しさ、奔放な、こだはりの無い感情、それから愉快なヒューモアなどは、やはりこの作者ならではのと思はせられる。尙この作でほんの僅か觸れられ取入れられた事件や場面が、同じ作者の後期の作品の中で十分に發展した形をとつて再び示され、有効に役立たされてゐるのも注意すべき事實である。——例へば、ジュウリヤが侍女ルウセッタと求婚者の品定めをする件が、『ヴェニス商人』のポーシャの同じ件の下繪であるが如き——。古今に絶する大詩人、大劇作家シェイクスピアの作家的才能の發展の跡を辿つてみる便宜のために、特にこの作を本集に收めた。

(六) ローミオとジュリエット

人の世の神祕を痛切に、嚴肅に感じさせる物は戀と死の二つに若くはなからう。死は誰にも来る。戀は凡ての人に來ない。然し戀は死に劣らず、思ひがけずに来たり、そして又死の如く避け難い。世界の文學に死と戀を取扱つた

作品は數多いが、『ロミオとジュリエット』程美しい、純情な戀愛悲劇か他にあるだらうか？ 宿命の強い力が人の企て、人の爲すところの悉くを破壊する怖ろしさを、これ程しみじみと感じさせる作品が、ギリシャ悲劇を除いて他に求められるであらうか？

勿論茲に働いてゐるのは豫知し難い宿命の力ばかりではない。讀者は老キャピュレット夫妻があんなにも短氣な、わからずやでなかつたらと思ふだらうし、ジュリエットがもう少し情熱を制御し得る婦人であつたら、そして又ローレンス法師がもつと確ちかりしてゐてくれたならとも思ふだらう。この作は唯の運命悲劇ではない。そして又作者が抒情詩人からもつと複雑な劇詩人へ轉化した時期の作品として我等に興味がある所因である。

ロミオとジュリエットに關する物語はシェークスピアの劇以前に世に知られた物が數種ある。この劇はアーサー・ブルックの叙事詩『ロミウスとジュリエットの哀史』に據つたのだとされてゐる。事件も、人物も、用ひられた言語その物にも、南方の香が高い。ジュリエットは全くのイタリー人で、いつも熱烈で、而かも純潔だ。新しい學藝と華々しい流行とを求むる當時のイギリス人に執つて、イタリーは常に憧憬の地だつた。

○ 坪内博士の名譯以外、本邦でシェークスピアの劇作が譯されたのは數少くないが、中には思ひきつた自由譯を試みてゐるものもあるやうだ。この譯文は出來得るだけ忠實に原作の語調を移すつもりで、特に行數まで一々原文に合せて譯してみた。譯者苦心の存するところを諒察して戴ければ幸ひである。

シェークスピアに就いて

ウィリアム・シェークスピアといふ一人の男が、エボン河上のストラトフォードといふ小さな田舎町に生れ、ほんの小學程度の教育を受けただけで家事の手傳ひをし、十八歳には八歳年長の婦人と結婚し、早くも父となつて二十歳頃に首都ロンドンへ出た。大方頼むべき人もなきまゝに、いろ／＼の職業に其目を送つてゐたうち、いつとはなく劇場に關係し、茲に最もふきはしい職業を見出したのであらうか、まづ俳優として技量を示し、やがて二十六歳の頃から劇作にも向つた。かくて文筆を勞すること約二十三年、其間に長詩二篇、十四行詩百五十四篇、悲喜劇三十七種を創作し、四十八九歳の頃筆を折つて故郷に退隱し、五十二歳にして尊敬すべき紳士として世を去つた。これだけの記事と、そして其作の素晴らしい廣さと深さと高さを有つてゐることと、あまりに調和し難いやうな感じを與へて、シェークスピアとは世を忍ぶ假りの名、實際の作者は科學者にて法律家たるベイコンであるとか、學者にて政治家たりしロウリーであるとか、不思議な臆測が行はれたのである。此説もとより問題とする價値なきものであるが、沙翁の作のしかく測り難い大きなあるものを有つてゐることの例證にはなる。神は時勢といふ形を用ひて、時に人目を眩惑する奇蹟を行ふ。しかし此奇蹟は決して青天に雨降らず類ひのものではない。我々は不十分ながらその由つて來るところを指摘し得られる。それを大にしてはイタリイにダ・ビンチやミカエロ・アンゼロを生んだ再生期の力の結晶である。小にしてはイギリスの國家的意識の燃え上つた熱の絶頂の所産である。劇壇だけでも先に三百年の地ならしがあり、直前に五十年の基礎工事がある。マローが『エドワード二世』を絶筆としてゐた頃、シェークスピアは大方『ヴェローナの二紳士』を書いてゐた。此兩者を比較する時、誰か前者の勝れた藝術を賞美し、後者のなほ稀薄な試作である事を承認せぬも

のがあらう。しかし其後の僅か五年十年のすばらしい進歩に對して、假に奇蹟といふ字を用ふるだけである。そして作者みづからもその異常な力を意識してゐたらしくなく、百代に傳ふる名聲などについては、殆ど考へてゐなかつたやうである。いかに當時戯曲が單に上演用の脚本としてのみ取扱はれた時代とはいへ、ジョンソン既に脚註を加へて自作の全集を出版してゐる際、彼が署名ある脚本は四ツ折本に僅に十六種、それさへ恐らく彼の承諾を得た出版ではあるまじく、彼は遺言して其指輪を友人に送り、其寢床を夫人に遺す周到さを示してゐるに拘らず、一言半句のその作品に及んでゐないほど、極言すれば彼の三十七種の無上價の劇は、彼に取つて故郷に最上等の家屋を購入する代に過ぎなかつたとさへ考へられる。まことに彼の一生の願ひは、窮厄の父を救ひ、一家の生計を安固し、彼の多くの先輩が殆ど路傍に餓死したるの轍を反復せずして、一個の名譽ある紳士として生き且つ死ぬることにあつたらしい。かくの如く一個の市民としての彼は健全なしかし平凡な人であつたであらう。たゞ一見平凡な樹と思はれたものが、實は根を深く廣く延ばした良き樹であつた。そしてたゞ良き樹が良き果を結んだまでである。

當代人の彼を見る決して怖ろしい巨人を以てしなかつた。友としては「濃厚なシェイクスピア」であり、劇作者として非凡の才能を認めてはゐたが、當代第一流の詩人は寧ろジョンソンであり、若きフレッチャーもやがてシェイクスピアと甲乙なきものに考へてゐたらしい。死後百年なほ眞價は認められず、ほど二百年に及ばんとする頃から、やうやく眞の偉大さの研究され、喧傳せられるに至つたのである。

然らばシェイクスピアはどんな點に於て偉大であるか、何が一番多く吾々の心を打つか、といふと、それは容易に答へ難い問題である。一つ二つの特長を捉へるべく彼はあまりに廣い。もとより彼を以て全能者の如く考へるの錯誤たるは言ふまでもないので、例へば彼にダンテの宗教なく、ゲエテの哲學はない。彼は靈の高調と智の思索の時代の子

でなく、あくまでも尋常人間の詩人である。しかも人間界に於て彼は「百萬の心」を有つてゐた感があつた。彼の觀察は廣く、彼の把握は強い。小さな印象の脱れるものなく、いかなる場合にも彼の公平は失はれない。そしてその感ずるところを表現するに於て洵に易々樂々、多辯ならんとすれば滔々數百言を費してなほ語の不足を感ずることなく、緊縮せんとすれば僅に一二語を据ゑて少しの動きを見せない。怒りは怒りの嵐を傳へ、囁きは囁きのリズムを奏でる。音楽の美がある。色彩の美がある。そこに面白い話もあり、手に汗握る場面も展開する。滑稽な人物と動作、すがすがしい抒情詩味、野趣ある笑ひ、おのづから涙を誘ふ悲しみ、天地に呼號してなほ足らぬ思ひのする情熱、高いユーモア、苦い皮肉、恐らく藝術が取扱ひ得る殆どすべての要素を高度に備へてゐるのが彼の劇である。しかし私に取つて最もすぐれたと思はれるものは、彼が人間の心の底にふかく窺きこむ洞察の力である。此人ほど人間を知り、人間の動きいだけず大線條を確かと捉へ得た人は他にいづこにあるやを知らない。此點に於て彼はチャーサー直系の子孫であり、そして英文學の最もすぐれた方面の代表者である。ごく小さな一例を擧げる――

ジュリーヤス・シーザー既に倒れ、其復讐戦をなすべくアントニとオクテヴィヤスの兩將は、フリッパの野にブルータス一味のものと對陣してゐる。シーザーの甥でこそあれ、オクテヴィヤスはほんの若輩、智謀名聲ともに勝れたアントニには殆ど帥事せねばならぬ關係にあるが、兩人の間にこんな會話が交される。――

アントニ「オクテヴィヤス、君の軍勢を引率して、平野の左手に進んで下さい。

オクテヴィヤス「右手を行います、私は。あなたは左手をお攻め下さい。

アントニ「君は此危機に際して、なぜ私に反對するか？」

オクテヴィヤス「反對は致しません。たいさうするだけです。(ジュリーヤス・シーザー五幕一場)。

オクテーヴィヤスの此最後の一語を玩味して見給へ。後に皇帝アウカスタスとなる此冷い、打算的な、自分勝手な男の面目は、百千言の説明よりもひたと頭に浮んで来る。そして彼を通じて世の唯我主義者のすべてが此一語に包まれる。

次にシェークスピアはかのトルストイとは違つて、一つの獨斷見を準備して之を讀者に強制することなく、おのづからに人生の意義と歸趨とを暗示してくれる。それは實に暗示であるから、捕捉し難いと云へば云へるが、すべて人生に關する眞理は醫師の調劑した藥を頓服する類ひのものでなく、みづからの努力と精進とに由り、暗示を力にやうやく辿りつくべきものである。そして沙翁の示す暗示はあくまで健全で又深刻である。「深刻に生き、深刻に考へ、そして深刻に書いた」と云はれる此ルネサンスの英國に於ても、彼ほど深刻に生き、悩み、樂しみ、そして表現したものは他にない。世に藝術を作るの人と、藝術に生きる人と二種の藝術家がある。わが芭蕉の如きは後者に屬する人で、彼は俳句を作るよりも、俳句を通じて生きることに、より多くの力が注がれた觀がある。沙翁も亦かくの如き藝術家の尤なる者の一人で、そのことは彼の一つの作を精査することに由つても窺はれるが、彼の一生の作品をその時代順に通覽するに由つて、殊にその感を深からしむるものがある。

シェークスピアの作をその心の發達史として觀るはダウデン教授の最も力説するところである。教授は之を四期に分ち、「仕事場にて」In the workshop、「世間に出て」In the world、「深處から」Out of the Depths、「高處に立ちて」On the Heightsと名づけた。之に由ると、二十六歳作の『戀の骨折損』を最も早き頃の試作と見て、史劇喜劇の分野に謂はゞ手當り次第に習作を試みて三十歳に至り、十分腕の冴えを自覺して「世間に出て」見る。若き春である。笑ふべく樂しむべきものは多い。『眞夏の夜の夢』、『ちや／＼馬馴らし』などの陽氣活潑にて詩情ふかき喜劇七篇、喜劇味の多い『ヘンリ四世』上下などの史劇四篇が此間から生れたが、そのうちには『ヴェニス商人』の如く、立場を異にすれば

楽しい喜劇も忽ち痛ましい悲劇に變ずるものもあつて、人生怡樂の日はいつまでも續かないことを示してゐる。殊に此期の作とせられる純情の戀愛悲劇『ロミオとジュリエット』、錯誤の政治悲劇『ジュリアス・シーザー』はもはや次の時期を豫示してゐる。此頃作者三十七歳、煩はしく惱ましい人事百般のもつれは多感鋭感な彼の心をいたく惱ましめたであらう。彼は身みづから『ハムレット』と共に解け兼ねる人生問題に悩み、『オセロ』と共に嫉妬に腸を嚙むいたみを感じ、『アゼンスのタイモン』と共に友情の頼み難いことを痛感したのであつた。此酸鼻を極めた人生苦の大渦巻に跋ひ込まれ、しかも彼は傷つけられずに他の側に浮びいで、「高處に立つて」人生を見渡すを得た。『シムベリン』、『冬ものがたり』、『あらし』などの示すものは、他人の罪を許すことを知り、敵を愛する心をもてる者の最後の勝利である。沙翁の魂の發達はその作を通じて研究することにより、さながらに理解せられる。

併し又他面に彼の作を以て主に時勢の反映として考へることもできる。習作時代に於て、リライの言葉、ナッシュの皮肉は『戀の骨折損』に、グリンのロマンスは『ヴェローナの二紳士』に、マローの勇壯は『リチャード三世』に見られるであらう。やがて愛國熱の呼起した史劇時代が來り、陽氣な抒情詩の喜劇時代となり、一轉してダンなどの『哲學的詩派』を喚起した物を考へ、事を極めるの悲劇を生んだ。そして緊張は弛緩して、再びゆるやかなロマンスの流行時代となつて、最後の『劇的ロマンス』の二三の作品となり、宮廷に於けるマスクは反映して、『あらし』の作と現はれたのである。

イギリス國民の特長は、やがてシェイクスピアの特長ではなかつたか？ 彼は生活の安定を期しつゝ、優れた詩を書かなかつたか？ 彼の見方は飽くまで公平ではなかつたか？ 彼は物語を愛しなかつたか？ 彼は劇を以て人生の鏡となし、喜びも悲しみも等しくそこに寫さんとしなかつたか？ チェスタトンの言葉を借れば、偉人は平凡であり、そして亦平凡である。

目次

ハムレット(五幕).....	一
ジュリアス・シーザー(五幕).....	二九
ヴェニス商人(五幕).....	二七
マクベス(五幕).....	三〇六
ヴェローナの二紳士(五幕).....	三六五
ローミオとジュリエット(五幕).....	四六六

カヴァーの繪……「ローミオとジュリエット」第三幕第五場的情景。

沙翁傑作集

シエークスピア作
横山有策譯

ハムレット

人物

クローディアス デンマーク國王。
ハムレット 先王の子、現王の甥。
ポロニーヤス 侍従長。
ホレイシヨ ハムレットの友。
レイヤーチーズ ポロニーヤスの子。
ヴォルチマンド
コーニリーウス
ローゼンクランツ
ギルデンスターン
オズリック
紳士一人。

廷臣。

僧官一人。

マーセラス 士官。

バーナード

フランシスコ 兵士。

レイナールド ポロニーヤスの臣。

俳優數人。

道化方二人 墓掘男。

フォーテンブラス ノオルウェイ王子。

隊長一人。

英國使節數名。

ガートルード デンマーク王妃、ハムレットの母。

オフィリヤ ポロニーヤスの娘。

その他貴族、貴女、士官、兵士、水夫、使者及び侍臣等。

ハムレットの父王の亡靈。

場所

デンマーク國の都エルシノーア。

第一幕

第一場

エルシノーア。城の前の高臺。
深夜。

フランシスコが見張りをしてゐる。そこへバーナード登場。

バーナード 誰だ？

フランシスコ 何、そつちこそ返答しろ。止れ、名乗れ。

バーナード 國王萬歳！

フランシスコ バーナードどのか？

バーナード さうだ。

フランシスコ ようこそ制限通りお出でなされた。

バーナード 丁度十二時を打つたところだ。お休み、フランシスコ。

く寒い。

フランシスコ 御交替ごちがいまことにかたじけない。あゝひど

心の臓しんが痛みます。

バーナード 何か變つた事でも？

フランシスコ 鼠一匹睡きません。

バーナード さうか、お休み。

若しも我等が見張り仲間の

ホレイシヨとマーセラスに逢つたら、急ぎ參られるよう

傳へてくれ。

フランシスコ 足音が聞えるやうです。……止れ、こら！

誰だ？

ホレイシヨとマーセラス登場。

ホレイシヨ この國の良民。

マーセラス そしてデンマーク王の臣下。

フランシスコ 平安を祈ります。

マーセラス おゝ、有難う、さやうなら。誰が御身と交

替されたか？

フランシスコ バーナードどのが代つてくれました。平

安を祈ります。

退場。

マーセラス おゝい！ バーナードどの！

バーナード これは、ホレイシヨどのも御一緒ですか？

ホレイシヨ まづさやう。

バーナード ようこそ、ホレイシヨどの、ようこそ、マ

「セラスどの。

ホレイシヨ　　して、かの物は今夜もまた出ましたかな？

バーナード　　まだ何も見ません。

マーセラス　　ホレイシヨどののは、我々の妄想に過ぎない

と言はれて、

我々には二度も見えた、あの怖ろしい光景に、いかな信用をも置かうとせられませんか。

そこで私け強ひてお願ひし、我々と一緒に

今宵の一秒一刻をも見張りしようとお伴れしました。

今一度かの亡霊が出て来るならば、

我々の眼の正しさも分り、又それに話しかけても敷かう

ためです。

ホレイシヨ　　馬鹿な、何の出ることがあらう。

バーナード　　まあお掛け下さい。しばらく。

そしてもう一度お耳を襲撃して見ませう、

我々の話を聴き入れまいと堅めて居らるゝそのお耳へ、

二夜もつゞけて見ましたあの光景を以て。

ホレイシヨ　　ともかく腰をかけて、

バーナードどのゝ話を聞くとしよう。

バーナード　　つい昨晩、……

あれあそこの、北極星の西にあたる星が、

丁度今輝いてゐる邊りに

參つた頃ほひ、マーセラスと私と立つて居ると、

折柄鐘は一時を打ち――

亡霊登場。

マーセラス　　しッ、黙りなさい。そら、あそこへ又現はれた！

バーナード　　同じ姿、お果てなされた先王そのまゝ。

マーセラス　　貴方は學者、ホレイシヨどの、話しかけて

御覽なさい。

バーナード　　先王そのまゝではないか？　よく御覽なさい、

い、ホレイシヨどの。

ホレイシヨ　　全くそのまゝ。恐怖と驚駭で、心が混惑する。

バーナード　　話しかけてほしさうな様子。

マーセラス　　何か問うて御覽なさい。

ホレイシヨ　　汝何者なれば、夜陰に及んで、

崩れまし、デンマーク大王の

凛々しく武裝して御進軍遊ばされた御姿を借りて横行す

る？　神明にかけ、命ずる、語れ！

マーセラス 機嫌をそこねた。

バーナード あれ、耳にもかけず立ち去るわ!

ホレイシヨ 止め! 語れ! 語れ! 命ずる、語れ!

亡霊退場。

マーセラス 行つてしまつた、答へようと思はない。

バーナード どうです、ホレイシヨどの! 貴方は震へ

て蒼ざめて居られますな。

これでも妄想以上の何物でもないのですか?

どうお考へで?

ホレイシヨ 神カミ以て、とても信じられない事だ、

この肉眼の生きた實際の證據がなかつたなら。

マーセラス 先王そのまゝではございませんか?

ホレイシヨ 君が君にそのまゝのやうに。

全くあの通りの甲冑を着けさせられた、

野心満々たるノオルウェイ王と一騎討を遊ばされた時は。

又あのやうに難かしい顔をせられた事もあつた、激論も

無益むやくとあつて櫓かきに乗つたポーランド人を、あの氷原に

お懲らしなされた時だつたが。

全く不思議……。

マーセラス あの前にも二度、時も丁度この死の時

刻、

堂々と、我々共の見張りの前をお通りあつた。

ホレイシヨ これといふ思ひ當る事もないが、

併し私の考へでは、

これは當國に何か異變が起る前兆だと思ふ。

マーセラス まあ、お掛けなさい。そして何方どなたでもよ

い、御存じの方に伺ひたい、

なんだつてこの現に我々のやつてゐるやうな、嚴重な水

も洩らさぬ警備を、

夜な／＼この國の良民に課するののか?

なんだつてかく毎日々々青銅の大砲を鑄造し、

外國市場へも夥おほしく軍需品を注文するののか?

なんだつてこんなに船大工を驅り集めて、

日曜平日の區別なく、苦役に服せしめるののか?

何が起るからといふので、汗あせに塗ぬれ大急ぎで、

夜を日に繼いで焦こつてゐるののか?

何方どなたでも教へて下さらぬか?

ホレイシヨ その儀なら教へよう、

少くとも風説はかうだ。我々の先君、

即ちつい今しがた、御姿を現あらはし給うた方は、

知つての通り、ノオルウェイ王フォーチンブラスに挑もよほまれ
給ひ、

互に張り合ふ意地が募つて、

例の一騎討を遊ばされた。その試合ひに當つて、わが勇

敢なハムレット王は——

夙に勇敢の名をとつて居られたが——

このフォーチンブラスをお斃おぼろしたされた。そこでフォーチ

ンブラスは、

かねて掟おきてと家名の譽れとにかけて、むすばれた契約によ

り、

一命諸共、所領全土を

勝利者へと差し出すことになつた。

勿論それに相當する領土が

我が君からも賂あまけられてあつたので、

假りにフォーチンブラスが勝利者であつたとしたら、

その賂物は、彼の手中に歸したのであつた。それは丁

度

同じ誓約に従つて、

彼のがハムレット王に歸したと同様に。然るに、その子の

小フォーチンブラス、

血氣無謀の若者が、

ノオルウェイの邊境へんきやうこゝかしこに、

事あれかしと餌を漁る無頼の暴民をかたらひ、

何事をか計畫し、しかも堅き決意を示して居る。

計畫といふは他でもない——

わが國當局の人々の賢くも推察する通り——

強大な武力を以て無理押しに、

父の失うた舊領を

取り戻さんとするに外ならない。で、私の考へでは、こ

れが

我々の戦備の重なる動機、

この警護のはじまり、國を擧げての

騒動もこれが主要な原因であらう。

バーナード 私もそれに相違ないと思ひます。

それによく符合するのは、この謂いれありげな姿

甲冑に身を固めて我々の見張りの前を通られた姿が、こ

の軍の

中心人物で昔あり、今もある先王そのまゝであることで

す。

ホレイシヨ これは心の眼を惱ます塵だ。

かのローマの盛時、

大ジューリヤス遭難の直前、

墓は悉く主を失ひ、墓衣を着た死人は出て、

ローマの街々をわめき罵り、

その上、星は焰の尾を引き、血の露をふらせ、

太陽は光を失ひ、又かの海洋神の國土を支配する月は、

病んで死ぬばかりに飢けたのであつた。

丁度これに似た惟ろしい事變の前兆が、

かの宿命の先驅の如く、

又はさし迫る凶變の序曲の如くに、

天も地も相結んで

津々浦々のわが國民に警戒してゐる——

靜かに、あれ、又あそこに現はれた！

亡靈再び登場。

遮ぎつて見よう、祟りをするなら、まゝよ。……止れ、

異象！

汝若し何かの音を發し、又は聲を揚げ得るならば、

口を開け。「心もち待つが返事はない」

若し善事のなすべきものあり、

之をなさば汝には心を安んぜしめ、我れには祝福となる

ものあらば、

口を開け。「間がある」

若し汝祖國の運命につき、祕かに知るところあり、

偶々豫知してこれを避け得るならば、

おゝ、語れ！

或はもし汝、生前、強奪の財貨を

大地の腹中に埋め置きしことあり、

之を求めて精靈しば／＼死後さまよひ歩くと聞くが、

しかあらば、之を語れ。止れ、もの言へ！

鷄鳴聞ゆ。

マーセラス、お止めなさい。

マーセラス この鐘で打ち据ゑませうか？

ホレイシヨ 止まらずばお打ちなさい。

マーセラス こゝだ。

バーナード こゝだ。

ホレイシヨ 行つてしまつた！

亡靈退場。

まことに濟まぬ事だ、あんな神々しいものに、

暴力を示すなどゝは。

空氣同然、何んの手應へもないのに打ち打擲は無用のこ

とであつた。

バーナード 丁度ものを言はうとした時に、鶏が啼きま
した。

ホレイシヨ するとぎつくりして、罪ある者が

怖ろしい呼び出しを受けたやうであつた。傳へ聞く、
牡鶏は朝の喇叭手、

高く鋭い喉を開いて、

日の神を呼び覺ますと、その警報に應じ、

海中、火中、地中、空中のわかちなく

出あるく放浪の靈魂は

その隠家へと急ぐといふ。その偽りでないことは

今目前の實物が證據になつた。

マーセラス 牡鶏の歌聲と一緒に消えました。

ある人の申すには、救世主生誕の祝はれる日の近づく時、

その準備にと、

曉告鳥は夜すがら唄ふ、

すると、いかな靈魂もさ迷ひ出す、

夜は清淨となり、星は崇りをせず。

妖精もあだをなさず、魔女も通力を失ひて、

全く清められ、惠まれた時が來るといふ事です。

ホレイシヨ その話は私も聞き、萬更謔とも思はない。

が、見給へ、朝日が眞紅の衣を纏ひ、

かなたの高い東の丘の露を踏んで昇つて來る。

夜の見張りもこれまでだ。そして

今夜見た事の始終をハムレットさまに

申上げようではないか。この命賭けていふ、

かの亡靈は我々にこそ口を開かなかつたが、王子にはき

つと物いほう。

どうであらう、この事をお知らせしては？

王子を思ふ我々の眞情からも、またお勤めからも、さう

あるべきだと思ふが。

マーセラス 左様いたしましたせう。幸ひ今朝お目にかゝれ

る便宜の場所を存じて居ります。

一同退場。

第二場 —— 城内の大廣間。

王、王妃、ハムレット、ポロニーヤス、レイヤーチ

ーズ、ヴェルチマンド、コーニールウス、その他貴族、

並に侍臣達登場。

王 我等が親愛なる兄ハムレット王崩御の

記憶いまだなま／＼しく、

我等の心を悲歎に包み、全國こぞつて

哀愁の一つ眉根を繋めるのは當然であるが、

しかも、分別を以てよく自然の情と戦ひ、

先王に對して最も深い哀悼の心を寄すると同時に、

國王たる我等自身の本分をも忘れなかつたのである。

即ち我等が先の嫂、今の妃、

この軍國の嚴かな協同者たるこの方をば、

いはど損はれたる悦びをもつて――

即ち一眼に笑を浮べ、一眼に涙を湛へ、

祝うて葬儀を終へ、泣いて婚儀を行ひ、

慶びと哭きとを同じ重さに秤りつゝ――

改めて妃と選んだ。尤もこの儀については

該卿のすぐれた智藝を軽んじたわけではなく、

君臣おのづから意見を一つにしたのであつた。これ等に

つき感謝に耐へない……。

さて次に、諸卿も知らるゝ通り、かの若輩フォーチンブラ

ス、

我等の力量を弱しと見てか、

但しは親愛なる兄王崩御によつて

この國亂れて統制を失ひ

乗すべき好機會ありとでも夢想してか、

煩はしく使者を送り來り、

彼の父が法の掟の契約に従ひ、

わが最も勇敢なる兄君に獻げた領土をば、

取り戻さんと執念く促して居る。彼が事はこれだけだ。

……

次に、今日の會合の要件はかうだ、

即ち我等こゝに一書を認め、

小フォーチンブラスの叔父ノオルウェイ王――

彼れ病弱にて床を離れず、

彼の甥のこの畫策を殆んど知らずにあるらしいが、彼に

宛て、事のこれ以上進行しないやう彈壓を求めた。

といふのは

その募兵、員數、全軍費割當、皆彼の

配下からなされてゐるからである。で、我等こゝに

コーネーリウス及びヴォルチマンドを以て

老ノオルウェイ王への書簡の使者に任命する。

王と商議の場合

書中逐一記載しある條項の

範圍を越えて私議するを許さない。

さらば！ 速かに忠誠を示してくれ。

コーニールウス
ヴォルチマンド

萬事につき忠誠を盡す所存でござりま

す。

王 必ずさうあらう。心から、無事を祈る。

ヴォルチマンドとコーニールウス退場。

さて、レイヤーチーズよ、何の話だな？

何か願ひがあると聞いた。何だな、レイヤーチーズ？

道理にかなつた事ならば、デンマーク王に話して、

話し損あやまだつたといふことはあり得ない。レイヤーチーズ、

一體何を求めるのだ？

何によらず、そちが乞ふまでもなく、我等からつかはさ

うものを。

頭かしらと心とは一つもの、

手は口の従したがではあるが、

デンマーク王とそちの父との關係は、それ以上だ。

何が欲しいのだな、レイヤーチーズ？

レイヤーチーズ 恐れながら、我が君、フランスへ立ち

還るお許しの儀にござりまする。

かの地から喜んでデンマークへ歸り、

御即位式に參列して、

その公務も相果てました今日、實を申上げると、

私の思ひは、再びフランスへと傾きます。

偏ひとへに御賢察を仰ぎ奉り、御裁可のほど願ひ上げます。

王 父の許しは得たか？ ポロニヤスの意見は？

ポロニヤス 我が君、彼奴の切なる請願により

しやう事なしの許しを私より挽ひぎ取りました。で結局

彼の望みの上に私の不承ふしょう々々の印いんを捺おさしてやりました。

願ねがはくば出立の御裁可を下し置かれまするよう。

王 都合のよい時間を選ぶがよい、レイヤーチーズ、時

はそなたのものだ。

意のまゝに悔くいなき目を送るがよい！……

ところで、わが近親のハムレット、今は我が子——

ハムレット 「いかにも厭いとだといふ風に横を向き、低く傍

白）近親以上だが、心は肉親以下だ。

王 どうしたのだ、いつまでも雲のかゝつたやうな？

ハムレット さうではありません、日に當り過ぎてゐます。

王妃 ハムレットや、さうした夜の色を脱ぬぎすて、

親しく、我が君をお仰ぎなさい。
いつまでも眼臉を俯せて、

地の下に父君を探すのはやめたがよい。

知つての通り、これは世の常のこと。生きとし生ける者は皆死に、

現世から永遠の生命へと過ぎゆきます。

ハムレット さうです、母上、常のことです。

王妃 としたら、

どうしてそなただけが、常ならぬ態に見えるのです。

ハムレット 見えるとは、母上？ いや、實際さうなのです。見えるなどいふことは存じません。

母上、このインキ色の上衣だけでは無いのです、

又嚴肅な黒の喪服でも、

強ひて吐く風のやうな滄息でも、

いや又、溢れがちな涙の流れでも、

乃至はしほれたれた憂ひ顔でも、

その他哀愁を示すあらゆる形状、様態、外見、

そんなものが私をほんたうに描いてはゐないので。こ

れらこそ實際見せかけに過ぎないのです、

人間が芝居をするためのそれこそ科ですから。

併し、私にはこの中に、「と胸を押へて」見せかけを超絶するものがあるのです。

王 こんなものは悲しみの飾り物や、衣裳に過ぎませぬ。

王 美しくも賞むべきそなたの性質を語るものだ、ハム

レット、

そなたが父上に對しかくまで哀悼の本分を致すとは。

とはいへ、理解しなくてはならぬ、そなたの父上も父を

失ひ、

失うた父が又その父を失うたのだ。後に残つた者は、

子たるものゝ義務に従ひ、しばらく、

喪に服するのが至當ではあるが、

さりとて餘り哀悼に執するのは、

第一神意にもとる片意地の行爲である。男らしからぬ悲

しみだ。

天に従はぬ我意、

心に信仰の守護なく、短慮無智のふるまひ

分別から言つても、單純な、無經驗を語つてゐる。

止むを得ぬことで、又、世の常と知りながら、

何が故に子供らしい反抗心を起し、
深く心にかけるのだ？ つまらない！ これ天に背くの

罪、

死者に背くの罪、自然に背くの罪、

理性に向つて全く耳傾けない行爲である、父親の先立つ

は世の常のこと、人の死があつて以来

今日に至るまで道理は變らず叫んでゐる、

「然あるべき事」と。我等の頼みだ、

この無益の悲嘆を地に一擲し、我等を思ふこと

父を思ふが如くあつて貰ひたい。廣く天下に布告するが、

そなたを以て王位繼承の最も近接の者と推擧する。(古歐

洲では王は胥侯の爵職であつた。しかし
前の王の推擧した者が大抵選はれてゐた)

そしていとも切愛する父がその子に對すると

更に劣らぬ愛の氣高さを以て

そなたへの贈物とする。そなたが

ウイッテンベルグの大學へ還りたいといふ志に至つては

我等の希望は甚しく背馳する。

どうか、枉げてこの地に留り、

我等が眼の裡の悦びとも慰めともなり、

朝臣の頭領とも、親近とも、また我等が愛子ともなつて

貰ひたい。(王子答へず、少時不快な沈黙續く)

王妃 ハムレットよ、そなたの母の祈りを、空しうして下

さるな、

どうぞ、こゝに一緒にゐて下さい。ウイッテンベルグへは

行かないで。

ハムレット 力の及ぶ限り、母上のお言ひつけに従ひませ

う。

王 それでこそ、情味のある正しい答だ。

デンマークに居て、我等と一つに暮すがよい。妃よ、參

らう。

ハムレットのこのやさしい自ら進んでの同意は

大に我が意を得た。これを嘉して

デンマーク王は今日樂しき乾盃をあげ

巨砲を以て天に告げよう、

天は地上の霹靂に反響し、

再び王の祝宴に應へるであらう。あちらへ參らう。

ハムレットを除き一同退場。

ハムレット おゝ、このあまりに、あまりに、硬い肉の

溶けて、

とろけて、露と消えも果てたなら!

さもなくば、永遠不滅の神の、自殺を禁じ給ふ、

扱さへなかつたなら! おゝ、神よ! 神よ!

この世の事何一つ、我に取つて物憂く、
氣ぬけて、無味で、又用なく見えぬものはない！
忌はしい、えい、忌々しい！ この世は草茂る荒庭だ、
草はやがて實を結び、木來汚なく醜いものが、
一面に蔓つてゐる。「奥に饗宴の初まるを知らせる大砲
轟く」かうまでにならうとは！
亡くなられてたつた二月！ いや、それほどにもならぬ、
二月にも足らぬ。

あんなに優れた大君、それとこれとを較べれば、
ハイビリーヨン(神)とセーター(半人半羊)。母上をいと
しがりなされ、
空吹く風の荒けなくお顔を撫でるをさへ
許さうとはなされなかつた父上。おゝ！ 天よ、地よ！
想ひ出さねばならぬのか？ 母上も、常々父上により添
はせられ、
汲めば汲むほど愛の渴きの増すが如くに見えた。それが
一月と経たぬに——

もうそのことは考へさせてくれるな。——移り氣よ、汝
の名は女性だ！——
一月足らずに、氣の毒な父上の死骸の後について

ナイオービ(子女を失ひて不漸の涙々)のやうに涙にくれて、
歩まれたあの履の
まだ古びもせぬのに——どうだらう、母上が、あの母上
が——

おゝ神よ！ 分別なき獣でも
もつと長く悲しむであらうに——叔父と結婚なされた、
父上の弟と、弟とはいふが、父に似ても似つかぬのは、
予がハーキョリーズに似ぬと同じだ。一月も経たぬに、
不正不義な空涙の鹽が、
すり赤らめた眼にまだ流れも止まぬうち、
母上は結婚された。おゝ、何たる非道！
あゝもすばやく、淫慾の床へ駆け行くとはい！
必ず善い事はない、大凶事が起つて来る。「誰か近づく」
もうこの胸が裂けようとまゝだ、口を嚙まねばならぬ！

ホレイシヨ、マーセラス及びバーナード登場。
ホレイシヨ 君の御安泰をお喜び申します！
ハムレット よく參られた。「と一通りの廷臣と思ひ、脇
を向いてそつけなく挨拶するが何となく聲に記憶があ
るので振り向いて見ると舊友である」
や、ホレイシヨ——但しは俯目か。

ホレイシヨ 仰せの通り、臣ホレイシヨでござります。

ハムレット 君、わが親友だ。互に呼ぶに親友を以てしよう。ホレイシヨ、何として、ウィッテンベルグから此

處へ？ おゝ、マーセラスか。

マーセラス 我が君には――

ハムレット よく參られた。バーナードもようこそ。

で、實際、何の爲めにウィッテンベルグからこゝへ？

ホレイシヨ 怠惰根性だからでござります。

ハムレット 御身の敵がさう言ふのでさへ聞きたくない。

まして御身みづからの口から、

御身の悪口を予の耳に信じさせやうなど、

その亂暴はやめてもらはう。御身が怠惰者でないことは

よく知つてゐる。

だが、このエルシノーアでの用事は何かな？

滞在中に、大酒飲むことを教へられるぞ。

ホレイシヨ 實は御父君の御葬儀を拜觀に參りました。

ハムレット まあ、嘲弄するのはよしてくれ、學友。

恐らく、母上の婚儀を觀よう爲めだらう。

ホレイシヨ 全く、大層間近に執行はせられました。

ハムレット 儉約、儉約、ホレイシヨ！ 葬式に用ゐた焼

肉を、

冷えたまゝ婚禮の食卓へ持ち出したのさ。

あゝ、憎みても憎み足らぬ怨敵と天國で出會はうとも

あの目を見たくはなかつたよ、ホレイシヨ！

あゝ父上！――どうやら、父上が眼に見えるやうだ。

ホレイシヨ え、どこにでござります。

ハムレット この心の眼に。

ホレイシヨ 私も一度おん目にかゝつたことがござりました。すぐれて氣高いお方にゐらせられました。

ハムレット まことの丈夫でゐらせられた、どこからどこ

まで。

あんな方に二度と會ふことはあるまい。

ホレイシヨ 「やゝ躊躇の後」我が君、私は昨晩おん目

にかゝつたかと存じます。

ハムレット お目にかゝつた？ 誰に？

ホレイシヨ 御父上なる先君に。

ハムレット 父なる先君に！

ホレイシヨ その御驚きをしばらくお鎮めなされ、

これなる兩人を證人とし、

私の申上げますこの不思議の一條を

遂にお聴取り下さいまし。

ハムレット 後生だ、早く聞かせてくれ。

ホレイシヨ 二夜つゞけてこれなる兩人、

マーセラスとバーナードが見張りの折から、

死せるが如き空漠たる眞夜中に、

この不思議に出會ひました、御父上そのまゝの姿、

頭から足の爪先まで、寸分の隙間なく甲うて、

兩人の眼の前に現はれ、莊嚴なる步調で

徐々に又堂々と、その傍を過ぎゆきます。三度びそのも

のは、

兩人の、息もつまつて怖れ惑うた眼の前を

その所持なす短棒に手を延せばとゞくほどの近くを歩き

ました。その間兩人は、

恐怖のあまり、身も消えんばかりに震へをのゝき、

口をつぐんで言葉をかけようともしなかつたと、

嚴かな祕密をもつて私に洩らしくれました。

そこで私も兩人と第三夜の見張りをいたしましたところ、

ろ、

聞きしにたがはず、時といひ、

かのものゝ姿といひ、一言の相違なく、

異象は現はれました。私は御父上を存じて居ります。

この兩の手も、あのお姿ほどよくは似て居りません。

ハムレット して、それはどこで？

マーセラス 私共が見張りを致して居りました高臺でござ

います。

ハムレット 御身は話しかけては見なかつたか？

ホレイシヨ 話しかけて見ました。

しかし何の答へもありませんでした。だが一度

頭を擡げ、顔の筋を動かさんばかりにして、

もの言ひたげに見えました。

ところが、折も折、朝の牡鶏が聲高に啼きました。

するとその聲と共に、急ぎあとしざりし、

眼界から消え失せました。

ハムレット 何といふ不思議なことだ。

ホレイシヨ 我が君、私がかく生きてゐることに疑ひな

いと同様、全く眞實の事でございます。

この事を申し上げますは、我々臣下の勤め的一端と

心得ましたのでございます。

ハムレット その通り、その通り、しかしこれは心がより

だ。

各々は今夜も見張りに就かれるか？

マーセラズ

さやうにござります。

バーナード

甲冑をつけてゐた、と言つたね？

マーセラズ

さやうにござります。

バーナード

頭から足の爪先きまで？

マーセラズ

仰せの通り、頭から足の爪先きまで。

バーナード

では、顔は見なかつたのだな？

ハムレット

いや、見えてましてござります！ 顔當をあげて居りました。

ホレイシヨ

えー 難かしい顔付だつたか？

ハムレット

怒るといふよりも寧ろ悲しうな顔付。

ホレイシヨ

青ざめてか、それとも赤くか？

ハムレット

はい、非常に色青ざめて。

ホレイシヨ

で、眼をきつと注がれてか？

ハムレット

絶え間なく。

ホレイシヨ

予もそこに居あはせたかつた。

ホレイシヨ

さすればさだめしお驚きなされましたこと

でござりませう。

ハムレット

全く、全く。……長く留まつてゐたか？

ホレイシヨ

並の速力で百を數へるほどの間。

マーセラズ

もつと長かつた、もつと。

バーナード

ホレイシヨ

さう長くなかつた、私の見た時は。

ハムレット

鬚は半白だつたか——どうだ？

ホレイシヨ

やうでございました、丁度御存生中にお

見受け申しました通り。

ハムレット

黒い中に銀の線がまじつて。

ホレイシヨ

或は又現はれ出るであらう。

ハムレット

現はれ出るに相違ござりませぬ。

ホレイシヨ

假にも父上のお姿を装ふとあらば、

きつと話しかけて見よう、よしや地獄が口を開いて、

黙れと命ずればとて。……で、各々にお願ひする、

今日までこの事を秘しかくして置いたのなら、

いつまでも沈黙のうちに之を保つてゐて貰ひたい。

又今夜いかやうの事が突發しようとも、

心に會得して、口の端に出さぬよう。

各々の友誼には、必ず報ゆる時があらう。では、さらばだ。

高臺で十一時と十二時の間に、お目にかゝらう。

一同 忠誠を捧げまする。

ハムレット いや互ひの友愛をだ、さらば。

ハムレットの外一同退場。

父上の靈が甲冑をつけて！ 不吉の前兆だ。

何かあるのではないか。あゝ早く夜が来るといふに！

その時まで、わが心よ騒がずに居てくれ。悪事といふも

のは、

大地が悉くこれを覆ひ遮るとも、人の目に現はれるもの

だ。

退場。

第三場 ——ポロニーヤス邸の一室。

レイヤーチーズとオフィリヤ登場。

レイヤーチーズ 必要の品々は積み込んだ、さらば。

妹よ、風の都合よく、

便船の出るたびに、居眠つてゐずと、
消息を聞かせておくれ。

オフィリヤ それを御懸念なされてか？

レイヤーチーズ ハムレットさまの、あの軽々しいそなた

への御寵愛だがね、

あれは一時の氣まぐれ、若氣のさせる思ひつき、

いはゞ春に生ひそだつ葦草、

早咲きだが、おきに枯れ、美しいが、長持ちはしない、

束の間の薫り、暇つぶし、

それだけだよ。

オフィリヤ たつたそれだけ？

レイヤーチーズ それだけだと思ひ。

肉體はたゞひとりで成長するものでなく

この肉體といふ殿堂の太く育つにつれて本體の心と魂も

一緒に太る。大方今ではそなたを愛しては居られよう、

今では穢いお考へや策略が、あの方の正しい御志を

汚してはゐないから。だが、怖れねばならぬことはな、

あの方の尊い御身分を秤にかけると、御自身の意志が御

自身のものでないことだ。

あの方はその御身柄に對しても御家來、

軽い身分の者のやうに、氣儘な

お振舞は許されない。といふわけはだ、あの方の妃選び一つで、

この國全體の安危にもかゝはつてくる。

だから選擇なされるにも、かの方が、

頭首であらせられる一國の、輿論の同意といふものゝ、

制限を受ける。そこで、そなたを愛すと仰せられても、

特別な時と場合に於てのみ、

お言葉も實行となるかも知れぬ位みに信用するのが、

そなたの知慧に似つかはしいのだ。特別なと言つても

このデンマーク國中が同意せねば出来ない事だからね。

それからそなたの名譽がどんな損害を蒙るであらうか、

それを計つて御覽、

萬が一あまり輕率にあの方の口吟む小唄に耳傾げて、

そなたの心を許したり、又は若氣にはやる強請に負けて

大事な操の秘寶を開きでもしようものなら、

それを畏れなさい、オフイリヤ、それをな、妹や、

愛情の殿りに身を置き、

欲望の的になる危険を避けるのだよ。

憤み深い處女なら、月に素顔を曝すさへ、

はしたないことにする。

淑徳の權化でさへも、誹りの矢は免れぬ。

害蟲が春の若芽を蝕みはじめ、

蕾の開くを待たぬことも度々ある。

青春の水々しい露の朝まだきこそ

悪い毒氣の一番押し寄せる時だ。

だから氣を付けなさい。最上の安全は、恐れ慎むことに

ある。

若い頃はわれとわが身に叛くものだ、誰一人誘ふ者はな

くても。

オフイリヤ、このお教訓の御主意は

心の見張人としてとくとこの胸に納めて置ませう。し

たが兄上、

不しだらな僧侶にはありがちとやら、

人には天國への險しい荆棘の路を教へて置きながら、

御自分ではいゝ氣になつた向う見ずの放棄者同様、

あだめいた櫻草の咲く道を通つて、

自身の言つた訓へを忘れてしまはれませう。

レイヤーチーズ、おゝ、心配無用。

これは長居した。や、父上が見えた。

ポロニーヤス登場。

〔レイヤーチーズ、その前に跪く〕二重の祝福は二重の恵幸ひ、重ねてお暇乞ひする機会を得ました。

ポロニーヤス　まだ此處にか、レイヤーチーズ！　女々

しいぞ、さ、乗船、乗船。

風は帆の肩に宿つて、

皆々そなたを待つてゐる。いざと左手をレイヤーチーズの頭に置き、わが祝福そなたと共にあらん事を……

それからこの二三の誦誠をそなたの記憶に

刻み込んで貰ひたい。——心に浮ぶことごとくをうかとは

口に出すな、

秩序なき考へには行ひを與へるな。

友には親しむとも必ず狎れるな。

交つて久しく、試験ずみになれる友達は

鋼鐵の箍はがねの魂たまひにしかと結んでおけ。

だが握手に掌の皮を厚くするほど

辨わつたばかりの雛つぎみと交際まじりあをする要はない。かまへて

喧嘩口論に立ち入るな。しかし一旦はじめたら、

敵手に眼に物見せてやれ。

耳は何人にも貸し、聲は誰にも惜しむがよい。

誰の意見は聴くとも、自分の判断は差し控へよ、
財囊の許すかぎり服装を整へても、

奇を好んで飾り立てるな。立派はよし、華美はわるし。

外容はしばしば、その人を表はすもの、

わけてもフランスでは地位身分ある人

特にその選擇に留意し、且つ金惜みをしない。

借金人とも貸與人ともなる勿れ。

貸金はまゝ金と友と二つながら失ひ、

又借金は節約の刃を鈍くする。

中でも次の一事、即ち汝みづからに忠實なれ、

さすれば勢ひ夜の晝に繼ぐ如く

他人に對しても不實になることはなからう。

さらば、わが祝福によりこの誦誠のそなたの身に育ち實

るように！

レイヤーチーズ　謹んでお暇乞ひ申します。

ポロニーヤス　よい潮時だ、行きなさい、従僕どもも待

ちかねてゐる。

レイヤーチーズ　さらば、オフィリヤ、よく覚えてゐてお

くれ、

今言つたことを。

オフイリヤ 記憶の倉に鏡を下ろして、
鍵はあなたにお預けします。

レイヤーチーズ さらば。

退場。

ポロニーヤス 何だな、オフイリヤ、兄がそなたに言った

といふのは？

オフイリヤ 不躰ながら、あの若君ハムレットさまの事で。

ポロニーヤス おゝ、よくこそ氣がついた、

聞けば、若君には近頃しげく、

そちの許へ入らせられ、そちもまた

何の遠慮も憚りもなく、御接待申すとやら。

果してさうだとすれば、——いや、全くさうだと聞いて

ゐるし、

しかも警戒の意味で告げ知らされたのだが——わしはき

つと言ひ置かなくてはならぬ、

そちはわしの娘であり、又そちの名譽にふさはしいほど

に、

自分の身をはつきりと理解して居らぬ。

若君との間はどうあるのだな？ ほんたうのことを

隠さずと言つておくれ。

オフイリヤ 父上、あの方は近頃幾たびも愛情のお申出を
なされました。

ポロニーヤス 愛情！ プーウ！ そちの口振りはまる

でおほ、こ娘だ、

こんな危ない場合にちつとも出逢つたことがないげな。

そちはその申出とやらを眞に受けてゐるのか？

オフイリヤ さあ、何と思つてよろしいか。

ポロニーヤス はてさて、そんなら教へて上げよう、そ

ちは赤兒も同然だよ。

そんな極印つきでもない申出を、まことの拂込でも受け

るものと思ふなんて。自分をもつと高價く言ひ出しな

さい。

さもないと——これまで續けて來たのだ、序でに

駄洒落をつゞければ——言ひ出しどころか、顔出しも出

來ぬやうになる。

オフイリヤ でも、あの方が愛をお求めなされますのに、

少しも不眞面目な風はござりませんでした。

ポロニーヤス 風！ さうく當世風といふやつさ。馬

鹿な、馬鹿な。

オフイリヤ そしてお言葉に權威を添へようと、

殆どありとある天の尊き誓言をも仰しやいました。
ポロニーヤス、それが阿呆鳥を捕へるための民だ。わし
も知つてゐる、

血が燃える時には、何とでもべら／＼と

心が舌に誓の言葉を貸せるものだ。娘やかういふ交はの、
光がある割に熱はなく、ばつと燃えあがるか上らぬに、
これはと思ふ程もなく、どちらも消えてしまふもの、

それを火と間違へてはならぬ。これからはな、

處女らしく、御前に出ることを少しは憚るがよい。

よしお招きがあつても、もつと高値をつけて、

會議の召集でも受けたやうに、急いで飛んで行つてはな

らぬ。ハムレットさまの

お言葉を信用するにしても、あの方はまだお年は若し、

同じ縛られてあるにしても、そちたちよりはずつと長い

緊索で

自由に歩かれるといふ事を考へねばならない。手短かに

言へば、オフィリヤ、

あの方の誓言など信じてはならぬ。それは人にふしだら

をすゝめる仲人役でな、

表につけた衣裳の色と、

腹の中とは大ちがひ、

信仰ぶつた手合ひらしい口をさくのも

うまく欺さうなためばかりだ。結局は、

露骨な言葉で言つて置くが、今日以後

僅かの時たりとも

ハムレットさまと言葉を交したり、話したりして貰ひたく

ない。

よいか、申しつけたぞ。さ、あちらへ行きなさい。

オフィリヤ、お申しつけに従ひます。

兩人退場。

第四場 — 高 臺。

ハムレット、ホレイシヨ、並にマーセラス登場。

ハムレット 風が意地悪く囁みつく。ひどい寒さだね。

ホレイシヨ 抓るやうな鋭い風です。

ハムレット 今何時だらう？

ホレイシヨ 十二時かと考へます。

ハムレット いや、もう打つた。

ホレイシヨ さうですか？ 聞きませんでしたか。では

そろ／＼

かの亡霊の迷ひ出る、いつもの時刻に近づきまする。

凱旋の喇叭の聲と大砲の音が奥の方で聞える。

あれは何の爲めでござりますか？

ハムレット 王が今宵徹夜の宴を張り、

飲めや踊れやの大騒ぎなのだ。

そして王がラインの美酒を飲み乾す毎に、

あの通り、太鼓と喇叭を唸らして

御代萬歳を讀へようといふのさ。

ホレイシヨ それが風習なのですか？

ハムレット さうだ、習文、その通りだ。

だが、予はこの國に生れ、

生れるとからこの風習に慣れてはゐるが、

守らうよりも、廢するのをすつと名譽と思つてゐる。

この頭痛を催させる酒宴は、東西遠近の分ちなく、

他國人の誹謗嘲笑の種となり、

やれ泥酔漢よ、豚よと呼ばれ、

我等の名は汚される。まことに、

我等のなし遂げた事がいかほど高きを極むるとても、

名譽の心髓はこの爲めに奪はれてしまふのだ。

かやうの事は、一個人の上にも屢々起ることであるが、
生れながらのある僅かの缺點、
例へば血統上のことなど——それについて本人が罪を負

ふべきでないのは、

誰も先祖を選ぶことができないのでも明白だが——

何か心の傾向があまりに偏して成長したために

理性の強い垣根を押し倒したり、

若しくはある習癖から、もと／＼立派な行狀でも

これをやり過ごすので、かういふ人達は——

よろしいか、たつた一つの缺點といふ烙印、それは

宿命の與へた徽章でも、運勢の定めた星でもあるのだが

その烙印から離れる事が出来ず——

他の美德の、よしや天福の如く純潔に、

人間の享け能ふかぎり無限であらうとも、

人の口の端には、その一つの過失から

難辯つけられずにはゐまい。たつた一滴の賤しさが、

あらゆる貴い實質を汚し、

みづから汚辱を招くのだ。

亡靈登場。

ホレイシヨ や、我が君、御覽なされ、あれ、あすこに。

ハムレット 天使、善神、我等を護らせ給へ……。

汝、救はれたる神靈にてもあれ、はた呪はれたる妖魔にてもあれ、

汝天界の精氣を齎らさんと、又は地獄の毒氣を携へ來るとも、

汝の志すところ悪にもあれ、善にもあれ、

かくの如く物言ひたげなる姿にて現はるゝ上は、

敢て汝に話しかけるぞ。われ汝を呼ぶにハムレット

國王、父上を以てする、お、デーンの王者、返答せられ

よ！（しばらく待つが返辭はない）

疑惑の中にわが心を破りたまふな、語れ、

何故あつて、柩に納めた御むくろが

その墓衣を破つて起き出でられしぞ？ 何故あつて

神聖なる儀式を盡して安らげく葬り奉つた御陵が

その重き大理石の腰を開き、

御むくろを再び地上に吐き出したか？ 何とて

すでにむくろになられた君が際もなく甲冑を著け、

かくは冴えわたる月夜に現はれて、

夜をものすごくなさるゝか？ 我等本性愚かにて

魂の解し得ぬ思ひに悶え、

五體悉く怖れをのゝくは何故か？

語れ、これは何故、何のため、我等に何をなせと言はるゝのか？

亡靈、ハムレットをさし招く。

ホレイシヨ あれ、一緒にあちらへとさし招き、

何かこなた御一人にのみ打ち明けたいと望んでゐるやう

に見えます。

マーセラス あれ、いかにも禮儀正しく手を振つて、

他所へと、我が君を招きます。

けれども、お越し遊ばされずな。

ホレイシヨ 決してお出でなされずな。

ハムレット こゝでは口を開かぬな。では、其方へ行かう。

ホレイシヨ いや、我が君、それは……。

ハムレット 何んの氣遣ひがあらう？

予はこの命に針一本の値ひをも置かない。

それに予がこの魂ならば、既にあのものゝ如く不死不滅

だから、

あれが何んの害を興へようぞ？

又予をさし招きをる、ついて行くぞ。

ホレイシヨ 何となされず、若しやかのものが我が君

を海川などに誘ひ、

又は海に臨んで突き出たる懸崖の

身震ひのする頂きにおびき寄せ、

忽ち別の怖ろしき異形に姿を變じ、

我が君の理性の力を奪つて、

狂氣へと導いたならば？ そこをお考へ下され。

千仞の海を見下し、

脚下にとどろく波の音を聞くやうな所は、

たゞそれだけで、絶望のむら氣を

何人の頭にも注ぎ込みます。

ハムレット まだ招きををる。

進め、ついでに行かうぞ。

マーセラス いえ、若君、お越したざれますな。

ハムレット その手を放せ。

ホレイシヨ お静まり下さい。行つてはなりません。

ハムレット わが宿命が行けと命じ、

この體內のか細き血管をば悉く

ニイミヤの獅子の筋の如く硬くするぞ。

まだ／＼呼んでゐるな。各々、放してくれ。

天も照覽あれ、妨げなす奴は亡靈にするぞ。

退れといへば！ さ、進め、ついでに行くぞ。

亡靈とハムレット退場。

ホレイシヨ 我が君には昂奮の餘り、我を忘れなされた。

マーセラス 御あとをついで行かう。お言葉に従ふべき

場合ではない。

ホレイシヨ 追つかけよう。どんな結果になることや

ら？

マーセラス これはデンマークの國に、何かよくないこ

とがあるのだ。

ホレイシヨ 天の導きに任さう。

マーセラス いや／＼、共にお跡を追はう。

兩人退場。

第五場 — 高臺の他の一部。

亡靈並にハムレット登場。

ハムレット どこまで連れて行くのか？ 語れ、もはやこ

れ以上は行くまいぞ。

亡靈 よく聞け。

ハムレット 承はらう。

亡靈 燃ゆる硫黄の業火のなかに

わが身を沈めねばならぬ時は迫つた。

ハムレット おゝ、いたましや！

亡靈 その憐れみをやめ、誠意ある耳を傾け、

わが打ち明くることを聞けよ。

ハムレット 心構へして居ります、お話し下され。

亡靈 聞いた上は、復讐を忘れてはならぬぞ。

ハムレット 何と？

亡靈 我はそなたの父の亡霊だ。

定めに従ひ、深夜のある期間をさ迷ひ歩くことを許され

るが、

晝は猛火に鎖されて断食し、

生ける日に犯した醜き罪業の

焼き、淨めらるゝのを待つてゐる。われ若し禁を破つて

あの世の煉獄の秘密を語つたならば、

わが打ち明くる物語の、いとさゝやかなるひと節たりと

も、

そなたの魂を痺らせ、若き血潮を凍らし、

二つの眼を星の如くに、その眼窩より飛出させ、

編み束ねたる捲毛は分れ、

毛筋ことごとく逆立つて

怒り易き蝟の刺毛にも似るであらう。

さはれ、この永遠の秘密は、人間の耳に

入るゝべきでない。聴け、聴け、おゝ聴け！

汝、眞實にいとしき父を愛する心厚からば――

ハムレット おゝ神よ！

亡靈 この極悪非道の弑逆の仇を報いよ。

ハムレット 弑逆とは！

亡靈 弑逆はいかなる場合にも極悪であるが、

これに上越すためしもない極悪非道の弑逆だ。

ハムレット 早う仔細を語られよ、さすれば、

一瞬に遠く走るといふ戀の思ひの翼よりも、又瞑想の

それよりも疾く、わが復讐へとかけ行きませう。

亡靈 いかにもさうあるべき事だ。

かくても心動かさずとあらば、

かの忘れ河リイシイの岸邊に生ひしげる

はてなき雑草にも劣りて、心鈍きものと言はう。さて、

ハムレット、よく聞けい。

われ庭園に眠りてありし時、

毒蛇來つて我を刺せりと巧みに言ひふらしデンマーク全

士の耳を
ま、ままと欺いて

醜くも贖した。されど知れ、汝心氣高き若人、

そなたの父の生命を刺し留めた毒蛇は

今王冠を戴いて居るのだ。

ハムレット お、この魂の豫感の通り、あの叔父が！

亡靈 さうだ、あの邪淫とも不倫とも言ひやうのなき犬

畜生、

奸智にはだけ、背信者の悪才を備へ——

お、忌はしき奸智と才幹を以て、……人を惑はしみだす

力あつてか——遂に操正しく見えたわが王妃を説き落

し、恥づべき邪淫へと伴ひ去つた。

お、ハムレット、何といふ背信の行爲だらう！

わが愛はまことに嚴肅で

大婚の式場で契つた誓約を

つゆ違へなかつた我を離れて、

天賦の才能我より劣れる彼れ如きたはけ者に

心を移さうとは！……

げにまことの操は邪淫天使の姿に化して誘ふとも

ゆめ動かさるゝことなく

心卑しき者は、よしや輝く天使と縁を結びとも、

やがては天堂の床で慾情を満たし、

腐肉を喰うて喜ぶのだ。

しかし、待てよ！ 曉の風の香がたゞようて来るらしい、

手短かに語らう。われ日頃の慣例として、

午後、園内に眠り、

心ゆるせし時を窺ひ、汝の叔父は忍び來り、

手に持つた毒液を小瓶から、

わが耳の戸口に

その膿みたゞらす液汁を注ぎ込んだのだ。

人間の血しほと相容れぬこの液は、

水銀の如くすばやく走つて、

体内のありとあらゆる血管をかけめぐり、

忽ち強い威力で

健かなる血液を凝結せしめるのだ、

丁度乳に酢を注ぐやうに。

我が血もかくの如く、

見る／＼うちに吹き出ものし、

癩病やみの如く、汚なく忌はしい痂で、

この滑かなる五體は流はれた……。

かくて眠れる間に、弟の手にかゝり、
生命も、王冠も、妃も、一時に奪ひ取られて、

わが罪業の花、盛りのまゝに、

聖餐を受けず、末期の教を聞かず、最後の塗油の式もな
く、

あらゆる不善不徳を頭に戴いたまゝ、審判の席へ引き出
されたのだ。

ハムレット おゝ怖ろし、おゝ怖ろし、何といふ怖ろしさ

だ！

亡靈 汝もし孝心あらば、この怨を忍んではならぬ。

デンマーク王家の寢所を

色慾と忌はしい淫樂の床たらしむるな。

さはれ、事を行ふにいくら急いでも、

汝の心を汚すことなく、又汝の魂をして、

母に對して企らむやうな事があつてはならぬ。母のこと
は、

天に任せ、おのが胸に宿る棘針の、刺すまゝに

して置くがよい。では、もうさらばだ！

螢火は曉の近きを示し、

そのか弱き光は青ざめ初めた。

さらば、さらば！ ハムレット、わが言ひつけを忘るなよ。

退場。

ハムレット おゝ、ありとあらゆる天の神々！ 地の神々

よ！ 他に、

地獄の鬼神も！ おゝおぞまし！ 耐へよ、耐へよ、わ

が心。

又汝、わが筋肉よ、俄かに老いゆくことなく、

予を力強く支へてくれ。なに、われを忘るなと！

仰せまでもない、いたましの亡靈よ、記憶がこの混亂し

た頭に、

座を占めて居る限りは。われを忘るなと！

いかで忘れえよう？ この記憶の手帳から、

あらゆる些末な愚かしい記録を、

書籍に見えたあらゆる格言、あらゆる映像、あらゆる過

去の印象、

即ち若き觀察のそこに寫したものの悉くを拭ひ捨て、

尊靈の嚴命たゞ一つを、

この頭腦の書卷の中に生かし置き、

他の卑しき事柄を交へはすまい。さうだ、天に誓つて！

おゝ何といふ邪非道の女！……

お、極悪人、極悪人、面に微笑を湛へながら、墮地獄の悪人め！

さうだ、手帳に書きとめて置くべきものだ、微笑み、微笑みつゝも、この大悪事をなすとは。

少くともこのデンマークでは、確かにさうだ。「と書きながら」

さあ叔父貴、この通り書いたぞ。今度はわが間言葉を……

かうだ、「さらば、さらば、われを忘るゝな。」

もうそれは天に誓つたのだ。

マーセラス 「内から」 我が君！ 我が君！

ホレイシヨ

マーセラス 「内から」 ハムレットさま！

ホレイシヨ 「内から」 天よ、我が君を護らせ給へ！

マーセラス 「内から」 護らせ給へ。

ホレイシヨ 「内から」 ほういゝゝ！ 我が君さま！

ハムレット 「辛く聞きつけて」 ほういゝゝ！ 若者！ 來

いゝ小鳥。

ホレイシヨとマーセラス登場。

マーセラス どうなされました、我が君？

ホレイシヨ どんな事でござりましたか？

ハムレット お、奇怪千萬！

ホレイシヨ どうぞ、お話し下さいまし。

ハムレット いや、他に洩すであらう。

ホレイシヨ 天に誓つて口外いたしませぬ。

マーセラス 私とても同様でござります。

ハムレット 何と、人間の心に嘗てかゝることを考へ及ん

だものがあらうか？……

だが、各々は秘密を守るであらうな？

ホレイシヨ 仰せまでもありません。

マーセラス

ハムレット このデンマーク中に住んでゐる悪黨で、

極悪非道の悪人でないものはない。

ホレイシヨ それしきのことを亡霊が墓から出て、

知らせる程でもありますまい。

ハムレット うむ、全く、全くその通りだ。

だから、もうこれ以上、こまかしいことを詮索するのは

やめ、

お互に握手して、別れたがよいと思ふ。

誰にも仕事や欲望はあるものだから、

各々はその仕事と欲望の指導するまゝに……

予は又予で歸つて祈禱でもしようよ。

ホレイシヨ　これは又我が君には、取留めのない事を仰せられますな。

ハムレット　氣を悪くして相濟まぬ、心から。

さうだ、全く、心から。

ホレイシヨ　悪くするなどゝは決して。

ハムレット　いやある、煉獄の守本尊キヨリパトリック尊者にかけて、

て、悪いことがあるぞ、ホレイシヨ、

おそろしい悪事もある。さつきの異象は、

眞物の亡靈であるただけ言つて置かう。

その亡靈と予との間に何があつたか、知りたくもあらう

が、

出来るだけこらへてくれ。そして各々は、

予が信友でも、學者でも、また武人でもあるから、

予がたゞ一つの頼みを聽いてくれぬか。

ホレイシヨ　何事ですか、喜んで承りませう。

ハムレット　今宵見たことを一切他言すまいぞ。

ホレイシヨ

仰せまでもありません。

マーセラス

ハムレット　いや、誓はりたい。

ホレイシヨ　誓つて他言いたしませぬ。

マーセラス　私も誓ひます。

ハムレット　この劔にかけて。

マーセラス　兩人ともはや誓ひました。

ハムレット　いや、この劔にかけ、この劔に。

亡靈　〔舞臺下から〕誓へ！

ハムレット　あ、は、これ！　お前もさう言はれるのか？

そこに居ろのか、正直者！

さ、さ——各々も地の下の言葉を聞いたであらう——と

くく／＼誓をなさい。

ホレイシヨ　誓言の文句をお聞かせ下さいまし。

ハムレット　各々が視たこのことを、決して他言いたさぬ

と、

この劔にかけて誓ひなさい。

亡靈　〔地下から〕誓へ。

ハムレット　此處にもか。では、處を換へよう。

各々此處へ、

そして重ねてこの劔に手をかけて、

各々の聴いた事を、決して他言せぬと、

この劔にかけて誓へ。

亡靈 「地下から」誓へ。

ハムレット えらいぞ、饜鼠どの！ 地中でそんな早業ができるのか？

立派な工兵だ！ さ、も一度移らう、各々。(と又他の一端に伴ふ)

ホレイシヨ お、日よ夜よ、これは又奇怪至極の珍事！ハムレット だから珍客として、そのまゝ歓迎しよう。

な、ホレイシヨ、この天地の間には様々な事變があつて、御身の所謂哲學の夢想だに及ばぬことが多いのだ。

しかし、まあこゝへ、

此處で、前通り、皇天の冥助を求める心あらば、

いかに奇怪に又異様な振舞を予がしようとも、

今後恐らくその場合々々で、

狂人めいた行爲を裝ふこともあらうによつて、

その時各々は予を見て、こんな風に或は腕を拱き、又は

かく頸を振り、

若しくは何か意味ありげな文句を述べ、

「うん、うん、解つてゐる」とか、「言はうと思へば、言へ

はするが」とか、

「話す氣にさへなれば」とか、「他言して差支なければ」な

ど、

その他これに類する曖昧なほのめかしで、

予について何か知つた風をしてはならぬ。

さすれば大事の場合に屹度神明の加護があらう。

誓はれい。

亡靈 「地下から」誓へ。

ハムレット 安心なされ、安心なされ、惱める精靈！(兩人、王子の差出す劍の欄の十字形なるに跪きて手を置

き誓ふ)それでは兩人。

予は心からの感謝の意を以て、別れの挨拶をしよう。

このハムレットは言ふに足らぬ凡夫だが、

各々に對する友愛の情を示すために、

神の許し給ふかぎり、誠意を缺くことはいたさぬ。さ、

一緒に城内へ入らう。

いつまでも指を唇に置いて……頼んだよ。(傍を向いて

低く、強く)

世の結び目がほぐれた。おゝこの呪はれた運命、

これを匡正する任を帯びて予が生れて來ようとは……

さ、さ、一緒に行かうではないか。

皆々退場。

第二幕

第一場 —— ポロニーヤス邸の一室。

ポロニーヤスとレイナールド登場。

ポロニーヤス　この金と、この手紙を伴に渡してくれ、
レイナールド。

レイナールド　かしこまりました。

ポロニーヤス　伴に會ふ前によほどうまく立ち廻つて、
あれの行状を探らにやならんぞ。

レイナールド　その積りでございました。

ポロニーヤス　さうか、よし／＼よく言つた。いゝかな。

第一、巴里にどんなデンマーク人が居るか、それを調査
するのだ。

どんな風に暮し、何處に住んで、どんな仲間と交際し、

どれほどの費用がかかるか、

そこをかう遠廻しにたづねて、

對手が伴を知つてゐると分つたら、深く立ち入つて、

個々別々の質問を發して得るよりも、ずつと要點に近く
なるといふもの。

お前は、いはゞほんの少しばかり、ちよいと本人を知つ
てゐるといふ風をするのだ、

例へばこんな鹽梅に、「私はあの方の父や友達を知つて
居ります、

又少しはあの方も」つてな、よいか、レイナールド？

レイナールド　はい、心得ました。

ポロニーヤス　「當人も少しは知つてるが、併しよくは存
じません」とかう言ふんだよ、

「が、若し私のいふその人なら、大層亂暴者で、

これ／＼の道樂もあります」と、

まあ勝手なこしらへ事を彼にかぶせるのだ。が、勿論、
伴の名譽を傷つけるやうな、そんな下卑たやうな事を言
つてはならんぞ。

つてはならんぞ。

まづ、よいかな、締りのないとか、亂暴なとか、聊かの

心得違ひとか、

若い自由な青年の間によくある附物ならばかまはない。

レイナールド　例へば賭事をなさるなど？

ポロニーヤス　さうだ、それから、酒を飲む、劍道自慢

をする、悪口をたゞく、喧嘩をする、
女を買ふとか、それ位ならばよい。

レイナールド　ですが、それは御不名譽にはなりません
いか？

ポロニーヤス　決してならぬ。そのあら探しの言ひまは
しに味をつければ差支ない。

勿論それ以上の悪口を彼にかぶせて、
例へばいつも女にだらしがないなど、疑はせるやうな
ことを言つてはならぬ。

わしのつもりはさうではない。兎に角彼の缺點を述べた
てるにも、かう巧者にな、

ほんの氣儘にして置いたからの汚點、
燃えたつ心の刹那の閃き、

しつけの足らぬ若い血の狂ひと、
誰にもよくあるやうに思はせてな。

レイナールド　ではありますが……。

ポロニーヤス　何の爲めにといふのかな？
レイナールド　はい、それを承りたいのでして。
ポロニーヤス　はて、こゝにわしの狙ひ處がある。

そして智慧のある一策でもあると信ずるが？

お前が件にさうした軽い缺點をつけて、
言つて見れば、製作中にちよいと汚れた品といふ塵埃に
してな、

よいかな、すると、

話の對手がお前が開き出さうとするその人が、
お前の悪行を述べたてたその青年が、

前に言つたやうな罪でも犯してゐるのを見たことがあつ
たとすると、

かういふ風にお前と調子を合せる、
「旦那様」とか、「君」とか、「貴方」とかと、

その人とその生國の、風習なり、呼び慣はしなりで、
いろいろある。

レイナールド　左様でござります。

ポロニーヤス　そこでな、よいか、その人がね——えい
とその人が——何といふところだつたか？ はれやれ、
何か言はうとしてゐたのだつたが。どこでわしは、止
めたかの？

レイナールド　「かういふ風に調子を合せる」とか、
「君」とか、それから「貴方」とか。

ポロニーヤス　「かういふ風に調子を合せる」……さう

さう、さうだつけ。

對手あひてはこんな風に調子を合せて言はう、「そのお方なら知つてゐる、

昨日お目にかゝつた、それとも先日、

それともかく／＼の日に、これ／＼の人と御一緒だつた。

それからお前が言つた通り、

賭事かきをしてゐた宴會で酔ひつぶれてゐた、

庭球テニスで喧嘩をはじめた」とか。それから若しかすると、

「その人ならこれ／＼の賣店へ入る處を見た」と来る。

賣店といふのは、娼家の事だ、その他いろいろ名はあらう。

そこで、分つたやうらう……。

嘘うその餌えさでこの眞まことの鯉こいを釣るやつさ。

まづかくの如く、我々智慧あり、深謀遠慮のある者は、

遠廻しや、射面しやめん突撃とうげきで、

からめ手から本城を攻め落すのだ。

最前さいぜんから言つた通りに、

伴の行狀を探り出すがいゝ。分つたか、どうかかな？

レイナールド 分りました。

ポロニヤス では旅中無事に、さらばだ。

レイナールド お暇申します！

ポロニヤス お前自身でも彼の行狀を覗てくるのだよ。

レイナールド かしこまりました。

ポロニヤス そして、存分たんぶんな音色ねいろを出させるがいゝよ。

レイナールド かしこまりました。

ポロニヤス では、さらばだ！

レイナールド退場。オフィリヤあわたとしく登場。

どうした、これ、オフィリヤ、何事だ？

オフィリヤ おゝ、父上様、父上様、ほんたうに吃驚びっくりいたしました！

ポロニヤス 一體、何としたのだ？

オフィリヤ 父上様、私がお部屋で縫物ぬいものをして居りましたら、

ハムレットさまが、お上衣うはぎのボタンははづれ、

お帽子も召されず、汚よごれたお靴下の

留鏡とどかきがとけて、蹠はかばかに足絨あしじゆのやう巻きつき、

シャツのやうな眞青なお顔色をして、兩膝はかた／＼ぶつかり、

何とも言へぬ慘あはめな御様子で、

丁度、地獄から放たれて来て、
その怖ろしさを告げる人のやうに、——私の前にお立
ちでした。

ポロニーヤス そなたを戀しての亂心かな？
オフィリヤ 私は存じません。

ですが、ほんたうは、さうぢやないかと氣遣ひます。

ポロニーヤス 何か仰せられたか？

オフィリヤ 私の手首をお執りになつて、きつく握りしめ、

それからお手を伸びるだけお伸ばしなされ、

も一つのお手をこんな風に額にかざし、

私の顔にちつと視入つて、

肖像でもお描きなざるやうでした。長い間そんな風にし

てお出でしたが、

おしまひには、私の腕をかるく振つて、

三度お頭をこんなに上げ下げしてから、

それから嘆息をつかれましたが、それはくおいとしい

深い嘆息でして、

お胸は張りさけ、お命も果てましまふのではないかと

思ひました。さうかうしてから私をお放しなされ、
そして肩越しにお頭を此方へふりむけ、

お眼は使はなくても路が分るやうに、
戸の外へ出て行かれましたが、

最後までお眼を私の方に注いで居られました。

ポロニーヤス さ、一緒においで。王様にお目通りしな

くてはならぬ。

これこそ正眞の戀の氣狂ひだ。

こいつ本性甚だ激烈、身を滅ほしもすれば、

自暴自棄な考へをも起させる、

天が下のどんな情念でも、

我々共の性質を患めるものは皆さうだが。氣の毒なこと

をした。

どうか、近頃何かつれないお言葉でも申上げはしな

つたか？

オフィリヤ いゝえ、だけど、お言ひつけ通り、

お手紙をお受けせず、御面會も、

お断りいたしました。

ポロニーヤス それだ、それで氣が狂はせられたのだ。

お氣の毒なことをした、もつと氣もつけ、よく判断して、

御様子を觀るのだつたに。一時のお戯れで、
そなたを弄ぶのではないかと氣づかつたのだ。忌々しい

わしの疑心!

だが、わしの齡としになれば、

ずつと先を見越して思ひすごしをするから、

若い者の分別が足らんのと、

いはど同様だ。さ、王様おかみのところへ行かう。

これは黙だまつては居られぬ。この戀のいきさつを述べて、

お憎しみは買ふかも知れぬが、隠して悲しみをましては

ならぬ。

さあ。

兩人退場。

第二場 — 城内の一室。

王、王妃、ローゼンクランツ、ギルデンスターン、
並に侍臣等登場。

王

よくこそ、ローゼンクランツ、ギルデンスターン！
久しく逢ひ見たいと熱望してゐた上に、

御身方がたに頼みたい事が起つたので、

かく急ぎ呼び寄せた次第だ。ほのかに聞き及んだであら

うが、

このごろのハムレットの變りかた、
外まへから觀ても、内うちから觀ても、

更にありし昔の姿を留めてゐない。なぜかくなつたのか、

彼の父の死の外に、何がかうまで自分を

忘れしむるに至つたのか、

更に夢想だも出来ない。御身方がたへの頼みはこゝだ、

幼少の頃から一緒に教育を受け、

彼の氣心もよく分つてゐるのだから、

しばらくこの宮廷に留まつて貰ひたい。

さすれば彼の對手あひてとなつて、

彼を遊興に引き寄せることも出来、且は

機會を見て拾ひ集め得られるかぎり、

我等の知らざる何事が、かくまで彼を惱ますやも判明し

よう。

それさへ分れば、治療の術すべもあらうといふものだ。

王妃 方々、ハムレットが度々御身がたのことを變ちがするの
を聞きました、

御身がたほど懐なつかしい人は、

他にまたとあらうとも思ひませぬ。どうぞ、

親切と好意とを我等に寄せられ、

しばらくこの宮中にとどまつて、我等が望みを遂げさせて下さらば、この度の参内は我が君の思召にかなつた酬いを受けられるでせう。

ローゼンクランツ 上お二方には、

我等に君臨遊ばさるゝ無上の大權により、

畏こき仰せ言を御嚴命あつて然るべきに、お頼みなどはまことに恐れ入ります。

ギルデンスターン 兎も角も兩人御仰せをかしこみ、

身命を捨て、どこへまでも、奉公の志を足下に獻じ、

御意のまゝにいたしますでございませう。

王 よく言つた。ローゼンクランツ、ギルデンスターン。

王妃 よく言つてくれました、ギルデンスターン、ローゼンクランツ。

そしてお願いだから、一刻も早く、あまりにも變り果てた王子を尋ねてやつて下さい。……

これ誰か、

お二人をハムレットの處へ御案内なされい。

ギルデンスターン 天よ願くば私共の伺候と忠勤とが、

王子のお氣にかなひ、何かのお役に立ちまするよう！

王妃 おゝ神よ、どうぞ！

ローゼンクランツ、ギルデンスターン、二三の侍臣と共に退場。

ポロニヤス 我が君、ノオルウエイへの使者が、

吉報を持つて立ち歸つてございます。

王 いつもながら御身は吉報の父だな。

ポロニヤス でござりませうか？ 我が君に誓つて申

上げます、

私は神明に對し、又我が君に對し、

忠誠の心を守ること、魂を守るに劣りません。

で、この私の頭腦が、

これまでのやうに機敏に政略の手がかりを見出すことが

出来なくなつたらいざ知らず、

私はしかとハムレットさま御狂氣の

原因を發見いたしました。……

王 おゝ、それを早く話してくれ。何より聞きたう思つ

てゐるのだ。

ポロニヤス まづお使者達に謁見を賜はりませ。

私のニュースはその大變の後の果物といたしますでござ

いませう。

王 彼等の名譽ぢや、御身みづから行つてこゝへ案内するがよからう。

ポロニーヤス退場。

ガートルードどの、ポロニーヤスが和子の亂心のおこりを悉く見出したと申すが。

王妃 例の重だつたものゝ外にはありませんまい、父王の崩御とか、私共の急ぎ過ぎた結婚とか。

王 ともかく、彼を探つて見よう。

ヴォルチマンド、コーニールウスを伴ひ、ポロニーヤス再び登場。

めでたう、兩人！

どうだ、ヴォルチマンド、友邦ノオルウェイの王の返事はどうかかな。

ヴォルチマンド 禮儀を盡した手厚い御答辭でござります。

先づ最初の要求に應ぜられ、早速命令があつて、甥御の軍備を差止められました。その事を王にはポーランド征伐の戦備とのみ思召されましたが、詮議を重ねられ、我が君に刃向ふものと、

判明し、これ皆老病

無力のため、かくは欺かれたのだと、

いたく心を惱ませられ、即ちフォーチンブラス逮捕の命令が下りました。フォーチンブラスも命に服し、

王の譴責を受け、結局

叔父王の前で、爾今決して我が君に對し奉り、

重ねて弓引くまじき宣誓をいたされました。

老王ことごとくお悦びあつて、

彼に與ふるに年收三千クラウンの封土を以てせられ、

なほ前々より徴し集められた軍兵を、

ポーランド征討に使ふことを許可されました。

それにつきましては、詳細この書中に書かれてある如く、

〔と一書を差出し〕

何卒寛仁の御處置を以て、この目的のため、

御領内を、軍隊平和の通過、御裁可あらせられるように

とのお願ひ。

途中の安全を圖ります簡條は、

書中に認めてある通りにござります。

王 満足に思ふ。

この上は熟考の時を選び、書面を一覽し、

返答するであらう。

まづ以て兩人の骨折りを感謝する。

さがつて休息せられい。夜とならば祝宴を張らうぞ。

ようこそ歸つて来た！

ウォルチマンド、コーニールウス退場。

ポロニーヤス 先づ以てこの御用向もめでたく終りました。

さて、我が君、並にお姫様、

そもく王徳とは何、忠勤とは何、

何故晝は晝、夜は夜、又時は時であるかなど、解説いた

します事は、

徒らに夜と晝と時とを費やすに過ぎますまい。

簡潔は智慧の魂、

冗漫はその四肢、又は外部の枝葉である以上、

私は簡潔に申上げること致しませう。即ち王子様には

御狂氣にござります。

私は敢て狂氣と申します、何となれば、眞の狂氣を定義

することは、

別事にあらず、實に狂そのものに外ならぬからでござります。

併しそれはどうでもよいとしまして。

王妃 もつと要點を、技巧少なく言つてはどうか……。

ポロニーヤス お姫様誓つて申します、私は少しも虚構

「わざと技巧と聞きちがへて」など用ひません。

王子が御狂氣は、眞實でござります。ほんとにお氣の毒

でござります。

お氣の毒でも本當の事でござります。いや下らぬ修飾で

した。

それはもうおさらばにして、技巧など用ひますまい。

で、まづ御狂氣と假定しまして、さて残るところは、

この結果の原因を捜すこと、

それとも寧ろこの缺陷の原因と申しませうか、

なぜと仰せられませ、この缺陷ある結果は原因によつて

かくて残るところ、即ちその残るところのものはかやう

であります。

お聞き下さいませ。……

私は一人の娘を持つて居ります——と言ひましても、

あれが私の手許にある間のことでござります——

その娘めが、從順の義務を重んじまして、これを私に差

出しました、

どうか、よく御推量下さいまし。「讀む」

「天上の佳人、わが魂のいつきまつる君、いとも美化され

たるオフィリアの君へ」——

これはまづい、まづい文句だ、「美化されたる」はまづい

文句だ。だが、まあその後をお聴き下さいまし。かう

でござります。「と又讀む」

「御身のすぐれて白きみ胸に、これらの歌を云々」

王妃 それがああハムレットからオフィリアへ?

ポロニヤス お姫様しばらく、私は有體に申上げます。

「と又讀む」

「星の光るを疑ひ、

日輪のめぐるを疑ひ、

眞理を虚偽と疑ふとも、

ゆめわが戀を疑ひたまふな。

「おゝいとしきオフィリア、余は韻を搜るに拙し。予は字數

をかぞへてうめく術を知らず。されども御身を愛する

ことのいや更に深きを信じたまへ。さらば。

いとも戀しき君よ、この形骸の我ものたらん限り、

とはに御身のものたる

ハムレットより。」

これを、娘が従順の心から、私に示しました。

なほこれに付け加へますに、あの方様のいろくお言ひ

寄りなされましたこと、

それはいつ、どこで、どんなであつたかまで、

残らず私の耳に入れましてござります。

王 して、オフィリアは

その戀をどう受けたかな?

ポロニヤス 我が君は私を何とお考へなされます?

王 忠實な名譽を重んずる者と。

ポロニヤス どうか左様な者と證據立てたうござりま

す?

だが、どうお考へ遊ばされませう。

私がこの熱い情火の翼を伸すのを見ました時——

この點を申上げねばなりません、娘が話さないうちか

ら、

私はさう認めて居りました——え、我が君にも、

又こゝにいらせらるゝお姫様におかせられましても、ど

うお考へ遊ばされるでござりませう、

若しも私が机の抽斗や手帳のやうにちつと目を瞑つて押

黙つたまゝ無言を守らせたり、

この戀のいさくさを無頓着に放つて置きましたならば？

いや／＼左様なことは致しませぬ、早速手を廻して、

娘にかういふ風に申し聞かせました、

「ハムレットさまは王子に入らせられ、そなたとはてんで身

分がちがふ。

これはよろしくない」と。それから又、

王子のお出入りなさる所を避けて室に引籠り、

お使に逢はず、御贈物も一切お受けしてはならぬと申し

付けました。

これを守つて、娘は私の言ひつけ通りにいたしました。

が、さて、王子様は、拒絶され——手短かに申し上げます

るが——

憂鬱病にかゝらせられ、それから御斷食、

それから御不眠、それから御衰弱、

それから御喪心と、つまりこんな風で、

只今の御狂氣とならせられ、

我々一同の歎きとなつたのでござります。

王 そなたもさう考へられるかな？

王妃 さうありさうな事に存じます。

ポロニーヤス これは承りたうござります、

私が進んで「これはかうだ」と申しました事で、

さうでなかつた事が一度でもござりましたでせうか？

王 いや、ない、わが知る限りでは。

ポロニーヤス 「頭と肩とを指し」これからこれを奪つ

て下され、萬が一違ひましたら。

巨細の事情が分りさへしますれば、眞理がどこに隠れて

居りませうとも、

よしや大地の眞只中でも、必ず探し出す

私でございます。

王 一步進んで、實否をたゞす方法はあるまいかな？

ポロニーヤス 御承知の如く、王子様には時々、三四時

間も續けざまに、

こゝの御廊下を御散歩なされます。

王妃 ほんにその通り。

ポロニーヤス さういふ時に私は娘を王子の方に向けて

放ちませう。

我が君と私とは、その時、帳の背後から、

その出會ひを窺ひませう。萬が一娘を愛して居られませ

ず、

そのため、理性を失はせられたのでござりませんでしたら、

私の政務輔弼の任をお解きなされませ、
如でも買うて、馬追ひでも雇ひませう。

王　まあ、ためしにやつて見よう。

王妃　あれ、あそこへ、可哀相に和子が、物思はしげに
書物を読みながら参ります。

ポロニヤス　あちらへ、どうぞ、お二方ともあちらへ
私がすぐさま話しかけて見ませうから。

王、王妃、並に侍臣等退場。

ハムレット讀書しながら登場。

これは御免下されませ。

ハムレットさまには、いかゞ渡らせられますかな？

ハムレット　おゝ、仕合せと丈夫ぢや。

ポロニヤス　私を御存知ですか？　若様。

ハムレット　よくく知つて居る。そちは魚釣ぢや。「秘密を

釣り出さうとする男ぢやといはぬばかりに」

ポロニヤス　ではござりませぬ、若様。

ハムレット　すれば、あいつ位ゐる正直な男であつて欲しい
な。

ポロニヤス　正直者ですと！

ハムレット　さうだ、このやうな世に正直者で通すのは、
萬人中の一人といふものだな。

ポロニヤス　全く左様で。

ハムレット　「うるさうに書物を読む」若しそれ太陽が

犬の屍に蛆蟲を發生せしむれば、犬は神の接吻を受け
し腐肉となりて、「それでもポロニヤスがつきまと
ふので振り向き」——そなたは娘をお持ちか？

ポロニヤス　はい、持つて居ります。

ハムレット　日中を歩かせぬがよいぞ。知識にふくらむの

は祝福すべきことだが、そなたの眞御のふくらむやう

なのは、さうでもないからな。氣を付けたがよいぞ。

ポロニヤス　「傍白」どうです、あれは？　やつぱりわ

しの娘の事ばかりし。けれど最利私に分らないで魚釣り

だと言はれた。よつぽど狂つて居られる、よつぽど。

いや、ほんとのことが、わしも若い時には、戀のため

に全く極端に惱んだものだ、丁度こんなものだつた。

もう一度話しかけて見よう。……え、若様、何をお讀

みでござります？

ハムレット　言葉、言葉、言葉。

ポロニーヤス 何事でございますか？

ハムレット 誰と誰との？

ポロニーヤス いえ、そのお讀みになつてみらつしやる

事柄を伺ひますので。

ハムレット 悪口だよ、諷刺上手の悪黨がこゝにかう言つ

てゐる、老人は白い鬚を生やし、顔は皺だらけで、兩眼からは濃き松脂又は梅樹の脂の濃いのを流す。そして

智慧は夥しく缺乏し、膝ぶしは甚だ弱しとある。こんなことは悉く私も信じ切つてはゐるが、併しかう書き

立てるのは、名譽あることと思はない。お前だつてやがて、おれ位ゐる年輩にならうからね、蟹のやうに逆さに歩けば。

ポロニーヤス 「傍白」氣狂ひにしては、筋道が立つてゐる。若様、ちと大氣の外を御散歩なさいませんか？

ハムレット 墓のなかへでも行くのか。

ポロニーヤス なるほど、大氣の外は墓だ。(傍白)時に

は随分鋭い返答をする！ こいつが氣狂ひの偶々言ひ當てる親切といふやつで、理性や正氣があつては、かうまで思ひ切つてはやれない。……どれ、あちらへ行つて、不意に娘と出會はせる手段をめぐらさう。——若

君様、ではこれでお暇を取らせて頂きます。

ハムレット お前がおれから取るもので、それほど喜んで上げたいと思ふものはない。……尤もこの命は別だが、

命は命は。

ポロニーヤス 御機嫌よう、若様。

ハムレット うるさい馬鹿ぢいめ。

ローゼンクランツ、ギルデンスターテン登場。

ポロニーヤス ハムレットさまをお尋ねかな。

あそこにおいでぢや。

ローゼンクランツ 「ポロニーヤスに向ひ」御機嫌よろ

しう！

ポロニーヤス退場。

ギルデンスターテン わが敬愛する殿下！

ローゼンクランツ わが親愛なる王子！

ハムレット おゝわが親友諸君！ どうだ、ギルデンスター

テン？ あゝ、ローゼンクランツ！ 兩人、景氣はど

うかな？

ローゼンクランツ まづ世間並みといふところで。

ギルデンスターテン 仕合せ過ぎないといふ意味で、仕合

せでございます。

幸運の女神の、まづ帽子のてつぺんとは参りません。

ハムレット その靴の底でもないかね？

ローゼンクランツ それほどこでもございませぬ。

ハムレット では女神の腰の邊りで、御恵みのまん中どころに居るといふわけかな。

ギルデンスターン 實際私共には女神もお目をかけて下

されます。

ハムレット なに、お目かけだと？ おゝ、さうでもあら

う。運命の女神は淫婦だから。何か珍聞でもないか。

ローゼンクランツ 何もございませぬ。世間が段々正直

になります位のもので。

ハムレット では世の終りも近いんだな。だがその話はほ

んとでない。もつと細かに聞かしてくれないか。一體

君がたはどういふ咎があつて、運命の神の御手にかゝ

つてこの牢獄へ送られたのだ？

ギルデンスターン 牢獄と仰しやると？

ハムレット デンマークは牢獄だ。

ローゼンクランツ さすれば、この世界もそれでせう。

ハムレット 立派な牢獄だ。そこには多くの收監所も、獄

室も、穴牢もあるが、デンマークはその最悪の一つだ。

ローゼンクランツ 私共はさやうには考へませぬ。

ハムレット それは、君がたにはさうでないのだ。

總じて世には善もなく、悪もないのだ。唯思ひなしがさ

うさせるだけなのだ。予に取つてこゝは牢獄だ。

ローゼンクランツ それは、我が君の功名心がさうさせ

るのです。デンマークは我が君の御心に比べて狭過ぎ

るのです。

ハムレット おゝ神よ、予は胡桃の殻に封じ込められても、

無邊際的空間を支配してゐると思ふ事ができやうに、

悪い夢さへ見なかつたなら。

ギルデンスターン そのお夢が、とりもたはさず功名心

なのであります。功名心の實質などは、單に夢の影に

過ぎないものですから。

ハムレット 夢自身が影だ。

ローゼンクランツ 全くでございませぬ、功名心の實質な

どいふものは空で軽く、影の影に過ぎないものと考

へます。

ハムレット すると、かの乞食が本體で、帝王や、のさば

り歩く英雄共はその乞食の影になるね。……宮中へ行

かうぢやないか。

予はもう理窟なんか言つて居られない。

ローゼンクランツ

お伴をいたしませう。

ギルデンスターイン

「かう言つたらうるさい二人が去るかと思つた

が依然ついて來るので一層いら／＼し、語調をかへて」

いや、そんなことでもない。予は、君方を他の從臣等

と同列には置きたくない。正直に言ふと、予はあんま

りかしづかれ過ぎてゐるからね。「ぢつと顔を見つめ

て兩人の腹の底を見抜かんとするやうに」とにかく、

昔ながらの友情に訴へて訊くが、君方はどうしてエル

シノーアへは參られた？

ローゼンクランツ 我が君をお訪ねしたいため、他に何

の理由もございません。

ハムレット 予は乞食同然でな、謝禮には乏しい。しかし

お禮はいふ。全くのところ、親愛な舊友、予のお禮は君

がたの深切にくらべると、少し高過ぎるだらうよ。「と

一層鋭く見つめて」君がたは呼ばれたのではなかつた

か？ 君がた自身の考へからだつたのか？ 全く任意

の訪問か？ さ、正直に言つて貰はう、さ、さ、どう

だな。

ギルデンスターイン なんと申上げたら？

ハムレット はて、何とでも要點に叶ふことを。君がたは

呼ばれたのだらう。それその顔に白狀の色が見える、さ

すがに溫和な君がただけにそれを隠しきれないのだ。

知つてゐる、善良な王と王妃から呼ばれたのだらう。

ローゼンクランツ 何の爲めにですか？

ハムレット それを予が問うて居るのだ。併し、君がたに

懇請する、我等が友たるの信義にかけ、幼少からの親愛

にかけ、永久不變を誓つた友愛の情にかけ、その他説得

に長けたるものゝ勸説し得る以上に尊い情誼にかけ、

平明率直に答へてもらはう、呼ばれたのかどうか？

ローゼンクランツ 「ギルデンスターインに向ひ傍白」ど

う言はうね？

ハムレット 「傍白」さうか、こちらではちやんと眼をつけ

てゐるぞ——。若し予を愛する心があるならば、よそ

よそしくしてくれるな。

ギルデンスターイン 我が君、お迎ひを受けたのでござい

ます。

ハムレット その理由は予が言つて聞かせてやらう。さす

ればこちらの進んで述べることに、君がたが口外

したといふ誹りを防ぎ、お二方へ誓つた秘密の義理立は寸毫も缺かさなくなる……。予は近頃——なぜか自分にも解らぬがあらゆる歡樂を失ひ、武藝修業の習慣をも捨てしまつた。憂鬱が重くわが胸にかさなつて、この地球といふ立派な構造も、予には荒れはてた岬と見え、この空といふ世にもうつくしい天蓋も、あの華かな覆ひかゝる穹窿も、黄金の星を鑲めた莊嚴な碧落も予には、單に醜く、汚れた毒氣の集合としか思はれなくなつた。人間は何といふ造化の傑作だらう！ 理性に於て何といふ氣高さ！ 能力に於て何といふ無限！ 姿といひ、振舞といひ、何と表情にすぐれて驚歎に値ひすることぞ！ 行ひは天使を欺き、智慧は神にも似たこの人間！ 世界の美だ！ 生物の長だ！ しかも予に取つて塵埃にすぎない人間が何だ？ 人は少しもわが心を樂しませない。いや女とても同様だ、君がたはその微笑で女ならばと、ほのめかすらしいが。

ローゼンクランツ　いえ、左様なこと、私の考へにはございませぬ。

ハムレット　では予が「人は少しもわが心を樂しませない」と言つた時、なぜ笑つたのか？

ローゼンクランツ　若し人に興味をお持ち遊ばされぬとすれば、どんなみじめな御待遇をあの俳優共がお受けするだらうかと考へまして。私共は途中で彼等を消ひ越しましたが、彼等は御機嫌伺ひのため、こちらへ參る途中でございました。

ハムレット　王の役をうまく勤めるやつならば歡迎する。その役者には予が貢ぎものを得させようし、冒險好きの騎士には劍と楯を使はせようし、情事を演ずる役者にも無報酬で歎息をつかせまい。荒事師はあれ放蕩勤めさせ、道化方は指が觸つても噴き出す手合を存分笑はせ、そして女形は遠慮なく自分の胸を明けて言はせよう。でないと白が杵切れるといけないから。そしてどんな役者だね？

ローゼンクランツ　例の以前御鼻屑になつた都の悲劇役者にござります。

ハムレット　どういふ機會で彼等は旅に出るのか？ 評判の上からも、收入の上からも、都に居た方がどの道よからうと思ふにな。

ローゼンクランツ　何でも、この頃の新流行におされて、興行が出来なくなつたのかと存じます。

ハムレット 彼等の評判は、予が都に居つたところと變らぬか？ あんなに持てはやされてゐるかな？

ローゼンクランツ いゝえ、全くさうではないのです。

ハムレット なぜ？ もう錆錆がついたのか？

ローゼンクランツ いや、彼等の腕前は昔のまゝの調子を保つてをりますが、近頃は少年俳優の一團が出て來まして、雛鷹のやうに聲を限りに甲高ウツタカに演べ立てますので、大喝采なのです。これが今では流行となつて、在り來りの普通芝居なぞと罵りちらしますので、細身の劍を帯びた方々は、鷹ペンで皮肉られるのが怖こはさに、殆どこれまでの劇場へは寄りつかうといたしません。

ハムレット 何、少年俳優だと？ 誰が後援し、誰が給金を拂つてゐるのか？ 聲が破われて歌へなくなればそれきり俳優稼業は廢めるつもりか？ 彼等とても長じて普通俳優ナホ俳優になるであらう——外によい仕事でもなければ、さうする外はあるまいに——その時になつて、他人に言つたことが自分自身の後の悪口ともなるので、作者共もよからぬ事をするものだ、後になつてぐづぐづ言ふ者はなからうかね？

ローゼンクランツ 全く、双方の争ひは激しうございまして。おまけに世間が双方をけしかけて議論をさせ、それがため一時は、作者と俳優が大喧嘩をする筋がないと、その作は賣れ口がないといふ始末でした。

ハムレット ほんとの事か？

ギルデNSTAION 折々は撰せんり合ひなぞもございましたが。

ハムレット で、少年連が勝つたか？

ローゼンクランツ はい、全く彼等が人氣を背負しよつて行つてしまひました。ハーキュリーズとその背中の地球座地球座根こそぎ。(地球座は當時ロンドンに出來た第六番目の劇場で、この作者の長く關係してゐた。)

ハムレット それも必ずしも不思議でない。近い例が予の叔父上はデンマークの王だが、父上在世の頃、彼を嘲笑あざわらつてゐた連中まで、今では二十、四十、五十、乃至百金を惜まないで、彼の小さな肖像畫一枚を求めようとしてゐる。これには自然以上の何かもある、哲學が發見し得ないだけで。

奥にて華やかな喇叭の吹奏。

ギルデNSTAION 俳優共にござります。

ハムレット 兩君、よくこのエルシノーアへ來こられた。さあ

握手を。歓迎のかうした附き物は、流行でもあり儀式でもある。で、この形式に則つて、君がたとかうして置かぬと、俳優共への外観上、頗る歓迎の儀を盡すであらうが、それが君方以上の観があつてはならないからな。ようこそ來られた。……だが予の叔父の父も母の叔母もえらい思ひ違ひをされたものだ。……

ギルデンスターン　どの點で、我が君？

ハムレット　予は北々西に、ちよいとばかり正氣でないのだ。風が南なら、鷹と蒼鷺との區別はつくよ。

ボロニーヤス再び登場。

ボロニーヤス　これはお二人、御機嫌よう！

ハムレット　〔わざと素知らぬ顔をして兩人を傍に連行き〕
聞き給へ、ギルデンスターン、それからローゼンクランツも、兩方の耳に一人づゝ聴者。そらあそこに見える大きな赤ン坊ね、あれはまだ襦袢離れがしないのだよ。ローゼンクランツ　多分二度目の襦袢でござりませう。
諺にも、老いてはふたゝび子供にかへると申しますから。

ハムレット　豫言しよう、俳優のことを言ひに來たのだよ。よいか。〔わざと大聲に〕あゝ、言はるゝ通り、月曜の朝、

全くさうだつた。

ボロニーヤス　我が君、好いお話がございます。

ハムレット　我が君、好いお話がございます。昔、ロシ

ヤスが羅馬にて俳優たりし頃——

ボロニーヤス　その俳優共が參りました。

ハムレット　ブズ、ブズ、ブズ！

ボロニーヤス　全く以て、——

ハムレット　その時俳優は各々驢馬に乗りて來れり……。

ボロニーヤス　天下無類の俳優、悲劇によく、喜劇によ

く、史劇、田園劇、田園喜劇、歴史田園劇、悲史劇、悲喜田園史劇、場面を變へぬ作にも制限の無い劇詩にもよろしく、セネカとても重過ぎず、プラウタスとても輕過ぎないのでございます。型物、新作もの、いづれにしても、彼等は今ならびないものになつて居りますのでございます。

ハムレット　おゝ、ジェフタ、イスラエルの判官どの、何と

いふ寶をそなたは持つてゐたのだ！

ボロニーヤス　何といふ寶を持つてゐましたか？

ハムレット　何さ、

「美しき娘を只一人

またなきものに愛でけるが……」

ポロニーヤス 「傍白」まだわしの娘のことを。

ハムレット 予の言ふ通りだらうが、老ジェファタ？

ポロニーヤス 私をジェファタと呼びでございませうが、

いかにも一人の娘を持ち、またなきものに愛しをります。

ハムレット いや、さうはなるまい。

ポロニーヤス では、どうなります？

ハムレット なあに、

「運命の如く神ぞ知る」

それから、それ、

「たま／＼事の起りしは、いとありがちのことながら」——
聖歌の第一節を見ればもつとわかる。……いや、よいと
ころへ氣を換へるものが来た。

四五人の俳優登場。

ようこそ、師匠たち、ようこそ、皆の者、達者で結構だな、

ようこそ、良友達、おゝ、我が舊友！ この前と違つ

て顔に立派な鬚飾りが出来たな。それでデンマークへ

来て予を卑下させようといふ寸法かな？……いや、

わが若き女形の貴婦人！ 女神にかけて言ふが、お前

はコルク靴(背七を高く見せるため 世襲の使用したるもの)の高さだけ、この前途

つた時よりも天に近くなつた、お祈りをするのだね、お

前の喉が、通用しない金貨のやうに、輪のなかまでど

ら聲にならぬやうにと。(金貨のひびわれ深くして中にある輪は最早女形になれないのだ)……師匠達、一同ようこそ。早

速何か取り掛つて貰はう、フランスの鷹匠(たかやう)みたいに、見

たら何にでも飛びつくやつさ。すぐくさりやつて貰

ひたい。さ、お前達の腕の牙を一つ見せてくれ。さ、

何か悲壯なところを。

何か悲壯なところを。

第一俳優 何にいたしませう？

ハムレット 前に一度そちの或る長臺詞(せうご)を聞いたことがあ

るが、舞臺にはかけられなかつたものだ。それは、かけ

られたにしても、一度以上ではなかつた。さうだ、思

ひ出すが、その芝居は多數の受けがよくなかつた。一

般人に取つては、謂はゞキャピイヤ(脚のはらぶ、通人)のあぶ高價な食料だ

つたのだ。しかしその作はだ——予の意見では、又予だ

けでなく、かういふ事に關しては、予などより遙かに立

派な判断力を持つてゐる人々も同意見だつたが——立

派な劇で、場面の配列もよく、書き方も巧みであり、

且つ無理のない筆付だつた。さう／＼、かういふ批評

もあつた、内容に味をつけるため、文字にいさゝかのサラダもそへてなく、文句のなかに、態とらしいといふ譏を作者に與へさうな事柄もなく、全く正直な手法で麗はしくも又健全で、けばくしいといふよりも、ずつとく實のある作だつた。その中の一節を、予は非常に愛してゐた。イーニーヤスがダイドゥに向つてする物語で、特に彼がブライヤム虐殺の條を語るあたり、今まだ憶えて居るなら、この句から初めて貰はう、かうつと、かうつと——

「荒くれ男のピラスこそ、ヒルカニヤの虎にも似て——いやさうではない——何でもピラスで初つてゐる——

「荒くれ男のピラスこそ、おのが心の黒きごと

黒き甲冑を身につけて、闇にも似たる装ひし、呪

ひの馬の腹中に、こども伏してありけるが、

今やこの暗黒の怖ろしき顔に、

更に無慚の色を塗る。頭より足先きまで、

彼今や悉く眞紅なり。

父や母や子や娘等の血を以て、物慄くも彩られ、

彼等が兇悪なる虐殺に、殘忍非道の

光を貸したる街々の火災の焰、

彼が面上を朱に染めたり。

かく凝血を身に塗りて、

紅玉の如き眼を光らせ、惡鬼のピラスは、

老いたる王をぞ求めける。

さ、その後を續けたり、

ポローニヤス　これはく、お上手なせりふまはし、抑

揚といひ、思ひ入れといひ、いかにもよく行き届いて

をります。

第一俳優　やんがて彼、尋ね出して見れば、老王は、

ギリシヤ人に向ひ防戦すれども力及ばず、老いた

る太刀は、

腕にさからひ、空しく打つて地に落し、

あしらひかねて起ちをれば、

ピラスはさつと駈け寄つて、怒つて撃てば狙ひは

はづる。

されども無慚の太刀風空を切るばかりにて

老いたる王は倒れ伏す。その時非情のイリヤム城

も、

この一撃にや感じけむ、炎々たる頂は、

礎へと倒れ落ち、身の毛もよだつ物音たて、

ピラスの耳をば聳せしむ。見よ、彼の劍、

今し老ブライヤムの乳白の頭の上に、

落ち下らんばかりなりしを、急に停つて空中にひ

た着くかとぞ見えたりける。

描ける猛者のそれどもピラスは突立ち、

心と事と隔りなきものゝごと、

しばしは茫然たり。……

されども我等のしばし見る如く、暴風來る前

一天黙々と雲動かず、

無恥なる風も言葉なく、下界はたどに、

死の靜けさ、と見るまに雷霆

空をつんざくに、ピラスはやがて、

復讐心を湧き返らせ

巨人サイクロプスが鐵槌の、

とはに破れじと鍛ふる軍神の鐵の上に下るも

かく無慈悲にてあるまじと思はるゝばかり、ピラ

スの鮮血滴る双は、

今やブライヤムの頭上に落下す。……

憎し、憎し、汝淫婦の運命神！ あはれあらゆる

天の神々よ、

神集ひに集ひて、彼女の力を奪ひ去り、

彼女の車のすべての輻と轆を打ち摧き、

残る轍を天の小山より投げまろばし、

惡鬼の住ふ大地の底へと落し給へ！

ポロニヤス　これは少し長過ぎる。

ハムレット　床屋へやつたらよからう、そちの鬚と一緒に。

さあさ、續けておくれ。この男は道化節か、みだら

話でもなければ眠てしまふ男だ、さあ、つゞけて、

ヘキユバのところのつゞきを。

第一俳優　「さりながら誰か、面を包める后を見し誰か」

ハムレット　「面を包める后」？

ポロニヤス　「そいつはいゝ。二面を包める后」はいゝ。

第一俳優　「素足にてかなたこなたとかけ廻り、眼も盲目

んばかりの涙もて

火炎に刃向ひ、今日が日まで王冠を戴きたりし頭

には

僅の布片をかむり、多くの子等を生みて、

瘦せ衰へし腰のまはりには、衣に代ふるに、

一片の毛布を纏ひ、恐怖の警鐘に、

心かき亂されし様を見れば、

誰か舌を毒液に浸し、

運命神の不法を罵らぬものやある。

さはれ若し神々に眼ありて、

ピラスが良人の手足を切りきざみ、

無慚の遊戯をなすを見た時、

後の揚げた狂亂のわめき聲は、

人間界の哀しみに更に神の心の動かさずとあらばい

ざ知らず、さなくば、

天の燃ゆる眼にも乳汁をさそひ、

神々にも憐みの心と呼び起しゝならんを。」

ポロニーヤス あれ／＼、あの役者は顔色を變へ、眼中に

は涙を湛へてゐる。「俳優に向ひ」もう止めてくれ。

ハムレット よろしい。残りはやがて又やつて貰はう。「ポ

ロニーヤスに向ひ」どうかこの役者共の接待をしてや

つてはくれまいか？ よいかな、十分丁寧にな。この

人達は時代の粹を見せる、短い記録のやうなものだから。

死後の碑銘などはどうあらうとも、生前彼等の悪

評を受けぬ方がよい。

ポロニーヤス 彼等相當に取扱ひますでございませう。

ハムレット ずつと相當以上に。相當以上に取扱はれれば、

誰か一人罰を免れ得よう？ こちらの身分相當に彼等

を遇してやらなければならぬ。彼等がそれに値ひしな

いならばしないだけ、そちの寛大さに値ひが増すとい

ふものだ。さあ、奥へ案内してやんなさい。

ポロニーヤス さあ、こつちへ、皆の者。

ハムレット あの人の跡について行くがいゝ、明日は芝居

を見せて貰はう。「ポロニーヤス退場、第一俳優を除く

他のすべての俳優を伴うて」ちよつと師匠。「ゴンザ

ゴの虐殺」を演つて貰へるかな？

第一俳優 はい、かしこまりました。

ハムレット では明晩演つてくれ。必要に應じて、十二行か

ら十五六行ほどの臺詞を予が書き足すかも知れぬが、

それを諷誦して貰へるだらうか？

第一俳優 はい、かしこまりました。

ハムレット よろしい。あの方の跡について行くがいゝ。

それからあの人を嘲弄してはいけないよ。「第一俳優

退場。ローゼンクランツとギルデンスターンに向ひ」

夜になつたら又逢はう。エルシノーアへよく来てくれ

た。

ローゼンクランツ 我が君、さらば！

ハムレット おゝ、さらば「ローゼンクランツとギルデン

スターン退場」さあ一人になつた。

おゝ、何んといふやくざ者、何といふ土百姓の下司下郎

なんだらう、おれは！

奇怪千萬ではないか、今こゝにゐた俳優が

単に一つの架空譚、情熱の夢に於てさへ、

おのが魂を強ひてその人になり負せ、

魂の動くところ、彼の顔色悉く蒼白となり、

双眼には涙を湛へ、見るから狂氣ばしり、

聲は嗄がれ、體のすべての機能が、

その人に適ふ形を取つてくるとは？ しかもそれが何の

爲めでもないことなのだ！

へキユバのためにか？

へキユバが彼に取つて何なれば、若しくは彼がへキユ

バに取つて何なれば、

かくは涙を流すのか？ 彼は一體どうするだらう？

若し彼がおれのもつやうな大悲憤の動機と所縁を

持つてゐたとしたら？ それこそ舞臺を涙で溺らせ、

身震ひするほどの臺詞で、聴衆の耳をつんざき、

罪ある者を狂亂せしめ、罪なき者を悚然たらしめ、
無知なるものを狼狽せしめ、實に、

耳目の機能そのものを驚き疑はしめるであらうに。

然るにおれは、

鈍感にて本性土くれの如きやくざもの、氣抜けして、

夢みてゐるジョン、我が大義を果たす氣力なく、

何一つ言ひも得ないのだ。

その王權、そのいとも貴重な生命さへも、

極悪非道の奸賊の爲めに失つた父、先王の爲めにさへも。

おれは臆病者か？

誰だ、おれを悪漢と呼ぶのは？ 誰だ、この頭をぶちの

めすのは？

この鬚をひっこぬいて、おれの顔にたくきつけるのは？

鼻を引張つて、肺のどん底から虚言家と、

怒鳴るやつは？ 誰だ、おれにこんな事をするのは？

あゝ、あゝ！

無念だが、おれはそれを甘んじて受けねばならぬ。それ

に相違ないのだもの、

おれは鳩のやうな臆病もの、暴君に苦いめ見せるだけの

膽汁が足りない男なのだ。でなければ、とくに、

この奴隷奴のはらわたを以て、空の蔭ごとくくを、肥らせてやつたらうものを。おのれ、多淫の悪漢め！
無慚、背信、淫蕩、不倫の悪漢め！

おゝ、復讐！

ところで、おれは何といふたはけ者だ！ ほんとに素暗

しい事だ、

現在殺された父の子たるものが、

天堂も、地獄も、わが復讐を聲援してゐるのに、

賣女のやうに口先だけで、

呪ひ罵るだけだ、腐れ女そのまゝ、

下女の下々女そのまゝ！

恥づべし！ 恥づべし！ やい、はたらかぬか、この頭脳！

話に聞く、罪を犯した者が芝居見物中、

場面の巧みさに、

ひどく魂を打たれ、即座に、

犯した罪を白状したとやら。

まこと殺人の罪に舌はなくても、

いつかは神祕な方法で語らせられる。あの俳優共に命じ、

父の殺害に類したことを仕組み、

叔父の前に演せしめ、彼の顔色に眼をつけ、

腹の底まで探つてくれよう。彼れ少しにてたじろぐやうならば、

取るべき道は分つてゐる。……おれの見た亡霊は、

悪魔であるかも知れない。悪魔は、

好ましい姿で現はれる力を備へてゐるから。さうだ、も

しかすると、

わが心弱り、憂鬱に傾くあまり、

悪魔はかやうな亡霊に對し有力であるがまゝに、

おれを欺いて永劫の罪に陥れん巧みなるやも知れぬ。

もつと確かな根拠が得たい。

それには芝居の外にない、これによつて王の良心をひつ

捕へてくれよう。

退場。

第三幕

第一場 —— 城内の一室。

王、王妃、ポロニーヤス、オフィリヤ、ローゼンクラ
ンツ及びギルデンスターン登場。

王

では、どんな遠廻しの手段を用ゐても、

何故彼はかく興奮し、騒がしくも又

危険な亂心の状態となり、靜かに送らるべき日を、

かほどまで荒れ狂ふか、その仔細を聞き出し得ないとい

ふのか？

ローゼンクランツ　御自身にも物狂ほしい氣がすると御

自白なされますが、

どういふ原因からか、何としても、お打ち明け遊ばされ

ませぬ。

ギルデンスターン　それにお伺ひするのを好ませられぬ

やうに、

狂人めいたお言葉で、つと他にお外しになつて、

御本心を伺ふ時がございません。

王妃　お二人をようあしらはれましたか？

ローゼンクランツ　全く紳士らしく。

ギルデンスターン　しかしお心持には、随分努めたところもお見えになりました。

ローゼンクランツ　お話はお厭のやうでしたが、當方か

らの間には、

最も寛大にお答へてございました。

王妃　何か遊びごとにでも、

誘うてみましたか？

ローゼンクランツ

はい、丁度私共途中で偶々或る俳優

數名を、

追ひ越しましたので、その事を申し上げましたところ、

何とやらお悦びのやうにお見受け申しました。

彼等はすでに殿中に参りをり、

御下命があつて、今宵御前、

何か演出することになつてゐるかと思ひます。

ポロニーヤス　全くその通りにござります。

王妃には、お二方に、
上覽あらせらるゝやう願ひくれよとの御言葉にござりま

す。

王 喜んで觀よう。彼がかく心を傾くると聞くは、甚だ我が意を得た。

兩人にはこの上とも彼に刺戟を與へ、彼の心をかうした娛樂に向はせて貰ひたい。

ロンゼンクランツ かしこまりました。

ローゼンクランツ、ギルデンスターイン退場。

王 ガーツルードよ、御身も暫しあちらへ。

我等ひそかにハムレットをこちらへ呼び寄せ、

思ひがけぬといふ風に、こゝでオフィリヤと對面させることにいたしました。

彼女の父とわれとは、法に反かめ間諜となつて、身を隠し、

兩人出會ひの様子を窺ひ、

彼の態度によつて、

果して戀の惱みのために、

懊惱してゐるかどうかを、判斷しようと思ふ。

王妃 仰せに従ひます。

そしてオフィリヤ、どうかそなたの

すぐれた美しさが、ハムレット亂心の原因で

あるやうに念じる。さすればそなたの優しい氣立が、再び和子を正氣にかへらせ、所詮は二人の譽れともならうほどに。

オフィリヤ 私もさうあつて欲しいと祈ります。

王妃退場。

ポロニヤス オフィリヤ、あなたはこゝを歩いてゐなさい……我が君どうぞ、あの物蔭に隠れて居りませう。

「又オフィリヤに向ひ」この祈禱書を見てみなさい。かういふ風にして居ればそなたがたつた一人で居ても、

をかしくは見えまい。いや、悪いことだが、よくあるやつ

全くあり過ぎるほどある——信心らしい顔をし、殊勝らしい行ひをして、惡魔にも劣らぬ惡行の外面に、こゝろをかけるものだ。

王 「傍白」お、全くその通りだ！

今の一言は、何と鋭い鞭をわが良心に與へることぞ！

かの賣女の頬は、塗らたてゝあるので美しく見えるが、

頬そのものは、その紅白粉に較べて甚だ醜い。

それにもましてわが行ひは、わが飾らたてた言葉に比べていかばかり穢れてゐることであらう。

おゝ、罪の重荷！

ポロニーヤス お見えになるやうです。さ、こちらへ。

王とポロトニヤス退場。

ハムレット登場。

ハムレット 存らふべきか、それとも、存らふべきでない

か、問題はそれだ。

どちらが男子の心であらう！

残酷な運命の石火矢を耐へ忍ぶのと、

海なす艱難を迎へて立ち、

闘つてこれと共に亡ぶのと？……死は眠りに過ぎない。

眠りに由つてこの心の悩みや、

又は肉體の持つて生れた千百の争ひが、

断たれてしまふと假定すれば、それこそ心をこめて

願ふべき大終焉なのだ。……死は眠りである、

眠ると、恐らく夢を見よう。さうだ、そこに障りがある。

我等この肉身のもつれを断ち切らん時、

死といふその眠りの中に、どんな夢を見るだらう、

それを思ふと心が鈍るに相違ない。

われから永びかして生を貪るのも、つまりこれに外なら

ぬ。

でなくば誰か我慢してゐよう、世の暴戾と嘲笑、

壓制者の非道、驕慢な輩の輕蔑、

顧みられぬ戀の痛み、裁判の長びき、

官吏の横柄、または、我慢強い立派な人が、

値ひなきものから受ける非禮など、

自分で自分の清算をつけることが、抜きはなつた

短劍の一突きで出来るものなら。……重荷を負うて、

憂世の道を呻き、汗流しながら迎るのも、

死後に來るものゝ恐れ、

その境から曾て旅人の還つて來た事のない

未知の國、それが我等を心もとながらせ、

現在の苦しみには耐へても、

何とも解らない他の世界へ飛躍することを控へさせるの

だ。

かく自省は我等を悉く臆病者にする。

かくて決心本來の凛々しい色彩も、

懸念といふ青緹めた一抹の色に塗られて病み衰へ、

いかなる大事の計畫もその進行を失ひ、

實行の名を失ふのだ。——シート、靜かに！

美しいオフィリヤ！「とオフィリヤの祈禱書を読んでゐる

らしいのに近づき」森の女神よ、祈禱のうちに、
わがすべての罪の消滅も祈りそへて下さい。

オフィリヤ 王子様、

近頃御機嫌はいかゞに入らせられますか？

ハムレット いや有難う。丈夫だ、丈夫だ、丈夫だ。

オフィリヤ 私は王子様からいろ／＼頂戴物をして居りま

すが、

それをお返し申したいと、長いこと望んでをりました。

どうぞ、今それをお受取り下さいまし。

ハムレット いや、そんな覚えはない。何もやつたことは

なかつたに。

オフィリヤ まあ、王子様、そんなことを仰しやつて！

それと御一緒に、それは／＼美しいお言葉をお添へ下さ

いましたので、

お品は一層輝かしくなりましたが、その香も失せました

から、

お納め下さいまし。さもしい心でない以上、

どんな立派な贈物でも、贈つた方の真心が添うてゐなけ

れば、つまらぬものになります、

さ、王子様。

ハムレット はゝゝゝ！ そなたは貞女か？

オフィリヤ え？

ハムレット 美人かい？

オフィリヤ どうしてそんな事を仰しやいますか？

ハムレット かうだよ、貞女で美人なら、その貞女と美人

と親しくさせぬがいゝよ。

オフィリヤ 美人と貞女なら、丁度いゝ友達でありませう

が？

ハムレット いや、とんだこと。何故と言ふなら、美しさ

が操を墮す力は強いものだが、美しさを引き上げる操

の力はとても弱いものなだから。こんな事は昔は一

個の異説にすぎなかつたが、今ではそれが普通の事に

なつてゐる。……前にはそなたを愛した事もあつた。

オフィリヤ ほんとに私もさう信じて居りました。

ハムレット 私の言ふことなど、信ずるのではなかつたの

だよ。

徳はどんなに接木しようとも、やつぱり古株の匂ひはず

るからな。愛してなど居なかつたよ。

オフィリヤ それはきつい思ひ違ひでした。

ハムレット 尼寺へ行きなさい。どうして罪な人間を養ひ

育てようとなさるゝのかな？ おれなどは、かなり正直者だが、それでも、母が産んでくれなかつたらと、いろ／＼の事で怨んでも見るのだ。おれといふ男は、ひどく高慢で、復讐心強く、野心満々で、自身許しさえすればどんな罪科も犯しかねない、たゞそれに思想を盛ることも形を與へる想像と實行し得る時と場合がなればかりだ。こんな男が天地の間を這ひずり廻つて、何をするものか？ 我々は一人残らず全くの悪黨だ。我々の誰をも信じてはならない。さつさと尼寺へ行きなさい。「ふとハムレットは帳の背後に誰やらゐる氣配に氣づき、ぢつとオフィリヤを見て」父上はどこに居るかな？

オフィリヤ あゝ、宅に居ります。

ハムレット びつたり戸のなかに閉ぢ込めて、自分の家でないところで、馬鹿な眞似をさせぬがよいぞ。さやうなら。「と行きかける」

オフィリヤ おゝ、天の神々、この王子をお助け下さいまし！

ハムレット 「又歸つて」若しも結婚するのなら、お祝ひの代りにこの呪咀を與へよう——たとひそなたが氷の如

く操正しく、雪の如く純潔であらうとも、世間の誹りは免れぬぞ。尼寺へ行きなさい、尼寺へ。さやうなら。「又歸つて」それとも、どうあつても結婚したいとなら、愚人と結婚するがよい。賢い男はそなた達のふしだらにおき感つき角を生じて騒ぎたてる。尼寺へ行きなさい、ぐづ／＼せずと。さやうなら。

オフィリヤ おゝ天の神々、どうぞ、あの方を正氣に戻して下さいまし！

ハムレット そなた達が紅白粉を塗りたくる事も、よく聞いてゐる。神の與へた顔を、自分で別のものにする。しなを作つて小刻みに歩く、舌たるくする、神の創造物に諱名をつける、そしらぬ顔をして、みだらな嬌態をする。ペツ。もう我慢ができない。それでおれは氣が狂つたのだ。よいか、もう結婚はさせぬぞ。既に結婚した者は、一人だけ許して、他の者は今の未婚のまま、で一生を送らせる。さ、尼寺へ、尼寺へ。

ハムレット退場。

オフィリヤ おゝ、けだかいお心の何といふ破滅であらう！

貴神の眼、博士の舌、武人の劍

美しき御國の花、未來の力、

風流の鑑、作法の模範、

觀る眼ある人から、悉く崇められてゐたのに、もう空し

くなつてしまつた！

女子の中で誰よりも心挫けて慘めなのはこの私、

あの君の音楽のやうな誓ひの蜜を吸うた身が、

今はけだかくよなき力あるお心も、

破鐘のやうに調子はづれて鳴り騒ぐのを見ます。

咲き誇る青春の、たぐひなき花のお姿も、

狂亂の嵐に蝕まれてちりゆかれた。お、何といふ因果

だらう。

昔を見た目が、今日の今を見るとは！

王とポロニーヤス再び登場。

王

戀だと？ 彼の感情はその方に向つてゐない。

且又彼の言ふところ、聊か形に缺くる所はあつても、

狂氣のやうではない。彼の魂に何ものかあつて、

それを抱いて彼の憂鬱は、物思ひの鳥屋についてゐるの

だ。

やがてそれが解つて、殻を破らば、

危険なものになりはすまいか？ それを豫め防ぐため、

予は咄嗟の思ひ立ちで、

かう決めた——彼を急ぎイギリスへ遣はし、

滞納の貢物を催促させよう。

恐らく異邦の風光は、

變化ある事物に乏しくないから、

彼の心の蠟りを退き去らせるであらう、

彼の脳髓はその一事に断えず往來して、

結んでとけぬ彼の惱みを放散せしめるだらう。そちはど

う思ふ？

ポロニーヤス それは結構に存じます。したが私はやはり

信じます。

王子様の御煩悶の事の起りは、

叶はぬ戀から湧き出ました……。どうぢや、オフィリヤ！

いゝや、ハムレットさまのお言葉を話す必要はない。

みんな聞いた。……我が君、御意の通りに遊ばしませ。

したが、もし御異議がなれば、觀劇の後、

お母妃とたつたお二人で御懇談遊ばされ、

あの方の御煩悶の仔細をお糺しなされてはいかゞでござ

います。

そして手前は、お差支へござりませねば、逐一お話を

立ち聴きいたしませう。

若しお妃のお手に負へぬやうでしたら、

イギリスへお遣しになるなり、又は御賢慮のまゝに、

どこへなり御幽閉なされるがよろしからうと存じます。

王　では、さうするといたさう。

高貴なる者の狂氣は、そのまゝには差置かれぬ。

一同退場。

第二場　——城内の大廣間。

ハムレット並に俳優等登場。

ハムレット　臺詞を述べるのに、予が君達に讀み聞かせた

やうに、どうか、舌の先で輕々とやつて貰ひたい。でな

くて、多數の俳優のする如く、大聲にわめき立てる位

なら、町の觸歩きを頼んで、文句を述べさせたがまし

だ。それからあんまり手を波立たせて、空氣に鋸の目

をたてゝもならぬ、こんな風に萬事靜穩に。情熱の激

流、暴風雨、なほ言つて見れば、大旋風の狂ひ亂るゝや

うな中にも、程といふことを失はないやうにして、ふく

らみをつけなければならぬ。お、おれは魂のどん底ま

で蟲が好かない、空騒ぎの假髮奴め(當年假髮を著けたのは
俳優ばかりであつた)

激した感情を、ぼろ／＼に引つきき、土間連の耳をつ

んごきせる。あの土間連など大方、わけの分らない黙

劇か、さなくば空騒ぎ以外、何を理解する力もないの

だ。あんな役者は蠻神クーマガントをやり過ごしたか

どで、笞刑を喰はしてやりたい。全くヘロデ王もヘロ

デ過ぎる。(亂暴なヘロデ王も
顔色なしといふ意)どうか、あれだけは止めて

もらひたい。

第一俳優　必ず注意いたします。

ハムレット　と言つて、あまり無氣力でもないけない、ともか

く君みづからの分別を師としたがよい。科介を臺詞に、

臺詞を科介に合せるがよい。注意しなければならぬ。

そして自然の程合ひを過ぎぬよう。何によらず、やり

過ぎれば演劇の目的から遠ざかる。演劇の目的は、昔

も今も變らず、謂はゞ大自然に向つて鏡をさゝげ、正

邪をその姿形のまゝに、時代の本體に應じて、そのあ

りのまゝを寫すにある。されば、この演じ過ぎ、或は

演じ足りないで、よしや初心の見物を興じさせても見

功者を悲しませず措かないだらう。かやうな一人

の批評は、幾千の無批判の客を壓倒するものでなくて

はならぬ。然るにやゝもすれば、予の見た俳優のうち
に、他人の賞讃し、しかも大に賞讃するのを聞きなが
らキリスト教徒らしい人間の聲でも振舞ひでもないほ
どに、異教徒や土耳其人でも、かうあり得ないと思は
れるほどに、床踏み鳴らし、わめき立て、これは造物
主の弟子などの無細工に造り上げた人間ぢやないかと
思はれるほどに彼等の扮する人間が、全く人間離れを
してゐたのがあつた。

第一俳優 私共、その點はかなり改めましたつもりにご
ざります。

ハムレット おゝ、すっかり改めたがいゝ。それから滑稽
役を演じる者には書いてある以上の事を喋べらせては
ならぬぞ。中には、自分で笑つてかゝり、無知な見物
の多くを笑はせようとする者もある。劇の大事な筋を
考へなくてはならないのに。これは卑しむべき事で、
かやうな手段を弄する道化方はまことに憐れむべき野
心だ。さ、支度に取りかゝるがいゝ。

俳優等退場。

ポロニヤス、ローゼンクランツ、ギルデンスター
ン登場。

どうだな！ 王にはこの劇を御上覧なさるだらうか？

ポロニヤス お妃もお成りださうです、すぐ今から。
ハムレット 俳優共に、急ぐよう命じてくれ。

ポロニヤス退場。

君がたも、せき立てゝ、俳優共を急がしてはくれまいか？

ローゼンクランツ
ギルデンスターン かしこまりました。

ローゼンクランツ、ギルデンスターン退場。

ハムレット おゝ、ホレイシヨ！

ホレイシヨ登場。

ホレイシヨ 何か御用でござりますか？

ハムレット ホレイシヨ、御身ほど眞直な人物は、

予の交友中他にはない。

ホレイシヨ おゝ、そんな――

ハムレット いや、予が諂ふと思つてはならない。

諂つたとて、どんな出世を御身から期待しよう、

御身の高潔な精神以外、衣食の料となるべき、

少しの収入もない御身に？ 貧しい者は諂はれることが

ないものだ！

いゝや、砂糖浸しの甘い舌は、俸がりやの馬鹿を嘗めさ

せ、

自在に屈し易い膝の蝶番は、

詔うて利得のあるところに曲げさせるがよい。聞き給

へ！

予の大事な魂が、自力にて物を選択し、

人物を見分けるやうになつてから、御身を、

わが魂のものと固く極印をつけた。御身こそは、

すべての惱みを惱んで、しかも何等の惱みなき如く、

運命の打撃も、はた恩寵も、一椀に、

感謝を以て受くる人ぢや。げに祝福さるゝ人は、

知情よく調和し、

運命の神の指の弄ばるゝ笛となつて、その意のままに、

どんな音色でも立てるといふ人間ではないのだ

情熱の奴隷とならぬ男を予に與へよ、さすれば彼を、

わが心の中央に、さうだ心の奥の奥に、

御身と同じに安置することにしよ。これは聊か言ひ過

ぎた。……

今夜王の御前に劇が催される。

その一場に、父上の最後のさまによく

似たところがある。

どうか、その幕が開いたら、
御身の魂をこらして、

叔父上の様子を窺つて貰ひたい。若し彼の隠れた罪が

一臺詞によつて現はれないとすれば、

我々の見た亡霊は悪魔で、

予の想像してゐることは、ブルカンの鐵砧同様、

破なく不正な想像である。用心深く見てくれ。

もとより予も予の兩眼を彼の顔に釘づけし置き、

後になつて互に語り合ひ、

王の表情について判断しよう。

ホレイシヨ　かしこまりました。

若し上演中、王が聊かでも我等の眼を偷み、

注意をのがれるやうな事がござりましたら、その償ひは

私がつといたします。

ハムレット　はや見物に參つた様子だ。予は氣狂ひの風を

せねばならぬ。御身も、どこぞ席に着いてくれ。

デンマークの進行曲、フラリッシュ調の喇叭、王、王

妃、ポロニーヤス、オフィリヤ、ローゼンクランツ、

ギルデンスターンその他登場。

ハムレット、工合はどうかな？

ハムレット 結構、全く。カミリーヨンの御料理同様、空気を食つてゐます、空約束で詰込まれて。食用鶏を養ふにだつて、さうはゆきませんよ。(王の問ひを食物について、わざと誤解したやうにかく答へる。カミリーヨンは一種の蚯蚓、微細昆蟲を食ふ故空気を食つて生きる。さういふ當時の俗説もある。空世辭や空約束だけでは不満足といふ意味を仄めかし、王になれぬ不事故の狂氣を解する宮廷人の考へにわざと投じてゐる。)

王 こんな答を受けるやうな問ひはしない筈だ。ハムレット、その言葉は予へのものでない。

ハムレット と言つて、私のもありません、今となつては(一旦口を出たか)、「ポロニーヤスに向ひ」御身は昔大學で芝居をしたと言つたね？

ポロニーヤス いたしました。しかも立派な役者だといふ評判でございました。

ハムレット 何を演じたかな？

ポロニーヤス ジュリヤス・シーザーに扮して、議事堂で殺されました。ブルータスが私をやつゝけたのです。

ハムレット なんだ、噛み取ると？ 噛みとるなんてブルータスで男も随分ブルータス(動)だ。……俳優共の準備は出来たか？

ローゼンクランツ 左様でございます。たゞお指圖を待たせて居ります。

王妃 こちらへ入らつしやい、ハムレット、私の傍に坐りなさい。

ハムレット いや母上、こちらの方の金屬かみに、もつと引力がああります。
とオフィリヤの方に行く。

ポロニーヤス 「王に」おゝ、ほう！ あれを御覽遊ばしませ。

ハムレット 姫、御裳裾を一寸貸してくれよ。

と、オフィリヤの脚の近くに横になる。

オフィリヤ 飛んでもないこと！

ハムレット 一寸、頭を裳裾へのせるだけさ。

オフィリヤ では、どうぞ。

ハムレット 予が田舎みなかひたことでもするつもりと思つたかな？

オフィリヤ いゝえ、何とも思ひませぬ。

ハムレット 處女の脚の間に横になるなんて、いゝ思ひつきたよ。

オフィリヤ 何と仰せられます？

ハムレット 何でもないさ。

オフィリヤ 浮きくしていらつしやいますこと。

ハムレット 誰が、予が？

オフィリヤ さうでございます。

ハムレット お、ほんの下司歌作者だからね。一體人間はこんな時に浮かれないで、何としよう？ そら、御覽、母上の樂しさうな御様子といつたら。父上が歿くなつてから、たゞの二時間だのにな。

オフィリヤ いゝえ、もう二月の二倍からですよ。

ハムレット そんなに經つかな？ それなら、黒服は惡魔

に着せるが、予は貂の皮衣でも一着つくらうよ。

お、天の神々！ 死んで二月も經つのにまだ世間から

忘れられない！ するとまづ權勢家の記憶も、死後半

年は續くかも知れないといふ望みがあるね、併し、教會でも建てなかつたら、人間は木馬のやうにならう。

その木馬の碑文はかうだ、『なぜなら、お、なぜなら、お、木馬は忘れてしまはれた——』

木笛吹奏、默劇の俳優登場。

王と王妃に扮したる者登場、いと睦じげに、妃は王

を、王は妃を抱擁する。妃は跪き、王に對し何か言

明する科介あり。王は妃を起こし、頭をその頸にも

たせる。妃は王を花咲き亂れた堤の上に臥させ、熱

睡するを見て、去る。やがて、一人の男入り来る、

王冠を奪ひ取り、これに口づけし王の耳に毒を注入

して退場する。妃歸り、王の死せるを見、激しき悲

嘆の科介あり。毒害者は二三の默優を伴ひて再び入

り來り、妃と共に哀悼する科介あり。死體は運び去

られる。毒害者は様々な贈物を以て妃に婚を求めらる。

妃はしばらく憎み嫌ひ、肯んぜざる如くであつたが、

結局、彼の戀を受ける。一同退場。

オフィリヤ 王子様、あれはどういふ意味なのです？

ハムレット お、あれはこすいマレコ、即ち惡事といふ

ことだよ。

オフィリヤ 多分この默劇は芝居の筋なのでございませう。

序詞役登場。

ハムレット 此奴でわかるよ。俳優といふ者は秘密は守れない。何もかも言つてしまふものだ。

オフィリヤ あの人がこの默劇のわけを言つてくれますのですか？

ハムレット さうだ、その他どんな默劇でも、そなた達が

して見せさへすれば説明するよ。見せるのを恥かしが

らなければ、その事わけを少しも恥かしいと思はない
で説明するのだ。

オフイリヤ まあ、なんてお口が悪いんでせう。私、お芝
居を観ませう。

序詞役

我等並に我等の悲劇のため、

皆様方の御愛顧をとこゝに腰を屈めて
御清聴を願ひ奉ります。

退場。

ハムレット これが序詞か、それとも指輪の銘か？

オフイリヤ ほんとに短かうございます。

ハムレット 女の戀のやうにな。

二人の俳優、王と王妃に扮し登場。

劇中王

正しく三十度日輪神の車は、

大洋神の潮路と又大地神の圓き領土を廻り、

又三十を十二たび重ねたる月は、借りたる光をも
て、

世界のまほりを運行すること三十を十二たびせり

戀が我等の心を、ハイメンが我等の手を、

一つに結んでいと聖き固めとせしその日より。

劇中妃 願はくば、月も日も同じほどの旅路を

我等に數へしめて、かくて戀の終りに到らんこと
を！

されど悲しや、我が君には近頃いたく病み思はせ
給ひ、

氣力萎えて、もとのおん姿はなく、

お身の上の案ぜらるゝぞや。さはれ、妾いかに
り案ずればとて、

かまへて御心を惱まし給ふな。

女人の愛と憂ひとは、互に等しきもの、

或る時は共に無く、又或る時は共に限りなしとか
や。

さて、わが愛のいかなるかは、證據によつて君も

しろし召さるべし、

この愛の秤に従ひ、わが氣遣ひも秤られむ。

愛大なれば、僅かの懸念も氣遣ひとなり、

僅かの氣遣ひも大きくなれば、大いなる愛そこに
生れむ。

生れむ。

劇中王 まことや我は、御身を殘してこの世を去ら

む、しかも恐らく程もなく。

この身の活動力はその機能を停止せむ。

そなたはこの麗はしき世に生き存らへ

敬はれ、愛せられ、また頼もしき人あらば

御身の後の良人として――

劇中妃 お、忌はしそのその餘のお言葉！

かゝる愛こそこの胸には叛逆者なれ、

假にも二度の良人を持たば、呪ひよこの身に來れ

かし！

初めの良人を殺すほどの女子ならでは、重ねて夫

迎へすまじきに。

ハムレット 「傍白」にがよもぎ、にがよもぎ。

劇中妃 重ねての婚姻を思ふ心は

利慾といふさもしき心、必ず愛にはあらじ、

後の良人が聞に妾を口づけせん時は、

重ねて、先きの良人を殺すに等しきものを。

劇中王 われ固く信ず、口にし給ふ如く心に思ひ給

ふ事を。

さはれ我等は一旦の決心をもしばく破る慣ひ、

目的は單に記憶の奴隷にて

生るゝ勢ひは猛かれど、生ひ立つ力は弱し。

今こそ、生々しき果實の如く元木にひた着けども

果熟すれば、揺り動かさざれど落つ。

我等が心に負へる負債を、我等自らに支拂ふを

忘るゝは止むを得ざらむ。

情に激して我身へと誓うたることは

情の消ゆると共にその誓ひも消え失せむ。

悲しさにせよ、嬉しさにせよ、猛然と心定めたる

ことは

その勢と共に滅ぶるものぞ、

嬉しさの極まるところ、悲しさも極まり

悲しさ嬉しさの立ちどころに變るも、僅かなる出

來事によつて左右せらる。

この世元來永遠のものならねば、我等の愛の、

幸運と共に推し移るに何の不思議かあらむ。

残されたる未決の問題は、

愛が幸運を導くか、はた幸運が愛を導くかにあり。

見よ、權勢ある者も失墜すれば、恩顧の者散じ、

貧しかりし者も榮達すれば、仇敵をも友とす。

愛は幸運に仕ふるものなり。

又缺乏を知らざる者は、友に事缺かねど

事缺きて友を求めんとすれば

忽ち彼を驅つて敵とす。

さもあれ、述べ初めし事の順序に従ひこれを結ばむに、

意志と宿命とは、相反いて走り、

計畫は断えず覆へざる。

思念は我等のものなるも、思念の窮極は我等のものならじ。

御身も今こそまたの良人にまみえじと思へ

最初の良人の亡からむとき、おん身の思ひも亡かるべし。

劇中妃 地は食を、天は光を與へざれ！

晝は娛樂を、夜は休息を鎖せかし！

わが信頼と希望とは、絶望に變れよかし！

隱者の獄舎に於ける生活がわが日常のものとなれ！

喜びの飢を蒼白めしむるあらゆる不幸は

來りてわが願ひしところの吉事を滅ぼせよ！

果てなき争は現世來世の分ちなくわれに付き纏へ

よかし、

若し寡婦となりて、重ねて妻となる事あらば！

ハムレット 若しその誓を破つたなら！

劇中王 深くも誓ひ給ひたり。妃よ、しばしかなたへ。

心うみたらば、この物憂き日を

眠りをもてまぎらさむ。

劇中妃 願くば眠りよ來つて御頭を揺り休ませまつりてよ。

二人の間に、ゆめ災厄の來らざれとこそ！

退場。

ハムレット 母上、芝居はお氣に召しましたか？

王妃 妃が、ちと言ひ過ぎると思ふがね。

ハムレット おゝ、けれども言つた事は守りませう。

王 そなたはこの荒筋を聞いてか？ 何か不法な事はあるまいな？

ハムレット いえ、いえ、戯れです、戯れに毒害するまでなのです。不法など、飛んでもない。

王 外題は何といふな？

ハムレット 『捕鼠機』何故と仰しやるのですか？ ものの譬へです、この劇はヴィエナで行はれた殺人事件をそのまゝ仕組んだもの、ゴンザゴといふのが大公の

名、奥方はバブチースタ。やがてお分りになります。
怖ろしい悪だくみの話です。併しそれが何であらう？
王様にしても、我々にしても、心に痛いところがなけ
れば、何の觸りもない事です。赤むけの馬こそ跳ねま
すが、こつちの脊骨は痛みませぬ。

ルーシアアーナス登場。

あれがルーシアアーナスと云つて、王の甥です。

オフリヤ 我が君は説明役のやうに何もかも御存じでい
らつしやいますね。

ハムレット 知つてゐるとも、そなたとそなたの愛人の間
柄でも説明できる、操人形のいちやついてゐるとこ
ろを見せてさへ貰へばだ。

オフリヤ ほんとに鋭いお口ですこと。

ハムレット 鋭い私の鋒を鈍くさせようといふには、一
唸りせずばなるまいて。

オフリヤ まあ、段々ひどく、いけなくなりませうわ。

ハムレット さう言つて夫を迎へなければなるまい。

……初めい、殺人者、かさつかき、その醜い面をやめて
早く初めい。さ、「啼き立つる鴉も復讐を求めて叫ぶ。」

ルーシアアーナス 心は黒く、腕は冴え、毒薬は整ひ

折も上首尾。

時機も味方となつたるか、他に見る者ともない。
汝怖ろしき臭液、眞夜中の毒草よりかき集め、
謎女の呪咀に三度び呪はれ、毒氣に三度び染め浸
したれば、

その怖ろしき天然の魔力をもて

忽ち健やかなる肉體を奪ひとれ。

と持つたる毒液を眠れる者の耳に注ぐ。

ハムレット 彼は王位を奪はうと園内に王を毒害する。王
の名はゴンヅゴ。この話は今も残つて、選りぬきのイ
タリイ語で書いてある。今にわかる、殺人者がゴンヅ
ゴの妃をどうたぶらかして手に入れるか。

オフリヤ 王様がお起ち遊ばします。

ハムレット 何、虚妄の烽火に驚いたのか？

王妃 あなた、どうなされました？

ポロニヤス 芝居を止めい、芝居を。

王 燭火をもて。退れ！

一同 燭火、燭火、燭火！

ハムレットとホレイシヨを除く外一同退場。

ハムレット 打たれし牝鹿は行きて泣け、

無傷の牡鹿は戯るゝ。

眠るもあれば、眠らぬも。

かくてこの世は過ぎて行く。

どうだ、君、これで役者の華美衣裳一かさねあれば——
これから先き、予の運命がどう變らうも——ブローア
ンスの大薔薇リボンを飾り靴につけて、役者の仲間
入つて株持ち(當時俳優のよき者は劇場の株を持つてゐた)になれようがな？

ホレイシヨ まづ半株ですかな。

ハムレット 全一株だよ。

そなたも知れりやデーモンどの、

ジヨウヴの神の御位も

今はうばゝれ王座には

それ／＼羽ばたく——孔雀。

ホレイシヨ 「驢馬」と來なくちや韻が合ひませんな。

ハムレット おゝ、ホレイシヨ、亡靈の言葉を千ポンドに

買はうよ。観やつたか？

ホレイシヨ よく觀ました、我が君。

ハムレット 毒害の臺詞になつた時に？

ホレイシヨ よく觀とゞけました。

ハムレット あゝ、は！ さ、何か音楽！ さ、笛々！

王様喜劇の好かぬとならば

大方それこそ……好かぬも道理。

さ、さあ、音楽々々！

ローゼンクランツ、ギルデンスターン再び登場。

ギルデンスターン 我が君、一言申上げたうござりま

す。

ハムレット 一言どころか、一卷すべてでも。

ギルデンスターン 國王には、——

ハムレット 國王が何となされた？

ギルデンスターン 御退出後、いたく御不快に渡らせら

れます。

ハムレット お酔ひになつてか？

ギルデンスターン いえ、寧ろ御不興で。

ハムレット これは侍醫に知らせる方が、御身の智慧の一

層豊富だつたらうものを。予がなまじ罪の下劑でもか

けやうものなら、恐らく更に御不興を増すばかりだ。

ギルデンスターン 我が君、お言葉を少しく秩序正しく

遊ばされ、用件からかけ離れぬよう願ひ上げます。

ハムレット おとなしくしようよ。さ、言つたり。

ギルデンスターン 御母妃の宮には、いたく御心を惱ま

させられ、兩人をお迎へに遣はされました。

ハムレット ようこそ來られた。

ギルデンスターン いえ、我が君、このお言葉は正しい
お心からのものとは存じません。御本心の御返辭を賜
はりまするならば、御母妃のお仰せを傳へまするでせ
う。さもなれば、私共はもう退出を願ひたいのでござ
ります。

ハムレット そりや、予には出來ない。

ギルデンスターン 何がでございますか？

ハムレット 健全な返辭をすることがさ？ 予の頭腦は不
健全になつてゐる、だが、予のなし能ふかぎりの返辭
なら、御身がたの意のまゝに、いや、寧ろ、わが母上
の御意のまゝに。だからそれはもうやめて要件をし
て母上が――

ローゼンクランツ かやうに申されます。我が君今夕の
御振舞にはいたくお驚きになつたとのこと。

ハムレット おゝ驚くべき息子だ、母をかくまでお驚かし
申すとは？ だが、何ぞこの驚きのあとの、まあ餘談
といつたやうなものはないかな？

ローゼンクランツ 御寢になる前に、お居間でおさし向

ひでお話したいとの御意にござります。

ハムレット 承つた、母上が十倍の母上であつたほどにも
仰せに従ふと言うてな。他に何か取引はないかな？

ローゼンクランツ 我が君には。かねては私に友愛の情
を賜はりましたが。

ハムレット 今でもだよ、このもろ手にかけて。

ローゼンクランツ では伺ひますが、我が君御憂鬱の原
因は何でござりますか？ 友人と仰せられながらお包
みあるは、それこそ御自身の自由に向つて、戸を閉め
るやうなものでござります。

ハムレット 實は出世が出來ないからだよ。

ローゼンクランツ どうしてそんな事があり得ませう。
デンマークの王位御繼承については、現に王御自身の
お言葉さへござりますのですから。

ハムレット それはさうだが、そら「草が伸びるうちに」
といふ諺はもう古くさい。(諺は「馬鹿な馬を飼
ゑる」と結んである)

俳優達、笛を持つて再び登場。

おゝ、その笛！ 一本見せてくれ。……一寸こちらへ。
〔とギルデンスターンを招き〕――なぜ御身は予の風
上へ廻つて、陥穽へでも追ひ込まうとするのか。

ギルデンスターン お、我が君、若し私の忠勤ぶりがあり
 まり出過ぎますやうでござりましたら、それは敬愛し
 奉るあまりの不法法でござりませう。

ハムレット 何のことかよく解らぬ。この笛を一つ吹いて
 くれまいか？

ギルデンスターン 私は不調法にござります。

ハムレット まあ、吹いてくれ。

ギルデンスターン 全く、不調法にござります。

ハムレット さういはずと是非。

ギルデンスターン どう押へてよいやら存じませんので。

ハムレット 虚妄をつくのと同じくわけはない。この孔を

指と拇指とで塞ぎ、口から息を送る。すると實に善い

音色を自由に發するよ。そら、これが歌口だ。

ギルデンスターン ですが、それを自由に使ひかけて、

調和した善い音色を出すことは出来ません。私には、

その手心がございせんので。

ハムレット すると、これ、御身は予を何といふ値ひなき

ものに取扱はうとするのだ！予を弄ばうとしてゐる。

予の歌口を知つてゐるらしく、この心の秘密をつまみ

出し、予に歌はせて、予の本意のすべてを吐かせよう

としてゐる。このさゝやかな一樂器にさへ、美しい妙

な音樂、すぐれた聲がある。しかも御身たちはそれを

奏でることが出来ないといふ、御身は予を笛よりも弄

びやすいと思つてゐるのか！予をどんな樂器にしよ

うとそれは自由だ。しかし痴に觸れることは出来ても、

本音を吐かせることは、ちと難かしからうよ。

ポローニヤス登場。

や、機嫌がいゝな！

ポローニヤス 王妃様には至急に御對話遊はされたいと

の御意にござります。

ハムレット あゝ、あそこあの雲が見えるかい、よほど

駱駝の恰好に似てゐるではないか？

ポローニヤス いかにも、仰せの如くそのやうに見えま

す、まことに。

ハムレット どうやら鼯のやうにも見えるね。

ポローニヤス 背恰好が鼯らしうござります。

ハムレット それとも鯨かな？

ポローニヤス 鯨にも大層似て居ります。

ハムレット では母上の所へすぐ參らう。……あいつらは
 予を我慢のならぬほど馬鹿抜ひにしる。……すぐ參

ると言うてくれ。

ポロニーヤス さやう申上げませう。

ポロニーヤス退場。

ハムレット 口で直ぐといふのは易い。退つたがよからう

諸君。

ハムレットの他皆々退場。

今こそ夜の魔性の時、

墓は大きく口を開き、地獄よりは、毒氣をこの世に送り

いだす。今ならば煮えたぎる血潮をも飲みほし、

晝は震へて視も得せぬ惨虐をさへも

爲さは爲し得る。シート！ いざ、母のところへ。

おゝ心よ、汝の本性を失はず、決して

ニーロー（ローマのニーロー）の魂をこの決意の堅い胸に入

れしめまいぞ。

残忍であつても、道にそむいてはならぬ。

舌を劍とすとも、手には用ゐまいぞ。

舌と心と表裏であるといはよいへ。

言葉ではどんなに母を刺せばとて、

これに實行の封印を興ふることを、我が魂よ、ゆめ同意

すまいぞ！

退場。

第三場 —— 城内の一室。

王、ローゼンクランツ、ギルデンスターン登場。

王 彼が氣に入らないばかりでなく、彼の狂態をこのま

ま打ち棄てゝ置くのは、

我等の身の上いかにも心元ない。早く出立の準備をして

くれ。

國書は急いで調へるから。

御身等に伴はせ、彼をイギリスへ遣はさしやならぬ。

國の爲めだから彼の亂心の

刻々募りゆく危険さを、

忍ぶわけに行かない。

ギルデンスターン 謹んで支度仕ります。

大君の御稜威のもとに生きて居ります

數多き民草の安寧を思召さるゝは、

いと神聖な、神の道にも違つたお氣遣ひにござります。

ローゼンクランツ 單なる一個人の生命でも、

心のあらゆる力と武器とを以て、必ずや

危害より遠ざからんとする者でござります。ましてや、かの多數の生命の綱と仰ぎ奉ります御身の上の

安寧に於てをやでござります。高貴なる方の御他界は、たゞ一人にて止むものではござりませぬ、譬へば大渦の

巻くやうに、

あたりの物一切を引込みます。又そは大なる車輪の

高山のいたゞきに安置せられたる如く、

その互いなる輻には千萬の卑小なる物が、

切り組まれ接合せられてありますので、その一たび墜落

するや、

どんな小さい附屬物でも悉く、

その轟然たる破滅に伴ひます。王者の溜息一つさへ、

國民一般の呻きとなるものでござります。

王

どうか、この急ぎの旅の支度をしてくれ。危なかつしいものに足枷をくはせたいのだ、

今ではあまり自由に歩いてゐるからな。

ローゼンクランツ

ギルデンスターン

急ぎますでござりませう。

ローゼンクランツ、ギルデンスターン退場。

ポローニヤス登場。

ポローニヤス 我が君、今王子には御母上の御室へお出でのごとろにござります。

私は帳のかけに身を置き。

お話の始終をお聞き取りいたしましたせう。必ずお妃には十分御礼明なされることゝ存じます。

で、最前のお言葉通り、いかにも賢明なお言葉にござりまするが、

御母上以外に、誰か聴取のありまして、

母上のお間柄では人情がとかく偏頗なものになりがちですから、お話の模様を、

便宜の位置にあつてお立ち聴きいたしますことは、

至極結構の事に存じます。ではお暇仕ります、我が君、

いづれ御寝前に罷り出でまして、

委曲申上げますでござりませう。

王 いやかたじけない。

ポローニヤス退場。

お。わが罪は極悪、その悪臭は天にも届く。

人類最初の又最古の呪咀がかゝつてゐるのだ、——

兄殺しの呪ひだ。祈らうにも祈られない、

祈りたいといふ願ひは心の底から湧き起るのだが。

予の強い志もそれより強い罪の爲めに挫かれる。

丁度二重の仕事に縛られてゐる者のやうに、

どつちを先にしようかと、手を拱ぬいて突立つて、

両方ともせず居るのだ。どうだらう、この呪はれた手

が、

手の厚みよりらもつと厚く兄の血潮で塗られてゐたら、

麗はしい天の雨を傾け盡しても

これを洗うて雪と白くすることは出来ぬであらうか？

慈悲の役目も何にならう、

罪に當面して之を挫ぐ外はあるまい。

祈りのうちにある功力は何だ？ 墮落に先だち、

未然に我々を導くか、乃至一旦之に陥つたとき、その赦

免を與へるか。

この二つの他にあらう筈はない。この上は天に仰ぎ求め

るより外ない。

わが罪は既に過去のものだ。……併し、おゝ、どういふ

形式の祈りが、

予がこの場合に役立ち得るのか？ 「わが極悪の毒害を

許させ給へ」と言はうか？

これでよからう筈はない。現に予は、

殺害して獲得したものをやはり占有してゐる、

わが王冠、わが野心の實現、そして又わが王妃、

罪の利得だけは保留して置いて、罪だけ許されることか

出来得ようか？

この世の腐敗した出来事の中には、

罪ある者も黄金の手をさしのべて、正義を押しつけるこ

ともあり、

奸悪で得た財貨を以て、國法を買収することさへしばし

は見受ける。併し天上の法廷ではさうはいかぬ。

かしこには何等黑白混淆なく、行つたことは

ありのままの姿で横はつてゐるので、我々は餘儀なく、

罪科の面皮をさらして、

證據を提せねばならぬ。ではどうしようか？ 残ると

ころは何か？

出来るだけ懺悔を試みることにしよう。懺悔はいかな

る罪をも赦すであらうか？

併し人が懺悔し得ない時に、懺悔に何のかひがあらう？

おゝ、淺ましいことだ！ おゝ、黄泉の闇にも似たこの

胸！

おゝ、鳥籠に引かゝつた魂、自由にならうともがけばも

かくほど。

よけいに絡まる！ 助けて下さい、天の御使！ ともかく
試みさせて貰はう！

跪け、頑固な膝！ 鋼鐵の筋のはひつた心臓よ、
生れたまゝの嬰兒の肉の如く軟かくなりなれ！
そしたら萬事よくなるかも知れない。

退いて跪く。

ハムレット登場。

ハムレット 今こそ好機、丁度祈りの最中だ。

さ、ばつさりやるぞ。……すれば彼は天に行く、
そして予は復讐を遂げる。これは熟慮を要する所だ。
或る悪漢がわが父を殺す。それに報いて、
その獨り兒なる予が、件の悪漢を

天國に送る。

お、これこそ貨銀を貰つての雇はれ仕事だ、復讐では
ない。

父上彼の爲めに最期を遂げられた時は物欲御胸に滿ち、
あらゆる罪業は五月の花の如く勢ひよく咲き誇つてゐた
に違ひない。

清算に當つて、差引どうであるか、誰が知らう？

併し、我々一般の思想に従つてかれこれ思ひ廻らすと、
父の咎めも、容易なことではなからう。然らば今
この仇が、魂を淨めてゐる最中、
天に昇る準備をしてゐるとき、
彼を襲ふは復讐にならうか？
ならぬ！

もとへ、劍よ、もつと好い機會の到來する時を待て。

彼が亂醉して眠れる時、怒り猛る時、

又は閨房に邪姪を恣にしてゐる時、

賭博に耽るか、悪口雜言するか、

到底救ひの望みなき行爲のまつ最中、

彼を蹴落さば、彼の踵は天を蹴り、

魂は暗黒の地獄に落ちて眞黒となり、

そこへと落ち行くであらう。……母上がお待ち兼ねだ。

この醫術はお前の病の日を長びかせるに過ぎないのだ
ぞ。

退場。

王 「起ち上りながら」言葉は天に昇つても、心が地に殘
る。

眞心なき言葉は決して天へは届かぬ。

退場。

第四場 —— 王妃の私室。

王妃とポロニーヤス登場。

ポロニーヤス やがてお見えになりませう。しつかりとお聞き糺しなされませ。

お氣儘もあまりに過ぎれば堪忍ならぬとかう仰しやります、

それから、王妃様が、蔭になり日向になり、非常なお腹

立ちの玉様の間にお立ちになつてゐる事を委しく、

お話しなされませ。私は丁度こゝに隠れませう。

どうぞ十分におやり遊ばしませ。

ハムレット (内にて) 母上、母上、母上！

王妃 大丈夫だよ、

氣遣ひなされるな。あちらへ。もの音が聞える。

ポロニーヤス、垂帳のかげに隠れる。

ハムレット登場。

ハムレット 母上、何御用でござりますか？

王妃 ハムレット、そなたは父上に對し、ひどい無禮をい

たしましたな。

ハムレット 母上、あなたは私の父上に對し、ひどい無禮をいたされましたな。

王妃 これ、これ、そなたは返辭をするに、わけもない口を利きなさる。

ハムレット それ、それ、あなたは道にそれた諷ね方をなされる。

王妃 これはまあ、どうしたといふのだえ、ハムレット！
ハムレット どうしたといふのです？

王妃 そなたは私を忘れたのかえ？

ハムレット いえ、十字架にかけて、忘れませぬ。

あなたは御姫です、あなたの良人の弟の御姫です。

そして——さうでなければいゝのだが——あなたは私の母上です。

王妃 何ですと、それなら、私はそなたと話しの出来る者に渡しますぞ。

ハムレット これ、これ、まあ坐つておいでなされ。動いてはなりません。

起たずに、私の置く鏡を御覽なさい、
そのなかに、あなたの心の底の底まで視えませうぞ。

王妃 何をしやる？ 私を殺さうとするのではないか。

誰か来て助けて、助けて！

ポロニヤス 「垂帳のかけから」やあ、誰か、助けい、

助けい、助けい！

ハムレット 「劍を抜きながら」何ッ？ 鼠か？ くだばり

をれ、きつとくたばりをれ！

垂帳越しに、劍を突込む。

ポロニヤス 「垂帳のかけから」おゝ、やられた！

倒れて息絶ゆ。

王妃 おゝ怖ろし、何をしやつたか？

ハムレット いや、わたしは知らぬ。

今のは王ですか？

王妃 おゝ、何といふ性急な、むごたらしい行爲！

ハムレット 何、むごたらしい行爲と！ 母上、王を殺害

して、

その弟と結婚するのに比べたら、大方似たりよつたりで

せう。

王妃 何、王を殺害して？

ハムレット さうです、さう申しました。

垂帳をかゝげて見るとポロニヤスである。

淺間しい、輕はずみな、出すぎた馬鹿物、さらばだ！

おれはお前の目上の者かと思つた。われと刈取る運命

だ！

おせつかいに過ぎると、危い事が解つたやらう。「王妃

に向ひて」御手を振り絞るのをおやめなさい。靜に！

お掛けなさい。

私はあなたの心臓をふり絞つて見せませう。屹度さうし

ます、

その心臓がさし通せる材料で出来てさへをれば。

呪はしい習慣で、

無感情となつて居つたらいざ知らず。

王妃 私が何をしたといふので、そなたは舌をつべこべ

動かし、

私に刃向つてそんな粗暴な口を利くのだけえ？

ハムレット 何をしたとは母上、

あなたの所行は、

麗はしい羞恥の心を曇らし、

徳を偽善と呼び、無垢な戀の美しい顔から

薔薇の花を奪ひ取つて、

そこに水腫を置き代へ、婚姻の誓約をも

博奕者の誓言と一つにさする御所行なのです。

おゝ、あなたの行爲は夫婦の聖約の本體から

その魂を抜き取り、尊い宗教をも

言葉ばかりの法螺祭文にするのです。天の顔もこれを見

て赤くなり、

この堅い大地も、

悲しげに面を顰めて、世界の最後の日も追つたかと、

その行爲を見て、思ひ悩むほどの御所行なのです。

王妃 あゝ、その所行とは一體どんなのかえ？

あたまから、そんな大聲でわめきたて、怒鳴り散すとは。

は。

ハムレット 御覽なさい、この繪姿と、それからこれを、

これは二人の兄弟の肖像です。

どうです、この眉の上にやどつてゐる何といふ氣高さ。

日輪神の捲髪、ジヨウウ大神そのまゝの高額、

眼光は軍神の如く、三軍を叱咤し、威服すべく、

姿は使神が、天に口づけする高峰に、

今し下り立たせられたやう。

げにこれ美の大なる集り、人間の鑑と、

神々悉く極印を捺されたかと思はれます。

これこそあなたの前の御良人でした。さて、次なるは何でせうか？

これがあなたの今の御良人です。麥の黒穗のやうに、

健かな兄の穂を枯らしてしまふ。あなたに眼がありますか？

か？

あらば、どうしてこの美しい高峰で草食んだ身が、

こんな泥沼に下りて食を求めようとなされたのです？

これでもあなたには眼がありますか？

戀とは言はせません。あなたのお年輩になれば、

意馬心猿の狂ひは静まり、穩かに

事々の分別があつて然るべきに、いかなれば

これからこれへと移られたのです？ たしかに、感覺は

お持ちだつたに違ひない。

さもなければ情慾の發動のあらう筈はない。しかし屹度

その感覺が、

癡痺してゐたのです。いかに狂つた感覺でも、かう間違

ふ筈はなく、

放心した感覺でも、

これほどの相違をえりわけけるだけの能力を

残さぬといふ筈はない。いかなる悪魔が魅入つて、

かくもあなたを**あざむき**、眼かくししてしまつたのか？

兩眼あらば感情はなくとも感情あらば視力はなくとも、耳あらば手又眼はなくとも鼻さへあらば何はなくとも、

又は狂つた感覺のたゞ一つさへあるなら、

かうまで惚けはすまいに。

おう羞恥心よ！ 汝の赤面はどこにある？ 反抗しがちな情慾地獄よ、

若し汝が兒まである婦人の骨にさへ、裏切りの欲念を咬り得るものなら、

燃えたつ青年男女に取つては、道德も蠟と同様、

情火の中に消えてしまふも道理だ。もはや恥ぢしめる要もない、

情熱の衝動に驅られよば、

霜のやうに冷たかるべき者も烈しく燃えたち、

理性が欲念の仲介者になるほどであるから。

王妃 おう、ハムレット、もう止めておくれ。

そなたは私の眼をこの魂に向け、

そこに到底抜けさうもない

黒く浸込んだ汚點を見せました。

ハムレット いや、それどころではない、脂ぎつた汗くさ

い寢床の中に寝たり、

腐れのなかに蒸込まれて、

あの汚穢しい豚といちやつき合ふとは——

王妃 おう、もう何も言うておくれでない。

その言葉は短劍のやうにこの耳を貫きます。

もう止めて、ハムレット！

ハムレット 殺人者でもあり、悪黨でもあり、

あなたの先きの良人の百分の一にも

當らぬ下司下郎、王とはいへど暫間、

國土と王權の巾着切り、

棚から高貴な王冠を盗み取り、

これをかくしにくすねをつた！

王妃 もうやめて！

ハムレット だんだら衣裳の道化王——

亡靈登場。

おう天の守護の天使、御翼をひろげて、

わが上を覆はせ給へ！ 尊き御姿は何を求め給ふのか？

王妃 あう、心が狂うたか！

ハムレット あなたの怠慢なる不肖の兒をお責めになるためお現はれなされましたか？

たゞ情にのみ激して、空しく時を過し、
御嚴命の大事を遷延し居りまする。

おゝ、お話し下され!

亡靈 忘れてはならぬぞ、今宵の出現は、

そなたの鈍つた決心に磨きをかけんが爲めに外ならぬ。
しかしあれを見よ、驚きのあまり怖れ惑うてゐるそなた

の母のさまを。

おゝ、行つて母と悶えてゐる魂の間に入つてやれ、

か弱い者ほど殊更強く悶え苦しむものだ。

母を慰めてやれ、ハムレット。

ハムレット 母上、どうなされましたか?

王妃 あゝあ、そなたこそどうしたのだえ?

何もない空を見詰めて、

形のない空氣と何を語つてゐるのかえ。

その眼には魂か物狂はしげにのぞき出て居る。

その垂れ休むべき髪は、眠れる兵士が不意の喇叭に襲は

れたやうに、

生なきものも生命あつてか、

起き上つて、逆立ちしてゐる。おゝ、いとしい我が兒よ、

そなたの怒りの熱と炎の上に、

冷たい忍耐を注いでおくれ。どこをそなたは視てゐるの
だえ。

ハムレット あれを、あれを御覽なさい、蒼白い顔をして、

腕めつけてをられます!

あのお姿とあのお怨みとが合されば、石に説法しても、

これを有情のものとしませう。……私を視ないで下さい。

そのやうないぢらしいお振舞をなされますと、私の堅い

決心も

鈍つてしまひます。すれば、私のせねばならぬ事も、

まことの色を失ひ、恐らく血の代りに、涙を流すやうに

なりませう。

王妃 それは、誰に話してゐるのかえ?

ハムレット あそこに、あなたには何も見えませんか?

王妃 なんにも見えぬ、あるものは皆はつきり見えるけ

れど。

ハムレット それから何もお聴きになりませんでしたか?

王妃 いえ、二人の言葉以外、何も。

ハムレット はて、あそこを御覽なさい! そら、忍び足

に去つて行く!

私の父上、ありし日そのまゝの御装束で!

そら、行かれます、丁度今、扉の外へ！

亡霊退場。

王妃 これはそなたの脳のこしらへたものだよ。

こんな形のない物を造りだすのは、

心の亂れた折に巧みなものだから。

ハムレット 心が亂れてゐますつて！

私の脈は、あなたと同様、やすらかに搏ち、

健やかな樂を奏でゝ居ります。お試しなすつて御覽なさい。

い。

私が述べましたことの狂つてない證據は、

私は少しも違はず繰返してお見せします。狂氣なら、

讀み脱します。母上、後世を願はるゝお心があらば、

あなたの魂に都合のよい塗劑をして、

あなたの犯した罪ではない、私の亂心が言はせたのだと

誤魔化してはなりませんぞ。

さういふことをすれば、膿み爛れたところに薄皮をはら

せこそすれ、

内部に喰込む怖ろしい腐れは、

眼には見えねど、擴がります。神様に懺悔をなさいまし。

過去を悔い未來を慎しみ、

雜草の上に肥料を撒きかける如く、

照臭を一層募らせてはなりません。我が善徳よ、かく言

ふを許せよ、

今のやうな餽食奢侈のふくれ上つた世には、

善徳も惡に許しを乞ふ、

否腰を低うし頭を下げて善をすることの許可を求めねば

ならぬ。(二説以上)

王妃 おゝ、ハムレット、そなたは私の胸を眞つ二つにし

てしまひました。

ハムレット おゝ、その片々の悪い方を投げ棄てゝ、

他の善い方で潔い餘生を送つて下さい。

お寢みあれ。が叔父上の寢所へはおいでなさいませぬ。

操はあらずとも、一つ／＼これを積む修業をなさい。

習慣は、すべての感じを喰ひつくす惡魔ですが、

時には天使のやうな點もあるのは、

美しいよい行爲を爲習へば、

これにも同じやうに四季施をくれて、

着てゐればだん／＼身についてくるものです。今夜はお

慎みなされ、

さすれば、次の夜は容易くなり、

その次の夜は一層容易たやすくなります。

習慣なづは殆ど本性をも變へ、

不思議な力を以て、その悪魔を征伏するか、

さなくば追放することが出来るからです。では改めてお

寝ねみなさい。

祝福をお祈りなさるお心が起りました節は、

私も祝福を祈り添へませう。……この老人は、

と、ポロニーヤスを指し、

不感ふかんなことをした。しかしこれとても天の思召おぼしめ、

これを以て予を罰し予を以てこれを罰し、

予が天に代つてその咎とがともならねばならなかつたのだ。

死骸を片づけ、予が彼に與へた死については、

十分に責を擔おふとしよう。……では、重ねて、お寝ねみな

さい。「傍を向いて」

から残酷にしないでならぬのも爲めを思ふばかり、

不吉に事は初まつたが、更に大きい不吉が後に残つてゐ

る。母上、今一言ひとこと。

王妃 何をせよといふのかえ？

ハムレット 私がなさいと申した事は一切棄て、御自由に

なさいまし。

あの雷ぶくれの王から寢床へ誘惑さるゝまゝになるがよろしいのです。

ろしいのです。

頬をつねてられたり、「わしの小鼠」など呼ばれたり、

それから脂臭い口づけの一つ二つ、

又は汚ならしい手で頸を抱きしめられたりして、

何もかも、問ふに任せて、お打ち明けなさいまし。

あれは本當の亂心でなく、

ほんの計略の氣狂だと、かう言つておしまひなかつたが

いゝでせう。

つゝましく、正しくかしくもある王妃さまならいざ知

らず、

誰が蟾蜍ひきかへるや、蝙蝠かうもりや、雄猫オネコのやうな奴に、

こんな大事を隠しおほせませう？ 誰が出来るもんです

か？

いやいや、秘密も道理も要のないこと、

あの寓話ばなしのやうに家根棟ねむで籠かごをぶち開け、

小鳥を飛ばせてしまふがよい、そして猿は、

試しに、その籠かごに這はひ込んで、

自分の頸骨けいこつをうち折ることになるのです。

王妃 安心しておくれ、若し言葉は呼吸いきで出来、

呼吸は生命で出来てゐるものなら、私はそなたの言つたことを打ち明ける。

呼吸も生命もたないよ。

ハムレット 私はイギリスへ行かねばなりません。御存知ですか？

王妃 あゝ、忘れてしまつてゐた。さういふ事になつてゐたつね。

ハムレット 國書は既に封印せられ、私の二人の學友、

齒のある毒蛇とも私の思つてゐるあの二人が、

命令を受けてゐる。彼等が行手の露拂ひとなり、

私を魔道へ案内するのです。何でもやるがいよ。

自分がしかけた地雷火で、

自分が打上げられるのを見るのも一興。あいつらの地雷

火より、

一尺下を掘り穿ち、月を目がけてぶつ飛ばさなかつたら、

それこそ事だよ。おゝ、何といふ愉快、

一つの線に二つの計略が、眞正面に衝突するわ。「と言ひ

つゝボローニヤスの死骸を見て」

この男が私に忙しい思ひをさせる。

どれ、この臟腑を次の部屋へ引きずつて行かう。

母上、お寝みなされ。……成程この顧問官も、今では全く靜肅、祕密を洩らしもせねば、生眞面目でもある。

生前多辯な愚か物であつたが。……

さ、お前の始末もつけてやらう。……

お寝みなさい、母上。

別々に退場。ハムレットはボローニヤスを曳き摺つてゆく。

第四幕

第一場 — 城内の一室。

王、王妃、ローゼンクランツ、ギルデンスターン登場。

王 その嘆息、その深い胸の波立ちには、何か容易ならぬものがある。

御身はそれを語らねばならぬ。是非それを知つて置かねばならぬと思ふ。

王子はどこにゐるかな？

王妃 しばらくこの場を私共二人のものに……。

ローゼンクランツ、ギルデンスターン退場。

あゝ、我が君様、私は今夜といふ今夜、怖ろしい目を見ました！

王 や、ハムレットがどうかしたのか？

王妃 全くの狂亂、海と風とが

闘ふ時ほど。その狂氣のあまり、

垂帳のかけに何か動くのを聞きつけ、細身の劍を抜き、「鼠、鼠！」と叫んで、亂心の見さかひなく、隠れてゐた

あの善良な老人を殺害いたしました。

王 おゝ、罪深き所行！

我等若しそこにあらば、同じ目に遭つたであらう。

彼を手放し置くのは、何人に取つても危険この上ない、御身の上にも、我等が上にも何人の上にも。

あゝ、この殘忍な行爲を何と國民に辯疏したのか？我等に責任がかゝるであらう、我等あらかじめ

この狂氣の若者を押へ、拘へ、人交らひさすまじきであつたと。たゞ我等の愛のあまり

に厚かつたがため、なすべきことをもしなかつたのだ。

しかし、悪疾を持つ人のやうに、

秘し隠さうとするため、却つてこれを募らせて、遂には生命の髓にまで及ぶのだ。そして彼はどこへ行つ

たかな？

王妃 殺した死體を片付けに行きました。

それを見ては、狂氣とは言ひながら、

つまらぬ鑛脈の中にも金の鑛のあるやうに、
正氣なところもあるらしく、犯した罪を悔い歎いて居
ました。

王 おゝ、ガーツルード、さ、あちらへ！

太陽が山の端に登らぬうちに、

彼を船出させねばならぬ。又この兇行に就いては、

我等の尊嚴と手腕のかぎりを盡し、

何とか巧みに言ひ繕はねばならぬ。……おゝ、ギルデ
ン

スターン！

ローゼンクランツ、ギルデンスターン再び登場。

兩人行いて二三の助勢を借りてくれ。

ハムレット 狂亂して、ポロニーヤスを殺害し、

死體を妃の居間からひきずつて行つた。

彼を探し出してなだめすかし、その死體を、

教會堂に運んでくれ。どうか急いで。

ローゼンクランツ、ギルデンスターン退場。

さあ、ガーツルード、思慮ある役人共を召集し、

この珍事と共に我等の爲さうとすることを、

彼等に語らう。さすれば恐らく世の誹謗は、

世界の涯からはてまで、

大砲的の中心めがけて一直線に、

その毒彈を發射する如きものも、我等の名を狙ひそこね、

傷つけ難い空氣でも撃たう。おゝ、あちらへ！

私の心は不安と驚きとで一杯だ。

二人退場。

第二場 — 城内の他の一室。

ハムレット登場。

ハムレット 無事に片つけた。

ローゼンクランツ

ギルデンスターン

〔奥で〕ハムレットさま！我が君！

ハムレットさま！

ハムレット シー 何んの物音だ？誰が呼んでゐるの

か？おゝ、やつて來をる。

ローゼンクランツ、ギルデンスターン登場。

ローゼクランツ 我が君、死體をどう遊ばされました？

ハムレット 土と交せて置いた、そのの親類だから。

ローゼクランツ どこですかお教へ下さい。そこから、

教會堂へ運んで行きますから。

ハムレット あてにしてはならんよ。

ローゼクランツ 何をあてにするのですか？

ハムレット 予は、君がたの祕密は守れるが、自分のは守れぬと思ふ事をさ。その上、海綿から質問を強要せられるなんて！ 王子ともあらうものが、どんな答辯が出来ると思ふか。

ローゼクランツ では私を海綿だと仰せられるのでござりまするか？

ハムレット さうさ、王の寵愛や、恩賞や、要職などを吸ひ込んでしまふから。かういふ役人が結局、王に最上の奉公を捧げる奴さ、王は彼等を猿のやうに腮の隅つこに蓄へ置いて、先に口に入れた奴を最後に呑み込まうといふのだ。君がたの吸ひ蓄めたものを王が欲しいと思ふと、一搾りしほりさへすればよい。すると、海綿の君がたは、またもとの干からびになるのさ。

ローゼクランツ 私には了解しかねます。

ハムレット それで結構、悪口も頓馬の耳には眠るものだ。ローゼクランツ 我が君、その死體がどこにあるか、お教へ下さい。そして御一緒に王様のところへ、参らねばなりません。

ハムレット 死體は王と一緒にだが、王は死體と一緒にはない。一體王といふものは……。

ギルデンスターン ものと仰しやいますと？

ハムレット なんでもないものさ。さ、連れて行つた。狐を隠して、みんなで探せ。

一同退場。

第三場 —— 城内の他の一室。

王、侍臣を伴うて登場。

王 彼を尋ね、又死體を探しよう、人を遣はし置いた。

かやうな男を打棄て置くのは、危険この上ない、

とは言へ、彼を厳しい法を以て問ふわけにはいかない。彼はわきまへのない愚民等に愛されてゐる。

愚民などいふものは、判断力を用ゐずに、眼で好き嫌ひをきめるものだ。

それだから、彼等は犯人の罰の重い時は憫れむ方が先きに立つて、

罪そのものを一向に構はない風がある。萬事を圓滑に、又平靜に運ぶため、

突然彼を外遊せしめるのも、長く思慮し、躊躇したやう

に觀せねばならぬ。絶望となつた疾患は、

絶望的な療法を用ゐねばならぬ。

さなくば萬事休すだ。

ローゼンクランツ登場。

どうぢや！ どんな様子だつたか？

ローゼンクランツ 死體はどこに置かれましたか、

お答へを承りかねます。

王 して彼はどこに？

ローゼンクランツ 室外に、警護いたし、御意を相待ち

居ります。

王 我等の前へ伴ひまゐれ。

ローゼンクランツ おゝ、ギルデンスターン！ 王子を

お連れ申せ。

ハムレット及びギルデンスターン登場。

王 さてハムレット、ポロニーヤはどこにゐる？

ハムレット 夕食中です。

王 夕食中！ どこでか？

ハムレット 自分が食つてゐるのでなく、食はれてゐる所

で、政治家氣取りの蛆蟲（むし）が寄り集まつて、今宴會を開

いてゐます。あの蛆蟲といふ奴は宴席の帝王です。我

我は我々を肥らせるために、我々以外の生物（せいぶつ）を肥らせ

る。そして我々は蛆蟲のために我々を肥らせる。肥え

た王も、瘦せた乞食も、結局は目先きの變つた料理、

同じ食卓へ出す二つの皿、それでおしまひです。

王 あゝ、あゝ。

ハムレット 人間は王を喰つた蛆蟲で魚を釣り、その蛆蟲

を養分にした魚を食ふこともあり得るのです。

王 それはどういふ意味か？

ハムレット 何でもなし、王でも、乞食の胃の腑を通つて

巡幸することがあるといふのを、お知らせするだけで

す。

王 ポロニーヤはどこにゐる？

ハムレット 天國に、人を遣つて見させて御覽なさい。若

し使が見つけなかつたなら、御自身でも他の一ヶ所

（地獄を）を探しなさい。だが若し、月の内に見つから

なかつたら、ふんと來ませうぜ、表廣間への階段を昇

つて行くと。

王 「二三の侍臣に向つて」あそこを探して來い。

ハムレット 待つてゐるよ、お前達の行くまでは。

侍臣等退場。

王 ハムレット、そなたのこの度の所行につき、我等切に

これを悲しむと共に、

そなた一身の安寧を圖るため、頗る考慮する所あり、

火急にこの國より、

そなたを送り出さねばならない。出發の用意をするがい

い。

船の支度は出來、風の向きはよし、

隨行者は揃ひ、萬端の準備は、

イギリスを指して居る。

ハムレット イギリスへですか？

王 さうだ、ハムレット。

ハムレット よろしい。

王 さう言ふべきである。我等の志すところを、そなた

が知つてくれたなら。

ハムレット どういふ志だか、天使は見通しの筈だ。……

さ、イギリスへ！ さらば親しき母上。

王 そなたの愛する父にも、ハムレット。

ハムレット 母上にだ、父と母とは夫婦、夫と妻とは同心

一體、されば私の母上、さらばです。さ、イギリスへ！

退場。

王 すぐ跡をつけ、彼を誘うて、急ぎ乗船させて貰ひた

い。

遷延してはならん。今夜のうちに彼を送り出したいの

から。

行け！ これにかゝはるすべての事は封印し又調製せら

れてある。どうぞ、急いでくれ。……

ローゼンクランツ、ギルデンスターン退場。

〔獨白のやうに〕そこで、イギリス王、若し御身が予の好

意を若干尊重するならば――

わが大いなる威力は、それ位の感じを與へると思ふのだ

が、

そのかみデンマークの劔から受けた御身の傷は、

まだ生々しく赤い筈、そして御身は自ら進んで畏敬し、

我等に貢を納めたのであるから――よもや我等の嚴命を

冷やかに扱ふこともあるまい。その命令には、

委細認めてある如く、

ハムレットを即座に殺せとの意味を十分傳へてある。やつ

てくれ、イギリス王。

彼はわが血液の中を荒れ狂ふ惡熱のやうなものだから、

御身の治療を待つの外はない。いよ／＼やつたといふ報知を聞かぬうちには、

どんな幸運が湧いて来ようとも、わが悦びは始まらない。

退場。

第四場 —— デンマークの平野。

フォーチンブラス、一隊長、兵士等進軍しつゝ登場。

フォーチンブラス　隊長、行つて、デンマーク王に挨拶

の言葉を傳へ、

かねての御契約によりフォーチンブラスは、

御許し通り御領内を進軍致すと、

かう申してまゐれ。會合の地は承知して居らう。

萬一、何か我等に御用もあらば、

親しく拜謁するから、

その事も申上げてくれ。

隊長　かしこまりました。

フォーチンブラス　ゆる／＼進んでくれよ。

フォーチンブラス及び兵士等退場。

ハムレット、ローゼンクランツ　ギルデンスターン、

その他登場。

ハムレット　これはどこの軍隊かな？

隊長　ノオルウェイ軍でございます。

ハムレット　どういふ目的なのか、聞かせられい。

隊長　ポーランドの一部を攻撃のためです。

ハムレット　指揮官は？

隊長　老ノオルウェイ王の甥御フォーチンブラスどの。

ハムレット　ポーランド全部を攻撃するのか、

それともその邊境をか？

隊長　實のところ、掛値なしに申しますと、

私共の獲ようとはしますのは、ほんの補綴布ほどの土地、

名ばかりで何の利益もないのです。

たつた五兩の借地金を拂うてども借りたくはない土地で

す。

又それを賣り拂つても、ノオルウェイの手にだつて、ポー

ランドの手にだつて、

それ以上の金額は入りますまい。

ハムレット　すると、ポーランド人だつて防戦しようとは

すまい。

隊長　ところが、もはや守備が出来てゐるのです。

ハムレット 二千の生靈と二萬兩の軍費とを以てして、

この薬くづほどの問題を解決し得ない。

これこそ過大な富と平和の作つた膿瘍、

内部が腐爛しても、外面にはなぜその人が死ぬのか、

少しも原因を示さぬ奴ぢや。……これは、まことに有難う。

隊長 御機嫌よろしう。

退場。

ローゼンクランツ お出かけになりませんか？

ハムレット すぐに一緒になる。一足先へ。

ハムレットの外皆々退場。

何とすべての出来事が予を面責し、

予の鈍つた復讐心に拍車を加へる事よ！ 何が人間だ、

若し彼の時を支配する一生の大事が、

眠つて食ふだけの外になかつたら？ 単に獸類だ。

必ずかの我々を造つて、これに推理力を與へ、

前を見、後ろを顧みさせた造物主は、

この能力、この神にも似た理性をば、用ゐずに錆びさせ

よとて、

これを賜うたのではない。一體おれは、獸みたいに忘れ

やすいのか、

それとも、事をあまり精密に考へる事から起る

狐疑逡巡とでもいふべきものか。

わが心を四分すれば、智慧はほんの一部で、

あとの三分は卑怯に過ぎない考へ方のためか、何かは知らぬが、

おれは未だ「この事は爲すべきである」とのみ言ひ暮してゐる、

おれは實行するだけの理由も、體力も、方法もあるのに、
實例といへば、大地ほどにも大きなものが、おれを説き

勧めてゐるではないか。

見よ、この人數と軍費を備へた軍隊、

これを引率する瀟灑優雅な一貴公子、

その精神は神々しい功名心に満ち、

眼に見えぬ結果に向つて突進し、

脆弱な無常不測の一身を曝らして、

運命も、死も、危険も、敢てものともせず、

しかも目指すは卵の殻ほどのもの。まさしく偉いといふ

人は、

偉い理由がなくば動かないといふのではなくて、

名譽かほの關るところ、要ほどのものにも、

争ひ鬭はなければならぬのだ。では、おれの立場はど

うか？

父は殺され、母は汚けがされ、

わが理性、わが情熱を、奮起せしめるに十分だが、

しかもそれをすべて眠らせてゐる。之に反して、あゝ恥

かしい事だ、余の眼前には、

二萬の將卒の死が、差迫つてゐるのだ。

彼等は名といふな女め、氣まぐれのために、

墓に行くこと寢所に急ぐが如く、一小土を争うて戦ふの

だが、

あれだけの人数では、その地上に立つて勝敗を決める事

も出来まいし、

死者を隠すだけの墓にも

足りないほどの土地だ。おゝ、今日以後、

わが思ひはたゞ残忍なれ、さなくば何の價値ねいちもないぞ！

退場。

第五場 —— エルシノーア城内の一室。

王妃、ホレイシヨ及び一人の紳士登場。

王妃 私逢ひますまい。

紳士 しきりにお目に懸りたがつて居ります。實際正氣

を失うて居ります。

その様子は、見るも氣の毒なほどであります。

王妃 何を願うてゐるのだね？

紳士 申すことの多くは彼女の父の事でござります。こ

の世には變なことが行はれるとも聞いたともいひ、そ

して言葉をつまらせ、胸を叩き、

忌々しげに翼を蹴ちらしたり、又意味の分らぬ事を、何

かと喋しゃべりますが、

半分だけは理に應こたつてをります。言ふことそのことは何

でもなくとも、

たは、いもないその言葉付が、却つて、

聴く人の心を動かし、何かと意味を掻き集めさせます。

みんなてんで、にこれを臆測おそし、

言葉を續ぎ合せて銘々勝手手の考へに合せますが、

目くばせしたり、首肯うなづいたり、手眞似をしたりするとこ

ろから推して、

決して確かではありませんが何か非常に不幸なことで

あるのではないかと、
いろ／＼考へさせるのでございます。

ホレイシヨ お逢ひなされたがよろしいかと存じます。

不心得な者に、

危険な推測を蒔き散らすやも計られませぬから、

王妃 こゝへ通して下され。

紳士退場。(普通ホレイシヨ)
(訂正にしたがふ)

〔傍白〕罪ある者のならひ、私の疵もつ心に取つては、

僅かのつまらないものでも、何か大きな凶事の序曲に見

える。

罪といふものは、拙ない疑惑にから迄一杯になるものか。

現はるゝを氣づかひて、却つて現はるゝもの。

紳士、オフィリヤを伴うて再び登場。

オフィリヤ デンマークの麗はしいお妃さまはどこに？

王妃 どうしたの、オフィリヤ！

オフィリヤ 〔歌ふ〕

どしたらわかれろ、眞實の愛人と、

そでない人と？

貝殻帽子に杖わらぢ、

順禮すがた。

王妃 あゝ、オフィリヤ、その歌の意味は……。
オフィリヤ 何ですつて？ まあ、どうぞ、お聞き下さい。

〔歌ふ〕聞いてよ、あの方、もう死なしやれた、

もう逝かしやれた。

おつむは青き八重もぐら、

足にや冷やり墓の石。

おう、ほう！

王妃 ねえ、だけど、オフィリヤ、――

オフィリヤ まあ、お聞き下さい。

〔歌ふ〕深山の雪とましろな墓衣――

王登場。

王妃 あゝ、あれを御覽遊ばせ。

オフィリヤ 〔歌ふ〕

綺麗な花で飾られて、

戀の涙にぬれそぼち、

墓へと行つてしまはれた。

王 どうだな、オフィリヤ？

オフィリヤ 有難うございます。丈夫です。人の話に鼻は

パン屋の娘だつたのですつて。ほんたうに、今のこの

身は分つてゐますが、先々どうなることか、分つたも

のではありません。あなたの食卓にも神様の御惠のありますよう！

王 父の事を考へてゐるな。

オフィリヤ もう何にも言はないことにいたしませう。けれどこれはどういふ事かと、人様がお聞きになりましたら、かう言つて下さい——

〔歌ふ〕 あすはバランタインさまの日、

夜の引き明けにまつさきに、
わたしや生娘、お窓にそうて、
さまのいゝ人になりませう。
さまは目覺めて衣服をつけて、
窓の戸ぼそをつとあけた。
入ればうぶの娘のまゝで、
出るは一人もないさうな。

王 これはオフィリヤ！

オフィリヤ まあね、誓言なしに、わたし終末をつけますわ。

〔歌ふ〕 神様かけて、お慈悲にかけて、

あゝあ、ほんとに恥かしい！
若い男は、折さへあれば、

いたづら事する罪な者。

轉がす前には女房にすると、

約束したにと女がいへば。

男が答へ、

日輪様かけて、その氣でゐたが、

一晚寝たらいやになつた。

王 こんな風になつてどれほどになるね？

オフィリヤ どうか、何もかもよいやうになりますよう。人は辛抱が大事だほどに。けれどもわたし、泣かずにはゐられません。みんなで、冷たい土の中に、あの方を寝かせたのだと思ふと。兄がきつと知りませう。ほんとに御意見を有難う。さ、私の馬車を！ 皆様、さやうなら、皆様、さやうなら、さやうなら。

退場。

王 すぐ跡をつけて、よく氣をつけて、やつてくれ。

ホレイシヨ退場。

おゝ、これこそ深い悲みの中毒だ。これ皆、

彼女の父の死から湧きでる。おゝガーツルード、ガーツ

ルード、

悲痛事の來る時には、單なる斥候兵ではやつて來ず、

全軍すぐつて攻めかける。第一、彼女の父の最期、

次に、そなたの子が海外へのさすらひ、しかもこれは自

分自身そのさすらひを、

招いたことだから仕方がない。人民らはその思ふところ、

嘆くところ、

愚鈍で且つ不健全な者であるが、善良なポロニーヤスの

死のために、

泥沼をかきませたやうに騒いでゐる。これは我等思慮足

らず彼を埋葬するに當り、

内密にやつてのけたのが悪かつたのだ。可哀さうなオフ

リヤは悲しみに、

分別を失つてしまつた、

分別なくば我々は繪姿ぢや、單なる獸類だ。

最後に、とりわけて重大な事は、

彼女の兄が祝かにフランスから立ち還つたことだ。

彼はこのたびの事變に思ひ悩んでゐると、

いつの世にも事かゝぬ饒舌のやからは彼の耳を毒する

に、

父の死に關する邪惡な様々のことを以てしをる。

その言葉のうちには、勢ひ實情に晦い爲め、

我等が一身を咎め立てし、

彼の耳から耳へと注ぎ込むらしい。

おゝガーツルード、これこそ譬へば、爆彈砲の如く、所

所に破裂して、

危ない側杖を喰はせるものだ。

内に騒がしい物音がする。

王妃 あつ、あの物音は？

王 スイスの護衛兵はどこに居る？ 戸口を堅めさせ

い。

他の一紳士登場。

何事だ？

紳士 國王には御用心肝要でござります。

海がその境を越えて平野に浸入し來るとも、

かくまで勢たけく荒びはすまじと思はるゝばかり、

若きレイヤーチーズは、暴徒の一軍を引率し、

御旗の下の軍勢を壓倒致します。愚民共は彼を王と呼び、

世界がたつた今初まつたかの如く、

あらゆる言葉の批准者たる古式は忘れられ、

その支柱たる習慣を知るものなく、

彼等はたゞ叫びます、「我々はレイヤーチーズを王に推

擧するのだ」と。

そして帽を投げ上げ、手を拍き、舌の限りにわめいてゐます、

雲にも響けとばかり、

「レイヤーチーズを王にするのだ、レイヤーチーズが王だ」と。

王妃 まあ何てもの／＼しく、間違つた道を嗅いで吠ゆることぞ！

お、この見當違ひな不忠不義のデンマークの獵犬ども奴！

内に騒がしい物音。

王 戸が壊れた。

レイヤーチーズ武装して登場。デンマーク人等その後につゞく。

レイヤーチーズ 王はどこに居る？……皆の者は一同外面に立つてゐてくれ。

デンマーク人等 いや、我々も入れる。

レイヤーチーズ どうか、こゝは私に任して下さい。

デンマーク人等 承知しました、承知しました。

彼等は戸外に退く。

レイヤーチーズ 有難う、戸口を守つてゐて呉れ。……

お、この兇悪非道の王、俺の父を返せ！

王妃 まあ落ちついて、レイヤーチーズ。

レイヤーチーズ 落ちつくやうな血の滴が、たどの一滴

でもあらば、俺を私生兒と宣告し、

父に對して妻を盗まれた阿呆と叫び、この

わが眞實の母の純潔無垢な額のまつ只中に、淫婦といふ

烙印を捺すやうなものだ。

王 何が原因だ、レイヤーチーズ、

かく巨人の暴れまはるやうな騒ぎは？……

棄てゝおきなされ、ガーツルード。我等が身を氣遣ふに

及ばぬ。

國王の身邊には神々しさが取り巻いてゐて、

叛逆がもの欲しげに覗ひ覗きはしても、

志を果たすことはできぬ。……な、レイヤーチーズ、

なにとて、かく哮り立つてゐるのか？……

ガーツルード、すてゝ置きなされ。

さ、語つて見るがいゝ。

レイヤーチーズ 父はどこに居るか？

王 殺くなつた。

王妃　しかし王様おかみに罪はないのだよ。

王　まあ、彼に存分言はせるがいよ。

レイヤーチーズ　どうして致なくなつたか？　誤魔化さう

たつて誤魔化されはせんぞ。

忠義は地獄へ行け、君臣の誓約はまつ黒な悪魔にくれてやる！

良心も、信神も、無間の奈落へ落ちツちまへ！

地獄へ墮おちようとなれはびくともしない。

二つの世界現世も一切無いぞ。

未來はどうともなれ。たゞ俺は思ふ存分

父の讐かたを討たねばおかぬぞ。

王　誰かたがそちを留めるか？

レイヤーチーズ　俺の意志以外には、世界中何ものゝ力

でも留めることは出来ないのだ。

俺の力に限りはあつても、それをうまく統たへ使へば、

遠く支へることが出来るぞ。

王　レイヤーチーズよ。

そちは切愛する父の死因について、正確なことを

知りたがつてゐるが、いざ復讐となれば、

無鐵砲な博奕者はくちやうが、勝つても負けても益えきを擡たつてゆきた

がるやうに、

敵も、味方も、一難ひとがらみにするつもりか？

レイヤーチーズ　いや目ざすは敵だけだ。

王　ではその敵を知りたくはないか？

レイヤーチーズ　味方に對しては、この如く兩腕を一文

字にひろげ、

かの生命いのちも惜まぬ親切なペリカン鳥の如く、

わが血を以ても、彼等を養うてやる。(ペリカン鳥は自分の胸をさし血を以て子を育

てるさい)

王　天晴さうあつてこそ、

孝子でもあり眞實まことの紳士でもある。

予がそなたの父の死について罪なく、

寧ろそれを悲しむに於て、最も痛切であることは、

光線が君の眼に入るが如く、眞直ますぐに君の判断力を射ぬい

て、

更に疑を留めぬであらう。

デンマーク人　「奥にて」はらせ、入れせ。

レイヤーチーズ　どうした！　あの物音は？

オフィリヤ再び草花を頭や襟につけて登場。

おゝ熱よ、この脳漿を乾ひからびさせい！　七倍鹽しちばいつばい

涙よ、

この眼の感じも、効能も、焼き盡せい！
天も照覽、そなたの狂氣を秤でかけ、

秤の皿のひつくりかへるまで報はずには置かぬぞ。おゝ

五月の薔薇！

いとしい少女、やさしい妹、麗はしいオフィリヤ！

おゝ神よ！ あり得ることか、うら若い少女の理智が、

老人の生命のやうに、かくも朽ち果つるといふことが？

性は愛によつて微妙になるといふ、その微妙な魂が、

愛するものゝ跡を追うて歸らぬところへあこがれ去つた

か。

オフィリヤ 「歌ふ」

顔も隠さず楯に載せて、

へ、ノン、ノンニ、ノンニ、へ、ノンニ。

墓にや雨ふる、涙の雨が。――

さやうなら、小鳩の君！

レイヤーチーズ よしやそなたが正氣であつて、仇を取つ

てと、

強請んだとて、

これほどおれの心を動かしはすまい。

オフィリヤ かう歌はにやなるまい。

「歌ふ」ダウン、ナ、ナ、ダウン、ナ、

様を呼ぶにはア、ダウン、ナ。

おゝ、折返しがなんてよく似つかふのでせう！ 悪い手

代よ、御主人の娘を盗んだのは。

レイヤーチーズ この謔言が、かへつて正氣の言葉以上

だ。

オフィリヤ さ、迷迭香、(レイヤーチーズに) 記念つてこ

とよ。どうぞ、あなた、覚えてゝね。さ、パンジー、

これは物思ひの花よ。

レイヤーチーズ 狂氣のうちにも教へがある、物を思へ

記念にせよとは、いかにも適切なな。

オフィリヤ あなたには茴香(追従を意味す)とやら、それから

小田巻草(寓意)。あなたには芸香(王妃に、惟)、私にも少し

とつておかう。これね、安息日の斬草とも云ふのよ。あ

ら、あなた、ちよいと違へてその芸香を着けなくては

だめよ。それから雛菊(寓意)もありませう。菫(忠信)を

あげたいけど、みんな洞んでしまひました。父の歿く

なりました時。父も立派な御最期でしたつてね、――

「歌ふ」ロビンは私の好きな方。

レイヤーチーズ 悲み、憂ひ、惱み、地獄の呵責までも、
妹の口にかゝれば心地よい、麗はしいものになる。

オフィリヤ 「歌ふ」

歸りやんせぬか？

歸りやんせぬか？

いえ、いえ、死なれた、

のぞみはつきた、

なんで歸らりよものかいな。

雪のお積に、

麻のお頭、

逝かれた、逝かれた。

歎くもかひな。

神のお慈悲を祈りましょ。

皆様にも神様の御慈悲を祈ります。御機嫌よく！

退場。

レイヤーチーズ おゝ神様！ あなたはあれを御覽です

か？

王 レイヤーチーズ、予にそちの悲しみを分つてはくれ

ぬか。

それは予の権利ぢや。あちらへ行つて、

そちが一番賢明な友達だと思ふ人々を選び、
そちと予の間を審判させて見なさい。

萬が一、直接にでも、はた間接にでもこの手を貸し與へ
て、

予がこの罪に關係ありと決定されるれば、この王國も、

この王冠も、この生命も、又我等のものと呼ぶ一切の財

寶を、

深くそちにとらせよう。しかし、若しさうでなかつたな

ら、

予の言ふ事を心をしづめて聽いて貰はにやならぬ。

さすれば予もそちと力を協せ、

そちの満足のゆくやうに計らはう。

レイヤーチーズ では、さうするといたさう。

父の最期の有様、粗略な葬式——

死骸を飾る何の記念物も、劍もなく、

身分に相當する儀式も行はれず、表立つた華やかな行列

もなかつた——

それは恰も天上から大地への叫びの如く、激しい怨みの

聲を揚げて居るからには、

否が應でも罪をたよさなけりやならぬ。

王 全くさうすべきである。

そして罪のあるところに、大きな斧を打ち下してやれ。さ、一緒に奥へ參れ。

皆々退場。

第六場 —— 城内の他の一室。

ホレイシヨと従者一名登場。

ホレイシヨ 私に會ひたいといふのは何者だな？

従者 水夫でございます。お手紙を持參してゐると申します。

ホレイシヨ 通してよい。

従者退場。

一體世界のどの果てから挨拶を受けることであらう。若しハムレットさまからの消息でないとすると？

水夫等登場。

第一水夫 神様の御祝福を。

ホレイシヨ そなたにも同様に。

第一水夫 有難うございます。貴方へのお手紙がございます。イギリスへ御渡航の特使からです。貴方のお名

がホレイシヨさまと承りましたが、さうでしたら……。

ホレイシヨ 「讀む」『ホレイシヨ君、この狀披見の上はこの輩を王に謁見せしむるの機を與へたまへ。彼等は王への書面を持參せり。我等海に浮ぶこと二日ならざるに、勢ひ猛き海賊の一團、我等を襲ひたり。我等船足あまりに遅きを知り、ありもせぬ勇氣を振つて、接戰中、予は彼等の船に飛び乗りぬ。その利那、我等の船離れ、かくて予は獨り彼等の捕虜となりぬ。彼等の予を遇する、慈悲心ある義賊に似たり。さはれ、彼等も思ふところありて彼等の爲めに相當の報いを予より求むるもの、如し。願はくは、王に予の數通の書狀を獻じ置き、懸命の速力をもて予の許に急行せられんことを。御身の耳に告ぐべき奇聞多々あり、以て御身を啞然たらしむべし。しかも、いかなる言葉も、實際の重且つ大なるに比し、あまりに輕微なり。これらの好漢は予のあるところに御身を導かん。ローゼンクランツとギルデンスターンは、イギリスへのコースを續けり。彼等についても、語るべき事甚だ多し。さらば。

御身の熟知する如く御身のものなる

さあ、その持參の書狀を捧呈する手續きをしよう。
出来るだけ早く事を済まし、書狀の主のところへ、
案内して貰はう。

一同退場。

第七場 — 城内の他の一室。

王とレイヤーチーズ登場。

王 もはや御身の良心が、予の罪無き事を承認した上は、
親友として、予を御身の胸に懐いて貰はなくてはならぬ。
理解ある耳を以て御身の聴く通り、
御身の大切な父を殺害した者は、

予の生命をも求めてゐたのだからな。

レイヤーチーズ いかにも尤ものやうに思はれます。併
し何故かやうな非行に對し、相當の手續をお執りなさ
れぬのか、それを伺ひませう。

本質上この上もない重罪犯、

あなたの安危から、その他あらゆる事情からお考へにな
れば、

あなたが先づ第一にお打ち棄てゝおかれぬことではあり

ませんか。

王 おう、それには二つの特殊な理由がある。

それも、御身から見れば、恐らく何でもない事のやうに

も思はれやうが、

予の身になつて見れば、力づよい理由だ。彼の母なる妃

は、

彼を見ることを楽しみに、生きてゐると言つてよい。そ

して又予には——

讃むべきか、呪ふべきか知らぬが、——

妃は予の生命、予の魂、切つても切れぬ綱だ。

星がその環内しか運行し得ないと同様、

予も妃の傍を離れては動き得ないのだ。それから一つ、

なぜ予、公の沙汰にせぬかといへば、

一般人民が彼に抱く大いなる愛のためだ。

彼等は罪も過も、おのが偏愛のなかに浸し、

かの靈泉の樹をも玉に變ずるが如く

彼を拘禁すれば、却つて之を人氣に換へてしまふ。そこ

で予の放たうとする矢は、

民衆といふ大風には、矢柄あまりに輕く、

又もとの弓に戻つては來ようと、

目指すところへは届かないのだ。

レイヤーチーズ そんな事で、私は大切な父を失ひ、妹をさへ絶望の状態に追ひ込んだのか。

ありし日の妹の價値を賞め稱へようものなら、あらゆる時代の山頂さくらぎやうに突つ立ち、彼女と完全を競はん者

に、挑戦してもよいほどのもの。見よ、きつと復讐するぞ。

王 その爲に幾夜の眠を妨げてはならぬ。決して我々は不感、鈍感の木や金で出来ては居ないから、危機が来て我々の鬚髯ひげひげをゆすぶつても、これを慰みごとに思つてゐるわけではないのだ。やがてまた改めて話すでしょう。

予は御身の父を愛してゐた。して又我等は、我が身をも愛してゐる、

だから、そこを悟つて、御身の想像は――

使者登場。

どうした！ 何事か？

使者 ハムレットさまからの御状にござります。

これは王様おやまに、これはお妃様おきさめに。

王 ハムレットから！ 誰が持参したか？

使者 水夫達との事にござります。私は面會はいたしま

せん。

クロイチオが私に手渡しましたが、彼はそれを持参した者から、

受取りました。

王 レイヤーチーズ、讀むから聞くがいゝ。退れ。

使者退場。

〔讀む〕「我が君、小子赤裸々にて御領土に置かるゝと知ろし召さるべし。願くば明日龍顔を拜し奉らん事を。この願もし許され給はゞ、小子がこの突然の、又それよりも更に不思議なる歸朝の顛末をも言上仕らむ。

ハムレット

これは一體どうした事だらう？ 他の者も皆歸り居つたのか？

それとも何かの計略で、ありもしない作り事なのか？

レイヤーチーズ 手蹟てせきにお見覚えがございますか？

王 ハムレットの手蹟だ、「赤裸々にて」の字態など。

それからこゝの追伸には、「單身」と言つてゐる。

どうしたものかな？

レイヤーチーズ 全く判断が付きません。しかし、歸つ

て來るとは思ふ豈、

冷えた心臓も熱して來た、

しやつ面の鼻の先きで、「覺えがあらう」と、

言つてやれると思やあ。

王 果してさうなら、レイヤーチーズ——

と言つて、それに違ひはなく、他にありやうもないのだ

が——

そなたは予の忠告に従つてはくれまいか？

レイヤーチーズ 従ひます、我が君、

が強ひて平和にとの仰せでなければ。

王 御身の心の平和を計ればだ。彼れ若し航海半ばに歸

國し、

重ねて行くの意なくば、予は彼を巧みに説き伏せ、

今この頭腦に成熟した一つの大仕事を爲せよう、

それに壓されて、彼れ倒れずにはゐまい。

しかもその死については、風ほどの批難の噂も起らず、

彼の母妃さへこのたくみに心づかず、

却つてこれを不慮の變事と呼ぶだらう。

レイヤーチーズ 我が君、喜んでお指圖に従ひます。

その御計畫の道具に、この私がなり得ますれば、一段と

幸ひに存じます。

王 願うでもない事がある。

御身は外遊以來しばしば世評に上り、

しかもハムレットの耳に入るところで、御身が長じてゐる

といはれる

一藝につき、喧傳されたものだ。御身のもつ様々の才能

を悉く集めても、

その一藝ほど彼を羨ましがらせたものではなく、

しかもそれは、予の見る所では、御身に取つて、

いはゞ一番無價値な等級のものに過ぎないが。

レイヤーチーズ それは何でございますか？

王 若者の帽子につける飾紐ともいふべく、

そして又缺くべからざるもの。若者には、

輕快な派手な衣裳が似つかはしいもので、

丁度不惑の年輩の者が、黒貂の衣裳を纏ふと同様、

一は健康を表はし、他は嚴肅を語つてゐる。二月前ノル

マンデーから一人の騎士が來た、——

予は親しくフランス人の技倆を見、又一戦を交へた事も

あるが、

彼等は馬背にあつては自由自在だ、

馬術にかけて魔法使のやうな力を持つてゐる。鞍くらに生はえついで、

驚おどろくばかりの離はなれ業わざをやる、

駿馬しゅんばと全く一體となり、半ば

同化したやうであつた。彼は全く予が考へを超越し、

様々な姿や業わざを想像するとしても、

到底實際には及びもつかぬ程であつた。

レイヤーチーズ ノルマン人でしたか？

王 さやう、ノルマン人。

レイヤーチーズ それは屹度、ラモンドでせう。

王 それ、それ、その男だ。

レイヤーチーズ 彼ならよく存じて居ります。彼こそかの國人すべての胸飾むねかざり。

寶石でございます。

王 彼が御身の腕前を摩なしをつた。

劍道にかけては、

わけても細身ほそみの術については、

天晴てんせいれ師表しへうに立つものだといひ、

且つ聲を高くして、萬一御身に匹敵する者があれば、

それこそ觀みものだらうと言つた。彼は誓言した、

彼の國の劍客と呼ばれる者も、御身が向へば、構へも、防ぎも、着眼ちやくがんも、あつたものではあるまいと。

彼のこの摩なは、

ハムレットの羨望せんぼうをいたく刺戟し、

御身が急に歸國して一勝負する日を、

切に乞ひ且つ願うてゐたのだ。

さて、この事から、……

レイヤーチーズ この事からどうするのですか？

王 レイヤーチーズ、御身は本當に父を切愛してゐた

か？

それとも、哀愁の繪の如きもので、

姿はあれど、心はないのか？

レイヤーチーズ 何故なぜ、さやうな事をお尋ねなされる？

王 御身が父を愛しなかつたとは更々思はないが、

愛は時によつて初まる事を知つてゐるし、

又證據とすべき幾多の實例に徴しても、

時の爲めに、愛の火花や火の衰へることも見てゐるから

な。

愛の焰ほそのものゝなかには、燈心ちんのやうなものがあつて、焰を弱めるものだ。

何事によらず、同じ立派さでいつ迄も續くものではない。立派さといふものも、次第に増して多きにすぐれば、それみづからの過ぎたる爲めに滅びる。我々が爲したいと思ふことは、

爲したいと思ふ時になすべきで、この「たい」が變化し世に多くの舌もあり手もあり、不意の出来事もあると同様に、

屢々中止したり、遷延したりするものである。

それからこの「なすべきだ」も、生血を浪費する嘆息同様に、

單に洩らすだけでも害になる。……それは先づ措いて、

肝心な事は――

ハムレットが歸つて來たら、御身は父の子たるを示すため言葉以上に實行すべき

どんな計畫があるかな？

レイヤーチーズ 教會堂の中だつて構はない、王子の喉を引つ切つてくれます。

王 いかなる靈場でも、殺人の罪は免れられまい。

復讐に障害があつてはならぬ。併し、レイヤーチーズよ、御身はしばらく、御身の室に閉ぢこもつて居なさい。

ハムレットが歸つて來たら、御身が歸朝を告げ知らせ、それから二三の者を使駈けて、御身の優秀さを賞めそやさせ、

かのフランス人が御身に與へた名聲に、

二重の上塗をし、結局兩人に試合をさせ、

それ／＼に賭をする。彼は不注意な、

愚直な、何等奸智のない男、

試合の剣を改めるやうなことはよもすまい。そこでやすやすと、

僅かの狡智を以て、御身は尖留のない剣を選び、

計略の一撃で、

父の仇を報いられるといふものだ。

レイヤーチーズ 是非さやういたしましたせう。

そしてその目的のため、私の劍に毒を塗りませう。

私は嘗て或る野師の賣藥屋から、油藥を買ひ取りました

が、

頗る劇藥、一度びそれに尖端を浸せば、

月の下のあらゆる藥草を集めて、

精製した巴布の丸藥を以てしても、

引掻いただけの傷を受けた者でも

死を免れ得ません。劍の尖端に、この毒を塗りませう、さすればほんの微傷を負うただけでも、

死は来るのです。

王

これはなほ進んで協議し、時と手段の便宜を選び、我々の目的に適應するよう、考慮しよう。萬一これを仕損じて、

事露顯に及ぶ位なら、

始めから試みない方がましだ。だからこの計畫には、

初めのが破れても後に代るべきものがあつて、試験中に

爆裂した時でも、

なほ大丈夫のやうにせねばならぬ。待て！ かうつと、

我等、御身の手腕に對して、嚴かな賭をしよう。

思ひついた。……

突撃中、兩人は熱し、又渴きを覺える——

又さうなるよう、御身の立ち廻りを、一層烈しくして貰

ひたいが——

その時、彼れ飲料物を求める、予はその場合のため、特に杯を準備し置かう。彼それを毀りさへすれば、

偶々御身の毒ある双を免かれるにしても、

我々の目的は達せられる。……しーッ、あの物音は？

王妃登場。

何事かな、ガーツルード！

王妃

一つの悲しみは他の悲しみの踵を踏んで、

こんなにも早う追ひかけます。レイヤーチーズ、そなたの妹御は溺死しました。

たの妹御は溺死しました。

レイヤーチーズ

なに溺死！ おゝ、どこで？

王妃

一本の柳の樹が、小川に斜めに延び育ち、

白い葉裏を鏡なす流れに寫して居るが、

そこへ妹御は、面白う作りなした花冠を持つて参りまし

た、

毛茛だの、いら草だの、雛菊だの、又

はしたない牧羊者は、いやな名を與へるが、

無垢な處女達は、死人の指と呼ぶ紫蘭などで出来たので

した。

この野花の冠を垂れ下つた細枝に懸けようと、

攀ち登つたが、意地悪な横枝は割けて、

野花の冠も、その身も、

咽ふ小河に落ち入りました。裳裾は擴がり、

人魚のやうに、しばし體を支へたが、

その間中、古い小唄のそここゝを歌ひ、
みづからの不幸をそれと感ぜぬやう、
又は水に生れ、水に慣れた生き物そのまゝ、
しかしそれもわづかの間で、

水に浸つて重うなつた衣裳は、

あはれにいとしい者の、調子よく唄うた歌をやめさせ、
泥深い死へと引込みました。

レイヤーチーズ おゝ……では、妹は溺れ死んだのです
か？

王妃 さうなのです、さうなのです。

レイヤーチーズ 水には飽いたであらう、可愛いオフィリ
ヤ、

だから私はもう涙は流さぬ。とはいへ、

これが我々の癖だ。涙が出ずにゐられぬ。

笑ふものは笑へ、慥だ。この涙が乾いてしまへば、
女々しい心は去つてしまふのだ。さらば、我が君！

胸に火の如く燃え立つ文句はあつても、

こいつに消されてしまふ。

退場。

王 さ、ついでに行かり、ガーツルード。

彼の怒を静めるのに、どれ位骨が折れたか解らない！
それがこの事がもとで又起りはしないか、氣遣はしい。
さ、ついでに行かう。

兩人退場。

第五幕

第一場 — 墓 場。

二人の道化役、鋤その他を携へて登場。

第一道化役 この女、本式に、お葬式するのか？

勝手に死んどきなから。

第二道化役 さうだつてことよ。だから、ぐづぐづせずと、墓ア掘るだ。検死のお役人が検分して、本式のお葬式と決めさつした。

第一道化役 どうしてそんな事が出来るんだ？ わが身を庇つて水にはまつたのなら別だが。

第二道化役 なんだつて、さうときまつたよよ。

第一道化役 「不審自殺（正當自殺の疑ひ）にて違ひはねい。外にありやうがねい。こゝだて、肝要どころが。おれが欲き好んで身い投げたとする。するとそれは、所行ぢふもんだ。所行には三つ小分けがある、すること、なすこと、それから行ふことぢや。かるが故にだ、あの

女、自分で承知して身い投げたんだ。

第二道化役 いや、まあ、聞かつせい、墓掘兄弟——

第一道化役 ま、待たつしやれ。こゝに水がある、よいか。こゝに人が居る、よいか。若しこの人が、この水へ行つて、身い投げるとすれば、否でも應でも、自身で行つたのだ——よいか、ところで、その水がこゝへやつて来て、その人を溺らしたとすればさ、こりや自分で身を投げたのぢやないんだ。かるが故にだ、自身で死んだ覚えのない者は、自分自身の命縮めたんぢやねえんだ。

第二道化役 へえ、それが法律ぢふもんか？

第一道化役 さうなんだよ、これが検死のお役人の掟といふもんだ。

第二道化役 ほんとの事を言つちまはるか？ これがお

歴々の御婦人でなかつたら、何で本葬式のできる筈があらう。

第一道化役 違えねえ。笑止だなあ、お偉い方々は、身投げするにも、首くゝるにも、並のキリスト教の兄弟よりあ、この世で都合かえと來とるわ。……さ、初めるか。……舊いお武家で、庭師や、溝掘りや、墓掘

りほど舊い家柄はねえぜ。みんなアダムの職さそのま
ま受けついであるんだからな。

第二道化役 アダムはお武家だつたけ？

第一道化役 お武家さ、御定紋(道具)さつけさしやつた
のはあの人が初まりさ。

第二道化役 まさか、そんな物なんかありやあすまい。

第一道化役 何だと、お前は、邪宗門(せいしゆもん)けえ？ 聖書さ、ど
う讀んでるだ？ 聖書に書いてある「アダム掘れり」、

道具(御定紋)がなうて掘れるかい？……もう一つお前
に謎(なぞ)をかける。これがまつたうに言へんやうなら、懺
悔して頸(く)くハ——

第二道化役 止せよう。

第一道化役 石工よりも、船大工よりも、指物師よりも、

もつと頑丈な物造るなあ誰だい？

第二道化役 絞首臺を作るやつさ。その臺は主(ぢ)が千人變

つても、ちやんとしてらあ。

第一道化役 お前も一寸氣に入つたことを言ふなあ、ほ
んとのところ。絞首臺はえい。だが、えいと言つて何
がえい。悪い事をする奴にえい事をするんだ。おいお
前、惡(わる)からうぜ、絞首臺が教會堂より頑丈だなんて言

つちやあ。かるが故にだ、絞首臺がお前(おまえ)のやうな男に
はええかも知らん。さあ、やり直したり。

第二道化役 「石工よりも、船大工より、指物師よりも、
もつと頑丈な物造るなあ誰だい」と？

第一道化役 さうさ、それを言つたら、それで今日の仕
事(しごと)ア休みにするさ。

第二道化役 や、わかつたぞ。

第一道化役 どう？

第二道化役 いんにや、わからん。

ハムレット及びホレイシヨ少し隔たつて登場。

第一道化役 もうその事で、頭腦(かぶね)を打つなあ、よしにし
ろ。手前のやうな頓馬(とんば)は驢馬(ろま)ア、いくら連打(つらひ)したつて、
あがきを早めやしねい。今度この謎(なぞ)を聞かれたら「墓
掘りさ」と言ひねえ。墓掘りの造る家ア、最後の審判
の日まで續くわな、さあ、ヨハンのとこへ行つて酒一
本とつて來な。

第二道化役退場。

第一道化役、墓掘りながら歌ふ。

色の戀のと若い時や、

しんぞ嬉しく思つたが、

時がつまればこの身の爲めか、
なんのよいとも思やせぬ。

ハムレット あは男は自分のする事を何とも思はないのか
な、墓を掘りながら歌を歌つてゐる？

ホレイシヨ 習慣が氣樂な事にしてしまつたのでござい
ませう。

ハムレット 全くさうだ。滅多に使はない手は、それだけ
餘計微妙な感覺を持つてゐるから。

第一道化役 「歌ふ」

老かひそかに忍び來て、
しつかと掴む襟髪を、

いつか土中に運ばれて、
昔やかうでもなかつたに。

と頭蓋骨を一つ投げ上げる。

ハムレット あは頭蓋骨にも舌があつて、曾ては唄を歌ふ
事も出來たであらうに。それをどうであらうあの男、
人間最初の殺人者カインの顎骨でもあるかのやうに、
地べたに叩きつけをる。それとも或る政治家の頭であ
るかも知れぬが、それが今ではこんな匹夫になぶられ
てゐる。或は昔、神をたばかるやうな男であつたかも

知れない。さうぢやないか、ホレイシヨ？

ホレイシヨ さうかも知れませぬ。

ハムレット さなくば廷臣の髑髏で、「お早うございます、

閣下！ 御機嫌はいかゞ入られますか？」なんと

やつてゐたかも知れぬ。これがながし閣下で、くれが

し閣下の馬が欲しくなると、無暗とそれを賞めちぎつ

てゐたかも知れない、さうぢやないか、ホレイシヨ？

ホレイシヨ さやうですな。

ハムレット はて、正しくさうだ。で今では、蛆蟲姫の家

來。臆なしになつて腦天のあたりを墓掘りの鋤で叩か

れてゐる。有爲轉變の立派な實例、たゞ我々が之を悟

るだけの能力がないのだ。この骨にしても、折角立派

にそだてられても、棒抛げの遊びに用ゐられる以上の

甲斐はなかつたのか？ これを思ふと胸が痛くなる。

第一道化役 「歌ふ」

鶴嘴一挺、鋤一挺、
それに一枚死の衣裳、

エイコラサツと、掘る土の穴、

こんなお客にやふさはしい。

と又一つの髑髏を投げ出す。

ハムレット 又一つ。今度のは代言人の頭蓋骨ではあるま

いか？彼の得意の言ひぬけ、彼の屁理窟、彼の裁判

例、彼の所有權、又彼の詭辯は今どこにある？この

亂暴な野人に、汚いシヤベルで腦天を叩きのめされて、

黙つてゐるのか？なぜこれは毆打罪だぞと言つてや

らないのか？フム！この男、その盛んな時代には多

くの土地を買ひ入れて、地上權證だの登記證だの、或

は所有證明だの、二重有價證明だの、永代地上權だのと

持ち廻つてゐたであらうが、彼の所有證明の結局所有

するところ、彼の永代地上權の永代残るところのもの、

それは畢竟かく泥にまみれた頭蓋骨になつて抛げ出さ

るゝのか？證明者が購入の證明をし、しかも二重の

有權證明があつたにしろ、つまり一對の契約證書の面

積以上には出ないのか？彼の所有地の地券だけでも、

この函には殆ど入り切るまいに、所有主みづからさへ、

それ以上持つわけにゆかないのか？あゝ。

ホレイシヨ 全くその通りでございます。

ハムレット 證書用紙は羊の皮で出来てはゐないか？

ホレイシヨ 左様です。それから牛の皮でも出来ませ

ハムレット

こそ羊や牛にも劣る愚者だ。この男に話して見よう。
……おい、これは誰の墓か？
第一道化役 わしのでさあ。

〔歌ふ〕エイコラサツと、掘る土の穴、

ハムレット こんなお客にふさはしい。

成程、お前のであらう。そのなかでゐすわつ

て（居坐るに許）ゐるのだからな。

第一道化役 あんたはその外でゐつ、わつてゐらつしや

る。だから、あんたのぢやない。わしにしちやあ、こ

のなかに居すわつてはゐねいがね、それでもわつしの

でございます。

ハムレット その中に入つてゐながら、それでも自分のも

のだなどゝは、それこそ許りぢや。墓はね、死人のも

ので、急がしう働いてる者ぢやない。だからな、お前

は許り者だ。

第一道化役 こりや急がしい許りだな、ちき又わしから

あんたへ飛んで行きますで。

ハムレット 一體お前はどんな男の爲めに穴を掘つてるの

だね？
第一道化役 男のためぢやございませぬ。

ハムレット では、どんな女の？

第一道化役 女でもねえです。

ハムレット その中に埋められるのは誰だね？

第一道化役 もと女の人だつたがね、可哀さうに、死ん

ぢまひましたよ。

ハムレット 此奴、なんて小面倒な事言ふんだらう！ 言

葉の表でも擴げて置いて話をせんことには、紛らはしくて參つてしまふ。神かけて、ホレイシヨ、近年予は注意してゐた事だが、時勢が恐ろしく猪口才になつて、百姓の爪先が廷臣の踵にとどき、凍瘡をひつこする位ゐになつたのだ。……これく、お前はもう幾年位も募掘りをやつてゐるかな？

第一道化役 一年三百六十五日のうち、わしがこの商賈

を初めたなあ、先のハムレット王様か、フォーチンブラ

スを打負かされた日であらう。

ハムレット それ以來何年になるかな？

第一道化役 それが解らんのかい？ どんな馬鹿でも知

つてるぜ。それは若ハムレットさまのお生れなされた日だ。氣狂になつて、イギリスへやられたあの方が。

ハムレット 成程、して、なぜイギリスへやられたのかね？

第一道化役 なにさ、氣が狂つたからだよ。あそこへ行

けば、正氣に返るかも知れんし、返らんにしてからが、

ひどく構ひもしねえことです。

ハムレット なぜだ？

第一道化役 目立ちませんよ、あそこちやアみんな氣狂

えだから。

ハムレット、 どうしてハムレットは氣狂ひになつたのか

な？

第一道化役 えらく不思議だといひます。

ハムレット どんなに不思議なのだな？

第一道化役 全く、正氣を失ふほどにな。

ハムレット どういふところか？

第一道化役 と、こゝろだ？ とこゝろはこのデンマークだよ。

わしは子供から大人と、茲で募掘りして三十年たつよ。

ハムレット 人間が地に入つて腐るまでに何年かゝるか

な？

第一道化役 さやうさ、生きてるうちから腐つてりや別

だがね——今日ちやア瘡毒の死骸も少くねえが、こいつアお葬式まで保ちませんや——まづ八年から九年は保ちませう。柔皮工なら九年は保ちます。

ハムレット　なぜ他の人よりよけい保つかない？

第一道化役　そりや、柔皮工は、皮が商賣柄で柔されて

ゐるから、長いこと水ウはじくんです。水をやつあ、

畜生、死體を腐らすにや一番でさあ。この觸躰は、地

の中に二十と三年あましたよ。

ハムレット　誰のだね？

第一道化役　狂氣野郎のだった。誰んだとお考へで

す？

ハムレット　いや、分らないね。

第一道化役　氣狂野郎、疫病にでもかゝりやがれ！此奴

一度わしの頭さ、ライン酒一本ぶつかけやがつた。こ

の觸躰が、ヨリック、あの王様の弄臣のがんすよ。

ハムレット　これが？

第一道化役　さやうで。

ハムレット　どれ。「と觸躰を受取る」あゝ、可哀さうなヨ

リック！　ホレイシヨ、予はこの男を知つてゐた、むだ

口は限りなく、奇想は辭を抜いた男であつた予を背に

負うてくれたのは何百度だか分らない。今それを想う

ただけでも忌はしい！　胸がむかつく。こゝに唇が附

いてゐたのだが、これに予は何度口づけたことやら。

どうだね、お前の嘲弄の言葉はどこにある？　お前の

道化踊りは？　歌は？　いつも食卓をやんやと言はせ

た、閃く輕口は？　齒をむき出したその顔を嘲るものは

もう一人もないのか？　うんともすんとも言はないの

か？　さ、貴婦人方の部屋へ飛んで行き、これ位ゐな御

器量よしになるには、一寸ほどの厚さに塗りたくらね

ばなるまいと言つて、笑はせて來るがいゝ。……ホレ

イシヨ、一つ聞きたいことがある。

ホレイシヨ　何でござりまするか？

ハムレット　アレクサンダーも地の中では、こんな姿だと

思ふがね？

ホレイシヨ　さやうでござりませうな。

ハムレット　そしてこんな臭ひがするかね？　べッ！

と觸躰を下に置く。

ホレイシヨ　さやうに存じます。

ハムレット　我々は死後どんな卑しい用に使はれるかも知

れぬぞ、ホレイシヨ！　氣高いアレクサンダーの遺骨

にだつて想像の跡をつけて行けば、遂には土になつて

酒樽の注口を支へてゐるものでもないからね。

ホレイシヨ　さうお考へになるのは、あまり好奇に過ぎ

てみらるゝよう存ぜられます。

ハムレット いや、決してさうでない。そこまで彼を追跡するのは、少しも誇張でなく、寧ろそれに歸着するのはあるらしいことである。かうだ、アレクサンダーが死んだ、葬られた、塵に歸した、塵は土だ、土だから粘土が出来た。ところで、彼の變形形であるその粘土で、ビール樽の栓にしないといふ事があらうか？

堂々たるシーザーも、死しては粘土と化し、穴を塞ぎて風を防ぐに足るべし。

おゝ、かの世界を震撼せし土、今は冬の烈風に破れた壁を綴る。

しつ靜かに！ 靜かに！ あちらへ！ 王が来る。

僧官その他行列をなし、オフィリヤの柩、レイヤーチーズ及び哀悼者これに續き、王、王妃その他侍臣等登場。

妃に廷臣たち。彼等が葬送つて来たのは何者だらう？

しかもあんな片輪の儀式？ 察するところ、

この死者は絶望の手を以て、われと生命を滅ぼしたに相違ない。かなり位地のある者であらう。

しばらく隠れて、見てみよう。

ホレイシヨと共に退く。

レイヤーチーズ 他に儀式は？

ハムレット あれはレイヤーチーズ、

立派な青年だ。見給へ。

レイヤーチーズ 他に儀式は？

第一僧官 この方の御葬儀は、宗法の允される限り、

十分鄭重に執り行ひました。御最期の様が疑はしかつた

ので、

畏き敕諭がござりませんでしたら、法の規定をまぐるこ

となく、

聖式をも行はずに土中に葬り、

最後の喇叭のひびくを待つて恵み深い祈禱の代りに、

陶器の破片、石、瓦、礫の類ひを投げかけるべきところ

です。

然るに、この度は、處女に適はしい花冠だの、

式の如き撒き花だの、又鐘を鳴らして、

安息の家へとお伴れ申したのは、特別のお計らひなので

す。

レイヤーチーズ これ以上の式は出来ぬといふのか？

第一僧官 なりません。

平和にこの世を去つた魂のやうに、「永久の憩ひ」その他
安息の歌を歌へば、これ葬儀の神聖を
演ずといふもの。

レイヤーチーズ 妹を土の中に入れい。

そしてあの美しく一塵汚れない肉體から、

堇の花が咲き出でよ！ 聞け、情知らずの僧侶、

お前たちが喚きながら經を讀んでゐる時、

妹は天の使になつて居らうぞ。

ハムレット 何、あの美しきオフィリヤが？

王妃 「花を撒きながら」麗はしの人に麗はしの花、さら

ば！

そなたが私のハムレットの妻となる日を望んで居たもの

を。

麗はしの少女、そなたの花嫁の床を飾らうとした花を

今この墓に撒かうとは、ゆめにも思ひがけなかつた。

レイヤーチーズ おゝ、三重の悲しみよ、

三十倍になつてあの呪はれた頭の上に落ちかゝれ！

彼奴の残忍な行ひのため、お前の正氣を

奪はれてしまつたのだ！ 待て、土をかけるのを暫く待

て、

もう一度この腕に妹を抱かねばならぬ。

墓の中に飛び込む。

さあ、生者死者の區別なく、土を盛れい、

この平地から山が出来て、

古へのピリリオン山にも、又は青きオリムパス山の、

天にもとゞく嶺にも劣らぬほどにせい。

ハムレット 「進み出でつゝ」おゝ何者なれば、

かくもその哀愁を誇張するのか？ この哀悼の言葉を聞

いて居ると空めぐる遊星も、あつげに取られた聴者の

如く、

しばらく足を停めるだらう。おれは、

デンマークの王嗣ハムレットだ。「墓の中に飛び込む」

レイヤーチーズ おのれ、外道に魂を渡しをれ！

二人採み合ふ。

ハムレット その祈りはよくない。

これ、その手を喉から放してくれ。

おれけ立腹しても、焦立つてもゐないが、

併しおれのうちには何か危険なものがあるから、

そちが賢明なら恐れてもよい筈だぞ。その手を放せ。

王 兩人を引き分けい。

王妃 ハムレット、ハムレット！

皆々 お二人とも——

ホレイシヨ 我が君、まあお静かに。

侍臣等兩人を分ける、兩人墓穴から出る。

ハムレット なあに、この事なら、おれの臉が動かなくなるまで戦つてもよいのだ。

王妃 おハムレット、この事とは。

ハムレット おれはオフィリヤを愛してゐた。四千人の兄が、

その愛のすべての量を束にしても、

おれの總類には敵はぬ。お前はオフィリヤの爲めに、何をしようといふのか？

王 お、氣が狂つてるのだ、レイヤーチーズ。

王妃 後生だから、我慢しておくれ。

ハムレット さあ、何をしようといふのか、言つて見ろ。

泣く？ 争ふ？ 斷食する？ 自分を引き裂く？

酢を呑み干す？ 鱈魚を食ふ？

おれだつてやる。お前は、それをかきにこゝへ來たのか？ 女の墓に飛び込んで、おれに恥をかゝせようといふの

か？

生きながら彼女と一緒に埋められようとなら、おれも埋められよう。

お前が山について廣言するなら、二人の頭の上に、

幾百萬エイカの土をかけさせ、この土地が、

その山嶺を日輪の火に焦がさせ、

オッサの高根も疔ほどに見せてくれよう！ なに、お前が大言壯語するなら、

おれも劣らずわめいて見せう。

王妃 これは全くの狂氣。

しばらくかうして置いたなら、

やがて、母鳩が、

黄金色の對の雛を孵した時のやう、

彼の沈黙が靜かに彼に戻つて來よう。

ハムレット これ、レイヤーチーズ、

如何なる理由でお前はおれをかく扱ふのか？

おれはいつもお前を愛してゐた。併しそれはどうでもよい。

ハアキユリーズが、どんな努力をしようとも

猫は猫、犬は犬に變りはないぞ。

退場。

王　ホレイシヨ、彼についてみてくれ。

ホレイシヨ退場。

〔レイヤーチーズに向ひ〕我等の昨夜申した言葉を思ひ、今しばらく忍耐してゐてくれ。

あの事はすぐ断行することにしよう。

ガーツルード、お前の子に氣をつけてゐてくれ。

この墓には並ならぬ（言外ハムレットを犠牲にする意あり）記念碑を作らせねばならぬ。

やがて平和な時が見られよう。

それまでは、萬事忍耐だ。

一同退場。

第二場　——城内の大廣間。

ハムレット及びホレイシヨ登場。

ハムレット　この事はそれだけ。次に、今一つの事を話さう。

御身は巨細の事情を一々憶えてゐあらう？

ホレイシヨ　憶えて居るだらうとは？

ハムレット　予の心に一種の争ひがあつて、

常に安眠を與へなかつた。惟ふにこれは、

鐵枷（てつが）にながれた謀叛人にも増した苦しみであらう。ふ

と向う見ずに思ひ立つて……

向う見ずといふことは、事を爲すには稱すべきだ、我々

の悟るべき事は、

我々の無分別が時には役立つといふことで、

遠謀深慮は却つて事の破れることがある。これを思へば

我等いかやうに荒削りしようとも、

結局は神が我々の目的に形態を與へてくれる。

ホレイシヨ　それは全く確かな事でございます。

ハムレット　〔向う見ずに〕予は船室から起き出で、

水夫の服を身に纏ひ、暗中、

目ざす品を求めて摸索した。望みは成就し、

彼等の包を奪ひ、とゞのつまり、

再び予の室に引返した。そして大膽にも、

恐怖は一切の作法を忘れて、その嚴かな勅書を

開封した。すると中には、ホレイシヨ、——

おゝ君王にしてこの奸智！——正しく一通の人命の書で

ある、

かれこれ様々な理由を飾り立て、

デンマーク王の安寧のため、又従つてイギリス王の安寧

のためとこしらへ、

且つ、どうだ！ 予を生かし置くは、妖怪變化の如く、

怖ろしいから、

この狀一覽の上は、寸時の猶豫をも與へず、

否、斧を磨く間もあらせず、

この首を打ち落せとある。

ホレイシヨ　あり得る事とも存じませぬ。

ハムレット　こゝに、その書面がある。暇を見て讀むがい

い。

併し、そこで予がどういふ手段を取つたか、聞いてはく

れまいか？

ホレイシヨ　どうぞ。

ハムレット　かく悪事の網にひし／＼取り卷かれ――

全くこの頭腦に序曲を作る暇もないのに

彼等はまだ活劇を初めてゐたのだ――予は坐つて、

新しい國書を考案し、これを見事に認めたのだ。

予も一度は、この國の政治家と同じく、

立派に文字書くことを賤しい事に思ひ、

一旦習つたことも、忘れようといふやう努めたものだつた

が、それが今度は予に忠僕の役をつとめたのだ。何と書いた

か、

要點を話さうか？

ホレイシヨ　どうぞ。

ハムレット　國王からの熱誠を籠めた依頼の一文、

イギリスはわが忠實なる朝貢國たるが爲めとか、

兩國間の友愛は櫻欄の常磐葉の如く榮えむが爲めとか、

平和の神は永久にその小麦の花冠を戴いて

兩國の情誼をつなぐ仲介たらんが爲めとか、

その他これに類する頗る力強い「爲め、爲め」を書き連

ね、

この狀一覽の上は、

更に思考をめぐらす要なく、

國書持參の兩人を即刻死に就かしめ、

懺悔の時も許すべからずとした。

ホレイシヨ　併し御印はいかゞなされましたか？

ハムレット　何さ、それにも天の配劑があつた。

予は常に財囊の中に、父の印璽を所持してゐたが、

それがデンマークの國璽こくじの模範まがねであつた。

そこでこの文書を前まへのと同じ形式に疊み、

署名し、捺印し、安全にもとの處へ返して置いたが、

取換とりかへ兒とは遂に氣づかれなかつた。さて翌日、

例の海戦があつた、そしてその結果がどうであつたか、

既に承知の通りである。

ホレイシヨ　すれば、ギルデンスターンとローゼンクラ

ントはおのが最後へと急ぐのですな。

ハムレット　何さ、彼等はこの仕事を自ら求めてゐたのだ

よ。

予の良心は更に惘れとも感じない。彼等の破滅は、

自ら出で、自ら歸るものなのだ。

危いことだ、下賤ひげんな輩が、

勇士が突撃奮闘のたゞ中に、

白刃しろやいばをくゞつて入つて來ることは。

ホレイシヨ　一體、何といふ王の振舞でせう！

ハムレット　當然予が爲すべき仕事であつたと、思はない

か――

わが父王を弑ころし、母を不貞な女とした彼、

國王の選挙に予の希望を遮さへりり、

予自身の一命にさへ釣針つりばねを投げ、

あのやうな奸悪な手段を用ゐた彼、――彼にこの腕を以

て報復するのは、

良心に對し何の疚やましいところがあらうぞ。否、寧ろ

この人間の毒蟲を、進んでなほ害毒を流すに任まかして置く

のは、

却つて呪ふべきことではあるまいか？

ホレイシヨ　やがてイギリスから王への消息があつて、

事の結果がすぐ判明しやしませんか。

ハムレット　間まもあるまい。それまでが予の時だ。

そして人の命は「一つ」と言ふほどの間さへもない。

しかし、ホレイシヨ、予はすまぬ事をした、

レイヤチーズに對し、われを忘れてしまつて。

自分の身の上にくらべて見て、

彼が心の姿を想ひ見ることが出来る。以後、努ととめて彼の

友情を求めよう。

しかし、彼の哀傷があまり仰々おごごしいので、

つひ高まる激情を制し得なかつたのだ。

ホレイシヨ　靜かに！　誰か來たやうです。

オズリック登場。

オズリック 殿下の御歸朝を謹んでお歡び申し上げます。

ハムレット 大きに有難う。「ホレイシヨに向ひ」この水すましを知つて居るか？

ホレイシヨ いえ、存じませぬ。

ハムレット 「ホレイシヨだけに」すれば御身は予より恵まれてゐるといふものだ。あんな男を知つてゐるのは悪だからな。彼は地所持で、しかも豊次な物を持つてゐる。獸になるなら、獸の王になれた。すればその秣槽を王の食卓と並べることが出来ようよ。あいつは饑舌烏だが、今も言つた通り、廣大な土を有つてゐるのだ。

オズリック えい、殿下、殿下には若し御閑暇に渡らせませ

れば、王様からの御傳言を一言申上げたうござります。

ハムレット 「口まねして」えい、あらゆる勤勉な心を以て、拜聴致すでござらう。「帽子を手にいぢくつてゐるのを見て」まあ、その帽子を正當に用ゐらるべき所へ用ゐたらどうです。帽子は頭へ載せるものですから。オズリック 厚くお禮を申しますが、きびしいお暑さでござりますから。

ハムレット いや、それはとんでもない、ひどく寒い。北風だよ。

オズリック いかにも、随分寒うございますな。

ハムレット しかし、それにしても、予の如き體質の者にはひどく蒸々して暑いわね。

オズリック 大きに左様、大變蒸暑いことで、——言つて見ればですな、——なぜだかは申せませんが。いやなに殿下、王様よりの御下命で、殿下の爲めに、大層もない賭物を遊ばされた事を言上せよとの事にござります。えい、その要點は、——

ハムレット どうか、まあ忘れないで——

ハムレット は彼に帽子をかぶれと手で差圖する。

オズリック 殿下、この方が勝手でございます。……と

ところで、この度歸朝されましたレイヤーチーズどのは、虚妄偽のないところ、何一つ申分のない紳士で、最も特色ある長所を備へ、社交ぶりもみやびやかなら、風采も立派で、理解ある論評をしますれば、この人こそ、紳士道の眞の典型、若しくは案内書とでも申しませうか。その故はいやしくも紳士たる者の備ふるかぎりの美德を悉く備へてゐられますから。

ハムレット 彼の面目は、お前の述ぶるところに由つて、遺憾がない。たゞ、予を以て見れば、彼の長所を目錄式

に分割することは、記憶の算數を幻惑し、しかも、彼の早い船足を追ひかけられぬ事にならう。さりながら、予は彼を大きいすくれた人物と信じてをる。又彼の天分は、頗る高く貴く、彼を眞實に述べようと思ふには彼に似たものはたゞ彼の鏡あるのみといふ外はない、彼を模倣せんとする者は、その影を得るに過ぎないのだ。

オズリック 殿下の仰せは、彼について斷じて誤りなきものにござります。

ハムレット と云ふわけは。いやさ、なぜ、かやうな紳士を我々の蕪雜な言葉を以て賞めたゝへるか？

オズリック

へ？

ホレイシヨ 他人ひとの口からでは理解できませぬかな？

まあわかりさうなものですのに。

ハムレット あの人の事を言はれたのは何の爲めかな？

オズリック レイヤーチーズでござりますか？

ホレイシヨ 「ハムレットだけに」彼の財布はもう空虚くわくになつたのです。金言きんげんを使ひ果はしました。

ハムレット 「オズリックに向ひ」その人の事だよ。

オズリック 御承知のことゝ存じますが――

ハムレット どうかさう思つて貰ひたいね。しかし、實のところ、君が思つたからとて、大した予の信用にもなるまいが。それで？

オズリック いかレイヤーチーズが卓越してゐるか、御承知のことゝ存じますが――

ハムレット それは敢て公言しないよ、自分を彼と比較して同じく卓越したものと自負すると思はれてはならない。人を十分に知ることは、やがて己れを知る事であらうからな。

オズリック 私の申しますは、彼が劍けんを握つた場合でござりますが、世間の評判では、彼の力量は比類なきものとあります。

ハムレット 彼の選えんぶ劍は何か？

オズリック 細身ほそみと短劍たんけんで。

ハムレット 正に彼の得意の二種だ。が、それで。

オズリック 王様おんさまには彼にバーバリの馬六頭をお贈けにござります。それに對して彼が質あつとしましたのは、私の承うけりますところによれば、フランス製の細身並に短劍六む口くち、これに革帶、劍吊り、その他の附層品つけがらみが添加たされず。中でもその運搬用具うんぱんぐうじ中の三種は、技巧のまこと

に立派な、第一欄ともいづくりいたし、最も精巧なもので、優美を盡した細工にござります。

ハムレット その運搬用具とは何をいふのかね？

ホレイシヨ 全部御理解になるには、註釋書による外はないと思つてをりました。

オズリック その運搬用具と申しますのは、劍吊りでござります。

ハムレット 腰に大砲でも吊る下げて歩くのなら、その用語も似合はうが。そんな時が来るまでは、まづ劍吊りで願ひたいものぢや。しかし、續けたり。パーバリ馬六頭對六口のフランス劍、その附屬品、三種の凝つた運搬用具それではデンマーク對フランス賭だ。なぜこんなものがお前の所謂「質とされた」のかね？

オズリック 王様には、殿下と彼との間の十二度の試合中彼は三當り以上を勝てまいとあつて、即ち九對十二の賭になされたのでござります。すぐ様お試合といふ事になるのでござります、殿下のお允しがあらせられましたら。

ハムレット いやだと返辭したらどうだな？

オズリック いえ、その、御自身御勝負にお立合ひの事に

つきまして。

ハムレット では予はこの廣間をぶら／＼してゐよう。

王様の御意に叶ふならば、時刻は丁度予の運動時間だから、あの人も承知で、王様の御意が變らぬなら、試合刀を持つて參るがよい。出来れば勝つて見せよう。出来ないにしても、何も損をするものはない、恥をかいて、二三度突かれるだけのことだ。

オズリック さやうに復命しまして、よろしうございませ

うか？

ハムレット この要點をな、飾りはどんなにでも自由だ。

オズリック 殿下に私の忠勤を推奨いたします。

ハムレット 有難う、有難う。

オズリック退場。

自分で自分を推奨するとはよく考へた、誰も彼に代つて口を利用してくれる者もあるまいから。

ホレイシヨ あのちやんぼら、鼻は頭に殻をつけて飛んでゆきます。(鳥といふ鳥は孵化を欲するに急で殻を頭につけたまゝ飛び出すので、不誠實の鳥といはれる所から假にちやんぼらをして附)

ハムレット お世辭を言つといてから、お乳を吸ふつてやつさ。あんな風に、彼や、又彼に類した小鳥連で、予

も知つてゐるが、この末世にもやはやされてゐる大勢の奴等は、時代の調子ばかりを呑込み、辭令の表面をのみ學んで居る。あぶくのやうなもの集まりだが、それでも賢愚様々の人々の判断を、どうにか凌いで通つてゆく。だが、一吹き試みに吹きつけられると、あぶくは忽ち消えてしまふよ。

一人の貴族登場。

貴族

殿下、國王には先刻オズリックを遣はされ、思召を

お傳へ遊ばされましたが、殿下には廣間でお待受けとの事にござります。つきまして、レイヤーチーズとお試合の儀御異存はあらせられますまいか、それとも今少しお延し遊ばされますでせうか、それを伺へとの御仰せにござります。

ハムレット 予の意圖は變らない、只國王の御意に従ふばかりだ。御都合宜しくば、予の用意はよい。今でも。

いつでも、たゞ、今ほど元氣な時でさへあれば、

貴族

兩陛下並に一同こゝへおいでとござります。

ハムレット それは早々と。

貴族

お姫様から、お試合に先だちレイヤーチーズと

やさしいお言葉を交されますようにとの事にござります

す。

ハムレット 御教訓ありがたく承つた。

貴族退場。

ホレイシヨ この賭事にはお負けでござりませう。

ハムレット さうは思はない。彼れフランスに行つて以來、

予も斷えず練習してゐた。あの數違ひなら勝てる。……

しかし、御身には分るまいが、こゝの、この胸のあたりが、何としても惱ましい。だが、何でもない事だ。

ホレイシヨ それは何となされましたので――

ハムレット いや愚にもつかぬことさ。一種の疑惑で、女

子の心を騒がす類のものだ。

ホレイシヨ 若しお心がお進みなさいませんやうでござ

りましたら、おやめになつた方がよろしいと存じます。

私は兩陛下のこゝへ渡らせらるゝのを、お止めして、

御不快と申上げませう。

ハムレット 決して、我々は前兆なぞを氣にかけやし

ない。一羽の雀の墜ちるにも、特別な天の誦理がある。

今來れば、後に来る筈なく、後に來なければ今來よう。

よしや今來ずとも、やがて來る時がある。覺悟が第一

だ。人は残しゆく世に何の執着もなければ、時到着

これを捨つるに何の悔^くがあらうぞ？

王、王妃、レイヤーチーズ、貴族大勢、オズリック及び試合刀を持てる従者等、その他登場。

王　こゝへ、ハムレット、こゝへ、さゝ、この手を執^とつておくれ。

王はレイヤーチーズとハムレットの手を握らせる。

ハムレット　予の罪を許してくれ、相濟まぬことをした。

しかし紳士らしくそれを許してくれ。

こゝに並みゐる方々も知つての通り、

又御身も定めし聞かれたであらうが、予は烈しい精神錯亂で、

身も心もいたく惱まされてゐる。予のなした事は、

御身の孝心、御身の名譽心、御身の不快を

あらげなく刺戟したことであらうが、それは皆狂氣の故

であつたことを、こゝに明かにする。

レイヤーチーズに對し濟まぬ事をしたのは、ハムレットで

あつたか？ 決してハムレットでない。

若しハムレットが本心を奪^{さら}ひ去られ、

彼れ自らでない時に、レイヤーチーズに濟まぬ事をした

とすれば、

それはハムレットがしたのではない、ハムレットはそれを拒否する。

では誰がしたのか？ 彼の狂氣がしたのだ。若しさうだ

とすれば、

ハムレットみづからも濟まぬ事を仕向けられた伴侶の一人、

彼の狂氣は哀れなるハムレットの敵なのだ。

この衆人稠^{ちゆう}座のなかで、

予が故意に悪事をしたのでないことを宣言することにより、

御身の最も寛大な心に訴へて、

家根越しに矢を放つて、計らず自分の兄弟に傷を負はせ

たものと、

かう思つて許して貰ひたい。

レイヤーチーズ　感情の上では解けました、

一體この感情の動くところ、何よりも復讐へと私を導く

べきではありませんが、併しながら面目の點では、

なほ親近しがたく、いかなる和解にも、承諾いたしません

まい、

然るべき長者の和解により、

名譽を傷つけず平和を結ぶことの出来るやうな

故例を聞きませまでは。それまでは、

あなたの友愛のお言葉を、お言葉のままに受けて置き、
不當に疑念を挟むことはいたしませんまい。

ハムレット 予はそれを信ずる。

そして兄弟の心をもつて、深くこの試合をやらう。

試合刀をこれへ。さあ来た。

レイヤーチーズ さあ、こゝへも一つ。

ハムレット 予は御身の引立役だらうよ、レイヤーチーズ、

予といふ闇雲のなかで、

君の技倆は暗夜の星の如く、

一層輝やかしく光を放つであらうよ。

レイヤーチーズ 御冗談を仰せられる。

ハムレット いや、この手にかけて、決して。

王 オズリック、兩人に劍を與へよ。みうちのハムレット、

そなたは賭を知つて居るかな？

ハムレット よく存じて居ります。

王は弱い方へ重い賭をなされたな。

王 さうとは思はない。兩人の腕は見てゐる。

併しレイヤーチーズが聊か上達いたし居るにつき、そこ

で數違ひにはして置いた。

レイヤーチーズ これは重過ぎる。今一つのを見せてくれ。「この時尖留めのない試合刀を取る」

ハムレット これが丁度手頃だ。この劍は皆同じ長さであらうな。

兩人試合の準備をする。

オズリック 左様にござります。

王 酒の大杯をその卓上に置け。

若しハムレットが第一若しくは第二の當りを取るか、

それとも、三度目の手合せに彼に仕返しをしたなら、

あらゆる砲壘から大砲を打鳴らさせよ。

王はハムレットの未來を祝して杯を擧げよう。

そしてその杯のなかに、大眞珠を投げ入れよう、

四代のデンマーク王がつぎ／＼に、

その王冠につけたものより、更に立派なものをな。その

杯をこれへ。

そして銅太鼓は喇叭に合圖し、

喇叭は外なる砲手に、

大砲は天に、天は地に傳へしめよ、

「今王はハムレットの爲めに杯を擧げる」とさ、初めい。

審判官達はよく眼を睜つて。

ハムレット さあ来い。

レイヤーチーズ さあ。

兩人試合する。

ハムレット 一つ。

レイヤーチーズ いや。

ハムレット 審判。

オズリック 當り、立派な當り。

レイヤーチーズ よし、もう一度。

王 待て、酒を注げ。ハムレット、この眞珠はそなたのもの

のだ。「眞珠を入れると同時に毒をも投げ入れる」

そなたの健康を。

喇叭鳴り響き、奥で大砲が放たれる。

彼に杯を與へよ。

ハムレット まづこの一勝負を果しませう。杯はしばらく

そこへ。

兩人烈しく試合をする。

も一つ當り、どうだ？

レイヤーチーズ かすりだ、かすりだ、正直に言ふが。

王 我々の王子が勝たうぞ。

王妃 肥えてゐるから、氣息が切れよう。

これ、ハムレットや、このハンカチで、額をお拭き。

妃はそなたの幸運を祈つて、祝の杯を乾すぞよ、ハムレ

ト。

ハムレット どうぞ！

王 ガーツルード、それを飲んで！

王妃 飲ませて戴きます。御免下さいませ。

王 「傍白」毒の杯ぢや。もう遅い。

ハムレット 私はまだ飲めません、母上。やがて。

王妃 こゝへ、私にその顔を拭かせておくれ。

レイヤーチーズ 王様、今度こそ當てゝ御覽に入れます

ぞ。

王 むづかしいものだ。

レイヤーチーズ 「傍白」だが、何となく良心に咎められ

る。

ハムレット さあ、三度目だ、レイヤーチーズ、御身は本

氣になつてゐないな。

どうか、うんとしつかり突つ込んで貰はう。

御身は予をなぶつてゐるんぢやないか。

レイヤーチーズ さう仰しやいますか？ さあ来い。

兩人闘ひ合ふ。

オズリック いや、まだくどちらも。

レイヤーチーズ さあ、當り、どうだ！

レイヤーチーズ、ハムレットを突く。それから亂闘となり、兩人の劍をとりかへ、ハムレット、レイヤーチーズを突く。

王 分ける。兩人は逆上してゐる。

ハムレット なあに、さあ來い、もう一度。

王妃、倒れる。

オズリック やあ、お姫様には、おゝ！

ホレイシヨ 雙方とも怪我してゐる。……殿下、いかゞ

でございますか？

オズリック どうしました、レイヤーチーズどの？

レイヤーチーズ なにさ、オズリック、わが尻に掛つた山

鶉同様、

自分の悪事の報いで殺されるのも、正當な天罰だ。

ハムレット 妃には何となされた？

王 兩人の出血を見て、氣を失つたのだ。

王妃 いえ、いえ、あの酒、あの酒、——おゝ、ハムレツ

トヤ、——

あの酒、あの酒！ わたしは毒害された。

と言ひつゝ死ぬる。

ハムレット おゝ大罪！ こら！ 戸口を堅めい。

叛逆者だ！ 早く探し出せ。

レイヤーチーズ 叛逆者はこゝにゐる、ハムレットさま。

あなたの命もない。

世界中のどんな靈藥も用をなさず、

もう半時のお生命もござりません。

あなたのお手にあるものが、不義背信の道具、

尖留めがなく、毒が塗られてあります。この奸計は、

己れに還つて來ました。御覽下さい、私も、こゝに倒れ

て、

二度と起つことは出来ません。お母上は毒殺されました。

もう、力及ひません。王こそ、王こそはその罪人です。

ハムレット この尖端！——それに毒まで！

では、毒よ、汝の仕事を果せい。

王を突き刺す。

一同 大逆、大逆！

王 おゝ、方々、護つてくれい。ほんの手傷を負うたど

けだ。

ハムレット おのれ、邪姪、非道、殘虐、墮地獄の呪ひを
受けたデンマーク王、

この一杯を飲みほせい。汝の大眞珠はこゝにあるのか？
母上の跡を追へやい。

王、死す。

レイヤーチーズ 彼には正當の報復です、

その毒こそ、彼みづからの盛つたものですから。

ハムレットさま、どうぞ私と心からの赦しを、取り交して
下さい。

私の死も、父の死も、その咎、あなたの上に墜ちかゝら
ず、

又あなたの死も、私の責となりませぬよう！

と言ひつゝ死ぬる。

ハムレット 願はくば天もその罪を許し給はんことを！

やがて後を追ふぞ。

ホレイシヨ、もう予の命はない。いたはしい母上、おさ
らば！

皆々、この不時の災厄に顔蒼さめ、震ひをのゝき、

この慘劇には、單に無言役、又は聽衆となつてゐるが、

若し予に時さへあらば——死といふ苛酷な警吏が、

捕縛を少し猶豫してくれたら——おゝ、語るべき事は多
多ある——

しかしどうでもよい。ホレイシヨ、もうこれまでだ。

御身は生きながらへて、予と予の志のあるところを

知らぬ人々に、正しい事を傳へてくれ。

ホレイシヨ 思ひもありません。

私はデンマーク人たるよりも寧ろ古へのローマ人になり
ます。

こゝにまだ毒液が残つてゐる。

ハムレット 男なら、

その杯をこちらへ寄せ、離せ、いゝや、予が飲む。

おゝホレイシヨ、かうして事のわけが分らないでゐると、

どういふ汚名が、予の死後に残らうも知れぬ！

御身若し予を思ふ心に變りなければ、

暫し天に往くの幸福をさし控へ、

この世に惱ましい呼吸をつとけ、

予が爲めに事の詳細を語つてくれ。

遠く進軍喇叭、内に大砲の音。

何と勇ましい物音ではないか？

オズリック 若いフォーチンブラスが、ポーランドから凱

旋し、又

イギリスの使臣來着の爲め、

この禮砲を放ちます。

ハムレット おゝ、最後は來た、ホレイシヨ。

あの激しい毒藥は、予の元氣を悉く蹴倒してしまふ。

もう生きてイギリスの報道しらべを聞くことは出來ぬ。

予は豫め遺言する、わが國の王嗣を、

フォーチンブラスに定めよう。予も斷末魔の一粟を投じ

る。

どうか彼に仔細を事こまかに語つてくれ。……おゝ餘は

沈黙!

ハムレット、息絶ゆ。

ホレイシヨ けだかき御心も今は碎けた。おさらばでござ

います、麗はしの王子、

天使の群むらは來つて、永久の安息へと歌ひ伴ひ給へ!……

陣太鼓の此方こなたに近づくのは何故か?

内に進軍の曲。

フォーチンブラス、イギリス使臣、その他登場。

フォーチンブラス この光景は? 此處はどこか?

ホレイシヨ 何を御覽になりたいとなされるか?

若し慟哭しゅうくと驚歎の珍事ならば、これ以上お探しになる必

要はございません。

フォーチンブラス この死骸の山は無慈悲の虐殺を語る。

おゝ驕慢かうまんな死の神よ、

何といふ饗宴が汝の地獄の穴庫に開かれることか?

汝は一撃のもとに、かう多くの貴人を、

よくも無慚むざんに打倒した。

第一使臣 何たる惨ましい光景、

我等がイギリスから齎もちした消息も、すでに遅い。

我等を接見して、報告を聞くの耳はもはや感覺を失うた。

その大命は成就され、

ローゼンクランツ、ギルデンスターンは亡なき者になつた

が、

どこに感謝の辭ことばを求めよう?

ホレイシヨ 少なくとも王の口からは求め難いでせう。

よしや王が生きて感謝する力を持ちませうとも。

王は兩人の死の命令を發しなかつたのです。

それはともあれ、まさしくこの悲壯の事變に際し、

あなたはポーランドの戦争から、兩卿にはイギリスから

御來朝を幸ひ、命を下して、これらの死骸を高く壇上に

据ゑませう。

私は未だ何事も知らない世人に對し、

事のこゝに到つた顛末を語りませう。さすれば方々に於

ても理解せられるであります。

邪姪、殘虐、非道の行爲、

偶然の裁斷と思はぬ殺人、

奸智により、又止み難き事情に強ひられての死、

そして最後の大破綻に、計畫は外れて、

たくめる者の頭に報復した一條、すべてこれらを、

ありのままにお話しませう。

フオーチンブラス 急ぎ聞かせて貰ひたい、

そして國內の高貴の人々を呼び集へられい。

予に取つては、哀愁と共にわが幸運をも抱き迎へよう。

予は人も知る如く、この王國繼承の權利を持つてゐるが、

目下の予の優勢は、これを要求せよと誇うてゐる。

ホレイシヨ それにつき、私も亦一言を發する理由をも

ち且又こゝに私のお傳へしようとするお方の御遺言は

更に多くの人々をこれに賛同せしめるであります。

人心なほ未だ恟々たる間に、只今私の申した事を、

すぐさま實行しなければ、或は陰謀や誤解などいふ

この上の災厄が来るやも計られませぬ。

フオーチンブラス 四人の隊長をして、

ハムレット王子を勇士たるの禮を以て、壇上にかき行か

せい。

この君恐らく、機會をだに得ば、

王者たる威容を示したであらうに。即ちこゝに

軍樂を奏し、戰陣の式を備へ、

王子の爲めにその儀を盛んにしよう。

死骸をかつぎ上げ、かやうな光景は、

戰場にこそふさはしいが、こゝでは大なる不幸を示すば

かりだ。

さ、兵士に甲砲を放たせい。

死の進行曲。死骸を運びながら一同退場。

つゞいて一發の大砲の音。

了

ジューリヤス・ シーザー

人物

ジューリヤス・シーザー。

オクテーヴィヤス・シーザー

マールカス・アントーニヤス（マ

ーク・アントニ）

マールカス・イミリヤス・レピダス

シサロ

パブリヤス

ポピビリヤス・リリーナ

マールカス・ブルータス

カシヤス（ケイヤス）

カス

トリポニーヤス

ライゲリーヤス

シーザー死後
の三執政官。

元老院議員。

ジューリヤス・シーザーを
暗殺せんとする徒黨。

ジューリヤス・シーザー

デイトシヤス・ブルータス

メテラス・シムバ

シンナ

フレヴィヤスとマララス 町役人。

ナイドスのアルテミドローラス 修辭學の教師。

一人の豫言者。

詩人のシンナ。今一人の詩人。

リニウシリヤス

チチンニヤス

メッセーラ

小ケイト

ヴォーラムニヤス

プロ

クライダス

クローデヤス

ストレート

ルーシヤス

ダーデインヤス

ピンダラス

カルパニーヤ

ブルータス及びカシヤスの味方。

ブルータスの従僕。

カシヤスの従僕。

シーザーの妻。

ポー シャー ブルータスの妻。
元老院議員、市民、番兵、従者その他。

場所

ローマ。サーデイス及びフィリップパイ附近。

第一幕

第一場 —— ローマ。街上。

フレイヴィヤス、マララス及び數多の市民登場。

フレイヴィヤス あつちへ行け！ 歸れ、なまけ者奴が、
家へ歸れ。

今日は休み日か？ エッ！ 知らない筈はない、

職人の癖に、仕事日に

自分の職業の目標を着けずに歩いては

ならぬといふことが。……おい、お前の商賣は何だ？

第一の市民 なにね、旦那、大工でさあ。

マララス どこにある、貴様の皮の前垂と曲尺は？

晴衣を着飾つてどうするのだ？……

おいこら、貴様の商賣は何だ？

第二の市民 ほんとのところ、旦那、立派なお職人様と

較べれば、それ、世間でも言ふ通り、たかど拙な直し

屋ですよ。

マララス 商賣は何だと訊いてるんだ。まつすぐに返答

しろ。

第二の市民 へい、旦那、その、誰にも恥かしくないと思ふ

商賣でして。その、何ですよ、旦那、底の悪いのを繕ふ商賣でさあ。

マララス 何だと？

何商賣だといふのだ？ 横着者奴が。分らず屋の横着者、

第二の市民 ま、どうぞ、旦那、さう機嫌をお損じな

さいますな。尤も、旦那がお損じなされりや手前が繕

つて進ぜませんがね。

マララス そりや何といふ意味だ？ 俺を繕ふ！ いた

づら者奴！

第二の市民 なあに、旦那、あなた様のくつゝを直して

進ぜますよ。

フレードヴィヤス お前は靴直しだな？

第二の市民 ほんとのところ、旦那、手前の暮してゆきます資本は、たつた一本の大針でさあ。手前はどんな商賣の人とも張り合ひもしなけりや、女子にも手だしはせず、手だしするのは大針だけでさあ。實際、旦那手前は古靴の外科醫者で、そいつが危篤になると、皮をかぶせて治します。小牛皮を踵に踏んでみなざる立派な方々のは、みんな手前の手にかゝつたのでしてね。フレードヴィヤス だが、なぜ今日店にゐないのか？

この連中を街中引きずり廻すのは、一體なぜだ？

第二の市民 それはね、旦那、みんなの靴を穿きへらさ

せて、手前がこの上とも仕事にありつかうてんですよ。だが、實のところは、旦那、仕事を休んで、シーザー様をお迎へし、勝ち戦のお祝ひをする積りでございます。

マララス 何のお祝ひだ？ シーザーがどんな戦利品を
持つて歸るのだ？

どんな屬國の王侯が捕虜となつて彼の戦車を飾り、
後に隨つてこのローマに来るといふのだ？

木片か、石くれか、非情のものよりもつと悪い奴等！
おゝ、心の頑な、情け知らずの素町人奴！

お前達はボンベイ様を忘れたのか？ 幾度となく塀に登り、銃眼に攀ぢ、

塔へも、窓へも、さうだ、樞突の頂達までも這ひ登つて、
幼な兒を腕に抱へ、日がな一日

そこに坐つて、今か今かともどかしさうに、

大ボンベイ様のローマの街々御通過を待つてゐた、

そしてお車が見えるか見えぬに、

お前達は一齊に歡呼の聲を上げたではないか？

その爲めに、タイパー河は堤の下に震へ戦ひ、

お前達の聲の反響が

空ろになつた岸に響くの聞いたからだ。

それなのに今となると、晴衣を着飾るのか？

休み日を一日造らうといふのか？

ボンベイ様の御子孫を打ち破つて歸つてくる男の歩む道

に花を蒔き散らさうといふのか？

行け、行け！

家へ戻け戻つて、兩膝を突き、

神々様に御祈禱して、疫病免除を願ふがよい。

さもなければ、恩知らずの貴様等に、きつと天罰がやつ

て來るからな。

フレイヴィヤス さあ、行つた、そしてこんな
過ちをしたお詫びに、

お前たちみたいな貧乏人を残らず集めて
タイパー河の堤へ連れてゆき、懺悔の涙を
流れに注ぎこんで、水嵩は如何に低くとも、
必ず高い岸さへも水びたりにさせるがよい。

市民一同退場。

見給へ、下賤極まる奴等でも感じ入つたではないか。
自分達が悪いので、舌を縛られて消えて行つた。

君は議事堂へ出るあつちの道を行き給へ。

俺はこつちを行かう。立像からひつぱがすのだけ、
儀式めいた物で飾つてあるのを見付け次第にな。

マラス 差支へないかね？

そら、今日はリュウバルの祭日だが。

フレイヴィヤス 構ふものか。どんな立像だつて、

シーザーの勝利の印(冠)を掛けて置かしてはならん。

俺は巡回して

街々から賤民どもを追つ拂つてくれよう。

君もさうし給へ、集つてゐるのを見たら何處でもよい。

こんなに延びてくる羽毛をシーザーの翼から搦つてさへ

置けば

彼奴ともそんなに高くは飛べまいが、

さもないと、彼奴、人間の眼の届かない高さに翔けるだ

らう、

そして俺達は、みんな卑しい身分となり、びく／＼もの

でゐなくてはならないのだ。

二人退場。

第二場

——公けの場所。

フラリッシュ調の喇叭。

シーザー、神事の競走の用意をしたアントニ、カル

パーニヤ、ポーシキ、ディーシヤス、シサロー、ブルー

ダス、カシヤス及びカスカ登場。大勢の群集が後に

ついてゐる、その中には一人の豫言者がある。

シーザー カルパーニヤ！

カスカ 静かに、静かに！ シーザーのお言葉だぞ。

音楽止む。

シーザー カルパーニヤ！

カルパーニヤ はい。

シーザー アントニーヤスが駆けて行く時、
その直ぐ前に立つておいで。……アントニーヤス！

アントニ はい、シーザー。

シーザー アントニーヤス、君が走つて行く時に、忘れ
ないで

カルバーニヤに觸つてやつてくれ。故老の話に

不妊婦も、この神聖な神事の競走の折に觸つて貰ふと
不妊といふ呪ひを振ひ落すさうだから。(シーザーは妻に)

アントニ 必ず忘れは致しません。

シーザーが「かくせよ」と仰せある以上、必ず行ふでござ
いませう。

シーザー 始めよ。儀式は一つも省略してはならん。

フラリッシュ調の喇叭。

豫言者

シーザー！

シーザー おゝ！ 誰だ、呼ぶのは？

カスカ 音楽をみんな止めさせろ。もう一度静かにせ
い！

シーザー 誰だ、群集の中から予を呼ぶのは？

どの音楽よりも鋭い聲で、「シーザー！」と
呼ぶのを聞いた。言へ。シーザーは聞かうとしてゐるぞ。

豫言者 三月の十五日を御警戒なされよ。

シーザー あれは何者か？

ブルータス 豫言者で、三月の十五日を御警戒なされよ

と言つて居ります。

シーザー 予の前に連れて来い、顔を見てやらう。

カシヤス こら、人込みの中から出て、シーザーを仰ぎ

見ろ。

シーザー さあ、お前は何を言ひたいのか？ もう一度

言つて見よ。

豫言者 三月の十五日を御警戒なされよ。

シーザー これは空想家だ。放つて置け。進め。

セネット調の喇叭。ブルータスとカシヤスを除いて

他の者一同退場。

カシヤス 競走の式を御覽に行かれませんか？

ブルータス 私は行かない。

カシヤス まあ、お出でなさいよ。

ブルータス 私は遊び事を好まない。アントニのやうな

あんな快活な氣象があまりないのだ。

私にはお構ひなく、カシヤス君、君はどうぞ。

私はこれで失禮しよう。

カシヤス　ブルータス君、ほんの近頃氣づいた事だが

あなたのお眼から、以前のやうなあの柔和さ、

あの親しみの様子が見えなくなりました。

あまりに頑固な、あまりに餘所々々しい態度を以て

あなたを敬愛する友人のこの私をもお取扱ひなされる。

ブルータス　カシヤス君、

誤解してはいけない。私の顔に薄ものがかゝつてゐるに
しても

この顔に現はれる惱みは

全く自分だけのものだ。近頃私には、

心中に争ひ合つてゐる強い感情や、たゞ私だけに

特有ないろ／＼の思想があつて、そのために惱まされて

ゐる、

これが、多分私の動作に幾らか難すべき汚點を與へるの

だ。

だが、そのために、わが親友諸君——無論、カシヤス、

君もそのうちの一人だが——

その親友諸君に心配をかけたくもなく、

又、この動作をあまり立ち入つて解釋されても困る。

この憐れむべきブルータスは、みづからの心に相戦ふも

のがあり、

他人に對して親愛の意を表することを失念したといふに

過ぎないのだから。

カシヤス　では、ブルータス君、私はあなたの惱みを大

へん誤解して居りました。

その爲めに、大切な考へを、是非申し上げねばならぬ氣

持を、

私のこの胸に深く藏めてみました。

ねえ、ブルータス君、あなたは御自分のお顔を御覽にな

れますか？

ブルータス　それは出来ない、カシヤス君、眼は眼自身

を見ることは出来ない。

たゞ反射によつて、何か他の物によつて見るだけだ。

カシヤス　その通りです。

で、ブルータス君、甚だ歎かほしいことは、

あなたが鏡を持つてゐられないことです。鏡があれば、

あなたは御自分の隠れた價值を映し、

御自分の姿も見られたことでせう。それにつけても、

ローマで最も尊敬せられてゐる多數の人々、
——無論不死不滅のシーザーだけは別だが——その人々

がブルータスの噂をして、

現時の極枯のもとに呻いてゐる際、

あの高潔なブルータスが己れを見る眼を持つてゐたなら

ばと、残念がつて居りました。

ブルータス カシヤス君、どんな危険な處へ私を誘つて

行かうといふのだ、

私を持つてもゐないものを

持つてゐるかのやうに思はせて？

カシヤス だから、ブルータス君、まあ、聞いて下さい。

あなたは、反射によらずに十分に自分を見ることは

出来ないと思つてゐられる以上、私があなたの鏡となり、

ありのままにお見せしませう、

あなた御自身について、まだ御存知のないことを、

だから、ブルータス君、私を疑はないで下さい。

私が萬一世間にありふれた氣輕者であつたり、又は

新たに交り求めて來る者には、誰かまはずにつまらぬ

誓言を立て、

自分の友情を薄つべらにするやうな男だつたら、若し又

人に追従を言つたり、堅く抱擁したりする癖に、

蔭ではその人の悪口を言ふやうな男とお考へなら、或は

宴席でどんな飲み仲間にも友愛を高言するやうな

そんな者とお思ひなら、それこそ私を危険な男とお考へ

下さい。

奥でフラリッシュ調の喇叭吹奏、歡聲。

ブルータス あの歡呼の聲は何だらう？ 若しや人民が

シーザーを選んで王としたのではないかしら、氣遣はし

い。

カシヤス あゝ、あなたもそれをお氣遣ひですか？

では、あの男を王にはしたくないとお考へに相違ない。

ブルータス 王にはしたくない、カシヤス。でも私は彼

を十分に敬愛してゐる。……

それはさうと、なぜ君はこんなに長く私を引き留めるの

だ？

何だね、私に話したいといふことは？

若し何か一般民衆の福祉となる事なら、

一眼には名譽、他の一眼には死が置いてあつても、

私は差別をつけずに兩方を眺めよう。

神々も照覽あれ、私が名譽を重んずるは

決して死を怖るゝにも劣りはしない。

カシヤス ブルータス君、あなたにその徳のあることは

よく存じてゐます。

外に現はれたあなたのお顔を存じてゐると同じやうに。

ところで、その名譽こそ私のお話ししようとする事です。

私は、あなたや又他の人々が目下の生活をどうお考へか

それは存じません。けれどもこの私だけは、

私自身と少しも變らないあんな者に、びく／＼怖れをな

して

生きてゐる位なら、生きてゐない方がましなのです。

私はシーザー同様自由な身に生まれました。あなたとして

もさうです。

我々二人とも彼と同様飲食もし、

冬の寒氣にも耐へることが出来るのです。

まあ、こんな話があるのです、或る時、はげしい疾風の

日に、

波立ち騒ぐタイバー河の水が、兩岸にぶつつかつてゐた

が、

シーザーは私に言ひました、「カシヤス、

今わしと一緒にこの怒濤のなかに躍り込み、

向う岸へ泳ぎつくことが出来るか？」言ひも終らぬに、

私は衣服をつけたまゝ、ざんぶと飛び込み、

隨つて来いと言つてやりました。その通り彼は隨つては
来ました。

大波は怒號してゐましたが、二人は血氣に任せて

流されまいと競ふ心を振り起し、

波をかき分けて進んで行きました。

ところが、自分で言ひ出した向う岸にまだ達もしない

のに

シーザーは悲鳴を上げて、「助けてくれ、カシヤス、沈み

さうだ！」

私は、祖先のイーニーヤスが

老アンカイシーズ(イーニーヤスの父)を肩にかけ、

トロイの火焰から救つたやうに、タイバーの波間から、

疲れきつたシーザーを救つてやつたのです。それなのに

この男は

今では神様になり、カシヤスは

惨めな一個の人間で、

若しシーザーがちよいと背きでもしようものなら

身を尺なりに曲げねばならないのです。

彼がスペインにゐた頃、熱病に罹つて、

發作が襲つて来ると、私はよく見てゐましたが、

震へるの震へないのつて。眞實ほんじつのことです、あの神様が
胸震むねふるひしをつた。

彼の臆病な唇は色を失ひ、
そしてあの眼、その一睨ひとみみで世界を憎服にくましようといふあ
の眼は

光を失つた。呻うなくのさへ聞きました。

さうです、それにあの舌、ローマ人をして

その言ふところを注意せしめ、一言一句を書物に書き記

させるあの舌が、

あゝ、こんなに言つて泣くのです、「少し飲み物をくれ、

チチンニヤス」

まるで病氣した小娘です。……ほんとに驚き入つたこと
だ。

あんな虚弱な男が

堂々たる大世界の先頭に立ち、

獨りで榮冠えいかんを擁ようはうとは。

歡聲、フラーリッシュ調の喇叭。

ブルータス また大衆の歡呼の聲だ！

きつとこれは、シーザーに重ね與へられる

何か新しい榮譽のための喝采に相違ない。

カシヤス どうです、彼奴あいつが世界を狭しと踏みはだかる

あの様は、

まるでコロサス(古のローマ島に立つてゐた十二丈の巨像)のやうだのに、我々ち

つばけな人間どもは

その巨おほきな脚下あしもとを歩き、覗き廻つて

自分で不名譽な墓を探してゐるのです。

人間も時には運命の主人あるじとなる。

ブルータス君、我々が下司げしな人間となつてゐるのも

その罪我々の宿運にあるのではなくて、我々自身にある

のです。

ブルータスとシーザー、その「シーザー」に一體何がある

のか？

なぜあの名があなたの名前よりも響くのか？

一緒に書いて見ても、あなたも同じく立派な名前です。

一緒に呼んで見ても、その口調に何の變りもない。

秤はかりつて見ても、同じ重さです。咒まじなひに使つたら、

ブルータスもシーザーに劣らず素早く惡鬼あくおにを追ひ出しま

せう。

あらゆる神々の御名みなにかけて一齊に尋ねたい、一體

どんな食物をこのシーザーが食たべてゐるから

こんなにまで大きく肥るのか？ 現代よ、お前は辱しめられてゐるのだ！

ローマよ、お前は高邁な精神の血統を失つたのだ！

大洪水以來、いつこんな時代があつたのか、

名聲ある者がたつた一人しかないといふやうな時代が？

ローマの昔を語る時、この廣大な城壁が

たゞ一人の人間を圍んでゐたといふやうな時が、今までにあつたと言へるか？

なるほどローマだ、十分のゆとりがある、

何しろ、中に入つてゐるのはたつた一人だからな。

お、あなたにしても私にしても、父の話を度々聞きま

した。

昔ブルータスといふ人がゐて、地獄の悪鬼に

ローマの政權を許しても、王なんぞを戴くことには我慢

が

出来ないと言つた話を。(傳説的なローマ共和国の創始者で、王國を企てた息子等を利したといふ)

ブルータス 君が私を愛してゐることは、何の疑ひもな

い。

私にどういふことをさせようとしてゐるかも、ほど推測

はつく。

その事や、また現下の狀況を私がどう考へてゐるかは後刻懇談しよう。友情を以てお願ひするが、

目下のところ、これ以上

説き勧められることを欲しない。既に話された事は

熟考もしようし、なほこの上に言はるゝことは

ゆつくりと聴き、又かやうな事柄を

聞いたり答へたりするに適當な時を見出ださう。

その時まで、どうか、この事を玩味して置いてくれ給へ、

このブルータスは寧ろ一介の田夫野人となり、

ローマの兒たることを公言するのを止めよう、

現代が我々に課さうとする

あんな苛酷な條件のもとに生活する位ゐなら。

カシヤス 私の纖弱い言葉が、それほど迄にもブルータ

ス君から火花を渡せしめたとは喜ばしい。

ブルータス 遊戯が終つて、シーザーが歸つて来る。

カシヤス 人々の通りすがるとき、カスカの袖を引いて御

覽なさい。

彼れ一流の皮肉な調子で、今日の出來事のうち、

重なる事をお話しするでせう。

シーザー及びその従者等再び登場。

ブルータス さうしよう。だが、見たまへ、カシヤス

君、

例の青筋がシーザーの額にてか／＼して、

残りの連中は、叱られた下人のやうな顔をしてゐる。

カルバーニヤの頬は蒼ざめ、シサローは

貂のやうに眞赤な眼をしてゐるが、あんなのは

議事堂で會議の際、二三の議員どもに

反對せられた時に見たことがある。

カシヤス 何事だか、カスカが話してくれませう。

シーザー アントニーヤス!

アントニ はい、シーザー。

シーザー 予の身の周りには肥つた者を置いて貰ひたい

頭をてか／＼と光らせ、夜もよく眠るやうなのをな。

あそこにあるカシヤスは、瘦せて、餓鬼のやうな風采を

してゐる、

あまり考へ過ぎるのだ。あんな男は危険だ。

アントニ 彼を怖るゝには及びません、シーザー。彼は

危険ではありません、

高潔なローマ人で、氣立のよい人物です。

シーザー もつと肥つてゐたらなあ! なに怖れはしな

い。

だが、たゞ、このシーザーが物怖ぢすることがあるとす

れば

あの貧相なカシヤスこそ第一番に遠ざけたいと思ふだら

う。

あの男は讀書をし過ぎるし、

觀察の仕方でも立派だし、他人の行爲の

底までも見抜く男だ。お前とは違つて、アントニ、

遊戯は好かないし、音楽も好まない。

笑ふことも稀だが、偶々笑つても、その様子といへば、

こんな事に心を動かされて微笑するなど、

みづから嘲り、己が心を蔑むやうな笑ひ方だ。

あゝいふ男は、自分よりも偉い人間を見ると、

決して心を安んじない。

だから非常に危険なのだ。

こんな話をするのも、何を怖るべきかを言ふため、

わしが怖れてゐるといふのではない。わしはいつでもシ

ーザーだからな。

右の方へ来てくれ、こつちの耳は聾だから。

お前はあの男をどう思つてゐるか、正直に言つてくれ。

セネット調の喇叭。シーザー及びその従者退場。カスカだけ残る。

カスカ 私の外套をお曳きでしたね。何か御用があるのですか？

ブルータス さうです、今日どんな出来事があつたので、

シーザーはあんなに殿しい顔をしてゐたのですか？

カスカ おや、御一緒ではなかつたのですか？

ブルータス 一緒にゐたら、何事が出来たか、君に聞きはしないのです。

カスカ

なあに、王冠を捧げたものがあつたんです。それが捧げられると、彼は手の裏で斥けたんです、こんな風にね。すると忽ち人民どもの歡聲だ。

ブルータス 二度目の物音は何ですか？

カスカ やつぱり同じことです。

カシヤス 三度喚いたね。最後のは？

カスカ え、やつぱり同じことさ。

ブルータス 三度も王冠が捧げられたのですか？

カスカ さうです、いかにもさうです。で、彼は三度と

もそれを斥けました、後になるほど、前よりはやさしくしましたがね。そしてその度に、正直な市民どもは

喝采したのです。

カシヤス 誰が捧げたかね？

カスカ そりや、アントニさ。

ブルータス その様子を話して下さい、カスカ君。

カスカ それを話す位めなら、首でも絞められた方がましですね。全く道化芝居です。氣をつけてもゐませんでした。ともかくマーク・アントニが彼に王冠を捧げるのを見ましたが——尤も王冠なんかぢやなくて、貴族達の冠でしたよ——今も申す通り、彼は一度それを斥けた。が、察するところ、よつぽどそいつが欲しかったらしいのです。それから二度目に捧げられた。すると又斥けた。だが、私の見たところでは、非常にいや／＼ながら手を離してゐましたよ。それから三度目に捧げられ、三度目も彼は斥けた。そして彼がそれを斥ける毎に、愚民どもは大騒ぎして、戦われた手を拍き、汗臭い夜の帽子を投げ上げ、シーザーが王冠を斥けたと言つては、胸の悪くなるやうな息を吐き出すので、とう／＼シーザーは、どうやら息が詰つてしまひ氣が遠くなり、そしてその場にぶつ倒れたのです。私は私で、笑ふことさへ出来なかつたんです、唇を開け

て悪い空氣を吸つてはいけませんからね。

カシヤス　ま、ちよつと待ち給へ。え、シーザーが氣が遠くなつたつて？

カスカ　市場で卒倒し、口には泡を吹き、物も言へなかつた。

ブルータス　ありさうな事だ、彼には卒倒する持病があるのだから。(編輯のこゝ)

カシヤス　いや、シーザーにあるのでなく、あなたや私や、正直なカスカなどに卒倒する病氣があるのですよ。

カスカ　それはどういふ意味か知らないが、確かにシーザーは卒倒しました。なにしろ下層民共は、自分等の氣に入れば彼に向つて喝采するし、氣に入らねば怒鳴り立てるし、丁度劇場で俳優共に向つてするのと同じやうな有様でした、こりや嘘ぢやありません。

ブルータス　正氣に返つた時、シーザーは何と言ひました？

カスカ　卒倒する前に、王冠を斥けたのを平民共が喜んだ事が分ると、彼は上衣の胸元を押し披き、奴等に向つて、さあ切つてくれとその喉を差し出しました。もし私が何か職を持つてゐる市民で、それで言葉通りに

彼をやつつけなかつたなら、それこそ惡黨に交つて地獄に行つてもよいと思つた位です。それからあの通り倒れた。再び我に返つた時、彼はかう言ひました。

「もし何か間違つたことを行つたり、言つたりしたら、どうか諸君よ、それは病氣のせみだと思つて貰ひたい。」つて。すると私の側に立つてゐた三四人の女郎どもが、「まあ、なんて立派なお方！」と叫んで、心から彼を宥してやつた。だがあんな奴等は、別に氣にとめるにも及ばない。母親がシーザーに刺し殺されたつて、同じことを言ふ手合ひだからね。

ブルータス　それから、あんな厳しい顔をして歸つたのですね？

カスカ　さうです。

カシヤス　シサローが何か言つたかね？

カスカ　あゝ、ギリシヤ語で何か喋つた。

カスカ　どういふ事を？

カスカ　いやどうも、それを話さうものなら、二度と顔は會はされぬ。だが、彼の言つたことの分つた連中は、互に顔を見合せて薄笑ひし、首を振つてゐた。なにしろ私に取つてはちんぷんかんぷんのギリシヤ語で

ね。あゝ、まだ話があつた。マララスとフレイヴィヤス、この二人はシーザーの立像から飾り物を引つばがした廉で、証實を受けたよ。左様なら、まだ澤山馬鹿げた事があつたんだが、一々覚えておられない。カシヤス カスカ君、今夜一緒に夕飯をつき合はないかね？

カスカ いや、先約がある。

カシヤス 明日ならつき合つて呉れるかね？

カスカ よろしい、私が生きて居り、君の心も變らず、又その食事がうまく食へるものならばね。

カシヤス よし、待つてゐるよ。

カスカ どうぞ。左様なら、御兩君。

退場。

ブルータス あの男、なんて愚鈍になつたのだらう！

學校へ行つてゐた頃は、敏腕な素質だつたが。

カシヤス いえ、今でもさうですよ、何か大膽な

或は立派な大事を實行するとなると、

あんなのろくさい様子を表面にはしてゐてもね。

あの無骨なのが持前の智慧に對して薬味の代りとなり、

食欲をまして彼の言葉を消化させ

一層おいしく食べさせるのです。

ブルータス なるほど。ともかく今日はこれで別れよう。

明日、何か私と話したい事があれば、

君の處へ出かけてもよい。それともお望みなら

宅へ来てくれ給へ。お待ちするから。

カシヤス ではお伺ひ致します。それまで、世間のこ

とを考へて置いて下さい。

ブルータス退場。

さてブルータス、君は君子人だ。だが俺には分る、

君の名譽を重んずる素質も、細工の仕様によつては

その欲する所から逸れることもあり得ないことはない。

だから高潔な心の者は

いつでも同じやうな者と交はることが適當なのだ。

口説き落されぬほど堅固な人はないからね。

シーザーは俺には辛く當るが、ブルータスは愛してゐる。

今俺がブルータスで、彼がカシヤスだつたら、

俺の機嫌を取つて操るやうなことをさせはしない。……

俺は今夜彼の窓の處へ、いろ／＼な筆蹟で、

丁度別々の市民から來たかのやうに

手紙を投り込まう、どれもこれも、ローマが

彼の名について抱いてゐる絶大な敬意を暗示するやうな
事を書いて。又その中には漠然と

シーザーの野心も仄めかすことにしよう。

それでもなほ、シーザーがしつかりと椅子に嚙りつくな
ら、どうともなれ、

我々は彼を振り落してくるから。でなければ、いつま
でも悪い日が續くがいゝ。

退場。

第三場 — 同所。市街。

雷鳴電光。互に反対の側から抜劍したカスカとシサ

ロー登場。

シサロー 今晩は、カスカ。シーザーを家までお送りか？

なぜ息を切らしてゐるのだ？ なぜそんなに目を睜つて

ゐるのだ？

カスカ あなたは驚かないのですか？ 大地の全體が鈞

合ひをなくしてぐらくと震へ戦いてゐるのに。おゝ、

シサローさん、

私は今迄に、怒り猛る風の爲めに瘤だらけの櫓の木まで

引き裂けるほどの暴風雨も見ました、又野心満々たる荒

海が

逆巻ぎ、怒り、泡立ち、威嚇する雲と

高きを競ふのも見たことがあります。

けれども今夜まで、たつた今まで、

火を降らす嵐の中を通つた事はなかつたのです。

天上界に内亂があるのか、

それともこの世界が、神々に對してあまり無禮なので、

怒りを買うて破滅を招いたのか？

シサロー え、君はそれより他にもつと不思議な事を見

たのか？

カスカ ほんの普通の奴隷がゐましてね——そんなのは

ちよつと見ると分りますが——

それが左の手を擧げてゐました、すると

二十の炬火を束にした位の、炎々と燃え上つてゐたので

す。しかも手そのものは

熱さうでもなければ、焼け爛れもしないのです。

その上、議事堂の向ひ側で一頭の獅子に出會ひましてね、

——私はそれ以來劍を收めないでゐるのです——

それが私をぎろく見、害はしなかつたが、

物凄顔をして行き過ぎました。それからまた、百人ばかりも、

眞蒼な女共が一團となつて集まり

恐怖のあまり顔色を變へ、そして

全身火になつた人達が市街を上下に歩いてゐたのを見た

と斷言してゐました。

それから昨日は、夜の鳥の梟が

眞晝間に市場に来て

ホー／＼鳴いたり叫んだりしてゐました。こんな前兆が

かう一時に集まる以上、「その理由はこれ／＼だ、

これは自然の事だ」と言はせるわけにはゆきません。

私は確信します、この國に對して

何か不吉な豫言に相違ありません。

シサロー 全く、不思議な時代だ。

併し、人といふものは勝手氣儘に事を推測し

物そのものゝ目的と全然異なることもあり勝ちだ。

シーザーは明日議事堂へ出られますか？

カスカ 出られます。アントーニヤスに言ひつけて、

明日は出席するとあなたに傳言して居られましたから。

シサロー ではお休み、カスカ。こんな不穩な空の下は

歩いてゐるべきではない。

カスカ さやうなら、シサローさん。

シサロー退場。

カシヤス登場。

カシヤス 誰だ？

カスカ ローマ人だ。

カシヤス カスカだな、聲から察すると。

カスカ いゝ耳だ。カシヤス、何て晩だらう今夜は？

カシヤス 大層愉快な晩だよ、正しい者にはな。

カスカ 天がこんなにまで威嚇した例しを知つてゐる者

があるだらうか？

カシヤス あるさ、地がこんなにまで正道を踏みはずし

たといふことを知る者ならな。

俺自身は、町々を歩き廻つて

この危険極まる夜に身を曝し、

カスカ、君の見らるゝ通り、こんなにボタンまではづし、

胸をあらはにして電光に曝されて来た。

そして青い十字の電光が天の懷をも

開くと見えた時、その閃きの

眞中にさへ體を突き出してゐたよ。

カスカ　だが何の爲めにそれほど天に戦ひを挑むのだ？

怖れ戰あついてゐるのが人間の本分だ、

強大な神々が、これこの通り、怖ろしい

前兆を下して我々を驚愕せしめておいでだからね。

カシヤス　君は感じが鈍まろいぞ、カスカ、

ローマ人なら當然持つてゐるべき生命の火花ひばなを缺かいてゐるか、

でなければ、それを用ひないのだ。君は色蒼あそざめ、目を

睜めり、

恐怖と驚駭きやうがいに包まれて

天の不思議なお腹立てを見てゐる。

が、若し君がその眞の原因を考へたら——

あの怪火かいは何故か、あの滑すべり行く亡靈は何の爲めか、

どうして鳥獸ちゆうぶつがその本性を變へるのか、

なぜ老いたる者は愚おろかに返り、小兒せうじが却つて豫言よげんをするか、

何故すべての物はその秩序たつぎを亂し、

その性質、その本來の機能きんねんを變じ

奇怪至極の性状けいがいしごくを呈するかを考へたら、——無論君に分

らずにはゐない筈だ、

天がかういふ現象げんじやうを藉かりて、

この人間界の不自然極まる状態に對して、

恐怖と警戒を與へてゐるといふことが……

さて、カスカ、俺はある一人の男を知つてゐるが、

正しくこの怖ろしい夜に似た男だ、

雷鳴かみなりを起し、電光かみなりを發し、墓あはをも發あはき、議事堂前の

獅子のやうに吼ほえてゐる。

個人としては、君や俺に比べて

少しも偉えらくはないのだが、いま／＼しい勢力を得て

怖ろしいものになつてゐる、丁度目前の奇怪な事變その

まゝだ。

カスカ　それはシーザーだらう、カシヤス？

カシヤス　誰たれでもよい、今日こんにちだつてローマ人は

祖先せんぜんに負けない筋骨や手足てあしを持つてゐるのだから。

だが、あゝ、情なさけないことだ！我々の父から受けた男ら

しい精神は死滅しめつした、

我々は母から受けた心だけで支配しはいされてゐる。

我々が桎梏くわくのもとに惱なげんでゐる様は、まるで女のやうだ。

カスカ　全くだ。さう言へば、元老院議官えんろういんぎどもは、明日

シーザーを王おうに選定せんていするといふ噂うわさだ。

すると彼は王冠おうかんを着けて海陸かいりくに君臨きんりんし

あらゆる地方に王となるのだ、たゞこのイタリーだけは別だが。

カシヤス さりなれば、この短剣をどこに帶ぶべきかを俺は知つてゐる。

カシヤスは奴隷の状態にゐるカシヤスを救つてやる。

かうして、神々よ、あなたは弱き者を最も強くなし給ふ、かうして、神々よ、あなたは暴君を失策らせ給ふのだ。

石の塔でも、打ち鍛へた眞鍮の壁でも、

空氣も通はぬ地下獄でも、強大な鐵の鎖でも、

精神の力を抑留するわけにはゆかないのだ。

少くともこの生命は、一度この世の障害に倦きた時、

みづから退去するだけの力を失ひはしない。

俺がこれを知る以上、全世界の者も知り置くがいゝ、

今俺が我慢してゐるこの暴政は

何時でも振り切る事が出来るのだと。

カスカ 俺にだつて出来る。

どんな奴隷でも、束縛を帳消しにするだけの

力はその手に握つてゐる。

カシヤス では、何故シーザーは壓制者になつてゐるのだ？

氣の毒な男だ！ 俺は知つてゐる、彼は狼オオカミになりたくはないのだ、

たゞローマ人が羊に過ぎない事を知つてゐるからだ。

ローマ人が牝鹿でなかつたら、彼も獅子になりはしない。

急いで大きな火を作らうと思ふ者は

まづ弱い藥くすりから始める。一體ローマはどんな木片くさば、

どんな廢物、どんな木屑くさくなんだ、

賤しい用を務めて、シーザーのやうなあんな取るに足らぬ者を

ぬ者を

光り輝かすなんて！ わが心の悲しみのあまり、

思はず口走つてしまつたが、

甘んじて奴隷となつてゐる人の前で、俺はこんな事を言

つてゐるのかも知れない。すると俺は

言つたことに對する責任を負はなければならない。だが

覺悟はしてゐるのだ、

危険などは何でもない。

カスカ 話の相手はカスカだ、べこ／＼しながら、

裏へ廻つて蔭口をつくやうな、そんな男ではないのだ、

さあ手を取り合つて、

このあらゆる不満や弊害を除く爲めに一致しよう、

さうなれば、俺は決して人後に落ちず、どこへ迄も進んで行くぞ。

カシヤス　これで約束は済んだ。

そこで言ふが、カスカ、俺は既に最も高潔な二三のローマ人の心を動かし

俺と一緒に、名譽ではあるが危険な結果を伴ふ

一大事を計畫することにしてあるのだ。

きつと今頃彼等はポンペイ座の入口で

俺を待つてゐる筈だ。こんな怖ろしい夜には

街を急いだり、歩いたりする者もゐないし、

また空の模様か。

見たところ、我々の目論んでゐる仕事に似て、

物凄く、烈しく、恐ろしい有様だからね。

カスカ　ちよつと隠れ給へ、誰か急いでやつて来る。

カシヤス　シンナだ、歩きぶりで分る。

彼も味方だ。

シンナ登場。

シンナ、急いでどこへ行くのだ？

シンナ　君を探してゐるのだ。誰だ？　メテラス・シム

バか？

カシヤス　いや、カスカだ。我々の計畫に加入した

同志の一人だ。俺を待つてはゐないかね、シンナ？

シンナ　それは嬉しい。が、なんて怖ろしい夜だらう！

仲間の二三人は奇怪な光景を見たと言つた。

カシヤス　俺を待つてはゐないかね？　え、君。

シンナ　さうだ、待つてゐる。

おゝ、カシヤス、君の力で

あの立派なブルータスさへ味方に引つ込めると——

カシヤス　安心し給へ。シンナ、この手紙を持つて

間違ひなく奉行の椅子へ載せて置き給へ

ブルータスだけが見付けさうな處へ。それからこれは彼

の窓の處へ投り込み、またこれは蠟を以て

昔のブルータスの立像に貼りつけるのだ。それが済んだ

ら、

ポンペイ座の入口へ來給へ、そこにゐるから。

デイーシヤス・ブルータスやトリポーニヤスもゐるかね？

シンナ　みんなゐる、唯メテラス・シムバだけは

君を探しにお宅へ行つた。では、大急ぎで

言ひつけ通りにこの手紙を置いて來よう。

カシヤス　それが済んだら、ポンペイ座へ來給へ。

シンナ退場。

さあ、カスカ、君と僕とは夜明け前に
 ブルータスを訪ねよう。彼も三分通りは
 既に我々のものだから、次の會見で
 すつかり我々の手に入つて来るだらう。
 カスカ お、彼こそ全民衆の心に高い地位を占めてゐ
 る。

我々だけでは罪惡と思はれる事も、

彼の顔があれば、素晴らしい鍊金術のやうに、

これを徳に變へ、價值あるものに變ずるのだ。

カシヤス 彼と、彼の價值と、我々が大いに彼を必要と

する事についての

君の考へは全く正しい。さあ出掛けよう、

もう眞夜中過ぎだから。夜明け前に

彼を起して、きつと我々のものにしなくてはならん。

二人退場。

第二幕

第一場

——ローマ。ブルータスの外庭。

ブルータス登場。

ブルータス これ、ルーシヤス、おい！……

星の位置では、夜の明けるのは何時頃か

推察することが出来ない。……ルーシヤス、これ！……

わしもあんなに熟睡してみたいものだ。

これ、ルーシヤス、いつになったら起きるのか？ 起きろ

と言へば！ おい、ルーシヤス！

ルーシヤス登場。

ルーシヤス お呼びでございましたか、旦那様？

ブルータス ルーシヤス、書齋に蠟燭の用意をしろ。

燈火がついたら、此處へ来てさう言つてくれ。

ルーシヤス かしこまりました。

退場。

ブルータス 彼奴を殺すより外はない。自分としては

彼を斥けるべき原因は何もない、

たゞ一般民衆のためばかりだ。彼は王冠を戴くであらう。そのことがどんなに彼の性質を變化させるか、それが問題だ。

毒蛇を誘ひ出すのはあか／＼とした日だ、

だから歩くのに警戒しなければならぬ。彼を王とする？

——それだ——

それが、思ふに、彼に刺を與へることになり、

彼はそれを用ひて恣ま／＼に暴威を振ふかも知れない。

大權の濫用は、權に驕つて憐愍の心を

忘れる時に始まる。シーザーに就いて眞實を言へば、

彼の理性が私情に敗れたといふ例しは

曾て知らない。だが、日常の經驗によると、

謙遜は幼弱な大卒の梯子で、

これを登らんとする者はその謙遜に顔を向ける、

併し、一旦その頂上に達すると、

梯子に背中を向け、

雲を仰いで今まで登つて來た低い階段を

輕蔑する。シーザーとてさうなるかも知れない。

ではさうならないやうに、先んじて制するに限る。とに

かくこの争闘には

現在の彼に對して何等尤もらしい口實がない以上、

こんな形にして置かう——今の彼も、次第に増長すれば、

これ／＼の極端に走るであらう。

つまり、彼を毒蛇の卵と考へる、

卵は孵れば、その種族のものと同じやうに兇惡になる、

だから殻のうちに彼を殺す、と。

ルーシヤス再び登場。

ルーシヤス お部屋に蠟燭を點けました。

窓の處で燧石を探して居りますと、この手紙を見つけま

した、こんなに封をして。さつき床につきます時には

確かにあそこにはありませんでした。

その手紙を渡す。

ブルータス も一度床にはひりなさい。まだ夜は明けん。

これ、明日は三月の十五日ではないかね？

ルーシヤス 存じません。

ブルータス 曆を見て知らせてくれ。

ルーシヤス かしこまりました。

退場。

ブルータス 空を切つて飛ぶ流星が

ひどく明るいから、物が讀めさうだ。

手紙を開封して讀む。

「ブルータス殿、貴下は眠れり、覺醒せよ、自己を見よ、

ローマは云々、口を開け、撃て、弊を除け！」

「ブルータス殿、貴下は眠れり、覺醒せよ」と、

かういふ煽動的な文句は、手紙を取り上げて

見るたびに幾度となく落してあつた。

「ローマは云々」これを補ふとかうなるに相違ない、

ローマは一人を畏れ憚つてあるべきか？……なに、ロー

マが？

わしの祖先はローマの町々から

ターキン一族を追ひ出した、彼が王と呼ばれたからだ。

「口を開け、撃て、弊を除け！」……わしは口を開き

そして撃つことを懇請せられてゐるのか？ おゝ、ロー

マよ、お前に約束する、

わしが口を開き、撃ち、それから弊も除く事が出来れば、

お前の懇望は悉く、このブルータスの手から受け取つて

くれ！

ルーシヤス登場。

ルーシヤス 旦那様、三月はもう十四日経つてしまひま

した。

奥で戸を叩く。

ブルータス よろしい。門口に行つて御覽、誰か戸を叩

いてゐる。

ルーシヤス退場。

カシヤスに説かれてシーザーに對する反感を鋭くしてか

らといふもの

一睡もしなかつた、……

最初思ひ立つてから、

その畏ろしい事を實行するまでの間こそ

いはゞ幻影か、物怖ろしい夢のやうなものだ。

精神と肉體とが

その時協議を開き、人の體は、

いはゞ小さな王國に

内亂の起つたやうに悩むのだ。

ルーシヤスまた登場。

ルーシヤス 旦那様、おいでなされたのは御兄弟のカシ

ヤス様で、

御面會をお求めでございます。(カシヤスはアルビタス

ブルータス 一人か？

の妹ジュニヤを娶る)

ルーシャス いゝえ、大勢御一緒にでございます。

ブルータス 誰だかお前が知つてゐる人か？

ルーシャス いゝえ、お帽子を耳許まで引き下げ、

お顔の半分は外套に埋まつて居りますから、

どんなにしましても、お顔つきでどなただか

察することは出来ません。

ブルータス お通し下さい。

ルーシャス退場。

同志の者だ。おゝ陰謀よ、

お前は夜でもその危険な顔を現はすのを恥ぢるのか？

夜は悪事の最も自由に横行する時だが。おゝ、では晝間は

どこに暗い洞穴を見つけて

お前の醜怪至極な面を隠さうとするのか？ どこを探し

ても駄目だ、陰謀よ、

いつそ笑顔や愛嬌に隠れるがいゝ。

持前の顔つきで出歩かうものなら、

幽冥界そのものでも、お前を隠匿して

發覺を免かれしめるほど暗くはあるまい。

陰謀の一味カシヤス、カスカ、ディーシャス、シンナ、

メテラス・シムバ、及びトリポーニヤス登場。

カシヤス お寢み中を失禮しました。

お早うございます、ブルータス。定めしお邪魔な事で？

ブルータス もう起きてゐた、夜通し目を覺してゐたの

だ。

連れの方々はわしの知つてゐる人達かね？

カシヤス さうです、一人残らず、此處に居る者であな

たを

尊敬しないものではありません。そして誰もかれも、

高潔なローマ人が悉く抱いてゐるのと同じ考へを

あなた御自身も持たれん事をのみ切望してをります。

これがトリポーニヤス。

ブルータス よくお出でました。

カシヤス これがディーシャス。ブルータス。

ブルータス あなたもよろこそ。

カシヤス これがカスカ、これがシンナ、これがメテラ

ス・シムバです。

ブルータス どなたもよくお出でました。

一體どんな眠り難い心配事が、あなた方の眼と

夜との間に挟まつたのです？

カシヤス ちよつとお耳へ、よろしいですか？

ブルータスとカシヤスが囁く。

デューシヤス　こつちが東だ。日はこゝから出るだらう？

カスカ　違ふ。

シンナ　失敬だが、君、屹度出るだらうよ。あの白い線、

それ、雲を格子縷かたじけなくにしてゐる、あれが夜明けの知らせだ。

カスカ　二人とも間違つてゐる。

こちら、僕が劍を指してゐる處から太陽は上るのだ。

今は一年のうちでもまだ春先だから、

太陽はずつと南に傾いてゐる。

もう二ヶ月もすると、もつと高く北の方に

まづその光を現はしてくる。眞東は、

議事堂と同じで、丁度この方角だ。

ブルータス　諸君、握手させて下さい、一人づつ。

カシヤス　それから我々の決心を宣誓しませう。

ブルータス　いや、誓言せいごんはいらない。若し人々のあの顔色

我々の魂の悩み、現代の弊害――

動機としてこれ等が薄弱ならば、遅すぎぬうちに解散し、

各自の無爲の寢床ねこにもぐり込んだ方がよい。

すれば傲然と看み下ろす暴壓政治は自由に潤歩し、

遂には一同、運命の籤くじを引き當てたやうに没落するであ

らう。

併し若し以上の動機が

わしの確信するやうに、内に十分の火を藏して

怯懦けふたな者までも燃え立たせ、婦女子の溶け勝ちな魂をも

勇氣を以て鍛へるに足るとすれば、諸君よ、

何の必要あつて、我々はみづからの大義の外に、他の拍

車を求めて、

我々を矯正の任に向けようといふのか？ 秘密を守るロ

ーマ人といふ以外

どんな誓約をするのか？ 一旦言葉を誓へば、決して回

避しないのがローマ人ではないか？ 又

名譽を重んずるの士が互に約束し、この事はなすべし、

事ならずんば死あるのみといふ以外、どんな誓言を必要

とするのか？

誓ふのは、僧侶や、臆病者や、老獪奸智の輩や、

老いさらばうた臍へそ抜けものや、不正を甘受する

悩み抜いた意氣地なしどもだ。疑心を以て人を見るやう

な輩こそ、

不義を行ふために誓ひを立てる。併し我々の動機にして

も、また

實行にしても、誓言が必要など考へて、

この一點難ずる所なき立派な我々の大計畫、
壓迫され難い素質を持つた我々の大精神を
汚したくはない。そんな事をすれば、

各ローマ人に氣高く流れてゐるこの血潮は

一滴々々それ〴〵不義不貞に生れた罪を受けねばならぬ
若し彼が己れから出たいかなる約束の

毫末でもを破るやうな事があるならば。

カシヤス だが、シサローはどうします？ 探つて見ま

せうか？

彼が味方となれば非常な力になると思ひますが。

カスカ 加へなさい。

シンナ 決して除けてはいかん。

メテラス 是非味方にしよう。彼の銀髪は

我黨のために好評を齎らし、

輿論をして我々の行爲に賛成せしめるものだ。

彼の智慧が我々の手を支配したのだと言はせ、

我々青年血氣の亂暴さは少しも表面に現はれないで、

すべて彼の嚴肅さのうちに埋もれるやうにしよう。

ブルータス いや、あの男の名は擧げないがよい。あの

男には打ち明けぬ事にしよう。

あの男は他人の始めた事に、どんな事でも隨從する
男ではないから。

カシヤス では除けよう。

カスカ 全く彼は不適當だ。

ディーシヤス 誰も他の者には手をつけず、たゞディーザ

一人にするかね？

カシヤス ディーシヤス、いゝところへ氣づいた。私が思

ふには、

マーク・アントニだ、あれ程ディーザに愛されてゐる男が

ディーザの後に生き残るのはよくない。きつと彼は

老獪な策士の本性を現はすから。そして諸君も知る通り、

彼の力だが、

これをいよく十分に利用するとなると

我々すべてを惱ますに足る。それを豫じめ防ぐ爲め

アントニとディーザとを一緒に倒さう。

ブルータス いや、それでは我々の行動があまり残酷に

見えるだらう、ケイヤス・カシヤス、

頭を切り取つた上に手足までも寸断するのは、

初めに激怒をもつて殺し、死後なほ惡意を示すやうなも

のだ。

アントニともシーザーの手足に過ぎない。

ケイヤス、我々は犠牲を捧げる祭司にはなつても、驕り

殺しする者にはなりたくない。

我々一同はシーザーの精神に反抗して立つてゐるのだ。

精神のうちには血はない。

おゝ、どうかシーザーの精神だけを捉へて、

彼は引き裂かずにすめばよいが！ あゝ、しかし

シーザーはそのために血を流さねばならない！ 諸君よ、

彼を大膽には殺しても、残忍な殺し方はしますまい。

彼を神々に供へる供物として截断するとも、

獵犬に與へる腐肉のやうに切り刻んではならぬ。

どうか我々の心は、かの狡猾な主人のやうに、

一旦下人を煽動して怒りの行爲をなさしめながら、

後に彼等を叱責するやうにありたいものだ。すれば

我々の目的は止むを得ずにしたことで、決して疾視反目

の爲めではないことが分るだらう。

かういふ風に世人の眼に映ずれば、

我々は救世の志士と呼ばれても、殺人者などとは見做

されまい。

マーク・アントニの事など、考へぬ方がよい。

シーザーといふ頭がなくなれば、シーザーの腕以上の働きをする男ではないのだから。

カシヤス、でも心配です、

彼がシーザーに對して抱く根深い恩誼のうちには——

ブルータス、あゝ、カシヤス、あれの事など考へ給ふな。

シーザーを愛するにしても、彼の爲し得るのは

たゞ彼一人の身の上だけのことで、シーザーのために思

ひ憫んで悶死する位のものだ。

それだけでもやれれば彼には過分だ、遊戯に耽り、

放蕩、宴樂に浸つてゐる男だから。

トリポニーヤス、彼は怖るゝに及ばない。殺さなくても

よいだらう。

生かして置けば、後になつて今度の事を笑ひ話にするだ

らう。

時計が鳴る。

ブルータス、しッ！ 時計を勘定しなさい。

カシヤス、三つ打ちました。

トリポニーヤス、出掛ける時刻です。

カシヤス、しかしシーザーが、

今日来るかどうか疑はしい。

あの男は近頃迷信深くなつて

變な女影や、夢や、お告げなどを信じないといふ。

彼が以前に抱いてゐた持説から全く離れましたからな。

もしかすると、この明白な奇怪な前兆、

今夜の珍らしい怖ろしい事變、

それに彼の陰陽の司どもの反對、そんな事で

彼は今日議事堂へ出るのを見合すかも知れません。

デーシャス　その御心配には及ばない。若しさう決心し

てゐたら、

私が説伏せてやりませう。彼の喜んで聞く話は、

一角獣は樹によつて欺むかれ、

熊は鏡によつて、象は穴によつて、

獅子は畏によつて、そして人間は諂ふ者によつて騙され

るといふことだが、

しかし、あなたは諂ひ者がお嫌ひだ、と言ふと、

いかにも、と大得意だ。が、實はその時一番諂はれてゐ

るのです。

私にやらせて貰ひませう。……

きつと彼の氣に入るやうにし向けて

議事堂へ連れて行きますから。

カシヤス　さうだ、みんな出掛けて引つ張り出さう。

ブルータス　八時までに。それが刻限だつたね？

シンナ　それを刻限にしませう。では間違ひなく。

メテラス　ケイヤス・ライゲリーヤスはシーザーに敵意

を含んでゐます。

ポンペイのことをよく言つて叱られたものですから。

誰もあの男のことを思ひつかないのは不思議だ。

ブルータス　メテラス君、すぐ彼を訪ねて下さい。

わしに好意を抱いてゐる、それには理由があるのです。

此處へ寄越して下さい、わしがうまく説き伏せますから。

カシヤス　もう朝になりました。お暇します、ブルータ

ス君。

諸君、散會しよう。しかし諸君、さつき言つたことを覺

えてゐて、

眞のローマ人らしくして貰ひたい。

ブルータス　どうか諸君、生々とした愉快な様子をして

ゐて下さい。

顔色に我々の目的を現はしてなりません。

わがローマの俳優どものするやうに

疲れない精神と嚴かな自重の態度を以て振舞つて下さい
では、諸君、さやうなら。

一同退場、ブルータスだけ残る。

おい！ ルーシヤス！ 眠り込んでしまつたのか？ どう

でも眠はん。

蜜のやうに重い安眠の露を享樂するがよい。

落着きのない心配といふものは、人間の脳髓に

空しい幻想や妄想を描くものだが、お前にはそれが無い、

だからそんなに安眠するのだ。

ポーシヤ登場。

ポーシヤ ブルータス様！

ブルータス ポーシヤ、どうした？なぜ今頃起きるのだ？

健康の爲めによくない、この湿つばい冷たい朝に

お前の弱い體質を曝したりしては。

ポーシヤ あなたの御健康のためにもなりません。ブ

ルータス様、あなたは思ひやりもなく

お床からそつと抜けておいでなさいました。それに昨晚

はお夕飯の時にも

不意にお起ちになり、腕を組んで、思索したり

吐息をついたりしてあちこちお歩きなさいました。

どうなさいましたとお訊ねしても、
峻しいお眼で私をお睨みになり、

なほ押してお訊ねすると、お頭を掻きむしり、

我慢が出来ないといふやうに床を踏み鳴らされました。

それでもなほお訊ねすると、お答へはなくて

腹立たしさうに手を振つて、

あちらへ行けと合圖なさいました。で、私は行きました。

この上激しく燃え上つたお腹立ちの

火の手を強めてはならぬと思ひ、又一つには

どうかこれはほんの一時の不機嫌で、どなたにしても

よく起るものであると聞きます、そんなものであつて欲

しいと念じたからです。

ところがその爲めに、あなたはお食事も召し上らず、話

をするのもお厭ひになり、お眠りもなさいません。

あなたの御氣分が變つたほど、

それほどお顔形まで變つたら、

とても、ブルータス様、あなたと見分けることも出来な

いと思ひます。どうぞあなた

御不満の源をお聞かせ下さいまし。

ブルータス 健康が勝れないのだ、それだけだ。

ポーシヤ　ブルータス様は賢いお方です。健康がお勝れ
にならなければ

それを治す方法をお執りになる筈です。

ブルータス　無論、さうしてゐる。ね、ポーシヤ、寢床

へお歸り

ポーシヤ　ブルータス様が御病氣ですつて？　それで上

衣の胸を擴げて散歩したり、

濕つばい朝の空氣を吸ひ込んで

御養生になるのかしら？　まあ、ブルータス様が御病氣

なら、

體によい筈の寢床から抜け出して、

夜の悪い毒氣を冒し

わざと汚ない穢れた空氣を吸つて

御病氣の募るやうなことをなさるでせうか？　いえ、い

えブルータス様、

何か切ないお考へが、あなたのお心の中にあるのです、

妻たる私の權利と德にかけても、それを

承らなくてはなりません。かうして跪いて

お訊ねいたします、曾つてはお娶めに與つた私の美しさ

を咒文とし、

戀のあらゆる御誓言にかけ、又二人を夫婦にし
一つにしましたあの大きな誓約にかけ、
どうぞこの私に、あなた御自身であり、あなたの半ばで

もありません私に、

なぜ鬱いでゐらつしやるか、お聞かせ下さいまし。

暗闇なのに

お顔を隠して、先刻お出でになつた

六七人の方々は、どなたか、お聞かせ下さいまし。

ブルータス　跪かないでくれ、やさしいポーシヤ。

ポーシヤ　あなたがやさしくして下されば、こんな必要

もありませんまいに。

ねえ、あなた、婚姻の約束のうちには

妻は夫に關するどんな秘密も知つてはならないといふ

條件でもついて居りますか？　私があなたと同體である

にしても、

それはほんの、言つて見れば、ある一種のことだけで、

限りがあり、

食事のお相伴をしたり、聞のお伽をしたり、

又時々お話し相手になるだけのことですか？　私はあな

たのお心のほんの場末に

住んでゐるだけなのですか？ 若しも只それだけなら、

ポーシヤはブルータスの娼婦で、妻ではありません。

ブルータス お前はわしの眞實の、また名譽ある妻、

この悲しい心臓に往來する

赤い血潮にも劣らぬ程、大事な人だ。

ポーシヤ それが眞實なら、この祕密も打ち明けて下さ

いまし。

なるほど私は女です。でもまた

ブルータス様ともある方が、妻にとお選びの女です。

なるほど私は女です。でもまた

世に知られた女、ケイトーの娘でございます。

これほどの父を持ち、これほどの夫を持つて、

それでも只のつまらぬ女に過ぎないとお考へですか？

御相談事をお話し下さいまし、決して他言は致しません。

私の堅い意志については、強い證據がございます、

この太股に、自分で傷をつけた

こともあります。それさへも我慢して耐へて来た私が

夫の祕密が守れぬことがありますか？

ブルータス おゝ、神々よ、

どうか私をこの高潔な妻にふさはしい者となし給へ！

奥で戸を叩く。

あ、お聞き！ 誰か戸を叩いてゐる。ポーシヤ、ちよつ

との間、奥へ行つてゐておくれ。

やがて間もなくお前の胸も、わしの心のこの祕密を

共に擔ふことになるだらう。

わしの約束したことを残らず、この悲しい顔に書いてあ

る一々の文字を悉く、お前に打ち明けよう。

急いであちらへ。

ポーシヤ退場。

ルーシヤス、誰だ戸を叩いてゐるのは？

ルーシヤスがライゲリーヤスを伴つて再び登場。

ルーシヤス 御病人の方がお目にかゝりたいと仰しやい

ます。

ブルータス ケイヤス・ライゲリーヤスだ、メテラスの話

してゐた。……

おい、あちらに行つて居れ。……ケイヤス・ライゲリーヤ

ス！ どうだね？

ライゲリーヤス 虚弱な口から朝の挨拶をお受け下さ

い。

ブルータス おゝ、勇ましいケイヤス、君は

何といふ時に病氣になつたのだ！ 君が病氣でなければ

なあ！

ライゲーリヤス いえ私は病氣ではありません、若しブ

ルータスが、何か

名譽の名に値する大事を御計畫なら。

ブルータス さうした大事を計畫してはゐる、ライゲー

リヤス、

君にそれを聞く健康な耳さへあればだ。

ライゲーリヤス ローマ人の拜するあらゆる神々かけて

私はこゝに病氣を抛ちます。ローマの魂！

名譽ある胤に生れたる勇ましき方よ！

あなたは、行者のやうに、私の死にかゝつてゐる精神を
喚び生かして下さいました。さあ、走せ向へと命じて下
さい。

すればどんな困難なことに向つても奮戦し、

屹度それを壓倒してみせます。仕事は何です？

ブルータス 病者をも健康にするほどの事業。

ライゲーリヤス が、病氣にしてやらねばならない健康

な者もゐるではありませんか？

ブルータス それもしなくてはならない。それが何かは、

ケイヤス君、

途中で打ち明けることにしよう、目指すその者の

處へ行く途中で。

ライゲーリヤス あなたさへ一步踏み出されたら、

新しく燃え上つた勇氣を以て後につゞき、

何だか知らんがやつてのけます。ブルータスが

先導して下さるだけで満足だ。

ブルータス では隨つて來給へ。

二人退場。

第二場 — シーザー邸。

雷鳴電光。シーザー登場、寢衣を着けてゐる。

シーザー 天も地も今夜は穩かでなかつた。

三度までもカルポーニヤは眠りながら叫んだ、

「助けて、おゝ！ みんながシーザーを殺す！」と。

……誰かゐるか？

從僕登場。

從僕 閣下。

シーザー 神官の處へ行き、卽座に生贄を命じ、

その結果について、彼等の見る所を聞いて来い。
 従僕 かしこりました。

退場。

カルバーニヤ登場。

カルバーニヤ どういふお積りですか、シーザー様？
 お出かけなさいますか？

今日はお出ましになつてはなりません。

シーザー シーザーは出かける。わしを嚇かさうとした

ものもあつたが、

只わしの背中を見ただけだ。シーザーの顔を見ると、

そんな物は消え失せてしまふ。

カルバーニヤ シーザー様、私は一度だつてお告げなど

に氣を留めたことはございません。

でも今度こそびつくり致しました。宅に居ります者で、

私どもの聞いたり見たりした事以外に、

番兵が見たといふ、それはく身の毛もよだつやうな光

景を話してゐる者がございます。

牝獅子が街中でお産をしたと申します。

それから墓は大口を開けて死んだ者を吐き出しました。

雲の上では怖ろしい火のやうな軍士が戦争をしました、

列を作り、方陣を組んで、正しい戦術に従つて。
 そのため議事堂の上には血の雨を降らしました。

撃ち合ふ物音は空中に鳴り響き、

馬は嘶き、瀕死の者はうめき、

そして亡霊は町々を泣き叫び、嘆き悲しみました。

お、シーザー様！ これは只事ではございません。

私は怖ろしう思ひます。

シーザー 強大な神々が、かうと考へてなされたものな

ら、何を避けることが出来よう？

とにかくシーザーは出かける。こんな前兆は

シーザーに對してでもあれば、又一般の世間に對してで

もあるからな。

カルバーニヤ 乞食が死んだとて、彗星は現はれません。

天が光を放つて觸れ知らせるのは、王侯の最後です。

シーザー 臆病者はほんとに死ぬる前に幾度となく死ぬ

るものだが、

勇氣ある者に取つては、死の味はひは只一度だ。

わしの今迄に聞いたあらゆる不思議な事のみならず、

人が死を怖れるといふことほど、わしに取つて奇妙に見

えるものはない、

死は人間に必然の結末で、
来る時には来るものだから。

従僕再び登場。

陰陽の司は何と言つたか？

従僕 本日は御外出お見合せを懇願致して居ります。

供物の内臓を截ち割りましたところ、

その獸に心臓が見つかりませんでした。

シーザー それこそ臆病者を恥しめるための神々の仕業
だ。

もし怖れて今日家に留まつてゐたら、

シーザーこそ膽のない獸になるだらう。

いや、シーザーはそんな事はすまい。危険こそ十分に知
つてゐる、

シーザーの方が危険よりもつと危険なことを。

危険とシーザーとは同日に生れた二頭の獅子だが、

わしの方が年上で、よけい怖ろしいのだ。

シーザーは出かけるよ。

カルバーニヤ あゝ、あなた、

あなたのお智慧は御自分でお信じになるあまり、曇らさ
れてをります。

今日はお出かけになつてはなりません。お留めしたのは
私の恐怖で、あなたではないと仰しやつて下さいまし。
マーク・アントニを元老院にやり、

今日は御不例だと言はせませう。

跪いてお願ひいたします、この事だけはお聞き届け下さ
いまし。

シーザー マーク・アントニにわしは不快だと言はせよ
う。そしてお前のむら氣のために、家にゐることにし
よう。

デイーシヤス登場。

や、デイーシヤス・プルートスだ。彼にさう言はせよう。

デイーシヤス シーザー閣下、萬歳！お早うございます、

シーザー閣下。

元老院へお伴するため参上いたしました。

シーザー 君はよい時に來てくれた、

元老院議員たちによるしくわしの挨拶を傳へ、

本日は行かないと言つてくれ。

行けないのは嘘だが、行き得ないといふのはなほ嘘だ。

今日はいきたくないのだ。さう言つてくれ、デイーシヤス。

カルバーニヤ 御病氣だと仰しやつて下さい。

シーザー シーザーが嘘を傳へてよいだらうか？

わしは戦ひに勝つてこの腕をこれほどまでに擴げたのに白髪の老人どもに事實を述べるのを畏れるのか？

デーシヤス、シーザーは行きたくないのだと言つてくれ。

デーシヤス 強大無雙のシーザー閣下、何か理由をお知らせ下さい。

でない、御傳言を申し述べる時、私は嘲弄されます。

シーザー 理由はわしの意志にある。行きたくないのだ。

それで元老たちを満足させるに十分だ。

だが、わしは君が好きだから、

君自身の満足のため、話すとしよう。

こゝにゐるカルバーニヤ、家内だ、これがわしを引き留めるのだ。

彼女は昨夜夢に、わしの立像が

數百の水口を持つた噴水のやうに

鮮血を流したのを見た。そして大勢の遅しいローマ人が

來て

笑を湛へて手の中に浸した。

これを彼女は、さし迫つた凶事の

警戒、前兆であると考へて、跪いて

今日は外出してくれるなど懇願したのぢや。

デーシヤス そのお夢の御解釋は、全く間違つてをります。

これはお目出度い幸運の夢です。

閣下の立像が血を噴出し、

その中に大勢の笑を湛へたローマ人が手を浸したとは

これ即ち大ローマが閣下から再生の血を吸ひ

偉大な人々が先を争ひ來つて、

布を血に染めて遺物記念の品々としようとするのです。

カルバーニヤ様のお夢の意味はこれです。

シーザー 成程、さうした解釋も面白い。

デーシヤス さうです、殊に今私の申し上げる事をお聞

きになれば、尙更さうお考へてございませう。

お聞き下さい、元老院では本日偉大なるシーザー閣下に

對し

王冠を捧げることに議決いたしました。

で、若し御出席にならぬといふ御傳言をいたしますと、

彼等はその心が變るかも知れません。のみならず、誰かゞ

口を開き、

「元老院は閉會にしろ、シーザーの奥方が

もつと良い夢を御覽になるまで」など、申しますと、

嘲弄的になることも大いにありがちのことです。

若しシーザー閣下が身をお隠しになれば、彼等はきつと

こんなことを騒いでせう、

「見ろく、シーザーが怖がつてゐる」など。

これはく、御免下さい、閣下、閣下の御行動に對し

深い敬意を表しますればこそ、かやうなことをも申し上げ

げるのでございます。

私の理智もこの情と同じでございます。

シーザー カルパニヤ、して見ると、お前の心配はい

かにも愚かしいやうだな！

そんなことに屈したとは、我ながら恥かしい。

禮服を持つて來い、出かけるから。

パブリヤス、ブルータス、ライゲリヤス、メテラ

ス、カスカ、トリポニーヤス、及びシンナ登場。

あゝ、パブリヤスがわしを迎へに來た。

パブリヤス お早うございます、シーザー閣下。

シーザー ようこそ、パブリヤス。

やあブルータス、君までそんなに早く起きたのか？

お早う、カスカ。ケイヤス・ライゲリヤス、

シーザーがどんなに君の敵であつたとしても、

君を瘦せさせたその瘡はどの事はなかつたよ。……
何時かね？

ブルータス シーザー、八時を打ちました。

シーザー 諸君の勞と禮儀に對して感謝する。

アントニ登場。

おゝ！ アントニだ、長夜の宴を張る彼が

それにも拘らず起きて來た。お早う、アントニ。

アントニ 高邁なるシーザー閣下にも御同様に。

シーザー 供の者に準備をさせてくれ。

こんなに諸君を待たせては濟まん。

やあ、シンナ。やあ、メテラス。どうだね、トリポニー

ヤス！

君には一時間も話すことがある。

今日は忘れないで訪問してくれ。

わしも君を忘れぬために、わしの側にゐてくれよ。

トリポニーヤス かしこまりました、シーザー閣下。「傍

白」あんまり側に近寄るので

あなたの親友たちは、もつと遠のいてゐてくれたらと思

ふだらう。

シーザー 諸君、奥へはひつて、共に一杯やつてくれ。

それから友人らしく、すぐ一緒に出かけよう。

ブルータス 「傍白」 おゝ、シーザー、友人らしい者が友人ではないのだ。

それを想ふと、ブルータスの胸は痛む。

一同退場。

第三場 — 議事堂に近い街頭。

アルテミドローラスが手紙を読みながら登場。

アルテミドローラス 「シーザーよ、ブルータスを警戒せよ。

カシヤスに注意せよ。カスカに近づくな。シンナに着眼せよ。トリポニーヤスを信ずるな。メテラス・シム

バによく注目せよ。ディーシャス・ブルータスは閣下を愛する者に非ず。閣下既にケイヤス・ライゲリリヤスの怨みを買へり。是等の輩は悉く一心となり、しかもその一心はシーザー反抗のことに傾く。閣下にして不死不滅にあらざる限り、左右を警戒せよ。安心は陰謀の道を拓く。強大なる神々の閣下を保護し給はんことを！

閣下の親友アルテミドローラス。」

此處に立つてゐてシーザーの通過を待ち、

訴人のやうにしてこれを差し出さう。

徳ある者も嫉視の毒牙を

免かれぬと思へば、わしの心は歎く。

おゝ、シーザーよ、あなたがこれを讀めば助かり、

讀まねば、運命の神々まで反逆者の陰謀に参加する。

退場。

第四場 — 同じ街の他の部分。ブルータスの家の前面。

ポーシャとルーシャス登場。

ポーシャ お願ひだから、お前、元老院まで走つて行つておくれ。

私に返事なんかしないで、すぐ行きなさい。

何をぐづくしてゐるの？

ルーシャス 御用向きを承りたいと思ひまして。

ポーシャ 用向きなどを話すより先きに

とつとへ行つて、又歸つて呉れよばよいに。……

おゝ堅い決意よ、強く私の味方となつておくれ。

この心と舌との間に大きな山を置いておくれ！

私に男の心はあつても、女の力しか持つてはゐない。

女子が秘密を守るのは、なんて難かしいこと……
お前まだそこにゐるの？

ルーシヤス 奥様、何を致しますのですか？

議事堂まで駆けて行くだけで、他に何もありませんか？
それからこゝへ歸つて来て、それで他に何もありませんか？

ポーシヤ あゝさうだ、ね、且那樣が御丈夫でゐらつしやるかどうか、それを見てくるのですよ、

お出ましの時御氣分がよくなかつたから。それからシーザーが何をなされるか、

どんな訴訟の人間が押し寄せてゆくか、よく氣をつけて見て來るのです。……

あツ、お前！ あの物音は何だらう？

ルーシヤス 奥様、何も聞えませんが。

ポーシヤ ね、よく聞いて御覽。

私は暴動のやうな騒々しい物音を聞いた。

風が議事堂の方から吹き送つて來る。

ルーシヤス 奥様、ほんとに私には何も聞えませんが。

豫言者登場。

ポーシヤ お前さん、ちよつと此處へ。……お前さんは

どちらの方角から來ましたか？

豫言者 奥様、自宅からでございます。

ポーシヤ 今は何時です？

豫言者 九時頃でせう。

ポーシヤ シーザーはもう議事堂へお出掛けでしたか？

豫言者 まだです、あなた、私も行つて場所を取り、

議事堂への御通過を拜觀するつもりです。

ポーシヤ お前さんは何か訴へ事があるのですね？

豫言者 左様でございます。若しシーザー様の御意に叶ひ、

御自身のお爲めをお考へなされて、私の申し上げることをお聞き下されば、

どうぞ御自分をお護り下さいとお願ひする積りです。

ポーシヤ では、何かあの人に危害でも加へる計畫を御

存知ですか？

豫言者 知つてゐることは何もありませんが、氣遣はし

い事はいろ／＼突發するかも知れません。

さやうなら。こゝは街路が狭うございます。

シーザー様の後に隨つて押しかけてくる群集、

元老だの、町役人だの、平の訴人など、

大勢群がつて、か弱い男は押し殺されてしまひませう。私にもつと人の少ない處へ行き、そこで御通過の時に大シーザーに話しかけよう。

退場。

ボーシヤ　私も家へ入らねばならない。あゝ、なんて弱

いのだらう、

女子の心は！　おゝ、ブルータス様、

天のお助けで御計畫が成功しますやうに！……

きつとルーシヤスは私の獨言を聞いたに相違ない。……ブ

ルータス様にも一つの御訴訟があるのだが、

シーザーはお聞きにもならないだらう。おゝ、氣が遠くなる。

ルーシヤス、駈けて行つて、且那樣に言つておくれ、

私は元氣にしてみますつてね。それから又歸つて、

且那樣が何と仰しやつたか聞かしておくれ。

二人別々に退場。

第三幕

第一場　——　ローマ。

議事堂の前。元老院議員が一段高いところに着席してゐる。

一群の民衆、その中にアルテミドラスと豫言者がゐる。

フラリッシュ調の喇叭吹奏。

シーザー、ブルータス、カシヤス、カスカ、ディーシヤス、メテラス、トリボーニヤス、シンナ、アントニ、レビダス、ボービリヤス、パブリヤスその他登場。

シーザー　〔豫言者に〕三月の十五日は來たぞ。

豫言者　はい、シーザー様、だがまだ過ぎ去りは致しません。

アルテミドラス　御機嫌よろしう、シーザー様。この

書面を御覽下さい！

デーシヤス トリポーニヤスは閣下に懇願いたして居り

ます、御閑暇の折に、

畏れながらこの請願書を御一覽下さいませう。

アルテミドラス お、シーザー様 まづこちらを御

覽下さい、私の訴訟は

シーザー様に一層密接な関係のある事柄でございます。

これをお読み下さい、大シーザー様。

シーザー わし自身に關係した事柄は最後に取扱ふべき

ものだ。

アルテミドラス いえ、御猶豫はなりません、シーザ

ー様、即座にお読み下さい。

シーザー なに、この男は發狂してゐるのか？

パブリヤス おいこら、そこを退け。

カシヤス あ、お前は街中で請願書を強ひて差し出すの

か？

議事堂へ來なさい。

シーザーは元老院に上つて行く、他の者もその後

隨いて。

ポーピリヤス 御計畫が本日成功せん事を祈る。

カシヤス どんな計畫です、ポーピリヤス？

ポーピリヤス 御機嫌よう。

シーザーの處へ進んで行く。

ブルータス 何と言つたね、ポーピリヤス・リーナは？

カシヤス 我々の計畫が本日成功せん事を祈ると言つた

策謀が露顯したのではないかしら。

ブルータス ほら、あんなにシーザーの處へ近づく。

彼に注意してゐ給へ。

カシヤス カスカ、一氣にやらうよ。邪魔がはひると悪

いからね。

ブルータス、どうしませう。これが發覺すれば、

カシヤスか、それともシーザーか、どつちかは家に歸れ

ない、

私は自殺してしまひますから。

ブルータス カシヤス、落着き給へ。

ポーピリヤス・リーナは我々の計畫を話してゐるのでは

ない。

見給へ、にこ／＼して、シーザーの顔色も少しも變らん。

カシヤス トリポーニヤスはきつかけを知つてゐる。

それ、ブルータス、御覽なさい、

マーク・アントニが邪魔にならぬやうに連れ出してゐる。
 アントニとトリポーニヤス退場。

デューシヤス　メテラス・シムバはどこにゐる？ 行つて
 すぐにシーザーに請願書を提出させよう。

ブルータス　準備は出来てゐる。手近にゐて駭援し給へ。
 シンナ　カスカ、君が第一に手を下すのだ。

シーザー　一同準備はよいか？ 何か不當の事にて

シーザー並に元老院の矯正すべきものあらば申せ。

メテラス　いと高く、いとも偉大にして且つ強大なるシ

ーザー閣下、

メテラス・シムバは足下に卑賤なる心を

投げいだし――

シーザー　シムバ、聞くまでもなく遮らねばならぬ。

そのやうに腰をこきめ、そのやうに辭を卑することは

凡人の高慢心を煽り、

従來の規定も不變の法則も、これを一變して兒戯に類す

る法律となすこともあらう。そなたがいかにか痴愚なり

とも

このシーザーがかくの如き叛逆の血を持ち、

消従にとろかさされてその本性を失ふであらうなど考へ

てはならない。愚人をとろかすものと言へば、
 甘い言葉、低い腰、賤しい犬のやうな追従を言ふのだ。

そなたの兄は法規に従ひ追放せられた。

そなたが彼の爲めに身をまげ、祈り、諂ふことをすれば

予はそなたを蹴つて野良犬の如く戸外に追ひ出すばかりだ。

悟れ、シーザーは不正も行はねば、故なくして
 請に應ずる者でもない。

メテラス　どなたか、私よりもつと有力な方で、

一層快く大シーザー閣下のお耳に訴へ

兄の追放赦免を願つて下さる方はありませんか？

ブルータス　シーザー、あなたのお手に接吻します、併

し決して諂ねる心からではなく、

ひたすらパブリヤス・シムバの

卽座に無條件で赦免さるゝことを懇願いたします。

シーザー　なに、ブルータス！

カシヤス　御宥免を、シーザー閣下、どうぞ御宥免を。

カシヤスは御足許までも低く身を屈し、

パブリヤス・シムバの特赦を願ひます。

シーザー　予が君のやうな人間だつたら、とくに心を動

かしてゐたであらう。

予が他を動かすために哀願することの出来る男なら、哀願する者も亦予を動かしたであらう。

併し予の確固不拔なる、眞に定着して不動なる特質は、かの北極星の如く

蒼天に於て他に匹敵するものを見ない。

大空は無数の閃きを以て彩られ、

彼等は悉く光り、一つとして輝きを放たぬはない。

併しすべてのうちでその地位を保持して變らぬは只一つだ。

人の世に於てもさうだ。この世に充ちてゐる人間は多い。

人間は肉であり血であり、且つ理解力を持つてゐる。

併しこの多數のうちで、予の知る限りでは只一人のみ、

嚴として冒し難くその位置を保ち、

運動する者によつて動かされない。予が即ちそれだ。

それを少しこの機會に示させて貰はう。

予は斷乎としてシムバ追放のことを決した、

そして今斷乎として彼を現状のままにして置く。

シンナ お、シーザー閣下——

シーザー 退れ！ オリムパス山を動かす氣か？

デーシヤス 大シーザー——

シーザー ブルータスが跪いてさへ無益だつたぞ？

カスカ 口でいなければ手だ！

カスカが第一に、それから他の陰謀團一同及びマリ

カス・ブルータスがシーザーを刺す。

シーザー ブルータス、お前までが！——お、シーザ

ーは倒れるのだ！

死ぬる。

シンナ 解放だ！ 自由だ！ 壓政は亡んだ！

さあ、走つて行つて宣言しろ、街々に觸れわめけ。

カシヤス 誰か公共の演壇に上つて、大聲に觸れろ、

「解放だ、自由だ、特權打破だ！」と。

ブルータス 民衆並びに元老諸君、驚くには及ばない。

逃亡しなくともよろしい、靜かにしておいでなさい。野

心の借財が支拂はれたまでです。

カスカ ブルータス、演壇にお上りなさい。

デーシヤス そしてカシヤスも。

ブルータス バブリヤスはどこです？

シンナ こゝに、この騒動で全く度を失つてをります。

メテラス 一同集つて結束してゐよう、若しや

シーザーの友人が――

ブルータス 集つてみようなど言はないで下さい。：

…パブリヤス、元氣をお出しなさい。

あなたの身にも、又他のどんなローマ人にも、

危害を加へる積りはないのです。みんなにさう言つて下

さい、パブリヤス。

カシヤス そしてあつちへ行つて下さい、パブリヤス、

人民どもが

我々に向つて押し寄せて来て、あなたの御老體に何かお

怪我があつてもならないから。

ブルータス さうして下さい。そして他に誰もこの行爲

に對して責任を負ふ者があつてはならない、

たゞ我々手を下した者だけだ。

トリポニーヤス再び登場。

カシヤス アントニはどこにゐる？

トリポニーヤス びつくりして家へ逃げ歸つた。

男も女も子供等も目を睜り、大聲をあげ、走り廻つて、

まるで世の終りが来たやうだ。

ブルータス 運命の神よ、あなたのお心が知りたい。

我々の死ぬべきものなることは知つてゐる。たゞ死ぬる

時と、

この生命がいつまで續くか、それを人は重く考へるのだ。

カシヤス なに、二十年の命を切り縮める者は

死を怖れる苦しみを二十年だけ切り縮めてやるのも同然

です。

ブルータス さう考へれば、死は一つの恩恵になる。

だから死を怖るゝ年數を

短縮してやつた我々はシーザーの友だ。…身を屈めよ、

ローマ人諸君、

身を屈めてシーザーの血に我々の手を、肘までも

深々と浸し、又我々の劍にも塗らう。

それから押し出して、市場までも行き、

赤に染んだ武器を頭上に閃かせ、

一同で叫ばう、「平和、自由、解放！」と。

カシヤス では身を屈めて塗りつけよう。…今後幾代

かの後に至るまで、

この我々の高邁なる場面は、どれほど芝居として繰り返

され、上演せられることであらう、

まだ生れない國々に於て、まだ知れない國語を以て！

ブルータス 幾度シーザーは戯れに血を流すことか！

今ポンペイの立像の臺の下に倒れて、
塵芥と更に變らないシーザーが。

カシヤス その行はれる度毎に

我々一味の者は、母國に

自由を與へた國土と謳はれる事であらう。

デイーシヤス どうです、出掛けませうか？

カシヤス さうだ、一人残らず。

先導はブルータスだ。我々は恭々しくその踵に従はう、

ローマの最も大膽な、又最も高貴な心を持つてゐる人々と共に。

一人の従僕登場。

ブルータス 待つた！ 誰か来る。アントニ方だな。

従僕 ブルータス様、この通り跪けと私の主人が命じま

した。

マーク・アントニがこの通り平伏せよと命じました。

そしてひれ伏してこの通り申し上げよと命じました——

ブルータス様は高潔、賢明、勇敢、且つ正直の方にあら

せられる。

シーザーは雄大、放膽、王者の如く堂々とし、且つ情け

深くありました。

言へ、私はブルータス様を愛慕し、且つ尊敬すると、

言へ、私はシーザーを畏れ、尊敬し、且つ愛慕してゐたと、

若しブルータス様の許可を得てマーク・アントニが

無事にこゝに來り、シーザーが

死して横たはるに到つた理由を篤と御説明下さるならば

マーク・アントニは死せるシーザーを愛慕すると同じく、

生けるブルータスを愛慕し、

高潔なるブルータス様に従ひ、仕事も運命も共にし、

この先人未踏の國家の危険を冒し、

あらゆる忠誠の心を捧げるであります。——主人の

アントニはかやうに申して居ります。

ブルータス そなたの御主人は賢明な、勇敢なローマ人

だ。

私は決して悪く思つたことはない。

かう傳へてくれ、もし御足勞でもこゝまでおいで下さる

なら

必ず納得のいくやうにさせようと。そしてこの私の名譽

にか

安全に立ち歸られるやう取り計らひませうと。

従僕 早速同伴致します。

退場。

ブルータス きつと彼は立派な味方になるだらう。

カシヤス さうなれば結構だが、併し、何となく私は彼

が怖ろしくてなりません。そして私の疑念は

残念ながらいつもの中ずるのです。

ブルータス とにかくアントニがやつて来た。

アントニ再び登場。

ようこそ、マーク・アントニ。

アントニ おゝ偉大なるシーザー！ あなたはこんなみ

じめな妻になつて横たはつておいでなざるか？

あなたの戦勝、光榮、凱旋、戦利品は悉く

この僅か五尺の廣さに畏縮したのか？ 左様なら。……

諸君、諸君の御計畫は何であるか、

この他に誰が血を以て償はねばならぬか、誰が殺される

べきなのか、私は知らない。

若しそれが私なら、今このシーザーの最期の時ほど

適當な死に時はなく、又この全世界中で最も高潔な

血潮を以て飾られた諸君のその劍で殺されるほど、

名譽なことはない。

諸君に懇願する、若し諸君が私をお憎しみならば、

今、諸君の紫の手が血焔りたつてゐる間に、

思ふ存分にやつて貰ひたい。百年千年生き存らへればと

て

これほど死ぬるにふさはしい時を見出す事はあるまい。

死に場所と言ひ、死に方と言ひ、こゝに、シーザーの側

に、

現代の最も傑れた偉大な諸君の

手にかゝれば、これに勝る悦びはない。

ブルータス おゝ、アントニ、我々の手に死を求めては

ならない。

今我々は血に飢ゑて残忍な者のやうに見えるに相違ない

が、

君も亦、我々の手とこの現在の行動から見て、

左様に思はれる事であらうが、しかしそれは

只この手及びこの手の行つた流血の用務だけのことで、

我々の心まで見たのではない。心は憐憫の情に充ちてゐ

る。

ローマ一般の受けた不正に對する憐憫——

譬へば大火が小火を消し、大憐憫が小憐憫を滅するやう

に——

憐憫の心が、シーザーに對してこの行爲をなさしめたのだ。君に對しては、

マーク・アントニ、我々の劍の尖端は鉛も同様な。

我々の武器は悪を憎む力に強いが、我々の心は

同胞兄弟の眞情に充ち、

あらゆる情愛、好意、且つ尊敬を以て君を歓迎する。

カシヤス 新たに官職を授けられるに當り、

君の御意見は誰にも劣らず尊重する。

ブルータス 恐怖のため己れを忘れてゐる群集を鎮撫するまで、しばらくお待ちなさい。

それから、なぜ私が、シーザーを刺したその時でさへも

彼を熱愛してゐたこの私が、こんな経路を取るに至つた

か、

その理由を申し述べよう。

アントニ 諸君の賢明を疑ふのではない。

どうか諸君御銘々の、その血みどろのお手を頂きたい。

第一にマーク・ブルータス君、握手を願ひませう。

次にケイナス・シヤス君、お手を戴きたい。

さてディーシヤス・ブルータス君、君のを。それから君の

を、メテラス君、

君のお手を、シンナ君。そしてわが勇敢なるカスカ君、君のもの。

最後だが、併し何れにも劣らぬ好意を懐いてゐるトリボ

ーニヤス君、君も。

諸君よ——あゝ、何と言はう？

私の信用は、よく滑る地面に立つてゐるやうなものだ。

諸君は私を二つの悪い道のどちらかにお考へなさるに相違ない、

卑怯者か、それとも追従者か。……

シーザー、私があなたを切愛してゐたことは、おゝそれ

こそ許りのないことだ。

然らばあなたの御霊が今我々を上よりみそなはし、

死よりも痛ましく御心を悲しませはなさるまいか？

あなたのアントニが進んで和議を結び、

あなたの仇敵の血に塗れた手を握り、

しかも、おゝいとも高潔なるシーザーよ！ あなたの御

遺骸の前に於てするのを見給うたなら。

あなたのお受けなされた傷口ほど多くの眼があつて、

その眼から、傷口が血を流すほど涙を流した方が、

あなたの仇敵と和睦するよりも、

それこそ私には似つかはしかつたでありませうに。
お許し下さい、ジュリーヤス！ あなたは雄々しい牡鹿のやうに追ひつめられ、

落命なされた。あなたを追うた獵人はこゝに立つて、あなたといふ獲物を得、あなたを亡きものにして赤に染んでゐる。

おゝ世界よ、お前はこの牡鹿に取つて森であつた、おゝ世界よ、これこそ實に、お前の魂であつた。

あゝ、鹿のやうに大勢の高貴な人達に撃たれて、

あなたは死んでしまつたのだ！

カシヤス マーク・アントニー――

アントニー 失禮、ケイヤス・カシヤス。

シーザーの敵でもこれだけのことは言ふだらう、然らば友としては、寧ろ冷たい謙抑の言葉だ。

カシヤス 君を咎めるのは、シーザーをそのやうに賞揚したからではない。

一體君は我々とどういふ約束を結ぶつもりだ？

我々の味方の數のうちに入りたいのか、

それとも我々だけで事を進め、君は別にすべきで

あるといふのか？

アントニー そのためにこそ擯手しました、只つい

シーザーを見たので、肝腎の話を忘れてしまつたのです。私は諸君と友人になり、諸君を悉く敬愛する。

それも、何故、如何なる理由で、シーザーがこんな目に遇つたかといふ理由を御説明下さることを望むからなのです。

ブルータス それが説明できないやうだつたら、これこそ暴擧に過ぎないだらう。

我々の理由は十分立派な動機を備へてゐるから、

アントニー、君がシーザーの一子であつたにしても、必ず納得するに相違ない。

アントニー 私の求むるところはそれだけです。

それから、彼の遺骸を市場まで運んでゆくこと、そして演壇に於て、彼の友人にふさはしく、

彼の葬儀の間に、一言述べたことを許していたよきたい。ブルータス よろしい、マーク・アントニー。

カシヤス ブルータス、あなたに一言。

〔ブルータスに傍白〕あなたは大変な事をなさいます。

アントニーの

追悼演説に御同意なすつてはいけません。

彼の言はうとすることにより、どれ位の人民が煽動されるか御承知ですか？

ブルータス 「カシヤスに傍白」失禮だが、

わしが先きに演壇に登り、

シーザーの死に就いての理由を示す。

アントニが何事を述べようとも、彼は許しを得、

許可を受けて演説するのだと公言しよう。

我々が賛成して、我々のシーザーに對し

あらゆる本格の儀式、適法の葬儀を許したことは

我々の不爲めになるよりも、寧ろ利益になるに違ひない。

カシヤス 「獨言のやうに」何が起るか分つたものではな

い。私はそんなことを好まない。

ブルータス マーク・アントニ、さ、シーザーの遺骸を受

け取りなさい。

君は追悼演説中に我々を非難してはならず、

只シーザーに就いて考へ及ぶだけの善事を述べ、

且つ、我々の許可を得て演説するのだと言はなければな

らない。

さもなければ、この葬儀に君の参加することを

全然許さない。そして君は私と

同じ演壇で、私の演説の終つた後で述べる事にして貰ひたい。

アントニ よろしいです。

それ以上は望みません。

ブルータス では葬儀の用意をし、我々の後に隨つてお

いでなさい。

一同退場、アントニだけ残る。

アントニ おゝ、血まみれの一片の土塊となつたシーザ

ーよ、

あなたを斃り殺しにした奴等に従ひ、彼等と睦しくする

私をお許し下さい！

これこそ時の流れのうちに生存した人間中の

最も高邁な方の残骸だ。

この高價な血潮を流した奴等に呪ひあれ！

この傷口、物言はぬ口のやうに

赤い唇を開いて、私の述べる聲を哀求してゐるが、

この傷口に向つて私は豫言する——

呪ひは人々の上に落ちかかり、

國內には騒擾と猛烈な内亂が起り、

イタリー全土を困惑せしめるであらう。

殺戮と破壊は日常のこととなり、
戦慄すべき事物も全く目慣れ、
母は微笑を浮べてその嬰兒が

戦禍の手に寸断されるを見るに到るだらう。

兇惡な所行が蔓り、あらゆる慈悲の心は窒息するだらう。

そして復讐を求めて駆けめぐるシーザーの魂は、

アテー(不和復讐の女神)を従へて焦熱地獄より走せ來り、

帝王の聲をもつてこの地方に向ひ、「殲滅せよ」と

叫び、戦争の犬を放つであらう。

かくてこの兇惡なる行ひはその臭氣大地の上を覆ひ

腐れたる死骸と共に埋葬を求めて號叫するであらう。

一人の従僕登場。

君はオクテーヴィヤス・シーザーに仕へてゐる者ではない

か？

従僕 左様でございます、マーク・アントニ様。

アントニ 大シーザーは彼にローマに來るやう書面を出

された筈だが。

従僕 その御書面をお受け取りなさいまして、只今參ら

れるのでございます。

そして口頭を以てあなた様にこの事を申し上げよとお言

ひつげでございます——

死骸を見て、

お、シーザー——

アントニ 君の心は涙で一杯になつてゐる、あちらへ行

つて泣くがよい。

悲しみの情は感染し易いものだ、わしの眼も

君の眼にある哀愁の珠を見て

沾しみひ始めた。……御主人はもう見えるかね？

従僕 今夜はローマから七リグの處に御滞在でござい

ます。

アントニ 全速力で走せ歸り、事の次第を話してくれ。

ローマは目下服喪中だ、危険千萬だ、

まだオクテーヴィヤスにも安全な處ではない。

すぐ歸つて、さう言つてくれ。……だが、ちよつと待つた。

この遺骸を市場へ運ぶまで

歸つてはならない。あそこで私の辯舌を以て

この殺伐な奴等の残酷な行爲の結果を

人民どもがどう取るか、一つ試みて見よう、

その様子によつて、事的情勢を

オクテーヴィヤスに話してくれ。

ちよつと手を。

シーザーの遺骸を持つて二人退場。

第二場 — 公會場。

ブルータスとカシヤス及び市民の一團登場。

市民等 是非納得ちぎさせてくれ。納得させてくれ。

ブルータス では、諸君、私の後に隨ついて來て、私の述

べることを聞いて下さい。……

カシヤス、君は別の街へ行つてくれ給へ、

そして人數を分けよう。……

私の演説を聞きたい人はこゝに留まり、

カシヤスに聞きたい人は一緒に往つて下さい。

シーザーの死に就いて、公然とした理由を

述べませう。

第一の市民 俺はブルータスの演説を聞かう。

第二の市民 俺はカシヤスのを聞かう。そして雙方の理

由を較べて見よう、

別々に聞いて置いてな。

カシヤスと一緒に市民の一部退場。

ブルータスは演壇に登る。

第三の市民 ブルータスが演壇にお上りだ、靜かにし

ろ！

ブルータス 最後まで辛抱して聞いてみて下さい。……

ローマ人よ、わが同胞よ、親愛なる諸君よ！ 私の述

べんとすることを聞いて下さい、靜かにして聞いて下

さい。私の人格を信じて下さい、それを信じるために

私の人格に對して敬意を拂つて下さい。諸君は私を十

分に判斷するため、諸君の智慧を用ひ、諸君の悟性を

覺さして下さい。この群集の中に、誰かシーザーを切愛

するその親友がゐられるならば、私はその人に向つて

言ふ、ブルータスのシーザーに對する愛は決して君に

劣るものではないと。然らばその親友は詰問するであ

らう、何故ブルータスはシーザーに反抗して起つたか

と。私はかう答へる——私のシーザーを愛することが

その人に劣つてゐるわけではなく、ローマを愛するこ

とが更にそれよりも優つてゐるが爲めであると。諸君

は果して、シーザーが生き存たもらへ、諸君が奴隸となつ

て死ぬことを願つても、シーザーが死んで諸君が自由

人として生きる事を欲しないのであるか？ シーザー

は私を愛してくれたが故に、私は彼のために泣きま
す。彼が幸運であつた時、私はそれを悦びます、彼が
勇敢であつた時、私は彼を尊敬します、併し彼が野心
を抱いた時、私は彼を誅戮した。彼の愛に對しては涙
をもつて報い、その幸運を祝ふ時には喜び、その勇氣
に對しては尊敬を拂つてゐたが、彼が野心を抱いた時
には死をもつて罰した。誰かこゝに奴隷となる事を欲
するやうな卑劣な人がありますか？ あるならばさう
言つて下さい、私はその人に對して罪を犯したのだか
ら。誰かこゝにローマ人たることを願はないやうな野
蠻な人がありますか？ あるならばさう言つて下さ
い、私はその人に對して罪を犯したのだから。誰か
こゝに自分の國を愛さないやうな賤劣な人がありま
すか？ あるならばさう言つて下さい、私はその人に對
して罪を犯したのだから。私は諸君のお答へを待ちま
す。

一同 ないよ、ブルータス、そんな者はゐないよ。

ブルータス では私は誰に對しても罪を犯したのではな
い。私がシーザーに對してした事は、諸君が同じやうに
このブルータスに對してなさるべき事である。彼の死

に就いては議事堂に記録してあり、功績に關する彼の
盛名は少しも輕減せられず、又死を蒙る原因となつた
彼の罪までも決して強調せられては居りません。

アントニその他の者シーザーの遺骸を護つて登場。
こゝに彼の遺骸はマーク・アントニを喪主として運ば
れて來ました。アントニは彼の誅戮に手を下しはしな
かつたけれども、その死によつて利福を受け、共和國
に於て一つの地位を占めることになつて居ります。勿
論諸君のうちの誰一人として同様にこれを享樂しない
ものはないのです……お別れするに臨んで私は一言申
し残す——私はローマの利益のためにわが最良の親友
を刺したやうに、その同じ短劍を私自身に向つても用
ひるものである、もし私の國が私の死を必要とする場
合があるならば。

一同 生きてゐてくれ、ブルータス！ 生きてゐてくれ！
第一の市民 この人を凱旋の儀式をもつてお宅まで送つ
て行かうよ。

第二の市民 御先祖と一緒にこの人の立像を造れ。

第三の市民 この人をシーザーにしよう。

第四の市民 シーザーのいゝところだけが、

位に即くわけだ、今ブルータスを王にすればね。

第一の市民 威聲を上げたり、囁し立てたりしながら、

お宅まで送つて行かうよ。

ブルータス わが同胞諸君——

第二の市民 黙れ、静かに！ ブルータスの御演説だ。

第一の市民 静かに、静かに！

ブルータス 善良なる同胞諸君、私を只一人で歸らせて

下さい、

そしてどうか私のために、こゝにアントニと共に留まり

シーザーの遺骸に敬意を表し、又シーザーの功業に關す

る

彼の演説に敬意を表して下さい。マーク・アントニは

我々の許しを得て、弔辭を述べるのだから。

私は諸君にお願ひします、私以外に

誰一人こゝを去らず、アントニの述べ終るまで留まつて

ゐて下さい。

退場。

第一の市民 留まれ、おい！ マーク・アントニの演説

を聞かうよ。

第三の市民 演壇に登つて貰へ。

演説を聞くんだ。アントニ、登つた、登つた。

アントニ ブルータス君のために、私は諸君に感謝して

居ります。

演壇に上る。

第四の市民 何と言つたね、ブルータスのことを？

第三の市民 ブルータスのために、我々一同に感謝して

居るとさ。

第四の市民 こゝでブルータスの悪口は言はん方がよか

らうて。

第一の市民 このシーザーつて男は壓制者だつたよ。

第三の市民 うん、そりや確かだ、

ローマもあんな男を厄拂ひして仕合せだ。

第二の市民 しつ！ 聞かうぜ、アントニにどんな事が

言へるか。

アントニ 善良なるローマ人諸君——

市民等 静かに、おい！ 演説を聞かうよ。

アントニ 友よ、ローマ人よ、同胞諸君よ、どうか暫く

お聞きを願ひたい。

私はシーザーの葬儀を営まんがために参つたので、彼を

賞讃せんがためではない。

人の行ふ悪事は死後に残り、善事は往々その骨と共に埋没される。

シーザーに就いてもさうあらしめた方がよろしい。……高潔なるブルータス君は

諸君にお話しなされた、シーザーは野心を抱いてゐたと、若し果してさうならば、これ一つの悲しむべき過失で、シーザーは悲しむべきその報を受けたのだ。

こゝに、ブルータス君とその他の方々の許可を得て——ブルータス君は名譽ある人であり、

他の方々も亦悉く名譽ある人であるから——その許可を得て、私はこゝにシーザーの葬儀に當つて一言するのである。

彼は私の親友であり、私に對しては信義あつき公正な人である。

併しブルータス君は言はれる、彼は野心を抱いてゐたと、そしてブルータス君は名譽ある方である。

シーザーは幾多の捕虜をローマに連れ歸り、その賠償金を以て國家の金庫を充たした。

これがシーザーが野心を抱いてゐたと見えませんか？ 負しき人々が泣き叫んだ時、シーザーは涙を垂れた。

野心はもつと苛酷なものである筈だ。

然るにブルータス君はいふ、彼は野心を抱いてゐたと、そしてブルータス君は名譽ある方です。

諸君悉くが見られた通り、ルーバールの祭に於て私は三度までも彼に王の冠を捧げた、

それを、彼は三度とも拒絶した。これが野心であらうか？

然るにブルータス君は言ふ、彼は野心を抱いてゐたと、そしてたしかにブルータス君は名譽ある人なのだ。

私はブルータス君の言つた事を反證しようとするのではない、

たゞこゝに私の實際知つてゐる事を述べるだけだ。諸君は悉く曾て彼を愛慕してゐた、それは謂れない事

ではなかつた。然らばいかなる理由によつて、諸君は彼を哀悼すること

を差し控へてゐらるゝのであらうか？ おゝ判断力よ！ お前は残酷な野獸の間に逃走し、

人間は理性を失つてしまつたのだ。御免下さい。私の心はシーザーと共にその柩の中に入つてしまひ、

その還つて來るまで、私は物が言はれません。

第一の市民 彼の言ふ事にも大に理窟があると思ふね。

第二の市民 この事件を正しく考へて見ると、

シーザーはよつほど不當な目に逢つたわけだね。

第三の市民 ね、さうぢやないか、彼の代りにもつと悪

い奴が来ないとも限らんよ。

第四の市民 お前さん方、あの人の言葉によく氣をつけ

なすつたかね？ 冠を受けようとしなかつたんだぜ。

だから、野心がなかつた事だけは確かだよ。

第一の市民 いや〜さうだとすると、えらい目に逢ふ

手合があらうぜ。

第二の市民 お氣の毒な方！ 目を泣きはらして火のや

うに眞赤にしてゐなさる。

第三の市民 ローマぢやまづアントニより立派な人はゐ

ないよ。

第四の市民 まあ聞けよ、又演説を始めなさるから。

アントニ ほんの昨日までシーザーの一言一句は

世界と對抗する力があつた。今彼はそこに横たはつてゐ

るが、

極めて卑しき者と雖も彼に敬禮しようとする者はない。

お、諸君よ、萬一私が諸君の感情と理性を掻き亂し、

暴動や激昂に誘ふやうな意志があつたならば、

それこそブルータス君やカシヤス君に相濟まんことをす

る譯だが、

諸君も御存知の通り、この方々は名譽ある人だから、

私はそんなことをしようとは思はない。私は寧ろ

この亡き人を傷つけ、私自身や、また諸君を傷つけると

も、

こんな名譽ある人々に不當なことはしたくない。……

併し、こゝにシーザーの印章のついた一枚の證書があり

ます、

私はこれを彼の居間で發見しました、これは彼の遺言狀

です。

若し市民諸君にこの遺書の内容をちよつとでもお聞かせ

さへしたら――

御免下さい、私は讀む積りはないのだから――

その時諸君は駈け寄つて、逝けるシーザーの傷口に接吻

し、

彼の神聖なる血潮にそのハンカチを浸し、

さうだ、彼の髪の毛一本をも記念にと懇望し、

自分が死ぬる時には遺言狀のなかに記し留め、

立派な遺産としてこれの子々孫々に

残すことでありませう。

第四の市民 俺達はその遺言状が聞きたいんだ。読んで

下さい、マーク・アントニ。

一同 遺言状だ、遺言状だ！ シーザーの遺言状が聞き
たいんだ。

アントニ 我慢して下さい、友人諸君、私はそれを讀ん
ではならないのです。

いかにシーザーが諸君を愛してゐたか、それを諸君が知
るのは宜しくない。

諸君は木でもなく、石でもなく、人間である。

既に人間である以上、シーザーの遺言状を聞けば、

それこそ諸君を燃え立たせ、それこそ諸君を狂奔せしめ
ることであらう。

諸君が彼の遺産の相続人であるといふことは知らない方
がいふ。

若しも知れたなら、おふ、何事が起るであらう！

第四の市民 遺言状を讀んでくれ。聞きたいんだ、アン

トニ。

讀まなくちやいかんぞ遺言状を、シーザーの遺言状を。

アントニ 我慢してくれませんか？ 暫く待つてくれま

せんか？

私はつい言ひ過ぎて、この話をしてしまつた。

私の怖れるのはあの名譽ある人々、短劍で以て

シーザーを突き刺した人々を、傷つけはしないかといふ

ことです、それを怖れるのです。

第四の市民 あいつ等は謀叛人だ、名譽ある人々どころ

か！

一同 遺言状だ！ 遺言状だ！

第二の市民 あいつ等は悪黨だ、人殺しだ。遺言状！

遺言状を讀め。

アントニ では私に強ひて遺言状を讀ませるのですか？

それならシーザーの遺骸の周りに輪を作つて下さい、

そしてこの遺言状を作つた方を諸君に見て戴かう。

壇を下りませうか？ 下りることを許してくれますか？

數多の市民 お下りなさい、お下りなさい。

第二の市民 下りなさい。

第三の市民 下りてもいふのです。

アントニが壇を下りる。

第四の市民 輪になれ。ぐるつと取り巻け。

第一の市民 棺から離れろ、死骸から離れろ。

第二の市民 アントニの場所をあける、偉いアントニの。

アントニ まあ、さう押しはいけません。ずつと

離れて立つて下さい。

第二の市民 退れ、場所をあける、退れ。

アントニ 若し諸君に涙があれば、今こそ流す支度をな

さい。

諸君はいづれもこのマントを御存知の筈だ。忘れもしな

い

初めてシーザーがこれを着用なさつたのは、

ある夏の夕べ、陣營の中で、

ナードアイ族を征服なされた日だ。

見給へ、こゝをカシヤスの短剣が刺し通したのだ、

見給へ、意地悪のカスカが何といふ裂目を作つたか、

こゝをこの上なく寵愛されてゐたブルータスが突き刺し

たのだ。

そして彼が呪はれた双を引き抜くとき、

よく御覽、シーザーの血はその後を追ひかけ、

戸口に飛び出して、ブルータスがかくもむごたらしい突

き方をしたのか、それとも人違ひか、見定めようとし

たやうだつた。

ブルータスは諸君も御存知の通り、シーザーの無二の天

使だつたからです。

おゝ神々よ、判断し給へ、いかに深くシーザーは彼を愛

してゐたことか！

これこそすべてのうちの最も不人情な切り口だ、

さればこそ高慢なるシーザーも、彼が剣を上げるを見て

恩義を忘れたかといふ無念が、謀叛人どもの腕よりも強

く

全く彼の心を挫いてしまつたのだ。それから彼の絶大な

心臓は破裂し、

マントに顔を包んで

ポンペイの立像の臺のところに、

生血を注ぎかけながら、大シーザーは倒れたのだ。

おゝ、それは何といふ倒れ方であつたか、わが同胞諸君！

その時こそ、私も、諸君も、我々悉くが倒れてしまつて

兇惡無慚の大逆罪ばかりが、我々の上に勝ち誇つてゐた

のだ。

おゝ、今こそ諸君は泣く。諸君も、氣の毒と思はずには

ゐられないと見える。これこそ恩義を知るものゝ涙だ。

善良な諸君、諸君は我々のシーザーの衣裳が傷ついただけでも泣くのですか？ こゝを見給へ、

こゝにその人御自身が、切りさいなまれてゐるのです、

この通り、謀叛人どものために。

第一の市民 おゝ悼ましい有様だ！

第二の市民 おゝ御立派なシーザー様！

第三の市民 おゝ悲しむべき日！

第四の市民 おゝ謀叛人ども、悪人ども！

第一の市民 おゝ何といふむごたらしい有様！

第二の市民 俺達は復讐をするんだ。

一同 復讐だ！ 始めろ！ 探し出せ！ 火をつけろ！

焼討しろ！ 殺せ！ ぶつたぎれ！ 謀叛人ども、一

人だつて生かしちや置かんぞ！

アントニ お待ちなさい、諸君、

第一の市民 静まれ！ アントニの仰しやることを聞け、

第二の市民 あの方の話を聞き、あの方に随つてゆき、

あの方と一緒に死なうぜ。

アントニ 善良な友人諸君よ、やさしい友人諸君よ、ど

うか私に諸君を激昂させ

こんな突然の暴動の潮を起さすやうなことをしては下さるな。

この行ひをした人達はみんな名譽の士だ、

あゝ、彼等にどんな個人上の不平があつて遂にこの事を

なさしめたか、

それは知らない。彼等は惻巧でもあり、名譽もある人、

勿論いろ／＼の理由を以て諸君に答へたであらう。

友人諸君よ、私は諸君の心を盗むために来たのではない、

私はブルータスと違つて、雄辯ではない。

たゞ諸君の知られる通り、自分の友を愛する

樸訥な率直な男である。それを彼等は十分知つてゐれば

こそ

シーザーの爲めに述べる公けの許しを私に與へたのだ。

何故なれば、私は才智もなく、言葉も知らず、徳もなく、

身振り、雄辯術、辯舌の力を以て人の血を

湧き立たせる事の出来ない男で、只ありのままに述べる

だけであるからだ。

私のお話しすることは諸君も既に知るところで、

懐かしいシーザーの傷、可哀さうな、可哀さうな物言はぬ

口を諸君に示し、

その傷をして私に代つて言はせるのみだ。併し若しこれがブルータスであつたなら、

そしてブルータスがアントニだつたら、恐らく一人のア

ントニが出て

諸君の心を逆立たしめ、シーザーの一つくくの傷に

舌を興へて、ローマの石をも動かし、

立つて暴動を起させるであらう。

一同 暴動を起せ。

第一の市民 ブルータスの家を焼かう。

第三の市民 出掛けろ、さあ！ 陰謀者を探せ。

アントニ まあ聞き給へ、同胞諸君、まあ私の言ふこと

をお聞きなさい。

一同 静かに、おい！ アントニの話を受け。アントニ

は偉いのだ！

アントニ さて、友人諸君よ、諸君は無闇なことをしよ

うとなさる。

何故にシーザーはこれ程まで諸君の愛慕に値してゐたの

か？

あゝ、諸君は知らない。では諸君にお話ししなくてはならない。

諸君は私のお話しした遺言状の事を忘れてしまつた。

一同 全くだ。遺言状！ 待て、待て、遺言状を聞かう。

アントニ こゝにその遺言状がある、それにはシーザー

の印章が捺してある。

彼はローマの市民銘々に、一人残らず、

七十五ドラクマ（一ドラクマは三十六錢ほど）を贈つてゐる。

第二の市民 實にお偉いシーザー様！ そのお命を取つ

た奴に復讐しよう。

第三の市民 おゝ豪勢なシーザー様！

アントニ まあ静かに聞いて下さい。

一同 静かに、静かに！

アントニ その上に彼はタイパー河のこちら側にある

彼の牧草地、私有庭園、それから新しく植林した

果樹園全部を諸君に残した。彼はそれを諸君及び

諸君の相續人に永遠に譲つて、共有娯樂地として

諸君の散歩し、休養するに任せた。

シーザーはかういふ人だつた。何時またこんな人が来る

であらうか？

第一の市民 来ない、決して来ない。さあ出かけろ、出

かけろ！

この御死骸は火葬場で茶毘にし、
その燃木でもつて謀叛人どもの家を焼いてしまへ。

死骸を擔げ。

第二の市民 行つて火種を拾つてこい。

第三の市民 腰掛をぶつ壊せ。

第四の市民 ぶつ壊せ、牀几でも、窓でも、何でも。

死骸を擔いで市民ども退場。

アントニ さあやるだけやらせろ。災禍よ、お前は腰を

起した、

勝手にどんなことでもやるがいゝ！

一人の従僕登場。

何だ、おい！

従僕 オクテーヴィヤス様は既にローマへ到着せられま

した。

アントニ どこに居られる？

従僕 レビダス様と御一緒にシーザー様のお邸宅に居ら

れます。

アントニ ではすぐに訪問する。

今到着とは願つてゐたところだ。運命の神も上機嫌だ、

この分ならどんな願ひも聞かれさうだ。

従僕

主人の話によりますと、ブルータスとカシヤスは
氣狂ひのやうになつてローマの門を馬に乗つて逃亡した

さうでございます。

アントニ 俺がどんなに人民を

煽動したかを、洩れ聞いたのだらう。さ、オクテーヴィ

ヤスの處へ案内しなさい。

二人退場。

第三場 ——ある街上。

詩人のシンナ登場。

シンナ 昨夜私はシーザーと饗宴を張つた夢を見た。

そして不吉ないろんことが私の想ひを暗くする。

戸外をうろくする意志はちつともないが、

それでゐて何か知らぬものが私を誘つて行く。

市民たち登場。

第一の市民 君の名は？

第二の市民 どこへ行くんだ？

第三の市民 どこに住んでゐる？

第四の市民 女房持ちか獨身者か？

第二の市民　みんなにまつすぐに返答しろ。

第一の市民　さうだ、そして簡短に。

第四の市民　さうだ、そして簡巧に。

第三の市民　さうだ、そして眞實を、それが當然だぞ。

シンナ　私の名？　どこへ行くんだ？　どこに住んでゐる？　女房持ちか獨身者か？　それからみんなに返答する、まつすぐに、簡短に、簡巧に、そして眞實を。

では先づ、……簡巧にね、私は獨身者ですよ。

第二の市民　といふと、女房持ちは馬鹿だといふやうに聞えるぞ。そんな事を言ふとボカリと參るよ危いぜ。

さ、まつすぐに。

シンナ　まつすぐに、私はシーザーの葬式に行くところ

です。

第一の市民　味方としてか、敵としてか？

シンナ　味方として。

第二の市民　そりやまつすぐな返答だ。

第四の市民　住ひは、——簡短に。

シンナ　簡短に、議事堂の側です。

第三の市民　名前は？　眞實のところ。

シンナ　眞實のところ、私の名はシンナ。

第一の市民　こいつ引つ裂いてしまへ。陰謀團の一人だ。

シンナ　私は詩人のシンナです、私は詩人のシンナです。

第四の市民　拙い詩を書いた罰に裂いてしまへ、拙い詩を書いた罰に裂いてしまへ。

シンナ　私は陰謀團のシンナではないのです。

第四の市民　どうだつて關ふものか、こいつの名はシンナだ。

こいつの心臓から名を引つこ抜いて、それから放免してやれ。

第三の市民　引つ裂いてしまへ、引つ裂いてしまへ！

さあ燃木だ、おう！　火の燃えさした。ブルータスの家へ、カシヤスの家へ。みんな焼き拂へ。一部はディー

ヤスの家へ、一部はカスカの家へ、残りはライゲリー

ヤスの家へ。さあ、行け！

一同退場。

第四幕

第一場 —— ローマ市内のある邸宅。

アントニ、オクテヴィヤス、及びレビダスの三人が
テーブルに對座してゐる。

アントニ では、これだけの多人數を死刑にしよう。名
に印がつけてあるだけ。

オクテヴィヤス 君の御兄弟も死刑にしないで

ない。同意しますか、レビダス？

レビダス 同意はするが——

オクテヴィヤス 印をつけて下さい、アントニ。

レビダス 併しパブリヤスも生かさないといふ條件つき
です、

マーク・アントニ、君の姉さんの息子パブリヤスを。

アントニ 彼も生かしはしない。見給へ、點をつけて所
刑することにしてゐる。

併し、レビダス、君はシーザーの邸宅に行き

例の遺言狀をこちらへ持つて来てくれ給へ、遺産の支拂
額を

どうしたら幾らかでも削減出来るか協議しよう。

レビダス え、君方はこゝにゐますか？

オクテヴィヤス こゝか、でなければ議事堂だ。

レビダス退場。

アントニ あいつは極くつまらない男で

使ひにやる位みが相應だ。三分した天下、

それを擔つて立つ三人のうちの一人として

彼は適當だらうか？

オクテヴィヤス 君がさう思つたのです。

そして我々の黒表及び死刑者名簿作製に當つて

誰に印をつけて死に處すべきか、彼の意見を採用したの

も君です。

アントニ オクテヴィヤス、私は君よりも年をとつてゐ
る。

我々はその男にいろ／＼の榮職を與へ、

紛然たる誹謗の重荷を分擔させはするが、

彼が榮職を擔つてゐるのは、丁度驢馬が黄金を擔つてゐ

ると同じで、

大任のもとに喘いだり、汗かいたり、引張られたり、追立てられたり、我々の指圖のまゝに、我々の欲する處へ寶物を運んでしまへば、

その荷物をおろして追ひ拂ふ、

荷輕になつた驢馬のやうに、耳を振つて、

共同牧場で草でも食へばいゝ奴だ。

オクテューヴィヤス 無論どうなされようとお好みのまゝ

だが

併し彼とても實戰の經驗ある勇敢な武人です。

アントニ 私馬だつてさうだよ、オクテューヴィヤス、

だからこそ

馬には十分の食糧を配給するのだ。

馬は、奮戦したり、轉回したり、立ち止つたり、

まつすぐに驍進したりすることを私が教へる動物で、

彼の肉體上の運動は私の精神に支配されてゐる。

ある意味で、レビダスもそれに過ぎない。

教へられ、訓練せられ、言ひつけられて初めて前進する。

つまらない男だ。彼の養ひとしてゐるものは

廢物や、食ひ剩しや、人眞似で、

世間が使ひ盡し、味のなくなつた頃、

彼はそろ／＼やりかけるといふ男だ。彼奴は單に舞臺の小道具だと思へばいゝ。

ところでオクテューヴィヤス、

重大事件がある、——ブルータスとカシヤスは

軍隊を召集してゐる。我々も早速對抗しなくてはならぬ。

だから我々の同盟者どもを糾合し、

有力な者を味方とし、十二分の資源を檢出しよう。

そして即座に會議を開き、

いかにすれば陰謀を最も巧みに發覺し得るか、

いかにすれば公然の危險を最も確實に除去し得るか、協

議しよう。

オクテューヴィヤス さうしませう、我々は杭に縛りつけ

られ、

多くの敵に吠えたてられてゐるのだから。

そして笑を湛へてゐる者のうちにも、心の中では

千萬の惡心を抱いてゐる者もないとは言へません。

二人退場。

第二場 —— サデーイス附近の陣營。

ブルータスのテントの前。

太鼓の音。

ブルータス、リュウシリヤス、ルーシヤス及び兵士等
登場。チチンニヤスとピンダラスは他の側から来て
彼等に出席ふ。

ブルータス 止まれ！

リュウシリヤス 合言葉あひことばを言へ！ 止まれ。

ブルータス どうだ、リュウシリヤス！ カシヤスはもう
おき来るかね？

リュウシリヤス おきです。ピンダラスが来て

主人からの御挨拶を申し上げるとの事でございます。

ブルータス 御挨拶は痛み入るね。……ピンダラス、君

の御主人は、

昔とは變られたのか、それとも良からぬ幕僚がゐるため
か、

あんなことは爲されるべきでないのにと、私には當然思
へるやうなことさへなすつた。

しかし程なくこゝへ見えれば、

十分辯解せられることであらう。

ピンダラス 私は確信いたします、

今にも主人は参りますが、

いつものやうに思慮と名節を重んじて居ります。

ブルータス さう信じたい。ちよつと、リュウシリヤス。

彼は君をどんなに待遇したか、はつきり聞かしてくれ。

リュウシリヤス 十分禮儀と尊敬を以て待遇されました。

併し昔のやうに

親密な様子もなく、また打ち解けた親しい物語も

ありませんでした。

ブルータス 君の話で、

暖かい友情が冷めかゝつてゐることがよく分る。氣をつ

けて見給へ、リュウシリヤス、

愛情が衰へはじめると、

わざと^{いりょう}變重にするものだから。

質樸な單純な信實には何等技巧はないが、

心に信實のない人間は、引き締めにくい荒馬のやうなも

ので、

外見は勇ましく、頼もしい素質と見えるが、

いざ烈しい拍車に耐へねばならぬとなると、

がっかりして、あてにならぬ駄馬同様、

忽ちに首垂れてしまふ。彼の軍勢は進軍してゐるか？
リユウシリヤス　今夜はサーデイスに一泊の豫定です。

最大部隊、即ち騎兵全部が、

カシヤス様と一緒に來てゐます。

ブルータス　ヤッ！ 到着したぞ。

奥で低い進軍の音。

靜かに進軍して出迎へよう。

カシヤス、軍勢を引率して登場。

カシヤス　止まれ！

ブルータス　止まれ！　めい／＼合言葉を言へ。

第一の兵士　止まれ！

第二の兵士　止まれ！

第三の兵士　止まれ！

カシヤス　ブルータス、あなたは私に不當な仕打をなさ

れた。

ブルータス　お、神々よ、照覽あれ！　私が敵にさへも

不當な仕打をする人間だらうか？

敵にしない位なら、どうして兄弟に不當な仕打をしよ

う？

カシヤス　ブルータス、あなたのこの鹿爪らしい態度が

いろ／＼の不正を隠すのです。

あなたがその不正を――

ブルータス　カシヤス、まあ靜かに。

不平があるなら穩かに話さない。私は君をよく知つて

ゐるから。

この兩軍の眼前で

激論することは止めよう。彼等には二人の親陸してゐる

様より他には

見せてはならないのだ。彼等は向うへ移動させ、

それから私のテントの中で、カシヤス、君の不平を十分

に述べるがよい。

とくと拜聽するから。

カシヤス　ピンダラス、

指揮官に命じ、各々部下を率ゐて、

こゝからすこし離れさせてくれ。

ブルータス　リユウシリヤス、君も同じやうにしてくれ給

へ。それから

我々の協議が終るまで誰も入れてはならない。

ルーシヤスとチチンニヤスは戸口を警護してくれ。

一同退場。

第三場 —— ブルータスのテント。

ブルータスとカシヤス登場。

カシヤス あなたが私に不當な仕打をなされたといふのは、まづかうです。

は、まづかうです。

あなたはルーシヤス・ペラがこの地のサーデイス人から
 收購したといふ廉で、彼を譴責し又侮辱なされた。

そこで私は、彼の人格を知つてゐるので、

彼の爲めに赦免の書面を差し出したが、それは少しも顧
 みられませんでした。

ブルータス さういふ事件に際してあんな手紙を送るな

どういふことは、君自身を侮辱してゐるやうなものだ。
 カシヤス 今日このやうな場合には、一々増末な罪跡に對

してまで

責めを負はせることは適當ではありません。

ブルータス それなら君に言ふが、カシヤス、君自身が

貪慾者だと言つて大いに非難されてゐる。

黄金の爲めに價値のない者に官職を

賣つたり、糶せたりするといふ非難がある。

カシヤス 私が貪慾者だつて！

こんなことを言ふのはブルータスだといふ事を、あなた
 は御自身承知の上で言はれるであらうが、

さもないと、神々かけて、この言葉はあなたの最後の言
 葉になりますぞ。

ブルータス カシヤスといふ名がこの背德行爲を飾つて

ゐるのだ、

だから譴責が表面に現はれないのだ。

カシヤス 譴責！

ブルータス 記憶なさい三月を、三月の十五日を、

大シーザーの血を流したのは、正義の爲めではなかつた

か？

彼の體に觸れ、突き刺しはしたけれども、正義のため

はなかつたやうな悪黨が、どこにゐたか？

然るに何事ぞ、我々同志の一人——

天下の公器を盗む者を支持するといふためにのみ、

全天下を通じての第一人者を倒した我々が、今

賤しき賄賂を以て我々の指を汚し、

我々の廣大無邊な大切な名譽を賣つて、

かうして擲める位ゐる些細なものと交換すべきである

か？

寧ろ犬となつて月に吠えたがましだ、

そんなローマ人になる位なら。

カシヤス ブルータス、私には吠えないでくれ給へ、

我慢には限りがあるから。私をこんなに追ひつめるなんて、君は自分を忘れてゐるのだ。

私も武士だ、私も、

實戦では君より経験があり、部下の任命については君よりも手腕がある。

ブルータス 馬鹿な、そんなことがあるものか、カシヤス。

カシヤス あるとも。

ブルータス ないと言へば。

カシヤス もうこれ以上怒らせないでくれ、我慢しきれなくなる。

自分の身を考へて、いゝ加減に挑戦はやめて貰はう。

ブルータス 退れ、小人め！

カシヤス よくもそんな事が！

ブルータス 聴け、言つて聞かせるから。

わしがお前なんぞの短氣に屈して、讓歩すると思ふか？

狂人が睨んだからとて、わしが驚かうか？

カシヤス おゝ、神々よ、神々よ！ これほどまでに言

はれても、まだ忍ばねばならんのか？

ブルータス これほどまで！ 勿論だ、これ以上をもた

ぶり／＼するが、その高慢な心臓が破裂するまで。

君がどんなに腹立ち易いか、行つて君の召使に見せ、

奴隷を戦慄させるが、わしが退くと思ふのか？

わしが君の御機嫌を伺ふと思ふのか？ わしが君の

我儘なむら氣のまゝに、立つたり、平突ばつたりすると

思ふのか？ 神々も照覽あれ、

君の癩瘡の毒汁は、自分で消化しなくてはならんのだ、

よし身を裂くほどに痛からうとも。今日以後

君が向ッ腹を立てる毎に、わしの慰みもの、さうだ、

わしの笑ひ草にしてやるから。

カシヤス それ程までにも？

ブルータス 君は今わしよりも立派な武士だと言つた、

それならそれらしくして貰ひたい。その高言の實證を見

せてくれれば

大いに我が意を得たといふものだ。自分としては

高潔な人から學ぶのは悦ばしい。

カシヤス 君はどこからどこまで不當だ。實に酷い、ブルータス。

僕は君より經驗があると言つたばかりで、君より立派だとは言ひはしない。

立派だと言ひましたか？

ブルータス 言つたつて構はない。

カシヤス シーザーが生きてゐたつて、かうまで僕に腹を立てさせることはしなかつたやうに。

ブルータス 黙れ、黙れ！ 君こそシーザーにならこれほどまで逆らふことは出来なかつたのだ。

カシヤス 出来なかつた？

ブルータス さうだ。

カシヤス 何だつて、彼に逆らふことが出来なかつたのか！

ブルータス 命惜しさに出来なかつたのだ。

カシヤス 僕の愛をあんまり多く頼みにしないで貰ひたい、

後悔するやうなことをするかも知れないから。

ブルータス 既にしてしまつたんだ、後悔しなければならんことを。

君がどんなに脅かしても、わしは少しも怖くはない。わしは正直を以て堅固に武装してゐるから、君の威嚇など空しい風のやうに通り返して少しも意には留めないのだ。……わしは君の處へ使ひを

やり

ある額の金を借りようとしたが、君はそれを拒絶した。わしは不正な手段では錢が作れないからだ。

天も照覽あれ、わしはこの心臓を鑄造し、血を流して

金を作ればとて、何か不正な手段を用ひ

百姓どもの硬ばつた手から不淨材をもぎ取る事は

出来ないのだ。わしが金を借りたいと

言つてやつたのは、軍隊に支拂ふためだつたが、

君はそれを拒絶した。これがカシヤスらしいやり方か？

わしがケイヤス・カシヤスにそんな返辭をしたであらう

か？

このマーカス・ブルータスがそれほど貪慾になり、

こんな目腐れ金に鏡をおろして親友に出し惜しむる時

は、

神々よ、速やかに天雷を下して、

このマーカスを寸斷し給へ！

カシヤス 僕は拒絶はしなかつた。

ブルータス いやした。

カシヤス しない。僕の返辭を傳へた男が

騎馬カウチなのだ。ブルータスの今の言葉は僕の心臓を引つ裂いてしまつた。

友人なれば友人の弱點を耐へ忍ぶべきなのに、

ブルータスは僕の弱點を實際よりも大きくするのだ。

ブルータス 大きくはしない、たゞ君はわしに向つてさ

へもその非を遂げようとするからだ。

カシヤス 君は僕を愛してゐないんだ。

ブルータス 君の缺點が嫌ひなのだ。

カシヤス 友情さへあれば、そんな缺點は見えない筈

だ。

ブルータス 追従者ツウゾウシャなら、わざと見ないやうにするなら

う、オリムパスほど

大きな缺點が出てゐても。

カシヤス 來い、アントニ！ 若いオクテーヴィヤスも來

い！

このカシヤス一人に恨みを晴らすがいゝ、

カシヤスはこの世に厭き果てた。

愛慕する人からは憎まれ、兄弟からは侮あざむられ、

奴隷のやうに叱られ、過半は一々數へ立てられ、

手帳に記して復習し、暗誦し、

そして面罵せられるのだ。おゝ、泣いてくゝ

眼から魂が抜き出せればいゝ……こゝに俺の短劍、

こゝに俺の素裸すだかの胸がある。胸の中にはブルータス(宮の神)

の

寶庫よりも大事な、黄金よりも立派な、心臓がある。

さ、ローマンなら、この心臓を扶たすり出せ。

君に黄金を拒絶した俺はこの心臓をくれてやる。

斬れ、シーザーに向つてやつた通りに。さうだ、

君がシーザーを最も烈しく憎んだ時でさへ、曾てカシヤ

スを愛した以上に

彼を愛してゐただから。

ブルータス その短劍を收め給へ。

怒りたいときには怒るがいゝ、自由にあばれさせて上げ

るから。

好きなことをするがいゝ、不名譽なこともむら氣と思つ

て上げるから。

おゝ、カシヤス、君の相手は小羊で、

怒つたとても燧石が火の氣を帯びてゐるやうなものだ。
燧石は強く當られると、性急な火花を發しはするが、
すぐ又冷たくなつてしまふ。

カシヤス カシヤスは生き存らへて

ブルータスのいゝ慰み物となり、笑ひ草となるのか？

この身みづからは心の悲しみ、むしやくしやした血の氣
に、惱んでゐるのに。

ブルータス あんなことを言つた時、私も亦むしやくし
やしてゐたのだよ。

カシヤス さうまで本當のことを言つてくれますか？

……どうぞお手を。

ブルータス この心臓をも差し上げる。

カシヤス おゝ、ブルータス！

カシヤス泣く。

ブルータス どうしたのだ？

カシヤス あなたは私を我慢して下さるだけの愛情をお
持ちでないのだらうか？

この私の短氣は母の遺傳で

すく我を忘れるのです。

ブルータス 我慢するとも、カシヤス、そして今後は、

君がブルータスに對して熱し過ぎる時は、
これは君の母の立腹だと思つて、君はその儘にして置か
う。

詩人 「奥で」大將方に逢はして下さい。

お二人の間に何か遺恨があるのだ。差し向ひに
して置くのはよくない。

リュウシリヤス 「奥で」將軍のところへ行くことはなら
ん。

詩人 「奥で」生きてゐる限り、留まりはしないぞ。

詩人登場。後にリュウシリヤス、チチンニヤス及びル
ーシヤスが隨つて来る。

カシヤス どうした！ 何事か？

詩人 恥辱です、兩將軍！ 何といふ御料簡です？

いつくしみ又親しめよ、わが二君、

鳥詩がましくもかう言ふは、われ一日の長なればなり。

カシヤス ハ、ハ、！ ひどく拙いぞ、この皮肉屋の歌は。

ブルータス あちらへ行け、おい。無禮な奴だ、退れ！

カシヤス 我慢してやつて下さい、ブルータス、こいつ

の流儀なんですよ。

ブルータス 時さへ辨へれば、性癖は許してやるが、

戦場にこんなへぼ歌うたひの阿呆が何になる？

おい、退れ！

カシヤス 行つた、行つた、あつちへ行つた！

詩人退場。

ブルータス リユウシリヤスにチチンニヤス、君達は

指揮官に命じ、今夜軍隊の宿泊する準備をさせてくれ。

カシヤス それから二人とも、至急

メッセーラを同伴してこゝへ来て下さい。

リユウシリヤスとチチンニヤス退場。

ブルータス ルーシヤス、酒を一杯！

ルーシヤス退場。

カシヤス あなたがあれほど御立腹なされようとは思ひ

がけませんでした。

ブルータス おゝ、カシヤス、私はいろ／＼の悲しみで

惱んでゐるよ。

カシヤス あなたの哲學も何等用をなしませんね、

偶然の不祥事に屈するやうでは。

ブルータス 誰だつてこれ以上の悲しみを忍び得る者は

ないだらう。ポーシヤが亡くなつたのだ。

カシヤス え！ ポーシヤが！

ブルータス 亡くなつたのだ。

カシヤス あれほどあなたに逆らつて、よくも私は殺さ

れずに濟んだものだ！

おゝ何といふ悲しい痛ましい不幸であらう！

どんな御病氣で？

ブルータス 私の不在を耐へ難く思ひ、

又オクテーヴィヤスがマーク・アントニと合體し

かくも強大となつたのを悲しみ——丁度彼女の訃音と同

時にその知らせは私の處へも來た、——その結果亂心

し、

侍女達の不在中、火を呑んだのだ。(壁えな石炭を呑んで窒息する)

カシヤス そしてお亡くなりでしたか？

ブルータス さうだ。

カシヤス おゝ神々よ！

ルーシヤス、酒と蠟燭を以て再び登場。

ブルータス 彼女のことはもう言はないでくれ、さあ酒

をくれ。

カシヤス、この中にすべての痛みを葬つてしまはう。

カシヤス 私もあなたのその氣高き盃を悦んでいたよき

ます。

注いでくれ、ルーシヤス、酒が盃に溢れるほど。
ブルータスを愛慕する心を託して、いか程飲むとも飲み
足りない。

ブルータス おはひり、チチンニヤス！

ルーシヤス退場。

チチンニヤス再び登場、メッセーラを伴ふ。

ようこそ、メッセーラ。

さあみんな、この蠟燭のまはりに膝つき合せて、
緊急事項を協議しよう。

カシヤス あゝポーシヤ、逝つてしまつたのか？

ブルータス どうか、もうそれはよしてくれ。

メッセーラ、こゝに書面を受け取つてゐるが、

オクテーヴィヤスとマーク・アントニは

強大な軍勢を率ゐて攻め寄せ、

進路をフリッパイに向けるといふことだ。

メッセーラ 私自身も同じ趣意の通信を持つて居ります。

ブルータス その他何か？

メッセーラ 死刑者名簿及び法権剝奪者表により

オクテーヴィヤス、アントニ、及びレビダスは

百人ほどの元老院議員を死に處したとあります。

ブルータス その點では私の受け取つた書面とどうも一
致しない。

私には、死刑者名簿によつて死んだ議員は

七十人で、シサローもその一人だと書いてある。

カシヤス シサローもその一人！

メッセーラ シサローも死にました。

しかも死刑者名簿の命令によるのです。……

奥様から御通信がございましたか？

ブルータス いや、メッセーラ。

メッセーラ では書面中に何か奥様の事が書いてよも？

ブルータス 何もない。

メッセーラ はて、それは不思議な。

ブルータス なぜ訊くのだ？ 君の受け取つた書面で何

か彼女のことでも聞いたのか？

メッセーラ い、いえ、將軍。

ブルータス さあ、君はローマ人だから、眞の事を言つ

てくれ給へ。

メッセーラ ではローマ人らしく、私の申し上げる事實

を耐へて下さい。

確かに奥様はお果てなさいました、しかも變つた有様で。

ブルータス では、ポーシャよ、左様なら。我々は死なぬわけにはゆかないのだ、メッセーラ。

彼女も一度は死ぬべき筈のものだと悟れば、今この報知を耐へるだけの忍耐はある。

メッセーラ そのやうにして偉い人は大きな不幸に耐へねばなりません。

カシヤス 私にしても考へただけではあなたに劣らぬ忍耐があるのだが、

私の本性がさうは我慢させてくれない。

ブルータス ともかく、生きた仕事に掛るとしよう。至急

フィリップパイへ進軍するについての君の意見は？

カシヤス よくないと思ひます。

ブルータス その理由は？

カシヤス かうです。

敵をして我々を探さしめる方がよろしい。

すれば敵は資源を浪費し、兵卒を疲勞せしめ、

自ら損害を招くことになる。その間我々は静止してゐて、

十二分の休息、防備、及び敏活さを得るのです。

ブルータス よい理由でも更によい理由があれば、止む

なく屈しなくてはならん。

フィリップパイとこの地との間の人民は

單に強制されて我軍に従つてゐるに過ぎないのだ、

それは我々に貢物を惜しんだのでも分る。

もし敵軍が彼等の間をでも進んで來ると、

彼等を味方に加へて一層兵數を充實し、

士氣を増し、新手を加へ、勇氣百倍して襲うてくるであらう。

その利益を遮断するため、

かのフィリップパイに於て敵に面し、

この人民を背後にして戦ふべきだ。

カシヤス いや聞いて下さい、ブルータス。

ブルータス 失禮だが。……その他かういふ事も留意し

なくてはならん、

我々は味方の力のありたけを用ひて來た、

兵は溢れんばかり、軍機も熟し切つてゐる。

敵は一日々々増加するが、

我々は既に絶頂に達して、これからは降るばかりだ。

およそ人事には潮時がある。

満潮を捉へると、幸運に導いてくれるが、

それを閉却すると、すべて一生の航海は

淺瀬に乗り上げ、災厄に陥るは必定である。

かやうな満潮の海に我々は今浮んでゐるのだ。

この流れを役立つ時に捉へなければならん、

さもないと損失を招くだけだ。

カシヤス では、お考へ通りおやり下さい。

我々は進んで撃つて出で、フィリップで敵を迎へませう。

ブルータス 話してゐる中に、いつのまにか夜が更けた。

自然の必要には従ふの外はない。

暫くの間休むとしよう。

この上言ふことはないね？

カシヤス ありません。お休みなさい。

明日は早朝に起きて、出發させよう。

ブルータス ルーシヤス！「ルーシヤス登場」わしの夜着

を。「ルーシヤス退場」ぢや左様なら、メッセーラ。

お休み、チチンニヤス。カシヤス、

お休み、そして十分休息し給へ。

カシヤス お、私の切愛するブルータス！

今夜は最初につまらぬ事がありました、が、

二度と我々の間にこんな不和の來ないやうに！ブルー

タス。

ブルータス よろしい、大丈夫。

カシヤス お休みなさい。

ブルータス お休み、カシヤス。

チチンニヤス

メッセーラ } お休みなさい、ブルータス様。

ブルータス 左様なら、諸君。

ブルータスの外皆々退場。

ルーシヤス夜着を以て再び登場。

ルーシヤス このテントの中にございますか？

ブルータス これ、眠さうな聲だな？

可哀さうに無理もない。睡眠が足りないのだ。

クロードヤスと他に同僚を二三人呼んで來なさい。

テントの中の寢臺に寝させるから。

ルーシヤス プローにクロードヤス！

プロローとクロードヤス登場。

プロロー お召しでございませうか？

ブルータス どうか君達は何、このテントの中で横にな

つて眠つてくれ給へ。

若しかすると、程なく起きて、

カシヤスの處へ使ひに行つて貰ふかも知れないから。

ブルータス では、張番して、仰せを待つ事に致しませう。

ブルータス それには及ばん。横になりなさい、みんな。

或は考へが變るかも知れない。……

ほら、ルーシヤス、私の探してゐた本がこゝにある。

夜着のかくしに入れて置いたのだつた。

ブルータスとクロードヤス横になる。

ルーシヤス 確かにお預りした覚えはないと思ひました。

ブルータス 堪忍してくれ、な、わしはひどく忘れつば

くなつた。

どうだ、眠いだらうが、暫らく耐へて、

樂器を一二曲奏でよはくれまいか？

ルーシヤス はい、お好みでございましたら。

ブルータス 好むとも、

氣の毒だが、併しお前はよく言ふ事を聞いてくれるなあ。

ルーシヤス これは私の義務でございます。

ブルータス 義務でも、力以上のことを求めてはならな

いのだ。

若い血氣の者は休息の時を要する事をよく知つてゐる。

ルーシヤス 私はもう眠りました。

ブルータス それはよかつた。又眠られるよ。

長く引き留めては置かない。わしが生きてさへ居れば

よくしてあげるぞ。

音楽、そして歌一つ。

これは眠い調子だ。……おゝ心を殺す睡眠よ、

お前はその鉛の槌を、音楽を奏してゐる私の少年の上に

さへ置くのか？

可愛い少年よ、お休み。

お前を起すやうなそんな酷いことはしないぞ。

お前がこくりとやれば、樂器は壞れる。

こちらへ取つて置いて上げよう。よい子だ、お休み……

はてな、はてな、讀みさしたページを

折つて置かなかつたな？ こゝだつたらう、大方。

シーザーの亡靈登場。

何て燃えが悪いのだらう、この蠟燭は！……や！誰だ？

多分私の視力が弱いため

こんな奇怪な異象を見るのだらう。

だん／＼近づいて来る。……貴様は何者だ？

神か、精靈か、それとも悪魔か、

かくわが血を凍らせ、わが頭髮を逆立たせるは？

何者か言へ。

亡靈 お前に祟る亡靈だ、ブルータス。

ブルータス なぜ来たか？

亡靈 フィリップパイで又逢ふぞと言ひに来た。

ブルータス ふん、では又貴様に逢ふんだな？

亡靈 さうだ、フィリップパイで。

ブルータス 何、それなら又フィリップパイで逢ふとしよう。

亡靈退場。

勇氣を出したら、お前は退散しをる。

悪魔よ、もつとお前と話してゐたかつたのだ。……

おゝ、ルーシヤス！ ワロー！ クローデヤス！ みんな

起きてくれ！

クローデヤス！

ルーシヤス 絃いんが悪いのです。

ブルータス まだ楽器を持つてゐると思つてゐる。

ルーシヤス、起きろ！

ルーシヤス 御用は？

ブルータス 夢を見たのか、ルーシヤス、あんな大聲を出

して？

ルーシヤス 私は大聲を出したことは存じません。

ブルータス 出した、確かに出した。お前何か見たか？

ルーシヤス いゝえ、何にも。

ブルータス もう一度お休み、ルーシヤス。……こら、ク

ローデヤス！〔ワローに〕おい、起きろ！

ワロー はい。

クローデヤス はい。

ブルータス お前達は寝てゐてなぜあんな大聲を上げた

のだ？

ワロー 私どもが？

クローデヤス さうだ。何か見たか？

ブルータス いえ、何も見ませんでした。

ワロー 私もです。

クローデヤス 私もです。

ブルータス 行つてカシヤスに挨拶し、

時刻に後おそれず一足先きに隣を繰り出すやう話してくれ、

我々も續いて行くから。

ワロー 承知仕りました。

クローデヤス

一同退場。

第五幕

第一場 —— フィリップバイの平野。

オクテューヴィヤス、アントニ及び彼等の軍勢登場。

オクテューヴィヤス　ね、アントニ、望みは叶つた。

君の説では、敵は攻め下りては來ない、

小山と高地を守るといふことだつたが、

實際はさうでなかつた。敵の部隊は手近まで來た。

彼等はこのフィリップバイで戦闘準備を通告し、

我々の挑戦しないうちから攻め寄せて來る積りらしい。

アントニ　ちえッ！ 彼奴等の腹は見え透いてゐる、

なぜそんな眞似をするのか、よく分つてゐる。内心こゝ

へ來るのを

悦んではゐないのだが、それでゐて下りて來るのは

おづくしながらも威勢を見せつけ、この不敵の對抗で、

勇氣があるぞと我々に思はせる積りなのだ。

ところが實は少しも勇氣はないんだ。

一人の使者登場。

使者　兩將軍、御用意遊ばしませ。

敵は威風堂々と寄せて參ります。

血の色の開戦の合圖は高く掲げられ、

早くも何事か行はれさうでございます。

アントニ　オクテューヴィヤス、君の軍隊を靜かに引率し

平野の左手を進んでくれ給へ。

オクテューヴィヤス　私は右手を行かう。君は左手に據つ

てくれ給へ。

アントニ　なぜ、君はこの危機に際して、私に逆らふの

か？

オクテューヴィヤス　逆らひはしない、たゞさうするだけ

だ。

進軍。

太鼓。

ブルータス、カシヤス及び彼等の軍勢、リュウシヤ

ス、チチンニヤス、メッセーラその他登場。

ブルータス　彼等は立ち停つて、會見を望んでゐるらし

い。

カシヤス　チチンニヤス、兵を控へろ。我々は前へ出て談

判しなければならぬから。

オクテーヴィヤス、マーク・アントニ、開戦の合圖を出したものかね？

アントニ いや、オクテーヴィヤス、我々は敵の攻勢に對して應戰するさ。

前進しよう、敵將は何か言葉を交したがつてゐる。

オクテーヴィヤス 「部下に」合圖するまで動いてはならぬ。

ブルータス 「前へ出て」劍よりもまつ言葉、さうではな
いか、同胞諸君？

オクテーヴィヤス 君方のやうに、言を弄することを好むからではないぞ。

ブルータス よい言葉は悪い劍よりも立派なのだ、オク
テーヴィヤス。

アントニ ブルータス、君は悪い劍を用ひながら、よい
言葉を口にしようといふのだ。

證據は君がシーザーの胸に開けた穴だ、
「シーザー萬歳！」と叫びながらやつた。

カシヤス アントニ、
君の劍の使ひ具合はまだ知らないが、

何しろ君の口前だけは、ハイブラの蜂から

蜜を盗んで来たやうな甘さだ。(ハイブラはシリイ島
の町で蜂蜜の名産地)

アントニ 刺だけは残してな。
ブルータス いや、刺も盗つた、聲も盗つた。

アントニ、君は蜂の唸り聲まで奪つて来て

小がしこくも刺す前にぶん／＼脅してゐるのだ。

アントニ 悪人ども、汝等はそれさへしなかつた。陋劣
な短劍で

シーザーの脇腹を、互ひにかち合ふほど滅多切りしたあ
の時。

初めは猿のやうに白い齒を見せ、獵犬みたいに尾を振り、
奴隷の如く腰を弓にし、シーザーの足に接吻して置きな

がら、
その途端、罰當りのカスカ奴が、野良犬そのままの恰好
で背後に廻り、

シーザーの頸を突いたのだ。おゝ、この追従者奴が！
カシヤス 追従者だと！ さあ、ブルータス、御覽なさ

い
カシヤスの意見通りにして置いたなら、

此奴に今日これほどまで毒づかせはしなかつたものを。

オクテーヴィヤス さあ、戦ひをしよう。議論で汗

をかきやうなら、

腕で證明する場合にはもつと赤い滴を流すことだらう。

見よ、

奸賊に向つて抜いたこの劍が、

何時再び鞘に収まると思ふか？

シーザーの三十三ヶ所の刀創が

存分に復讐される時か、さもなくば今一人のこのシーザ

ーが大逆人の刃に倒れて、死人の數を増す時かだ。

ブルータス お前は、大逆人の手では死ねないぞ、

お前達自身が大逆人を連れて来れば別だが。

オクテーヴィヤス どうかさうありたいものだ。

わしはブルータスの劍で死ぬやうに生れついてはゐない

のだ。

ブルータス おゝ青二才、お前が同族中の最も尊貴な者

であつたにしろ、

この劍にかゝるほど名譽な死に様はないのだぞ。

カシヤス 甘つたれの若僧奴、そんな名譽を受ける値打

もない癖に、茶番好きや酒飲み共とぐるになつて！

アントニ いつもながらのカシヤス！

オクテーヴィヤス さあ、アントニ、行かう！

大逆人ども、挑戦を貴様等の顔に投げつけたぞ。

今日戦争する勇氣があれば、戰場へ来い。

なければ、元氣の出た時いつでもよい。

オクテーヴィヤス、アントニ及びその軍隊退場。

カシヤス さあ、かうなれば、風よ吹け、波よ立て、舟

は勝手に泳ぐがよい！

あらしは起つた、一か八かだ。

ブルータス おい、リュウシリヤス！ ちよつと、一言。

リュウシリヤス 「前へ出て」はい！

ブルータスとリュウシリヤスが離れて話す。

カシヤス メッセーラ！

メッセーラ 「前へ出て」將軍、何御用？

カシヤス メッセーラ、

今日はわしの誕生日だ。今日といふこの日に、

カシヤスは生れたのだ。握手をしよう、メッセーラ。

そして證人になつてくれ、わしの意志に反して、

丁度ボンベイと同じやうに、我々のすべての自由を

この一戦に賭することを強要されてゐるのだ。

君も知る通り、わしはエビキュラスとその説く所を

確く信じてゐた。併し今では心變りして

物の前兆といふことを、幾らかは信ずるやうになつたのだ。

サーデイスから来る途中、我軍の先頭の旗の上に

二羽の大きな鷲が下りて棲り、

兵士の手から物を貪り食ひ、養はれてゐた。

そしてこのフィリッバイまでも、我々と一緒になつて来た

が、

今朝になつて飛んで行つてしまつた。

その代りに大鴉だの、鴉だの、鳶だのが

我々の頭上を飛びまはり、

我々を死にかゝつてゐる餌食のやうに見下してゐる。彼

等の影が甚だ不吉な

天蓋のやうに見え、我々の軍隊はその下に横たはつて

今にも魂を失ひかけてゐるやうに思はれる。

メッセーラ そんな風にお信じなさらぬがよろしい。

カシヤス わしとても幾らか信ずるだけだ。

わしは精神潑刺とし、あらゆる危険に

毅然として當面する決心だ。

ブルータス その通りだ、リュウシリヤス。

カシヤス さて、ブルータス、

どうか神々が今日我々の味方となり給ひ、

平和の愛好者たる我々が、長く生きて老齡に至らんこと

を！

併しながら、およそ人事は何時でも無常であるからには、

振りかゝる最悪の場合を話し合つて置きませう。

萬一この一戦が敗北に終らば、

お互に談笑するのもこれが最後になりませう。

あなたは其の時どうなさる御決心ですか？

ブルータス 例の哲學の原則に従ふ積りだ。

わしはその哲學に則つて、ケイトーの自殺を非難した。

——わしは、どうしてかは知らないが、

來らんとするものを怖れて、

自らの生命を豫め斷ち切ることは、卑怯で賤しむべき事

と思ふのだ——

そこでそ、哲學に従つて、忍耐を以て身を堅め、

我々下界の者を支配し給ふ或る高き力ある者の

誦理を待つ積りだ。

カシヤス では、一旦敗戦の場合、

ローマの街々を曳かれて

凱旋のさらし者になつても御満足ですか？

ブルータス いや、カシヤス、さうではない。君は立派

なローマ人だ、苟くもブルータスが

縛られてローマに行くなど、考へてくれるな。

わしはもつと大いなる心を抱いてゐる。併し今日といふ

今日は

三月十五日に始めた事業の結着をつけなくてはならぬ。

我々重ねて逢ふかどうか、それは分らない。

だから我々の永遠の訣別をしよう。

いつまでも、いつまでも御機嫌よう、カシヤス！

もしまた逢へたら、ね、二人で笑ふことにしよう。

でなければ、なに、よい訣別をした事だ。

カシヤス いつまでも、いつまでも御機嫌よう、ブルー

タス！

もしまた逢へたら、それこそ二人で笑ひませう。

でなければ、實際よい訣別をした事になる。

ブルータス では進軍！ おゝ、人間がその日の仕事の

結着を

豫め知ることが出来たならば！

併し今日のこの日もやがては終る、それで十分だ、

それで結着は知れてゐるのだ。……さあ、進め！

進め！

一同退場。

第二場 —— 同所。戰場。

警鐘。ブルータスとメッセーラ登場。

ブルータス 駈けた、駈けた、メッセーラ、馬を駈けた、

そしてこの雷附を

向う側の隊に渡してくれ。

けた、ましい警鐘。

彼等に時を移さず襲撃させろ、オクテーヴィヤスの翼に

熱のない學動が見えるから。

急にと押し押せば、總崩れとなる。

駈けた、駈けた、メッセーラ、全軍一度に襲撃させてくれ。

一同退場。

第三場 —— 戰場の他の部分。

警鐘。カシヤスとチチンニヤス登場。

カシヤス おゝ、見ろ、チチンニヤス、見ろ、卑劣な奴等

が逃げをる!

俺までも味方に對して敵となつた、

我々の隊の旗手めが、背中を見せようとしてゐたので、

卑怯者を打ち殺し、旗をこつちへ奪ひ取つた。

チチンニヤス おゝ、カシヤス様、ブルータス様の命令

は早過ぎました、

オクテ・ヴィヤス軍に乗すべき機會があつたので

それを攔むに熱し過ぎました。ブルータスの部下は

奪掠をはじめてゐましたが、

我々は悉くアントニの重圍に陥つたのです。

ビンダラス登場。

ビンダラス お逃げ下さい、旦那様、もつと遠くへ。

マーク・アントニは既に御本營を占領してゐます、

ですから落ち延びて下さい、カシヤス様、ずつと遠くの

方へ。

カシヤス この丘で十分だ。……や、や、チチンニヤス、

火の手が見えるのは俺の陣營か?

チチンニヤス 左様です。

カシヤス チチンニヤス、友情があるなら、

わしの馬に跨つて、拍車をその脇腹に埋めるほどかけ、

あの向うの軍隊へ行き、

又歸つて来てくれ、敵か味方か

確かめて置きたいのだ。

チチンニヤス 瞬く間に歸つて参ります。

退場。

カシヤス ビンダラス、行つてこの丘のもつと高い處へ

登つてくれ、

俺の眼は霞んで駄目だ。チチンニヤスに氣をつけて、

戦場で目についた事をすっかり話してくれ。

ビンダラス 小山に登る。

今日は俺の初めて生れた日だ。時はめぐつて、

生を始めた日にまた終るのだ、

わが一生も一巡りめぐつた。……おい、何か情報は?

ビンダラス 「上から」おゝ旦那様!

カシヤス 情報は?

ビンダラス 「上から」チチンニヤスは騎馬に遠巻きにせ

られ、

騎馬は拍車をかけて迫ります。

だが彼も拍車をかけて迫ります。もう殆ど彼に追ひつきま

す。

あゝ、チチンニヤス！ あ、一三人馬から下りる。おゝ、チチンニヤスも下ります。

もう捕虜にされました。

喊聲。

あれ／＼、勝鬨を上げて居ります。

カシヤス 下りて来い、もう看るに及ばん。

おゝ俺は卑怯だ、最良の友が

眼前に捕虜になるのを見ながら、かうして生きてゐると

は！

ピンダラス下りる。

おい、こゝへ来い。

パルシヤでお前は捕虜になつた。

その時お前に誓はせ、生命は助けてやる代りに、

俺の命ずることは何でもしろと言ひつけた。

さあ、今その誓約を守つてくれ。

これからは自由の人間になるのだ。この名劍、

シーザーの臍腑を刺し通したこの名劍で、俺の胸を突き

刺してくれ。

返事するには及ばん。さあ、この柄を握り、

この通り顔を覆うてゐる時に、

劍の狙ひをつけてくれ。

ピンダラス刺す。

シーザーよ、お前の復讐はすんだのだ。

しかもお前を殺したその同じ劍で。

死ぬる。

ピンダラス これで、わしも自由の身になつた。若し本

心の命ずるまゝにしてゐたら、

このやうに自由にはなれなかつた。おゝ、カシヤス様、

ピンダラスはこの國から遠くツツ走り、

二度とどんなローマ人にも見られないやうに致します。

退場。

チチンニヤス再び登場、メッセーラを同伴してゐる。

メッセーラ チチンニヤス、一勝一敗に過ぎないよ。

オクテーヴィヤスはブルーダス軍に破られ、

カシヤスの隊はアントニに取られたのだから。

チチンニヤス この報知はカシヤス様のよい慰めとなる

だらう。

メッセーラ 何處で別れたのだ？

チチンニヤス 全く鬱々とした御様子で、

奴隷のビンダラスと一緒にこの丘の上に居られたのだ。

メッセーラ あの人ではないか、倒れてゐるのは？

チンニヤス 生きてゐるやうではないぞ。おゝこの胸！

メッセーラ あの人ではないのか？

チンニヤス いや、メッセーラ、もとはあの人だったが、

カシヤス様はもうこの世にはゐなくなつた。おゝ沈み行

く太陽よ、

お前は赤い光線のうちで没して夜となるが、

このカシヤスの日輪も赤い血のうちに没した、

ローマの太陽は没した！ 我々の日は暮れた、

来るのは雲だ、夜露だ、危難だ。我々の仕事も終りだ！

わしの使命の結果を疑つてこの行爲をなされたのだ。

メッセーラ 不利な結果を豫想してこの行爲をなされた

のだ。

おゝ憎むべき誤解、憂鬱の兒、

なぜお前は迷ひ勝ちな人間の心にもりもしない物を見せ

るのか？

おゝ誤解よ、お前は直ぐ人の心に孕はまれるが、

決して幸福な誕生とはならないで、

却つてお前を孕んだ母體を殺してしまふ！

チンニヤス おや、ビンダラス！ どこにゐる、ビン

ダラス？

メッセーラ 探し給へ、チンニヤス、その間に俺は行つて

ブルータス様にお目にかゝり、この報知いちらせをお耳に

突き刺してくるから。全くだ、突き刺すのだ。

毒を塗つた槍でも矢でも

ブルータス様のお耳には、この光景あきさまの報告より

却つて快こころよいものに違ひない。

チンニヤス 急いでくれ給へ、メッセーラ、

その間ビンダラスを探してゐるから。

メッセーラ退場。

なぜあなたは私を使ひに出したのです、勇ましいカシヤ

ス様？

私はあなたの味方に出會あつたではありませんか？ 彼等

は私の密ひそに

この勝利の花環を置き、あなたにそれを捧げるやう

命じたのではなかつたか？ 彼等の喝米をお聞きではな

かつたのか？

あゝ、あなたは何もかも誤解してしまつたのだ！

しかし、この花環を額ひたいにお受け下さい。

あなたのブルータス様のお言ひつけです、私は

その通り致します。……ブルータス様、早くおいで下さい。

そして私がいかにケイヤス・カシヤスを敬愛してゐたかを御覽下さい。

神々様、お許し下さい、——これがローマ人の本分だ。

さあ、カシヤスの劍よ、来てチチンニヤスの心臓を探せ。

自殺する。

警鐘。メッセーラ再び登場、ブルータス、小ケイト
ー、ストレイトー、ヴェーラムニヤス及びリュウシリ
ヤスを伴うてゐる。

ブルータス どこだ、どこだ、メッセーラ、彼の死骸は？
メッセーラ 御覽下さい、あそこに。チチンニヤスが哀
悼して居ります。

ブルータス チチンニヤスの顔は仰向いてゐる。

小ケイトー 殺されてゐる。

ブルータス おム、ジューリヤス・シーザー、汝はやはり

偉大な力を持つてゐる！

汝の亡霊が廣く駆け巡り、我々の劍を向け代へて、
我々自身の臟腑を扶らせる。

低い警鐘。

小ケイトー 勇敢なチチンニヤス！

御覽なさい、死んだカシヤスに花環を冠せてゐるではあ
りませんか！

ブルータス この二人のやうなローマ人が、なほ今でも
生きてゐるであらうか？……

あらゆるローマ人の最後の人、左様なら！

ローマがあなた方に匹敵する者を重ねて産むといふ事は
不可能だ。……諸君、わしはこの逝ける人に對して

今御覽になる以上の涙を借りてゐるのです。……

カシヤスよ、わしにも時があるだらう、支拂ふ時がある
だらう。

だから、さあ、セーソスの島にこの死骸を送つてくれ、
我々の陣營で葬儀を營んではならないのだ、
勇氣を沮喪させる處れがある。さあ、リュウシリヤス、

さあ、小ケイトー、戰場に向はう。
レイビオとフレウイヤス、軍隊を進めてくれ。

今三時だ。ローマ人諸君、まだ日暮れまでに
第二戦を試みて運命を決しよう。

一同退場。

第四場 —— 戦場の他の部分。

警鐘。兩軍の兵士戦ひながら登場。

それからブルータス、小ケイトー、リュウシリヤスその他登場。

ブルータス　　まだく、同胞諸君、まだ屈してはならんぞ。

小ケイトー　　ローマ人の血を受けた限り、屈したりなどするものか、俺と一緒に進む者は誰々だ？

戦場に俺の名を乗つてくれよう。……

やあ、俺はマーカス・ケイトーの一子だぞ。

壓制者の敵、御國みくにの味方！

マーカス・ケイトーの一子だぞ！

ブルータス　　俺はブルータス、マーカス・ブルータスはこの俺だ。

御國の味方ブルータス、ブルータスを見知つて置け！

退場。

リュウシリヤス　　おゝ若くして健氣けんきなケイトーよ、あなたも倒れたのか？

なるほど、これはチチンニヤスに劣らず、天晴あつぱな死に方だ。

ケイトーの御息だから、尊敬せられるであらう。

第一の兵士　　降伏しろ、でないと殺すぞ。

リュウシリヤス　　殺して貰ひたいために降伏するのだ。

すぐさま殺して呉れよば、これだけやるぞ。

錢を提供しながら、

このブルータスを殺して、お前の手柄にせよ。

第一の兵士　　そりや出来ない。立派な捕虜だ！

第二の兵士　　おい、道をあけろ！ アントニ様に申し上げよ、

げよ、

ブルータスが捕虜になつた。

第一の兵士　　俺はそれを知らせよう。……や、大將がお

見えた。

アントニ登場。

ブルータスが捕虜になりました。將軍、ブルータスが捕虜になりました。

アントニ　　何處に？

リュウシリヤス　　いや、無事だよ、アントニ、ブルータ

スはたしかに無事だよ。
私は斷言する、如何なる敵も

高潔なブルータスを生捕にする事は出来ないのだ。
神々よ、願はくは左様な恥辱を受けぬやう、彼を護らせ給へ！

生きてゐても死んでゐても、

ブルータスはブルータスらしくして居られる筈だ。

アントニ これはブルータスではない、

しかしそれに劣らぬ獲物だ。安全に保護し、
出来るだけ親切にしてやれ。かういふ人間は
敵よりも味方にして置きたい。進め、

ブルータスの生死を見定めよう。

何事が起つても、一切の情報はオクテヴィヤスの
テントへ持つて行け。

一同退場。

第五場 — 戦場の他の部分。

ブルータス、ダーデインヤス、クライタス、ストレ
ートー、及びヴォーラムニヤス登場。

ブルータス さあ、數少ない味方の殘兵諸君、この岩の
上で休息しなさい。

クライタス スタチリヤスは炬火を見せましたが、
歸つて参りません。捕虜となつたか、殺されたか。

ブルータス まあ坐れ、クライタス。殺すといふのが合

言葉だ。

流行の行爲だ。ちよつと、クライタス。

驕く。

クライタス え、私が、旦那様？ 御免下さい、全世界
に代へても厭でございます。

ブルータス では黙つて！ 何も言ふな。

クライタス 一つそ私は自殺致します。

ブルータス 聞いてくれ、ダーデインヤス。

驕く。

ダーデインヤス 私がそんな事を？

クライタス おゝ、ダーデインヤス！

ダーデインヤス おゝ、クライタス！

クライタス ブルータス様がどんな不吉な要求をなさつ

たのかね？

ダーデインヤス 殺してくれと仰しやつた、クライタス、

見給へ、考へ込んでおいでだ。

クライタス あの御立派な器も悲しみで一杯と見え、
お眼から悲しみが溢れ出てゐる。

ブルータス こゝへ来てくれ、ヴォーラムニヤス。ちよ
つと。

ヴォーラムニヤス 將軍、何事です？

ブルータス 他でもない、ヴォーラムニヤス、

シーザーの亡靈が、夜分に二度まで

わしの處へ現はれた、サーデイスで一度、

そして昨夜、このフリッパイの原野で。

わしも最後が來たと思つてゐる。

ヴォーラムニヤス そんな事はありません、將軍。

ブルータス いや、確かにさうだ、ヴォーラムニヤス。

君は世間を知り、世間の事が分つてゐる。

敵は我々を陥穽まで追ひつめて來た。

低い警鐘。

自分で飛び込む方がずつと立派だ、

敵の突き落すまで逡巡してゐるよりも。ヴォーラムニヤ

ス、

君も忘れはすまい、我々二人は、一緒に學校へ通つた、

どうかその昔の情誼を思つて、お願ひだから、

この劍の柄を持つてゐてくれ、わしがそれへ飛びかゝる
から。

ヴォーラムニヤス 將軍、それは友人の役目ではありませ
ん。

警鐘なほつゞく。

クライタス お逃げ下さい、且那樣、お逃げ下さい、
こゝにぐゞくしてゐる法はありません。

ブルータス では、左様なら。君にも、君にも、ヴォーラ

ムニヤス。

ストレートリー、お前はずつと眠つてゐたね。

お前にも左様なら、ストレートリー。……同胞諸君、

わしの一生を通じて、わしに誠實でなかつた人は

一人もゐなかつたかと思ふと、わしの胸は躍る。

わしは今日負け戦はしたが、オクテーヴィヤスや

マーク・アントニヤス輩が、卑劣な勝利によつて

得る以上の榮光を得るだらう。

では、諸君一同、左様なら、ブルータスの舌は

これでもうその一生の歴史を述べ終つたのだから。

夜がこの眼の上に垂れかゝつてくる。私の骨は休息を求

めてゐる。

この骨の働いて来たのも、畢竟この時を得んためばかりだつた。

警鐘。奥で「逃げる、逃げる」と叫ぶ聲。

クライタス お逃げ下さい、且那樣、お逃げ下さい。

ブルータス あつちへ行け！ 随ついて行くから。

クライタス、ダーデインヤス及びヴォーラムニヤス
退場。

ブルータス 頼む、ストレイトー、お前の主人の側にゐてくれ。

お前は評判のよい男だつた。

お前の生涯には多くの名譽の香味を持つてゐる。

この劍を持つて、顔をあちらに向けてゐてくれ、

わしがそれに向つて飛びかゝるから。諾ういてくれるか、

ストレイトー？

ストレイトー 先づお手を下さいまし。左様なら、且那樣。

様。

ブルータス 左様なら、善良なストレイトー。

劍に向つて飛びかゝる。

シーザーよ、もう安心せよ。

お前を殺した時は、今の半分も氣は向かなかつたのだ。

死ぬる。

警鐘。退却。オクテーヴィヤス、アントニ、メッセー

ラ、リュウシリヤス及び軍勢登場。

オクテーヴィヤス これは誰か？

メッセーラ 私の主人の僕しもべです。ストレイトー……御主人

人はどこだ？

ストレイトー お前さんとは違つて捕まへられない自由

の地に居られるよ、メッセーラ。

勝つた人も灰にすることが出来るだけだ。

ブルータス様は御自身で御自分を征服なされた、

他の誰だつて手をつけて功名手柄とすることは出来ない

のだ。

リュウシリヤス ブルータスはさうなくてはならない。

有難う、ブルータス様、

あなたはリュウシリヤスの言葉を眞實まことにして下さつた。

オクテーヴィヤス ブルータスに仕へてゐた者は悉く召

し抱へる。

おい、お前は餘生をわしの許もとで送らないのか？

ストレイトー はい、メッセーラさんの推薦がありますれ

ば。

オクテヴィヤス さうしてやれ、メッセーラ。

メッセーラ 御主人の最期の様子はどうかだつた、ストレ

ーロー?

ストレロー 私が劍を持ち、御主人はそれに飛び込ん

で來られました。

メッセーラ オクテヴィヤス、では彼をお召し抱へ下さ

い、

主人に最後の奉公をした男です。

アントニ この人こそ萬人中の最も高潔なローマ人だつ

た。

たゞ彼一人を除いて他のすべての陰謀者等は

大シーザーを嫉んだのだが、

彼ばかりは一般民衆を思ふ公明正大な考慮と、

萬民に對する公共の利福を思うて徒黨の一人になつたの

だ。

彼の一生は高雅濃厚、様々の要素が

彼に於て巧みに調和してゐたのだ、大自然も起立して

全世界に向つて言はう、「これこそ男だ!」と。

オクテヴィヤス 彼の徳に従つて彼を遇し、

葬儀についてはあらゆる敬意と儀令を用ひよう。

今宵は私のテントの中に遺骸を安置し、

武人に最も似つかはしく、諸事名譽を重んじて取り計ら

はせる。……

さあ、全軍に休息を號令せよ。そして一同行つて

この目出度い勝利の光榮を分たう。

一同退場。

了——

ヴェニス商人

人物

ヴェニスの公爵

モロッコの領主

アラゴンの領主

アントーニオ

バサーニオ

サラリーニオ

グラシヤーノ

ロレンゾー

シャイロック

テューバル

ラーンセロット・ゴツボ

ゴツボ爺

リーオーナード

ポーシャの求婚者。

ヴェニスの商人。

その友人、ポーシャの求婚者。

アントーニオとバサーニオの友人。

ゼシカの愛人。

富有な猶太人。

猶太人、その友人。

道化方、シャイロックの従僕。

ラーンセロットの父

バサーニオの従僕。

バルサザー
ステファノー
ポーシャの従僕。

ポーシャ
富有なる若き女主人。

ネリッサ
その侍女。

ゼシカ
シャイロックの娘。

ヴェニスの法廷の役人、牢番、ポーシャの従僕。其他
従者大勢。

外にサラリーニオの役を加へるのが、普通だが、今はサラリーニオと混
同したのだといふ説を容れて省略す。

場所

半はヴェニス、半はベルモント。

第一幕

第一場 —— ヴェニス。街頭。

アントーニオ、サラリーノ並びにサラリーニオ登場。

アントーニオ 實際、どうしてこんなに鬱々ふさのか、自分

でも分らない。

私もうんざりするが、あなた方もうんざりすると仰しや
る。

だが、どんな具合で此奴につかまり、此奴に見つかつた
のか、どうしてこんな物を貰つて来たのか、

何が材料だか、何から生れたのか、

私こそ知りたいのです。……

で、こんな間拔けな鬱ぎの蟲ができてしまつて、

我れながら殆ど自分が解らないといふ始末です。

サラリーノ あなたのお心は、大海の上に揺ぶられて居
るのですよ。

あそこちや、あなたの大商船が立派な帆を張つて、

水の上の大名が大金持ちの長者か、

乃至、海の祭車とでも言つた形で、

ちつぽけな商人船を見下す。

すると相手は膝を屈めて、恐れ入つて敬禮する、

と、その側をあなたの船は、帆布の翼ですつと飛んで行
く。

サラリーノ 全くですよ、私だつてそんな危なつかしい
仕事をもつて居た日には、

私の心の大事な部分は、

仕事と一緒に海の向うに行つてしまふことでせう。私は
始終、

草をむしつては、風向を確かめ、

地図と睨めつくらしては、港や、碇泊場や、投錨所を探
してゐることでせう。

そしてこの危ない仕事に災難がかゝりはしないかと、

ちよいとしたり気がゝりの種に出會はしても、きつと、

鬱ぐに相違ありません。

サラリーノ ふうつと肉汁を冷やす時にも、私は瘡にとつ

つかれますね、どえらい奴が吹いてくると、

海ではどんな損をするかも知れないと思つてですよ。

砂時計の砂が流れるのを見るにつけ、

洲や浅瀬が頭に浮んで、

あの寶船のアンドリウ號が、砂のドックに尻を据ゑ、

高い本柱の先は肋骨よりも下にかこんで、自分の墓所を

接吻する様が、

目の前に浮ばずには居られない。教會へ行つて、

有難い石の建物を見ようものなら、

すくにも、危険な岩石のことを思ひ出させう、

彼岩にあの溫和しい船の横つ腹が一寸でも觸るが最後、積んだ香料はすっかり水に撒きちらされ、絹物は吼え狂ふ波の被ひ物になつてしまふ。

一口にいへば、今が今迄、こんなにもへと大きく手眞似して「價値のあつたものが、

忽ちふいになるのですからね。これを考へる能力がある以上、

同じ能力で萬一の事を氣づかひ、鬱ぎ込まずにみられませうか？

いや、仰しやらずとも分つて居ます、アントーニオさんは、

積荷のことが氣になつて鬱いで居られるのだ。

アントーニオ 決してさうではない。有難いことには、私の事業は一艘の船に任せもせず、

一ヶ所の取引所を頼みにしてもゐず、又私の身上が全部今年一年の運命に懸る譯でもない。

だから、積荷のことで私は鬱いではゐません。

サラリーノ はてね、ぢや、あなたは戀煩ひですな。アントーニオ 何を、詰らない！

サラリーノ 色戀でもないかと？ ぢや、かう申しませう、

あなたは陽氣でないから、鬱いでゐらつしやるのだと。で、あなたが笑つて、跳びはねて、

俺は鬱いぢやゐないから陽氣だと仰しやることも造作のない話でせう。二つ頭のジェーナス神(この神一面嚴肅に作る)に誓つて申す、

自然は昔から奇妙なて、あいを拵へたものだが、中には始終目を細くして、にこ／＼して、

風笛を聞いても鷓鴣みたいにげら／＼笑ふもあれば、さて又醋つばい顔をして、

白い齒一つ見せたことのない連中もある、

ネスターがこれは可笑しい冗談だと誓言たてゝも。(タノはトイ攻城のギリシャ陣中での最も老い又最も嚴肅な智者)

バサーニオ、ロレンゾー及び、グラシヤノノ登場。立流な御親戚のバサーニオさんと

グラシヤノノにロレンゾーのお出でだ。さよなら。

よりよいお仲間にあなを譲つて参ります。サラリーノ お氣の引き立つ迄、お相手する積りでした

が、立派な御友人に阻まれて了ひました。アントーニオ あなた方こそ私に取つて價値ある方で

す。

分りました。御自身のお仕事がお忙しいので、これをいゝ機会に、お歸りになるのでせう。

サラリーノ 「(バサーニオ等に向ひ) お早う、方々。

バサーニオ これは、御兩所。何時また談笑いたしませう？ え、何時？

大層他人行儀ぢやありませんが、……本當にお歸りですか？

サラリーノ いづれお暇の時、お伺ひいたしませう。

サラリーノ並びにサラリーニオ退場。

ロレンゾー バサーニオさん、アントーニオさんに會つたから、

わたし達二人は失禮します。だが食事の時間には、どうぞ例の會合所を忘れないで下さい。

バサーニオ 間違ひつこはありません。

グラシヤノ アントーニオさん、お顔色が良くありませんね。

あなたは世間のことを氣にし過ぎますよ。

あんまり用心して買ふ人は却つて損をします。

本當に、あなたは恐ろしく變りましたね。

アントーニオ グラシヤノ君、私は世間といふものを

たゞ世間として見てゐますよ。

それは、誰しもが、一役演らなければならぬ舞臺だと思つてゐる。

そしてわたしは泣き役を配られたまでさ。

グラシヤノ ぢや私は道化役だ。

陽氣に笑つて、老いの皺がよればよれだ。

飲み過ぎで肝臓を熱らすとも、

命取りの青息吐息で、心臓が冷たくなるよりはました。

體内の血の温かい人間様が、

石膏像の爺さんのやうに坐つて居たつて何になる？

起きてゐても寝てゐると同然、やがて愚痴つぽくなつて

何時の間にか黄痘に取ツつかれて堪るものか？ アン

トーニオさん、まあお聞きなさい——

私はあなたが好きだ、好きだからこそこんなことも甲上

げるのです——

世間には溜り水のやうに、

薄皮の膜を張つた御面相をして、

やれ利口だとか、威嚴があるとか、考へ深いかいふ評

判を得たいばかりで、

強情なほど押し黙つて、

「俺は大豫言者でござる、俺が唇を開く時は、

犬一匹吠えさせるな」なんて言ひさうな連中がある。

アントーニオさん、こんな無言のお蔭ばつかりで、

賢い人だといはれて居る手合を、

私はよく知つてゐますが、嘘ぢやありませんよ、

奴等が物を言はうものなら、それを拜聴する伴侶はずつ

かり参つちまひ、

つい同胞を馬鹿だと罵つて、可哀さうに地獄に落ちるの

も致方ないことになるのです。

いや、このことは、又何時かもつとお話ませう。

ともかく、その鬱ぎの蟲を餌にして、

世間の評判といふ馬鹿な白楊魚(小魚にて容易く捕へられる、
従つて悪人の外これを釣るも
しな)を釣るのはよしなさい。

さ、ロレンゾー君、行かう。ではほんの暫、左様なら。

お説教の残りは食後に済ますことにしませう。

ロレンゾー ぢや食事の時間まで失禮。

私は止むを得ず君の謂ゆる啞の賢人のお仲間に入らなく

てはならん、

グラシヤーノが口を利かせないのだから。

グラシヤーノ さうさ、もう二年僕と交際し給へ、

君は自分で自分の聲が分らなくなるから。

アントーニオ 左様なら。私もこのお蔭で、おひくお

喋りになります。

グラシヤーノ そいつは有り難い。黙つて居ていゝのは

乾した牛の舌と、賣口の遠い娘つ子だけだから。

グラシヤーノ並びにロレンゾー退場。

アントーニオ あれには何か意味があるのかね？

バサーニオ ヴェニス廣しと雖も、グラシヤーノ位ゐ、つ

まらない事をのべつに喋る男はありませぬ。奴のいふ

事で理窟に合つてゐるのは、四斗の秤に混つてゐる小麦

二粒位ゐの割合でせう。その二粒をめつけるのは一日

仕事で、めつかつたにしたらとこで、骨折りだけの價値

はありません。

アントーニオ さて、今度こそ聞かせて貰はう、例の婦

人といふのはどんな方だね？

君が内密で參詣をすと言つて居たが。

今日はその話をする約束だつちやないか？

バサーニオ アントーニオさん。うすく御承知でもあ

りませうが、

私は随分と身上を減らしました。

貧弱な私の財産では、長續きを許さない程、

少々見榮ばつた生活をしたものですから。

今になつて、さうした贅澤が出来なくなつたからつて、

愚痴をこぼす譯でもありませんが、私が心を痛めて居る

ことは、

ちと大ざつぱ過ぎた青春時代のたよりで

身動きがつかなくなつた大借金を

何とか綺麗に抜きたいと思つて居るのですよ。アントー

ニオさん、あなたには

一番に御厄介になつて居ります。金錢上の事でも、御親

切の點でも。

で、これ迄の御親切を思へば、私も安心して

私が背負つて居る借金全部の片を附ける

計畫や目的を残らず打明けたいと思ふのですが。

アントーニオ どうぞ、バサーニオ君、そのお話をして

下さい。

君のする事ならいつでも大丈夫だが、その計畫に

名譽の目で見えて疚しいところのない限り、安心なさい、

私の財布も、私の體も、又どんな極端な手段でも、

すべて君の必要のまゝに、お使ひなすつて差支へない。

バサーニオ 學校時代に、一本の箭が見えなくなると、

それを見付けるため、同じ矢頃の伴借箭を

先よりは氣を付けて同じ方角に向けて

射たものです。そして、二本を冒險した爲めに

二本ともめつかつたことが度々ありました。かういふ子

供時代の經驗話をしますのも

これから申上げる事が、全く兒戯に類した考だからです。

私はあなたに一方ならず御迷惑を掛けてゐますが、無分

別な青年のやうに

そのお借りしたのも皆なくしてしまひました。然し若

しお氣に召して

最初に射たと同じ方角に

もう一本箭を放して下さるなら、

私はよく狙ひに氣をつけ、きつと兩方ともめつけるか、

乃至は、今度の冒險だけは持ち歸つて

第一のに對しては、厚く感謝の意を表して債務者になら

うと思ひます。

アントーニオ 君はよく私を知つて居るくせに、今日に

限つて無駄な時を費ひ

遠廻しに私の好意を探らうとして居られる。

私が全力を擧げて盡すかどうか、不審を打つなど、私の所有物全部を無駄費ひしてしまふよりも

餘計私に對する不當な仕打といふものです。

只私がどうしたらいいか、それだけお話しなさい。

君が私の力で出来ると思はるゝことをです。

さすれば私は早速やりませう。言つて見給へ。

バサーニオ　ベルモントに、澤山の遺産を持つた貴婦人

が居ます。

美しい方で、殊にその美しいといふ以上美しいことは

すぐれた美徳を備へてゐることです。私は曾てその人の

眼から、

無言の色よいたよりを受取つたことがあります。

ポーシヤといふのですが、ケートーの娘、ブルータスの夫

人の

ポーシヤと並べても、少しも見劣りするのではない。

尤も廣い世間が、その人の價值を知らないでゐるわけは

ありません。

東西南北の風が、ありとあらゆる海岸から、

立派な求婚者を吹き送つて來ます。そしてあの人の黄金

色の髪の毛が

こめかみに垂れかゝる様が金の羊毛そのまゝなので、何のことはない

ベルモントの邸宅は、さながら昔のコルコス(ゼニ)の岸邊、

幾多のゼーサンはあの方を求めて寄つて參ります。(ゼニはギリシヤ神話中の勇士で、伯父に奪はれた王国を取返へすためコルコスに航し、王女の助により金の羊毛を祀より奪ひ歸る)

おゝ、アントーニオさん、私に財産があり、

その中の一人となつて競争する地位が與へられれば

私はきつと巧く成功して

幸運兒になれるといふ氣がしてならないのです。

アントーニオ

私の財産が全部海上にあることは君も御

存知だ。

現金もなければ、即座に金になる

商品もない。だから、これから行つて

私の信用がヴェニスでどれ位の役立つか、當つて見給へ。

出來るだけの無理もして見よう。

君を、ベルモントの、その美しいポーシヤさんのところへ

送る爲めにな。さ、直ぐ出掛けて、私もやるから、金のありさうな所を、探して見ませう。私の裏書で貸してくれるのも

友達づくでも、それは問ふところでない。

兩人退場。

第二場 ベルモント。ポーシャ家の一室。

ポーシャ並びにネリッサ登場。

ポーシャ 本當に、ネリッサ、私のこの小さな體が、大きな世界にあき／＼して來たわ。

ネリッサ 御幸福と同じ位ゐに、御不幸でもたんとおありなら、あなたの仰しやることも御道理でせうが。でもやつぱり、食べものが多過ぎて食傷するのは、無くてかつえるのと同じでございます。ですから、中位ゐに居るのは、中位どころでないほんとに立派な幸福でございますよ。度を過せば白髪しらげの來ること早く、程を守れば命長いのちながしてございますわ。

ポーシャ ほんとに善い格言ね。そしていひ方も巧いわ。ネリッサ それをよく守れば、一層よい格言になります。

ポーシャ 善いことを實行するのが、善いことを知る位ゐに容易かつたら、辻堂は大伽藍おんがらんとなり、賤ぢんが伏屋ふしやも金殿玉樓たみやうとなります。自分で口にする事を自分で守る坊

さんは、それこそ立派な人だわ。教を守る二十人の中の一人になるよりは、爲すべきことを二十人に教へる方が樂です。頭で以て情欲を抑へる法則を考へることは出来ても、熱する思ひは冷たい命令なんか跳び越してしまふ。狂人の若者は野兎うさぎみたいで、びつこの忠告の羅網あみなんか、びよんと一とはねだわ。だけど、こんな話をしたからつて、私の良人よんどを選ぶための参考たんにになりはしない。あゝ／＼「選ぶ」といふ言葉！私は好きな人を選ぶことも出来なければ、厭いやな人を斷ことわることも出来ない。生きてゐる娘の意志が、死んでしまつた父親の遺言でさういふ風に抑へられて居るのだから、ね、ネリッサ。一人も選ぶことが出来ず、一人も斷ることが出来ないなんて、随分辛い身の上ぢやないの。ネリッサ あなたのお父様はまことに徳の高いお方でございます。尊い方とは臨終に屹度善いお考へをお出しになるものです。ですからお父様の御工夫のあの金と銀と鉛の三つの函を見て、お父様の御本意を見抜いた方が、あなた様を選び當てるといふ、その御籤みせんは屹度あなた様を心からおいつくしみになる方ではなくては當らぬやうに出来て居りますよ。でも、これ迄にいらし

つたあの立派な殿方の中のどなたか、お氣に召した方がございますか？

ポーシヤ 一人づゝ名前をいつて御覽。私の觀たところをいつて見るから。それで私の氣持を察てるが好い。

ネリツサ 一番はネーブルスの貴族。

ポーシヤ あゝ、あれかい、あれは全然馬よ。だつて馬の話より外に何も出来ないんだもの。そして自分で馬の蹄鐵をはかせられることが、自分の才能の重大な飾りのやうに考へて居るの。私、あの人のお母さんが、鍛冶屋と關係があつたんぢやないかと思ふのよ。

ネリツサ 次はバラタインの伯爵様。

ポーシヤ あの人の、むづかしい顔ばかりしてゐて、一俺が厭なら、勝手にせい」と言はないばかりだし、面白い話を聞いても、につこりともしやしない。今からあんなに不作法に陰氣な顔をして居ては、年を取つたら、屹度泣蟲哲學者(ケリシヤのヘラク)になつてよ。あんな人達よりか、骨をくはへた骸骨と結婚した方がましだわ。神様、どうかあの二人から私をお護り下さいませ！

ネリツサ 佛蘭西の貴族ルボン様は如何ですか？

ポーシヤ 折角神様がお拵へになつたのだから、あの人も

人間として通用させませう。それはね、私だつて他人様を嘲弄するのは善くないことだと知つてるわ。だけれどあの人だけはね！ だつてあの人は馬にかけてはネーブルスさん以上だし、難かしい顔をするにしても、バラタイン伯よりもずつと上手だし、何一つ長所のない癖に悪い眞似ばかりする。鴨が鳴いても浮れ出すし、自分の影とでも格闘をしかねない人なの。あの人と結婚する位なら、二十人の御亭主を持つたも同然よ。私、あの人が私を輕蔑するなら許してやるわ。だつて、あの人が狂人のやうになつて私を愛してくれたつて、御返禮など、とても出来やしないもの。

ネリツサ それでは、イギリスの若い男爵フォークンブリッジ様は？

ポーシヤ そら、あの人にはいふことは何にも無いぢやないの。だつてあの人は私のいふことが分らず、私は又あの人のいふことが分らないのだから。あの人はラテン語も、フランス語も、イタリイ語も知らず、私は又、裁判所へ出て宣誓してもよいが、英語はたつた一ペニイ位しきや持合せがないの。まああの人は姿のいゝ男の畫像よ。だけど、無言劇を相手に話をする譯にもゆ

かないからね。それに何て可笑しな服装をしてるのだからー。あの人、大方胴衣はイタリイ、廣ずぼんはフランス、帽子はドイツ、起居作法は方々で仕入れて来たのだけ。

ネリツサ そのお隣りのスコットランドの貴族は如何お考へです？

ボーシヤ 隣り交際のいゝ方と考へるわ。だつて、あのイギリスの人から横面のお見舞を受けたから、きつとそのうち返禮すると誓つて居るのだから。大方あのフランス人が保證人になつて横面返報の副署をしたことだらうよ。

ネリツサ 若いドイツの方はいかゞ。サクソニイ公の甥御様。

ボーシヤ 朝のうち素面の時も厭だが、午後酔つ拂つたとくると尙ほ厭になるわ。一番いゝ時でもやつと人間並、悪い時と來たら、獸と大して違ひがないわ。どんなに落ちぶれたつて、どうかあの人のお御厄介になんかならずにやつて行きたいものだけ。

ネリツサ でもあの方が選びたいと仰しやつて、萬一小函を選び當てなすつた場合、あなたが厭だと仰しやらう

ものなら、それこそお父様の御遺言に反くことになりますよ。

ボーシヤ だからさ、そんな破目にならないやうに、お願ひだからお前、駄目な方の小函の上に、ラインの葡萄酒の深いコップを載せて置いておくれ。中に悪魔、外に誘惑とくれば、あの人はいきつとそれを選ぶから。ねえネリツサ。海綿さんと一緒になる位なら、わたしどんな事でもするわ。

ネリツサ お姫さま、決してその御心配には及びません。あの方々は堅い御決心を私にお示しでしたが、それは、國へ歸つて、これ以上求婚の御迷惑は掛けまいと言ふのでございます、それもお父様のお定めになつた小函を宛にするより外に、あなたのお心を得る方法があれば別ださうですが。

ボーシヤ 私、シビラの歳ほど生きて居ても（アポロ神何事にひを叶へやらんと言ひし時シビラは掌グレイヤナ中の磁の數ほど生命を給へんをうた）月神のやうに、處女のまままで死にます。お父さまの遺言通りの仕方、私を妻にする人があれば別だが、でも、あの連中が大變譯の分つた人達で、ほんとに嬉しいと思ふわ。どうか早く歸つてくれ、ばいゝがと沁から思ふ人ばかりなのに、

みんな歸つて行つてくれるのだから。神様に、皆さんのお芽出度い御出發を祈りませう。

ネリツサ 覺えておいでよはございませぬか？ あの、お父上様御在世の折、モンフェーラーの候爵様と御一緒にここへいらしたヴェニスの方で、學者で、軍人の方を？

ポーシヤ えい／＼覺えてゐるわ。バサーニオさん、何だか、そんなお名だつた。

ネリツサ さうです、お嬢さま。あの方なら、愚鈍な私の眼に映りました方々の中で、美しい御婦人に一番相應しい方かと存じましたが。

ポーシヤ あの方ならよく覺えてゐてよ。お前の譽めるだけの價値のある方だと思ふわ。

從者登場。

どうしたの！ 何か用かい？

從者 四人の外國のお方がお暇乞のため御訪ねになりましてござります。それから、五人目のモロッコーの領主様からお先觸が参りまして、御主人の殿様が今夜お越しとの口上でござります。

ポーシヤ 外の四人の方々に別辭を述べるやうな進んだ氣持で、五人目の方をもお迎へすることが出来るなら、お

濟きになるのを嬉しいとも思へるのだが。若しその方が聖者のやうなお氣立で、惡魔のやうなお顔なら、私を妻にするよりも、私の懺悔を聞いて下さつた方がよい。さ、ネリツサ。「從者に向ひ」お前は先へお出で。やつと一人の求婚者を送り出して門を閉めると、次のが來て、戸を叩いてゐるんだわ。

みな／＼退場。

第三場 —— ヴェニス。ある公の場所。

バサーニオ並びにシャイロック登場。

シャイロック

三千兩、はて？

(タカカットが金貨なら、今日の約五圓、銀なら二圓五十錢ぐらゐにあたる)

バサーニオ

さうです、三ヶ月間。

シャイロック

三ヶ月間、なるほど。

バサーニオ

それに對し、先刻も申す通り、アントーニオさんが保證に立ちます。

シャイロック

アントーニオさんが保證に立つ、なるほど。

バサーニオ

貸してくれませんか？ 恩恵に浴させてくれ

ますか？ 御返事は？

シャイロック 三千兩を三ヶ月間、そして、アントーニオさんが保証に立つ。

バサーニオ その御返事を承りたいのです。

シャイロック アントーニオさんは有福な方だ。

バサーニオ でないといふ何か風評を聞かれたことがありませんか？

シャイロック 「厭な笑を一寸見せ」ほう！ いや／＼、い

や／＼、有福な方だと言つたのは、あの人ならば十分だといふことを分つて貰はうと思つたからでさ。だが、あの人の財産も雲を掴むやうなものでな。トリポリ行の大商船が一艘、印度行が一艘、それからまだ、リーアルト(商人の會議所)で聞けば、三艘目はメキシコに、四艘目はイギリス行ださうな。まだ他にも色々やま仕事をしつゝあるな。皆海に散らばつて居る。だがね、船は何というても、板子、水夫は人間だ。陸鼠(ねずみ)があれば、海鼠(かみねずみ)があり、陸泥棒があれば、海泥棒、つまり海賊もありますでな。それから、波や、風や、暗礁の危険がある。が、あの方ならば大丈夫だ。三千兩——あの人の證文を戴くことにしますかな。

バサーニオ 證文は大丈夫です。

シャイロック 心配のないやうにしなければならん。ならんがために、一と思案しよう。アントーニオさんとお話できませうかね？

バサーニオ 失禮ですが、私達と一緒に御飯を食べて下さるなら。

シャイロック さう／＼、豚肉の匂ひを嗅ぎにね(猶太人は祖從つて豚肉を食はない)。お前さんの豫言者ナザレ人が悪魔を追ひ込んだその住家を嘔りにわ(新約マタイ傳八章三十二節參照)。私はお前さん方と買ひもし、賣りもする。お話もしようし、連れだつて歩きもするが、御一緒に食べたり、飲んだり、乃至はお祈りしたりすることは御免蒙ります。……取引所で何かあつたのかな？——あそこへやつて来るのは誰だらう？

アントーニオ登場。

バサーニオ アントーニオさんです。「とアントーニオを迎へ、傍へ連れ行きて話す」

シャイロック 「傍白」おべつか使ひの收税吏そつくりだ！俺は彼奴(あいつ)が厭(きら)ひだ、耶蘇信者だから。

しかしそれよりも、卑屈な愚かさから、無代(むだ)で金錢を貸し出して、このヴェニスの

俺達の利息の率を引き下げをる。

俺が一度彼奴の急所を抑へたが最期、

この宿怨を晴さずにはおかんぞ。

奴は我々の神聖な民族を憎み、おまけに

多数の商人が寄り集つて居る席をも憚らず、

俺や、俺の儲け仕事や、俺の汗水垂らして得た利益を嘲

弄して

高利々々と言ひやがる。俺の種族に祟あれだ、

彼奴を許してもしようものなら!

バサーニオ 「近づいて」 シャイロックさん、聞えませんか?

か?

シャイロック わしの今の所有高を考へてゐるのですよ。

記憶を辿つて胸算をしたところでは、

すぐさま三千兩といふ大金を全部

調達することは出来ません。まあ併しいゝぞ。

テューバル、同族の有福なヒブリウ人(猶太人の名づから呼ぶ名稱)です

がね、

あれが融通して呉れませう。だがお待ちなさい! 幾月程

御入用だつたかね? —— 「アントーニオに向ひ」 御機嫌

よろしう、旦那様、

旦那のお噂をつい先程みんなできて居たところですよ。

アントーニオ シャイロックさん、私は餘分の金を取つた

り遣つたりして、

貸借をしない事にしてゐるのだが、

友達の差し迫つた必要に應じる爲め、

習慣を破ることにしよう。……もう話してあるのかね、

入用の高を?

シャイロック はい、三千兩。

アントーニオ そして三ヶ月間。

シャイロック おつと、忘れてゐた、……三ヶ月間。さう

仰しやいましたね。

それから、あなたの證文。で、かうつと、だが、ちよいと。

あなたは利息のつく金は、貸しも、借りもしないと仰し

やつたやうに思ひますが。

アントーニオ さういふことにしてゐるのだ。

シャイロック ヤコブが叔父のラバンの羊を飼つて居た頃

でしたが、——

このヤコブと言ふのは、尊いアブラム様の、

さうさ、阿母が利口で、この伴のために巧くやつたので

ね、三代目の相續人になりました。さうだ、三代目だつた

が、——
 アントーニオ それがどうしたといふのだ？ 利息でも
 取つたといふのかね？

シャイロック いや、利息を取つた譯ではない。あな
 たが仰しやるやうに、
 直接利息を取つたではありません。よろしいか、ヤコ
 ブはかりしました。

ラバンとヤコブとは、約束しましてね、
 縞しまで斑まだらの小羊が生れると、それはみんな
 ヤコブの報酬にすることにしたので。ところで、秋も

終りに近づき、
 牝メにさかりが附いて、牝メを追つ掛けるやうになり、
 生殖の仕事が羊と羊の間に
 實行される時が来ると

器用な羊飼のヤコブは、小枝の皮をひん剥むき、
 實行最中に、そいつを、

逆さか上あせきつた牝の鼻の先に突つ立て、置いたので、
 その時とき妊はらんだ奴が産れると、
 みんな斑まだらで、ヤコブのものになつてしまひました。
 これが利殖の一法で、彼は神様に祝福されたのです。

利殖といふことは祝福ですよ、盗むのでなければね。
 アントーニオ 君、そのヤコブの使つた方法は投機トウキとい
 ふものだ。

自分の力ちからで出かしたことでなくて
 天の御手みでによつて導かれ、形かたち作つくられたのだ。
 この話が聖書に書かれてあるのは、利子を是認する爲め
 かね？

それともお前さんの金貨や銀貨は牝メ牝メの羊と同じかね？
 シャイロック それは言へません、只羊に負けずに子を産
 ませます。

然し、お聞き下さい、且那。——
 アントーニオ お聞きでしたか、バサーニオ君、
 悪魔だつて聖書を自分の都合のよいやうに引用すること
 は出来るからね。

神聖なものを證據に擔かぎだす腹黒い輩やからは、
 悪黨あくどうがにこやかな顔をしてるやうなものだ。

見かけが好くつて、沁しみの腐くさつた林檎だ。
 お、虚偽は何と言ふ立派な見掛をしてゐるのだらう！
 シャイロック 三千兩、——中々の大金だ。
 一年十二ヶ月中の三ヶ月——すると待てよ。利率は——

アントーニオ　ねえ、シャイロックさん、心配して貰へま

せうか？

シャイロック　アントーニオさん、あなたは幾度も幾度も

取引所で私の金と

利息のことをお咎めになりました。

それを私はいつも肩をすくめる丈けで、ちつと辛抱して

居りました。

隱忍といふことは、私達の種族全部の徽章ですからね。

あなたは、私を不信神者だ、喉に噛み付く病犬だと、叫

んで、

猶太人の着る長上衣に唾を吐きかけなされた。

それといふのも、只私が私のものを活用するのが可けな

いと言ふだけだ。

ところが、今日は私の助けが必要だと見えますな。

馬鹿らしい。あなたは私のところへやつて来て、

「シャイロック、金が要用だ」と仰しやる。

あなたが、私の頸鬚に唾を吐きかけたあなたが

見慣れぬ野良犬を敷居の外に蹴り出すやうに

わしを足蹴にしたあなたが、そのあなたが金を貸せとい

ふ御要求だ。

何と申上げたらよいかね？ かう言つちやなるまいかね？

「犬に金がありますか？ 野良犬が

三千兩御用立する事が出来ませうかい？」と。それとも、

腰を低くかどめ、奴隷の聲色で

息を殺し、恐れ入つた小聲で

かう申しませうか――

「且那樣、あなた様は先の水曜日に唾をお引つかけになり

ました。

これ／＼の日には足蹴にされました。又ある時は

犬とお呼びになりました。さういふ手厚いおもてなしを

戴きましたによつて

かやうに莫大なお金を御用立致します」と。

アントーニオ　わしはお前をもう一度さう呼び、

もう一度お前に唾を引つかけ、蹴つてやるかも知れんぞ。

この金を貸して呉れるなら、

友達づくでなしに貸して貰はう。友達づくなら

不生産的の金銀に子を産ませるなんてあるまじきことだ

からね。

仇に貸す積りで貸してくれ。

仇なら、約束を違へた節は大威張で

罰金を取立ることが出来るといふものだ。

シャイロック これは又、何といふお腹立！

私はあなた様と御懇意になり、あなた様の御好誼を戴き、
今まで恥をかゝされた様々なことも忘れてしまひ、
現在お入用のものを御用立して、私の金に對しては
鏝一文の利息も戴かないつもりでしたのに、あなたは
ふことをお聞きにならない。

まあかういつたのが私の好意です。

巴萨ーニオ それが好意だつたら。

シャイロック では、その好意をお見せ致しませう。

御一緒に公證人のところへ行き、あそこで

あなたお一人だけの證書に調印して下さい。そしてほん
の座興に、

契約面に明記してある、かく／＼の期限内、

かく／＼の場所で、かく／＼の金額を

萬一御返済にならない時は、その罰金として

あなたの白のお體の、丁度一ポンドの肉、

それを私の好きなところから切取つて、

持つて行つてもよい、とかう指定して戴きませう。

アントーニオ 「しばし思入あり、やがて何、金は出来る

わといふ樂觀と極度の怒に急に決心して」承諾した。
その證文に印を捺さう。

そして猶太人にも、中々親切氣があると言はう。

巴萨ーニオ 私の爲めにそんな證文に印を捺しちやなり

ません。

そんな位なら、困つたまゝである方がましです。

アントーニオ なに、心配しなざるな、君。罰金を取ら

れるやうなことはしやしない。

この二月内に、だから期限の切れる一ヶ月も前に、

この證文の金額の三倍に

又三倍しただけの回収を豫期してゐるからね。

シャイロック 「獨語のやうに」おゝ先祖のアブラハム様、

この耶蘇信者は、何て人なんだらう！

自分達の取引が酷いので、他人の心までも、

疑りなざる！——ね、考へて御覽なさい。

この方が期限を間違へなかつたにしてが、一體

その罰金を無理に取立てた所で、何の利益になるのか？

人間から取つた人間の肉一ポンドは

羊や、牛や、山羊の肉ほどにも、

賞美もされなければ、利得にもならん。實のところ、

あの方に可愛がつて貰ひたさに、これ程まで親切を盡してゐるのですよ。

私の志を受け取つて下さればそれでよし、厭なら、おさらばです。

かうしてお慕ひ申して居る私を、誤解なされぬやうお願ひいたします。

アントーニオ よし、シャイロック、その證文に印をつかう。

シャイロック では直に公證人の所でお目に掛りませう。

このお座興の證文の書き方はどうかお指圖を願ひます。

私はすぐさま行つて、それだけの金を財布に入れ、
だらしのない小僧の番で

不安心な私の宅を見て、早速

御一緒になりませう。

シャイロック退場。

アントーニオ 急いで貰はう、やさしい猶太人さん。

あの猶太人もやがて基督教徒に改宗するよ。だいが親切になつたから。

バサーニオ 私は、口先が親切で肚の黒い奴は好みません。

アントーニオ さあ來給へ。この事について心配する必

要はない。

期日より一ヶ月も前に歸つて來る船が幾艘もあるから。

兩人退場。

第二幕

第一場 —— ベルモント。ポーシャ家の一室。

コルネットの華やかな奏樂、モロッコの貴族及びその隨行者、ポーシャ、ネリッサ並びに従者等登場。

モロッコ — この顔の色のために私をお嫌ひ下さるな、

これは輝く日輪の黒の制服で、

その日輪とは隣り同志、近所で育つた私です。

太陽神の火でも、氷柱を溶かすことが出来ないといふ、

北國で

生れる者は色が白いが、その中でも最も色の白い男を伴

れ來り、

二人してあなたへの戀のしるしに互に肉を割き、

どちらの血が赤いか、その男のか私のか、試して御覽に

入れませう。

な、姫、私のこの顔は、

勇者をも畏怖れしめた。この戀にかけて誓言する、

私の國の評判の處女達も、

又この顔を愛して呉れました。私はこの顔の色を變へた

とは思ひません、

あなたのお心を祕かに盗むためならばいざ知らずだが、

ポーシャ 良人選擇の事に就きましては、乙女心の只偏に

見た眼の指圖にのみ従ふ譯ではございません。

その上、私の運命は籤で定まるので、

自分で選ぶ權利を妨げられて居ります。

でも、若し父があゝの通り私を制限もせず、

父の判斷力で私を縛りつけるといふこともなく、

お話し申した通りの手段によつて、お勝ちなされた方の

妻になるやうな定めでなかつたならば、

世に聞えたる殿下、私はあなた様が、

私の心を求めにとお出で下さいました誰様にも劣らず、

御立派な方と存じ上げます。

モロッコ — そのお言葉にまづお禮を申し上げます。

然らば、どうか、その小函に御案内下さい、

運を試ませう。この弦月刀——これこそ會て、

ベルシャ王ソフィを討ち、又トルコの大王

ソリマンと戦つて、三たび勝利を博したるベルシャの王

族をも斬り殺したもの——この弦月刀にかけて誓ふ、
姫のお心を獲るためならば、どんなに恐ろしい眼でも脱
み倒し、

世にも最も大膽な男をうち挫き、

乳呑みの子熊を母熊より引つたくり、

お、さうだ、餌食を求めて吼え猛る獅子をも、

嘲弄してくれます。しかし、あゝ、あゝ！

若しハーキュリーズとライカス（剛勇ハーキュ
に骸子を投げ、

どつちが立派な男か決めるとすれば、好い目が

偶然弱い方から出ることもあらう。

だからこそ、アルシデース（即ちハーキュリーズ）も従僕の爲

めに倒された。さすれば私とて、盲目な運命に導か

れ、

つまらぬ輩の、易々手に入れ得るものを取りそこね、

悲しみの餘り死ぬかも知れません。

ポーシャ それは御運に任せなくてはなりません。

で、初めからお選びなさる事をお止め遊ばすか、

それともお選びの前に、萬一誤つてお選びの時は、

以後結婚のことで、どんな婦人にも申込まぬと、

お誓ひなさらねばなりません。ですからよくお考へ下さ
いまし。

モロッコ それは承知しました。さあ、運試しのところ

へお連れ下さい。

ポーシャ 先づ殿堂へ。そして御食事の後、

御運試しをなさいまし。

モロッコ では幸運よ！

男の中の第一の仕合せ者になるか、それとも呪はれ者の

頭になるか。

コルネットの奏樂につれて一同退場。

第二場 —— ヴェニス。ある街上。

ラインセロット・ゴッポ登場。

ラインセロット きつと、俺の良心は、俺が主人の猶太人

のところからつツ走るのを結局は賛成するよ。悪魔が

俺の肘の所へ来て、唆かすんだ「おいゴッポ、ラインセ

ロット・ゴッポ。ラインセロット君」、それとも「ゴッポ君」そ

れとも「ラインセロット・ゴッポ君よ、腰を使ふんだ。ス

タートを切るんだ。逃げ出せ」と言ひやがる。良心の

奴はかう言ふんだ、「いや氣を付けなさい。ラインセロットさん。氣を付けなさい、ゴッポさん。」とか、又前にいつたやうに「ラインセロット・ゴッポさんよ、逃げちゃあいけない。逃げるなんて考は蹴飛ばしてしまひなさい」と。ところが我武者羅がむしゃらの上なしの悪魔めは、さつさと荷造りしろと来る、「うし〜」と抜かしやあがる。「せらッ」と言ひやあがる。「後生願ふなら、度胸を握にぎゑてつツ走れ」と悪魔め言ひ居る。ところが良心の先生、俺の心臓の首根くびねつこにぶら下つて、いかにも分別くさうに仰しやる。「正直な友人のラインセロットさん、君は正直な男の伴で」——いやこれは正直な女の伴で、と來なくてはいけない。眞まことのところ、俺の親父は少々臭いことをやつたんだ。何なにだか焦臭こほりい、變な味がする。——何しろ俺の良心はかう言ふ「ラインセロットよ。退ひきい、ちやい、かんよ」と悪魔奴「退ひきい、ちまへ」と良心「退ひきい、ちやい、かんよ」。俺は「良心さん、お前さんの御忠告は御尤ごとうだ」ともいへば、「悪魔さん、お前さんの御忠告は御尤ごとうだ」とも言いつて居る。良心の指圖を受けるとすれば、俺は旦那の猶太人ユダヤ人のところに居なくてはならない、ところで主人は、何の因果いんぐわが、まあ、悪

魔の一種だ。で、猶太人ユダヤ人のところからつツ走るとなるよ、俺は悪魔の指圖を受ける譯だが、此方こちは又、かういつちやあ大將に寸まねえが、正直正銘の悪魔だ。まこと、あの猶太人は悪魔の化身だよ。俺の良心かけて言ふが、俺の良心は少々氣難きじかしい良心なんだ、猶太人と一緒に居いつて忠告するなんて。悪魔の方がもつと友達甲斐のある忠告をしてくれる。悪魔さん、つツ走はるよ。俺の踵かかとはお前さんの命令通りだ。さ、突走つっぱるぞ、

ゴッポ爺、籠かごを携もへて登場。

ゴッポ もし、若旦那、ちよいとお尋ねしますが、猶太人の旦那のところへ参りますには、どつちへ行きますかね？
ラインセロット 「傍白」お天道様、これや俺の生みの父親おやぢだ。砂盲目すなめくら以上の砂利盲目じりめくら（砂盲目は半盲、石盲目は全盲その中間で破の強弱）と來てるので、俺が分らない。一つ騙かたつて（當あたつて）見てくれよう。

ゴッポ 若旦那、ちよいとお尋ねしますが、猶太人の旦那のところへはどうまゐりますかね？

ラインセロット 次の曲まがり角かどを右へ曲まがんなさい。だがね、一等次の角は左へ行くんだよ。マリヤ様、すぐ次の角はどつちへも曲まがらずに、くねりくねつて猶太人の家へとつ

とよはひんなさい。

ゴッポ やれ／＼そいつは解りにくさうな道でござりますな。時に、ラインセロットと言つて、あの旦那のところに居た男は、今でもやつぱり居りますかどうですかね？

ラインセロット お前さんそれはラインセロットの旦那のことかね？——「傍白」さあお目をとめて御覽じろ、ちよいと雨を降らしてお目にかけます、——お前さんそれはラインセロットの旦那のことかね？

ゴッポ なんの旦那なんかぢやございません、貧乏人の件です。父親は、自分で申すも何ですが、正直な、非常な貧乏者で、有難いことには長命でございます。

ラインセロット ふん、親父なんかどうでもいよ。俺はラインセロットの旦那のことをいつて居るんだ。

ゴッポ へい／＼、あなた様のお友達、へい、そのラインセロットの奴で。

ラインセロット しかし、承るがね、かるが故に、御老人、かるが故にだ、お訊ねするが、お前さんラインセロットの旦那のことを聞くんだらう？

ゴッポ ラインセロットのこと、どうぞ旦那さん。
ラインセロット かるが故にラインセロットの旦那だ。ラ

ラインセロットの旦那のことならお父つあん、何もいひなさるなよ。その若紳士は——宿命並びに運命、それから三姉妹とやらいふ變ちきな學問のお蔭でね、實は死んで了はれたのだよ。即ちお前さん方の使ふ平つたい言葉でいふと、お迎ひを受けられたのだよ。

ゴッポ マリヤ様、飛んでもない！ あの兒はわしの老いの杖、全く柱でございました。

ラインセロット 「傍白」ちよいと、私が棍棒や、小屋の支へや乃至杖や柱に見えますかね？——お父つあん、俺が分るかね？

ゴッポ あ／＼、若旦那様、分りません。ですが、お願ひです、本當にあの私の兒は——神様、彼の魂を休ましめ給へ！——生きて居りませうか、それとも死にましたか。

ラインセロット お父つあん、俺が分らないかね？

ゴッポ あ、旦那、私は砂盲目でして、あなた様は分りません。

ラインセロット いや、全く、お前さんに見える目があつたつて、見損ふだらう。子を知るは賢き父なりだからな。さあ、御老人、お前さんの件の近況をお話しませ

う。「父親に背を向けて」祝福して下さい。事實は結局明白になる。人殺しは隠しおほされるものではない——一人の息子は隠されても、最後には屹度露見するさ。ゴッポ どうぞ、旦那、お立ちなすつて。あなたは決して伴のラインセロットではござりません。

ラインセロット ねえ、冗談はもう抜きにして、祝福をして、お呉れよ。俺はラインセロットだ、昔はお前さんの小僧ツ子であり、今は伴であり、これから先きはお前さんの赤ん坊にならうとするラインセロットだよ。

ゴッポ いや、いや、どうしても伴とは思へない。
ラインセロット 俺もどう思つてよいか分らないが、何せ俺は猶太人の召使のラインセロットだよ、お前の女房のマジヤリは確かに俺の母親だ。

ゴッポ 成程、彼奴の名はマジヤリだ。誓言してもよい、お前がラインセロットだつたら、お前は確に俺の血肉をわけた伴だよ。(誰でも後向になつて祝福を求めずはしない。ゴッポは頭のあたりを手さぐりし、頭髪を顎たさ) おやく、神様は讃むべきかな！ どれらい頸帯を生やしたものだ。お前の頸帯の方が、家の荷馬のドビンの尻尾よりも毛が多くなつたぞ。
ラインセロット 「くるりと向き直り」それぢやドビンの

尻尾は逆さかに生えたと見えるな。この前見た時には奴の尻尾の毛の方が俺の顔の毛よりも多かつたと思ふが。ゴッポ やれく、見違へるやうになつたぞ！ どうだ、御主人との折合は？ 御主人へ御土産おみやげを持つて来たぞ折合はどうだね？

ラインセロット いゝよく、だが、俺の方ぢや、既落ちをすることに決めちまつたから、ちつとばかり突走つて見ないことには氣が落ちつかないのだよ。あの主人は真正正銘の猶太人だ。奴に土産をやるつて？ 首ツくくり繩を呉れてやつたがいゝや。奴のところこゝろに奉公して居ると飢えツちまふ。觸つて御覽、肋骨あはらで以て俺の指の勘定が出来るから。「と老父の手をとり胸のところで自分の開いた手の指を觸らせる」父つあん、いゝ所へやつて来て呉れたね。お前の土産はバサーニオさんといふ旦那に上げてお呉れよ。その方は、素晴らしい新調の仕着せを呉れるのだから。あの方に御奉公が出来なけりやあ、俺は地びたのありつ丈けつツ走るよ。——こりやまあ何て間が好いだらう！ その方が御出でになつたよ。——父つあん、早くあの方へ。この上猶太人に奉公するやうぢや、俺が猶太人になつちまふ。

バサーニオ、リーオーナードその他の従者を従へて
登場。

バサーニオ さうしてもよい。だが急いで、晩の食事が遅くとも時計の五つ鳴る迄には出来るようにするのだぞ。この手紙をそれ／＼渡して貰ひたい。仕着せを早く仕立てるやうにね。それからグラシャノさんにすぐ宅迄来て戴くようお願ひしてくれ。

一人の従者退場。

ラーンセロット 父つあん、さあ、あの人に。

ゴッポ 旦那様、御機嫌よろしう!

バサーニオ いやこれは! 何か私に用かね?

ゴッポ あれば手前の伴でござりますが、旦那様、貧乏な小僧で、――

ラーンセロット 貧乏な小僧ぢやないんです、金持の猶太人の召使ひです、その私が、あの――委細は親父が申します通り――

ゴッポ 旦那、伴が、えらく變心に(熱心)御奉公を――
ラーンセロット 全く極摘(かいつま)んで申しますと、私は猶太人に奉公して居りますが、一つお願ひが、その――委細は親父が申します通り、――

ゴッポ 此奴の主人と、此奴とは、――あなた様の前でござりすが、――どうもその折合が宜しくないのです――
ラーンセロット 早い話がかうでござります。あの猶太人は私を辛(ひげ)い目に合せますので、私もついその堪らなくなつて、――この親父は老人のことでござりますから、いづれ申しあげるだらうと存じますが……

ゴッポ 鳩を一皿、旦那様に差上げたいと思つて持つて参りました。そこで私のお願ひと申すのは――

ラーンセロット 極簡單(ごくたんぱん)に申しますと、そのお願と申しますのは私自身には問題ぢやないんで、委細はこの律義な年寄からお聞取りの通りに、かう申すと何でございますが、年寄ではございしますが、それでも、手前の親父は貧乏人でござります。

バサーニオ 一人で兩人分を喰る、――どうしてくれといふのか?

ラーンセロット 旦那に御奉公をしたいんで、へい。

ゴッポ それがお願ひの眼目にござります。
バサーニオ 私はお前をよく知つて居る。願ひは聞き届けてあげよう。

今日もお前の主人のシャイロックさんと話したが、

お前を私に使用つてくれと推挙してゐたよ。尤も金持の猶太人の奉公をやめて、

こんな貧乏者の従者になるのを、推挙とも言はれまいが。

ラインセロット 「神に恵まるゝは富めるなり」といふ古い諺を、丁度主人のシイロックと旦那様とでうまく分けて持つていらつしやる。旦那様は神のみ恵を持つていらつしやるし、あの人は、澤山の寶を持つてゐるのだから。

バサーニオ 中々うまく言ふな。——おやぢさん、息子さんと一緒に行きなさい。

先の主人に暇乞をしてから、

私の家へ尋ねて来るがよい。「従者等に向ひ」他の朋輩

よりも、

編飾の澤山に附いた制服をやつて呉れ。間違はぬやう氣をつけてな。

ラインセロット お父つあん、おはひり。——へん、俺には奉公口はめつからない、駄目だ。俺は口の利ける舌を

この頭に持合せないんだ。——さて「自分の掌を見て」イタリイ中で俺位の手筋の好いものがあるかね!

書物にかけて誓つてもいいが、あなたはきつと運が好

いんだつて言つてやがる! ちよッ、この壽命の筋はちとお手輕だ! この婢の筋もちつぽけでつまらない。あゝあゝ十五人の婢位は何でもありやしない!

十一人の後家に九人の生娘なんざあ、一人の男にはお手輕な収入さ。それから三度水難を避れる。それから羽蒲團の稜で危なく命を落しかける、どれもつまらない災難よけさ。で、運命で奴が女神だといふが、この様子ぢや中々親切なあまつちよだね。……父つあん、おいで。片眼をちよいと瞬きする間に、猶太の暇を買つて来るから。

ラインセロットとゴッポ爺退場。

バサーニオ リーオーナード、お頼みだから忘れないで

おくれ、

先に言つた品物を買入れて、ちやんと積込んだら、急いで歸つて貰ひたいんだ。今晚はね

尊敬する友人達を呼んで、御馳走するのだから。早く行

つておくれ。

リーオーナード 屹度出来るだけの事を致します。

グラシャーノ登場。

グラシャーノ 御主人はどこだね?

リーオーナード あそこを歩いて居られます。(退場)

グラシヤノ バサーニオさん。――

バサーニオ グラシヤノ君!――

グラシヤノ お頼みがあるので。

バサーニオ 何なりと。

グラシヤノ 厭だといつちやいけないよ。僕は君と一

緒にベルモントへどうあつても出掛けたいんだ。

バサーニオ それは、無論行くさ。しかし、グラシヤノ

ノ君、まあ聞き給へ。

君はあんまり亂暴で、やり放しで、口に憤しみが無いよ。

これは君の生れつきだから、

僕等の眼には缺點とも見えないが、

君を知らない人達のところへ出たら、少し

我儘過ぎるやうに思はれるよ。どうだい君、

君の跳びはねたがる元氣に、いくらか節制の冷つこい雫

を流して、

緩和する苦心をしては。でないと君の亂暴な舉動の爲に

行く先で僕まで誤解を受けて、

望が達せられないやうなことがあつては困るから。

グラシヤノ バサーニオさん、まあ聞いて下さい。

僕は飽くまで、しかつめらしい態度をしますよ。そして

物言ひも丁寧に、めつたに悪口もきかず、

ポケットに祈禱の本を入れて、殊勝らしい顔付をします、

いやそれどころか、食前食後の祈禱のある時には、かう

いふ鹽梅式に、

眼に頭巾を被ぶせ、溜息を吐いて、「アーメン」とやらか

し、(沙翁時代には男子も食事中帽
子を戴き祈禱の時だけ脱ぐ)

行儀作法にかなふやうにしますよ。

何もかもお婆さんのお氣に召すやうにと、まじめくさつ

た顔付をすることは、

十分研究した奴のやうにね。若しそれが出来なかつたな

ら、以後僕を信用しなくともよい。

バサーニオ ともかく、君の行儀のいゝところを拜見し

よう。

グラシヤノ だが、今夜は例外だよ。今夜僕のするこ

とを見て、

僕の將來を測られては困るよ。

バサーニオ よし、そんなことをしては氣の毒だ。

今夜は思ひ切つて、君の最も勇敢な、

歡樂の着物を着ることをお頼みする、

騒ぐ心算でやつて来た連中だから。併しこれで失敬する。
僕はまだ用事があるから。

グラシヤノ 僕もロレンゾーなどのところへ行かなく

ちやならない。

併し夜食時分にはみんなでお訪ねするよ。

兩人退場。

第三場 — 同所。シャイロックの一室。

ゼシカとラーンセロット登場。

ゼシカ 厭あね、お前にさうして家を出られるのは。

この家は地獄なんだけれど、お前といふ陽気な鬼がゐたので、

幾らか氣を紛らすこともできたのだわ。

ではお達者に。これ、一兩、お前に。……

それからね、ラーンセロットや、夜食の席にきつとロレン

ゾーさんて、

お前の今度の御主人のお客さんにお逢ひだらうから、

このお手紙を差上げてね、内密よ。

ではさよなら。かうやつてお話して居るところを、

お父さんに見附かりたくないから。

ラーンセロット さやうなら！ 涙奴が舌の代りをしてゐます。この上もない美しい邪宗門様、この上もないおやさしい猶太人様！ 基督教徒の人が悪戯をして、あなた様を産ませたのでなかつたら、それこそ私は大見當

違ひをしたといふものです。いや、さやうなら！

この愚かな涙の露奴、私の男らしい魂をいくらか溺らしました。さやうなら！

ラーンセロット退場。

ゼシカ さやうなら、ラーンセロット。

あゝ、何といふ罰當りなことだらう、

父の子であるのを恥ぢるなんて！

だけど、わたし血統ではお父様の娘でも、

行の上ではさうではありません。おゝ、ロレンゾー、

あなたさへ約束を守つて下されば、わたし、この心の悶

えから脱れて、

基督教徒に改宗し、あなたの女房になりますわ。

退場。

第四場 — 同所。街頭。

退場。

グラシヤリーノ、ロレンゾー、サラリーノ並びにサラリーニオ登場。

ロレンゾー いや、夜食中にそつと抜け出し、僕の宿所で一同假装して一時間内に、みんな引返すことにしよう。

グラシヤリーノ 準備が十分出来てゐないよ。

サラリーノ まだ炬火持のことも話してない。

サラリーニオ 手際よく順序をつけて置かなくちやいけな
い。

それが出来ない位なら、僕はしない方がいよと思ふよ。

ロレンゾー まだやつと四時だ。二時間も準備する時間があるよ。

ロレンゾー 準備する時間があるよ。

いよう、ロレンセロット、何だね？

ロレンセロット この封印をお破りになりますれば、委細

明白になることゝ存じます。

ロレンゾー 筆蹟は分つて居る。全く佳い筆蹟だ。

書かれたこの紙よりも白いと來てゐる、

書いた人の美しい手がさ。

グラシヤリーノ 戀文だね。

ロレンセロット これで失禮いたします。「と言つてぐづぐづしてゐる」

ロレンゾー 何處へ行くかね？

ロレンセロット はい、マリヤ様かけて、今夜、先の主人の

猶太人を今度の主人の基督教徒のところへ晚餐に呼びに行きます。「まだぐづぐづしてゐる」

ロレンゾー あゝ待つた、これを取つて置き。「いく

らかくれる」

「ゼシカさんにね、決して間違ひませんと言つてお呉れ。こつそり言ふんだ

よ。

ロレンセロット退場。

さあ、諸君、

今夜の假面狂言の支度にかゝつて下さい！

炬火持一人は僕の手で出來たよ。

サラリーノ よろしい、早速取掛らう。

サラリーニオ 僕もさうしよう。

ロレンゾー 僕とグラシヤリーノとは

一時間ばかりしてグラシヤリーノの宅で待つてゐるよ。

サラリーノ よからう、さうしよう。

サラリーノ並びにサラリーニオ退場。

グラシヤリーノ その手紙はゼシカさんからぢやないかね？

ロレンゾー

君には是非とも一部始終を聞いて貰はなく

ちやならない。彼女め、ちやんと指圖をして、

かうくいふ風にして父の家から伴れ出してくれ、

これくのお金、これくの寶石類は持つて行く、

こんな侍童の衣装を用意してるといつてね。

若しあの親父の猶太人が、天國へ行くことがあらうもの

なら、

それこそやさしい娘さんのお蔭だらうよ。

災難だつて遠慮して、あの女の足許を横りもしないさ

不信神者の猶太人の娘だから、

などゝ口實をつければいざ知らずだが。

さあ、一緒に行かう。途々これを讀んで呉れ給へ。

あの美しいゼシカが僕の炬火持になる筈なんだよ。

二人退場。

第五場 —— 同所、シャイロック家の前。

シャイロックとラーンセロット登場。

シャイロック ふん、今に分るぞ、貴様の眼が審判官にな

つて、

先の主人のシャイロックとバサーニオとの違ひをきつと見

せてくれるから。——

こりや、ゼシカ！——俺の所でやつたやうに、

大食ひは出来ないぞ。——これ、ゼシカ！——

寝くさつたり、斬をかいいたり、着物をひつ裂いたり。——

こら、ゼシカ、ゼシカといへば！

ラーンセロット こら、ゼシカ！

シャイロック 誰が貴様に呼べといつた？

俺は呼べと言ひはしないぞ。

ラーンセロット 旦那は始終私に言つてみました、言ひつ

けなくつちや、何一つ仕出来かさない奴だつて。

ゼシカ登場。

ゼシカ お呼びなの？ 何御用？

シャイロック ゼシカ、わしは夕飯に招ばれて行く。

これがわしの鍵ぢや。「と鍵を渡しかけて又ひっこめる」

しかし、何のためにわしは行くのだらう？

親切から俺を招ぶのぢやない。只機嫌を取らう爲だ。

併しこちらにも憎い餘りに出掛けて行つて、奢りちらす
基督教徒を食ひ潰してくれよう。ゼシカ、
家に氣を附けて呉れよ。「と鍵を渡し」あゝ厭だ、出掛け
るのは。

何かひよんなことが起つて、わしの安息を亂すやうな氣
がする。

昨夜わしは金財布の夢を見たから。

ラインセロット 是非お出掛け下さいまし。宅の若主人は

あなた様の御擯斥(御出遣)をお待ちしとりますから。

シャイロック 全く、俺はあいつの擯斥を待つてゐるのだ。

ラインセロット それで皆で共謀(謀議)して居りまし

た。私は是非假面狂言を御覽なさいとお勧めは致しま

せん。だけど若し御覽になるやうなことがあつたら、

この間の不吉な月曜日(復活祭の朝の六時に私が鼻血

を出したのも、まんざら因縁がなかつたわけでもない

と思ひます、四年前の聖灰日(第一日)にも午後出ま

したから。

シャイロック え、假面狂言がある？ ゼシカ、忘れちゃ

いけないよ。

戸締りをよくして、大鼓の音や、

捻れつ首の軍笛師の下らないきい／＼聲が聞えたら、窓
框にはひ上つたり、

往來へ首を突き出して、

面を塗りこくつた馬鹿耶蘇を凝視めたりしちやならんぞ

そんな事をする代りに家の耳を塞いで、といふのは窓だ

つまらない輕薄な騒ぎを、もの堅い俺の家へ、

入れてはならん。ヤコブの杖にかけて誓言する、

今夜晚餐に出掛ける氣はちつともないんだが。……

だが行かう。……やい先へ行つて、

俺が行くとさういへ

ラインセロット では旦那、お先へ参ります。お嬢さん。

かまやしないから、窓んところで見張りなさいまし。

通り過ぎるよ耶蘇信者、

猶太の娘も見るのが好い。

ラインセロット 退場。

シャイロック あのハガルの子孫(父はアブラハムだが母が奴隷た

る)の馬鹿は何をいつたか、え？

ゼシカ 「お嬢さん、さやうなら」といつただけで、他に

何にも言ひはしません。

シャイロック この馬鹿め、氣のいゝ奴だが、飛んでもな

い大喰ひだ。

金儲に掛けては蝸牛のやうなのろまで、晝間もこつくりこつくりやりあがつて、

野良猫踏足だ。なまけ者の雄蜂は俺の巢には一緒に置けない。

だから、おさらばだ。おさらばをして、

行かせた先は、彼奴に手傳はして、俺の貸した金を、無駄費ひさせてやりたい男だ。さあゼシカ、内へおはひり。

多分直きに歸つて来るよ。

言ひつけ通りにするのだけ。言つたら後の戸を閉めて。

「しつかり締めれば、しつかり占める」

經濟家には、決して陳くなりつこのない諺だ。

退場。

ゼシカ 左様なら、私の運命に邪魔が入らなければ、

私は父を、あなたは娘を失ふことになりませう。

退場。

第六場 —— 同所。

グラシヤーノとサラリーノ假裝して登場。

グラシヤーノ この庇小屋だよ、ロレンゾーが待つてゐて呉れと言つたのは。

サラリーノ 約束の時間はもう過ぎた位ゐだ。

グラシヤーノ 驚くね、彼が約束以上長居するなんて、

戀する輩は時計を超越するのがおきまりだのに。

サラリーノ おゝ、ヴィナスの神様を曳く鳩は、十倍早

く飛んでゆき

新奇に交した戀の起請に封印するが、

無理な誓を破らせまいとするには、それ程ではないとさ。

グラシヤーノ 其通り、今も昔も。食卓に就く時のやうな、

鋭い食欲を以て席を立つものが一人でもあらうか？

初め乗出した時ほどのひるまなひ熱をもつて

あき／＼する整歩をも一度引返す馬が

何處にあらう？ ありとあらゆるものは

手に入れて楽しむ時より、追かける時よけい元氣が出る。

旗飾り凜々しい船が本國の港を出帆する有様は、

醜業婦の風に抱かれ、締められ、

全く放蕩息子そのまゝだが、

歸つて来た様子つたら、又放蕩息子をつくりとくる、

雨ざらしの横つ腹、ぼろ／＼の帆布、

醜業婦の風にいたためられ、瘠せて、裂かれて、見るかげ

もない！

テラリーノ　　よう、ロレンゾーが来る。話はまあ後にしよう。

ロレンゾー登場。

ロレンゾー　親愛なる諸君、どうか我慢して下さい、ひどく遅れて。

僕ではない、僕の用件が諸君をお待たせしたのだ。

今度君達が竊盗人といふ遊戯でもしようと思つた時には

僕がいつ迄でも張番をします。さあ、こつちへ來給へ。

爰に舅の猶太人が住んで居るのだ。およい！　誰かゝるか？

ゼシカ、少年の服装で樓上に現はれる。

ゼシカ　どなた？　お聲はちやんと分つて居るけれど、

念のために、名乗つて下さい。

ロレンゾー　ロレンゾー、お前の好い人だよ。

ゼシカ　本當にロレンゾー、そして私の好い人、全く。

だつてあなた位愛しい人はないのだもの！　ロレンゾー。

私があなただのものだといふことを、あなたの外に誰か知

つて居りますか？

ロレンゾー　その證人は天とあなたの心。

ゼシカ　さあこの箱を受けて頂戴、骨折甲斐はありますよ。

よ。

幸ひ夜で、あなたが御覽なさらないので嬉しいわ、

だつて、私こんな装して、恥しいのですもの。

でもいゝわ、戀は盲目ですから、戀人同志のする

たわいもない馬鹿な事は、戀人には見えはしません。

若しも見えたら、キューピットだつて、赤面させよう、

こんな少年の扮装をしてゐるのですもの。

ロレンゾー　降りてお出でなさい。あなたは私の炬火持

に定つて居るのだから。

ゼシカ　何ですつて、私に、蠟燭なんか持つて、恥を晒

せと仰しやるの？

あんなもの、本當に、もうそれだけで、あんまり／＼明

かる過ぎますわ。

あなた、炬火持は物を見付る役ですよ、

だから私、隠れてゐなくちやならないのでせう。

ロレンゾー　隠れて居るぢやないか、

可愛い男の服装なりをしてさ。

まあ早くいらつしやい。

ぐづぐづしてゐると祕密の夜の方でどん／＼駈出して

バサーニオの宴會ではお待兼と来ますよ。

ゼシカ では、戸締りをしつかりして、

もつとお金を持つて、直ぐ御一緒にになります。

ゼシカ、樓上より退場。

グラシャリーノ この頭巾つんを誓にかけて、ありや猶太人と

は思はれないほど、實にしとやかなものだ。

ロレンゾー 私があの娘を心底可愛しんぞこからないうやうなら、

天罰を受けてもいゝ。

僕に批判の權利があるものなら、彼女おれは賢い女だ。

僕の眼が間違つてゐないなら、彼女おれは美人だ。

その上、眞實まことある女で、それは自分で今まで證據を見せ

て呉れた。

だから、賢くて、綺麗で、實のある彼女として

この變らぬ魂の中にいつまでも仕舞つて置くのだ。

ゼシカ、下の舞臺へ登場。

おゝ、やつて来たのか？——進め、諸君、行かう！

假面マスクの仲間がさぞ待ちくたびれてゐることだらう。

ゼシカ、サラリーノと共に退場。

アントーニオ登場。

アントーニオ 誰です、そこにゐるのは？

グラシャリーノ アントーニオさん！

アントーニオ どうした／＼、グラシャリーノ！ 他の者は

何處どこに居る？

九時だぜ。友人達はみんな君を待つてゐる。

今夜は假面狂言マスクは沙汰止みだ。風がよい鹽梅あんばいに出たので

バサーニオは直ぐに乗込むだらう。

君を探しに、もう二十人も人を出したよ。

グラシャリーノ そいつは嬉しい。今夜帆を張つて

出掛ける以上の喜びは望めない。

兩人退場。

第七場——ベルモント。ポーシャ家の一室。

コルネットの華かな吹奏。ポーシャ、モロッコの領

主と共に、各々従者を率ゐて登場。

ポーシャ あのカーテンをわきへ引き、

それ／＼の函はこをこのけ高い方にお目に掛けなさい。

「モロッコの君に向ひ」さあ、お選び遊ばせ、
モロッコ！ まづ最初に、黄金作りの函、こんな銘が刻し
てある。

「われを選ばん者は、衆人の熱望するものを得む。」
第二に銀製の函、これにはこんな約束が書いてある。

「われを選ばん者は、その身相應のものを得む。」

この三番目、鈍い鉛の函、添へてある警告までが、同じ
くぶつきら棒だ。

「われを選ばん者は、その持物總てを與ふるか、又は冒険
せざる可からず。」……

どうしたら選び當てたといふことが分るのですか？

ポーシャ その中の一つに私の似顔畫が入つてあります。

それをお選びになれば、それと一緒に私もあなた様のもの
になるのでございます。

モロッコ！ 何れかの神様、どうか私の判断力を御指導下

さい！ はてと

もう一度銘を読み返して見よう。

この鉛の函は何とかいつた？

「われを選ばん者は、その持物總てを與ふるか又は冒険せ
ざる可からず。」

與へなければいけないとは、何の爲めだらう？ 鉛の爲
めに？ 鉛の爲めに冒険するのか？

この函は險惡だ。すべてを冒険するものは

何か立派な利益を見込んでのことだ。

黄金の心を持つてゐる者は、鑛屑などに手を觸れぬものだ。

だから私は、鉛の爲めに一物でも與へたり、冒険したり

すまい。

純潔な色の銀は何といつて居るかな？

「われを選ばん者は、その身相應のものを得む。」

その身相應のものごと！ 待てよ、モロッコ！

お前の價値を公平な手で秤けて見なさい。

若しお前がお前の眞價で見積られるならば、

お前は十分相應してゐる。だが、その十分が、

姫その人にまで及ばないかも知れない。

とは言へ、自分の價を懸念するのは

心弱くも己れみづからを見下げるに等しからう。

我身相應なもの！ なに、それこそあの姫だ。

家柄でも、財産でも、品位でも、

又教養の諸々の美點についても、姫に相應してゐるこの
身だ。而も、それ等にも優つて、私は愛の點で相當し

てゐる。

これ以上迷はずに、これを選ぶとしたらどうだ？

もう一度此黄金に彫りつけてある言葉を見せて貰はう。

「われを選ばん者は、衆人の熱望するものを得む。」

なに、それこそ姫だ。全世界がこの方を熱望して居る。

大地の四方の隅々から来たつて、

この殿堂、この現身の息づける聖者に接吻せんとする。

ハイカニヤの沙漠（莫海南部の荒野で當代の作者は虎伏す野邊ミしてはく引用した）大アラビ

ヤの、

廣い荒野も、今では、王侯貴族が美しいポーシヤに見參し

ようと、

往來する天下の大道に等しくなつた。

又かの水の王國は、野心滿々たる頭をもたげて、

天の面おもてに向つて唾つばするのであるが、それさへも

海のかなたの勇者を喰止める障礙物とはならず、

彼等は小川を渡るやうに易々と越えて、美しきポーシヤを

見にやつて來る。

この三つの中の一つに姫の天女とまがふ似顔畫がある。

鉛の中に、果してそれが入れてあらうか、そんな

卑しいことを考へるさへ罰當りだ。鉛などは暗い墓穴で、

あの方の緋帷子あかきふちを包むにさへ粗悪に過ぎる。

それとも銀の中に押し込めてあると考へようかな？

金に較べて十分の一の安價な銀の中に？ （エリザベス朝では金銀の比價十又十一對つたあ）

つたあ）

おゝ勿體ない！ かほど貴重なる寶石が

黄金以下のものに嵌められた例はついぞない。イギリス

では、

金に刻印した天の使の姿の

貨幣がある。しかしそれは上に彫つてあるのだが、

こゝには一人の天の使が、金の床の中に

隠れて横たはつて居る。……鍵をお貸し下さい。

これを選びます。願はくは成功を給へ！

ポーシヤ さあ、お受取り下さい。私の姿がそこにありま

したら、

私はあなた様のものでございます。

彼は金の函を開ける。

モロツコー おゝ地獄！ これは何だ？

鬮くじの死神、その空ろな眼の中に、

何か書いた卷紙が入つて居る！ 読んで見よう。

讀む。

輝くものこと／＼は金にあらず。

そは屢々卿の聞きしところなり。

幾多の人、たゞわが外形を見むとて、

その生命を賣りたり。

金色に燦めく墓石も蛆蟲を蔵せり。

卿若し勇敢なるが如くに賢明にて

四肢若く、分別老成なりせば、

卿はかゝる答に接せざりしならん。

いざさらば。卿の望みは冷却し了はんぬ。

いかにも絶望だ。努力も空しくなつて了つた。

熟は、これでさやうならで、明日からはもう霜空だ。

ポーシャ姫、おさらば。私は胸一杯で、

なが／＼と別辭を述べること出来ぬ。敗北者はかう

いふ風に立ち去るものです。

従者を従へて退場。華やかなコーネットの吹奏。

ポーシャ あゝうまく厄介拂ひをした。さ、カーテンをお

引きなさい。

あゝいふお顔色の方は、皆あゝいふ風に外れてくれれば

よい。

皆々退場。

第八場 — ヴェニス。街頭

サラリーノとサラリーニオ登場。

サラリーノ いや、君。バサーニオが舟に乗つてのを

見たよ。

グラシヤノも一緒に出掛けた。

その舟には確に、ロレンゾーは居なかつた。

サラリーニオ あの猶太の奴め、わい／＼騒いで公爵様を

驅り立てたので、

公爵様も奴と一緒に、バサーニオの船を探りに出掛けた。

れた。

サラリーノ ところが遅まきで、船はもう走つてゐた。

しかし、あそこで公爵様の聞かれた情報によると

ロレンゾーと惚れたゼシカとが

一つゴンドラに乗り合つてゐたと云ふのだ。

それに、アンティーニオさんは公爵様に向ひ、

二人はバサーニオの船に居ないといふ證言をしたよ。

サラリーニオ

僕はあの猶太の犬めが、街々を怒鳴つたやうな、

あんな滅茶苦茶な、あんな亂暴な、あんな出鱈目な
わめきかたを聞いたことがない。

「俺の娘！ お、俺の金！ お、俺の娘！

基督信者と駈落しやがつて！ お、俺の基督信者の金！

正義！ 法律！ 俺の金！ 俺、娘！

封印をしておいた財囊を。封印をして置いた金貨囊を二

つ、

二種の金囊を娘に盗まれて了つた！

それから寶石だ、玉が二つだ、立派な高い玉が二つだ。

娘に盗まれた！ 裁判！ 娘を探せ！

彼女が玉も金貨も身につけて居る！」。

サラリーノ さうよヴエニス中の子供等が皆後について、

玉だ、娘だ、金貨だと囁いて居る。

サラリーニオ どうかアントーニオさんが期日を守るよう

に注意なさるといふが、

でない、きつと意趣返へしを受けますよ。

サラリーノ 全く、そのことく。

僕は昨日もあるフランス人と話したが、

その人は、フランスとイギリスの境の

あの狭い海で、金高の物をうんと積込んだ

我國の船が沈没したと言ふのだ。

それを聞くと、僕はアントーニオさんのことが頭に浮び、

どうかその船が彼人のでないやうにと、心の中で祈つた

よ。

サラリーニオ その話はアントーニオさんに聞かせて上げ

るが一番だよ。

だけど、だし抜けに言つちやいけない、どんなに、がつ

かりしなざるか知れないから。

サラリーノ あれ以上親切な人は又とこの世にゐない。

僕はバサーニオ、アントーニオ兩君の別れるところを見

たがね、

バサーニオが、出来るだけ歸りを急ぎたいと

挨拶すると、その答がからうだ、「それはいけない。

バサーニオ君、私の爲めに用向を忽にせず、

時機の熟するまでお待ちなさい。

あの猶太人が私から取つた借用證書なんかは、

君の戀とは全く無關係の事にして置いて、

心を思ひきり快活に持つて、偏へに先方の氣に入るよう、

又彼の地で、君にふさはしいやうに
愛のしるしを示すことを努めなさるがよい。」

さういひながらも、眼は涙ではらしたので

顔をそむけ、後向きに手を出して、

あふれる許りの愛情をこめて、

バサーニオの手を握り締め、それから別れたよ。

サラーニオ あの人がこの世の中を愛して居るのは、只

バサーニオの爲めばかりだと僕は思ふね。

どうか、一緒に行つて、あの方を尋ね出し、

何とか氣を浮立たせる工夫をして、

例の鬱ふさぎの蟲を追つ拂つてやらうではないか。

サラーニオ さうしよう。

兩人退場。

第九場 —— ベルモント。ポーシャ家の一

室。

ネリッサ一人の下男を伴れて登場。

ネリッサ 早く、早く、どうぞ。カーテンをすぐお開け。

アラゴンの領主がもう御誓約をお済しになつて

今にお選びに入らせられるから。

コルネットを華やかに吹奏する。アラゴンの領主、ポーシャ、及びその従者連登場。

ポーシャ 御覽下さいまし。あそこに小函がございます。

私の入つて居るのをお選びなさいましたら、

すぐにも私共の婚禮の式は執行はれます。

ですが、萬一お間違ひになりましたら、何とも仰しやら

ずに

早速お立退き下さらなければなりません。

アラゴン 私は三つの事を守るやう誓約いたしました。

第一、どの函を選んだか、

誰にも明かさないこと。次に

若し當の函を選びそこねたならば、一生涯、

決して處女に對し再び結婚の申込みをしないこと。

最後に

運拙く選擇を誤らば

即座に暇乞ひして退去すること。

ポーシャ さうした御約束は、どなたに限らず、

不束な私のため、御運試しにお越し下さいます方々にお

誓ひして戴きます。

アラゴン　で、私も既にその覺悟をして居ります。さあ
運命よ、

わが胸の希望に副へよ！……金、銀、そして賤しい鉛

「われを選ばん者はその持物すべてを與ふるか、又は冒險
せざる可からず。」

もつと外見が立派でなくては、與へたり、冒險したりは
できない。

金の小函は何と言ふ？　え！　どうれ、

「われを選ばん者は衆人の熱望するものを得む。」

衆人の熱望するものと！　その「衆人」といふのは
愚な大衆のことかも知れない。彼等は外見によつて選り

取りし、

愚劣な目が教へる以上のことは分らない。

その目といふは物の内面には届かず、例へば燕のやうに、
吹きつ晒しの外部の壁に巢を造り、

怪我災難の押しかけてくるに任せてゐる。

私は、多數の人の熱望するものは選ぶまい。

平凡人と歩調を一つにしたり、

野蠻な大衆と同列になるのは好もしくないから。
さうなると、そなただ、銀の寶の家、

そなたはどういふ銘を附けておいでか、もう一度聞かして貰はう。

「われを選ばん者は、その身相應のものを得む。」

む、文句はいかにも好い。實際實力の極印なしに
只運命を誤魔化して萬一を僥倖し、名譽を得ようとした
つて、

そんな事の出来る筈はない。何人でも

身分不相應の地位を得ようと、僭上の心を起してはなら

ない。

お、かの地位や、階級や、官職やが、

不正に得られるものでなかつたらば！　又かの清淨なる

名譽が

之を擔ふ人の眞價で購はれるものであつたらば！

さすれば、現在帽子を被らずに立つてゐる者で、帽子を

被るやうになるものが何人位みになるだらう！

命令を發する輩で、命令されねばならぬ者が、何人位の

あるか知れない！

榮譽ある家に生れた者の間にも、選り分けられ

卑しい農民にならねばならぬ者も、多數であらうし、

又時代の釋穀や

廢物であるものゝ間からも、定めし多くの名譽ある人々

が拔出され、

新たに光を帯びることになるであらう！ 何はともあれ、

さ、私の選擇へ、

「われを選ばん者は、その身相應のものを得ん。」

僭越ながら、敢て自分を相應と認めませう。これの鍵を

下さい。

卽座に運命の錠を開けて見ます。

彼は銀の函を開ける。

ポーシャ（傍白）そんなものを手に入れるにしては、御恩

案がちと長過ぎます。

アラゴン これは何か？ 目をしよぼく／＼してゐる阿呆

めが、

巻物を捧げて居る繪だ！ 読んで見よう。

何て似もつかないのだらう、お前とポーシャさんと！

何て似もつかないのだらう、私の望と私の徳とに！

「われを選ばん者は、その身相應のものを得む。」

一體私は馬鹿つ面以上、相應しないのだらうか？

これが私への賞典か？ 私の價値はこれ以上ないのか？

ポーシャ 立腹するのと、判断するのとは、違つた役目で、

反對の性質のものです。

アラゴン 何か書いてあるのか？

火は七度この函を精練しぬ。

七度精練せられし判断ならば

選び損ずることなからんに、

世には影に接吻するものあり、

かゝる輩は影の恵みを得るに過ぎじ、

げにや世に活ける阿呆あるを。

銀を以て外面を飾る。この者即ち然り、

如何なる妻を閑に伴はんも

君の素頭たらんものは、我れなり、

さらば行きね。汝が事終れり。

こんな處にぐづ／＼してゐれば、

いよ／＼愚かしく見えるであらう。

阿呆頭を一つ持つて求婚に來たのだが、

二つを携けて歸ることになつた。

美しい君よ、さやうなら。私は誓を守り、

ちつとこの憤懣を忍ぶであらう。

アラゴン並びに従者等退場。

ポーシャ あゝ夏の蟲が、われから蠟燭で焼かれたわ。

おゝ念入りのお馬鹿さん達！ いざ選ばうといふ時には
智慧を絞つて却つて眞知を失ふのだけ。

ネリッサ ほんとうに古い諺の通り、

「絞罪と嫁取は運次第」でございます。

ポーシャ さあ、ネリッサや、カーテンをお閉め。

下男一人登場。

下男 お姫様はどちらでございますか？

ポーシャ 「ふざけて」こゝよ、お殿様、何御用。

下男 お姫様、只今御門前に下馬なされましたのは、

若いヴェニスの方で、その御主人のお越しの

前臈にと來られました。

そしてお賢い御挨拶を御持參でございます。

と申しますは、式作法や鄭重なお言葉の他に、

高價なお土産物でございます。今日まで手前は

あんな御立派な戀の御使者にお目に掛つたことはござい

ません。

花やかな夏の近いことを知らせる

四月の日だつて、かうは美しくないと思はれるほど

この一番乗りは御主人に先駆けでやつて参りました。

ポーシャ もうよろしい、分りました。そのうちお前は

あの男は私のいくらか縁續きでとか何とか言やしないか

と、半分氣になるよ。

そんなに餘所行の言葉を使つて譽めるのなもの。

さ、さ、ネリッサ、わたし早く見たいわ、

そんなに様子はいゝ戀の神様の早打をさ。

ネリッサ 「傍白のやうに」戀の神様、どうかそれがバサ

ーニオ様でございますやうに！

皆々退場。

第三幕

第一場 —— ヴェニス。街頭。

サラリーニオ並びにサラリーノ登場。

サラリーニオ　で、市場の噂はどうかね？

サラリーノ　なにさ、アントーニオさんのみつしり積込んだ貨物船が、

イギリス海峡で難船したといふ話は、まだ打消されないで居るよ。確か場所はグッドウインサンズ(ケントの東海岸沖の砂洲の名)といつて居た。とても危険な浅瀬で、立派な船の死骸が幾艘も横たはつてゐるといふことだよ。あの噂といふ饒舌婆が、話しの當になる正直女だつたらね。

サラリーニオ　あゝ、その饒舌婆が、生妻をがりく噛じりながら、近所の衆に三人目の亭主が死んだので、泣いて居るのだと思はせる類の嘘吐きなら安心だけれど、實はほんたうなのだ。廻りくどい事は抜きにして、ありのまま、眞直にいふが、あの善良なアントーニオさんは、

あの正直なアントーニオさんは、——あゝ何といつたらいゝか、とてもあの人の名にふさはしい善い稱號を見つけることは出来ない——

サラリーノ　さあ、ピリヨッド。(話の結末)

サラリーニオ　えゝつ！ 何だつて？ 結末はかうだ、

あの人が船を一艘なくしたのだよ。

サラリーノ　どうかそれがあの人の損害の結末だといふが。

サラリーニオ　遅くならぬうちに「アーメン」と言はう、悪魔がお祈りの邪魔をするといけないから。言はぬこつちやない、それ、猶太人になつて化けて來たぞ。

シャイロック登場。

どうです、シャイロックさん、商人仲間何か珍聞はないかね？

シャイロック　お前さんが知つてゐる筈だ。誰よりもよく知つてゐる筈だ。誰よりもお前さんがよく知つてゐる筈だ。わしの娘が飛んで行つて了つたことを。

サラリーノ　確にさうだ、僕は娘さんのすつ飛んだあの翼をこさへた裁縫屋を知つて居るよ。

サラリーニオ　さう言へば、シャイロックさんだつて、あの

小鳥に羽がすつかり生え揃つてたことを知つてゐべきだつた。羽が生揃へば親鳥を捨てるのは小鳥の天性だよ。

シャイロック 天罰を受けるぞ、女奴。

サラリーノ 確にさうだ、若し悪魔が彼女の裁判官になればね。

シャイロック

俺の血、俺の肉が謀叛をしようとは！

サラリーノ

(シャイロックの意味のその類なる事は明瞭だ)恥かし
いぜ、やくざ爺さん！ その歳をして血や肉が謀叛を

するなんて。

シャイロック いや血や肉つてのは娘のことだよ。

サラリーノ お前さんの肉とあの娘の肉とでは、黒玉と

象牙ほど違つてゐる。二人の血の違いは赤葡萄酒とラ

インの白酒よりもひどいよ。それはさうと、アントー

ニオさんが海で大損をしたとかしないとかいふことを

聞きませんか？

シャイロック あゝ、あれもまづい取引だつた。身代限りの

贅澤者奴が、市場へ顔出しも得しやがらない。つい

此の間まで取引所へ勿體振つてよくやつてきやがつた

乞食め。あの借用證文を忘れるな。あいつは、いつも

俺のことを高利貸だと言ひくさつてゐた。證文を忘れ

んがいよぞ。あいつは基督教徒の親切だとか何とか言つて、いつも無利息で金を貸しをつた。あの證文を忘れるんがいよぞ。

サラリーノ だが、無論期限に遅れたからつて、お前さんはまさか肉を取りやしまいね。肉は何の役にも立たないからな。

シャイロック

魚を釣る餌になる。腹の滿る役にはならなくつても、俺の復讐の腹慮にはなる。あいつ、俺に恥をかゝせ、五十萬程儲けそくなはせた。俺が損をすれば笑

ひ、俺が儲ければ嘲弄する、俺の國の者を輕蔑し、俺の

商賈の邪魔をし、俺の友達には水をさし、俺の敵は焚き

つける、そしてそれは何の爲かと云ふに、俺が猶太人

だからだ。猶太人には眼はないのか、猶太人には鼻や

耳や口はないのか、四肢五體はないのか、感覺も感情

も情慾もないのか？ 基督教徒と同じ食物を食べ、同

じ武器に傷つき、同じ病氣に罹り、同じ方法で治り、

同じ夏冬で冷されもし暖められもしないのか？ 俺達

だつて、突かれよば血が出るのだ。擦られよば笑ふの

だ。毒を盛られよば死ぬのだ。そして非道い目に逢は

されよば復讐せずにはゐられないのだ。他のすべてが同

じなら、その事だつて同じだぞ。若し猶太人が基督教徒に不正な事をした場合、基督教徒の道は何だ？ 只もう復讐だ。若し基督教徒が猶太人に不正な事をした時基督教徒をお手本にしたら俺達の持前の堪忍はどうすればよいのだ？ 無論たゞ復讐だ。悪黨根性はお前さん達が仕込んでくれた、俺は實行するだけだ。やるからには、教訓以上にしてのける料簡だぞ。

下男一人登場。

下男 皆様、主人のアントーニオがお二人様とお話し致したいと、宅でお待ちして居ります。

サラリーノ 僕等も方々御主人を探して居たのだよ。

テューバル登場。

サラリーノ オ、やあ、眷族の一人がやつて来るぞ。この二人に匹敵する三人目などありやうはない、悪魔自身が猶太人に化ければ別だが。

サラリーノ、サラリーノ並びに下男退場。

シャイロック どうだ、テューバル。ゼノアからの消息は？

お前、娘を見附けて呉れたかね？

テューバル 噂のある處へは度々行つたが、見附からないよ。

シャイロック え、そら／＼／＼！ ダイヤがなくな

つたのだよ、フランクフォルト（九月三日三月に十四）で二千兩もしたやつが！ 俺達の種族に呪ひが来ると聞いたが、今日といふ今日いよ／＼来たのだ。俺は今日迄それを感ぜなかつた。あれ一つで二千兩、その他高價な、高價な寶石類。えい娘が俺の足下でくたばつて、寶石がその耳に残つてゐた方がましだ！ あいつが俺の足下で葬の車に乗せられていゝから、その棺の中に金貨が入つてゐてくれたらなあ！ 何の消息もないと云ふのか？ 勝手にしやがれ。それに搜索にどれ位も費つたことか。おい、お前——損の上の損だ！ 大金をかつばらつた泥棒を、大金を掛けて搜索して、償ひもつかず、仕返しも出来ず、不運といふ不運はみんな俺の肩にとまり、溜息といふ溜息は俺のつくものばかり、涙といふ涙で俺の流さぬのではないわい。

テューバル いや／＼、不運はお前許りぢやないぞ、アントーニオはな、ゼノアで聞いたが、——

シャイロック なに、なに、なに？ 不運と？ 不運と？ テューバル トリポリ歸りの商船を流しちまつたよ、

シャイロック 有難い、神様！ 有難い、神様！ それは

本當か？ それは本當か？

テューバル 俺はその難船から助かつたといふ二三人の水夫と話したよ。

シャイロック

禮を言ふぞ、テューバルさん。吉報だ、吉報

だ！ は、は、は、は！ 何處で？ ゼノアでか？

テューバル ゼノアでは、お前の娘は一晚に八十兩費つ

たといふぞ。

シャイロック

お前、短刀で俺を刺しをる。もう二度とあの金の顔は拜めまい。一場所で八十兩！ 八十兩！

テューバル

俺と一緒にアントーニオの債權者が續々ヴェニスへやつて来たがね、奴、破産の外はあるまいと皆

言つて居たよ。

シャイロック

そいつは嬉しい、あいつを取つちめ、あいつをやつつけて呉れるぞ、そいつは嬉しい。

テューバル

その中の一人が俺に指輪を見せたが、猿一疋と取かへつこに、お前の娘さんから貰つたのださうだよ。

シャイロック

阿魔奴、くたばりをれ！ テューバル、お前は俺を苛むのか。それは俺のトルコ玉だ。俺がまだ獨り身者の時に、リイア（彼の妻）から貰つたのだ。猿だらけ

の廣い野原をくれたつて、放したくない品だ。

テューバル とにかくアントーニオは確に破産だ。

シャイロック うむ、その通りだ、全くその通りだ。テューバル、行つて役人を前金で雇つてくれ。二週間前から口を掛けての期限が切れたが最後、奴の心の臓を取つてくれる。奴さへヴェニスに居なければ、俺は好き放題な商賣が出来る。さ、テューバル、俺達の禮拜所で待つてくれ。さ、テューバル、禮拜所での、テューバル。

兩人退場。

第二場 —— ベルモン。ポーシャ家の一室

バサーニオ、ポーシャ、グラシャーノ、ネリッサ並びに従者登場。

ポーシャ どうぞ御ゆるりと。一兩日御逗留なされてから御運試しをなさいませ。若しも間違へてお選びになり

ますと、

それきりお別れしなければなりませんもの。ですから、

しばらく御辛抱なさいませ。

これは、戀ではないのですけれど、

わたし、いつまでも、あなたをお留めしたい気が致します。そしてあなた御自身にもお解りませうが、憎くてこんな風にお勧めの出来るものではありません。

でも、私がよく分つて戴かないと困りますが

「——と言って、處女といふものは、思つてゐることがあつても、口へは出して言はれませんし——

私は一月も二月もお留め申し、それから、

私のために運だめしをして戴きたいと思ひます。私なら、選び方をお教へされますけれど、さうすると誓を破ることになります。

ですから、決してお教へはいたしません。若かしたら、

お間違へ遊ばすことせう。

だけど、萬一お間違ひにならうものなら、あゝ誓言を破ればよかつたと

道ならぬことを願ふやうにもなりません。憎いのはあなたのお眼、

私を迷はせ、私の心を二つに割まいてしまひました。

割かれた半分はあなたのもの、他の半分は——これもやつぱりあなたのものです。

半分は私のと、申したいのですけれど、私のものなら、あ

なたのものですから、

みんなあなたのものなのです！ おゝ、このいたづらな

世間は

正當な持主と、その持物の間に邪魔をするのですからほんとにあなたのものでも、あなたのものにならぬこともあります。愈々そんなことになつて了つたら、運命の神こそ地獄へ追ひやつてしまふがよい、私が悪いのではありません。

私、随分長々とお喋りしました。でもそのわけは時間を延ばして、長びかせ、

お選び遊ばすのをお引留めしたためなのです。

バサーニオ 早く選ばせて下さい。これでは拷問臺まに坐

つてゐるやうなものですから。

ポーシヤ 拷問臺ですつて、バサーニオさん！ では白狀

なさいまし、

あなたの戀には何か二心ふたごころがおり遊ばすのでせう。

バサーニオ 何もありませんが、只例の疑ひといふ醜みにくい

二心ふたごころがこの戀の成功について氣遣はせませう。

偽が私の戀と仲よく暮らせるくらゐなら、

雪と火の間にも、親しみがございませう。

ポーシヤでも、あなたが拷問臺の上からと仰しやるのが
氣になります、

拷問されますと人は何でも言ふものですから。

バサーニオ、生命は助けると約束して下されば、眞實を

白狀致します。

ポーシヤ、白狀なされば助けてあげます。

バサーニオ、戀ひ焦れて居ります。これが

私の白狀の總メ高でございます。

おゝ幸福な苛責、苛責する人が

かういへ、助けてやると教へて下される！

しかし、どうか小幽のある處へ。運命を試みませう。

ポーシヤ、では、どうぞ！ あの中の一つに私が閉ぢ込め

られてあります。

あなたがほんとに愛して下さるなら、私をお當てなさい

ませう。

ネリッサも、他のものも、ずつと離れておいで。

お選びの間中音楽をするやうにお言ひつけ！

すれば、萬一御失敗なすつた時、白鳥の最後のやうに

樂の音の中に遠く消えて行かれます。そしてこの聲が

もつとびつたりするように、私の眼は河となつて、

その白鳥の爲めに死の床となりませう。……だがお當て
なさるかも知れない。

さうだつたら、音楽は何の役をするでせう？ その時音

樂は、

忠良な臣民が新帝の御前に額づく時の

華やかな喇叭の吹奏になるのです。或は又

夜の白々明けに起る、あの甘き樂の音、

夢見心地の花聲の耳に忍び入つて、

婚禮の席へと促すにも喻へませう。……それ、お進みな

される、

あの凜々しさ、しかも戀の熱にあふれて、

昔トロイの王が、涙にくれながら海の怪物にと捧げた乙

女の犠牲を

取返しに行つた若いアルシデースにも

優るとも劣りはしない。今私とその犠牲、

あちらに立つて居るはダーダニヤの女房達、

涙に濡れた顔をして、この大仕事の結果はどうかと、

見に出て來たのです。さあ、ハーキュリーズ！ (トロイ王

ン罪を海神に得、その罰として海へサイオーネを人身御供として海の怪

物に捧げんごし、皆々涙を以て送る。時にノリスデース即ちハーキュリ

ズ來り、乙女を救へて怪物を殺す)

あなたが死ねば、私も死にます。戦をなさるあなたよりも、見てゐる私の方がどの位も苦勞だか知れませんが、樂の音、その間バサーニオは函を見て考へてゐる。

浮いた心はどこで芽を吹く？

胸の中か、頭の中か？

どうして生れて、どうして育つ？

答へろ、答へろ。

浮いた心は眼の中で生える。

見てゐるうちは太りもするが、

見なけりや生れた籃かごで死ぬる。

浮い心の葬かまひ鐘を、

さあ鳴らすぞ、デーン、ドーン、ベル。

一同　デーン、ドーン、ベル。

バサーニオ　その通りに、外觀通りであることは殆んど

ない。

世間はいつも飾りで騙だまされてゐる。

法律の場合でも、どんな非道邪曲な訴訟でも、

巧みな辯舌で鹽梅すると、

表面うらなの醜さを隠してしまふ。宗教界で

墮地獄の邪説と思はれる事も、しかつめらしい坊さんが

經典を引いて有難味をつければ、

その美しい飾りで内の汚きたなさを隠されるのが普通だ。

どんな悪徳でも、その表面うらなには、

何かしら徳の印しるしを扮装してゐる。

臆病者の心臓は、砂の堤つとみ（一説、ゆ）ほど

頼りないものだが、そのくせ頭には、

ハーキユリーズや、澁面造つた軍神の髯ひげを蓄へて居る。

ところで中身なかみを調べてみると、ミルクのやうに白い肝の

臟うへ（當時勇氣なみの存在あつた）しか持合はさない！

それでゐてこの輩やうなが只勇者の外容うへを装まひ、

怖ろしさうに見せかけるのだ！ 美人を見るがよい、

その美といふものも、目方で買つた事が解る。

目方こそ自然界に於て奇蹟を行ふもの、

紅白粉べんじやくの重い目方がつくと、その女は輕々と騒ぎだす。

あの捲まきくねつた蛇のやうな金髪、

あれが風と戯れるふしだら女を仕立てるので、

贗あやまの美人の用ふるものだが、實は

あの髪は他人の頭あたまの遺産で、

育てた頭蓋骨は廟の中に納められてゐる。

して見ると、飾りといふものは危険な海へと誘ふ
ずるい濱邊であり、又印度の夷女を美しく見せる
綺麗な襟巻である。一口にいへば、

狡猾な世間が賢者をも陥れるために装ふ
表面だけの眞實である。だから汝、目もあやな黄金よ、

マイダス王のお齒にあはなかつた食物よ、汝に用はない。

(昔マイダス王、神に乞ひて購ふもの悉く黄金に化す)
の力を得、口にする食物皆變じて金となり後悔す。

又汝、青白い顔をして、人と人との間のありふれた勞役
に使はれる銀よ、

汝にも用はない。だが貧弱な鉛よ、

お前は人に望みを抱かせるよりも、寧ろ人を感してゐる
やうだが、

お前の卒直な言葉が能辯以上に私の氣に入った。

さあ、私は之を選ぼう、どうか悦ばしい結果が得られる
ように！

ポーシヤ「傍白」どうでせう、他の感じはみんな空に飛ん
でしまつた！

疑ひの思ひだの、無闇に抱へこんだ絶望だの、
身震ひのする心配だの、そして淺はかな嫉妬だの。

おゝ戀よ、靜かに、有頂天になつてはいけない。

程よく喜びの雨を注いで、あまりに多過ぎぬやう抑へて
下さい！

私はそなたの持つて来る幸福をとでも受けきれない、も
つと、減らして下さい。

嬉れしさに傷ると困るから！
バサーニオ 何が出て来るだらうか？

鉛の函を開きながら

美しいポーシヤの肖像！ 何といふ神のやうな畫家なれ
ば、

かうも活々と寫し出すことが出来たのだらう？ この眼

は動いてゐるではないか？
それとも、私の瞳に映るので、

動くやうに見えるのか？ こゝには微かに開いた唇、

甘い息が出て来るやうだ。かういふ甘い息が通へばこそ、
この美しい唇も戸を明けるのであらう。この頭髮では畫

家が蜘蛛となつて、黄金の網細工を織り、
蜘蛛の巣に掛つた蠅よりもしつかりと、

男の心を捉へようとしてゐる。だが、それよりもこの
眼！——

畫家はどうしてこれを描き終ることが出来たであらう？

この眼を一つ描いたなら、

畫家の兩眼がうつとりとなつてしまひ、

残つた一眼はそのまゝにしてしまつたであらうに。だが、

私の賞讃の實質が、この肖像の美に遠く及ばず、

却つて之を贖してゐるやうに、この肖像も、

御本體の美には遙に及ばない。……こゝに巻物がある。

私の運命の要目だ。

汝の如く外見によらで選ばん者は

好機常に来り、選擇常に正し！

既にこの幸運汝に下りたれば

満足して他に新しきを求むる勿れ。

汝之を以て十分の喜びとし

汝の運命を天福なりと考へなば

姫の在すところに向ひ

愛にあふるゝ接吻もて、妻たれと求めよ。

やさしい巻物だ。美しき君よ、御許しを得て。

と接吻しながら。

この巻の通りに、接吻を捧げて、姫をお受取りに参りました。

丁度競技に熱してゐる二人の中の一人のやう、

衆人環視のなかで、巧くやつたとは思つても、

公衆の喝采や歡聲を聞いて、

頭がぐら／＼して來たので、眼を見はつて

その賞讃の長鳴りが、果して自分の爲めかどうか、疑つ

て居ります。

餘りにも美しき君よ、それが丁度私の有様で、

眼に見るものも、眞實ではないかと疑ひます、

あなたが確實だと證明して、署名、批准されないうちは。

ボーシヤ、パサーニオさま、私は唯これだけの

御覽の通りの私でございます。私一人のためならば、

この上よかれと願ふやうな

大望は持ちません。けれどもあなたのお爲めとなら、

二十倍を三倍したほどにも立派な女、

千層倍も美しい、萬層倍も富な女になりたいと

存じます。

あなたに大事にして戴きたい爲めばかりに

品性も、容貌も、財産も、友達も、

數へきれぬ程立派なものでありたいと存じます。でも今の私は何もかも取り集めまして

何にもならないものばかりなのです。一口に申しませれば、

羨のない、教へのない、實地に暗い小娘でございます。只合せなことには、もう學べないほどに

歳を取つて居りませぬ、一層合せなことには

とても會得み得ないほど、愚鈍な育ちでもございませぬ。殊に最も合せな事は、素直な性質でございますから、

すべてあなたのお指圖に従つて

主人とも、支配者とも、國の君とも敬ひます。

私及び私の財産は、あなたのものに

只今からなりました。つい今までは、

私がこの美しい邸宅の主、召使達の主人、

自分自身には獨り天下の女王でございました。が、今から

らは、たつた今からは、

この家も、召使達も、この私自身も、

あなたのものでございます。それらをこの指環に添へて

差上ります。

この指環があなたのお手から離れたら、おなくなしにな

つたり、又は誰かにおやりになればあなたのお心變りの兆候と見て

きつとお怨みを申さずには置きませぬ。

パサーニオ　ポーシヤさん、あなたは私の言ふべき言葉を

奪つておしまひなされました。

たゞこの血が血管のなかで御返事して居ります。

私の心の働きは混乱し

丁度敬愛する領主のいみじき雄辯を

聴き終つた群衆の、満足して騒めくにも似て居ります。

一人々々何かしら言つてゐる事も、一緒になつて了へば、

雜然とした無意味の群りと代り、

口にする口と口にせざるとに係はらず、只もう喜んでゐる

といふだけです。併しこの指環が、

この指から離れる時は、命も亦こゝから離れる時です。

おゝ、その時、パサーニオは死んだと仰しやつて間違ひ

はございません！

ネリツサ　(この時まで他の端でグラシャヤーノと頻りに戀

の默劇をやつてゐたが進み出て) 御兩方、只今迄あち

らに立つて、お目出たい御様子を拜見して居りました

が、

今や心からの喜びを申上げる時が参りました。
御両方、おめでたう存じます。

グラシヤノ バサーニオさま、並にすぐれたお姫様、
お望みの限りのあらゆる御幸福を祈ります。

あなた方のお望みは、私の望みと變る筈はきつとあるま
いと存じますから。

それから、お二方が、莊嚴な儀式を以て

御誓約をお堅め遊ばす節、

私も亦同時に結婚致したいと思ひます。

バサーニオ 宜しいとも、君にその相手さへあれば。

グラシヤノ あつくお禮を申します、實は既に一人見

立てゝ戴いたのです。

私の目も、あなたの目と同じやうに敏捷なのです。

あなたが姫を御覽になつてゐらつしやる間に、私は腰元

に目をつけました。(ネリツサは侍女いへど今日の女中で
はなく教育品位共に立派な女である)

あなたが戀をしていらつしやる間に、私も戀をしました。

ほんやりしてゐることは

あなたたらしくもなければ、私にも似合ひません。

あなたの運命が、あの小函に懸つてゐるやうに、

私のも結局同様、それに支配される事となりました。

と言ふわけは汗を掻くほど口説き立て、
口の天井が乾干びる程誓の文句を並べ、

やつと一つの約束をこの美しい方から戴きました、

——約束が果して永續するものでありますなら——

即ちあなたの幸運が姫に成功なされたら、

この婦人も亦私のものになるといふ約束なんです。

ポーシャ ほんとうですか？ ネリツサ。

ネリツサ お姫さま、本當でございます、あなたさへ御意

に叶ひましたら。

バサーニオ で、グラシヤノ君、それは本氣かね？

グラシヤノ 無論本氣です。

バサーニオ 我々の祝宴も、あなた方の結婚式を兼ねる

ことが出来れば、更に光榮を加へることにならう。

グラシヤノ 「ネリツサに向ひ」あの人達とどつちが先

きか、

男の兒を拵へる競争をしよう。千兩かけて。

ネリツサ え！ そして負けるの？

グラシヤノ よさう、我々男はあの遊戯で勝つた例し

なし、勝負の棒はぐにやりとくる。……

だが、誰だ、やつて來たのは？ ロレンゾーと彼の不信

神者(基督教を信じない)かね?

え、それからヴェニスの舊友サラリーニオ?(四折本二折本共にサラリーニオなる新人物ミあれど今はロウ其他の修正に従ふ)

ロレンゾー、ゼシカ並びにサラリーニオ登場。

バサーニオ　ロレンゾー君、サラリーニオ君、ようこそ、

私はやつと主人あるじになつたばかりだから

改まつた挨拶をする資格はないが。「ポーシャに向ひ」失

禮ですが、

私の同国人であり、親友である人達を

歓迎させて貰ひます。

ポーシャ　私も一緒に

心から歓迎いたします。

ロレンゾー　有難う存じます。私といたしましては、

こゝでお目にかゝるのが目的ではありませんでした。

ところが途中でサラリーニオ君に逢ひましたところ

是非にと誘はれ、

一緒に参つたのでございます。

サラリーニオ　その通りです。……アントリーニオ様が、

それには理由わけのあることです。……アントリーニオ様が、

よろしくとのことでございます。

とバサーニオに一通の書面を渡す。

バサーニオ　この書面を開封する前に、

私の親友はどう暮して居られるか、お聞かせ下さい。

サラリーノ　精神はしつかりしてお出ですが、

精神よりは更に、お體からだの方が御丈夫です。詳しいことは、

そのお手紙で

お分りになりませう。

〔バサーニオ退いて手紙を読む〕

グラシヤーノ　ネリッサさん、あそここの見慣れぬ方(ゼシカ

らう)を元氣づけ、もてなして上げて下さい。

サラリーニオ君、お手を。ヴェニスの近況はどうかね?

貿易王アントリーニオさんはいかゞです?

あの方はきつと僕達の成功を喜んでくれよう。

僕達はゼーサンで、金の羊毛を手に入れたよ。

サラリーニオ　君達があの方の失はれた金の羊毛を手に入

れたのならいゝが!

ポーシャ　〔バサーニオの方を見て〕あのお手紙には、なに

か不祥なことが書いてあると見え、

バサーニオ様のお顔の色が眞蒼まうさざになりました。誰か御親友でも亡なくなつたのか。さもなければ、どんな

事があつても、

しつかりした男の方を、あゝまで

惑亂させる筈がない。おや、段々とお顔色がわるくな

る！……

失禮ですが、バサーニオ様、私はあなたの半身でございます。

そのお手紙に書いてある事は何であらうと、その半分だ

けは、

私も是非承りたく存じます。

バサーニオ おゝ、ポーシャさん！

この數行の文字に書かれてあるやうな、こんな不快な言

葉が

曾て紙を穢したことはありませんまい！ ポーシャさん、

私が初めてこの戀をあなたにうち明けました時、

私の財産はこの血管を流れて居るものだけで、

私は唯一個の紳士たるに過ぎないと、隠さず申しました。

それは嘘のない話でした。併しポーシャさん、

自分を無財産の者だと言つたのは、今になつて見れば、

ひどい空威張でした。私は無一物だと

申した時、實は無一物よりもつとひどい境遇だと

言ふべきでした。なぜなれば、私は

ある親友に誓ひを立て、

そしてその親友をば、怖ろしい彼の仇敵に誓はせ

私の旅費その他を得たのでした。こゝに手紙があります。

紙はその友の肉身のやうに、

書かれた一語々は傷口をあけて、

生命の血潮を流してゐます。……併しサラニオ君、こ

れは眞實ですね？

あの人の事業は悉く失敗したのですか？ え、一つだつ

て當らなかつたのか？

トリポリからも、メキシコからも、イギリスからも、

リスボン、バーバリ、印度からも？

只の一艘さへも、怖ろしい暗礁の

接觸を遁がれるわけには行かなかつたのですか？

サラニオ 一艘さへも。

それに、よしんば猶太人に支拂ふ現金があつたにしても、

今になつてあいつはもう受取る筈はないと

見なければなりません。私はあんな

人間の姿はしてゐても、人を破滅に陥れようと

意地悪く、貪るやうにしてゐる生物を見たことがない。

あいつは朝に晩に公爵様をせがんで、
若しこの裁判をして下さらんやうなら、四民の同権を許
した

國家の責任を問ふと言つてゐます。何十人といふ商人達、
公爵様御自身も、それから名望の高い御歴々まで、
總出で説き伏せようとなされましたが、

誰一人として彼の惡意ある訴訟、

是非料を貰ひたい、是非裁判をして呉れと言ふ要求を
止めさせる者は居りません。

ゼシカ 私が父と一緒に居ましたころ、同國人の

テューバルやチューズに申してゐるのを聞きました、

どうあつてもアントーニオの肉を貰ひ受ける、

貸した金の値を、二十倍にされてもいやだと

毒づいて居りました。で、私はよく知つてゐますが、

若しお上のお力で、法律でもつて、何とかなさいませぬ

ければ、

お氣の毒なアントーニオ様はとんだ目にお逢ひになりま

せう。

ポーシヤ そんな御難儀に逢つてお出でなさるのはあなたの
御親友ですか？

バサーニオ 私には最愛の友人、世にも親切な男、

最もすぐれた品格の人、信義をつくして、

倦むことを知らない人物です。實に

今イタリイで呼吸して居る人間の中で、

古のローマ人の面目の一番惚げられるのはこの人です。

ポーシヤ 猶太人への借財は何程ですか？

バサーニオ 私の爲めに三千兩。

ポーシヤ え、それつきりですか？

六千兩も拂つてやつて、證文をお消しなさい。

六千兩を二倍にし、それを又三倍しても、

それほどの御友人に、バサーニオさんのため、

髪の毛一筋だつて、失はせてはなりません。

先づ私を連れて教會へ行き、私を妻と呼んで置いて、

それからヴェニスへ、その御友人のところへ、お急ぎなさいまし。

不安な心をお持ちになりながら、ポーシヤの側に、

お留りになつてはいけません。お金なら

そんな些細な負債は二十倍にして返せるほどのお金を持

つていらつしやい。

それをお拂ひになつてから、その御親友と一緒に連れ

下さいまし。

腰元のネリッザと私とはその間、

處女か寡婦のやうな暮しをして居りませう。

さ、早く！

婚禮の日に、お出立といふのですから。

お友達の方々をおもてなしになつて、晴やかなお顔をお

見せなさいませ。

苦勞を重ねてお迎へしたあなたですから、大事にしない

でどうしませう。

ですが、その御友達の御書面を聞かせて頂きます。

バサーニオ (讀む) 小生の船悉く破損したり。債務者は

次第に苛酷となり、小生の境遇は全く逼迫せり。かの猶

太人に對する證書はその期限を失し、之を支拂ふとす

れば、小生の一命を捨てざる可からず。たゞ最後の際に

相見るを得ば、貴下と小生との間に最早何の相負ふ所

もなく思ひ残す所もなからん。併し、すべては貴意に

任せらる可く、君自ら好んで來るの意なくば、ゆめ／＼

この書面をして君を強ひしむること勿れ。

ポーシャ おゝあなた、大急ぎで支度をして、すぐにお出

かけ下さいませ！

バサーニオ 行けといふお許しを得た以上は、

急いで出發させよう。併し歸つて來る日まで

必要のない寢床に無用の滞在をするやうなことはなく

無駄な逗留に二人の間を裂くやうな事はしますまい。

一同退場。

第三場 — ヴェニス。街頭。

シャイロック、サラリーノ、アントーニオ並びに監守

登場。

シャイロック 監守さん、彼に氣を付けなさい。お慈悲だ

なんどゝわしには言ひなさんな。

この人はな、たゞで錢を貸出す馬鹿者なんだから。

監守さん、彼に氣を付けなさい。

アントーニオ シャイロックさん、まあ一言お聞きなさ

い。

シャイロック わしは證文通りにします。わしの證文をか

れこれ言つても無駄だよ、

證文通りにすると堅く誓ひを立てたんだから。

お前さんは何の原因もないのに私を犬だといはしやつ

た。

わしが犬なら犬で、牙に用心するが、公爵に屹度裁判をさせて見せるから。……この馬鹿者の

監守め、

お前、よくもこの人の頼みを聞いて

外出を許すなんて、愚な眞似をしたもんだ。

アントーニオ お願ひです、一寸一言。

シャイロック 證文通りにするんだ。お前さんの言ふこと

など聞く耳はない。

證文通りにしてやるから、なんにも言ひなさんな。

わしはな、氣の弱い、目のきかない阿呆にされて、

首を振つたり、手を弛めたり、溜息をついたりして

基督教徒の仲裁人の言ふことを聞くやうな、そんな代物

ぢやないんだ。追いてくるな。

問答は厭だ。わしは證文通りにするんだ。

シャイロック 退場。

サラリーノ 人間と一緒に住んでゐながら、あんな凶業

な犬畜生を見たことがない。

アントーニオ 放つておきなさい。

頼んだつて甲斐がないのだから、もう跡を追ふまい。

彼が私の命を狙ふ理由はよく分つて居る。

私は彼奴に苦しめられてゐる者を少なからず救つてやつた、

度々泣き付かれたのでね、

だから彼は俺を怨んでゐるのだ。

サラリーノ きつと公爵様は

あんな科料なんかお認めにはなりませんまい。

アントーニオ 公爵様でも、法律の明文を拒むことは出

來ない。

なぜかといふに、外國人がこのヴェニスに於て、

私達と同等に持つて居るところの商業上の特權を否定す

る時には

國家の正義が危ぶまれることになる、

この市の商業上の利益は

諸國民との貿易によつて成立するのだからね。さあ、行

かう。

この頃うちの苦勞や損失で、私はひどく瘦せたから

明日残酷な債務者に渡すだけの

一ポンドの肉も覺束ない位だ……

さあ、監守さん、行つて下さい。……どうか、バサーニオ

が来て、
借財を拂ふところを見せて呉れよばよいが、さうなれば、

私はどうなつても構ひはしない！

皆々退場。

第四場 —— ベルモント。ポーシャ家の一室

ポーシャ、ネリッサ、ロレンゾー、ゼシカ並びにバル
サザー登場。

ロレンゾー　奥様、あなたの前でかう申すのは失禮です
が、

あなたは友情の神聖といふ事について

尊い、眞實の御理解をお持ちです。それはかうして

御主人の留守をよくお守りなさるところに最もよく現れ

て居ります。

併しどういふ方にこれ程の御好意をお寄せになるのか、

どれ程立派な紳士をお救ひになるのか、

あなたの御主人にとり、どんなに大切な御親友であるか、

それがお分りになつたら

通り一片の義理立て以上に

このお仕事を御自慢なすつてもよいと存じます。

ポーシャ　私、善い事をして曾て後悔したことはないが、

この後もさうだらうと思ひます。だつて

絶えず一緒になつて語りあひ、

その魂は同じ愛のほだして繋がれて居る親友の間には、

きつと顔貌かほ、動作どうさ、心持こもちに

釣り合つたところがあるものと思ひます。

そこで、このアントーニオ様は

主人の心からの御友人である以上、

主人に似た所があまりに相違ない。もしさうだつたら、

私の差出します費用など、なんでありませんやう！

私の魂である人に似た方を、

惨めな地獄の苦みからお救ひ申すのですもの。

かう申すと、どうやら自慢らしくなりますから、

もうよして、他の事を話しませう。

ロレンゾーさん、主人が歸つて来る迄

この家の管理や取締一切を、

あなたのお手に一任致します。私ですか、

私は前からこつそり天に誓を立て

こゝに居るネリッサだけを伴はれて

祈禱と黙想に目を送る

ネリッサの良人と私の主人の歸るのを待つことに決めました。

二哩離れたところに、僧院があります。

そこへお籠りをするつもりです。お願ひですから、どうか辭退しないで下さい。

これはあなたを愛する心と二三の事情との爲め、餘儀なくお頼みするのですから。

ロレンゾー 心の限りを傾けて、

何によらず、奥様の御命令に服従いたします。

ポーシヤ 家の者はどうに私の心を知り

あなたとゼシカさんとを

バサーニオや私の代理と思ひませう。

では、又逢ふ日まで、御機嫌宜しう。

ロレンゾー 御機嫌よろしう、御安泰に行つていらつし

やい。

ゼシカ 奥様、御心の御安靜を祈り上げます。

ポーシヤ そのお祈りにお禮を申します。そして

あなたにも御同様に。さやうなら、ゼシカさん。

ゼシカ並びにロレンゾー退場。

あの、バルサザーや、

お前はいつも陰日向なしに働いてくれたが、

これからもやつぱりさうして呉れるだらうね。この手紙

を、

人間の力に及ぶ限りの手段を盡し

パデューアへ大急ぎで持つて行つて私の従弟の

ペラーリオ博士へお手渡しするのです。

それから、書類や、衣裳など、博士のお渡しなさるだけ

を、

お頼みだから、出来るだけのすばやさで

渡船場まで、持つて来ておくれ。

ヴェニス通ひの公衆船着場までよ。

かれこれ言はないで、さつさと行つて来ておくれ。私は

先へそこに行つて居るから。

バルサザー 奥様、根かぎり早く参ります。

バルサザー退場。

ポーシヤ さあ、ネリッサ、わたし急ぎの用があるのよ。

まだお前にお話ししなかつたが、私達はね、

今に所夫に逢ひますよ。先方では思ひもつかないうち

に。

ネリッサ 向うでも私達に逢ふのですか。

ポーシヤ さうよ、ネリッサ、でも、すつかり様子を變へて

私共女が普段持つてないものを持つて居るやうに見せか

けるのよ。私、どんな賭をしてもいゝ、

私達二人共、若い男の服装をするのだが——

私の方がよけい可愛い男になつて見せるから。

短剣も、ずつと小意氣につけ、

聲變りの時のやうな、大人と子供の間の子らしく、

葦アシみたいなきい／＼聲で喋べくつて、小刻みの二歩を

男らしい一足で跨ぐ、しやれた若者になつて、

喧嘩の話をして大口を叩いたり、

眞實まことらしい嘘を吐いたりするのよ。

立派な令嬢方から、随分と戀を求められたが、

斷つたので、戀煩ひをして死んでしまはれた人もある。

併しどうにも仕様がなかつたのさ、それにしても

殺さなければよかつたと、今では後悔するやつよ。

なんて、くだらない嘘を十も二十も喋つてやるの。

すると男の人達が、お前さんは學校を退いてから

十二ヶ月以上だらうなんていひますよ。私、頭の内には、

かうした洪螺吹きの、いたづら奴さんの、たわいもない

仕草をいくらでも知つてるから、

それをやつて見たいのよ。

ネリッサ ぢや、私達男に成り代るのですか？

ポーシヤ まあ男に乗りかゝるつて、何てことをお訊きだ

ね、

へんに取る人がそばに居ると大變ですよ。

ともかく参りませう。計畫の全部は

馬車の中でお話しよう。庭の内に

待たしてあるから。それから大急ぎよ、

今日中に二十哩飛ばさなくてはならないのよ。

兩人退場。

第五場 —— 同所。庭園。

ラインセロット並びにゼシカ登場。

ラインセロット さうですよ、全く。といふ理由は、宜し

いか、父の罪業は子の上に及ぶからです。だから、言

つときますがね、わつしはあなたの爲に心配してます

よ。わつしはこれ迄だつて、あなたには遠慮なしにお話

して來たのだから、今だつて、この事柄についての斷念

(觀念を氣取つていふ)を云ふのです。だから、元氣をお出しなさい、實以てあなたは地獄へ落ちるに定まつてるんですからね。それを助かるたつた一つの望みがあるが、その望みさへ贖物でさ。

ゼシカ それやどんな望みの、一體?

ラインセロット マリア様かけて、あなたが半分ばかり望みの綱にしてよいといふのは、あの猶太人の娘ぢやないといふことですよ。

ゼシカ なるほど、それこそ贖物の望みでせうよ、さうすると、私のお母さんの罪業が私に廻つてくるんだね。

ラインセロット さうなると、實、あなたは父方からでも、母方からでも、地獄行きと決まつてるんぢやないのかね、丁度お父さんのシラを避けると、お母さんのカリブズに落込むと云ふ譯だね。いやはや八方塞がりだな。(シラは怖ろしき岩角に棲む海の怪物、その向うには大瀧巻のオリブチヌあり、前後兩難に陥るたゞへ)

ゼシカ 私は所夫に救つてもらふよ。所夫は私を基督教徒にしてくれたから。

ラインセロット 實、それや、あの人、なほのこといけねえね。今までに基督教徒は多過ぎて、お互に生活つていけねえ位のなんだ。そこへこんなに基督教徒をこさへ

ると、豚の値がせり上る。みんなが豚を食ふやうになつた日には、今にどんなに金をつんでも、燻豚一片口にはひらなくなるよ。

ゼシカ ラインセロット、お前の言つたことを所夫に話すよ。あそこへ見えたから。

ロレンゾー登場。

ロレンゾー おい、ラインセロット、そんなに俺の女房を隅っこへ連れてくと、俺は焼餅を焼くぜ。

ゼシカ いゝえ、ロレンゾー、御心配はいりませんよ、ラインセロットと私とは喧嘩をして居るのだから。この人はずけく言ふのよ、私には天のお恵みがな。猶太人の娘だからつて。それから、あなたもこの共和國の良民ではない。猶太人を基督教徒にして、豚の値をせりあげるからですつて。

ロレンゾー その事なら俺は立派にこの共和國に責任を負へるが、黒人の腹をせりあがらしたお前の責任はさうは行くまい。あのムーア(アフリカ北端の一族で黒人にして賤視す)はお前の子供を孕んだぜ、ラインセロット。

ラインセロット 黒人が赤ん坊を生むのは大出来だが、しかしあの女が、そんな内密事をしたとすると、人は見

掛けによらないものさね。

ロレンゾー どうだ、阿呆は口の減らないものだ。

大方、今に智慧の最上等は沈黙といふことになり、喋つて譽められるのは鸚鵡位になるだらう。おい、内へ行つて、召使に食事の用意をするやうに言つてくれ。

ラインセロット 用意はとうに出来てゐますよ、みんな腹をすかしてゐますからね。

ロレンゾー やれ、お前、なんて揚足取りだらう！
おやね、食卓の用意をさせてくれ。

ラインセロット それも出来てます。たつた一言、食卓に布をかぶせると、仰しやりさへすりやいゝんです。

ロレンゾー おや、かぶせて貰はうか？

ラインセロット それはできません、食事中に帽子をかぶせろつて、私もそれくらゐの身分柄は心得てゐます。

ロレンゾー また洒落か。一時に頓智のありつたけを見せ

びらかさうてんだね？ 後生だ、眞面目な人間には眞面目で物を言つて貰はうよ。お前の仲間のところへ行つて、食卓に布をかぶせて、食物を運び込めと吩咐してくれ、すると私等がすぐ食事に行くから。

ラインセロット 食卓には運び込ませませう、食物には布

をかぶせませう。あなた方が入つて食事をなさることは御氣分次第、御意のまゝとござい。

ラインセロット退場。

ロレンゾー 全く驚いた智慧だ。あの言葉の使ひざまは
何うだ。

阿呆め、記憶のなかに馱洒落を一大隊も詰込んで来やがつた。私の知つてゐるうちには、もつと身分のいゝ阿呆が大勢あるが、

皆彼奴見たいに言葉を溜込み、巧い洒落の爲には
てんで意味なんかは關はない手あひだ。……ゼシカ、ど
うだね？

それからあなたの意見が聞きたいがね、
バサーニオさんの奥さんはどうお氣に召しましたか？
ゼシカ 口には言へないほどよ。ほんとに、バサーニオ

様は正しい生活をなさらなくつちや嘘だわ。
だつて、あんな奥様を恵まれたんですもの、
この世ながらの極楽ですわ。

萬一この世でお慎しみにならないと、もう決して
天國へ行かれる道理はありません。

若し二人の神様が何か天國で勝負事をなすつて

この世の女を二人お賤けにならんとして

一方にポーシヤさんをお取りになると、他方には何か別のものを

添へなくつちやなりません。このつまらない、粗末な

世界には

あんな方はまたと二人ないのだから。

ロレンゾー 丁度さう言つた御亭主を

お前さんも持つてゐるのだけ、妻としてのあの方のやう

な御亭主を。

ゼシカ さあどうだか、その事も私の考をお訊きなざる

が。い。

ロレンゾー いづれ承るとしよう。まづ、食事に行かう

ぢやないか。

ゼシカ いゝえ、氣の向いてる時に、譽めさせて貰ひた

いわ。

ロレンゾー それは食卓の肴にして戴かう。

食事の時なら、どんなことを言はれたつて食物と一緒に

消化してしまふからね。

ゼシカ いゝわ。うんと褒めて上げるから。

兩人退場。

第四幕

第一場 —— ヴェニス。法廷。

公爵、大官達、アントーニオ、巴萨ーニオ、グラシヤーノ、サラリーノ、サラリーニオその他登場。

公爵 これ、アントーニオは出頭して居るか？

アントーニオ はい、閣下。

公爵 お前はまことに氣の毒だ。お前の相手の男は石の

やうに頑固な、人でなしの卑劣漢で、

隣みを感じる力がなく、一分一厘の慈悲も

持ち合はさぬ男だ。

アントーニオ 承りますれば、

閣下には、彼の苛酷な訴訟を和らげるため、

一方ならずお骨折りを下されましたさうですが、彼が飽く

まで頑固に申し張ります以上、

どんな適法の手段を用ひても、彼の憎みの手から

遁れ出る事は叶ひませぬ。そこで私は忍従を以て

彼の復讐にあたり、魂を平靜にして、彼の残忍と狂暴そのものを、

耐へ忍びたいと心掛けて居ります。

公爵 誰か行つて、猶太人を法廷へ呼出せ。

サラリーノ 彼は戸口に控へ居ります。もう参りました。

シャイロック登場。

公爵 そこをあけて彼を予の面前に立たせい。……

シャイロック、世間でもさう思ひ、予も亦しか考へてゐるが、

そなたはわざとこの悪意ある状態を続け、裁判の

最後の瞬間まで引張つて、そこで慈悲と憐憫の心を示し、

今までの残忍な仕方が、奇怪に思はれたよりも

一層奇怪な感じを與へようといふのであらう。

そして今日は例の科料、即ちこれなる氣の毒な商人の、

肉一ポンドを強ひて要求するのと打つて變つて、

擔保を放棄するばかりでなく、

人間らしい優しさと慈しみに動かされ、

元金の一部をも免してやる心組みであらう。

その身に降りかゝつた數多き損害の爲めに

背も疎むばかりなる貿易王の有様を見れば、

眞鍮の胸を持ち、荒くれた燧石の心を持つて、

慈悲親切などいふことは少しも知らぬ

頭迷なトルコ人や鞆鞆人でも、

同情の心を喚起すであらう。

猶太人よ、我等は、そなたのやさしい返答を豫期して居

るぞ。

シャイロック 私の所存は既に十分閣下に申上げて置きま

した。

又我々の神聖な安息日に掛けて、

證書通り相當の科料を申受けることも誓ひました。

萬一それを拒絶なされば、危険はあなたの憲法と

あなたの市の自治權の上に落下りますぞ。

あなたはお訊ねにならう、何故私が

腐肉一片を望んで、

三千兩を受取らないかと。それにはお答へいたしますま

い。

唯私の氣紛れだといつたら如何でございませうか？

私の家が一匹の鼠の爲めに惱まされたとして

それを毒殺する爲め、一萬兩を出す氣になつたとした

ら、

どうでせう！ え、お答にはなりませんかな？

豚の丸焼を珍重しないものもあれば、

猫を見ると氣が遠ふ手合もある。

又或者は鼻に掛つた風笛の歌のを聞くと、

小便を洩らしたくなるといふ。一體感情といふやつ、

即ち五情の主人でございますが、これが力となつて

好き嫌ひの氣持を動かす。さて、お答でございますが、

何だつて彼は丸焼の豚に我慢が出来ないか、

なぜ彼は無害有用の猫が嫌ひか、

なぜ又猫鳴きの風笛がたまらないで、

自分で氣を悪くして、人の氣を悪くするほど

恥をかくのも致方がないか、

確とした理由は一つも述べられません。

私ともその通り、理由を申すこともできねば、申した

くもありません、

たゞ、アントーニオに對して居る根深い怨み、

動かし難い憎しみの爲めに、かうした一文にもならない

訴訟を

起すのでございます。この答辯で如何でございませう。

バサーニオ それは答辯ではない、この人でなしめ、

お前の殘忍な行ひの辯解にはならんぞ。

シャイロック 何もわしの返事でお前さんを悦ばせる義務

はないよ。

バサーニオ 何かぬものは何でも殺してしまふといふ法

があるか？

シャイロック 憎いと思や、殺したからうちやないか？

バサーニオ 氣に入らぬことがあつたつて、一々それが

初めつから憎みと決まつては居ないぞ。

シャイロック 何だと、お前は虻に二度噛ませたいのか？

アントーニオ まあ、君、問答の相手は猶太人だ。

海岸に立つて、潮流に向ひ、

いつもの高さを減じてくれとは命じようとも、

狼と問答して、何故仔羊を奪ひ、

母羊を泣かせたかと、談じようとも、

空吹く風に煽られた、

山の松の樹に吩咐けて、

高い梢はゆさぶつても、音は立てないといはうとも、

その他どんな世にも難かしい事はやつても見ようとも、

あれを、あの猶太人の心を、和げようとするのは無駄で

す。

一體あの心よりも苛酷なものは何でせう？……ですから
お願ひいたします、

もうこれ以上示談もせず、手段も用ひず、

簡單明瞭に

私には判決を、猶太人にはその欲するところを、與へて
戴きたい。

バサーニオ さあ、お前の三千兩に對して、こゝに六千

兩ある。

シャイロツク その六千兩の一つ／＼が六つに割れ、割れ

た一々が一兩になつたとて、

わしは受取らない。わしは證文通りにするのだ。

公爵 誰にも隣れみを掛けずにあて、自分がそれを望む

時にはどうする積りか？

シャイロツク 何も曲つたことをしなければ、どんな裁判

を怖れませう？

あなたの方のお宅にはお買上げになつた奴隷が澤山居りま

す。

その奴隷を驢馬や、犬や、騾馬も同様に、

こつびどくお使ひなされる。

あなたの方がお買上げになつたのですからな。かう申した

ら如何でございませう？

彼奴等^{あいつら}を自由にして、お宅の婿^{むこ}にしなさいと。

何だつて奴等は重荷^{おもひ}を背負つて汗をかゝねばならないの

か？ 彼奴等の寢床も

あなたの方と同様柔らかにし、彼奴等の上頭も

かういふ食物で風味を添へてやりなさいとな。するとお

答へでせう。

「いや、あの奴隷は俺達のものだ」と。私の御返事もそれ
と同じです。

私が彼から要求する一ポンドの肉は

大金を拂つて買つたのです。あれは私のもの、私が是非

ほしいのです。

それを拒めば、この國の法律は紙屑だ！

ヴェニス^{ヴェニス}の法令の威力は失せませうぞ。……

御判決を願ひます。お答へ下さい。取つてもよろしうご

ざいますか？

公爵 わが權限を以て、この法廷を閉ぢてもよいのだが、

博學のベラーリオ博士を、

この件を決定するため呼び迎へたところ、

今日こゝへ到着される筈だ。

サラリーノ 閣下、戸外（うちら）に使の者が控へ居ります、
博士からの書面を持参し、パデユアから、
只今到着したのでございます。

公爵 その書面をこゝへ、使の者も此方（こちら）へ。

パサーニオ アントーニオさん、しつかりして下さい！
どうか、元氣を出して！

猶太人には私の肉も血も骨も何もかも呉れてやつても、
私の爲めにあなたの血の一滴でも流させは致しません。

アントーニオ 私は君（むね）のうちでの、病みほうけた不具（ふたは）羊
で

死ぬに適（あ）はしい男です。果物（くだもの）でも、一番弱いのが、
一番先に地に落ちる。私もさうさせて貰ひませう。

パサーニオ君、君の一番よい仕事は

長く生き残つて、私の墓銘を書いて下さる事だ。

ネリッサ、法律家の書記の如く装うて登場。

公爵 パデユアからベラーリーオからお出でか？

ネリッサ 両方から参りました。ベラーリーオ先生から閣
下（ご）に御挨拶でございます。

一通の書面を渡す。

パサーニオ 何故（な）さう熱心にナイフを研（と）いで居るのだ？

シャイロック あそこに居るあの身代限（てんじかぎり）から料金の肉を切
り取る爲めだ。

グラシャーノ 情知らずの猶太人（ユダヤ人）、その靴の底よりも、

貴様の心の底の方が、

よつぽとナイフを研（と）ぐに適（あ）はしからう。併しどんな金物
だつて、

あの斬首役（くびきりやく）の斧でさへも、貴様の鋭い邪心の、

半分程の鋭さもあるまい、どんな祈りも貴様の心には入

らないのか？

シャイロック 入らないよ。お前の才覚が思ひつくやうな

祈りでは駄目だ。

グラシャーノ おゝ、地獄に落ちる、呪つても呪ひきれ

ない犬め！

貴様のやうな奴を生かして置くのは、政道の手ぬかりだ。

貴様を見て居ると、どうやらわしの信仰が動揺して、

ピサゴラス（ギリシャの哲学者、聖）の説に賛成せず（あ）にみられ

なくなる、

彼は獸（けもの）の魂が人間の胴體の内に

侵入すると言つたが、貴様の犬みたいな魂は

元は娘に宿つてゐたのだ。それが、人を咬み殺した咎で

首を絞められた時、

絞首臺から、兇惡な魂は抜け出して、

貴様が穢ららしいお母の胎内に宿つて居る時

貴様の中に飛び込んだのだ。その證據には貴様が

狼のやうに残酷で、飢ゑてがつつくしてゐるぞ。

シャイロック お前が怒鳴つて、この證文から印形が消え

ればだが、

そんな大聲を出しては、肺の臓を苦しめるばかりだ。

お若い衆、智慧の袋に手入れをなさい。今にどうにもし

ようのないほど、

破れてしまふぞ。……私は裁判を待つて居ります。

公爵 このペラーリオの手紙には

若き學識ある博士をこの法廷に推薦してゐる。

何處に居られるか？

ネリツサ すぐそこ迄まゐつて、

出廷をお許し下さるか何うか御意をお待ちして居りま

す。

公爵 喜んでお迎へする。誰か三四人の者が、

あちらへ行つてその方を丁寧に案内するがよい。

その間、一同でペラーリオ博士の書簡を承らう。

書記

〔讀む〕閣下、貴翰拜受の砌り小生大患にて臥床中

と思召され度候。

然る處御使者到着と同時に、ローマの若き博士バルサ

ザーと申さるゝ人來訪せられ候。小生は同君に猶太人

對商人アントーニオの係争事件を語り、ともかくに幾

多の書冊を涉繼したる末、小生の意見を陳述し、更に

博學なる同君の訂正を加へ候が、同君の學才に就ては

實に推稱の言葉を知らざる程に候。即ち小生の切なる

願ひにより、同君は小生の代理として閣下の御要求に

應ずることゝ相成り申候。願はくば、年齒の少き故を

以て敬意ある評價を缺くの障害たらしむること勿れ。

小生は未だかくも年若くしてかくも老成したる人物を

知らず候。同君を閣下の信任に委ね候。やがて同君の

實力は、小生の推薦以上に、自己を推薦仕るべく候。

公爵 ペラーリオ先生の書面はあの通りだ。

大方その博士が見えたらしい。

ポーシヤ、法學博士の如く装ひ登場。

握手させて戴きます。ペラーリオ老博士のところから

お出でですか？

ポーシヤ 左様でございます。

公爵 ようこそ。御着席下さい。

本日の法廷の問題となつて居る

係争については、御案内でございませうか？

ポーシヤ その事については、十分に存じて居ります。

どちらが商人で、どちらが猶太人でございませうか？

公爵 アントローニオとシャイロック、兩人共前へ出い。

ポーシヤ そなたの名がシャイロックか？

シャイロック シャイロックと申します。

ポーシヤ 不思議な性質の訴訟を、そなたは提出したものだ。

だ。

併し法には適つて居るので、ウエニスの法律を以て

そなたの要求に反對することはできない。

〔アントローニオに向ひ〕そなたの一命は彼の存分にある、

さうではないか？

アントローニオ はい、左様彼は申して居ります。

ポーシヤ お前は證文は認めるか？

アントローニオ 認めます。

ポーシヤ では猶太人は憐みを掛けなければならない。

シャイロック ならないとは、何に強ひられてか？

それを聞かせて貰ひませう。

ポーシヤ 憐みの本質は強ひらるべきものではない。

そは天の慈雨の、下なる土に

降るが如きもので、それには二重の恵みがある。

即ち與ふるものを恵み、又受くるものを恵む。

いと力ある者に更に力を加へる、君主にとりて

冠よりも似つかはしいのは憐みの心だ。

王の笏はこの世の權力の現れであり、

威力や莊嚴の表家として

王者の敬すべく畏るべきことを思はせるが、

憐みこそは、この笏の示す威力にも優り、

王者の胸の奥深く玉座を占め、

神みづからにふさはしい徳である。

而して憐みの心を以て正義を和ぐる時、王者の道は、

神の道にかなふのだ。それ故猶太人よ、

お前は頻りに正義をのみ求めるが、これをよく考へて貰

ひたい、

即ち正義ばかりで裁判したならば

誰あつて救はるゝ者はあるまい。我々日頃憐みを求めて

祈つて居るが

祈りそのものが、我々に憐みの實行を

教へてゐる。わしがかく多くの言葉を費すも

正義一點張りのお前の申立を和らげる爲めである。

もし強ひて申し張れば、この嚴格なるヴェニスの法廷は止むなくそこに居る商人に、不利な宣告を下さなければならぬ。

シャイロック わが爲す事はすべて我が頭の上にかゝれ！

私は要求します、法律を、

私の證文通りの料料を。

ポーシャ 商人は金を支拂ふことが出来ないのか？

バサーニオ 出来ません。この通り私が代つてこの法廷で

提供致します。

さうです、二倍の金額を。それでも不足とあれば

この手や、頭や、心臓を質に置いて

十倍にしてもそれを拂ふ誓約してもよろしい。

若しそれでも満足しないとあらば、明白に

悪意あつて正しい者を壓迫するものです。お願ひでござ

います。

たつた一度だけ御威光を以て法律を曲げ、

大なる正義を行ふ爲めに、小なる不正を冒して

この残忍なる惡魔の我意を抑へつけて下さいまし。

ポーシャ それはならぬ。ヴェニスに於ける如何なる權力を以てしても、

すでに定めた法令の一ヶ條たりとも、變更することはできない。

さういふことは一つの先例として記録され、

之を元として、幾多の違法が

續出して國家の患ひとなるであらう。それはならぬ。

シャイロック ダニエル(誓約聖書に出
てくる名判官)様が裁判に見えた！

さうだ、ダニエル様だ！

おゝ啓明なお若い裁判官様、全く敬意を表します！

ポーシャ どうか、その證文といふのを見せて貰ひたい。

シャイロック はい、此處にあります、これでございます。

ポーシャ シャイロック、三層倍の金が出て居るよ。

シャイロック 誓言です、誓言です、私は天に誓言を立て

ました。

偽誓の罪をこの魂に犯させませうか？

いや、いや、ヴェニス一國に代へてもいやでございます。

ポーシャ 成程、この證文の期限は切れてゐる。

これによつて猶太人は肉一ポンドを要求し、

商人の心臓の最も近い所から、みづから之を切取るも、法に於て妨ぐる事は出来ない。併し憐みを掛けてやれ。

三層倍の金を受取つて、この證書は私に破らせて貰はう。
シャイロック 「引裂かん氣配に、あわて」 證文の趣意通り、支拂が済みましてから。

お見掛けしたところ、あなたは立派な裁判官様だ。

法律を御存じだ。御解釋は

至極當を得て居ります。私は國法に従つて要求します、あなたはその國法の大黒柱だと思ひますから

どうか裁判をお進め下さい。この魂かけて誓言する、いかな人間の舌でも、私の決心を、

動かすことは出来ない。證文を力に待つて居ります。

アントーニオ 私も切にお願ひいたします、

御裁決下さりますよう。

ポーシャ では、かう判決する

お前の胸は彼のナイフを受けるよう、用意しなくてはならん。

シャイロック おゝ公明正大な裁判官！ おゝ素晴らしいお

若い方！

ポーシャ 蓋し法律の趣旨並びに目的から見ても、

この證書に認めある料金は當然承認せらる可きものである。

シャイロック 全くその通り。おゝ賢明正直なる裁判官！

お見掛よりもなんと御老成で入らせられること！

ポーシャ それゆゑ、お前の胸を廣げるがよい。

シャイロック さうだ、胸だ。

證文にさう書いてある——さうでございませう！ 有難

い裁判官様。——

「心臓のすぐ近くより」、さう書いてあります。

ポーシャ その通りだ。重さを計る秤はあるか？

肉の重さを？

シャイロック 用意して居ります。

ポーシャ シャイロック、そなたの費用で外科醫を呼んで置

きなさい。

傷口を縫はないと、出血の爲めに死ぬやうなことがあつ

てはならないから。

シャイロック さう證文に指定してありますか？

ポーシャ 明記してはない。然し書いてなくとも、慈悲の

爲め、それ位のことはずるがよからうぞ。

シャイロック 見付かりませぬ、證文にはない。

ボーシャ 商人、何か申すことはないか？

アントーニオ ほんの少しばかり。覺悟はどうにいたし

て居ります。

バサーニオ君、お手を。随分御機嫌よう。

君の爲めにかういふ破目に陥つたからつて、それを歎い

てはいけない。

この方が、却つて運命の神様がいつもより、

私に親切にして下されるわけだ。あの女神の平生のやり

口では、

みじめな人間が富を失つた後々まで生きのび、

窪んだ眼や、皺だらけの額をして

老いの貧乏を眺めるのだ。さういふ悲惨な、

長い／＼見じめな苦痛から、女神は私を切り離して呉れ

たのだからな。

あなたの立派な奥様にどうぞよろしく。

そしてアントーニオがどんなにして死んだか、

どんなに君を愛してゐたかをお話し下さい。私が死んだ

ら、

どうか私の事を詳しく話して下さい。

そして話が済んだら、バサーニオは果して一人の親友を

持つてゐたかどうか

奥様に判断して貰つて下さい。

友を失ふことを後悔し給ふな。

君の借財を支拂ふ男は少しも後悔しないのです。

あの猶太人がずつと深く切つてさへくれれば、

私は眞に全心を捧げてそれを支拂ふのだからね。

バサーニオ アントーニオさん、私は結婚しまして

私の妻は此の命ほどに私には大事です。

併しこの命も、妻も、全世界も、

私に取つてはあなたの命程に大切ではありません。

私はすべてを失ひ、いや、すべてをこれなるこの悪鬼に

犠牲に供へても、あなたをお救ひしたい。

ボーシャ その奥さんが側に居て、さうした申出をお聞き

なされたら、

あんまり有難いとは申されまい。

グラシャーノ 私も妻を持つてゐる。そして確に愛して

居りますが、いつそ妻が天國へ昇つて、どなたかのお

袖にすがり、

このやくざ犬の猶太人の心を入れ替へる事をお願いした

ら、どんなによいかと思ひます。

ネリツサ そんな事、奥さんの居ない處で言ふのだからよ

いやなものゝ、

聞えると、家庭に風波が起りますよ。

シャイロック 「半ば獨白のやうに」これが基督教徒の亭

主だ！

私も一人の娘がある。

あいつがバラバス (基督、磔刑に就きし時、死の實告を受けながら免された強盜)の子孫を亭

主にしても、

基督教徒には呉れたくないわい！……

時間がたつ。どうか、早く御宣告をお願いします。

ポーシャ 件の商人の肉一ポンドはそちのものだ。

當法廷はこれを承認し、法律はこれをお前に與へる。

シャイロック この上もない公明正大なる裁判官！

ポーシャ さうしてその肉はお前が自分で彼の胸部から切

り取らなければならん。

法律がこれを許し、當法廷はこれを判決するのだ。

シャイロック この上もない博學な裁判官！ さあ宣告

だ！ 覺悟しろ！(とナイフをかざして迫る)

ポーシャ 一寸待て。まだ申す事がある。

この證文では、一滴の血もお前に與へて居らん。

肉一ポンドと明瞭に書いてある。

よつて證文通り肉一ポンドを取るがよい。

併し、肉を切取るに當つて、萬一

基督教徒の血を一滴たりとも流したなら、

汝の土地及び財産は、ヴェニスの法律により、

ヴェニスの國家に沒收さるべきものである。

グラシヤーノ おゝ公明正大な裁判官！ 猶太人、聞いて

たか。おゝ博學な裁判官！

シャイロック それが法律でございますか？

ポーシャ 自分で條文を見るがよい。

お前が飽くまで正義を主張するにより、

望み以上の嚴しい裁判を覺悟せねばならんのだぞ。

グラシヤーノ おゝ博學な裁判官！ 猶太人、聞いたか。

博學な裁判官！

シャイロック それでは彼の申出を受けます、契約を三倍

にして拂つて下さい。

あの基督教徒を許してやりますから。

バサーニオ さあ金だ。

ポーシャ 待て！

猶太人は飽くまで正しき裁判を要求してゐる。待て！

急いではならん。

彼は科料の他何ものをも取つてはいけない！

グラシャリーノ おゝ猶太人！ 正直な裁判官、おゝ博學

な裁判官！

ポーシヤ それゆゑ肉を切り取る用意をするがよい。

血は一滴も流してはならんぞ。又肉は多からず、少な

らず、

正確に一ポンドだけ切取らねばならんのだ。萬一ポ

ンドより

多く、若くは少なき場合 よしやそれが、

目分量で見ても軽重が分るほどであつても、

若しくは僅か一厘の二十分の一の

相違であらうとも、いや、髪の毛一筋だけ

種が傾くほどであつても、

そちは死刑に處せられ、一切の家財は沒收される。

グラシャリーノ ダニエル様の再來だ、ダニエル様だ、猶

太人！

さあ、不信心者奴、いよく貴様をとつゝかまへたぞ。

ポーシヤ 猶太人はなぜ躊躇するか？ 科料を取れ。

シャイロック 私に元金だけ與へて、歸らして下さい。

バサーニオ 貴様の爲めに用意してある。そらこれだ。

ポーシヤ 彼は既にこの公の法廷に於てそれを拒絶した。

彼にはたゞ法律通り、證書だけのものを取らせる。

グラシャリーノ ダニエル様だ、いつまでも言ふぞ、ダニ

エル様の再來だ！

難有うよ、猶太人、いゝ言葉を教へてくれたぞ。

シャイロック たゞ私の元金だけ戴けますまいか？

ポーシヤ お前に與へらるべきものは、一身の危険を冒し

て取るべき

科料の他に何もものもないぞ、猶太人。

シャイロック ぢや、悪魔に頼んで、いゝ所はあいつに呉

れちまへ！

もうこれ以上問答はして居れん。

ポーシヤ 待て、猶太人。

お前はまだ法廷の用がある。

ヴェニススの法律の定むるところによれば、

もし他國人にして

間接若くは直接の計畫を以て、

市民の生命を奪はうとしたことが明白になつた時、

右計畫者の財産の一半は

被害者たらんとした者の手に歸し、
他の一半は國家の金庫に收められる。

併し犯人の生命は、ひとへに公爵の御憐憫に任せ、
他の容喙を許さないことになつてゐる。

よいか、この適用内にお前は立つてゐるのだぞ。

何となれば、お前が間接且つ直接に

この被告の生命を奪はんと計畫したことは

明瞭な證據によつて

確かである。それゆゑお前は

私が先程繰返へし言ひ聞かせた危険を招いたのだ。

だから跪いて公爵の憐みを乞うたがよからう。

グラシヤーノ 自分の手で首をくゝるお許しを願つたが

いゝぞ。

それにしても、貴様の財産はお上へお取上げになつたの

だから、

細引一本買ふ代も残るまい。

仕方がない、官費で首を絞めて貰ふさ。

公爵 我々の精神のいかに相違してゐるかをお前の理解

するやう、

願ひ出る迄もなく、生命は助けつかはす。

そちの財産の半ばはアントーニオのもの、
他の半ばは一般會計に藏める。

併し後悔すれば、幾何かの科料だけで許すかもしれない。

ポーシヤ アントーニオの分は、格別として、國家の分は

左様いたしてもよろしうございます。

シヤイロツク いゝや、命も何も一切取つて下さい。手加減

には及びません。

私の家を支へる柱を取つてしまはれる以上、

私の家を取り上げになるも同然だ。生きてゆく財産を、

奪つてしまはれるからは、私の命を奪られるのも同じこ

とだ。

ポーシヤ アントーニオ、そなたはどういふ憐みを掛けて

やられるか？

グラシヤーノ 無價で首くゝり繩一筋、他にやるものは

ない。

アントーニオ 公爵様初め列席の方々か

彼の財産の半ばに代へて、科料だけで御放免下されば、

私は満足に存じます。そして他の一半は

私が監理し、彼の死後

先日彼の娘を通れだしました紳士に

譲り渡したいと存じます。

それにはなほ二ヶ條の條件がございます、第一この御恩
恵に對し、

彼は直ちに基督教徒に改宗すること。

第二、當法廷に於いて

死後の財産一切を婿のロレンゾーと彼の娘とに、
譲與するといふ譲渡狀を認めること。

公爵 さうさせなくてはならない。これを拒むに於ては、

先程こゝで宣べた赦免も取消すことにする。

ポーシヤ 異存はないか、猶太人。どうだ？

シャイロック 異存はござりません。

ポーシヤ 書記、讓渡狀を作製しなさい。

シャイロック どうぞ、お暇を頂戴いたしたう存じます、

氣分が勝れませんから。證書は後からお届け下さいます

れば、

署名いたします。

公爵 よろしい、併し署名しなくてはならんぞ。

グラシャーノ 洗禮には教父が二人要るよ。

俺が裁判官だつたら、もう十人増して

洗禮鉢ぢやない、絞首臺へ連れて行つてやるものを。

(イギリスで裁判官を教父といふは廣く通用した兩落で、
又死刑か否かを決めるには十二人の陪審官が要つた。)

シャイロック退場。

公爵 どうか邸へ来ていたゞきたい。粗飯を差上げよう

と存じますから。

ポーシヤ 閣下、甚だ勝手ですが、どうかそれはお許しを

願ひます。

今夜バデューアへ參らなければなりませんので、

すぐ出立した方が都合が宜しうございますから。

公爵 お暇がないとは残念ですな。

アントーニオ、この方に十分お禮を申すがよい。

非常な御恩義にあづかつたのだから。

公爵大官並びに従者退場。

バサーニオ 閣下、私も私の友人も

あなた様のお智慧により、本日

悲しむべき違約金の支拂を遅れることが出来ました。そ

のお禮と致しまして、

あの猶太人に與ふべき三千兩の金子を

お骨折りに報うる心からの印と致したいと存じます。

アントーニオ なほその上に、又それにもまして、

どこ／＼迄も敬意を捧げ、何かとお役に立ちたいと存じ

ます。

ポーシャ 十分満足を得たものは十分報酬を受けたも同じです。

私はあなたをお救ひ申して満足を得ましたから、十分報酬を受けたものと思つて居ります。

私は曾てそれ以上の報酬を望んだことはありません。

またお目に掛ります時、お忘れにならないよう。

どうぞ御機嫌よろしく、では失禮いたします。

バサーニオ どうぞ、閣下、無理にももつとお勧めしなければなりません。

報酬といふ譯わけではなく、ほんの敬意の印しるしに、

何か記念品でもお受け下さい。どうか、この二ヶ條のお

許しを願ひます、

御辭退なさらないこと、失禮をお咎め下さらぬこと。

ポーシャ ひどくお強ひになりますね、では折角だから、

「アントーニオに向ひ」あなたの手袋を頂戴し、永く着用

致しますせう。

「バサーニオに向ひ」それから、あなたの記念として、そ

の指環を戴きます。

手をひつ込めなくつてもよろしい。それ以上、下さいと

は言ひません。

そして、よもや、お厭いやとは仰しやりますまい。

バサーニオ この指環を？ 閣下、あんまりつまらない

ものなんです！

こんなものを差上げて、恥を掻きたくありませんから。

ポーシャ それでなければ他に戴きたいものはありません。

それに、何だか、それがひどく気に入りました。

バサーニオ これには値たよりよりもつと他に譯わけがありません。

あなたにはヴェニス中の一番高價な指環を差上げます。

そして廣く廣告してそれを求めます。

これだけは、お願ひですから、どうぞ御容赦ゆるし下さい。

ポーシャ 分りました、あなたは口だけ氣前のいゝ方ですね。

最初ね、たれと教へて置きながら、今になると

ねだる者はどんな返答を受けるか、それをお教へになつた。

バサーニオ 實は、閣下、この指輪は家内が呉れました

ので、

これを指に嵌めまた時、私に、
賣りも、やりも、なくしもしないと誓はせましたのです。
ポーシヤ 惜い時には誰しもさういふ言譯をするもので
す。

ああなたの奥さんが狂人でなく、

又私がこの指環を戴くだけのことをしたといふことがお
分りになれば、

それを私が戴いたからつて、いつまでも

根に持たれるやうなことはないでせう。ちや、随分御達
者に。

ポーシヤ並びにネリッサ退場。

アントーニオ バサーニオさん、指環を上げて下さい。

あの方の功勞と、それに私の友情を加へたら、

奥さんの吩咐よりも、まあ重いとしてもよいでせう。

バサーニオ グラシヤノ君、走つて追ひついてくれ給
へ。

指環を差上げて、できたら、

アントーニオさんの宅へ連れて行つて下さい。さ、急い
で！

グラシヤノ退場。

御一緒にすぐさまお宅へ参りませう。

それから明朝早々、連れ立つて

ベルモントへ行きませう。さあ、アントーニオさん。

兩人退場。

第二場 — 同所。街頭。

ポーシヤ並びにネリッサ登場。

ポーシヤ あの猶太人の家を探ねて、この證書に、

署名をさせて下さい。今夜のうちに出立して、

家の人達よりも一日早く歸りませう。

この證書はロレンゾーにいゝお土産になります。

グラシヤノ登場。

グラシヤノ 先生、やうやく追ひつきました。

バサーニオさんがあれからいろ／＼お考への末、

この指環をあなたにお届けすることになりました、そし

て食事にお出で下さるやう、お懇請でございます。

ポーシヤ それはお受け致し兼ねますが、

指環は有難く頂戴します。

その事をどうぞよろしくお傳へ下さい。それから

この青年にシャイロックの家を教へてやつて下さいませんか。

グラシャーノ 畏りました。

ネリツサ 先生、一寸お話を。「ポーシャへ傍白」私も一つ、家の人の指環を取つて見ようかと思ひます、

あの人に、一生離さないと約束させたのですが。

ポーシャ 「ネリツサだけへ」きつと取れるよ。決して女になぞやつたんぢやないつて、ひどく言ひ張るに決つてゐるわ。

だけど私等は、夫だちを恥ぢしめて言ひまかしてやりませう。

せう。……

さあ！ 急いで。解つてるね、私の待つてる所は。

ネリツサ では、あなた、案内してくれませんか。

一同退場。

第五幕

第一場

——ベルモント。ポーシャ邸に達する並樹道。

ロレンゾー並びにゼシカ登場。

ロレンゾー 月が隈なく冴えてゐる。こんな晩だ、甘い

風が静かに樹々を接吻して、

しかも少しの音もたてないこんな晩だ、

王子のトロイラスがトロイの城壁に攀ち登り

希臘人の天幕を見て、切ない吐息を漏らしたのは、

そこにはその夜クレシダ姫が宿つてゐたから。(トロイラス

は古きギリシヤの戀物語の人物)

ゼシカ こんな晩です、

處女のシスビイはおづ／＼露を踏みしめて來たが、

男より先に獅子の姿を見、

慌てゝ逃げ戻つたのは。(ピラマスはシスビイに逢はんぞ野に待つ

其後にシスビイ來り、引裂かれた上衣を) 見て悲しむいふパピロンの古き戀物語)

ロレンゾー　こんな晩だ、

ダイドローが手に柳の枝(失戀の)を持ち、

荒海の岸邊に佇んで、重ねてカーセイヂに歸り給へと、

戀人を靡おとしねいたのは。(トロイの大將イーニッド、冒險の途次、カーセイヂに立ちより、女主人ダイドローは

かよき縁
をす)

ゼシカ　こんな晩です、

ミイデイヤが老父のイーサンを若返へらせようと、

魔法の藥草を集めたのは。(コルキス下の嬬ミイデイヤは金の羊毛

ギリシヤに歸り、そ
の父を若返らせ)

ロレンゾー　こんな晩だ、

ゼシカが金持ちの猶太人の家を抜け出し

ろくでなしの情夫と共に、ヴェニスから

ベルモントまで飄落したのは。

ゼシカ　こんな晩です、

若いロレンゾーが戀ひするの愛するのと、

誓言を數々たて、女の魂を盗んだが、

どれもこれも虚妄だつたのは。

ロレンゾー　こんな晩だ、

可愛い、ゼシカが小さなじや、馬のやうに

亭主の悪口を言ふのを、亭主が黙つて聞いてゐたのは。

ヴェニスの商人

ゼシカ　誰も來なければ、こんな晩盡しで負けやしない

の。だけど、ほら、人の足音がするわ。

ステファアーノ登場。

ロレンゾー　誰だ、この寂かな夜中に足早に來るのは？

ステファアーノ　おなじみの者です。

ロレンゾー　おなじみ！　どんなおなじみだね。名前を

言つて下さい。

ステファアーノ　ステファアーノが私の名前ですよ。御傳言に參

りました、

奥さんが夜の引明前に

このベルモントへお着きです。奥様はね、有難い十字架

の(南歐に今も見る如く路の十字路に石の十

字架立ち、進行く人はこれに祈念する)
立つてるあたりをお通りなされては、跪いて、

御結婚の將來をお祈りになつていらつしやいます。

ロレンゾー　どなたか御一緒かね？

ステファアーノ　聖い隠者様と侍女の他誰もあません。

御主人はまだお歸りにはなりませんか？

ロレンゾー　まだ、そして何のお便りもない。

ゼシカさん、望へ入らうよ。

そして儀式を備へて、奥様の

二九五

歓迎の用意をしようではないか。

ラインセロット登場。

ラインセロット ソラー、ソラー、ウォー、ハ、ホー、ソ

ラー、ソラー(鞍馬車の角
笛の真似)

ロレンゾー 誰だい、呼ぶのは？

ラインセロット ソラー、ロレンゾーさんに逢はなかつた

かい？ ロレンゾーさん、ソラー、ソラー。

ラインセロット おい、わめくのはよせよ。こゝだよ。

ロレンゾー こゝだよ。

ラインセロット あの人にさう言つて下さい、御主人様か

らの飛脚が到着し、その角笛(つのだ)にはいゝ知らせで一ぱい

だとね。

御主人様には夜明前にお歸りになりますよ。

ラインセロット退場。

ロレンゾー ぢや、ゼシカ、内へ入つて皆様のお歸りを

待つことにしよう。

併しどうでもよい。内へ入る必要もなからう。

ねえ、ステファノ君、君、すまないが、家の者に、

奥さんが今にお着きだと觸かれてくれ。

それから、樂隊を外へ寄越よこしてくれ給へ。

ステファノ退場。

どうだ、月の光がこの築地ついでちの上に眠つてゐる様子は！

こゝに坐つて、樂の音を、

ちつと耳の中へ浸み込ませよう。夜の和やわらかな静けさは

うるはしい諸音ハルモニの奏演にふさはしい。

お坐りよ、ゼシカ。御覽、大空の床あそら一杯が

光り輝く黄金の小皿で、ぎつしり鑄やめられてある様を。

見る限りのどんなに小さな星でも

動くにつれて天の御使みかみのやうに歌ひ、

嬰兒あやうのやうな眼をした天の童子が奏でる天樂に合はせな

いものはない

かういふ諸音が不死不滅の精靈の間にはあるのだが、

土くれのこの汚きたない衣えが

粗さらげなくそれを包んでゐる間、我々はこれを聞くことが

できないだけだ。

樂師達登場。

さあ、おい、讚美の歌を以て月神グイアヤを目覺してくれ

最も快こころよい奏演を以て奥様のお耳をそぐり、

音樂の力で早くお屋敷へと引よせて貰はう。

音楽はじまる。

ゼシカ 私、いゝ音楽を聞いて、気が浮々としたことは一度もないわ。

ロレンゾー それは、あなたの魂があんまり眞剣になるからです。

氣をつけて御覽、あらつばい、はねかへりの家畜の群だ

とか、

若い、ならされてない仔馬なんかは、

狂氣のやうに飛び廻り、吠えたり、嘶いだりする。

それは彼等が血氣の壯んな證據であるが、

どうかして喇叭の音が聞えたり、

音楽の節が耳に觸れたりすると

きつと一様に立止まり、荒々しい眼の色は

おとなしい目つきに變るのがわかる。

それは全く音楽の魔力だ。だから詩人は、

オルフェウスは木や、石や、流れさへも引きつけたと言

ひ傳へたのだ。(詩人はオーゲイッドをいふのであらう
オルフェウスはステリスの傳説的樂人)

なぜなら、どんな無感覺で、頑固で、怒りつばい者でも、

音楽を聞いてゐる間は、これに動かされてその性質を變

へずにはゐられないからだ。

音楽の素養のない人、若しくは

美しい音色の調べを聞いて感動しないものは

えて謀叛や、陰謀や、強盜などをやる。

さういふ者の感情は、夜のやうに鈍感で、

エリバス(捕鯨中の
最暗黒處)のやうに暗い。

そんな人間は信用することは出来ない。……まあ音楽を

お聞き。

ポーシヤ並びにネリッサ遠くの方に登場。

ポーシヤ あそこに見える光は、家の廣間で燃えてゐるの

だね。

あんな小さな蠟燭でも随分遠くまで明るいこと！

悪い世の中に善い行の輝くの丁度あんな風だね。

ネリッサ 月の輝いてる時は蠟燭は見えませんでした。

ポーシヤ その通りに大きな光榮は、小さな光榮を影薄く

するものだよ。

王様が側近く來られるまでは、

御名代でも王様ほどに輝いてはゐるが、一旦來られると

なる

御名代の威光は、丁度山地の小川が大海原の中に消えて

了ふやうに

消えてしまふよ。あら音楽だ！ お聞き！

ネリツサ あれは、お家の樂隊です。

ポーシヤ どんなものでも、周圍との關係なしでは、よくならないものだよ。

晝間よりずつと美しく聞えるやうに思へるわ。

ネリツサ 静かなので、しんみりさせるのをごさいます。

ポーシヤ 鳥でも雲雀ほど美しく歌ふかも知れない、

周圍にも氣をとられてゐない場合にはね。

夜啼鴛だつて、鴛鳥共があゝ騒ぐ

眞晝間に歌ふとしたら、

鷓鴣より大して上手な歌手とは言はれまい。

ほんたうに大抵のものは時と場合の薬味の力で

正しい賞讃も受ければ、眞の長所も現はすものです！

止めなさい、音楽を。お月様はエンデミオンと一緒に眠

つて(美少年の牧夫エンデミオンに月が恋をよせ
つて(概を眠らせて夜なく來り、その傍に伏す))

起こされるのはお嫌らしい。

音楽やむ。

ロレンゾー あの聲は

耳の迷ひでなければ、たしかにポーシヤ様だ。

ポーシヤ あの人は盲目が郭公鳥を聞き分けるやうに、

聲が悪るので私だと分るのだわ。

ロレンゾー 奥様、よくお歸りなさいました。

ポーシヤ 私達は夫方の御無事を祈つて居りました。祈りの甲斐があつて、多分御安泰だらうと思ふが。

もう御歸宅になりましたか？

ロレンゾー 未だです、奥様、

でも、先程お使者が參られ、

もうおき御歸宅とのことになりました。

ポーシヤ ネリツサ、内へ入つて

皆の者に吩咐しておくれ。私達が家をあげた事を

素振りにも見せないやうにね。

ロレンゾー、お前さんもそのつもりで。ゼシカ、お前もよ。

華かなタケットの音聞える。

ロレンゾー 殿さまの御到着です。喇叭の音で分る。

私共はおしやべりはしませんから、お氣遣なく。

ポーシヤ 今夜は晝が思つてよもゐるやうな様子ね、

少し青味があり過ぎるだけで、全く晝のやうだ、

まあお日様の見えない時の晝間だね。

バサーニオ、アントーニオ、グラシヤノ並びに彼

等の従者等登場。

バサーニオ 太陽の留守の間でも、あなたさへ歩いてる
らつしやれば、

この地球の向う側の人々と同じに、私達も日光に浴れる。

ポーシャ あかるいのは好いけれど、「あ」がなくてかるい
のでは困ります、

妻が軽いと、氣の重い良人ができますから。

どんなことがあつたつて、私の爲にバサーニオさんをそ
んなにさせは致しません。

併し何事も神様の思召次第です。あなたよくお歸りなさ
いました。

バサーニオ ありがたう。どうか私の心友をも歓迎して
下さい。

これがあの人です。アントーニオさん。
私の數限りなく御恩義になつた人です。

ポーシャ あなたは全くあらゆる意味でこの方の御恩義を
お忘れになつてはなりません、

承りますれば、あなたの爲めにいろ／＼御難儀にお逢ひ
なさいましたさうですから

アントーニオ いや、疾に返済を受けて、もう何も残つ
てゐません。

ポーシャ 私達の家へようこそ入らして下さいました。
御歓迎の心は言葉以上の他の方法で示さなければなりま
せんから、

口だけの禮儀は省くことに致します。

グラシャヤーノ 「ネリッサに向ひ」あの月が證人だ、それ

はお前あんまりひどいよ。

全くあれは裁判官の書記にやつたのだ。

あゝ今指環を持つてゐるあの男が、去勢した男だつたら

と、私だけでは思ふよ。

でもお前があんまりその事を氣にするのももの。

ポーシャ これ／＼、もう喧嘩なのー どうしたと言ふの
です？

グラシャヤーノ なあに、金で出來た丸い輪一つが原因で

す、家内の呉れた
つまらない指環なんで、それに刻つてある文句が

何の事はない、ナイフに刻む双物師の文句と同じで
「愛して見棄てるな」と來てるんです。

ネリッサ なんであなたは文句や値段の事を言ふのです？
それを差上げた時、あなたは私に誓つたでせう、

臨終の際までそれを做めて居るつて。

そして墓に入つてからも、一緒に眠らせて貰ふつて。

私はどうでもいゝとして、御自身の、あの厳しい誓言に對しては

ちつとは考へて、大事にしなければならなかつたはずですよ。

裁判官の書記にやつたのですつて！　うそ、神様こそ私の裁判官です。

それを貰つた書記とやらは、一生癪なんか生えない人でせう。

グラシャーノ　生えるよ、一人前の男になれば生えるよ。ネリツサ　さうよ、若し女が男になれるものならばね。

グラシャーノ　いや、この手にかける、それを呉れてやつたのは青年だよ。

いや、少年だよ、小さな丈の低い少年なんだ。丁度あんた位ゐの背の高さだつたよ。その裁判官の書記といふのは。

おしやべりでね、報酬としてそれをねだつたのだ。どうもこの命にかへても拒む譯には行かなかつたのだよ。

ポーシャ　あなたが悪いと思ひます、率直に言つて了へば、

奥さんからの初めての贈物をさう軽々しくくれてやるなんて。

誓言して指にしつかと嵌め込み

誠實をこめて肉の中に釘附けにした物なんですからね。

私も夫に指環を差上げ、決して手放さないと

約束をして貰ひました。現にあそこに居られます。

私、夫に代つて誓つてもよい、世界中の財に代へても

あの人はそれを手放しもしなければ、指から

抜くことさへも致しません。全く、グラシャーノさんは、

奥さんに、あんまり無慈悲な悲しい思ひをおさせです。

私だつたら、狂人になつてしまひませう。

バサーニオ　「傍白」こりや、左の手を切り落し、指環をとられまいとして、

こんなになつたのだと言ひ張つた方がずつとました。

グラシャーノ　バサーニオさんも指環をおあげでした。裁判官にです、その人が是非にと強請るのですが、又實

際

上げるだけの眞價もあつたのです。するとその少年、即

ち書記です、

書きものにもちつとばかり骨を折つたのですが、そいつが

私のを呉れると言ふんです。

そしてその男も主人も二つの指環の他には

眼も呉れないのですからね。

ポーシヤ どの指環をお上げでした、あなた？

まさか私の差上げたのぢやないでせうね。

バサーニオ 失策に嘘を付け足していゝのなら、

いや違ふと言ふのだが。けれど御覽の通り私の指には

その指環がないんです、なくなりました。

ポーシヤ その通りあなたの不實なお心には、眞實といふ

ものが無いのです。

決してあなたのお寢間へは参りませんよ、

あの指環を見ないうちには。

ネリツサ 私もです。

も一度私の指環を見ないうちには。

バサーニオ ポーシヤさん、

若しあなたに、誰に私があの指環を上げたか、

誰の爲めにあの指環を上げたか、分つて戴ければ、

又何の爲めにあの指環を上げたか、

どんなに私がその指環を手放すのを嫌がつたか、

それでも指環の他は、何一つ受けるといはれなかつたか、

それを理解して下されば、

あなたの不興の力も、少しは緩和しようと思ひます。

ポーシヤ 若しあなたにあの指環の價値が分つて戴ければ

あの指環を差上げた婦人の價値の半分でも知つていらつ

しやれば、

又あなた御自身の名譽のためにも

あの指環を持つていらつしやらなければならぬといふ

事を理解して下されたら、

あれを失くするやうなことは、なかつたらうと思ひま

す。

若しあなたさへ、強い言葉を使つて、

それを渡さない決心になられたら、勿體ない程にも思つ

てゐる物を

ぜひ呉れると言つてせがむほど謙遜な心を缺いた

譯の分らない人がどこにありませう？

ネリツサが疑ふのも無理はないと私も悟りました。

あれは屹度どこかの女におやりになつたのでせう。

バサーニオ いや、私の名譽にかけ、私の魂にかけ、

斷じて女ではない、民事の博士に贈つたのです。

その人は私の三千兩を辭つて、

あの指環を求めました。で、一旦はそれを拒み、止むなく不機嫌のままお歸へししたのです。

私の親友の命を取り止めて下された

その方なんです。ポーシヤさん、一體どうしたらよかつたのでせう？

是非なく私は後からそれを送り届けさせました。禮儀を缺いたと思ふ恥かしさに責められたのです。

私の名譽心は思知らずの誹りを以て、

汚されたくなかつたのです。堪忍して下さい、ポーシヤさん、

ん、

夜の恵まれた蠟燭とも見る天の星にかけて言つてもよい

若しあなたがその場に居合せられたら、あなたの方から、

指環を博士に上げてくれと、お頼みになつたに違ひない。

ポーシヤ そんな博士なんか、この邸の近くへ寄せつけな

いやになさいよ。

その方が私の大好きな、そしてあなたが私の爲めにきつ

と離さないと、

約束なすつた寶石を手に入れておいでだから、

私もあなたと同様、氣前よくするかも知れません。

私の持つてるものは何でもその方に拒まないかも知れま

せん。

さうよ、この肉體でも、私の良人の寢床でも。

私、その方と御懇意になりますよ、屹度さうなりますよ。

だから一晩だつて家をおあけになつてはいけません。ア

ーガスのやうに見張つていらつしやいませ。(アーガスは

つてアイオー)

を張り番した)

若し見張りを怠つて、一人で放つて置かうものなら、

まだ汚れてゐない女の操にかけて

その博士を聞の友にするかも知れませんよ。

ネリツサ そして私はその方の書記が相手です。ですから

十分警戒なさいませ。

私の氣儘にさせておくと、どんな事になるか知れませ

から。

グラシヤノ ふん、さうするがよい。その時とツつか

まらないやう氣をつけろ。

つかまつたが最後、書記の小僧のペンは臺なしにしてく

れるから。

アントーニオ こんな喧嘩の源泉はみな私です。

ポーシヤ いゝえ、お歎きなさいませ。どんな事があり

まして、あなたをお迎へする心に變りはありません

から。

バサーニオ　ポーシャさん、今度の不都合は、萬止むを得

なかつた事だと許して下さい。

かうして澤山友人のゐる前で、

私は誓言する、私の姿の映つてゐる

あなたの美しいお日にかけて。

ポーシャ　どうでせう、あれですもの！

私の右と左の目にあの人は裏表二重に自分が見えるので

すつて、

一方の目に一つづゝ。いつそあなたの二心ふたこころにかけてお誓

ひなさい、

その方が信用の置ける誓言になりませう。

バサーニオ　まあ、お聞きなさい。

今度の失策を許して下さい、私の魂かけて誓言するが、

これからは二度とあなたに立てた誓を破るやうな事はし

ないから。

アントーニオ　私は一度あの人の幸福の爲めにこの肉體

をお貸しました。

ところでその幸福も、御主人の指環を貰はれた方のお骨

折りがなかつたなら、

最うとうに亡くなつてゐる體です。私はぶしつけながら
重ねて、

この魂を抵當にして證人に立ちます、あなたの御主人に

斷じて二度と約束を破らせることは致させません。

ポーシャ　ではあなたに證人になつて戴きます。これをあ

の人に上げて

前のよりもつと大事にするやう、どうかさう仰しつて下

さいまし。

アントーニオ　さあ、バサーニオ君、この指環を放さな

いといふ誓言をなさい。

バサーニオ　おや〜〜！　これは博士に差上げた指

環と同じものだ！

ポーシャ　私、その博士から貰つたんです。

バサーニオさん、御免なさいよ。

この指環欲しさに、私は博士と一つ寢をしました。

ネリツサ　グラシャーノさん、私も御免よ。

その例のほげな少年の書記も、

この指環を持つてるので昨夜泊めてやりましたの。

グラシャーノ　これは何と言ふこつた。ぬかりも何もし

ないのに、夏場に道普請するやうなものだな。

えつ！ まだなんにもない先から女房を寝取られてしまつたのかい？

ポーシヤ さう下卑たことは言はないものよ。みなさん喫驚りなされたでせう。

こゝに手紙があります。お暇の時に讀んで下さい。

パデユアから、ペラーリオから来たのです。

これを御覧になれば、このポーシヤが博士で

あそこに居るネリツサが書記だつたことがお分りになります。こゝに居るロレンゾーさんが

證人です、私はあなた方と一緒に出發して

たつた今歸つたところです。まだ家へも

入りません。アントーニオ様、よく入らつしやいました。

私はあなた方の思ひも寄らないよい報知を

持つて居ります。すぐこの手紙を開封して下さい。

そのなかには、あなたの商船が三艘、立派に

積荷のまゝ思ひがけず入港した事が書いてあります。

どうした不思議の機會から、この手紙が私の手に入つた

かは

それはお話し致しますまい。

アントーニオ 私はものが言はれません。

パサーニオ ぢや、あなたがあの博士だつたんですか。

私にそれが解らなかつたのですか？

グラシヤノ 間男をしたといふ書記があんたか？

ネリツサ さうよ、併しその書記は只泊つただけなの。

大きくなつて、男に化けない以上はね。

パサーニオ 可愛い、博士、私の閨の友達に是非なつて

戴きます。

私が居ない時は、私の家内と一緒に寝て下さい。

アントーニオ 奥さん、あなたのお蔭で一命も財産も拾

ひました。

この手紙によると、私の船が

安着したことは確實です。

ポーシヤ どうです、ロレンゾーさん！

私の書記はあなたにも何か土産を持つて来ましたよ。

ネリツサ さうですよ、そして報酬を戴かずに差上げます。

〔證書を渡して〕さあ、あなたとゼシカさんに、

金持の猶太人からその死後

所有物一切を譲るといふ特別譲與證です。

ロレンゾー みなさん、これは飢ゑて居るものに

靈果を降らして下さいです。

ポーシヤ　もうかれこれ朝です。

でもまだあなた方には今度のことか

とくとはお分りにならないでせう。さあ、中へ入りませう。

そして存分に御訊問下されば

萬事を有りのまゝにお答へいたしませう。

グラシヤノ　さう願ひませう。第一にネリッサさんに宣誓させて

訊問すべき一個條は

明晩まで待つとするか

それとも夜明まで二時間あるから、すぐ寢床に行くか

いふ問題です。

併し夜が明けても私はやつぱり暗い方が望みです。

博士の書記とうづくまつてゐられるからね。

何しても、この命のあらん限り、氣をつけなければなら

ない事は、

ネリッサの指環を大事にするといふことだ。

一同踊りながら退場。

マクベス

人物

ダンカン スコットランドの王。

マルカム その子。

ドナルベーン

マクベス 王軍の大將。

バンコウ

マクダフ

レナックス

ロス

メンテイス

アンガス

ケイスネス

フリイヤンス

バンコウの一人。
ノーサムブランドの侯爵、英軍の大將。
小シイワード その一人。

スコットランドの貴族。

シイタン マクベスに仕ふる一士官。
少年 マクダフの一人。

イギリスの侍醫。

スコットランドの侍醫。

歩兵長。

門番。

老人。

マクベス夫人。

マクダフ夫人。

女官 マクベス夫人の侍女。

ヘケート。

三人の妖婆。

幻影。

貴族、紳士、士官、兵士、刺客、従者、及び使者。

場所

スコットランド、イングランド。

第一幕

第一場 —— 荒蕪地。

雷鳴と電光。三人の妖婆登場。

第一の妖婆　今度はまた何時逢はう？

雷、稲妻、それとも雨の中か？

第二の妖婆　あのどごくさがすんだ時、

戦の勝負がついた時。

第三の妖婆　それは目の入り前になるだらう。

第一の妖婆　場所はどこ？

第二の妖婆　荒蕪地の上。

第三の妖婆　あそこでマクベスに逢ふ手筈……

第一の妖婆　今行くよ、白猫さん！

第二の妖婆　藁が呼んでる。

第三の妖婆　すぐ行くよ。

一同　善い悪いは悪いこと、悪いは善いこと。

汚い空気を、抜けて翔ばうよ。

一同退場。

第二場 —— ファオレス附近の陣營。

奥に警報が聞える。ダンカン王はマルカム、ドナルベーンの兩王子、貴族レナックス及び従者等を従へて登場、血にまみれた歩兵長に出會ふ。

ダンカン　何といふ血みどろの男だ？　あの様子では

定めし叛亂の最近の情況を

聞くことが出来るだらう。

マルカム　これはあの歩兵長、

善良剛勇の軍人らしく、私が捕虜となつた時

救つてくれた男です。……やあ、勇敢な戦友！

戦場の模様を國王に申し上げなさい、

君が其處を離れて來た時は、どうであつたか？

歩兵長　まだ何方ともつかぬ有様でございました。

疲れきつた二人の水泳者そのまゝに、互にしがみつき、

折角の妙術も用をなしません。残忍なマクドナルド――

さすがに逆賊だけあつて

生れながらの無数の悪心は

彼をこの叛逆へと向けますが、——彼は西部諸島より
輕裝兵並びに重裝兵の援兵を受けました。

そして運命の女神も、彼の不忠不義の軍に笑顔を向け、
逆賊めの情婦となつたやうにも見えませんでした。しかし、す
べては無駄で、

名にし負ふ勇敢なるマクベス將軍は、
運命などを輕蔑しながら、怖ろしい殺戮に
血煙立つた刃を閃めかし、

剛勇の寵兒はかくやとばかりまつしぐらに突入し、
到頭敵將に面と向つて突つ立ちました。……

そして、握手も交さず、「さよなら」とも言はずに
勝から躋まで、まつ二つに立ち割つて

首は我々の城壁に懸けました。

ダンカン おゝ所敢な同族だ！ すぐれた武人だ！
歩兵長 然るところ、丁度太陽の照らし始める東から

船を覆へす暴風や、怖ろしい雷雨の起るがやうに、
愉快な事の流れ来るかに見えました泉から

不快な事が湧き出でました。お聞き下さい、殿下、お聞
き下さい。

正義が武裝したる勇氣と力を合せ、

逃足早い輕裝兵を打ち破り、足に任せて落ち行かせたと
思ふ間もなく、

機會を窺つてゐたノールウェイ王は、
磨ぎすました武器と新手の援兵を得て
再び襲撃を始めました。

ダンカン これに怖れはしなかつたか

我等の大將マクベス及びパンコウの兩將は？

歩兵長 左様でございます。

駕か雀を怖れ、獅子が兎を怖れるやうに。

事實を申し上げますと、かう御報告致さねばなりません、
譬へば二倍の破裂薬を填めた大砲のやうに、

兩將軍は

二倍の力を以て敵を打ち惱ました。

煙る血潮のなかに、浴みなされるおつもりか

それとも第二のゴルゴザ(聖書に見える)を作つて、永く

世に傳へるお考へか

それは私にも分りませぬ——

だが、私は氣が遠くなります、この深傷のお手當をお願
ひいたします。

ダンカン そなたの言葉は、その手傷にふさはしく、

どちらも名譽の香かほひが高い。……早く醫者の許もとへ連れて
行つてやれ。

歩兵長介抱されて退場。

誰だ、あすこへ来るのは？

ロス登場。

マルカム ロスの領主でございます。

レナックス 何といふ慌たゞしい眼付をしてゐるのだ！

あの顔付では

定めし變つたことを語るであります。

ロス 殿下の御清福を！

ダンカン 領主、どちらから來られたのか？

ロス 大王、ファイフから參りました。

かしこには、ノールウェイの旗印はたごしが空に羽搏はばき、

味方の膽いもを冷ひやすと見えました。

先にノールウェイ王みづから夥おほしき軍勢いくさを引率ひきし、

これを助くるにかの最も不忠の叛逆者

コウダアの領主があつて、不祥の争亂を起しましたが、

かのベローナ（戦争の女神）の花婿マクベス將軍は、鍛たへに鍛

へた甲冑かちうに身を堅め、

一騎討ちにて彼に對抗し、

猛烈なる双先まさに双先を交へ、劍に劍を以て應戦し、

遂に彼の高慢無變の魂たまをとり挫ひき、結局、

勝利は我軍の手に歸しました。

ダンカン この上もない幸福だ！

ロス そこで

ノールウェイ王スウェーノーは、和議を申し込みました。

我軍は彼に部下を葬らせるよりも先きに、

聖コルミイの島に於て、一萬ドルを支拂はしめ、

これを公用金といたしました。

ダンカン コウダアの領主をして、この上我等が友情を

裏切らせてはならん。即座に死刑を宣告し、

その爵位はマクベスに與へて彼を迎へよう。

ロス 左様に取り計らひ致しませう。

ダンカン コウダアの失うたものを、氣高いマクベスが

得たといふものだ。

一同退場。

第三場

——フォレス附近の荒蕪地あはれち。

雷鳴。三人の妖婆登場。

第一の妖婆 お前は、どこへ行つてた？

第二の妖婆 豚を殺してゐた。

第三の妖婆 お前は、どこへ？

第一の妖婆 船頭のかみさんが、前掛のなかに粟を持つて、もぐぐ、もぐぐ、喰つてゐた。「くんなよ」とわしが言ふと、

「あつちへ行け、妖婆！」と怒鳴りやがる、あの肥つちよの阿魔が。

あいつの亭主は、アレボーへ行つてるタイガー號の船長だ。

だがな、篩に乗つて、わしはあそこへ行くぞ、

そして尾のない鼠に化けて(妖婆はどんな動物にでも化けられるが尻尾だけはないと信じられてゐた)

やつつけるぞ、やつつけるぞ、やつつけるぞ。

第二の妖婆 わしはお前に風をあげる。

第一の妖婆 御親切さま。

第三の妖婆 わしも一つの風をあげよう。

第一の妖婆 その他のはみんなわしが持つてゐる。

風の吹く港といふ港、

船乗りの地圖にある

場所といふ場所は、みんなわしのものだ。

あの亭主を枯草みたいに乾からびさせてくれるから、夜だつて晝だつて、あいつの眼の庇には、眠りがちつとも降りまいぞ。

生きてはゐても、呪はれたのけものめ！

弱りぬいた七夜を九倍に又九倍して

だん／＼細つて、瘡せて、糞れさせてやるぞ。

彼奴の船を沈めてしまふわけにはいかんが(妖婆に人殺しは許されぬ)

暴風に揉みに揉ませてくれる。……

見な、わしの持つてるものを。

第二の妖婆 見せろ、見せろ。

第一の妖婆 ほら、水先案内の搦指だ、

國へ歸る途中に難船したのさ。

奥に太鼓の音がする。

第三の妖婆 太鼓だ、太鼓だ！

マクベスが來た。

一同 わしたち宿命の姉妹は、手に手を取つて

海でも陸でも、飛んで行く、

さあ始めるぞ、始めるぞ。

お前に三度、私に三度、

も一つ三度で、合せて九度、

静かに！……魔法はもう出来た。

マクベスとバンコウ登場。

マクベス　こんなに悪くて又佳い日を見たことがない。

バンコウ　フォレスへはまだどれ位あるかね？……あれは何だ？

恐ろしく瘡せ萎びて、服装も狂氣じみ

地上に住む者とも見えぬが

しかも地上に居る。……こら、命のあるものか？

人間と問答の出来るものか？……わしの言ふことは分る

と見え

みんな同時に、戦われた指を

皺だらけの唇に當てゝゐる。……お前達は女に相違ない

が、

併し、鬚の生えて居るところを見ると、

さうとも思はれん。

マクベス　物を言へ、言へるなら。何者か？

第一の妖婆　萬歳、マクベス様！　お目出度う、グラ！

ミスの御領主！

第二の妖婆　萬歳、マクベス様！　お目出度う、コウド

アの御領主！

マクベス

第三の妖婆　萬歳、マクベス様！　ゆく／＼は王ともな

られるお方！

バンコウ　おい、君、どうしてさうびつくりするの？

これほど耳に快く響くことを怖がつてゐるらしいが？

……眞理の名に於て尋ねるが

お前達は、空想の産物か？　それともまさしく

外面に見えるまゝの者か？　わが優れた同僚に向ひ

現在の爵位を以て挨拶し、又將來を豫想して

氣高き所領並びに王たるの希冀まで加へて言つたので、

わが友は呆れてゐるらしい。俺に向つては何も言はない

若しお前達が、「時」の抱擁する種子を見ぬく力があり、

どの粒は生え、どの粒は生えぬか、それが言へるなら、

俺にも言へ、お前達の恩恵も求めねば

憎しみも怖れはせぬ俺だ。

第一の妖婆　萬歳！

第二の妖婆　萬歳！

第三の妖婆　萬歳！

第一の妖婆　マクベス様よりつまらなくて、もつと偉い。

第二の妖婆　あれほど幸福でなくて、ずつと幸福だ。

第三の妖婆　お前さんは、大勢の王をこしらへる、自分

ではなれないけれど。

そこでみんな萬歳、マクベスとバンコウ様！

第一の妖婆　バンコウとマクベス様、萬歳！

マクベス　待て、半端な物言ひをする奴だ、もつと言へ。

父サイヌルの死後、俺がグラミスの領主たることは分

つてゐる、

しかしコウドアとはどうしたのか？　コウドアの領主は

存命で、

家門も繁えてゐる。それに國王たるなどと、

信ずべき見込みさへもないことは、

コウドアの領主たると同様だ。言へ、

お前達はどこからこの不思議なことを聞いて來たのか？

なぜこんな荒野に我々の道を要し、

そんな豫言めいた挨拶をするのか？　言へ、命ずるのだぞ。

妖婆等消える。

バンコウ　地にも泡沫があると見える、水にあると同じやうに、

狐奴等はそれなのだ。どこへ消えたのか？

マクベス　大氣のなかへ消えた。形があるやうに見えた

のだが、

息のやうに風のなかに溶けて行つた。もつと居て呉れ、

ばよかつたのに！

バンコウ　今話してゐるやうな物が、實際こゝにゐたの

か？

それとも、我々は、狂氣草の根でも食つたのか？

あれは理性の力を廢にするといふが。

マクベス　君の子孫は王になる。

バンコウ　君自身が王になる。

マクベス　そして又、コウドアの領主に。さう言はなかつたかね？

つたかね？

バンコウ　全く、そのままの調子と言葉で。……誰だ、

あれは？

ロスとアングス登場。

ロス　マクベス、殿下は、あなたの御成功の情報を

満足で以て聞き召されました。そしてこの逆賊討伐の戦

ひに於て

あなたが身を以て酬はれた報告を御覽になり、

驚異し讚歎し、その功績のいづれをあなたのものとし、

又御自身の徳に歸すべきか

心惑はれる位みでありました。そこで口を噤まれ、その日の自餘の報告を御一覽に及ぶと、

あなたが頑強なノールウェイ軍のまつ只中に於て

奇怪な死人の山を築いて、更に怖るゝ色もなかつた事が
お分りになりました。霰のやうに

使者又使者と相次ぎ、しかもいづれの使者も

この王國の大なる國難に當つての、あなたの讃辭を寫らし、

國王の前に降りかけました。

アンガス 我々の遣はされたのは、

國王よりの感謝をあなたに傳へ、

あなたを御前へと案内する爲めで、

これが全部の褒賞ではないのです。

ロス そして、より大なる榮譽の手附として

王の御命令はあなたをコウダアの領主と呼べとの事でござ

います。

で、この稱號でお喜びを申します、お目出度う、最もす

ぐれたる御領主！

パンコウ はて、悪魔でも眞實のことが言へるのかな？

マクベス コウダアの領主はまだ御存命だ。なぜ君は

借衣裳を私に着せるのですか？

アンガス もとその領主であつた人はまだ存命です、

併し重き宣告を受け、命を支へて居るばかりで

それをも既に失はんとして居ります。彼がノールウェイ軍

と聯合したか、それともかの叛賊に

隠れた援助と便宜を與へたか、或はそのどちらをも行つ

て祖國の破滅を計つたか、それは知りません。

併し、白狀もし、證據も擧げられた極惡の叛逆罪が

彼を没落させたのです。

マクベス 「傍白」 グラーミス、それからコウダアの領

主！ まだ後に、一番大きいのがある「ロスとアンガ

スに向つて」

お骨折りを感謝します。

〔パンコウに向つて〕

君の子孫が王になることを、君は望まないか？

私にコウダアの領主を呉れたあいつ等が

君に約束したのは、正しくさうだつたか？

パンコウ あんな事をどこ迄も信用すると、

遂には君をたきつけて、王冠までを望ませるかも知れな

い、コウダアの領主以上にね。……何しろ不思議だ。

そしてよくあることだが、我々に何か悪事をさせるためには

悪魔の手下どもがわざと眞實な事を語つて

些細な事で正直なところを見せて我々の心を撫み、結局

我々を裏切つて

最もひどい結果に陥らせる。……

諸君、ちよつとお話がある。

マクベス 「傍白」二つの話は事實となつた。

王位を主題とする華やかな芝居に

ふさはしい序曲のやうに。(ロス)有難う、諸君。

「傍白」この超自然の暗示は

悪い筈もなく、よい筈もない。若し悪いものなら、

なぜ俺に成功の手附を與へて

眞實を以て事を始めるのか？ 俺は現にコウダアの領主

だ。

若し善いものなら、なぜ俺はあんな誘惑に巻き込まれる

のだらう？

あの誘惑の怖ろしい映像はこの髪の毛を逆立たしめ、

落ちついたこの心臓を何時にもなく、

胸骨にぶつつけるほど鼓動させる。どんな目前の怖ろし

い事物でも、

想像の怖ろしさに較べれば、何でもない。

心の中の人殺しは、まだほんの空想に過ぎないのだが、

それでもこの思ひだけで、

この俺の心全部は揺動かされ、すべての機能は

壓迫せられて、これ以外のものは

存在しないも同然だ。

バンコウ 御覽なさい、我々の同僚は思ひに耽つてゐる。

マクベス 「傍白」若し機運が俺を王にするといふなら、

無論、機運が王冠を與へて呉れよう、

俺は一指を動かさなくとも。

バンコウ 思はず彼の手に入つた新らしい榮譽は、

着なれぬ衣服のやうなもので、慣れないうちは、

型にびつたり適はぬものだ。

マクベス 「傍白」何とでもなるが、

どんな荒つぽい日でも時間は経つのだ。

バンコウ マクベス、我々は君の出立を待つてゐるよ。

マクベス これは失禮。私の鈍な頭が、忘れた事を想ひ

出さうと

騒いでゐたものだから。……親切な御南君、お骨折りは

心に銘記して、毎日これを繰り披げ
讀み返す事に致します。さあ、王の御前へ。……

今日の出来事はよく考へてみてくれ給へ。そして十分に

考へて置き、暇な時を見計らつて、お互に

思ふところを存分に話し合はうではないか。

バンコウ よし、承知した。

マクベス それまでではこれ位みにして……。さ、諸君。

一 退場。

第四場 —— フォレス。王宮。

華やかな喇叭の吹奏。ダンカン、マルカム、ドナル

ベーン、レナックス並びに従者登場。

ダンカン コウドアの所刑は終つたか？

まだ執行者は歸らぬか？

マルカム 殿下、

まだでございます。しかし私は彼の落命を

見て来たものから話を聞きましたが、それによります

と、

彼は極めて率直に叛逆の次第を白狀し、

殿下に罪を謝し、深き悔悟の心を

現はしたさうでございます。彼の一生を通じて

その最後ほど立派なことではなく、死に就くや、

恰も平生より十分工夫をしてゐた者の如く、

用なき脣を棄てるがやうに貴重なるものを抛つたと申しま

す。

ダンカン 人の面おもてでその心の隅までも見わけける術わざはな
い。

彼こそ名譽ある紳士と思ひ、予はその上に、絶對の信用

を

築いてゐたのだが。

マクベス、バンコウ、ロス、並びにアングス登場。

おゝ、マクベス！

予が謝意を怠つてゐた罪は、今も今とて、

重くこの胸を壓へてゐた。卿きみがあまり速く進むので、ど

んなに達者な翼を持つた報酬も

遅々として卿に追いつき得ない。卿の勳功がそれ程でも

なかつたなら、

感謝も報酬も適當な均衡を保つて

予の力に適つたことであらうに！

出来る限りを盡しても、卿には報い切れないと
言ふより外に言葉はない。

マクベス 臣下として捧ぐべき奉仕は當然で、
これを盡すことだけで報酬を受けたも同様でございま
す。殿下にはたゞ

我々の義務とするところをお受け下さればよろしいの
で、我々の義務は

王室や國家に對し、子孫であり従僕であります。

子孫や従僕は只その爲すべきをなして

殿下の御恩寵に浴す事をのみ心掛けるのでございます。

ダンカン まあ、ようこそ。

予は既に卿の植多つけをしたのだから、十分に生ひ育つ
やう

骨折りたいと思つてゐる。……バンコウ、

卿の勲功も更に劣らず、又この事を

よく認めねばならぬのだ。

さあ、予と抱き合つて、胸と胸とを合はさせてくれ。

バンコウ その腕の下で成長いたしますれば、

收穫は殿下のものでございます。

ダンカン この數限らない悦びは、

あまりに充ち溢れて、却つて

涙に隠れんとしてをるので。……王子等、同族の者、領

主たち

並びに予の近親者どもよ、よく聞け、

我等こゝに王位の繼承者として

長子マルカムを立て、以後カムブランドの王子と名乗り

しめる。

この榮譽はたゞ彼れ一人に與ふべきでなく、

名譽の徽章は、きら星を期き、すべて功勞ある者の胸に

輝かしめねばならぬ。(マクベスに向ひ)こゝから直

にインワーネス(の原城)に赴き

我等の交はりを一層深くしよう。

マクベス 休息は却つて苦勞で、殿下のお慣はしでもこ

ざいません。

私みづから準備係りとなり、御臨幸の吉報を齎して

妻の耳をも悦ばせませう。

では、お暇仕ります。

ダンカン さらば、コウデア!

マクベス 「傍白」カムブランドの王子! この階段に

踏くか、それとも、飛び越えるかだ、

俺の行手ゆくてにあるのだから。星よ、その火を隠せ、俺の眞黒な、深い望みは照してくれな。

眼は手の仕事を見て、見ぬ振りをしてをれ。併し事は遂行しなくてはならぬ、

遂行の曉には、眼が見るのを怖れるやうな事を。

退場。

ダンカン 成程、バンコウ、彼は實に勇敢だ、

彼を賞讃する言葉は、予の満腹の喜びだ、

予に取つては全くの饗應だ。彼の跡を追うて行かう、

我々を歓迎しようと、氣を揉んで先へ行つた。

比類ない同族の者だ。

華やかな喇叭吹奏。一同退場。

第五場

イングリネス。マクベスの居城。

マクベス夫人手紙を読みながら登場。

マクベス夫人 「彼等は勝利の日に、私の前に現はれたの

だつた。私は確かな證據から、彼等が人間の知識以上

のものを備へてゐることを知つてゐる。私が、もつと

彼等に訊問したいといふ願ひに燃えてゐた時、彼等は

空氣と化し、その中に消え失せた。事の不思議さに思ひ惱んで突つ立つてゐるところへ、王の使者到着し、

私を視すに「コウドアの領主」を以てした。この稱號は

この時より前に、かの豫言の姉妹等が私に言つた稱號

で、彼等は又來るべき日の私を指して、「お目出度う、

王たるべきお方」とも言つたのだ。この事は、わが

將來の光榮を願つべき親愛なる御身に、お知らせする

がよいと思ふ。どんな偉大さが御身に約束されてある

かを知らずに、當然の喜びを失つてはならないからで

ある。この事をとくと含み置かれよ。さらば。」

あなたはグラームスの領主です、それからコウドアの。

そしてきつと

約束された者にならなければなりません。たゞ私はあなた

の御性質が氣遣はれます。

一番手近な方法を擧むには、善人の乳があまりにあり過ぎます。

あなたは偉くはなりたいたいのです、

野心がないわけではないのです、が、たゞ

野心に伴はねばならぬ腹黒さがないのです。欲しくてた

まらなくてゐながら

清淨無垢でありたいのです。曲つた事はしたくないが、それでもやつぱり、不正なものをお望みになる。偉いグラーミスの御領主様、あなたの欲しいものは

かう叫んで居ります、「それが欲しいのなら、かうしなく
てはならない、
するのは怖ろしいが、しかし

せずには置けない」と。早くこゝへおいでなさい、
あなたの耳に私のこの元氣をつぎ込んであげますから。
私の舌の力で打ち挫いで、

頭に戴く黄金の環をあなたが手に入れる邪魔となる一切
を、みんな取り除いてしまひませう、

宿命も、超自然の助けも、あなたにその冠を
被らせようと約束してゐるのですもの。

使者登場。

何の用だね？

使者 王様には今夕こちらへお成りでございます。

マクベス夫人 まあ、氣狂ひめいた。そんな事を言つて

且那樣は王様と御一緒ではないのかしら？そんな事なら
お知らせがありさうなものではないの、準備のために。

使者 いえ、全く御領主様にも御歸城中にございませう。

同役の者が御領主様を追ひ越して走せつけましたが、息
を切らして殆んど死ななばかりで、やうやくこれだけ
の趣を申したのでございませう。

マクベス夫人 勞はつてやりなさい、
大事の知らせを傳へた者だから、

使者退場。

大鴉の聲も腹れて

私のこの城へダンカン王の不祥の臨幸を
啼き知らせせてゐる。……さあ、お前達

弑逆の企らみに伴ふ靈魔ども、来て私を女でなくしてお
くれ、

頭から足の爪先まで、醜惡な殘忍の心で
一杯にしておくれ！この血を癩らして

氣の毒と思ふ心への入口も、通路も、塞いでしまつて、
自然に備はる憐れみの情が思はず勃發し、

この兇惡な目的を動搖させたり、目指す企らみと
その實行の邪魔をさせてはなりません！……おゝ人殺し
に仕へる者どもよ、

私のこの女の胸に来て、乳を臍汁に代へておくれ、
(體汁
が多
いのは勇氣が
あるとされる)

お前達は、到るところに眼に見えない姿をして、人間の悪事を補助してゐるのだから！ さあ、眞暗な夜も来て、

地獄の黒煙にこの身を包んでおくれ、

さすれば私の鋭利な短刀も、その作る傷を見ないであらうし、

天も、闇の帷から覗いて

「待て、待て！」とは叫ばないであらうから。

マクベス登場。

偉大なグラミミス！ 秀れたコウドア！

来るべき日を祝うた言葉によりますと、

この二つよりも、もつと偉大な方！

あなたのお手紙で、何も知らなかつた現在から、

遠くの向うに連れ行かれてしまひました。今この目前にその將來を感じます。

マクベス 最愛の妻よ、

ダンカン王が今宵こゝにお見えになる。

マクベス夫人 そして何時お歸りになりますか？

マクベス 明日といふ豫定だ。

マクベス夫人 おゝ、決して

マクベス夫人 おゝ、決して

その明日といふ日を太陽に見せてはなりません！……あなた、あなたのお顔は、誰が讀んでも奇怪なことの書いてある

書物のやうに見えます。世間を欺くには

世間並の様子をしなければなりません。歓迎のお心を

眼にも、手にも、舌にも示して、無邪気な花のやうな様

子をし、

たゞ蔭に毒蛇を隠して置くのです。お出で下さる方には

支度をしなくてはなりません。今晚の大仕事は

私の手にお任せ下さいまし、

この一事で、私共の未來永遠の

無上の主權と威力を掴まなくてはなりませんから。

マクベス 二人でもつと話し合はう。

マクベス夫人 たゞ晴れやかな顔をしてゐて下さい。

顔色を變へるのは、心に怖いことがあるからです。

その他はみんな私が引き受けます。

兩人退場。

第六場

——マクベス居城の前。

木笛吹奏。炬火。ダンカン、マルカム、ドナルド

ン、バンコウ、レナックス、マクダフ、ロス、アンガス、並びに従者等登場。

ダンカン この城は氣持のよい處に立つてゐる。空氣が爽かで心地よく、我々の官能も慰められる。

バンコウ 夏の客人の

社殿を好む岩燕が、氣に入りの住居を造るのでも

その證據となりますが、こゝには天の氣息が

人の心を誘ふげに薫つて居ります。此も、檐も、

副壁も、使へるだけの隅といふ隅はどこにも、この小島の

懸床や、お産の搖籃を、造つてゐない所はありません。

彼等が好んで雛を養ひ、巢を營むところは、私の經驗に

よりますと

空氣が清らかでございます。

マクベス夫人登場。

ダンカン おゝ見よ、敬愛する夫人が來られた！……

我々はんまり親切につきまとはれて、却つて累ひとな

ることがある、

それでもやはり親切は親切として有難いものだ。この場

合にしても、あなたは

骨折つて置いて、また我等の祝福を神様に祈り煩はしい思ひをして、却つて禮を言ひなさるのだ。

マクベス夫人 すべて私どもの致しまする御奉公は、こ

れを二倍にし、更に二倍致しまして、

まことに貧しい、些細な事でございまして、到底

殿下が私どもの家門に賜ります深い廣い榮譽とは

較べものにはなりません。以前の御恩寵に、

又最近重ねて下さいました様々な高き爵位に對しまして

私どもは、御冥福を祈る御祈禱役となるばかりでござい

ます。

ダンカン コウドアの領主はどちらかね？

我々はすぐ跡を追うて馬を走せ、寧ろ追ひ越して我々が

準備役となる

目論見であつたのだが、領主はなか／＼の馬乗りだ。

また、大きな愛が、拍車に劣らず鋭いので、それに助け

られて

我々より先に家に歸つたのだ。美しく氣高き夫人よ、

我々は今夜、あなたの客人となりますぞ。

マクベス夫人 殿下の僕たる私どもは、

私どもに附屬し又所有して居りますものすべてを、殿下

からお借りしてゐるのでございますから、

御意次第で、いつでも清算し、

お返し致しますでございませう。

ダンカン さあ、手を。御主人のところへ案内してくれ

られよ。我等は彼を敬愛すること厚く

又いつまでも懇切にする積りだ。

失禮だが、夫人。「と手を組んで」

一同退場。

第七場 —— マクベスの居城。

木笛吹奏。炬火。一人の毒見役、數人の僕、皿や鉢

を携へて登場し、舞臺を横切つて退場する。暫く間

があつてマクベス登場。

マクベス やつつけて、それで結末が付くものなら

早くやつてしまつたがよい。若し暗殺が

この一網で、その結果をも

成功をも掴むことが出来るなら、又、たゞこの一撃が

萬事であり、萬事の終りであり、こゝでの、この世だけ

での事でもあるものなら、この現世といふ時の淺瀬や

洲の上で、來世などを飛び越してしまふのだが。併し

このやうな場合には

いつもこの世に審判がある。即ち我々が教へて

殘忍な行爲をさせれば、教へられたものが振り返つて

教へた者に禍ひする。この公平な正義の手は、

我々が調合した毒の杯を、却つて我々自身の唇に

勸めるのだ。王はこの城に二重の信頼を以て來てゐ

る。

第一に、俺は彼の姻戚であり臣下でもあるのだから、

どちらからにしても、力強くこの行爲には反對すべきも

の。次には、彼の主人役として、

危害を加へんとする者に對して戸を鎖しこそすれ、

みづから短劍を執るべき法はない筈だ。その上このダン

カンは、あの通り柔和な性質で、大權の運用にも

何等非難すべき所のない者だから、彼の徳だけでも、

喇叭の舌を持つた天使のやうに、彼を辯護し

彼を亡きものにするなどいふ暴戻無慚の行爲を責め立

てるであらう。

そして憐れみの心は、風に乗りにゆく眞ッ裸の生れたての

嬰兒のやうに、又は空中の眼に見えぬ飛脚、

即ち風を御する天童のやうに、この戦慄すべき行爲を人々の眼の中に吹き込み、涙は風を鎮めるほどにも流されよう。俺には何の拍車もなく

この計畫の脇腹を蹴立て、くれるものはない、たゞ跳ね上る野心ばかりが、動もすれば飛び過ぎて向側に墜落するのだ。

マクベス夫人登場。

どうした！ 何事だ？

マクベス夫人 御食事は大方済みました。なぜあなたは席をお去ちになつたのです？

マクベス わしをお尋ねだつたかい？

マクベス夫人 分りきつてゐるではありませんか？

マクベス この仕事はもうこれ以上進めまい。

最近恩賞には與つたし、又世間の人々から

黄金のやうな立派な評判も得てゐるし、

ぎら／＼輝いてゐるこの評判を身にも着けないで、

さら直に抛つにも及ばない。

マクベス夫人 では、あなたが着てゐらしたあの「希望」は、酔つ拂つてよもゐたのですか？ それから腹込

んで今日を覺し、あれほど進んでしようとした事を、まつ蒼になつて見てゐるのですか？ これからはあなたの愛も、こんなものだと思ひませう。熱望と同じ程度に、實行の力や勇氣を出すことを

あなたは憎がつてゐるのですか？ それこそ人生の飾りと思つてゐるものを、欲しい／＼と望みながら、自分で自分を臆病者と思ひ込み、

「欲しい」の次にすぐ「駄目だ」と仰しやつて、

謎にある氣の毒な猫の眞似をしたいのですか？ (癖は魚は足はぬらし)

マクベス まあ靜かに。わしは男のすべき事なら何でも

する。

それ以上の事を敢てする者は人間ではないのだ。

マクベス夫人 ではどんな獸だつたのです、

さつきこの計畫を私に打ち明かせたのは？

敢てそれを爲ようと打ち明けなすつた時こそ、あなたは男だつたのです。

そしてそれ以上の事をなされば、それこそあなたは

遙か人間以上になるのです。あの時は、時も、所も

何の便宜もなかつたのです。それでもあなたは何方も造

らうとさへなさいました。

二つの便宜は自づと出来ていゝ都合となつた今といふ今あなたの氣力は萎えてしまふ。私はね、授乳の覺えがあまりますから、

乳を吸ふ嬰兒の可愛さは知つてゐます。

けれども、嬰兒が私の顔を見てにこ／＼してゐる最中にあの柔かい齒ぐきから乳頸を引つこ抜き、

腦味噌を叩き出す事でも出来るのです、一旦、私があなたのやうに、

すると誓つたことなら。

マクベス　だが、もし失敗したら？

マクベス夫人　失敗る！

あなたの勇氣を縮場にしつかり締めつけてさへ置けば、

失敗りは致しません。ダンカンが眠込む時——

今日の少し無理な旅行のため、きつとぐつすり

眠りませうし——二人の侍従は、

私が酒を勧め祝盃を重ねさせて酔つぶして置きますから

腦の記憶は煙のやうになり、理性の容器は

ほんの蒸溜器に變ります。彼奴らが豚のやうに眠込んで

癡痺した體が死人のやうに横になつてゐる時、

あなたと私とで、あの衛りのないダンカンに

何の出来ない事がありませう？ 私共の大逆罪を、海綿

みたいに吸ひ込んだ

あの役人どもになすりつけ、

背負はす事も出来ませう？

マクベス　男の兒ばかり生みなさい。

お前の豪膽の素質は、たゞ男性を仕立てるのみに

適してゐる。どうだらう、お居間に仕へる

二人の眠坊に血をなすりつけ、彼奴らの持つてゐる

短剣を使用したら、彼奴らがしたのだとは

受け取れまいか？

マクベス夫人　さうでないよ、誰が言へませう？

私共が彼の死を見て、愁嘆の仕料をし

聲を擧げて騒ぎましたら。

マクベス　よし、決心した。この駭くべき大事の一點に、

すべての肉體の機能をひん曲げてくれる。

さ、あちらへ。結構な面をして世間を嘲つてやれ。虚偽

の心が知つてゐることを、虚偽の顔に隠させなくては

ならん。

兩人退場。

第二一幕

第一場

インワーネス。マクベスの居城の中庭。

バンコウ、炬火たいまつを持てるフレイヤンスを先に立て、登場。

バンコウ 何時頃だらうな？

フレイヤンス 月はもう入りはりました。時計の音は聞きませんでした。

バンコウ 月の入りは十二時だ。

フレイヤンス それよりも遅おそいと思ひます。

バンコウ 待て、俺の劍を持つてくれ。……天にも儉約

があると思へ、

蠟燭ろうそくがみな消してある。……これも持つてくれ。

重い眠氣が鉛のやうにのしかゝつて來るが

それでも眠りたくはない。慈悲深い神々よ、

非道の考へを壓おさへつけ給へ！ 眠つてゐると、

自然とそんな考が起つて來るから。

マクベスと炬火たいまつを持つた一人の従者登場。
その劍をくれ。……

誰だ？……

マクベス 大事な者だ。……

バンコウ おう、君はまだ休まなかつたのか？ 王はも

う御寢ごしんなされた。常ならず御氣色麗みけしなはしく、そして君の家來けらいどもへ、澤山の御下賜品があつた。

このダイヤモンドを添へて、夫人へ、親切にしてみらつ

た

挨拶を申してくれとの事であつた。そして限らない御満

悦で

お部屋へ入らせられた。

マクベス あまりに突然なので、

心に思ふばかりで至らぬ勝ちで、

存分の御款待も出来なかつた。

バンコウ いや、萬事上乗じやうじやうだつた。……

時に、わしは昨晚、あの三人の怪しい女共の夢を見た。

あいつ等は、君には幾らか眞實の事を見せた。

マクベス わしはあいつ等の事は考へてゐない。

が、そのうち暇な時、

君が都合さへしてくれよば、

この事について、ちよつと話したいのだ。

バンコウ　いつでも、君の都合のいい時に。

マクベス　その日に、若し君が堅く味方となつてくれよ

ば、

必ず名譽となるよう取り計らふよ。

バンコウ　名譽を加へんと願つて、

却つて失ふことなく、この胸は潔白で

忠義にも缺けるところがなければ、

相談に與からう。

マクベス　まあ、それまで、ゆつくりお休み！

バンコウ　有難う、君にも同様に！

バンコウとフレイヤンス退場。

マクベス　奥さんの處へ行つて、わしの飲物が出来たら

鐘を鳴らして下さいと頼んで来い。寝てもよいぞ。

從者退場。

や、あそこに見えるのは、短劍だな？

柄を俺の方に向けて。さ、掴ませろ。……

掴めない、しかし、やつぱり見える。

豫言めいた女影め、お前は眼には見えても

手には觸られんのか？ それとも單に

心の短劍、偽りの架空物、

熱し切つた頭腦から生れ出るものか？

まだ見える、その形もはつきりして、

今抜くこの短劍と全く同じだ。……

お前は、俺が行かうとしてゐた路へ案内するのだな。

そして俺は、さういふ道具を使はうとしてゐたのだ。

他の官能が正しくて眼だけが狂つてゐるのか、

それとも、眼だけが他の如何なるものよりも鋭いのか、

まだ見える。

そして刃と柄の上に、血糊がべつたりついてゐる、

前にはさうではなかつたのだが。……いや、そんなもの

はありはしない、

怖ろしい事を企らんでゐるので、あんなに俺の眼に

形を見せるのだ。……今この半球の上には、

萬物死せるが如く、悪い夢だけが

幕を垂れた睡眠を唆かしてゐる。今だ、妖婆どもが魔法

を行つて、

蒼白めたベケート(古典及び中世紀文學に現はれる魔法を支配する女神)への捧げ物を祝

ひ、瘡せ衰へた殺人者は、
吼えて夜の物見をする番卒の狼に

警戒せられ、こんな風に足を忍ばせ、

タークイン（古のローマの王子。貞淑なルクレシアの私室に忍んで姦し、彼女を憤死せしめ、爲めに放逐さる。）の淫

亂な足取で、その志すところへと亡霊のやうに動いて行く。……堅固不動の大地よ、

聞くな、俺の足音を、どつちへそれが歩いて行くかを。

若し聞いたなら、そこらにある石ともが俺の在所を嘍り、
今の場合に相應しいこの目前の怖ろしさを

奪つて行くであらうから。……俺が口だけで脅かしてゐる間は、彼はまだ生きてゐる、

實行の熱に較べれば、述べる言葉はあまりに冷たいものだ。

鐘が鳴る。

俺が行けば、事はすぐ成る。鐘が誘うてゐる。

聴くな、ダンカン。あれこそは葬ひの鐘、

お前を招いてゐるのだ、天國へか、それとも地獄へか。

退場。

第二場 —— 同所。

マクベス夫人登場。

マクベス夫人（少し酔つ）彼奴らを酔拂はせたその酒が、

私を大膽にしてみました。

彼奴らには消火用になつたのだが、私には心の火を煽りたてた。……しつ！ 靜かに！

呼んだのは梟、あの不吉な夜番だ、

もの凄しい聲で、「お寝み」と言ふ梟だつた。……

あの人は今やつてゐる。

戸は開けてある。腹一杯の下郎どもは、

駢をかいて自分の職務を忘れてゐる。彼奴らの卵酒には

毒を入れて置いたから、

死と運命とが摺み合つて、

生きようか、死なうかと、蹴いてゐるのだ。

マクベス（奥で）誰だ？ おい！

マクベス夫人 あゝ、彼奴らが目を覺まし、仕損じたの

ではないかしら。

計畫だけで實行してしまはないと、
身の破滅だ。……しつ！ 二人の短劍も私が用意して置

いたから、

見損ねる筈はない。……あの寝顔が

父にそっくりだったからこそ、さもなかつたら、私が自分でやつけたんだが。

マクベス登場。

あなた！

マクベス やつた。……物音が聞えやしなかつたか？

マクベス夫人 梟が鋭く叫び、蟋蟀が啼くのは聞きまし
た。

あなたは何か仰しやつたやうでしたね？

マクベス 何時？

マクベス夫人 今しがた。

マクベス 俺が降りた時か？

マクベス夫人 さうです。

マクベス しつ！

次の部屋には誰が寝てゐる？

マクベス夫人 ドナルベーンです。

マクベス 「己が兩手を見ながら」なさない態だなあ。

マクベス夫人 馬鹿な事を、なさないなんて。

マクベス 一人は眠りながら笑つてゐた、も一人は「人
殺し！」と怒鳴つた。

そこで二人とも目を覺ました。俺は突つ立つて、二人の
言ふことを聞いてゐた、

併し二人は祈禱をし、また眠つてしまつた。

マクベス夫人 二人とも同じ部屋に寝てゐます。

マクベス 一人が「神様のお恵みを！」と言ふと、も一
人が「アーメン」と叫んだ。

二人はこの死刑執行人の手をした俺を見たやうだつた。

俺は彼奴らの怖がる聲を立ち聴きしてゐたが、どうして

も「アーメン」と言へなかつた、

彼奴らが「神様のお恵みを！」と言つた時に。

マクベス夫人 そんなに深く思ひ詰めてはいけません。

マクベス 併し、なぜ俺は「アーメン」と稱へられな
かつたのか？

お恵みが一番必要なのはこの俺だ。それなのに「アーメ
ン」が

この咽喉に塞へてしまつたのだ。

マクベス夫人 かういふ事は、そんな風に

考へてはならないのです。そんなに思ひ込むと、私達は

氣狂ひになつてしまひますよ。

マクベス 何となく聲がして、怒鳴つてゐたやうだつた、

「もう眠るな！

マクベスは眠りを殺した！」と。あの罪のない眠り、

心配のもつれた糸をほぐしてくれる眠り、

一日の生活の大往生、辛い労働の入浴、

傷ついた心の膏藥、大自然の供する饗應、

人生に於ける大事な滋養物——

マクベス夫人 何を言つてるのです？

マクベス 何時までも家中にわめいてゐた、「もう眠る

な！」と。

「グラームスは眠りを殺したのだ。だからコウドアは

もう眠れはしない。マクベスはもう眠れないぞ。」

マクベス夫人 誰がそんな事を言つたのです？……ねえ

あなた、

そんなに氣狂ひじみたことを考へてゐると、

あなたの立派なお力を弱めてしまひますよ。

さ、あちらへ行つて、水を汲んで

その汚い證據を手から洗ひ流しておしまひなさい。

おや、なぜあなたは、その二本の短劍を持つて來たので

す？

あそこに置かなくちやいけないのに。持つて行つて、そ

して眠つてゐる従者どもに

血をなすりつけておいでなさい。

マクベス 俺はもう行かない、

やつた事を考へるだけでも怖ろしくなる。

二度とあれを見ることはとても出来ない。

マクベス夫人 意氣地のない方！

その短劍をお出しなさい。眠つてゐる者や、死んだ者は

繪と同じもの、

繪に描いた鬼を怖がるのは、

子供だけです。……若しまだ血を流してゐたら、

その血で従者の顔を塗つてやります、

罪を彼奴らに被せねばならぬのだから。

退場。奥にて戸を叩く音。

マクベス どこだ、あの叩く音は？

俺はどうしたのか、どんな物音にもぎよつとするが。

この兩手はどうだ？ おゝ！ 俺の眼を抉り出す！(兩手を

詰めてゐる豆球が飛び出して来る) 大洋神の海の水を悉く使つたら、この血を洗つて、

手が綺麗になるだらうか？ いや、俺のこの手が寧ろ

あの限らない大海を眞紅に染め

緑の海を眞赤にしてしまふであらう。

マクベス夫人再び登場。

マクベス夫人　私の手もあなたの色と同じになりまし

た。しかし私は、

そんな生白なましろい心臓を持つことを恥かしいと思ひます。

奥で戸を叩く音。

南の門に、戸を叩く音が聞えます。寢室へ歸りませう、少しの水で、した事は綺麗になつてしまひます。

わけはありません！　あなたの度胸どきょうは、

あなたを棄て、逃げてしまつたのです。

奥で戸を叩く音。

あれ、まだ叩いてゐる。

早く夜着をお着けなさい。呼び出された時に、

眠ぬずにゐた事を見せなくてはならないから。どうかそんな

つまらない物思ひは止して下さい。

マクベス　俺のした事を思ひめぐらす位のならば、

俺自身が分らなくなつてしまつた方がました。

奥で戸を叩く音。

叩け、叩いてダンカンを目覺ましてくれ！　出来るもの

ならさうしてくれ！

兩人退場。

第三場　――同所。

奥で戸を叩く音。門番登場。

門番

いや全く叩きをるわい！　これが地獄の門番だつ

たら、さぞ鍵かぎを廻すのが忙いそしい事ぢやらう。（奥で戸を

叩く音）叩く、叩く、叩く！　どなたです？　ビーエ

ルジバブ（悪魔あくまの一名）様のお名前で伺ひますが。……こり

やお百姓だ、賣り惜しんでうんと儲ける見込みが首を

くゝつたのぢやらう。さつさと入りな、手拭の用意はい

いかい？　こゝへ来ると、どつさり汗を掻くんぢやから。

（戸を叩く音）叩く、叩く！　どなた？　も一つの悪魔

様のお名前で訊くが。成程、お前さんはこつちへ来て

はあつちの、あつちへ行つてはこつちの、悪口をつい

て、雙方に誓ひを立てる二枚舌の人ぢやな。神様のお

爲めぢやなんかと言つて虚言うそをついたんぢやが、その

曖昧辯あいまいべんぢや天国へは行けないさ。さあお入んなさい、二

枚舌さん。（戸を叩く音）叩く、叩く、叩く！　どなた

様かね？　まつたく、こいつイギリスの仕立屋ぢや、

フランス風のツボンの型を盗んで、こつちへ来たんだ。お入り、仕立屋さん。こゝならお前さんの火殿斗が炙れるよ。「奥で戸を叩く音」叩く、叩く、ちつとも静かにしをらん！ どなたです？……だが、こゝは地獄にしちや寒すぎる。地獄の門番はもう止しちや。結構な櫻草の道を通つて、いつまでも消えない茶毘の火さして行く奴は、どんな商賣の奴でも通してやらうと思つてゐたんぢやが。「奥で叩く音」只今、只今！ どうぞこの門番をお忘れなさらないやうに。

マクダフとレナックス登場。

マクダフ おい、お前はそんなに遅く寢床に入つたのかい、こんなに遅くまで眠てゐるなんて？

門番 全く旦那、私共は二番鶏まで飲んでゐましたんで、その飲むつてやつは、例の三つの事を募らせますのね。

マクダフ 何だい、酒が特に募らせる三つの事とは？

門番 へい、旦那、鼻赤と、眠つ氣と、そして小便でさ

あ。色氣の方は、募らせもしますが、へこませもしますのね。その氣は起させて、力は取つちまふ。だから、あんまり飲むといふやつは、色氣に取つちやあ、

二枚舌だと言つてもいゝんです。色氣をこさへもするし寝しもある。けしかけたり、ひっこませたり、元氣をつけたり、がっかりさせたり、踏ん張らせたり、尻込みさせたり、とどのつまり、そいつを誤魔化して眠込ませてしまひ、虚言をついて逃げつちまふですよ。

マクダフ きつと昨晩は酒がその虚言といふやつをついたね。

門番 つきましたよ、旦那。眞赤な虚言をね。だがその虚言には返禮してやりましたよ。なんでも、ちよつくら手剛いのでね、奴め、時には俺の脛をすくつて、よろ／＼させましたがね、それでも、どうにかかうにか奴を吐き出してやりましたよ。

マクダフ 御主人はお目覚めか？

マクベス 登場。

マクベス 目を叩いたので、目を覺まされた。こちらへお出でだ。

レナックス お早うございます。

マクベス お早う、御兩君。

マクダフ 國王にはお目覚めですか、領主どの？

マクベス まだだ。

マクダフ 時に遅れず伺候せよとの御命令でした。

が、その時刻も、思はず過ごしてしまひました。

マクベス 御案内しよう。

マクダフ あなたは喜んで取つて下さる勞とは承知して

ゐるが、どちらにしても勞は勞です。

マクベス 我々が喜びとする勞は苦痛を癒してくれる。

これが御寢所の入口だ。

マクダフ 遠慮せずに参入します。

私の命ぜられた職務ですから。

退場。

レナックス 國王には本日御出發ですか？

マクベス 左様、さういふ御豫定だつた。

レナックス 昨夜はひどく荒れましたな。我々の宿泊した

所では、煙突が吹き倒され、そして人の話では、

悲しみのうめき聲だの、死神の不用議な高聲だの、

それから身の毛もよだつ調子で、嘆かほしい時節に新た

に企まれる

怖ろしい暴動、混亂の事變、

そんな事を豫言する聲だのが空中に聞えたと申します。

かの闇を好む梟は

夜もすがら啼き騒ぎ、或る者は、大地も

瘡を煩うて震へたと申します。

マクベス すさまじい夜だつた。

レナックス 私ども若輩の記憶では、これに比すべき例は

存じません。

マクダフ再び登場。

マクダフ おゝ恐ろし、恐ろし、恐ろし！

心にも思ひつかねば、舌にも述べる事は出来ない！

マクベス 何事か？

レナックス

マクダフ この上もない大騒動です、

冒瀆至極な殺人が、神の油を塗り給うた

御社(指す)を立ち割り、そこからそのお生命を

偷み去つたのだ。

マクベス 何を言つてゐるのか？ お生命だと？

レナックス 國王のことですか？

マクダフ 御寢所に近づき、この世のゴルゴン(ギリシヤ

女メデエサの首、即ちゴルゴンを一目)を一目見たら、

見るまゝその人は石に化してしまふ)を一目見たら、

君の眼も潰れるだらう。俺に話せと言はないでくれ、

自分で見て、自分で話す方がよい。

マクベスとレナックス退場。

(裏に向) 起きた！ 起きた！

警鐘を鳴らせ。人殺しだ、大逆罪だ！

バンコウとドナルベーン！ マルカム！ 起きた！

死の贖物の眠りを振り落し、

死そのものを仰ぎ見るがい！ 起きろ、起きて見よ、

世界滅亡の日そのまゝの映像を！ マルカム！ バンコウ！

ウ！

墓場から起き出でて、牛霊の如く歩むのでもなければ、

この惨虐と調子が釣り合ふまい。鳴らせ、鐘を。

鐘が鳴る。

マクベス夫人登場。

マクベス夫人 何事なのです？

あんな忌はしい警鐘を鳴らして、この家に寝てゐる人達

を呼び集めるとは？ 言つて下さい、言つて！

マクダフ おゝ優しい奥方、たとへこの口から言へるに

しても、あなたのお聞きになるべき事ではありません。

婦人の耳に入れようものなら、

又あの通りの人殺しになりませう。

バンコウ登場。

おゝ、バンコウ、バンコウ！

國王には無残の御最期。

マクベス夫人 まあ、恐ろしい！

この邸内？

バンコウ どこにしてもあまりに残酷な、

マクダフ、どうか今の言葉を取り消してくれ、

さうではないと言つてくれ。

マクベス及びレナックス、ロスを伴うて登場。

マクベス この事件の、せめて一時間前に死んでゐたら

それこそ恵まれた生涯を送つたのであつたが。もうこれ

からは

この世に嚴肅なものは何一つありはしない。

あるものは悉くほんの玩具だ、譽れも徳も死んでしまつ

た。

生命の酒は飲み盡され、滓渣ばかりが

丸い酒倉のこの地球に取り残されてゐるのだ。

マルカムとドナルベーン登場。

ドナルベーン 何事です？

マクベス あなたは御存じないのだが、あなた自身の身

の上に起つたことです。

あなたの血統の泉、頭、源が

塞つたのです、も、とが塞つたのです。

マクダフ 御父君は弑虐遊ばされました。

マルカム お、誰に？

レナックス 御疑室の二人らしいのです、

彼等の手といひ顔といひ、悉く血を浴びてゐましたから、

短剣も同様で、それを拭ひもせずに、枕の上にあるのを

發見いたしました。

兩人とも目を見ひらき、狂氣の體で、

あふなくて誰も近寄れぬ有様でした。

マクベス お、しかし私は後悔する、憤怒のあまり

彼等を殺してしまつたことを。

マクダフ なぜまたそんなことを？

マクベス 誰が、同じ瞬間に、狼狽しながらも分別をも

ち、落着いて義憤を發し、

忠義を思うて、しかも中庸を得る事が出来るだらう？

誰にも出来はしないのだ。

この激發する愛慕の速度は

引留役の理性を追ひ越したのだ。……こゝにダンカン王

が横たはつてゐられる、

白金の御皮膚は黄金色の血をもつて縁どられ、

深傷は丁度自然の裂け目に似て、

破滅の無残な入口となる。そこにはまた逆臣が

己がしたその大道の色に浸され、その短剣は

汚くも血糊を以て鞘としてゐた。この時、誰が制御し得

よう、

苟くも君をお慕ひ申す心を持ち、しかもこの心を

示すだけの膽力ある者が？

マクベス夫人 誰か、あちらへ連れて行つて下さい！

マクダフ それ、夫人を。

マルカム 「ドナルベーンに傍白」なぜ我々は黙つてゐ

るのか、

眞先に立つて議すべき者は我々なのに？

ドナルベーン 「マルカムに傍白」こゝで何が言へよう、

我々の運命が、

どんな小さな隙間に隠れてゐて、飛び出して、我々を捉

へぬとも限らぬものを。

逃げよう。

涙はまだ醸される暇もない。

マルカム 「ドナルベーンに傍白」さうだ、激しい悲しみ

も、まだ動き出さない。

バンコウ それ、夫人を。

マクベス夫人運び込まれる。

我々とても半裸體の寝衣姿では、風に當れば憐むから

これを更めて、會議を開き、

この殘忍極まる事件を調査し、

更になすべき事を識るとしよう。恐怖と疑惑が我々をゆ

り動かしてゐる。

わしはこゝに、神の大いなる御手のうちに立ち、今日以後

兇徒の祕密の計畫と

一戦することを誓ふ。

マクダフ わしもさうする。

一同 みんなさうしよう。

マクベス 我々は早速武士らしい衣服をつけ、

大廣間に會合しよう。

一同 承知した。

マルカムとドナルベーンを除いて一同退場。

マルカム お前はどうする？ お互にあの人達とは一緒

になりはすまい。

心にもない悲しみを見せるのは、

眞情のない人のたやすくすることだ。私はイギリスへ行

かうと思ふ。

ドナルベーン 私はアイルランドへ。分れ／＼の運命は、

却つて二人をより安全にさせよう。私共のゐるところは

微笑みのなかにも劍があり、血の近い者ほど

より多く血を流しさうです。

マルカム 弑逆の矢は放たれて

まだ落着いたとは言へないから、我々の一番安全な道は

その狙ひを避けることだ。だから、さあ早く馬に。

告別などいふ小さいことにかれこれ心配せず、

そつと忍び出よう。慈悲のないところなら

生命を取られぬやう忍び行くより道はないのだ。

兩人退場。

第四場 — マクベス居城の外側。

ロス、一人の老人を伴うて登場。

老人 七十年この方のことはよく覚えてゐます。

これだけ長い年月の間で、私の見たうちには、

怖ろしい時節、不思議な事件、様々な事がありますが、

併し昨夜のやうな痛ましい夜に比べれば、

以前に経験した事は皆つまらぬものでございます。

ロス あゝ、御老人、

御覽の如く、天も人間の所行に心を痛めてか、

残忍な舞臺のこの地球を齧^かみ合^あわしてゐるらしく、時計を見れば晝だが、

それにも拘らず、闇の夜が運行^{めぐ}りゆく太陽を抑へつけてゐる。

夜が勝ち誇つてゐるのか、それとも晝が恥ぢてゐるのか、生きた光が照らすべき時に、

暗闇^{くらやみ}が大地の面^{おもて}を葬^{くわ}つてゐる。

老人 不思議な事です。昨夜のあの事變と同じやうに。

この前の火曜日でした、

一羽の鷹が、誇りに空高く舞つてゐたが、

鼠^{ねずみ}を餌^{えし}食とする梟^{ふし}のために捕へられて殺されました。

ロス それからダンカン王の飼馬^{かひうま}——全く不思議だがた

しかな事だ——

もと／＼立派な馬で、その種のなかでも寵愛せられたも

のであつたが、

忽ち野性に歸つて荒れ狂ひ、厩^{うまや}を壊^{こわ}して跳^はね出し、

平常の訓練にも似ず、まるで人間と

戦ひを始めるつもりやうに思はれた。

老人 そして馬同志が噛^かみ合^あつたとも言ひます。

ロス その通り、それを見た私は、

呆^{おろ}れてしまつた。

マクダフ登場。

おゝマクダフが見えた、

いかゞです、世間の様子は？

マクダフ え、あなたには分らないのですか？

ロス あの残忍とも譬^{たと}へやうのない行爲をした者は知れ

ましたか？

マクダフ マクベスが誅戮^{つうりやく}したあの二人です。

ロス あゝ、あゝ、

一體どんな利益を狙^{ねら}つたのです？

マクダフ 咬^かかされたのです。

マルカムにドナルベーン、あの二王子が、

盗むがやうに逃亡せられた、その事が

あれの嫌疑を招くのです。

ロス いや／＼自然に反^{そむ}いてゐる。

何といふ法外な野心だらう、自分自身の命の源を

貪^かり食^くふなんて！ では多分

王權はマクベスの手に落ちるのでせう。

マクダフ 彼は既に指名され、戴冠式を擧げるため
スコンに行かれたのです。

ロス で、ダンカン王の御遺骸は？

マクダフ コーム・キルに運ばれました。

御先祖代々の聖き御廟舎、

その御遺骨の守護所はあそこです。

ロス あなたはスコンへお出でですか？

マクダフ いや、私はファイフへ歸ります。

ロス ともかく、私はあそこへ行かう。

マクダフ あそこで萬事うまく運ばれん事を！

左様なら！

とかく、着なれた古衣の方が、新しいのより樂に身につ

きますからね！

ロス 左様なら、御老人。

老人 神様のお恵みが、あなた様の上にも、そして又惡

をも善とし

仇をも味方とする方々の上にありますように！

一同退場。

第三幕

第一場 —— フォレス。王宮。

バンコウ登場。

バンコウ たうとうみんな手に入れた、王も、コウドア

も、グラミスも、何もかも、

妖婆どもが約束した通りに。そしてその爲めに、

忌はしい芝居を打つたのではないかね。しかし彼等の言

ふところによると、

これを繼承するのはお前の子孫ではなくて、

俺自身が諸王の根となり

父となるのだ。あいつ等でも眞實の事が言へるものなら

——

マクベスよ、お前にはあいつらの言葉が立派に當つてゐ

るのだから——

お前に對して適申した確實な證據から見ても、

彼等が同様に俺にも神のお告げとなり、

俺に希望を抱かせぬといふ法があらうか？　しかし、しつゝ黙つた。

セネット調の喇叭が響く。王としてのマクベス、王妃としてのマクベス夫人、レナックス、ロス、王侯、夫人達、並びに従者等登場。

マクベス　（パンコウに目をつけて）こゝに、一番大事な客人（客主）が居られる。

マクベス夫人　この方がお出で下さらなかつたら、

それこそ私どもの祝宴に一つの空所が出来て、何もかも似つかぬ事になりませう。

マクベス　今宵、正式の晩餐を催すにつき、

君も御列席願ひたい。

パンコウ　殿下は私に對し

たと御命令下さい。さすれば私の義務は、

決してほぐし得ぬ結目（結び目）で

いつく迄も御命令に結びつけられます。

マクベス　君はこの午後には何處かへ馬で出掛けられる

のか？

パンコウ　はい、そのつもりでございます。

マクベス　出掛けなければ、本日の會議に於て、君のす

ぐれた御意見を

承りたかつたのだが。君の御意見はいつも

大切な、有益なものだつたから。しかしそれは明日のこ

とにしよう。……

遠方までお出掛けか？

パンコウ　はい、只今から晩餐までは、

十分かゝる程でございます。私の乗馬が思ふやうに馳（は）せ

ませねば

或は一二時間、

夜に入るかも知れません。

マクベス　晩餐には間違はぬよう。

パンコウ　必ず後れはいたしません。

マクベス　聞くところによると、あの残忍な同族の者は、

一人はイギリスに

一人はアイルランドに落ち着き、己が残酷な

父親殺しは自白しないで、奇怪な架空談（架空話）を以て

聴く人の耳を満（み）たし居るとのこと。……併しこのことは

明日、

國政と一緒に、協議を

お願ひしよう。さ、早く馬へ。さらば。

では又晩に。……フリーヤンスも御一緒かな？

パンコウ 左様でございます。急ぎますから失禮致します。

マクベス 君の馬が速くて、脚も確かであることを祈り、その背中に君を託すことにしよう。御機嫌よう。

パンコウ退場。

晩の七時まで、銘々自由に

時を過ごすがよい。一層楽しく

會合を迎へるため、我等も亦晩餐時まで

只一人で居ることしよう。その時まで、さらば！

マクベスと一人の従者を除く外一同退場。

おい、ちよつと、あの者共は

指圖を待つてゐるか？

従者 はい、王宮の門の外に控へて居ります。

マクベス こゝへ連れて來い。

従者退場。

かうしてゐるだけではつまらない、

安全にかうしてゐなくては。……パンコウに對するわし

の恐怖は、

深く根を下してゐる。彼の高潔なる本性のうちには、怖るべきものがある。彼は勇敢である、怖るゝところを知らぬ氣象に加へて、

一種の智略があり、それが持前の勇氣を指導して

用心深く事を行はせる。彼の他には一人たりとも

その存在を怖るゝ者はないのだが、わしの守護神も

彼に會ふと辟易する。丁度

マーク・アントニの守護神がシイザーの傍にあつては辟

易したやうに。あの妖婆どもが初めて

王といふ名をわしに被せた時、彼は妖婆どもを叱り飛ば

して

自分にも何とか言へと命じた。そこで妖婆どもは豫言者

らしく

彼を歴代の王の父として祝うた。

して見ると、わしの頭に妖婆どもが置いたのは實らぬ王

冠、

わしの掌に握らせたのは空しい笏杖、

やがては血統の續かぬ者の手から握ぎ取られて

わしの子孫が後を繼ぐのではない。果してさうならば、

わしはパンコウの子孫のためにこの手を汚し

彼等のために慈悲深いダンカン王を殺害したのだ。
わしの平和な心の器に、兇悪な感情を盛つたのも、
たゞ彼等のためだ。そしてわしの不死不滅の費なる靈を
人類共通の敵なる悪魔に渡したのも

彼等を王とするため、バンコウの子孫を王とする爲めだ。
そんな事をする位ならば、さあ宿命よ、競武の庭に来て
わしに必死の戦ひをさせてくれ……誰だ？

二人の刺客を伴うて従者再び登場。

(従者)よし、戸口へ行つて、呼ぶまでそこに控へてゐろ。
従者退場。

打ち合せをしたのは昨日ではなかつたか？

第一の刺客 殿下、左様でございました。

マクベス では、わしの話をよく考へたであらうな？

分つたか、

過去に於て、彼がある爲めにお前達はいつも不運な目に
會うてゐたので、それをこの罪のないわしと

誤解してゐたのだ。この事は昨日の會見に於て

十分説明した筈だ、つまり、

お前達がどんなに操られ騙されてゐたか、

手先きになつたのは誰か、

實際やつたのは誰か、その他一切の證據を擧げて説明し
て置いたから、

氣の抜けた者でも、又氣の狂つた者でも、

「こんな事をしたのはバンコウだ。」と言ふだらうと思ふ
が。

第一の刺客 はい、承はりました。

マクベス さうだつた、それからなほ一步話を進めて置
いたが、それが今日の

第二回の會見の要點だ。一體お前達は、

忍耐を以て自然の感情を抑へつけ、

こんな事さへも我慢が出来ると思ふのか？ 福音の教へ
に従うて、

あの重い手でお前達を墓に屈めさせ、

お前達の家族を永久に乞食にした

あの善良なお方や、その子孫のために祈るつもりか？

第一の刺客 殿下、我々とても男でございます。

マクベス さうだ、名簿面では男だらう、

丁度獵犬でも、グレイ・ハウンドでも、雜種犬でも、西班

牙犬でも、野良犬でも、

むく犬でも、水犬でも、又は狼犬でも、いづれも

犬の名で呼ばれるやうに。だが評價表では、速い、のろい、伶俐なの

番犬、獵犬など、

情け深い大自然がそれづくに賦ち與へた天性に應じて

類別し、特別な名稱を附して、

どれもこれも一様に書き並べる一般名簿とは

區別されてゐる。人間とてもその通りだ。

そこで、お前達も評價表に入つてゐるなら、

そして男のうちの最下級でないのなら、さう言ふがよい。

さすればわしはお前達に一つの仕事を授けてやる、

それをやり終せばお前達の仇敵を除き、

このわしの寵愛を十分に受ける事になる。

わしの健康も、彼の生きてゐる限り病み煩うてゐるが、

彼の死と共に健全になるのだ。

第二の刺客 殿下、私こそは

世間からひどく打たれ、手荒に扱はれて來ましたので、

腹立ちまぎれに向う見ずになり、世間に仇することなら

どんな事でもする男です。

第一の刺客 私です、

もう災難には厭き果て、不幸には根負けし、

どんな機會にでもこの命を賭け、

芽をふくか、それとも死ぬるか、どちらでも關はぬ人間

でございます。

マクベス では兩人とも、

バンコウが自分等の仇敵だつた事が分つたな。

二人の刺客 殿下、分りましてございます。

マクベス 彼はわしにとつても仇敵なのだ、しかも血を

見ねば止まぬほどの敵意を抱いてゐるので、

彼が生きてゐる一分一秒が、

わしの命の最も大事なところを突き刺す思ひだ。無論わ

しは、

公然と権力を用ひて彼をこの眼の前から拭ひ去り、

そしてわしの意志を以てこれを是認する事も出来るのだ

が、しかもさうしてはならない事は、

彼にもわしにも友人に當る者があり、

その感情を害してもならず、自分で倒して置きながら、

それを嘆いて見せねばならん關係があるからだ。そこで

わしはお前方に一臂の力を懇望し、

この仕事を一般の眼から覆ひ隠さうと思ふのだ、

それにはいろ／＼重大な理由もあるからな。

第二の刺客 殿下、我々は喜んで

何なりと御命令通りに致します。

第一の刺客 よしやこの二人の生命が——

マクベス その心はよく分つた。遅くともこの一時間内に、

お前達がどこに待ち伏せすればよいかを指圖する、

そして事を擧ぐべき最上の機會を、またその時刻をも

知らせよう。是非今夜のうちに、この宮殿から

少し離れた所で、やらなくてはならないのだ、そしてい

つも

わしに少しの嫌疑も懸らぬようにしなければならぬの

だ、……それから彼と共に——

この仕事には少しの疵も、又手落ちもないやうにしたい

から——

同行してゐる一子フレイヤンスも

片づける事は、わしに取つて、

父親に劣らず必要な事だから、この暗闇時の運命を

背負はせなくてはならないのだ。……退つて、とくと決

心を堅めるがよい。

やがてまた逢はうから。

二人の刺客 我々は既に決心して居ります、殿下。

マクベス おきに又呼ぶから、奥で待つて居れ。

刺客退場。

事は決つた、バンコウ、もしお前の魂が飛んで

天國を索めるつもりなら、今夜のうちに行かねばならぬ

ぞ。

退場。

第二場 — 宮殿。

マクベス夫人と一人の従者登場。

マクベス夫人 バンコウはもう退出したかい？

従者 はい、左様でございます。併し晩にはまたお出で

になります。

マクベス夫人 王のところへ行つて、お手際きなら

ちよつとお話し申し上げたいと言つておくれ。

従者 かしこまりました。

退場。

マクベス夫人 みんな無駄になつてしまつて、獲る所は

一つもない、

望みは叶つても、満足はないのだから。

私共に命を取られる者の方がずつと安全でいゝ、命は奪つてもおどくした喜びのうちにある位なら。

マクベス登場。

いかゞなさいました、あなた！ なぜいつも一人ぼつちで

陰氣に考へ込んでばかりいらつしやるのです？

あなたの絶えず抱いておいでのお考へは、その考へてゐる相手の亡びると共に

考へ自身も亡ぶべき筈なのに。治療の全く届かないものは

うつちやつてお置きなざるがいゝのです。濟んだ事は濟

んだ事ですもの。

マクベス 蠱を滅多切りにはしたが、息の根は止めて置

かなかつた。

齧は治つて又もと通りになるだらう。そして我々の無力

な悪事は

昔のまゝに、その牙にかゝる危険があるのだ。

あゝ、萬物の粹なる大宇宙も碎け、天も地も共に亡びるがいゝ！

びく／＼しながら食事をしたり、眠りについて

夜な／＼心を揺動かすあの身の毛のよだつ夢に

苦しめられるよりはました。我々は平和を得ようと願ひ

平和の地へと彼を送つたのだが、我々も死人とともにあ

の世にゐればとて、

これほど、心の拷問臺で、落ちつかぬ狂亂に

憫むことはあるまい。ダンカン墓にゐる。

浮世の定めぬ熱病が終つて、彼は安らかに眠つてゐる。

最悪な叛逆はなし盡されて、刃も、毒も、

内憂も外患も、何一つ

これ以上彼を苦しめることは出来ない。

マクベス夫人 さあ／＼、

あなた、そんなむつかしい顔をなさらないで、

今夜はお客様と明るく愉快にして下さいよ。

マクベス その積りだ。お前もさうしておくれ。

特にパンコウに氣をつけて、

眼でも、言葉でも特別に彼を優待しておくれ。

まだ／＼我々は安全ではない、

尊嚴なるこの身をあんな阿諛追従の流れに浸し、

顔を心の假面として

あるがまゝの姿を隠さねばならぬやうでは。

マクベス夫人　あなた、そんな考へは止めなければいけません。

マクベス　おゝ、愛する妻よ！　わしの心は蝸で一杯になつてゐる。

お前も知つてゐる通り、パンコウも、息子のフレイヤンスも、生きてゐる。

マクベス夫人　ですけれど、彼等とても、何時までも生きてゐるわけではありませんすまい。

マクベス　それがせめてもの慰めだ。彼等とても鐵石ではない、

だから快活にしてゐなさい。蝙蝠が僧院のまはりを一廻りせぬうちに、黒いヘケートの招きに應じて。

堅い殻の甲蟲が、懶げな呻りを立て
眼げな夜の鐘をつき鳴らさぬ前に、怖ろしい容易ならん

事が仕遂げられるのだ。
マクベス夫人　仕遂げられるつて、何がです？

マクベス　まあ知らずにゐなさい、
そのうちお前もその行爲を賞めるから、……さあ、眼を

縫ひ閉ぢる夜の闇よ、

情け深い晝の優しい眼を隠し、

残忍な人には見えぬ手を以て、

あの大いなる手形(パンコウの生命を指す)を取り消し、これを了たす

たに引つ裂いてくれ

そればかりの爲めにわしは色蒼あざさめてゐるのだ！……光

は薄れ、鳥は

小暗い森へと翼を馳せる。

晝に生きる善良なものは首を垂れて眠り始め、

夜の腹黒い手下どもが起きてその餌食に向ふ。……

わしの言葉を聞いて驚いてゐるな、しかし黙つておいで。

悪で始めた事は、悪によつて強くなるのだ。……

さあ、一緒に行かう。

兩人退場。

第三場　— 宮殿に近い苑。

三人の刺客登場。

第一の刺客　だが、誰が俺達と一緒になれと言ひつけた

のか？

第三の刺客　マクベス王だ。

第二の刺客 この男を疑ふ必要はない、俺達銘々の役目

を間違ひなく言つたのだから。俺達の爲すべきことは
正確に指圖に従ふことだ。

第一の刺客 では一緒にゐ給へ。……

西の空はまだ夕焼けで淡く光つてゐる。

道に後れた旅人が旅籠にありつかうと

馬に拍車を加へる頃だ。

そろ／＼我々の待つてゐる御本人もやつて來るぞ。

第三の刺客 おい！馬の足音だ。

バンコウ 「奥で」おい、燈火をくれ、おい！

第二の刺客 いや／＼彼奴だ。

招かれた他の人々は、

もう宮殿にはひつてゐるから。

第一の刺客 馬が牽かれて行くぞ。

第三の刺客 一哩ほど。……だがこれはいつもの事で、

誰でもさうするのだ、こゝから宮殿の門まで

歩くのだ。

第二の刺客 燈火だ、燈火だ！

バンコウと、炬火を持つたフリーヤンス登場。

第三の刺客 あいつだ。

第一の刺客 しつかりしろ。

バンコウ 今夜は雨になりさうだ。

第一の刺客 刀の雨を降らせろ。

彼等はバンコウに打ちかゝる。

バンコウ おゝ、卑怯な！逃げろ、フリーヤンス、

逃げろ、逃げろ、逃げろ！

仇を返す日もあらう。おゝ奴隷めが！

死ぬる。フリーヤンスは逃亡する。

第三の刺客 誰が燈火を消したのだ？

第一の刺客 いけなかつたのかい？

第三の刺客 一人仕留めただけだ。件は逃げてしまつた。

第二の刺客 俺達の仕事の大事な半分は駄目になつた。

第一の刺客 ともかく行かう。そしてやつただけの事を

復命しよう。

一同退場。

第四場 — 宮中の大廣間。

大饗宴の準備がしてある。マクベス、マクベス夫人、
ロス、レナックス、貴族及び従者等登場。

マクベス 席順は御存知の筈だ、さ、着席下さい。

御一同に向ひ一度に心からの歓迎の意を表します。

貴族等 殿下に御禮を申し上げます。

マクベス わしも同席して、

主人の役目を勤めませう。

女主人は暫らく妃の座に留まるが、適宜の時に

挨拶をさせませう。

マクベス夫人 どうぞ私に代つて、挨拶をお述べ下さい

まし、

心では、皆様を御歓迎申して居りますから。

第一の刺客戸口に現はれる。

マクベス 御覽、皆々滿腔の感謝を以てお前に答へてゐ

なさる。

どちらの側も平等だ、わしはこの中央に坐らう。

打ちくつろいで歡を盡して下さい。やがて一同揃つて

乾盃を致さう。「戸口に近づいて」汝の顔には血がつい

てゐるぞ。

刺客 それはバンコウの血でございます。

マクベス 彼の内に流れてゐるより、汝の顔についてゐ

る方がよい。

片づけたか？

刺客 殿下、咽喉を掻つ切りました。私がやつたのでご

ざいます。

マクベス 汝は咽喉切りの達人だ。

しかし同じやうに

フリーヤンスを片づけた者も、劣らず立派だ。それもお

前がしたのなら、

それこそ無類の名人だが。

刺客 殿下、

フリーヤンスは逃亡いたしました。

マクベス では又わしの病氣が起るな。

さもなければ、わしは

大理石のやうにしつかりして、巖のやうに堅く立ち、

この周圍の空氣ほどにも、心廣々と自由なのだが。

それが反對に、今では意地悪の疑惑や恐怖の虜となり、

閉ざされ、押し込められ、幽閉せられ、縛りつけられてし

まつた——だが、バンコウは大丈夫だらうな？

刺客 はい、殿下、大丈夫、溝のなかに落ち着いて居り

ます。

頭に二十の深傷を受けて

その一番小さい傷だけでも死んでしまひます。

マクベス それは有難う。

親蛇は死んでしまつた。逃げた小蛇も

當然、時が来れば毒を醸すだらう、

今でこそ牙もないのだが。……退れ、明日

又話し合はう。

刺客退場。

マクベス夫人 あなた、

あなたはまだ皆様に十分なお款待をなさいませぬ。

宴會の最中に度々歓迎の意を口にしませぬと、

代を拂つて食べるのと同じになります。

只食べるだけでしたら、

誰でも自宅のが一番よろしいわけです。

わざ／＼来られました方々には、食事にお款待といふ味

を附けるものです。

それがなかつたら、宴會は徒食に終ります。

マクベス よく氣をつけてくれた。……

さあ、十分に食べてよく消化し、

そして益々健康になられるよう!

レナックス 殿下、どうぞ御着席下さい。

パンコウの亡靈登場、マクベスの席に坐る。

マクベス これで我國に於て名譽ある方々が悉く一堂に

會した事になる。

あのパンコウさへ列席してくれたなら。

しかし彼に缺席の不實は責めようとも、不慮の災難を悼

むことのないやうに祈りたい!

ロス 彼の不參は

破約の罪を免れません。殿下には何卒

御着席下さいませう。

マクベス 席は一杯ではないか。

レナックス こゝに一つ取つてございます。

マクベス どこに?

レナックス こゝにございます。……殿下は何故に左様

な御亂心であらせられますか?

マクベス 誰がこんなことをしたのだ?

貴族達 何でございませうか?

マクベス (パンコウの亡靈に向つて) わしがしたとは言はせんぞ。……

そんな血みどろの髪の毛をわしに向つて振り立てるのは

止してくれ。

ロス 諸君、お起ちなさい。殿下は御不例です。

マクベス夫人 どうぞ皆様、お坐り下さい。王には度々

かういふことがあります。

幼い時からです。どうぞ席を離れないで下さい。

發作は一時の事で、

ちぎりに又よくなられます。あまり御注視なさいますと、

却つて御機嫌を損じ、御病氣が長びきます。

どうぞ召し上つて、關はないで下さい。……あなたは男

ですか？

マクベス さうだ、しかも大膽な男だ、悪魔でも慄然と

するあのものをさへ、

敢て見詰めてゐる男だ。

マクベス夫人 まあ、つまらない囁語を！

これはあなたの恐怖心が描き出した繪に過ぎません。

いつかお話の、ダンカン王の處へ案内したといふ、

あの空に描かれた短劍と同じです。おゝ、こんなに急に

怯えたり、激したりなさるなど、

眞の恐怖に較べれば贗物で、冬の爐邊に

お婆さんの保證する女童の物語にこそ

似合ひませう。ほんとに恥かしい！

なぜそんなお顔をなさるのです？ 結局は

あなたは椅子を見つめてゐるだけです。

マクベス あそこを御覽！ 見なさい！ そら！ しつ

かり見なさい！……どうだ？

なに、關ふものか？ うなづける位なら、物も言つて

見ろ。

若し納骨所や我々の墓場が、一旦葬つた者を

また送り返さねば措かぬといふなら、埋葬はやめて

蓋の胃袋を墓場にするぞ。

亡靈消える。

マクベス夫人 まあ、馬鹿げた事で勇氣をお挫きでした

のね。

マクベス わしがこゝに立つてゐるのが夢でないなら、

わしは確かに彼奴を見た。

マクベス夫人 馬鹿なことを、恥ですよ！

マクベス 血は今まで随分と流されて來た、昔から、

人の法規が世を清めて、柔和な土地としてからも、

さうだ、その以後とても、聞くも身の毛のよだつ殺人罪

が行はれて來た。併し昔は

腦味噌を叩き出せば、人は死んで、それで

一段落といふのが常であつたが、今では、

頭に二十の致命的な傷を受けながら、又起きて来て、我等を座席から押しつける。これこそこの殺人罪そのものよりもずつと奇怪だ。

マクベス夫人 あなた、皆様が待つてゐられます。

マクベス おう、うつかりしてゐた。

どうぞ諸君、わしの事を怪しまないで下さい。

わしは不思議な病氣を持つてゐるが、わしを知つて呉れる者には何でもないのです。

さ、諸君に親睦と健康を祈つて飲みませう。

それから着席する事にします。……酒をくれ、なみ／＼

と注いでくれ。

乾杯しよう、満堂の諸君のために、

又我々の親友バンコウのために。彼がゐないのは寂しい、

あゝ、彼がゐてくれさへしたら！ 諸君と彼のために健康を祝す。

そして諸君の萬福を祈る。

貴族達 忠誠と祝盃を捧げます。

亡靈再び登場。

マクベス 去れ！ 目障りだ、大地の底に隠れてしまへ！

貴様の骨には髓がなく、貴様の血は冷たいのだ。

両眼をきよろつかせても
視る機能はないのだぞ。

貴族等驚いて又席を起たんとする。

マクベス夫人 皆様どうかこれは

いつものことと思つて下さいまし。全くさうですから。

たと折角の歡樂を損ねてしまふのは困りますが。

マクベス 人間のすることなら、俺も敢てする。

近寄るなら、毛むくぢやらのロシヤ熊か、又は角を堅め

た犀か、或はヒルカニヤの虎ともなつて来い！

その姿以外ならどんな形を帯びようとも、俺の堅固な神

經は

びくともするものではない。それとも一度生き歸つて、

人里離れた荒野に長劍を振つて挑んで来い！

その時俺がふるへ上つて家に引つ込んでゐるなら、俺

を娘つ子の人形だと

公言しろ。あつちへ行け、怖ろしい死の影め！

ありもせぬ愚弄物め、去れ！

亡靈消える。

あゝ、行つてしまへば、

わしも男だ。……どうぞ、お坐り下さい。

マクベス夫人　あなたは歡樂の席を撥亂し、立派な會合

をぶち壊し、

飛んでもない騒ぎにしておしまひでした。

マクベス　あんな物があつて、

夏の雲のやうに被さつてくるのに、

どうして驚き呆れずにみられよう？　諸君の様子を見れば、

わしは自分で勇氣ある天分と思つてゐたのが疑はしくなる。

諸君はあんな光景を見て、

しかも、自然のまゝの頬の赤さを失はずにゐる、

わしは恐怖で蒼白になつてゐるのに。

ロス　どんな光景です？

マクベス夫人　どうぞ、話しかけないで下さいまし。次に

第に悪くなります、

質問するとひどく立腹しますから。すぐ御退席下さいまし。

し。

退出の順序などは構はずに、

早速お引き取り下さいまし。

レナックス　ではお休みなされませ、殿下には速かに御

恢復遊ばれますよう！

マクベス夫人　皆様にも御機嫌よろしう！

マクベスとマクベス夫人を残して一同退場。

マクベス　血を求めろのだから、血は血を求めるといふから。

墓石が動き、樹が告口をした話も聞いた。

豫言者は事物の相關の理法により、

鶴や、燕鳥や、白嘴鴉を用ひて、

隠しに隠した人殺しさへ、尋ね出した事がある。……もう

何時になるか？

マクベス夫人　もう夜だか朝だか、どつち附かずの障目

です。

マクベス　どう思ふね、マクダフが我等の嚴命にも拘ら

ず出席を拒んだのを？

マクベス夫人　使者をお遣はしでしたか？

マクベス　いや、不圖聞いただけだ。使ひをやらう。

どこの領主の邸内にも、一人は

わしが買収して置いた僕のゐない所はない。……明日は

行かう、

折を見てあの豫言者の妖婆どものところへ。

彼等にもつと言はせなくてはならん、どんな悪い手段を

用ひても

どんな悪いことまでも知る決心だから。わし自身の利益の爲めなら

どんなことでも犠牲にするのだ。血沼ちぬまのなかに
かうまで踏み込んだ以上、もう逃にげるのはやめるにしても、
歸るのは行き切ると同じく難澁なじぶだ。

異様な考へがいろ／＼頭にあつて、手にまで移りたがつてゐるが、

穿鑿せんさくされないうちに、實行してしまはなくてはならぬ。

マクベス夫人 あなたに要いるものは、生物せいぶつに大切な腐敗
どめです、眠りです。

マクベス さあ、眠るとしよう。……この異様な自分を

惑まどはす幻影は、

初心者によくある臆病おくびょうで、厳しい訓練くんれんが足りないからだ。
お互に悪事にかけてはまだ幼稚ちういだ。

兩人退場。

第五場

——荒蕪地。

雷鳴。三人の妖婆登場、ヘケートに出會ふ。

第一の妖婆 おや、どうしたの、ヘケートさん！ お腹

立ちのやうだね。

ヘケート その管ぢやないか、お前達のやうな恥知らず

の圖々づうくしい婆だからつて、よくも

マクベスに謎なぞをかけて、生死せいじの事柄ことづかひを賣買うりかひしたね？

この私は、お前達のする呪まじないひの師匠しせうで、

悪事といふ悪事の祕密ひみつの計畫者けいさくしやなのに、

その役目を勤めるためにも、又法術ほうじゆつの榮えを

示すためにも、一度だつて私を呼んだかい？

それに、もつと悪いことは、お前達のした事つたら、

みんなあの邪慳じけんな、亂暴らんぼうな、我儘わがままな男の爲めばかりさ。

あいつは他の人間とおんなじに

自分の事だけ可愛がつて、お前達を崇あがめはしない。

さあ、これからは改心かいしんしな。みんなあつちへ行つて、

アカロンの洞ほらで(ギリシヤ神話の幽冥界にある河の名だ)
(が、ここでは妖婆の棲息する地方の名)

明日の朝私を待つてゐな、あそこへあの男が

自分の運うんを聞きに来るから。

お前達の器うつわや、咒符まじないや、護符ごふや、

その他何でも用意してお置き。

私は空そらを飛んで行つて、今夜一晩はもの凄すごい、

怖ろしい目的に使ふんだ。

大仕事は正午前にしなくてはならん。

あの三日月の隅つこに

験の強い蒸氣の雫が垂れてゐる、

地に落ちぬ間に、掴まへてくれよう。

あれを不思議な妖術で蒸溜すると、

ちやんと目に見える生靈を呼び起すから、

その幻影の力を借りて

あいつを破滅に誘うてくれる。

あいつは運命を足蹴にし、死神を嘲弄し、自分の望みを

智慧や徳や恐怖の及ばない處に置くやうになるのだ。

お前達の皆知る通り、自惚が

人間第一の仇だからな。

奥にて音楽と歌の一節『來れ、來れ、云々』。

お聞き！ 私を呼んでゐる。御覽、私の小さな精が、

霧深い雲に坐つて、私を待つてゐる。

退場。

第一の妖婆 さあ、急がうよ。あの人はちき歸つてくる

から。

一同退場。

第六場 —— フォレス。宮殿。

レナックスと今一人の貴族登場。

レナックス 私の前に言つた話が丁度君の考へと一致し

た、

それ以上は察して貰ひたい。たゞ何もかも、

不思議ななされ方だとだけ言はう。徳の高いダンカン王

は、

マクベス王から哀悼された。それも尤もだ、亡くなられ

たのだからね。

それからあの勇敢なバンコウが夜道を歩いてゐた。

そのバンコウをフリーヤンスが殺したと言ひたれば言

つてもよろしい。

なぜなら、フリーヤンスは逃亡したのだからね。何しろ

夜道はすまいものだ。

一體誰だつて奇怪至極だと思はずにゐられようか。

マルカムとドナルベーンが

慈悲深い父王を殺すなんて！ 墮地獄の行爲だ！

どうだ、マクベス王が痛歎された事は！ すぐさま

尊き義憤を發して、あの二人の不埒者、——酒の奴隷と

なり、

睡眠の捕虜となつてゐた奴を引き裂かれた。

あれこそ高潔な行爲さ。さうだ、賢明な行爲でもあるのさ。

なぜなれば、生きてゐる者だつたら誰だつて怒らうでは

ないか、

あの二人が決して致しませんと言ひ張つたらね。そこで、マクベス王のなされ方は何もかもお上手だと私が言ふのだ。ところで、

若し萬一ダンカン王のお子様方が彼の手の届く所にゐら

れたとしたら——

どうか決してそんな事のないやうに天に祈るがね——お

二人は、

父を殺すといふ様な目に逢ふか、思ひ知られるだらうよ。

フライヤンスだつてさうだ。

併し、高聲では言はれない、マクダフは、率直な言葉と

あの篡奪王の宴會に出席しなかつたといふ事が原因で、

不興を蒙つたと聞いた。ね、君、

彼がどこに隠れたか知つてゐるかね？

貴族　　ダンカン王の御息で、

この横領者に相續權を奪はれた方は、

イギリスの宮廷に居られ、あの信心深い

エドワード王から、深い憐れみを以て待遇され、

運命の悪意も、王子の氣高い尊嚴を

何等汚すところのない有様です。マクダフもそこへ行き、

聖者の如き王に懇願し、その援助を得て、

ノーサムブランド侯と勇ましいシイワードを起させよう

としてゐます。

是等の人々の助けを借り、又この業を嘉し給ふ

天の御加護を俟つて、我々ももう一度、

食卓には食物を、夜には眠りを與へられ、

宴會にも、祝賀の席にも、血腥い短劍沙汰はなく、

誠の忠義を捧げ、危なげない榮譽に與りたいものです。

これを我々すべては今渴望してゐるのです。ところがこ

の情報は

マクベス王を甚だしく激怒せしめ、

王は戰備に取り掛つて居られます。

レナックス　　王はマクダフに使者を出したか？

貴族　　出しました。ところがきつぱりと「いや、御免を

蒙る」と言つたので、

顔を顰めた使者は、ぐるりと背中を向け、

何かぶつ／＼言つたらしく、「俺にこんな返事を

背負はずと今に後悔するぞ」と言はんばかりの様子でし

た。

レナックス　して見ると、

マクダフは豫じめ警戒し、分別の及ぶ限り、

王から遠退くやうにしなければならぬ。どうか尊き天の

御使がイギリスの宮廷へと飛んで行き、彼の到着を待

たす、

その使命を傳へ、片時も早く、祝福が

毒手の彈壓に憊むこの我々の國へ

歸つて来るように！

貴族　私の祈りも一緒に言傳けませう。

兩人退場。

第四幕

第一場

或る洞窟。中央に煮えたぎつてゐる大釜。

雷鳴。三人の妖婆登場。

第一の妖婆

斑猫が三度鳴いた。

第二の妖婆

狷が三度と一度鼻を鳴らした。

第三の妖婆

怪鳥が叫んでゐる「もういよよ、いよよ」

つて。

第一の妖婆

(歌ふやう)釜のほとりをぐる／＼行きな、

投げ込め毒の染んだはらわた、

蟾蜍よ、冷たい石の下で

三十一日、三十一夜、

眠ながら毒の汗かいた蟾蜍よ、

最初に煮えろよ、魔法の釜で。

一同

倍になれ、倍になれ、苦勞も難儀も、

薪は燃えたと、お釜はたぎれ。

第二の妖婆

沼地の蛇の厚い肉、

こいつを釜で煮て固めろよ。
 蠶蛾の眼球、蛙の足指、

蝙蝠の毛に犬の舌、

毒蛇の二又舌、足無蟲の刺、

蜥蜴の脚に木兎の翼、

大きい離儀の咒いに、

地獄の粥ほど煮たてよ、たぎらせ。

一同 倍になれ、倍になれ、苦勞も難儀も、

薪は燃えたとて、お釜はたぎれ。

第三の妖婆 龍の鱗や、狼の牙、

妖婆の木乃伊、慾ばりものゝ

鹽海鯨の胃袋、胃の管、

闇夜に抜いた毒人蔘の根、

神を漬した猶太人の肝臓、

山羊の膽汁、月蝕の夜に

皮はいだ水松のへげ切れ、

トルコ人の鼻、ダットン人の唇、

自墮落女が溝に生み落し

落すと絞殺めた赤兒の指、

粥を濃くしろ、どろ／＼にしろ。

も一つ添へて虎の臍腑、

おいらの釜の中味は出来る。

一同 倍になれ、倍になれ、苦勞も難儀も、

薪は燃えたとて、お釜はたぎれ。

第二の妖婆 そいつを冷やすにや狛々の血だ。

すると咒符、出来たぞ立派に。

ヘケイトがこの三人の妖婆のところへ登場。

ヘケイト おゝ、よく出来た！ 御苦勞だつたね。

儲けはみんな山分けさ。

釜のまはりで、さあ歌ひなよ、

輪になつた小人や仙女のやうに、

煮てゐるものに魔法をかけて。

音楽と歌『黒き雲よ』云々。ヘケイト物蔭へ退く。

第二の妖婆 わしの拇指がびく／＼動くよ。

何か悪い者がこちらへ来るのだ。

開けるよ、錠よ、

誰が叩くことも！

マクベス登場。

マクベス おいこら、こそ／＼と不祥な事をする丑滿時

の妖婆共、何をしてゐるのか？

一同 名のつけられない事さ。

マクベス お前達の職とするものにかけて懇願する、

お前達がどうしてこれを知つたかはとにかく、俺の間ふ

ことに返答しろ。

そのため風を放ち、大伽藍にぶつゝからせて

揺り動かし、泡立つ波は

船舶を混乱せしめて呑み盡くさうとも、

よしや穂の出ぬ麥さへ折られ、立木は吹き倒されよう

も、

また城はよろめいて番兵の頭上に顛覆し、

宮殿も、金字塔も、その頂邊を

礎の上にかしげようとも、大自然の

種子を藏する寶の庫が悉く一緒となり

破滅そのものさへ飽滿して病まうとも關はない、俺の間

ふところに一々返答しろ。

第一の妖婆 問ひな。

第二の妖婆 訊きな。

第三の妖婆 答へるよ。

第一の妖婆 わし等の口から聞きたいか、

それとも師匠達からか？

マクベス 師匠を呼べ、俺に逢はせろ。

第一の妖婆 注しなよ血を、九匹の子豚を

食つた牝豚の、血を注しな。人殺しの

紋殺臺から滴れ落ちた油を

燃え立つ中に投げ込みな。

一同 來なよ、高下の差別なく、

自分と手練を上手に見せな！

雷鳴。第一の幻像として兜をつけた首が現はれる。

マクベス 語れ、汝不可知の力！

第一の妖婆 お前さんの心は彼に分つてゐる。

何とも言はずに、聞いておいで。

第一の幻像 マクベス！ マクベス！ マクベス！

警戒せよ、マクダフを。

警戒せよ、ファイフの領主を。往かせよ、これで十分だ。

〔下る〕

マクベス 何者だか知らないがよい警告をしてくれた、

有難う。

貴様は丁度俺の怖いと思ふところを當てた。併しもう一

言——

第一の妖婆 彼は指圖は受けない。そら又一つ、

初めのよりもつと力があるよ。

雷鳴。第二の幻像として血に染んだ嬰兒が現はれる。

第二の幻像　マクベス！　マクベス！　マクベス！

マクベス　耳が三つほしいほど、よく聞いて居るぞ。

第二の幻像　惨酷に、大膽に、勇敢にやれ。人間の力を

嘲笑しろ。女人の腰より生れし者にて

マクベスに危害を加へん者、一人もなし。「下る」

マクベス　では生きて居れ、マクダフ、何の貴様を怖れ

る必要があらう？

しかし、それにしても、俺は確實を二倍に確實にし、

運命の手から契約書を取つて置くぞ。貴様は生かしては

置かん。

さすれば俺は自分の青つちろい恐怖に向ひ、嘘をつくと

言つてやり、

轟く雷のなかでも、平気で眠つてくれるわ。

雷鳴。第三の幻像として王冠をつけた幼児、手に一

本の杖を持つて現はれる。

何だこれは？

王の子らしい姿をして、

幼い額には、主權者の丸い冠と

飾りをつけてゐるが？

一同　聞いておいで、話しかけてはいけない。

第三の幻像　獅子の氣象となり、驕慢になり、誰が立腹

し、誰が焦燥しいづこに叛逆者あらんも、意とするな。

必ずマクベスは征服さるゝ事なし、

大バーナムの森の、高きダンシネインの丘に來つて、

彼を攻めん日までは。「下る」

マクベス　それこそ決してあり得ない。

誰が森に賦役を強ひ、立木に命じて

地に下ろした根を抜けと命ずる事が出来よう？　はて心

地よい豫言ちや！　よし！

御し難い死人め（バンコウ）！　バーナムの森がせり上つて

来るまでは、

決して墓から出て来るな。この高き位にあるマクベスは

天壽の終るまで生き存らへ、時到つて人間の倣ひに従ひ

大往生を遂げるのだ。とはいへこの心臓は

高鳴りして一つの事を知りたがつてゐる。……言へ、貴

様達の妖術が

それ程の力があるならば、いつの日にバンコウの子孫が

この王國に君臨することがあらうか？

一同 この上知らうとせぬがよい。

マクベス 是非訊いて満足したい。これを拒めば

永遠の呪ひはお前達の上を下るぞ！ 知らせろ。……

や、釜はなぜ落ち込んだのか？ あれは何の音だ？

木笛の音。

第一の妖婆 見せろ！

第二の妖婆 見せろ！

第三の妖婆 見せろ！

一同 眼に見せて、心に泣かせろ。

影のやうに來て、影のやうに去れ！

八人の王の行列、最後の者は手に鏡を持つてゐる。

バンコウの亡霊が後につゞく。

マクベス 貴様はバンコウの幽霊に似すぎてゐる、退

れ！

貴様の王冠は俺の眼の球を焼き焦がす。それから貴様

も一人の金冠の男、貴様の髪の毛も前のに似てゐる。

三番目のも同様。汚ららしい婆婆め！

なぜこんな光景を俺に見せるのか？ 四番目！ 飛び出

てしまへ、この眼球め！

この行列は最後の審判を告げる雷鳴の日まで續くのか？

まだある！ 七番目！ もう見んぞ。……

しかし八番目が現はれを、鏡を持つて

まだく大勢居ることを見せてゐる。それから、

王玉を二つと笏杖を三本持つてゐるのがある。

怖ろしい光景！ もう分つた、いよく本當だ。

血みどろのバンコウが俺に向つてにたく笑つて、

前のは己が子孫だと指してゐる。

幻像皆消える。

あゝ、さうなるのか？

第一の妖婆 はい、みんなさうですよ。が、なぜ

マクベスさんは氣拔したやうに突つ立つてるんだらう？

さあ、この人の元氣が出るやうに、

わし共の面白い慰みをお目にかけてよ。

わしは、空に呪ひをかけて、伴奏をして貰ふから、

お前さん達は例の古ぼけ踊をやるんだ、

するとこの偉い王様が優しう仰しやつて下さらうぜ、

お前達は忠義の心を以てよく歓迎してくれたつてね。

音楽。妖婆等踊る、それから消える、ヘケートも共に。

マクベス あいつ等はどこにゐる？ 行つたか？ 今日

のこの厭な日は

暦こよみの中で永遠に呪はれた日となれ！

入れ、外に居る者！

レナックス登場。

レナックス 殿下、何御用でございますか？

マクベス 君は怪あやしげな女共を見たか？

レナックス いえ、殿下。

マクベス 側わきを通らなかつたか？

レナックス 何も通りません。

マクベス あいつ等の乗る空気には病毒が傳染し、

あいつ等を信用する奴は地獄に墮おちろ！ 俺は確かに

馬の跑は馳ちの音を聞いた。誰か通つたのか？

レナックス 二三の御使者がこちらに参りまして、

マクダフがイギリスに逃亡したと申します。

マクベス イギリスに逃亡！

レナックス 左様でございます。

マクベス 「傍白」時め、お前は俺の畏おそろしい仕事に先手

を打つたな。

どんなに早い目論見めくろみでも、實行がそれに伴はなくては

とても追おひつけない。この瞬間から、

俺の心に生まれる初産兒あははすぐにこの手の

初産兒にもしてくれる。今といふ今でも

目論見と實行とを一緒にして、思ひつくと同時に行ふぞ。

マクダフの城を突然襲撃してくれよう。

ファイフを占領し、劍けんの刃先に、彼の妻も、子供も、

その他彼の縁ゆかりにつながる不幸な奴等を、悉くかけてくれ

る。これは愚か者のやうな廣言ではないのだぞ。

この目論見の冷えぬうち、この行爲は必ず遂げる。

だが、怪あやしいものはもう見まい。使者どもはどこにゐる？

さ、そこへ案内してくれ。

一同退場。

第二場 —— ファイフ。マクダフの居城。

マクダフ夫人、その一子、並びにロス登場。

マクダフ夫人 主人あにが何をしたつて言ふんでせう、領地

から逃亡するなんて？

ロス 奥さん、我慢しなければなりません。

マクダフ夫人 我慢なんて、主人あにこそ少しも我慢を持つ

てゐません。

逃亡するなんて狂氣の沙汰です。實際の行なひが二心ふたごころある

者のやうでないにしても、
びく／＼してゐる爲めに却つてそんな風に見られる事が
あります。

ロス これが、分別の結果か、それとも恐怖の爲めかは、
まだ分りません。

マクダフ夫人 分別ですつて！ 妻を残し、子供を残し、
家屋敷からすべての権利まで打ち捨て、

自分だけ逃亡するのが？ 私共を愛してゐないので。

情愛がないのです。あの憐れな鵲うぐいす、

小鳥のうちが一番小さいものでさへ、梟ふくろうに襲はれれば、
巢の中の雛を庇つて戦ひます。

みんな恐怖からです。愛情なんて少しもありません。

分別なものですか、あんな逃亡は
どう考へても理に合ひません。

ロス まあ、奥さん、

氣を鎮めて下さい、ともかくも御主人は、

高潔な、賢明な、正しい方で、時勢の危ないことを
よく御存知です。あんまり立ち入つては言へませんが、
實際ひどい時代です。私共は國賊にされてゐて、

それで自分では一向知らない、怖い／＼と思ふことから、

とり／＼の噂を解釋しては見るが、しかも何が怖いのが
ら更に分らない、

たゞ荒れ狂ふ海の上を、

あちらこちらと漂つてゐるのです。もうお暇します。

しかし程なく又参りますよ。

物事は一番悪いどん底まで行けば、それで止まつてしま

ふか、でなければ又向上して

もとの位置へ歸ります。……(幼き)可愛い坊つちやん、
御機嫌よう！

マクダフ夫人

この子は父がありながら父無し兒です。

ロス これは、我ながら愚かでした、もつと長居を

したら、

私は涙を落して恥辱にもなり、あなたの御不快にもなる

ところでした。

だから、すぐお暇します。

退場。

マクダフ夫人 ね、お前のお父さまはお亡くなりよ。

この先どうします？ どうして暮します？

子 小鳥のやうにするよ、お母さま。

マクダフ夫人 え、蟲や蠅を食べて？

子 なんでも取つて食べるよ、だつて小鳥はさうしてゐるんだもの。

マクダフ夫人 可哀さうな小鳥ね！ 鳥網や、鶉や、保

蹄や、捕機^{トリシ}など、

ちつとも怖くないんだらうね。

子 怖いもんか、お母さま。可哀さうな小鳥なんかを

誰も係蹄^{ワタ}にはかけないよ、立派なのでなくちや。

お父さまは亡くなりやしないよ。お母さまが何と言つても。

マクダフ夫人 いゝえ、お亡くなりよ。お父さまの代り

をお前どうするの？

子 いゝえお母さまこそお父さまの代りをどうするの？

マクダフ夫人 なに、どんな市場^{いちば}へ行つても二十人位の

ちぎ買へますよ。

子 ちやあ、買つて来て又賣らうといふんだ。

マクダフ夫人 あら、ありつたけの智慧を出すのね。

だけどほんとに、お前にしては偉い智慧ね。

子 お父さまは國賊なの、お母さま？

マクダフ夫人 えゝ、さうよ。

子 國賊つてなあに？

マクダフ夫人 それはね、一旦誓ひを立てゝ、又それを破る人で。

子 そんな事をする人は誰でも國賊なの？

マクダフ夫人 さうする人は一人残らず國賊です。そして絞め殺されるのです。

子 一旦誓ひを立てゝ、それを破る人はみんな絞め殺さ

れるの？

マクダフ夫人 えゝ、みんな。

子 誰が絞め殺すの？

マクダフ夫人 それはね、正直な人ですよ。

子 ちやあ、誓ひを破つて絞め殺されるやうな人は馬鹿

ね、だつて、誓ひを破つた人でも正直な人を打ち負か

して、絞め殺す者が大勢あるんだもの。

マクダフ夫人 まあ、何といふ子でせう、お猿さん！

だけど、お前、お父さまのお代りをどうするの？

子 お父さまがほんとに亡くなつたのなら、お母さまは

お父さまの爲めに泣くだらうし、若し泣かなけりや僕

に新しいお父さまがちぎ出来る良い知らせだ。

マクダフ夫人 まあお喋りさん、よくお口の廻ること！

使者登場。

使者　奥様！　私は初めてお目にかゝりますが、
あなた様の名譽ある御身分につきましては十分に存じて
居ります。

私は、何か危険な事がお身に迫つて来るのを怖れてゐま
す。

若し私如き賤しい者の忠告をお用ひ下さるならば、

こゝにおいで遊ばす事はよろしくございません。すぐ様
どちらかへ、小さな方々と御一緒に。

かうしてお驚かし申すのは、あまり亂暴のやうにも考へ
ますが、

かう申さずに置くのは却つて恐ろしい残忍なことで、

もうそれはお身近に迫つて居ります。神様の御保護
を！

ぐづぐづしては居られません。

退場。

マクダフ夫人　一體どこへ逃げるのです？

何も悪いことをした覚えはないのに。だが私は忘れてゐ
ました。

この下界に住んでゐる身だといふことを。この世では悪
いことをしても

随分褒められるし、いゝ事をして、どうかすると、
危険な馬鹿な事だと思はれます。あゝ、それなのに、な
ぜ、

あんな女らしい辯解をしたんだらう？
何も悪いことをした覚えはないなど。

刺客數人登場。

まあ、この人達は何だらう？

第一の刺客　主人はどこにゐる？

マクダフ夫人　お前さん達に見つかかるやうな
そんな穢らしい所にはゐない筈です。

第一の刺客　彼は國賊だ。

子　嘘をおつき、毛むくちやらの悪黨！

第一の刺客　何だと、卵め！

彼を突き殺しながら、

謀叛人の餓鬼めが！

子　お母さま、私を殺すよ。

お逃げよ、早く！

死ぬる。

マクダフ夫人「人殺し」と叫びながら退場。
その後を追うて刺客等一同退場。

第三場 — イギリス。王宮前。

マルカム及びマクダフ登場。

マルカム　どこか人のみない物陰を探して、そこで

お互の悲しい胸を泣き明かさう。

マクダフ　いや寧ろ

殺人の剣を堅く握り、男らしく

我々の失墜した相續權を擁護いたませう。朝の来る毎

に、

新たに寡婦となり、孤兒となつたものが恨み哭き、新し

い悲しみは、

天の面を打ち、再び反響して、

天もスコットランドに同情し、同じ哀愁の心を

叫んでゐると見えます。

マルカム　信すれば歎きもしよう、

知れば信じもしよう。私の救ふ事が出来る限りは、

時の利もあれば、救ひもしたい。

君の言つた事は多分事實であらう。

この篡奪者、その名を言ふさへ舌が水ぶくれになりさう

だが、

彼ももとは誠實な男だと思はれてゐた。君にしても彼を

十分に敬愛してゐたのだ。

彼はまだ君には手を觸れはしなかつた。私は若輩だが、

この私を利用したなら、

幾らか君が彼に取り入る役には立つかも知れない。剛巧

なやり方だ、

弱い、憐れな、罪のない小羊を捧げて

怒れる神を和げるのはね。

マクダフ　私は二心ある者ではありません。

マルカム　併しマクベスはさうなのだ。

善良な徳の高い者でも、上からの命令を受けると、

正路を踏み外さぬとも限らない。併し御免なさいよ、

君の本性は、私がどんなに考へたとて、

それで變る筈はないのだからね。

天の使はいつまでも光り輝いてゐる、その内の一番光り

輝くのが墮落したからとて同じだ。

奸悪な者が悉く美徳の外見を裝ふにしても、

美徳はやはり美徳の外見を保たなくてはならない。

マクダフ　希望はなくなつてしまつた。

マルカム 大方そのなくなつた所に私は疑念を見出したのだらう。

なぜ君は何の備へもせずに、妻にも、

あの尊い情の源を、あの強い愛の結び目を、

別れも告げずに残して来たのだ？ どうか

私のこの疑ひ深い心を、君を疑ひ辱しめるものとは思

ないで、

私自身の安全の爲めと思つてくれ。君は全く正しいのか

も知れない、

私がどう思はうとも。

マクダフ 血を流せ、血を流せ、不幸な故國よ！

偉大な篡奪者よ！ お前の基礎を堅固に据ゑるが、

善良な者も、お前を抑制しようとしなから。思ふ

まゝに、不正を働くが、

篡奪者が認められたのだ……。左様なら、

私は、あなたのお考へのやうな悪黨には、

あの篡奪者が擱んでゐる全領土に代へても、

また富有な東洋を添へてくれても、なりたくはないので

す。

マルカム 氣を悪くしないでくれ。

君をほんとに疑つて言つたわけではないのだ。

全く我々の故國は壓制の下に疲弊し、

涙を垂れ、血を流し、新しい日を迎へる毎に一つの痛傷

は、

もとの傷に加へられてゐる。それから、

私の正義に味方して一臂の力を貸す者もないことはな

い。

現にこの地の高德なイギリス王は、數千の援兵を

送らうとまで言つて下さつた。が、それにも拘らず、

私があつた篡奪者の素頭に踏みにじり、

又はこれを劍の先に貫ぬく時、わが氣の毒な故國は

前にもまして弊害を生み、

更に多くの様々な姿で、惱まされぬとも限らない、

後繼者次第でね。

マクダフ 誰がその後繼者でせう？

マルカム 私自身の事だ、私は自分でよく知つてゐるが、

あらゆる悪徳が根深く生えてゐて、

それが外に現はれると、まづ黒なマクベスも

雪の如く純白に見え、可哀さうな國人は

彼を小羊のやうに思ふだらう、この私の數限りない罪惡

に較べれば。

マクダフ 忌はしい地獄の軍勢の中から、

どんな悪鬼を招かうとも、兇悪な事にかけては、到底マクベスを凌ぐことは出来ません。

マルカム 成程、彼は殺戮を好み、

淫亂、貪慾、不信、虚偽、

狂暴で悪意深く、苟くも罪と名のつくあらゆる罪の

臭ひを備へぬといふはない。しかし私の放蕩と來ては、

全くのところ底なしだから、人妻でも、娘でも、

年増であらうが、處女であらうが、この淫慾の液槽を

充たす事は出来ないのだ。この情慾はね、

私の意志に反抗して、拘束しようとする邪魔物を

壓しつぶすだらう。マクベスの方がました、

こんな男が君臨するよりは。

マクダフ 限らない生れつきの不節制も

一つの暴政ではありませう。

そしてその爲めに、めでたい王位も時ならぬに空虚とな

り、

幾多の帝王も没落しました。しかしそれにしても、御自

身のものたる王位を

お引き受けなされるのに何の御心配がいりませう。

あなたは十分に逸樂をお盡しになりながら、

表面は冷やかに装はれて、世間の目をお眩ましになるこ

とも出来ませう。

かの地には進んで召しに應ずる婦人も十分にあることゆ

ゑ、貪つて厭くなきのお心を

いかばかりお持ちにならうとも、思召しを察して

自ら喜んで身を捧げる者を悉く食ひつくすわけには参り

ません。

マルカム その上に、

私の甚だよくない性質のうちには、

充つるを知らぬ貪慾心があつて、萬一王ともならば、

貴族の首を刎ねてその領土を覬ひ、

甲の寶玉を、乙の邸宅を、欲しがる事になるだらう。

そして所有すればするほど却つてそれが薬味となり、

私の貪慾を更に増し、理由もないのに

善良な忠義な者に向つて喧嘩を吹きかけ、

彼等を亡ぼしても富を欲するやうになるだらう。

マクダフ この貪慾は

夏に似た淫慾よりも更に根が深く、

一層有害な蔓^{はむ}り方をいたします。昔から弑せられた諸々の王の

身を亡ぼすに至つた奴^{やつは}はこれでありました。しかしながら、御心配遊ばしますな、

スコットランドは富有の地で、あなたのお心を満たし、

御自身だけの所有となされますものがあります。

他の美德と稱^{ほむ}にかければ、

これ位みの御缺點は忍べます。

マルカム　ところが私には一つも美德がないのだ。王者

に似つかはしい美德、

例へば正義、眞實、克己、不働、

寛大、勤勉、慈悲、謙抑、

敬神、忍耐、勇氣、不屈、

そんなものは露ほどもなく、反對に

ありとあらゆる罪を何から何まで持つてゐて、

その一つ一つを様々な方面に活動させようとしてゐる。

全く、私に權力があつたら、

一致協同の楽しい營みは地獄に捨て、

世界中の平和を亂し、地上のあらゆる統一を

破つてしまふであらう。

マクダフ　おゝ、スコットランド、スコットランド！
マルカム　こんな者でも支配するに適してゐるであらう

か、え、君。

私は今言つたやうな人間なのだ。

マクダフ　支配するに適すだと！

いゝや、生きてゐるにも適しない。おゝ、惨^{あは}めな國民、

血染めの笏^{しやく}杖^{じやう}を持つた非法の篡^{せん}奪^{だつ}者を戴^{かぶ}いて、

いつになつたら又健康な日を見る事であらう？

眞實の王位の繼承者は

我とわが身の罪を宣告して、

己^{おのれ}が血統^{ちゆうとく}を瀆^{じゆつ}してゐるのだから。……あなたの立派な父

君は、

全く聖者のやうな王様で、あなたをお生みの王妃^{おきさき}は

立つてゐますよりも、跪^{ひざま}いてゐます時が多い位の

御存命中、日毎に死ぬと言はれた御生活でした。……

御機嫌よろしう！

あなたが次々に御自分の身にお被^{おほ}せなされたこの惡徳

で

私はスコットランドから追放されました。おゝわが胸、

お前の望みもこれで果てた。

マルカム　マクダフ、君の高潔な熱情は

純直な心の生むものだ。私の魂から

黒い疑ひの汚點を拭ひ去り、

君の誠實と正義を信じさせてくれた。あの悪鬼のやうな

マクベスは、

かやうな術策を數多く用ひて、私を彼の權力の中に

連れ込もうとした。そこで控へ目にすることを覺えて、

あまりに急いで信ずる心を失つたのだ。

おゝ、神様、

私達二人の間を取り做して下さいまし！　今といふ今か

ら

私は君の指導に一身を委ねる、先に述べた

私自身の不名譽な言葉は取り消す、わが身の上に被らせ

た

すべての短所缺點は、わが本性には全くないことだ。

私はまだ婦人を知らず、曾て誓ひを破つたこともなく、

私自身のものさへも殆んど貪つた覺えもなく、

どんな時にも信頼に反かず、悪魔をさへその仲間に

裏切らせることを欲せず、眞理を樂しむこと、生を樂し

むに劣らない。私の虚言といふ虚言は、

今、自分に向つて言つたが初めてで、この實際の私は

君の命じ、又わが氣の毒な故國の命するまゝに捧げよう。

實はその故國をさして、君のこの地到着以前、

老シワードは一萬の強兵を従へ、

十分戦備を整へて出發を始めたのだ。

さあ一緒に續かう、願はくは立派な成功の機會が

我々の開戦の正當なるが如く正しくあらんことを！……

なぜ黙つてゐるのだ？

マクダフ　こんな嬉しい事と嬉しからぬ事とが一緒に來

ては、

調和させるのが困難です。

一人の侍醫登場、

マルカム　ともかく、又話すとしよう。……

王はお出ましますか？

侍醫　左様でございます。氣の毒な人達が、大勢参りまし

て、

王の御治療を待つてゐるのでございます。彼等の疾患は

偉い醫術の力も及びませぬが、王のお手が觸ると、

天が聖なる力をお手に與へられたものですから、

見る／＼うちに癒ります。

マルカム 大きに有難う

侍醫退場。

マクダフ どんな病氣のことです？

マルカム 瘰癧ろくじと呼ばれ、

この善良な王の、全く奇蹟のやうな御事業だ。

私もこのイギリスに滞在以來、度々

御治療を拜見した。どうしてあのやうに天を感動させな

さるのか、

それは御自身が最もよく御存知だらう。何にしても不思議

議ぎな病やまひに冒かぶされた人達は

悉く腫はれあがり、膿うみをもち、見る目も痛ましく、

外科醫も全然望みを棄てるのだが、王には

彼等の頸のまはりに金の貨幣をかけ、尊い祈禱を唱へて

治療をなされる。また噂によると、

代々の國王に對し、この治療の力を

譲り残されるところのこと。この不思議な徳に加へて

神の如き豫言の通力をも持たれ、

玉座の周圍には様々な祝福むらがり、

君王の徳あまねき方かたたる事を語つてゐる。

ロス登場。

マクダフ おゝ、誰か参ります。

マルカム 故國くにの者だ、併しまだ誰だか分らない。

マクダフ おゝ、よく来てくれた。

マルカム やうやく分つた。……神様、

我々の間を疎遠するこの邪魔物を取り除かせ給へ！

ロス アーメン。

マクダフ スコットランドはもとのまゝかね？

ロス あゝ、氣の毒な國！

自分がどんな姿をしてゐるか、それを知るさへ恐れてゐ

る。とても、

我々の母國とは呼べない、墓地だ。全く無智な者以外

假にも微笑わらむ者はなく、

溜息なげきや、呻うなき聲こゑや、金切聲かねきりこゑが空氣をつんざいて

けたましましく起つても氣に留める者もない。どんなはげ

しい悲しみも、

平凡な感情の現はれとしか思はれず、葬式の鐘が鳴つて

も、

誰のだと尋ねもしない。善良な者の生命は

帽子につけた花のまだ凋しぼまぬうちに

病氣もしないで失はれる。

マクダフ おゝ、何から何まで、

全くその通りだ！

マルカム 最近はどんな悲惨な事が？

ロス 一時間前の話かもう笑はれる位です、

一分毎に新しい悲しみが生れますから。

マクダフ 妻はどうしてゐたかね？

ロス さうさね、無事だった。

マクダフ 子供等は？

ロス 同じことだった。

マクダフ あの暴君もまだ彼等の平和を打ち砕きはしな

かつたのだね？

ロス いや、お別れた時には、目出度く平和で居られ

た。

マクダフ 言葉惜しみは止してくれ。どうなのか？

ロス 私が、心に耐へかねるやうなこの悲しい報知を齎

らしてこちらへ参る時、流言によると

大勢の立派な人々が叛旗を翻へしたと言ふことだった。

私は暴君の兵が出動するのを見たから、

この噂も本當だと信じたわけだ。

(マルカム) 今こそ救助の好時機です。あなたのお姿がスコッ

トランドに現はれさへすれば、

忽ち多くの兵士を造り、婦女子をも戦はしめ、

凄惨たる苦惱を脱ぎ捨てようと致させます。

マルカム 彼等も喜んでくれるがいよ。

我々はもう彼處へ進軍する手筈で、高德なイギリス王は

シワード並びに一萬の兵を我等に貸し與へられた、

この人よりも老巧で又優れた武人と名乗り得る者は

キリスト教國に他に一人もゐない。

ロス あゝこの嬉しい報知を

同じく嬉しい報知で答へる事が出来たらば！ 全く私の

携へてゐる言葉は、

沙漠の空にわめき出し、

聴手のあつてはならぬやうなことだ。

マクダフ それは何に關する事だ？

一般の事か？ それとも私事の悲しき事で、

或る一個人の胸にのみ納むべき事か？

ロス 正しい心を持つてゐる者は、

誰しも幾分悲しみを分たぬ筈はない。しかし主として

君にだけ關する事だ。

マクダフ 私のことなら、

隠さずに、急いで話して貰ひたい。

ロス どうか君の耳が、何時までもこの舌を憎まないで

欲しいものだ。

君の耳に告げるのは、今まで聴いたうちでも、最も悲しいことだから。

マクダフ うむ！ 想像はつく。

ロス 君の居城は不意に襲撃され、奥さんも子供達も、

無慈悲にも屠られた。事の次第を物語れば、

この殺された鹿の群の獲物の上に

君の死をも加へる事にならう。

マルカム おゝ、何といふことだ！……

まあ、君！ 帽子で顔をかくすに及ばん。

思ふ存分歎きなさい。口に言はぬ悲しみは

心ばかりを痛めて、胸を張り裂くやうにするものだ。

マクダフ 子供等もか？

ロス 奥さんも、子供達も、従僕も、その他

探せるだけの者は悉く。

マクダフ そして俺は遠くに來てゐなければならなかつ

たのか！

妻も殺されたか？

ロス さうだ。

マルカム しつかりし給へ。

我々の大いなる復讐を以て醫藥となし、

この致命の悲しみを治療する事にしよう。

マクダフ あいつは子供を持つてゐない。……可愛い子

供たちをみんなか？

君、みんなと言つたか？ おゝ地獄の轟め！ みんなか？

え、俺の可愛い雛も母鶏もみんな

怖ろしい一ト攫みに？

マルカム 男らしく悲しみに打ち克ち給へ。

マクダフ さうしませう。

併し又、人間ならば感じずにはゐられませんか、

どうして思ひ出さずにゐられようか、

私に取つてこの上なく大事な者達のゐた事を。天はそれ

を見そなはしながら、

彼等の味方とはなつて下さらなかつたのか？ 罪深いマ

クダフ

貴様のために彼等はみんな打たれたのだ！ 全く取るに

足らぬのはこの俺だ、

何の彼等に罪があらう、みんな俺の不徳のために

彼等の魂は殺されたのだ。天よ、彼等に休息を與へ給へ。

マルカム これを君の劍を磨く砥石となし、悲しみを怒りに一變しようではないか。勇氣を鈍らせず、これを憤激せしめねばならないのだ。

マクダフ お、この俺が、眼には婦女子の役割をなし、

舌には法螺吹きの眞似をするとは！ しかし、仁慈なる

天道様！ 二人の間のあるゆるものを取り除き、

このスコットランドの悪魔めと私とを面と面と向つて對立せしめ、

彼をわが劍の及ぶところに置かしめ給へ！ それでも彼

が免かれれば、

天よ、彼をも許させ給へ！

マルカム それでこそ男だ。

さ、一緒に王の處へ。我が軍勢の準備は整ひ、

不足するところはお暇乞ひだけだ。マクベスは

熟し切つた木の實で、一揺り揺るを待つばかりだ。

上天の神々も、お助け下さるだらう。

今のうちに出来るだけ慰んで置くがよい。

日の目を見ぬ夜は長いから。

一同退場。

第五幕

第一場

ダンシネイン。城内の前廊下。

侍醫並びに女官登場。

侍醫

私はあなたと二夜も寢ずの番をしたが、しかし、仰しやつた様な事は何も見えないではありませんか？

いつでしたか、この前お歩きになつたといふのは？

女官

殿下が御出陣遊ばされてからのことでございます。寢床からお起きになり、夜のお召物をお羽織りに

なつて、戸棚の錠を開けて紙を取り出し、疊み、その

上に何かお書きになつて、讀んでから封をなされ、そ

して又寢床へお歸りのところを見ました。しかもその

間中全く御熟睡のまゝでした。

侍醫

非常な亂心ぢや、眠りの恵みと、目覺めの働きとを同時に受けるなどとは！ この睡眠中の昂奮状態の

とき、お歩きになつたり、また何か實際になすつたり

する他に、いつか、物を仰しやつたのをお聞きではな

かつたかな？

女官 聞きましたがお言葉通りには御報告申し上げ兼

ねるやうなことです。

侍醫 私には差支へない、言つてしまつた方が却つてよろしい。

女官 あなたにも、どなたにも、申されません。私の申し上げますことを、證明して下さる證據人がないのですから。

マクベス夫人 燭臺を持つて登場。

御覽なさい、ほら、あそこへお出まします！ 全くそのまゝのお姿。そして決して嘘は申しません、御熟睡になつてゐらつしやるのですよ。氣をつけて御覽なさいまし、こちらに隠れて。

侍醫 あのお燈火はどうしてお持ちかな？

女官 なにね、お側に置いてあるのです。いつでもお側から燈火をお放しなさいません、これはお言ひつけです。

侍醫 おゝ、眼をおあけになつて。

女官 えゝ、けれども、何もお見えにはならないのですよ。

侍醫 ありや何をなさるのかな？ 御覽、両手をこすり

つけて。

女官 あれがお定りですよ、あんなに手を洗ふやうな眞似をなさるのが。あんな風でものゝ十五分間もお続けなされたことがあります。

マクベス夫人 まだこゝに汚點がある。

侍醫 あゝ、口をお利きだ。この記憶に萬一の間違ひもないやうに、仰しやつたことを書き記して置かう。

マクベス夫人 消えろ、忌はしい汚點！ 消えろつてば！

一つ、二つ、おや、もうあれを行ふ時刻です。——地獄は暗い。——まあ、馬鹿な、あなた何ですわね！ 武士でありながら怖いなんで？ 誰が知つたつて、怖がる必要はないぢやありませんか、誰だつて私達の權刀をかれこれ言ふことは出来ないんですもの。けれど、思ひもかけなかつた、あの老人があんなにまで澤山血を持つてゐようとは！

侍醫 あれをお聞きか？

マクベス夫人 ファイフの領主には奥さんがおありだつた。その奥さんは今どこにいますか？——何ツ、この手は決して綺麗になるまいつて？——それはもう止し

て下さい、あなた、それはもう止して下さい。そんなにびく／＼なされると、何もかもぶち壊してしまふことになるんですよ。

侍醫 はてな、はてな、知つてはならぬ事を御存知なのかだ。

女官 お妃様は言つてはならないやうな事を仰しやつたのです、それだけは確かです、何を御存知なのか、分つたものではありません。

マクベス夫人 こゝにまた血の臭ひがする。アラビヤ中の香料を用ひても、この小さな手の臭ひは抜けないだらう。おゝ、おゝ、おゝ！

侍醫 何といふ溜息だらう！ お心は苦しみて一杯なのだ。

女官 私なら、體からだにどんな榮華の衣裳をつけたつて、胸にあんな心は持つてゐたくありません。

侍醫 よろし、よろし、よろし。(女官はそれを健康の意に取り)

女官 どうかおよろしくなれますように。

侍醫 この病氣は私の力には及ばない。しかし私の知つたところでは、眠りながら歩きまはつた人だが、それでも床こゝの上で聖く往生を遂げた人達もあるにはある。

マクベス夫人 お手をお洗ひなさい、夜着をお召し下さい。そんな青ざめた顔をしてはいけません。——も一度言ひますよ、パンコウは埋葬したのです、墓から出て来る筈はありません。

侍醫 あんなことまで。

マクベス夫人 お寢床へ、お寢床へ！ 門を叩く音がします。さあ、さあ、さあ、お手を貸して下さい。やつてしまつた事はもう止めるわけには行きません。お休みなさい、お休みなさい。

退場。

侍醫 あれで寢床へ行かれますか？

女官 はい、まつすぐに。

侍醫 へんな噂がひろまつてゐる。不自然な行ひは不自然な雜儀を弄出し、不淨な心は

耳のない枕にも、その祕密をぶちまける慣はしぢや。

お妃に必要な者は醫者でなくて聖僧おんそうさまぢや。

神様、神様、我々すべての罪をお許し下さい！……妃によく氣をつけなさいよ。

何によらずお身の害になるものは皆遠ざけてな、いつも眼を放さないでゐて下さい。では、お休み。……

あの方のために私の心は狼狽し、視力は亂れてしまった。
いろ／＼考へてゐる事はあるが、とても話は出来ん。
女官 さやうなら、お休み遊ばせ。

兩人退場。

第二場 — ダンシネイン附近の田舎。

太鼓と軍旗を持ちたる者、メンテイス、ケイスネス、
アンガス、レナックス、並びに兵士等登場。

メンテイス イギリス軍の到着も、間近で、引率者はマル
カム様、

その伯父のシワードどのとマクダフだ。

復讐心は彼等のうちに燃えてゐる。無理もない、皆の胸
にこたへてゐる今度の原因は、

死人をも動かして、流血凄惨の戦ひの合圖と

呼應せしめるであらうから。

アンガス バーナムの森の附近で、

都台よく出會ふであらう。あの道を進んでゐるのだから。

ケイスネス ドナルベーン様は兄君と御一緒だらうか？

レナックス いや、確かにさうではない。私は

従軍貴族全部の名簿を持つてゐるが。そこにはシワー

ドどの、一子も居り、

その他大勢、生えぬ若人が、今度やつと

初めて男一人前の働きを見せようとしてゐる

メンテイス 篡奪者は何をしてゐるかね？

ケイスネス ダンシネインの城を強く堅めてゐる。

狂氣したといふ者もあるが、あまり彼を憎まぬ者は、

これを雄々しい憤激と言つてゐる。とにかく

彼が混亂した味方を、規律をもつて取り締つて行くこと

の

出来なくなつただけは確實だ。

アンガス 今こそ彼も感ずるだらう、

秘密にやつた人殺しが、いつ迄も手にこびりついてゐる

事が。

一刻々増してくる謀叛人は、彼自身の不義不忠を責め

てゐるし、

彼が命令してゐる者は、命ぜられるから動くので

決して敬愛の心からではない。今になつて彼の稱號も

身にしつくりと合はないことを感ずるだらう、丁度巨人
の衣裳を

倭人の泥棒が着たやうにな。

メンテイス　すると、彼の掻き亂された官能が畏縮したり、激發するのも、尤もだと言へるね、彼の體内のものは悉く、そんなところにあるといふので、自ら呪つてゐるのだから、

ケイスネス　ともかく兵を進めて、

正當に服従すべきところに服従の意を表し、

この病める國家の醫師たる人に面會し、

あの方と一緒に、我が國を癒し清めるためには、

我々の血も流さうではないか。

レナックス　それとも必要とあらば、

王者たる花には露をふらし、照草は腐らせるのだ。

さあ、バーナムさして進軍だ。

一同進行して退場。

第三場　——ダンシネイン。城内の一室。

マクベス、侍醫及び従者等登場。

マクベス　この上報告には及ばん。逃げる者はみな逃げ

させろ。

バーナムの森が動いてダンシネインに移つて来るまで、

俺が恐怖に捉はれる筈はないのだ。小僧のマルカムが何

だ？

女の腰から生れた者ではないか？　すべて人間の運命を

熟知してゐる精靈共が、かう公言した、

「怖れるな、マクベス、女の腰から生れた者で、

お前を壓倒する力のある者はないのだから」と、だから

逃げる、不信不義の領主共、

逃げてイギリスの弱蟲共と一緒になれ。

俺の抱いてゐるこの精神、俺の持つてゐるこの心臓は、

疑惑をもつてうなだれたり、恐怖をもつて震へたりはし

ないのだ。

従者一名登場。

悪魔に呪はれて眞黒になりをれ、青鬚筆野郎！

その鷲鳥のやうな顔色をどこで拾つて來た？

従者　一萬の——

マクベス　鷲鳥か？　馬鹿！

従者　兵士でございます。

マクベス　行つて面でもこすつて、そのおどくした顔

を赤く染めて来い。

生白なましろい肝臓の弱蟲小僧、どんな兵士だ？ 馬鹿。

畜生！ その白布のやうな頬べたは

臆病のいゝ相手だ。どんな兵士だ？ 弱蟲奴。

従者 イギリスの軍勢でございます。

マクベス その面をひつ込めろ。(つける)

従者退場。

シイタン！——あゝ、考へるとこの胸が痛くなる——

シイタンといふのに——この一戦で、俺は永久に安んじられるか、それとも倒れてしまふかだ。

俺も長過ぎるほど生きて来た。わが世も

既に傾いて、萎れた朽葉だ。

しかも老年に當然伴ふべき

名譽も、愛も、忠順も、群をなす友人も、

望むにも望めない俺なのだ。その代りに有るのは

呪咀だ、聲は高くないが根深い呪咀だ、口先だけの尊敬

や追従だ。

可哀さうに、それを拒みたくても拒み得ないのだ。

シイタン！……

シイタン登場。

シイタン 何か御用でございますか？

マクベス その後の情報は？

シイタン 殿下、先に御報告申し上げた事は悉く確實で

ございます。

マクベス 俺はこの骨から肉が裂き削がれるまで戦ふの

だ。鎧をよこせ。

シイタン まだその御必要はございません。

マクベス 着るのだ。……

もつと騎兵を送り出せ、國中を乗り廻し、

臆病ばなしをしてゐる奴を絞め殺せ、鎧をよこせ。

病人はどうだ、侍醫？

侍醫 御病氣は左程ではございませんが、

繁々襲ひ來ます御妄想にお惱み遊ばされ、

碌々御安靜がお出来になりませんので。

マクベス それを治療しろ。

何とかして患つてゐる心を和げ、

根深い悲しみを記憶から引き抜き、

腦に書かれてある心配を消し去り、

何か快い物忘れの緩和劑を用ひ、

心臓を壓へつけてゐる危険な物をとりのけて、

病へた胸を齧らすわけにはゆかないのか？

侍醫 その事につきましては、誰よりも御病人御自身が自分で治療しなければならぬのでございます。

マクベス 醫術など犬に呉れツちまへ、そんなものゝ必要はない。……

さあ、俺の鎧を着せい。その司令杖をよこせ。

シイタン、使を出せ。……侍醫、領主共が逃亡しをる。……さ、こら、早く着せろ。……おい侍醫、お前が俺の國の、小水を検査し、病根を見極め、

全く淨めて健全な、昔のやうな健康状態に歸す事が出来れば、

反響がまたお前まで歸つて来る位、

それこそお前を賞めてやるがな。……

脱かせろ、こら。……

どんな大鷲、どんな旃那、どんな下劑を用ひたら、このイギリス軍が追つ拂へるのだらう？ お前も奴等の

ことを聞いたか？

侍醫 はい、殿下、戦の御準備がありますので、

我々共もいくらかは聞き及びました。

マクベス それは後から持つて来い。

俺は死も没落も恐れはせんぞ、

バーナムの森がダンシネインにやつて来るまでは。

侍醫 (傍白) わしはこのダンシネインから綺麗に手が引

けたら、

どんな利得があつたつて、もう二度とこゝへはやつて来ないぞ。

一同退場。

第四場 — バーナムの森に近い田舎。

太鼓と軍旗を持ちたる者、マルカム、シイワード及びその一子、マクダフ、メンテイス、ケイスネス、アングス、レツナクス、ロスその他兵士等進軍の様に登場。

マルカム 諸君、どうか我々が家に安心してゐられる日

を、遠からず見たいものだね。

メンテイス もう直ぐでございます。

シイワード 前の森は何かね？

メンテイス バーナムの森です。

マルカム 兵卒に銘々一本づゝ枝を切り取らせ、

それを前に驚させよう。さすれば味方の
兵數を隠し、敵の偵察は
報告を誤まるだらう。

兵士等 承知いたしました。

シイワード どの報告によるも、あの自惚れきつた篡奪
者は、

ダンシネインを死守し、我々の攻め寄せるのを
待つ下心のやうです。

マルカム その地を彼は何よりの恃みとしてゐる。

脱走の機會が與へられる度に、

身分の高きも低きも皆、彼に叛き、

いま彼に仕へてゐるのは、皆強制せられた者ばかりで、

心はうはの空なのだ。

マクダフ 我々の意見が果して正しいかどうか、

これは事實に徴することにして、お互に
軍務に精勵しませう。

シイワード どれだけが我々の所有する權利で、

どれだけが我々の借りてゐる義務か、

たしかに分らせてくれる時も迫つた。

當て推量は不確かな希望を述べただけだが

確實な結果は、實戦で決まなくてはならん。
その實戦へと軍を進めませう。

一同進軍しつゝ退場。

第五場 — ダンシネイン。城内。

マクベス、シイタン、及び兵士等太鼓や軍旗を携へ
て登場。

マクベス 軍旗を外壁の上に掲げい。

いつまでも「敵が来る、敵が来る」といふ聲ばかりだ。

この城の強さは、

どんな包圍だつて、ものともしないのだ。あいつ等に勝

手に陣を敷かせて置け、

つまりは飢饉と瘧に食はれてしまふのだから。

彼等が當然俺の味方たるべき者共の加勢を受けてゐれば

こそだが、さもないと、

挑んで彼等を迎へ撃ち、髯と髯とのつき合ふ位に接戦し

破つて本國へ追ひ返してくれるのだ。

奥にて婦人達の泣き叫ぶ聲がする。

あの物音は？

シイタン 婦人達の泣聲でございます。

退場。

マクベス 恐怖の味は殆んど忘れてしまった。

曾ては夜半の叫び聲を聞いても

五官は冷えきつてしまひ、又毛根は

陰惨な話を聞くと、恰も命あるものゝやうに、

逆立つて動いたものだが。……怖ろしい事は十二分に味

つて来た。

兇暴残忍な思ひに伴ふどんな怖ろしいことも、もはや
少しも俺を驚かすことは出来ない。

シイタン再び登場。

あの泣聲は何事か？

シイタン 殿下、王妃様にはお果てなされました。

マクベス もつと後で死んで呉れたなら、

さうした報せを聞くべき時もあったであらうに。

翌日、翌日、翌日といふ日が、

このつまらない人生の旅路に、日毎静かに歩み去つて、

遂に時の記録の最後のところに達するのだ。

そして我々の昨日といふ日は、愚劣な人類共に

塵に歸する死への道を示すに過ぎない。消えよ、消えよ

短い蠟燭！

人生は畢竟歩む影、惨めな俳優だ。

わが時とばかり舞臺の上を潤歩し又怒號するが、

やがて二度とは聞えなくなる。それは白痴の語る

物語同様、聲もあり騒ぎもあるが、

何の意味もない。

使者一人登場。

舌を動かして来たのであらう。用事を、早く。

使者 仁慈なる殿下……

私は確かに自分の見たことを御報告申すべきであります

が、

何と申してよろしいやら、存じませぬ。

マクベス ふん、言つてしまへ。

使者 私は小山の上に番兵として立ち

バーナムの方向を見渡しました。すると忽ち、

森が動き始めるやうに存じました。

マクベス 虚言つきの奴隷め！

使者 萬一それが事實でございませぬでしたら、

そのお怒りはいかやうにもお受けいたします。

この三哩のところをやつて来るのを御覧になれます、全く、動く森でございます。

マクベス 若し貴様が偽りを述べたならば、すぐ手近の立木に生きながら吊し置き、

飢ゑて干乾になるまで置いてやる。萬一貴様の言葉が眞實なら、

それだけの事を俺に向つてしても構はん。……

俺の勇氣は鈍り、眞實らしく偽りをいふ

あの惡魔の怪しい言葉を

思ひ出した、「恐るゝな、バーナムの森が

ダンシネインに來るまでは」と。そして今森が動いて、

ダンシネインに向つて來る。……さあ、武器を執れ、突

進せい！

あの女共の證言することが實際起つて來たとすれば、

こゝから逃げ出す法もなければ、こゝに止まる術もない。

俺は日の目を見るのも厭になつた。

世界の秩序が今こゝで崩れてしまへばよいに。……

警鐘を鳴らせ！……風よ吹け！ 破滅よ來い！

せめて我々は甲冑を鎧うて死ぬるのだ。

一同退場。

第六場

——ダンシネイン。城の前。

太鼓と軍旗を持てる者、マルカム、老シイワード、

マクダフ、及びその軍卒木の枝を持つて登場。

マルカム さ、もう十分近づいた、お前達の木の葉の蔽

ひ物を投げ棄てよ、

本體を現はせよ。伯父上、あなたは、

御息と一緒に、

第一軍を指揮して下さい。マクダフと我等とは、

計畫通り、その他のなすべきことを

引き受けませう。

シイワード では御機嫌よう。

今夜逆賊の軍勢に遭遇し、

それで戦ふことが出来ぬやうだつたら、我々は打ちのめ

されても構はない。

マクダフ 喇叭といふ喇叭を皆吹き鳴らせ、どれにもこ

れにも息を入れろ、

喇叭は流血と殺戮の騒がしい先觸れだ。

一同退場。

第七場 — 戦場の他の部分。

警鐘。マクベス登場。

マクベス あいつ等は俺を棒杭へ縛りつけた。俺は逃げるわけにはゆかない。

熊のやうに襲撃して来る犬共と奮闘してくれる。誰だ、女から生れなかつた奴は？ さういふ奴がゐれば、

俺も怖^{おそ}いと思ふが、さもない限り、誰が恐れるものか。

小シイワード登場。

小シイワード 名乗れ！

マクベス 名を聞くと怖^{おそ}気がつくぞ。

小シイワード 何を、よしや貴様が地獄の中の誰よりも

恐ろしい名を名乗らうとも。

マクベス マクベスだ。

小シイワード 悪魔自身でさへも、それほど忘^いはしい名

を、

俺の耳に傳へることは出来まいぞ。

マクベス のみならず、それほど怖^{おそ}い名も亦ないだらう。

小シイワード 虚^{うそ}言をつけ、憎みても餘る逆賊め、この

劍で、

貴様の虚^{うそ}言を證明してくれるぞ。

兩人戦ふ。小シイワード殺される。

マクベス お前も女から生れたのだな。

劍を見れば可笑^{まじ}しくなるし、どんな武器でも嘲笑^{あざわら}つてくれる、

女から生れた奴が振り廻すのだから。

退場。

警鐘。マクダフ登場。

マクダフ この方面に物音がした。逆賊め、面^まを出せ！

貴様が殺されて、それで俺の刃先きにかゝらなかつたと

あれば、

妻や子の亡霊はいつまでも俺につきまとふ。

俺はみじめな並卒^{なみぞう}共を切つてはゐられない、あいつ等の

腕は、

雇はれて槍^{やり}の柄^えを擔^かいでゐるのだから。マクベス、貴様

か、

さもなくば、この劍は磨^すりへらぬ刃のままに、

用^{もち}ひずに再び鞘^{さや}に收める。……あの方面にゐるに相違ない。

お、この大きな物首で察すると、大將が
現はれたらしい。幸運の神様、どうぞ私に彼を見つけて
せて下さい！

それ以上願ふことはない。

退場。警鐘。

マルカム及び老シイワード登場。

シイワード　こちらです。城はわけもなく降伏いたしま
した。

逆賊の家人共は、敵味方となつて戦つて居ります。

領主等も戰場に於てなか／＼立派な振舞ひをして、

勝利は十中八九まで手のうちのもの、

もう殆んどなすべき事も無いのです。

マルカム　我等も敵兵に遭遇したが、

はか／＼しく手向ひもしなかつた。

シイワード　さあ、御入城下さい。

兩人退場。警鐘。

第八場　——戰場の他の部分。

マクベス登場。

マクベス　俺があゝのローマの馬鹿を真似て、我れと我が

身の劍に

倒れねばならぬ理由があらうか？　生きてる奴等を見る

と、深傷を負ふよりも、

負はした方がましだ。

マクダフ登場。

マクダフ　返せ、地獄の犬め、返せ！

マクベス　誰よりも貴様だけは避けてゐたのだ。

歸つて行け、俺の魂はもう貴様の一族の者の血で

一杯になり過ぎてゐるのだ。

マクダフ　言ふべき言葉はない。

聲はこの劍にある。

言語同断のこの悪黨め！

兩人戦ふ。

マクベス　その骨折りは無駄だ。

切つても切れぬ空氣に向つて、

貴様の鋭い長劍の刃形をつければとて、俺の血を流すこ

とは出来まいぞ。

同じく拔身をうち下ろすなら、切ることの出来る頭の

頂上でも目がけたらどうだ。

この俺は、法力に護られた命を持つてゐるのだから、女の腰から生れた者に

負ける氣遣ひは決してないぞ。

マクダフ 貴様の護符は思ひ切れ。

いつも貴様の仕へてゐる護本尊に聞くがいゝ、

マクダフこそ母の胎内から、時の到らぬうちに

割き出された男だぞ。

マクベス 憎々しいその舌め！

その一言で俺の男らしい勇氣も萎れてしまつた。

もはやあの妖術使ひの惡魔共を信ずるではない、

あいつ等は二重の意味で俺を誤魔化した。

耳には約束の言葉を與へ、

これを希望に破つてしまふ。…貴様とは勝負はすまい。

マクダフ では降参しろ、卑怯者奴が、

生きながらへて世間の見せ物となりをれ。

世にも珍らしい怪物でもあるやうに、

棒の上に貴様の繪をかゝせ、下にはかう書いてやらう。

「見よ、逆賊はこゝにあり」と。

マクベス 降参はせんぞ、

青二才のマルカムの足下で地べたに接吻し、

賤民共の惡口を以て穿められてなるものか。

よしバーナムの森がダンシネインに動いて來ようど、

又女の腰から生れない貴様が刃向ほうとも、

俺は最後までやるのだ。さあ、この物々しい

楯は投げ棄てる。打つてこい、マクダフ、

眞先きに悲鳴を擧げて「待て、まゐつた」と言つた奴は

地獄に行きをれ！

兩人戦ひながら退場。警鐘。

退軍。華やかな喇叭吹奏。太鼓と軍旗を携へてマル

カム。老シイワード、ロス、その他の領主及び兵士

等登場。

マルカム 見失つた味方の者共が、どうか無事に歸省し

て欲しいものだが。

シイワード 倒れた者も幾らかはあるに相違ありません。しかし私の見ただけの戦死者によつて察すると、

これ程の大戦利が存外安價に買はれたものです。

マルカム マクダフがゐない。それからあなたの御子息

も。

ロス 御子息は武人の負債を支拂はれました。

ほんの成人となられる迄の御壽命でした。

危険な地位に立つて更にたぢろろがず奮戦し、

剛勇を以て一人前の男子たる事を御證明なされると共に
男らしく討死なさいました。

シイワード では死んだのか？

ロス さうです、そして戦場から運びゆかれました。あ

なたの悲しみを、

御子息の値打で計つてはなりません、それには
涙もないことですから。

シイワード 傷は前面に受けて居りましたか？

ロス はい、額に。

シイワード では、どうか神の兵士であるように！

私がこの髪の毛ほど大勢の男子を持つてゐたにしても、

これ以上立派な死様を求めないであらう。……

これで彼の追悼は済みました。

マルカム いや、もつと〜哀悼せねばなりません。

私がそれを勤めます。

シイワード これ以上の値打はありません。

彼は立派な最後を遂げ、責めを果たしたと聞きます、
そこで神様も彼と共にましますように！……や、もつと

新しい慰めが來ました。

マクダフ、マクベスの頭を棒に貫き携へて再び登場。

マクダフ 萬歳、殿下！ 今はもう王となられました。

御覽下さい、これに突きさしたの

王位を篡奪したる者の呪はれたる頭でございます。自由

の時は來ました。

見渡すところ、左右に居並ぶはあなたの王國の眞珠とも

譬ふべき方々、

皆心のうちには私の祝詞に共鳴して居られる、

どうぞ諸君のお聲を、私のと共に高々と唱へて下さい。

スコットランド國王萬歳！

一同 スコットランド國王萬歳！

華やかな喇叭吹奏。

マルカム 長き時を費やすに及ばず、

直ちに諸君それらの忠勤を取り調べ、

諸君にお報い申したい。わが領主並びに同族の方々は、

今後侯爵と呼ぶべく、この稱號がスコットランドにて

用ひらるゝは今回が初めてである。その他爲すべきの事

即ち時勢に應じて新たにすべきことは、

例へば警戒嚴重なる壓制政治の陥穽を逃れて、

國外に避難した味方を呼び還すこと、

この冷酷無残の虐殺者並びにその悪鬼の如き王妃——この王妃は亂暴にも己が手を以て我れとわが命を斷切つたとの風説であるが——この兩人に仕へてゐた殘忍な臣下共を探しだすこと、その他我々のなすべきことは、神の御加護をいたゞいて、程よく時と所に應じて實行しよう。さて、諸君に、また、自別々にも感謝する。どうかスコインの即位式に參列して下さい。

華やかな喇叭吹奏。一同退場。

了

ヴェローナの二紳士

人物

- ミランの領主
シルヴィヤの父
- グランタイン
二人の紳士。
- ブローチュウス
ブローチュウスの父。
- アントーニオ
グランタインの愚かな競争者。
- スーリオ
シルヴィヤ逃亡の際の伴侶。
- エグラムーア
グランタインの道化た従僕。
- スピード
ブローチュウスの同じく。
- ラーンス
アントーニオの従僕。
- パンシーノ
ミランでジュウリヤの宿泊した旅館の。
- 亭主
- 山賊數名
- ジュウリヤ
ブローチュウスの戀人。

シルヴィヤ
グランタインの戀人。

ルウセッタ
ジュウリヤの侍女。

從者、樂手。

場所

ヴェローナ、ミラン、及びマンチュアの國境。

第一幕

第一場

——ヴェローナ。ジュウリヤの家に近い街頭。立木と一脚の腰掛がある。

旅の仕度をしたグランタインとブローチュウス登場。

グランタイン 親愛なブローチュウス、説立てるのは止して呉れよ。

家にへばりついてゐる青年は、いつも平凡な頭しか持つて居ない。

戀が君のうら若い日に鎖をつけ

すぐれた戀人の優しい秋波に縛りつけられてゐるから仕方がないが、さもなかつたら

僕は寧ろ君と連れ立つて

廣い世界の不思議と一緒に見たいと思ふよ。

目的もない怠惰の爲めに、あたら青春を消耗するのは惜

しい——

だが、君は戀する身だ。いつ迄も戀を續けて成功を收め給へ。

僕とても戀を初めたら、矢張りありたいと思ふからね。

ブローチユウス どうしても行くのか？

おさらば！

旅先で、不意と何か珍らしい目につくものに

出會した場合には、君のブローチユウスを思ひ出して呉れ

給へ。……

いゝことに出逢ふたら、君の幸福の御相伴を念じて下さ

い。危険な時には——

萬一危険が君を取巻くことでもあつたなら——

君の惱みを、僕の聖なる祈禱に委ねて呉れ給へ。

ブランチン！僕は君の祈禱役になるから。

ブランチン そして愛の書物（聖書）といふところを

相手がら滑稽にに手を置いて、僕の成功を祈つて呉れるね！

ブローチユウス 僕の愛する書物に手を置いて、君の爲めに祈らうよ。

ブランチン といふのは深い戀の浅はかな物語だらう。

若いリーアンダが、ヘレスポントの海峡を泳いで越えた

とか何とかいふやうな。（アピドスの青年リーアンダはセストス

で通うたといふギリシヤの神話）

ブローチユウス それはずつと深い戀の、深い物語だぜ。

だつて奴は、肩まで以上、はまり込んでたのだからね。

ブランチン 違ひない。ところで君は、首つたけはま

り込んでるんだが

それでもまだヘレスポントの海峡を泳いだことはないか

らね。

ブローチユウス 首つたけだつて？ あんまりみくびつて

貰ひたくないわ。

ブランチン みくびりなんかするものかね。何のたし

にもなりやしない。

ブローチユウス え？

ブランチン 戀をしたつてさ。戀するのは、惱みも

がいて、相手のさげすみを買ひ、胸を痛める溜息で、思ふ人のしかめ面に出會すぐらゐのものだ。

不眠、憂鬱、倦怠の幾夜を重ねて、得るものは一瞬にして消えゆく歡樂であり、

たまさか手に入れたとしても、大抵は價値なき獲物で、握みそこなへば、草疲儲けに終つて了ふ。

何はともあれ、智慧を盡して馬鹿を買ふか、でないと、馬鹿のために智慧が放逐されるかだ。

ブローチユウス　で、君の遠まはしの論法によると、僕が馬鹿だといふのだね。

ワランタイン　で、君の近まはりの状況によると、君はそれを證據立てはしないかね。

ブローチユウス　君がけなすのは、「戀」の神様だ。僕は「戀」の神様ではないよ。

ワランタイン　戀の神様は君の主人だよ。だつて、君を支配してゐるぢやないか。

そんな風に、馬鹿の家來になつてゐる者は、懶巧者として記録すわけには行かない、と思ふがね。

ブローチユウス　でも作者はいつて居る、「こよなく麗し

き蕾の中に

これを食べひ竭す害虫の住むが如く、こよなく惚れたる智慧の中に

これを食ひ竭す戀は住む」と。

ワランタイン　ところが又かうもいふぜ、「早咲の蕾の、

綻ぶるに先だち、害虫に蝕はまるゝ如く

うら若く又纖弱き智慧に、戀のために

愚に變り、――蕾のうちに枯れ凋んで

眞盛りの日にも青々たる勢なく

將來の望みの美しきしるしを悉く失ふ……」

しかし、何だつて、僕は暇を潰して君に忠告なんかして

居るのだらう？

君は甘つたるい愚かな情慾の歸依者なんだから。……

もう、一度おさらば！ 親父が港で

待つてゐる筈だ。僕の舟に乗込むのを見送らうといふので。

ブローチユウス　では、そこ迄お伴しよう、ワランタイン。

ワランタイン　ブローチユウス君、いゝよ。こゝでお別れ

としよう。

ミランの方へ手紙で聞かせてくれ給へ

君の戀の手柄話や、その他

僕が不在中に起こる新事件などをね。

僕も同じやうに、手紙で君を訪問するから。

ブローチユウス ミランにゐる間、君がすべて幸福であるやうに。

ブランタイン 郷里にゐる君も同じやうに。では、左様なら。

兩人抱擁し、ブランタインは旅に上る。

ブローチユウス 彼は名譽を追ひ、僕は戀を追ふ。

彼は友に一層の名譽を加へようとして、友を捨ててゝ行つた。

僕は自分を、友をもすべて戀の爲めに捨てる……

おい、ジュウリヤ！ 君は僕をすっかり變つた人間にしてしまつた。

學問は怠ける、時間は空費する、

立派な忠告に向つては、逆ひ、世間を物の數とも思はず、くよくよするので智慧は弱り、思ひなやんで心は痛む。

スピード息を切つて駈けてくる、何か荷物を持つてゐる。

スピード ブローチユウス様、御機嫌よろしう——手前の主人にお逢ひなさいませんか？

ブローチユウス ミラン行の舟に乗ると云ふので、今こゝで別れたところだよ。

スピード ぢや二十に一つ、もうお乗りなすつたな。

主人に逢ひそこねて、馬鹿な羊(舟のシツプ、羊のシツプ(今日ど譯し)の眞似をしたもんだ。)の聲ではシブ(今日ど譯し)の洒落なれ

ブローチユウス 成る程、羊といふ奴は、

羊飼が一寸居なくなると、すぐにうろつき廻るからな。

スピード ぢや旦那のお言葉は、主人が羊飼で、手前が

羊だと仰しやるのですかい？

ブローチユウス さうよ。

スピード はてさて、ではわつしが起きてゝも寝てゝも

わつしの角は主人の角(此洒落不明)だね。

ブローチユウス 馬鹿な挨拶だ。が、馬鹿な羊にはまつて

居るよ。

スピード だから尙更わつしは羊といふわけですな。

ブローチユウス いかにも。そしてお前の主人は羊飼だ。

スピード そんな事はありませんや。ちやんとした證據

たてゝお眼にかけます。

ブローチユウス 俺はまた別な方法できつと言ひ通して見せるよ。

スピード 羊飼が羊を探すので、羊が羊飼を探すのでは
ありませんまい。ところが、手前が主人を探してるんで、
主人が手前を探しちやるない。だから、わつしは羊ぢ
やないんですよ。

ブローチユウス 羊は秣まよほしさに羊飼にくつゝいて行く
が、羊飼が餌えさを求めて羊にくつゝいては行かない。お前
は手當欲てごしさに、主人にくつゝいて行くが、お前の主
人は手當が欲しくつてお前にくつゝいては行かないだ
らう。だからお前は羊だと言ふのさ。

スピード そんな證明ぢや、わつしは「ばあ」と鳴いて
「かあ」とつけるかも知れませぬぞ。(はあは羊の鳴聲、同音の
輕蔑を示す間投詞に引つ
るかけ)

ブローチユウス それはさうと、俺の手紙をジュウリヤさん
に渡して呉れたかね？

スピード へい、旦那、渡しました。さ迷へる羊の
私が、ちまよへる羊(賣笑婦と譯すべきなれどブローチユウのあ
スの聞き符めざるを思ひゆく親和)のあ
の方に、お手紙をお渡ししました。するとちまよへる
羊のあの方は、さ迷へる羊の私の骨折に、何んにもお
渡しになりませんでした。

ブローチユウス そんなにいろ／＼の羊が居ちや牧場が少

少狭すぎるね。

スピード もし牧場が込合ひ過ぎてゐれば、あの雌羊めな
んかお突きなさいましよ。(突くは、突き殺すの意)
(別に卑猥な意味を含む)

ブローチユウス いや、そんな事を言ふお前はち迷つて
る……早速收檻せうがんしちまふよ。

スピード どういたしましたして、旦那、お手紙の使ひ賃に
パウンド(磅)を戴おいては恐れ入ります。

ブローチユウス 大間違ひだ。俺の言ふパウンドは、料場
の獸檻けうがんのことだよ。

スピード おやく／＼磅パウンドが針ピンになつちまつたのか、——針
に幾倍したところが。

それでも戀のお使ひにや少々安すぎます。

ブローチユウス そこで、あの人は何とお言ひだつた？
「スピードうなづく、ブローチユウスも思はずうなづく」

スピード 然り。

ブローチユウス うなづいて、然りぢや、馬鹿うまばかだね。

スピード それは旦那の間違ひですよ。あの方はうなづ
かれましたが、旦那がうなづかれたかとお聞きになつ
たので、わつしは「然り」と申しましたのですよ。

ブローチユウス それを一緒にすれば馬鹿ぢやないか。

スピード あなたが骨折つてそれを一緒になすつたのだから、骨折賃に取つて置きなさいまし。

ブローチユウス いや、お前にあげる、手紙を届けて来たんだから。

スピード やれ、どうもあなたには負けちまひますから、辛棒するよりほか仕方がございませんや。

ブローチユウス どう、辛棒すると云ふのだ？

スピード 全くのところ、手紙はちやんと渡すし、その骨折賃が「馬鹿」の他何にも戴けないと来るんですからね。

ブローチユウス 成程な、しかしお前の頓智はなか／＼すばしこいぞ。

スピード それでも、且那ののろくさい財布には、とても追ツつけませんや。

ブローチユウス さあ、手つ取り早く要件をぶち開けたら、何といつたね、あの人？

スピード 財布をぶち開けなさいよ、お金と要件と、どちらも一時に話せませうぜ。

ブローチユウス ぢや、おい、これが骨折賃だよ。「金を渡す」……何と言つたね、あの人？

スピード 「金を見てけちくさいとい 表情をし」ほんと

のところ、あの人は、お手に入りさうもありませんな。
ブローチユウス えッ！ お前、あの人からそんなことまで聞き出したのかい？

スピード わつしや、あの人から何一つ引き出せなかつたんですよ。いゝえ、且那のお手紙を渡したつて、一

兩も引出せやしねえ。云はゞ且那のお心とも言ふべきものを持つて行つた手前に、あんなに冷淡ぢや、且

那がお心をうち明けなすつたつて、何にもなりやしないからうかと案じられますよ。あの方への贈物には石

(石)で結構、刃金のやうに情の硬い人ですから。

ブローチユウス 一體、どうてんだ——何とも言はなかつたかい？

スピード 「そつげなく」えつ、何とも！「これがお骨折賃」とも言やしません。……且那のお惠民深いテ

スト(誠證)に、難有うございませう、手前もテストーン(二十種ほどの小貨幣、それが文硬(ひの骨折賃なので懐慨してゐる))抜ひして戴きました。その御返禮に、これから先は御自分で手紙を持つて行く

んですね。ぢや、且那、手前の主人よろしく申し上げときますよ。

彼は力みかへつて退場。

ブローチユウス 「立腹して」馬鹿、馬鹿、行つちまへ、

貴様が舟に乗りや、難船しつこありやしないから、舟は

大助りだ、

貴様は陸で、干乾（殺罪に處せら。もを暗に護す）にされるに決まつてる

んだから。

もつとい、使者を出さなくつちやならん。

あんな下らない奴から受取つたんでは、

わがジュウリヤ様が、僕の名文句を受納し給ふや否や疑は

しいぞ。

退場。

第二場

——同じくヴェローナ。ジュウリヤ家の庭。

戸が開いてジュウリヤと侍女ルウセッタ登場。

ジュウリヤ ね、ルウセッタ、——今私達二人きりよ——

私に、戀にはまり込めとお言ひなの？

ルウセッタ はい、うつかりして、とんでもない方にお轉

びにさへならなければ。

ジュウリヤ 「坐つて」大勢立派な殿方が、毎日のやうに、

私へお話にお出なさるが、

お前は、どなたが一番、戀する價値のある方とお思ひなの。

ルウセッタ どうぞお名を仰しやつて下さいまし、私の浅

薄な

愚な考へではありますが、存じようを申し上げますから。

ジュウリヤ 色白の士爵エグラムーアさんはどう？

ルウセッタ 御辯舌がお上手で、身綺麗でいらつしやる、

粹な方と思ひます。

でも私だつたら、好きな方にはしませんわ。

ジュウリヤ お金持のマーケイシオさんはどう？

ルウセッタ 御身代は御立派ですが、お人柄では、まあ、

でございませうわ。

ジュウリヤ 「眼をふせて」あの溫和（まどろ）しいブローチユウスさ

んは？

ルウセッタ あゝ／＼！ 何て、私達は愚しいのでせう！

ジュウリヤ 「鋭く」まあ！ あの方の名前をいつたら、ど

うしてそんなに興奮するの？

ルウセッタ 「沈鬱に」御免下さいまし、お姫さま——ひ

どく恥かしい氣がいたしましたのです。

私のやうなつまらない者が

御容子のよい方々をこんなに御批評申上げて。

ジュウリヤ 何だつてプローチュウスさんのことは言へな

いの？ 他の方と同じにさ。

ルウセッタ では、かう申します……多勢立派な方々のう

ちで、あの方が一等でございませう。

ジュウリヤ その理由は？

ルウセッタ 理由と申して、たゞ女子の理由だけで。

私、さう思ひますから、さう思ふのですよ。

ジュウリヤ では、私の戀をあの方に投げかけてもよいと

思つて？

ルウセッタ え……あなた様の戀が投捨てられはしない

とお考へなら。

ジュウリヤ でも、あの方、他の人達と違つて、一度だつ

てお申込にならないわ。

ルウセッタ だつて、あの方他の人達のなかでも、一番あ

なたをお慕ひになつてゐらつしやると私は思ひます。

ジュウリヤ お言葉の少ないのは愛の些ない證據だわ。

ルウセッタ 一所に集つて居る火が一番強く燃えます。

ジュウリヤ 愛を示さない人は愛がないのよ。

ルウセッタ いゝえ、愛を人に知らせるやうでは深い

愛があるまいと思ひます。

ジュウリヤ 私あの方のお心が知りたい。

ルウセッタ このお手紙をよく讀んで御覽なさいまし。

ジュウリヤ 「それを受取つて」「ジュウリヤ様へ。ね、ど

なたから？

ルウセッタ 中をお讀みになれば分ります。

ジュウリヤ ね、……誰がお前にこれを渡したの？

ルウセッタ ワランタイン様の侍童です。プローチュウス様

からだと思ひます。

そのお使ひは、あなた様にお手渡ししたかつたらしいの

ですが、ふと私がお逢ひしたので、

あなた様のお名で受取つて置きました。飛んだことを致

しまして相済みません。

ジュウリヤ 「怒を装つて」まア飛んでもない！——立派

なお取持だこと！……

お前いやらしい手紙なんか預つて来て、

小さな聲で、若い私を唆かさうといふの？

全く、大した立派なお役目だわね、

そしてお前さんにはびつたりのはまり役だこと。……

〔艶書を差出して〕さ……これを持っていつてお呉れ……

……きつとお返へしするのだよ。

それができなきや、二度とこゝへ歸つてはなりません。

ルウセッタ 愛のお願ひですもの、憎しみとはちつとは違

つたお禮を頂戴してもよさうなものですわ。

ジュウリヤ 「床を踏みならして」お前、行かないの？

ルウセッタ 「退場しながら」行きます、一人になれば、よ

うくお考へになれませうから。

退場。

ジュウリヤ 一寸でもお手紙を見て置きたかつた。

でも、一度呼び戻して、今叱つて突返へしたのを

見せてくれといふのは恥かしいし……

それに、あの女も何てお馬鹿なんだらう！ 私が處女だ

といふことを知つてゐながら、

無理にでもあの手紙を見せようとしないなんで！

處女といふものは、恥かしさから、「否」とはいつても、

ほんとは「諾」とその人に解釋して貰ひたいのだから。

ほんとに戀は、何て氣隨な、愚かなものだらう。

全で癪持の赤ん坊のやうに、乳母を引つつかく癖に

すぐに、溫和しくなつて了つて、躰の鞭に接吻をするの

だから……

口汚なくルウセッタを追拂つたけれども、

内心は、こゝにゐて貰ひたかつたのだし、

腹立しさうに、眉を逆立てゝ見せたりしたが、

胸の中の嬉しさは、多まらずにはゐられなかつたのだ。

罪滅ぼしにルウセッタを呼び戻し

愚かな今のことを詫言ませう。……

あのう、ルウセッタや！

ルウセッタ 歸りながら例の文を態と落す。

ルウセッタ お召してございますか？

ジュウリヤ もうそろ／＼食事時かい？

ルウセッタ さうだと宜しうございますが。――

すればお嬢様はお腹が一杯になつて

お附きの者などにお腹をお立てなさることもございます

まいから。

落した文をゆつくり大事相に拾ふ。

ジュウリヤ 何をそんなに用心して拾つたの？

ルウセッタ 何でもございませぬ。

ジュウリヤ ぢや、何だつてしやがんだのだい？

ルウセッタ 落とした紙片を拾はうと思ひましたので。

ジュウリヤ その紙片が何でもないとお言ひなの。

ルウセッタ 私には何の關係もございません。

ジュウリヤ それぢや、放つといたらいゝわ、關係のある

人が拾ふから。

ルウセッタ お嬢さま、關係のある人には、なか／＼放つ

とけない手紙でございますよ、(嬢は言はない、實は手紙といふ意味だが放つて置くので假にかく隠す)

間違つて解釋すれば別ですが。

ジュウリヤ お前の情人か何かや、歌でも書いて來たのぢ

やなくつて。

ルウセッタ 調子に合せて私に唱へといふのでございませ

う、お嬢さま……

譜(手紙と)をつけて下さい——お嬢様なら譜がお作りに

なれませう(返事が書け)から。

ジュウリヤ そんな下らないことに、私關はりたくないよ。

「氣輕な戀」の譜で唱ふといゝわ。

ルウセッタ あんな輕い譜には文句が重うございますわ。

ジュウリヤ 重い？ では大方拍子(重荷)つきなんだから

う。

ルウセッタ えい、……あなたがお歌ひになれば、それは

それは佳い調子が出ませうから。

ジュウリヤ お前ではいけないの？

ルウセッタ 私には、あんな高い調子(身分の相違)のものは(さかせる)

ジュウリヤ ともかくその歌をお見せ……

ジュウリヤは手紙をとらうとする。ルウセッタは急いでそれを背後に隠し、逃げる。

まあ、お轉婆さん！〔と追ひかける〕

ルウセッタ 〔向うむきのまゝ首をふり向けて〕いつ迄も

その調子、その調子、そのうち歌ひ疲れてしまひなさる

から。〔ジュウリヤとら／＼つかまへる〕

でも、何だか、この調子(ジュウリヤの機嫌)は好きませんわ。

ジュウリヤ 〔振りながら〕好かない？

ルウセッタ いやでございますわ、お嬢さま、あんまりシ

ヤープ(音樂の調子)ですもの。

ジュウリヤ 〔ぶちながら〕お前——お轉婆さん——あん

まり生意氣すぎるよ。

ルウセッタ いやでございますてば、今度はあんまりフラッ

ト(音樂の調子)ですよ。

そんなに急に荒ッばい調子になつては、和聲は臺なしで

す。

あなたのお歌にはたつた一つ次中音(中庸ミ、プロイチュウ)が缺けて居りますわ。

ジュウリヤ テノルは、お前のがみく言ふベースで聞えななつちまふよ。

ルウセッタ ベースではなくつて、鬼ごつこでございますよ。私、プロイチュウ様の爲めに「鬼さんこちら」をやつたのです。

ジュウリヤ そんな駄洒落なんか、これからは一切言はずはしないから。「彼女は手紙を引裂く」

ほんとに騒々しくて、口答へばかりして……

さあ、行つておしまひ！「ルウセッタ身を屈める」紙片はその儘にしてお置き！

いちくつたりなんかすると、私、ほんとに怒つてよ。ルウセッタ 「獨白のやうに」わざと驚いてゐるのだわ。もう一通手紙が来て

あゝいふ風に、もう一度腹を立てさせて貰つたら、それこそ上々機嫌になるんだわ。

私だつて、あゝいふ手紙を貰つて、

あんな風に腹を立てゝ見たいわ。……

退場。

ジュウリヤ 何といふ憎らしい手だらう、この手は！ あ

んな情けの深いお言葉を引裂くなんて！

悪い山蜂(ヤマバチ)だわ、あのやうな甘い蜜を食たべて居ながらそれを拵こへる蜜蜂を針で刺殺すなんて！

お詫びに、紙片に接吻しませう。「紙を拾ひながら」

まあ、こゝに「やさしきジュウリヤ様」と書いてあるわ。

……やさしくもないジュウリヤ、

恩知らずの復讐に

ジュウリヤといふ名を右に叩きつけ、

お前をさげすんで、散々に踏みにしつてやるから。……

こゝには「戀に傷つけるプロイチュウス」と書いてある。

お可哀いさうに傷ついたお名！ 私の胸を臥床ねどにして、

お怪我のすつかり治るまで、お留めして上げませう。

かうして探針たんしんを入れますよ、嘘うその確かな接吻キスで以て。……

だが、こゝにも、こゝにも、「プロイチュウス」と書いてあるわ。「跪いて紙片を求めながら」

あゝ風よ。静かにして、「言葉でも吹き飛ばさないやう

にしておくれ。

手紙の中の文字を、私の名前の外は一々寄せ集めるから、私の名前なんか、つむじ風が来て

恐ろしい海岸の岩の上へでも持つて行つて、
荒れ狂ふ海へ投り込んで呉れるといふ。……

まあ、こゝには一行にお名前が二ヶ所も書いてある。

「憐れむべし、うらぶれのブローチュウス、切々の情に耐

へぬブローチュウス。

いとしきジュウリヤ様へ」……この名は引裂きませう。……

でもよませう、こんなに綺麗に、

泣いておいでの御自分のお名前と、並べてあるのだから

かう疊んで置きませう、一枚づゝ上へ」と。

さあ、接吻なり、抱きしめるなり、摺み合ひするなり、

御意のまゝに遊ばせ。

ルウセッタ歸つて来る。

ルウセッタ お嬢さま、「ジュウリヤびつくりして立上る」

お食事の用意ができました……お父様がお待ちでござい

ます。

ジュウリヤ 「冷然と」あゝ、一緒に行きませう。

ルウセッタ あら、この紙片をかうやつておいて、噂の種

をお蔭きになるのでございますか？

ジュウリヤ 氣にかゝるなら、拾つたらいいわ。

ルウセッタ さつきは、私が落したので、とんだお小言を

拾ひましたつけ。

でも、こゝに寝かせて置いてはいけません、風邪をひか

れては(誰かに取られて)困るから。「彼女はかき集める」

ジュウリヤ 分つたよ、お前は手が出したくつて、出した

くつて、仕方がなかつたのだけわ。

ルウセッタ はい、お嬢さま、さうでございませうよ。あな

たは、「分つた、何て様だ」と仰しやつたが、

私だつて何もかも見えますわ。目を塞いであると思召に

なつていらつしやるか知れませんが。

ジュウリヤ さあ、さあ、あつちへ行かうよ。

兩人食事に行く

第三場

——ヴェローナ。アントーニオ邸
の一室

アントーニオが下男のパンシーノを伴れて登場。

アントーニオ おいパンシーノ、どんな大事な話だつた

ね。

弟が僧院で、お前を引き留めて話し込んだといふのは？

パンシーノ あの方の親御、あなた様の御令息、ブロー

チュウス様のことでございます。

アントーニオ え？ 伴が何うしたと言ふのだ？

パンシーノ 且那様はどうして若様を家に引留め、唯ぶら／＼させてお出でなさるのかと、不審がつて居られました。

それほど名のない他^{ほか}の家でさへ

外國に出して立身の途を求めさせたり、
戦中へ、一か八かの運試^{うんじし}しをさせにやつたり、
或は、遠くの島々を發見にやつたり、
學問に便利な大學へ行かせたり致します。

その何れにも、又は全部にでも、

ブローチュウスの若様は向いて居らつしやる、と斯^かう弟御

様は仰しやるのでございます。

そして私に、是非且那様に強請^{せが}んで

もうこれ以上家にお置きしないやうにしてくれ。

若いうちに旅行の經驗をさせないでは、

年取つてから大變な障礙^{さげ}になるから、と仰しやつたので

ございます。

アントーニオ いや、そのことなら、かれこれ強請^{せが}むに

及ばない。

この一月といふもの、そのことばかり考へてゐたのだ。
あれが時^{とき}を無駄費ひすることも、世間へ出て

鍛へられ、教へられないと

完全な人間になれないことも、とくと考へてゐた。

經驗は、勤勉によつて獲得^{とく}され

時の慌しい經過の間に完成されるものだ。

そこで、何處^{どこ}へやつたら一番いゝだらうか？

パンシーノ 且那様がよく御存じでございますが、

お仲間のプランタインの若様が、

領主様のところで、お側近^{そば}くお仕へてございます。

アントーニオ それはよく承知して居る。

パンシーノ あそこへお送りなされたら、よろしくはな

いかと存じます。

あそこなら槍仕合や、馬上仕合の稽古もでき、

うまい議論を聞いたり、貴族方と話をなすつたり、

又若様のやうな、若い御身分柄の方にふさはしい

いろ／＼の御修業がお出来なされるかと存じます。

アントーニオ その意見は氣に入つた。……いゝ忠告を

して呉れた。……

そして氣に入つた證據を見せる爲め

早速その實行にかゝる事にし、いつとは言はず、今日直ぐにも件を領主の許に遣はさう。

パンシーノ 幸なことには、明日ドン・アルフォンゾ様がお歴々の方々と御一緒に

御領主様の御機嫌伺ひのため、又

御奉公申上げるため、お旅立でございますが。

アントーニオ それはよい道づれた。プローチュウスも是非一緒にやらう。……

プローチュウス 頻りに手紙の文句を考へながら登場。いゝところへ来た。……話をして見よう。

プローチュウス いとしい戀人、美しい文句、楽しい人生、

これがあの人の筆蹟、あの人の心の代人だ、

これが、あの人の戀の起請、名譽の抵當だ。

あゝ、私達の父親が、二人の戀に賛成し

同意を以て二人の幸福に捺印して呉れるといふのだが……

おゝ天女のやうなジュウリヤよ！……

アントーニオ おい／＼！ その讀んでる手紙は何だ？

プローチュウス はい、お父様、ワランタインが

書いてよこしたほんの挨拶の文句ですよ。

あそこから友達が持つて来て呉れたんです。

アントーニオ 手紙をおかし、どれ、どんなことが書いてある？

プローチュウス 何も變つたことはありません。たゞ幸福な生活をしてゐる。みんなに可愛がられ、殿様から毎日御寵愛を受けてゐる。

つては、私にもこの幸運を分けてやりたいと、書いてあります。

アントーニオ で、その祈を聞いて、どんな氣になるかね、お前は？

プローチュウス 私にとつてすべては父上の御意志次第で

友人の祈りなどに左右されません。

アントーニオ わしの意志も、彼の祈りとほゞ一致してゐる。

突然こんなことをいつたからつて、不思議がつてはいけ

ない。

わしはかうすると思つたことは、きつと實行する。それ

だけだ。……

わしはの、お前をワランチースと一緒に、領主の許に送

り、

暫くそこで暮させることに決心した。

彼が友人達から受けてゐる生活費が何程か知らないが、それと同額の手當はわしが出してやる。

明日出掛ける準備をするがよい。――

いや、口實をこしらへても駄目だよ。わしは異議の申立を許さないから。

ブローチユウス 父上、私さう急に準備はできません。

どうか一兩日熟考さして下さい。

アントーニオ いや、入用なものとは後から送つてやる。

愚圖々々してはならない。明日出掛けなさい。……

さあ、パンシーノ、件を急いで旅立たせるので、

お前も何かと用事があるぞ。

アントーニオ 去ら、パンシーノ後について行く。

ブローチユウス これだ、焼かれてはいけないと思つて火

を避けて

海にすつかりはまり込み、とうとう溺死だ。……

僕は、親父にジュリヤの手紙を見せるのが恐かつた、

戀人のあら探しをされてはいけないと思つたんだ。

すると僕の誤魔化しが先方の利になつて、

戀愛はすつかり邪魔されてしまつた。……

お、何ぞこの戀の香は

四月の日の定めなき榮光に似たる、

今日の太陽の、輝くばかり美しくしと見しに

やがて雲は、すべてを奪ひ去りぬ。

パンシーノ 戸口へ来る。

パンシーノ ブローチユウス様、旦那様がお呼びでござい

ます。――

大層お急ぎの模様でございますから、どうぞすぐ行つし

やいませ。

ブローチユウス さあ、それはだ。元氣を出して承知はす

るが、

返事は「厭だ」、「厭だ」の百萬遍だ。

兩人退場。

第二一幕

第一場 ——ミラン市の街頭。

グラランタインの後にスピードがついて登場。
グラランタイン手袋を片方落す。

スピード 「走りよつて」 旦那様、お手袋でございます。
グラランタイン 俺のではない。俺は両方ともこの通り嵌めてゐる。

スピード ぢや愈々あなたのかも知れません。ちゃんと適りますすなら。(ト適切には譯し難し)
グラランタイン え！ どれお見せ。……さうだ、お寄越

し、俺のだ。(無論自分ではなくシルヴィヤの手袋である)
神々しい君を飾る美しい装飾——
あゝシルヴィヤ、——シルヴィヤ！

スピード 「大聲に呼ぶ」シルヴィヤ様ア！シルヴィヤ様ア！
ア！

グラランタイン これ、どうしたのだ！

スピード 聞える所には、居らつしやいません。
グラランタイン おい、誰が呼べといつた？

スピード 旦那様でございますよ、手前の聞き違ひでなきやあ。

グラランタイン 貴様は相變らず氣が早すぎる。

スピード ところが、先達は、あんまりのろいといふのでお叱りを受けました。

グラランタイン 馬鹿。……それはさうと、お前シルヴィヤさんを知つてるのか？

スピード 旦那様のお慕ひなさつてゐるあの方ですか？
グラランタイン なに、どうしてそれが分る？

スピード マリヤ様、(聖母マリヤにかけ)かういふ特別な徴候で分ります。第一、旦那様も段々ブローチユウスの旦那そつくりになられました。不平家らしく腕を組み、駒鳥よろしくの戀歌を囀り、疫病やみのやうに一人ほつちで散歩なさいます。そしてABCの讀本をなくした學校生徒そのまゝの太息をつき、祖母さんのおおひをした娘つ子のやうに、しくしくお泣きになる。微毒かきが療治を受けてるやうに、食斷ちしたり、泥棒が恐いのぢやあるまいに、夜もまんじりともなさらず、

萬聖節（ハロウイース 諸聖徒の靈を祀る十一月一日）の乞食みたいに、泣き聲で物を仰しやる。……以前は、大違ひで、お笑ひになる時は、（走馬）牡鶏の歌聲、歩く時は、獅子の足つき、ものを食らな（食ら）いのは、御食事の濟んだ後だけ、悲しさうなお顔は、お金がない時に限つたものでした。ところが、この頃は可愛い方がおできになつたばかりで、がらりとお變りになつて了ひ、お見あげしても、手前の旦那様とは思へない程でございますよ。

ブランタイン 俺がそんな風に見えるかね？

スピード みんな外面（ソト）に現はれてゐます。

ブランタイン 外面（ソト）だつて？ 外面なら俺の筈はない。

スピード いや、あります、確です。だつて旦那様がうぶでなければ、誰だつて他にうぶな人はありませんよ。なにしろ、旦那様にそんな馬鹿な事がないにしろ、そんな馬鹿な事が旦那様の内（ウチ）にあつて、透き通つて光り輝くことは、まるで試験管の小便みたいなんですよ。旦那様の病氣をかれこれ言ふのは、見た目でなくて、お醫者様です。（この邊の問答は駄洒落の連続に）
ブランタイン それはさうと、お前はシルヴィヤ姫を知つてるのかね？

スピード 御夕食の時、旦那様がしげ／＼見詰めてゐらしつた方ですか？

ブランタイン そんなことまで見て居たのか？ その人だ。

スピード ところで旦那様、實は存じませんですよ。

ブランタイン 俺がしげ／＼見てゐたのを解つてゐながら、知らないとは妙ぢやないか？

スピード その方は綺麗なお顔ぢやござんすまい！

ブランタイン いみじきしとやかさに較べると、美しさは、或はさ程でないのかも知れない。

スピード それならよく分つて居ります。

ブランタイン 何が分つてる？

スピード あなたが、ひどく、いとしがられる程には、御綺麗ぢやないつてことが。

ブランタイン そんなことがあるものか。その美は無類で、その魅力は無類なんだよ。

スピード それはかうでございますよ、美はお白粉（おしろい）の濃塗（ぬり）、魅力は問題外。

ブランタイン どう濃塗だ？ どう問題外だ？

スピード マリヤ様、白く見せるため塗らたくつたので、

誰もあの方の美なんて、問題にしないつて云ふ事でございませよ。

ブランタイン お前は俺に眼がないと思ふのか？ 俺はあの人のお美を問題にしてゐるぞ。

スピード あなたはあの方が變な風になられてから、一度もお逢ひなすつたことが御座んすまい。

ブランタイン いつから變な風になつたのだ？

スピード 旦那様がお迷ひになつてからです。

ブランタイン わしは一目見た時に惚れた。そして今でも依然として美しいと思つて居るよ。

スピード 惚れてらしては、本當のところがお見えになりませんか。

ブランタイン どうして？

スピード だつて戀は盲目めくらめですからね。——あゝ、私の

目を差し上げたいな。旦那様に、それとも御自身のお目が、昔のやうに光つてりやな。戀に浮身をやつしたブローチユウス様が、靴下の紐も締めずにゐるつて、お叱りなされたあの時分のやうにな！

ブランタイン さうだつたら何が見えると云ふのだ？

スピード あなたの今の馬鹿さ加減と、あの婦人のひど

くみつともなき加減がお見えになりますよ。だつて、ブローチユウスさんは、逆上せきつて靴下の紐を締める事を忘れるし、旦那様は逆上せきつてツボンのボタンをはめる事さへ忘れてゐなされる。

ブランタイン すると、お前も逆上せきつてると見える。

——昨日きのうの朝は俺の靴を磨くことを忘れてゐたぜ。

スピード 全くでございませよ、わつしは寢床が戀しくて戀しくて、逆上せきつてゐましたから。これは有難

い、旦那様は私をしつかりお仕置きなさいましたので、

私も關はず旦那様の戀を無遠慮に申しませう。

ブランタイン つまるところ、俺はあの人に熱あつつくなつて居るといふ立場なんだ。

スピード 立場でなくて、ねかし場だといふんだが、するときめて來ませよ。

ブランタイン 昨晚あの方はね、好きな人にやるんだか

ら、何か書いて呉れといふ命令だ。

スピード 何かお書きでしたか？

ブランタイン 書いた。

スピード 不揃ふぞろひな文句ぢやござんせんか？

ブランタイン そんなことはない、全力を盡して巧たくまく書

いた。レツ！ あの人がお見えた。

シルヴィヤ侍女を連れて近づく。

スピード おゝ、すてきな操りだ！……おゝ、素晴らしい

人形だ！……今に旦那様が説明の辯士になるぞ。

ブランタイン 「低く腰を屈め」姫君にして主人にのみます

君、千度ちとせも御機嫌およろしう。(無論、隠者被隠者の關係ではない、假に巨匠の力を、まるじの君、お嬢様を奉仕の君、お嬢様の意味は自分でいふ譯には)

スピード おゝ今日は、御機嫌様で……御作法の百萬遍

とござい！

シルヴィヤ 「禮をする」私の家來のブランタインさん。あ

なたにも千度ちとせも御機嫌およろしう。

スピード 「傍白」これは、旦那の方でも齎た渡しなげやな

るまい。婦人からは利附で出されるのだから。

ブランタイン 御命令に従ひ、名のない、祕密の御友人

宛の手紙を認めました。「彼はそれを渡す」

實際私に取つて、甚だ不本意な仕事でございましたが、

あなた様に對する義務の心から、仕し遂とげたのでござい

ます。

シルヴィヤ 「熟讀しながら」ありがたう、やさしき家來の

君、——大層美事な筆蹟ひしやくです。

ブランタイン 實際のところ、姫君、樂たのには書けなかつ

たのです。

どういふ方にお上げなされる手紙やら分りませんので、

甚だあやふやに書きました。

シルヴィヤ 「冷かに」大方あなたは、書くお骨折のことば

かり、お考へ過ぎになつたのでせうね。

ブランタイン いえ、お役に立ちますなら、いくらでも

書きます。

どうぞ、御命じなすつて下さい——千度ちとせでも喜んで……

でも——

シルヴィヤ いゝお言葉の結びね……さう……その後の句

は、私、あてますわ。——

けれども私、言ひますまい、——でもどうでもいいわ。

「彼女は手紙を返へさうとする」

でも、この手紙を、も一度受取つて頂戴。——でも、私、

感謝しますわ。

もうこれから御迷惑は掛けませんといふ意味でね。

スピード 「傍白」でも亦迷惑を掛けますよ。でも、未

だ、他の「でも」が出さうだ。

ワランタイン 「赤面して」何と仰しやるのですか？

お氣に入らないのですか？

シルヴィヤ いゝえ／＼、これで結構よ、大層面白く書けてますね。

けれど——厭々お書きになつたのですから、これはお戻し致しませう。「再び手紙を渡さうとする」

いゝえ、受取つて下さい。

ワランタイン これはあなたの爲めに書いたものです。

シルヴィヤ それはさうよ。私の依頼に應じてあなたが書

いたのです。

でも、要りません。あなたに差上げます、

私、もつと熱烈に書いて戴きたかつたのよ。

ワランタイン 「手紙を受取つて」どうぞもう一度書かせて頂きますせう。

シルヴィヤ そして書けたら、……私のために、読んで見て下さいな

もしあなたのお氣に入つたら、あの何だし……お氣に入らなかつたら、……それでもやつぱり、その……

ワランタイン 私の氣に入つたら、それでどうなんです？

シルヴィヤ お氣に召したら、骨折賃に仕舞つてお置きな

さいまし。

では、さやうなら。「禮をして過ぎ行く」

スピード 「傍白」おゝ、この洒落シヤレは見えもしなければ、

解りもしないし、また感づかれもしない、

恰度自分の顔にある鼻や、塔の先の風見カゼミよろしくといふ

あんばいに、一向目に附かないと來てゐる……

俺のとこの大將が令嬢を口説く、と、令嬢がその口説手

に教へる、大將の方が生徒のくせに、

あべこべに師匠になつてね、てなことを言つて教へな

つた。

でも、素晴らしい計略だ。これに上越ウブコす話を聞いた事があ

つたか、どうかな？

大將が書き役になつて、自分のとこへ來る鬚書カミガキを書くな

んて！

ワランタイン おい／＼、お前獨りで何の理窟リクツを説き立

てゝゐるんだ？

スピード なあに……わつしは押韻ウイムを考へてましたんで

……理窟リクツは旦那様の方ですよ。

ワランタイン どういふ理窟リクツだね。

スピード シルヴィヤさんの代りになつて説立セキタテてるとい

ふ理窟なんですよ。

ワランタイン 誰に向つて説立てるんだ？

スピード あなた御自身にでさ……ね、あの方は、ちよいと律語を使つて、あなたを口説いてみらつしやるんです。

ワランタイン どういふ律語で？

スピード 勿論手紙でさあ。

ワランタイン でも、俺に手紙なんて一度も呉れはしないよ。

スピード 書く必要はないぢやありませんか？ あの方は、あなたに、あなた御自身宛の手紙を書かせたので、すもの。え、この洒落がお分りになりませんか？

ワランタイン 分らないよ、全く。

スピード 全くそれでは御自慢になれませんや、旦那様。しかし、あの方の手付金(眞劍まき言ふ意味を含めて)は見ましたか？

ワランタイン 何も呉れなかつたよ、怒つただけ。

スピード だつて、手紙をお渡しになりましたぢやありませんか。

ワランタイン あれば俺があの方の友達に書いた手紙だよ。

スピード ところが、その手紙をあの方が配達したでせう、それでおしまひ！

ワランタイン さあ、それだけでおしまひなればいゝが。スピード 保証つき、あれでいゝんですよ、

あなたは幾度もあの方に手紙をやりましたが、あの方にすれば、憤しいらいらみ深いのか、

それとも暇がないのか、度々御返事が出来なかつたのです。——

或は使の者に本心を見抜かれるのも悪いと思つて、自身で戀人に、戀人宛の手紙を書くやう、教へたのですよ！

手前の申し條、逐一正確なり！
正確に見届けたことですからね。……

何を考へてゐらつしやるのです？ もう御飯時ですよ。

ワランタイン 「溜息を吐いて」御飯はもうすんだ。

スピード ですが、まあ、お聞きなさいまし。戀といふカメレオンは、空気を食つて生きてても居られませうが、わつしは食物で生きて居る人間ですから、食事にありつきたうございますなあ。おゝ、旦那様、好きな方の眞似なんかよして、——さつさと選ばつしやい、運

ばつしやい。

グランタインを促して去る。

第二場

——ヴェローナ。ジュウリヤの家に
近い街頭。

プローチユウスとジュウリヤが樹の下の腰掛に坐つて
ゐる。

プローチユウス ジュウリヤさん、辛抱して下さい。

ジュウリヤ ええ、しなければなりません、何とも仕様が
ないのですから。

プローチユウス 歸れるやうになつたら、すぐ歸つて來ま
す。

ジュウリヤ お心變りがなければ……少しでも早くお歸り
でございませう。

この記念の品を、あなたのジュウリヤの爲めに、取つて置
いて頂戴。〔指環を渡す〕

プローチユウス では交換をさせよう。さあ、これを受取
つて下さい。〔彼も指環を渡す〕

ジュウリヤ この交換に神聖な接吻の判子を擦して下さい

い。

プローチユウス この手は私の心の變らない抵當です。

ジュウリヤさん。あなたを思つて、溜息を吐かない時が

一日のうちに一時間でもあつたら、

その次の時間には、何か厭な災難が起つて

戀を忘れた罰に、私を苛責させるがいゝ……

父が待つて居ります。……御返事には及びません……丁

度潮時です。……いや、あなたの涙の潮時ではいけな

い。

その潮時が來ると、急がなければならぬ時にも、いつ

迄も留まつて居りたくありません。

ジュウリヤさん、左様なら……

二人は抱擁する、女は泣きながらはひる。

えー！一言もいはずに行つちまつたのか？

さうだ、眞の戀はあくしたものだ。物がいへない。——

眞實といふものは、それだけで立派な行爲で、これを飾

る言葉以上だ。

パンシーノ 遠くに現はれる。

パンシーノ 「呼ぶ」プローチユウス様ア！ お待ち兼ね

でございますよ。

ブローチユウス 馬鹿……今行くよ、今……

あゝく！ この別れで、可哀さうな恋人同志は啞おろつてしまつた。

彼は行く。

第三場 — 同所。街頭。

ラインスが泣きながらそろ／＼近づいて来る、見ると一匹の犬を曳いてゐたが、彼はそれを立木に結はへつける。

ラインス いや、いや、もう泣くのを止めなくちや、時刻が来る。どうもラインス家の者は、誰も彼もかういふ悪い癖がある。……俺は暴動息子(放蕩息子)のやうに、割合(割合)はちやんと貰つて、これからブローチユウス様と一緒に、殿様の御殿へ行かうといふのだ。……どうもこのクラップ、俺の犬だがね、こいつは世界に又とない無愛想な生れつきらしい。おふくろが泣き、親父が嘆なげき、妹がわめき、女中が吼ほえ、猫まで手を振りしほり、一家中大混雑をやつてゐるのに、——こいつだ、この薄情な野良犬め、涙一粒流しやがらない。

こいつは石だ、全く砂利石だ。氣の毒なんて思ふ心は犬ほどもありやしない。猶太人だつて、俺達の別れを見たら、泣いただらうよ。全く、祖母さんなんざ、もと／＼目がないんだが、いゝかね、俺と別れるので、泣いて／＼、目を泣きつぶしちぎつた。いや、その光景をお目にかける。……〔自分の靴を脱ぐ〕この靴は俺の親父だ。……いや、この左の靴が俺の親父だ。いや、いや、この左の靴は俺のおふくろだ。……いやそんな筈はない。……さうだ、その通りだ、その通りだ、こつちの方が腹の底が悪いんだ。……この靴、穴のある方が、おふくろで、此方が親父だ。……畜生、罰當り奴！ そら、それだ。……〔二足の靴を腰掛の上に置く〕扱き、このステッキが俺の妹だよ。だつてもね、あいつは百合のやうに白くつて、鞭のやうに細いんだから、この帽子がナンだ、宅の女中だ。俺がその犬だ。……いや、犬はきやつ自身だ。そして俺が犬だ。……お、犬は俺だ。そして俺は俺だ。さうだ、さう、さう……ところで俺が親父さんのところへ来る、〔跪く〕「お父さん、祝福して下さい。」ところが靴は、涙で物がいはれない。で俺は親父さんに接吻をする。〔二足

の靴に接吻する」さうだ。親父さんは泣き止まない。……今度はおふくろのところへ行く。お、おふくろが狂女のやうに喋らたい、なんだが！ さうだ、俺はおふくろに接吻する。「他の靴に接吻する」さてこゝだ、おふくろが上げたり下げたり吐息をつく、かうだ。……今度は妹のところだ、よく氣をつけて御覽なさい、妹のうめき聲を。(大方襦をびゅう) 扱この犬めは、この間中、涙一滴こぼしもしなければ、一言だつて物をいはない。まあしかし、どうだ、俺は涙で埃を鎮めツちまつた。

パンシーノ大急ぎで歸つて来る。

パンシーノ ラーンズ、早く、早く。……船に乗つたり！ ……御主人はもうお乗込みだから、お前はポートで後から追つ掛ければならないよ。……どうしたのだ？ 何だつて泣くのだ？ 野呂馬、早くしろ、これ以上愚圖々々していると潮時を逃がすぜ。
ラーンス 「悲しげに」縛つて、犬なんざ逃がしたつて構やしないや、こんな情けを知らない奴は又とないのだから。

パンシーノ 何が情けを知らない潮時だ？

ラーンス こゝに縛つてある奴ですよ。私の犬のクラブでさあ。

パンシーノ 馬鹿。俺のいふのはあげ潮を逃がすつてこどだよ。あげ潮を逃がしや航海を逃がすよ。航海を逃がしや御主人を逃がすよ、御主人を逃がしや勤めを逃がすよ。勤めを逃がしや——何だつて俺の口に手を當てるんだ？

ラーンス お前さんが舌を逃がしちやいけないからさ。

パンシーノ 何處で舌を逃がすといふんだ？

ラーンス お尻にさ。

パンシーノ お尻に？

ラーンス 話しつ尻にですよ。逃がすと、まづ潮時を、それから航海を、それから御主人を、それから勤口を、——それから縛つた奴か……「クラブの紐を解いてやる」ね、あんた、河が乾からびても、風が凧いでも、この吐息でポートは動くよ。

パンシーノ さあ、早く行け。早く。——俺はお前を呼びに来たのだぞ。

ラーンス 「脅すやうに」おい。……どうでも勝手に呼ぶがい、や！

パンシーノ 行くか？ ころら。

ラインス あゝ、行くよ。

兩人急ぎ去る。

第四場 ——ミラン。領主の一室。

ブランタインとシルヴィヤが一緒に坐つて、低い調子で話をしてゐる。ブランタインの後方にはスピード。士爵スーリオ（しやれた衣装をつけて）遠くから見守つてゐる。

シルヴィヤ あなた。（文字通りに「家来」）

ブランタイン 何御用です。（文字通りに「主人」）

スピード（彼の耳に）旦那様、士爵スーリオさんが脱んで

ますよ。

ブランタイン さうだ。ありや戀の故だ。

スピード 旦那様を戀してる故ぢやありませんや。

ブランタイン では、私の主人の姫君をだ。

スピード あんな奴、なぐりつけるがいゝんだ。

スピードは出て行く。

シルヴィヤ（輕快に、聲高に）あなた、鬱いでゐらつしや

るのね。

ブランタイン お姫さん、さうも見えるのでせう。

スーリオ 實はさうでなくて、只さう見えるのかね？

ブランタイン 大方さうだらう。

スーリオ 實物は、大抵さうだからね。

ブランタイン 君が正しくそれだ。

スーリオ 僕が實際にどう違つて見えるかね？

ブランタイン お悋巧なことだね。

スーリオ 僕が悋巧でないといふ證據は？

ブランタイン 即ち、愚劣であることさ。

スーリオ 僕のとこが愚劣だといふのかね？

ブランタイン 先づ君の着附はジャケツだからさ。

スーリオ ジャケツぢやないよ、二重チヨッキだよ。（「ジャ

又ジャケツをチヨッキの上に着ることあり、又ジャケツなしにチヨッキのみの事あり。両方とも袖のない場合には見分けがつかない）

ブランタイン そんなら君の愚劣も二重にして上げよう。

スーリオ なんだと？

シルヴィヤ おや、お腹立ちなの？ スーリオさん。あんな

たでも色をお變へなさるの？

ブランタイン うつちやつて置きなさい、お姫さん、

この男はカメレオンの一種ですから。
スーリオ このカメレオンはな、空気で生きるよりも、

君の生血を吸ひたがって居るんだぞ。

ワランタイン 全くその通りだらう。

スーリオ その通りどころぢやない、今度こそ腹をきめ
たぞ。

ワランタイン それはよく分つてるよ。君はいつも、始
めるかと思ふと、もうお終ひなんだから。

シルヴィヤ お二人共、素晴らしい言葉の一齊射撃ね。そし
て撃つのもお迅いわ。

ワランタイン 全くです、お姫さん——私共は狙ひの指
揮官に御禮を言ひます。

シルヴィヤ 誰なの、それは？

ワランタイン あなたですよ。あなたが火をつけたので
すから。スーリオ君はお姫さんのお顔を伺つて、そ
こから智慧を借りて居るのですが、でも借りただけは
使つてゐます、御丁寧にあなたの前で。

スーリオ 君が一ト語、僕が一ト語と、一緒に一ト語つゝ
使ふとすれば、君の智慧なんざあ、すぐ破産だよ。

ワランタイン それもよく分つて居る。君は言葉といふ

寶庫を持つて居る。ところで、どうやらその他には、家

來衆に呉れてやる寶財はないらしい。御家來衆のみす
ほらしいお仕着でも分るが、みんな君の、やるぞく

といふ口先だけで生きて居るらしいね。

シルヴィヤ もうお止し遊ばせよ、お兩方とも……父が來
ましたから。

領主、手に一通の書面を持つて登場。

領主 「にこくしながら」シルヴィヤ。お前ひどく包圍

されて居るね。……

ワランタイン君、君の御親父はお達者だぜ。——

又君の友人達から吉報がいろく来て居るが、

どうだ、嬉しいか？

ワランタイン 御前、幸ひあちらから参りましたものな
ら、どんな使者にでも感謝致します。

領主 君は同郷人でドン・アントーニオといふのを御存

知かね？

ワランタイン 存じて居ります。其方なら

立派な紳士で、評判もよく、

確に評判だけの價値のある方でございます。

領主 息子さんはなかつたかね？

ワランタイン　ございます、御前——父の名聲と令聞を恥かしめないだけの男でございます。

領主　その男をよく知つてゐるのかね？

ワランタイン　自分のことのやうに存じて居ります。と

申しますのも、幼少の頃から、

二人は友達で、一緒に時を過ごしたのでございます。

私自身はやくざなのらしく、者で、

時の親切な賜物を利用して

天使のやうな完全な人間になる可き修行を怠りましたが

士爵^サプロテウス、と彼は申すのでございしますが、

彼はよりよく時日を使用し、又善用いたしました。

歳こそ若い、經驗にかけては老成で、

頭腦は未熟でも、分別は熟して居ります。

要するに、——只今申すすべての譽言葉でも、

到底彼の眞價を盡すに足りませんが——

彼は風采に於ても、精神に於ても完全無缺で、

苟も紳士たるもの飾りとなる可き諸々の徳は備へてを

ります。

領主　やれ、彼が果して君の言葉通りだつたら、

一國の女王から慕はれるだけの價値があり、

皇帝の顧問官にも相應しい人物だ。……

ところで、君、その人が有名な王侯の推舉狀を携へ

この私のところへ来て

暫く暮すつもりらしい。

君にとり、あまり嬉しくない便りでもなからうと思ふが。

ワランタイン　若し私にたつた一つの事だけ願へと言は

れましたら、それは彼が来る事だつたのでございませう。

領主　では、それ程の人物に適はしきやう歓迎するがよい。

シルヴィヤ、お前にも言つて置く、それから士爵^サスロー

オ、君にも——

ワランタインにはわしが特に言ふ必要はないであらう。

すぐにその人を君達の所へ来て貰はう。

領主出て行く。

ワランタイン　これが、あなたにお話し申した事のある

友人でございませう。

私と一緒に來させようとしたが、彼の眼は

戀人の水晶の眼の中に虜にされて參ることが出来なかつ

たのでございませう。

シルヴィヤ　大方、お心變りをしないといふ

何か他の抵當を入れて離して貰つたのでせう。

フランタイン いゝえ、きつと、いまだに捕虜にされてゐるのだと思ひます。

シルヴィヤ そんなことはないわ。それちや、お盲目さんの筈ですもの。——お眼がなくなつて、

どうしてあなたを尋ねてくる道がお分りでせう。

フランタイン でも、姫君、戀には二十對の眼があるぢやありませんか。

スーリオ 世間ぢや、戀には一つだつて眼がないと言つてゐますよ。

フランタイン スーリオ、君のやうな戀をする男を見るにはだよ——

下らないものには、戀だつて眼を塞ぐんだよ。

シルヴィヤ もういゝのよ、もういゝのよ、お話の方が入らしたから。

ブローチユウス登場、スーリオは肩をゆすり、輕蔑の意を示して出て行く。

フランタイン ようこそ、ブローチユウス。……〔兩人抱擁する〕姫君どうぞ、

特別なお恵みを持ちまして、御歓迎下さいまし。

シルヴィヤ この方のお價值そのものが御歓迎を受けられ
る保證になります、

若しこの方があなたの始終便りを聞きたがつてゐらした
たお方でしたら。

フランタイン その人でございます。「うやくしく紹介する」姫君、どうか、

私同様、あなたの御家來の中にお加へ下さいませう。

シルヴィヤ 「會釋しながら」かういふ高い御家來の主人
としましては、私は、あんまり低すぎます。

ブローチユウス 決して、決して、やさしい姫君、私こそ
却つて

かういふ優れたおん方のお眼に止まるには、あまりに粗
末すぎる者でございます。

フランタイン 謙遜の御問答はおやめ下さい。
どうぞ、彼を御家來の一人として、お受け下さいませう。

ブローチユウス 他の何ものも棄て、偏へにその義務を
盡すことを誇りと致しませう。

シルヴィヤ 義務に報酬のなかつたことは昔から一度もご
ざいませぬ。「彼はシルヴィヤの手に接吻する」

家來のお方、不束な主人の處へよくおいで下さいました。
ブローチユウス 姫でなくて、他の者がそんなことを申し
たなら、私は命を賭けても戦ひます。

シルヴィヤ よくおいで下さいましたと言つたのをです
か？

ブローチユウス いゝえ、不束者と仰しやつたのをです。

スーリオ登場 (スーリオを登場せしめずして從
僕をこゝに登場させる本もある)

スーリオ お姫さま、父君がお召しです。
シルヴィヤ 畏りました。……さ、スーリオさん、

御一緒に参りませう。新來の家來の方、本當によく入ら
しつて下さいました。

お二人を故郷のお話に残して参ります。

それが果てましたら、私共も聞かせて頂くやう、豫期し
て居ります。

ブローチユウス 兩人共謹んで御意に従ひます。

シルヴィヤはスーリオを伴うて退場。

ブランタイン ところで君、郷里の連中は皆達者かね？
ブローチユウス 君の友達は達者だ、そして呉々もよろし

くといふことだつた。

ブランタイン で、君の友人達は？

ブローチユウス 出立つ時には皆健康だつた。
ブランタイン あの戀人はどうです？ 君の戀愛事件の
發展は？

ブローチユウス 僕の戀愛談には、いつも君は参つたもん
だ。

知つてるよ、君は戀愛問答をちつとも嬉しがらないんだ
から。

ブランタイン うん、ブローチユウス、だが今は變つた。

僕は戀を輕蔑したので、その罪滅しの苦行をしてゐるよ。
戀の氣高い、力強い物思ひ (或は *thou'st* 革) が僕を罰
して

痛ましい斷食、悔恨のうめき

夜毎の涙、日毎の胸を裂く溜息ばかりだ。

戀をあざ笑つた復讐に、

癖となつたこの眼からは睡眠が追出され、

まんじりともしないで、この胸の悲しみを見守つてゐる。

おゝ、ブローチユウス君よ。戀の神こそは、力強き君主
だ。

僕もすつかりこの君に屈服して了つた。白狀するが

この君の懲罰に比すべき悲しみはなく、

この君に仕へるほどの喜びは地上に又とない。
今では戀の話でなければ聞きたくなく、

戀とさへ聞けば

斷食を破つて、中食もする、夕食もする、また眠りもするよ。

ブローチユウス 分つた、十分だ。君の眼色で君の好運は
讀める。

で、今がそれかい？ 君がそんなにまで崇拜して居る

御神體は？

ブランタイン 正にさうだ。神々しい天の使ひではない

かね？

ブローチユウス ではないが、地上の絶品だね。

ブランタイン 神のやうなと言つて呉れ給へ。

ブローチユウス あの人にお世辭は言ひたくない。

ブランタイン おゝ、では僕にお世辭を使つて呉れ給へ。

譽められたいのが戀だからね。

ブローチユウス 僕が思つてゐた時に、君は苦い藥を吞越

した。

—だから、君にも同じ處方を上げなくてはね。

ブランタイン では、眞實のところだけでいゝ。よし神

のやうではないにしても、

とも角も位高き天堂界の靈、

地上のありとある生物に君臨する者と言つてくれ給へ。

ブローチユウス 僕の戀人だけは例外だよ。

ブランタイン 君、誰も例外にしてはいけない。

僕の戀人に、何か例外とすべき缺點でもあるといふのな

ら別だが。

ブローチユウス だつて、僕には僕の戀人の方に執心する

理窟が有らうぢやないか？

ブランタイン 僕がお手傳して、君の人も推薦(原文には執心)

してあげるよ。

それには、あの人に威嚴をつけて、かういふ高い名譽あ

る位に即けることにしよう。——

即ち僕の姫の裾持ちにする。賤しい地びだが、

どうかした拍子に姫の衣に接吻をして、

その得た素晴らしい恩寵に有頂天になり

夏生ひ繁る草花の根を下すことなどは下品だと言つて嫌

ひ、

永久に厭な多ばツかりにして置くといけないから。

ブローチユウス おい、ブランタイン、そりや何といふ駄

法螺だ？

グランタイン 失禮ながら、ブローチユウス、僕がどんな

に言つたつて、あの人に較べれば

何でもないんだ。あの人の價値の前には他の價値ある人

なんか、なんでもなくなつてしまふ。

あんなのはたつた一人だよ。

ブローチユウス ぢや、關はず、一人ぼつちにして置くさ。

グランタイン 金輪際、そんなことは出来ない、何しろ、

君、僕のものだからね。

かういふ寶石を所有してゐる僕は、

砂がすつかり眞珠で、水が醜醜味、

岩が純金だといふ二十の海國を持つてゐるやうなもの

さ。……

許して呉れ給へ、君のことを考へないのは悪いが、

御覽の通り、僕は戀に溺れてゐるのだから。

僕には馬鹿者の競争者があつてね、姫の父君からは、

とても素晴らしい財産があると云ふので、氣に入られてる

のだよ、

今しがた姫と一緒にあちらへ行つた。僕は後を追つ掛け

なくつちやならん。

戀といふ奴は、御存知の通り、邪推ぶかいものだからね。

ブローチユウス だが、婦人も君を愛するのかね？

グランタイン さうさ。もう婚約したよ。それどころか、

結婚の時間から、臨落の巧い方法まで、

すつかり決まつてゐるんだよ。あの人の窓をどういふ風

にして登るかまでね、——

梯子は繩で拵へてあるし、——計畫はすつかり出来て、

打合せは済み、僕の幸福を待つてゐるばかりさ。……

ね、ブローチユウス、一緒に僕の部屋へ来て呉れ給へ、

この事件で、一つ君の智慧を借り、援助して貰はうぢや

ないか。

ブローチユウス 先へ行つてくれ給へ。後から訪ねるから。

波止場へ行つて、是非入用なものを

船から下さなくてはならない。

それが濟んだらすぐに行くよ。

グランタイン 「戸口で」急いでくれるかね？

ブローチユウス いゝとも……〔グランタイン別れてゆく〕

一つの熱が、他の熱を追つ拂ふやうに、

一本の釘がその力でほかの釘を押し出すやうに、

俺の舊の戀人の記憶は、

新しい對照物の爲めにすっかり忘れられてしまつた。

あれは俺のものだ。……ワランタインが賞めぬくからかあの女の眞の完全さからか、それとも俺の間違つた罪のためか、

俺に理窟のあらう筈はないのだが、それにも拘らず、俺にこんな理窟をつけさせる。

あの人は美くしい、俺の愛するジュウリヤもさうだ——俺の愛する？ いやもと愛してゐたのだ。今ではあの戀は溶けて、

火にかざした蠟人形みたいになつた、昔あつた印象はなくなつて了つた。……

どうも俺はワランタインに對して冷かになつた。昔のやうに愛する氣にならない。

あゝ、俺は、彼の戀人が好きで——たまらない。それが彼に對して冷淡になつた理由なんだ。……

もつとよく見たら、どんなに溺れることであらう？考へもなく思ひそめても、かうなのだから。

まだほんの繪姿だけを見た許りなのに、俺の理性の光はくらんでしまつた。

すっかり完全な姿を拜んだ日には、

盲目になつてしまふのも尤であらう……

道ならぬこの戀が喰ひ止められるものならば、喰ひ止めたい——

それが出来なければ、一つ手腕を振つても、手に入れずにはおかんぞ。

考へ込んで出てゆく。

第五場

——同所。波止場に近い街頭。ほとりに酒場がある。

スピードがラインスと彼の犬に出逢ふ。

スピード ラインス！ 俺の眞心かけて誓言する、パデュー

ア(ミランの間)（遠ひならん）へはよくやつて來た。

ラインス 誓を破る罪に落ちまいぞ、若いの、よく來たなんて嘘だ。俺はいつもかう思ふんだ——人間つて奴

は首を縊られてしまはない内は、參つてしまはないし、酒場の勘定を拂つて、お主婦から「入らつしやい！」

といはれない内は、歓迎されたのぢやないよ。

スピード おい／＼、狂人。今すぐに酒場へ連れてつてやるよ。あそこでは、五片のペンネの一ト勘定さへつけければ、「い

らつしやい。」の百萬遍も聞けるからね……だか、おい
お前の御主人とジュウリヤさんのお別れの段だはどんな
だつたね？

ラインス　むきになつて話を決めてね、しまひには冗談
を言つてさつぱりと別れたよ。

スピード　けれどジュウリヤさんは旦那のお嫁さんにな
るのかね？

ラインス　いゝや。

スピード　ぢや、どうなのだ？　旦那がジュウリヤさんの

お聲さんになると云ふのかね？

ラインス　さうでもない。

スピード　ぢや、こはれて了つたと言ふのだね。

ラインス　こはれやしないよ。二人とも魚さかなのやうに一つ
だ。

スピード　ぢや、一體一件いっけんはどうなつてるのだ？

ラインス　かうだよ。――男の一件がよけりや、女の方

もいゝのだつてよ。

スピード　何言つてやがる、貴様は！　とんと分らねえ。

ラインス　何て拔作ぬきさだらう、貴様は！　これが分らねえ

なんて。俺のこの杖でせい、ちやんと分つてらあ。

スピード　貴様のいふことが分らねえと言ふのだよ。

ラインス　さうさ、言ふこともすることも分らねえや。

かう、見な、俺が屈こみさへすりや、俺の杖は、ちやんと

突ツかひしてゐるぢやねえか。

スピード　成程、突ツかい棒になつてゐらあ。

ラインス　だからよ、大抵の棒くら（ほんくら）でもこれ

は分るといふことさ（駄洒落は大分意譯した）

スピード　併し本當のことを聞かして呉れよ、縁談はど

うなつたのだ？

ラインス　俺の犬に聞いて見な。――犬が「うん」とい

つても出来るし、「いゝや」といつても出来る。尻尾を

振つて何も言はなくてもやつぱり出来るよ。

スピード　ぢや、とゞの詰り、出来るんだね。

ラインス　汝我れよりかゝる祕密を探り得ずさ、比喩談たとへ

によるの外はないよ。

スピード　比喩談たとへによりてこれを知るはよしか。……だ

がねラインス。どう思ふ？　俺の主人はなうて、の色男

になつたぜ。

ラインス　もとからさうだと思つてゐた。

スピード　さうだとはどう？

ラインス 間拔のふな男さ、お前が言ふ通り(原文は「お前」に對して「お前」)

(「間拔の歸の語呂で間に合はせた」)

スピード なんだ、助平の頓馬野郎、俺を誤解してゐやがる。

ラインス なんだ、阿呆、お前のことを言ひやしないよ。お前の主人のことだよ。

スピード いゝかね、かうだよ、俺の旦那は大熱々の色男になつたのだよ。

ラインス いゝか、かうだよ、お前の旦那が熱々になつて黒焦げになつたつて、俺の知つたこつちやねえんだよ……お前来る氣なら一緒に酒場へ行かう。厭ならお前はヒブルだ、猶太人だ、基督信者とは言はれねえや。

スピード どうして？

ラインス どうしてだつて、基督信者と一緒にエール祭(イギリスに於ける田舎の教會の祭で此祭に教會の獻金を集める)に行くだけの慈悲心がなくちやあ。……行くかい？

スピード お伴いたしませうだ。

兩人酒場へはひる。

第六場 —— 同所。

ブローチユウスが思ひに沈んで行過ぎる、波止場への途中である。

ブローチユウス ジュウリヤを捨てて……それでは誓ひを破ることになる。

美しいシルヴィヤを戀する……それでも誓を破ることになるかな？

友達に煮湯を飲ませりや、それが一番誓を破ることになるらう。……

最初俺に誓言をさせたあの力が、

俺にけしかけて、この三重の破誓の罪を犯させるのだ。

戀が誓へと命じて、今又誓を破れと命じる。

おゝ、心地よく暗示する戀よ、若しお前が罪を犯したのなら

なら

俺に——お前に誘惑されたこの家來に——その辯解の方法も教へて呉れ。……

最初俺は輝く星をあがめて居たが、

今は天堂界の太陽を讚美して居る。

不注意になした誓約は、注意して破ればよい。

智慧に教へて悪いものを善いものに取かへさせるだけの

決斷力のない者は智慧も缺けてゐるといふものだ。

馬鹿な、何を言ふ、失禮な舌め！ あの人を悪女など、言つて。

お前は何千度となく、心からの誓約を以て

あの人を讚美したではないか。……

戀することを止めるわけには行かん……：……けれども止める。

すると、あつちを止めて、こつちを戀することになる。

……

と、俺はジュウリヤを失ひ、又ブランタインを失ふ。——

兩人とも有つてゐれば、勢ひ自分自身を失はなくてはならないことになる。

兩人ともなくすれば、そのなくすることによつて、得るものはかうだ。——

ブランタインの代りに俺自身を、ジュウリヤの代りにシルヴィヤをだ。

俺は、俺自身に取つて友人よりも大事だ。

戀はいつも己を一番貴いものとするのだからね。

それに、シルヴィヤに比べりや——彼女を美しくした天も照覽あれ！——

ジュウリヤは黒人のエシオピヤにも等しい。……

ジュウリヤの生きて居ることは忘れよう。

あれに對する俺の戀は死んだ以上、

さうしてブランタインは敵だと思ふ以上、

只一心にシルヴィヤをより美しい友と決めよう……

かうなれば、ブランタインに裏切をしなければ、

自分に對して忠實なものとは言へないことになる。……

今夜彼奴め繩の梯子で、

神聖なシルヴィヤ様の部屋の窓へ登らうとしてゐる、

競争者の俺を相談役にしてだ。……

時を移さず、二人が變装し、謀し合せて逃げ出す計略を

あの人の父君に向つて警告してくれよう。

すると父君にはすつかり立腹して、ブランタインを放逐する。

自分の腹では、スーリオを娘の良人にする積りだから。

だが、ブランタインさへ居なければ、うまく手を廻し、

馬鹿者のスーリオのへまな遺口なざあ、譯なく邪魔をし

てくれる。……

戀の神様、この計略が手つ取り早く行きますやうに、私

に翼を貸して下さい。

あなたは既にこの考へを計畫するだけのお智慧を貸して下すつたのだから。

めざす方へ歩みを續ける。

第七場

——ヴェローナ。ジュウリヤ家の一室。

ジュウリヤは頻りに地圖を調べ、ルウセッタは縫物をしてゐる。

ジュウリヤ 「顔を上げて」ルウセッタや、相談に乗つて、力を貸してお呉れ？

お前の親切に甘え、本當にお頼みするのよ。

お前は私のいろ／＼の思ひが、

はつきりと書いて彫りつけてある手帳なんだから。

ね、教へて、何かいゝ方法を話してお呉れね、

他人様に後指をさゝれないで、

戀しいブローチュウス様のところへ、どうしたら行ける

か？

ルウセッタ あゝ、旅は辛いものですよ、路が遠はございますからな。

ジュウリヤ 何の辛いことがあるものかね、本當に信心氣のある巡禮なら、

か弱い足で幾つかの國々を歩いて行くぢやないの。——

まして戀の翼をかりて飛ぶ女だもの、

それに行く先は士爵ブローチュウスのやうな、

神々しい、立派な、頼もしい方なんだから。

ルウセッタ 御辛抱なされたがよろしうございます、ブロー

ーチュウス様のお歸りまで。

ジュウリヤ あゝ、お前には解らないの？ あの方のお姿

こそ、私の魂の食物だといふことが。

長い／＼間、その食物にあこがれて、

ひもじさに苦しんだことを、哀れと思つておくれよ。……

戀の切ない心の痛みを、少しでも解つて呉れれば、

口先だけで戀の焰を消さうとするのは、

雪で火をおこすより、難い事だと思ふだらうに。

ルウセッタ 私、あなたの戀の火を消さうとするのぢやござ

いけません。

たゞ、その火のひどく燃えあがらないやうにと思つてゐ

るだけでございます。

でないと、理性の境を越えて燃え上りますから。

ジュウリヤ 制へようとすれば、猶と餘計に燃え上るものよ。

靜かに騒いで流れ行く水も、

堰けば腹立たしげに暴れ出すでせう。

けれども、素直な水路を邪魔しなれば、

エナメルエナメルの石に觸れて美しい音楽を奏で、

行脚の道すがら追ひつく音といふ音に、

一々、やさしい接吻を與へながら、

幾度か曲りくねつて、あちらこちらとさまよひ、

遂には廣い海へと落着くのです。

だから、私も行かせておくれ、行く路の邪魔をしないで。

私、やさしい流水のやうに辛抱して

物憂い一足々々も楽しみと思つて行けば

お終ひには戀しい人のところへ行かれるわ。――

そしてそこで翹ひます、かぞ／＼の煩ひの後

祝福された魂がイリジヤムの樂園で翹ふやうに。

ルウセッタ ですが、どういふ服装で行らつしやいます？

ユウリヤ 女の服装はよさうよ、みだらな男達に逢つて

厭なことをされては困るから。

ね、ルウセッタ、堅氣な侍童に

似合ふやうな着物を仕立てゝおくれ。

ルウセッタ でもさうすると、お髪をお切りにならなければなりません。

ばなりません。

ジュウリヤ いゝのよ、ルウセッタ、私、絹絲で縛上げ、

いろんな妙な恰好の變りぬ戀結ラブノットびにするから。

自分の齡よりもずつと上の青年に見せるには、

氣取つた風をしなければなるまいよ。

ルウセッタ おズボンズボンは、どういふ形になさいます？

ジュウリヤ びつたり合ふ上に、「お殿さま、あなた様の裾すそ

開きには

いか程の大きさをお用ひになりますか？」といふやうなものかね。

どんな形でも、お前の一番好きなのかね、ルウセッタ！

ルウセッタ おズボンには「ピンさし」をつけなくては

けません。

ジュウリヤ いやよ／＼ルウセッタ、あんまり不恰好ふがやうぢやな

いか。

ルウセッタ 丸い細ズボンにピンをさす「ピンさし」がな

くては

今ではピン一本の價値もございませんよ。

ジュウリヤ ルウセッタ、お前に任せ^{まか}せるから、どんなものでもよく似合つて、一番醜^{みにく}裁^きのいゝものを仕立てゝお呉れ。……

だけど、ねえ、ルウセッタ、私がこんな輕はずみな旅をして

世間から何と言はれるだらう？

ひどく悪口を吐^つかれやしないか知ら。

ルウセッタ それが御心配なら、行かないで、お家^{うち}に居ら

つしやいませ。

ジュウリヤ そりや厭^{いや}なの。

ルウセッタ ぢや悪い評判なんか少しも氣にとめないで、

お出掛けなさいまし。

向うへいらつして、ブローチユウス様さへ、あなたのお出でになつたのをお喜びなら

お立ちの後、誰がどんなに悪口言つた所が構^{かま}やしません。只私が心配しますのは、ブローチユウス様がこんな事をお

まりお喜びにならなかつたかと言ふことです。

ジュウリヤ ルウセッタ、それは、私ちつとも心配しないわ。

千度も誓^{ちか}ひを重ね、海のやうな涙を流して、

限^{かぎ}りない愛の證據をお見せになつたのだから、

私のブローチユウスは、きつと歡迎して呉れるわ。

ルウセッタ 誓^{ちか}ひなんて、そんなものは偽^{いつはり}り深い人達の勝手に使^{つか}ふ召使^{めいし}ひです。

ジュウリヤ それをさういふ下劣^{げう}な目的に使^{つか}ふやうな人

は、それこそ下劣^{げう}な男よ。

ブローチユウスの守^{まも}り星^{ほし}はもつと眞實^{まこと}な星^{ほし}です——

あの人のお言葉は證文も同然^{どうぜん}で、御誓^{ごちか}言^{ごんげん}は神様の御託宣^{ごたくせん}です。

あの人の愛に偽^{いつはり}りなく、あの人のお考^{くわ}へは清淨^{せいじやう}無垢^{むこ}です。

あの人の涙は心の底から遣^{つか}はされた純潔^{じゆんけつ}な御使者^{ごしや}で、

あの人の心が嘘^{うそ}偽^{いつはり}りと遠^{とほ}ざかつてゐることは、天^{あま}が地

と隔^へつてゐるほどです。

ルウセッタ どうかあちらへいらした時に、お言葉通りで

ございますやうお祈^{いの}り致します。

ジュウリヤ ね、どうか後生^{ごせい}だから、あの方の眞實^{まこと}を疑^{うたが}ふ

など、

そんな誤解^{ごかい}をあの方にしないやうに。

私に愛^{あい}されたいと思^{おも}ふなら、あの方をも敬愛^{けいあい}しておくれ、

そしてすぐ一緒に私のお部屋^{おへや}へ来て、

あこがれの旅^{りょ}に入用^{いりよう}なものを

書き留めてお呉れ。

私のはすつかりお前のいゝやうにして貰ふから、

諸道具も、地所も、私の名譽も。

只、その代りに私をこゝから立たせておくれ。

いゝえ、返事には及ばないわ、早速やつて貰へばいゝ——
遅くなるので、いら〜くするから。

兩人退場。

第三幕

第一場 —— ミラン。領主邸の前。

領主、スーリオ並びにブローチユウス登場。

領主　士爵スーリオ、どうぞ、暫くこゝを外して下さい。

少し内々の相談があるから。……

スーリオ禮をして去る。

さて、ブローチユウス、話といふのは何かね？

ブローチユウス　仁慈なる君、私の打明けたいと思ひます

ることは、

友情の掬すくからは、隠して置けと申しますが

數かずならぬ私にお掛け下された

様々の御恩寵を思ひ起します時、

この世のどんな寶を以てしても、私から引き出すことの

出来ない事を、

この私の義務心が、申上げてしまへと勵ほげまします。

お聞き下さいませ、御前、私の友人なるブランチインは

今宵姫君を

盗み出す計畫をいたして居ります。

この私も、その陰謀に關係させられた一人でございます。あなた様は姫君をスーリオにと思召してございますが、姫君はスーリオをお嫌ひのことも私承知して居ります。ところで、萬一あの方がお手許から盗み取られるやうなことがありましては、

お歳を召したあなた様には、どんなにか御心をお痛め遊ばすことでございます。……

かういふ譯で、——私の義務の一念から、——友の計畫を邪魔しようと思つて決意いたしました。

これを隠した爲に御前のお頭に、數々の悲みを積み重ね、不慮の出来事に壓倒遊ばされ、時ならぬに、お墓場へとお送り申すやうな事があつては相成らぬと、存じましたのでございます。

領主　プロイチュウス、君の懇な心づかひを感謝します。

その返禮には、私の生きてゐる間に、何なりと所望なさい。……

二人が相愛してゐることはわしも満更眼につかぬではなかつた。

彼等は、わしがぐつすり寝てゐると思つて居た時などに。

それで幾度も、士爵ワランタインに、娘と交際すること、

この館に出入することも、禁じようかと思つた。

然し、萬一わしの疑惑の狙ひが誤りであつて、罪科もない者に恥をかゝせてはならないと考へ、——

一體輕卒といふことは今迄わしのいつも避けた事なのでな——

温顔を以て彼を迎へ、それによつて、

今君が打明けて下さつたやうなことを發見しようと思つて居たのだ。……

わしがこのことを心配して居た證據をお見せしよう。

か弱い年若の者は直きに誘惑されるものだから、わしは毎晩娘を上塔に臥ませ

その鍵はわしがいつも預つて置いた。

あそこなら連れ出すことは、とても出来はせん。

プロイチュウス　ところが、お聞きなさいまし。彼等は工

夫を擬らしまして、ワランタインは姫君のお部屋の窓によぢ登り、

繩で造つた梯子で、姫君を下へ下すことにして居ります。その爲めかの戀する若者は既に出掛けましたから、繩梯子を持つて程なくやつて参りませう。

こゝで彼を喰止める事は御意のまゝでございます。……然し、御前にはどうか御上手におやり遊ばされ、私の密告したことが感付かれぬやうにお願ひ申します。友が憎いからではなく、御前をお慕ひ申せばこそ、この計畫をお話しいたしたのでございますから。

領主 名譽にかけて、このことを聊かなりとも君から聞出したなどゝ、悟られるやうなことはしませんぞ。

プロイチユウス 失禮致します。ワランタインが参りました。

彼は邸内へ退く。

ワランタインが急ぎ足に行過ぎる、マントをつけ、長靴を穿いて。

領主 士爵ワランタイン、何處へそんなにお急ぎかな？
ワランタイン 失禮でございますが、ある使ひの者が

手前から友達の所へ遣はす書面を受取らうとして待つて居りますので

それを渡しに参るところでございます。

領主 重要なものかね？

ワランタイン 書面の趣は只あなた様のお館で、

健康で幸福に暮して居る事を報せるだけでございます。

領主 それなら大したことではない。暫くこゝでお話しなさい。——

わしの身近に關係することで、少し君に

打明けたい事がある、尤も祕密にして貰はなければ困るが。〔領主は彼の腕を掴へる〕

わしが娘を友人のスーリオにやりたいと思つて居る事は君も御存知だらうと思ふ。

ワランタイン よく存じて居ります。——そして、きつと立派な名譽ある御縁組でございませう。それにあの人は

善良で鷹揚で、器量と才徳とを全身に備へて居て、美しい御姫君には、似つかはしい方でございます。

御前にはあの人をお好み遊ばされるやう、姫をお認服なされましたか？

領主 ところが駄目だ。彼女はむら氣で、氣むづかしやで、片意地で

傲慢で、不従順で、頑固で、義務の考へがなく

自分をわしの子供だとも思つて居なければ、
亦わしを父親らしく恐がりもしない。

で、結局彼女はこの傲慢な心の爲め、

——色々考へた末——、わしも彼女の可愛ゆさを捨て、
しまうた。

それで、わしの晩年は彼女の孝行に

介抱して貰ひたいと思つてはゐたが、

今ではわしは新に妻を迎へて、彼女は

誰でも彼女を貰つて呉れる者の所へ、追ひ出してやらう

と、とくと腹を定めてしまつた。

だから彼女は美貌だけを持參金にするがいゝ、

わしのこと、わしの財産も、彼女は何とも思はぬのだ

から。

ブランタイン　で、御前には、この事につき私にどうし

ろとの御意でございますか？

領主　このヴェローナに、わしの氣に入つた婦人がある、

ところが、これが中々几帳面な、内氣ものでな、

この老人がいかにか口説いても相手にしないのだ。……

だから、一つ君に教へて貰ひ——

もう長い間、婦人の愛を求める道を忘れてしまひ、

それに時代の流行も變つて來たことだから——
どういふ風にどう仕向けたら、あの方の目と輝く眼に
可愛いがつて貰へるか、教へて貰ひたいのだ。

ブランタイン　口でいけなければ、贈り物で手に入れる
のでございます。

物いはぬ寶石は、黙つては居りますものゝ、

生きた言葉以上に、婦人の心を動かすことがよくありま
すから。

領主　ところが、一度物を贈つたら、却つて嘲られたわ。

ブランタイン　婦人と申すものは、實はこの上なく氣に

入つたものを、時に嘲笑ふものでございます。……

もう一度送つて御覽なさいまし。決して斷念してはいけ

ません。——

最初鼻の先で笑つたことが、後では一層深い愛になる元

になります。

先方が難かしい顔をなされても、それはあなた様憎いか

らでなく、

お心の内に一層の情火を燃やさうとの爲めでございます

す。

叱るやうな言葉があつても、出て行つてくれと申すので

はありません。

女といふ愚かな者は一人になると、却つて狂氣のやうになるのが通例でございます。

何といつたつて引き退つてはなりません。――

「あつちへ行つてしまひなさい」と言つたつて、ほんとに「去れ」といふのではありませんから。

その人の好いところのすべてを讚めそやすのです。

この上ない醜婦でも、天人のやうなお顔だといつておやりなさいませ。

假りにも舌のある男で、その舌を用ひて

女一人落せないやうでは、男でないと申せませう。

領主 併しその婦人といふのが、友達の周旋で、

立派な青年と約束が出来、

嚴重に、他の男の往來を禁じられてゐるので、

晝間近づくことは誰にもできないのだ。

グラランティン 私でしたら、夜分に參りませうに。

領主 さうでもあらうが、戸口には錠が下り、鍵は嚴重

に仕舞込んであるから、

夜分とても近寄ることは難かしい。

グラランティン 窓から入つたら、何か邪魔するものでも

ございますか？

領主 部屋が高く、地面からずつと離れてゐる上に、ひどく突出てゐるので、

見すゝ命を捨てるつもりでなければ、登れはしない。

グラランティン それなら、繩で巧く拵へた梯子に、

一對の鉤を添へて投げかけますれば、

今様ヒーローの塔を攀上る役に立ちませう。

今のリーアランダに大膽な冒險心がありますれば。

領主 では、君を紳士として依頼する、

さういふ梯子が何處で手に入るか、教へて貰ひたい。

グラランティン 何時お使ひになりますか？ それを仰し

やつて下さい。

領主 今夜要るのだ。戀といふものは子供見たいなもの

で、

何でも手に入りさうなものは、欲しくてたまらないの

だ。

グラランティン 七時迄にさういふ梯子を持つて參りませう。

領主 併し君、わし一人で女の處へ行きたいのだから。

どうしたら梯子をそこへ持つて行けるだらう？

グランタイン 輕うございますから、少し長いマントの

下に隠して行けば何でもありません。

領主 君のマント位みだつたら間に合ふだらうか？

グランタイン 大丈夫です、御前。

領主 では、一寸、見せて貰ひたい。――

これ位の長さのを求めよう。

グランタイン なに、マントなら、どんなの間にも間に合

ひます。

領主 マントはどういふ風に着たらいいだらうね？

お頼みだ、君のマントを着せて見て呉れ。……

彼はグランタインのマントをひつたくる。梯子と手

紙が地に落ちる。

これはどういふ手紙だ？ 何、「シルヴィヤ様へ」？

それからこゝに、わしの仕事にびつたりの道具がある！

こんなことをするのは初めてだが、思切つて封を切らう。

手紙を読む。

わが思ひは夜毎、わがシルヴィヤと共に眠る。

思ひはわが下僕にて、これを放ちやるは我れなり。

あはれ、思ひの主人なるわれの、思ひのごと輕らかに

來、また往き得なば、

只徒らに思ひの臥せる所に、われこそ宿りてあらん。

わが先驅なる思ひは、汝がけがれなき胸に憩ふ。

ざるを、思ひの王にて、彼等をそこに送りにて、御心を煩

はすなるわれは、

思ひに賜ひしめぐみを却つて呪ふ、

わが下僕の得し幸運を、われ持たざればなり。

われ、われとわが身を呪ふ、思ひを遣はせしはわれな

るに

主人の正しくあるべきところに、思ひのみぞ、宿りて

あれば。

これは何だ？

「シルヴィヤ様、今宵こそ、われ、おん身を自由ならし

めん。」……

さうか。それから、これがその爲めの梯子だな。……

彼はグランタインを烈しく呪めつける。

やい、フェーエトン、――いよ、貴様は、ミイロップスの

件だな！――

(エシオピヤ人の王ミイロップスの妃クリミイナ日の
神フェーエトンを避けてフェーエトンを生む、この兒

長じて父を尋ね、強ひて太陽軍を御さん事を乞ひ、御し得ずしてあまりに地に近く来り、ジエウス神に罰せられて殺まるこいふ神話)

お前は、天の御車の御者になり、

不敵の愚かさで、世界を焼きたいと望んで居るのか？

星がお前の頭上に光つて居るからと云つて、その星に手を達かせうといふのか？

行つておしまひ！ 下劣な出しや張り者奴、己惚きつた下司奴、

お前の卑しいへらく笑ひは同輩の女どもに見せるがよい。

こゝを黙つて出立せるのは、わしのよくくの忍耐で、お前には分に過ぎた特權と思ふがいゝ。……

これについても、又これ迄の數々の恩惠についても、禮を言はなくてはならんぞ、

思へば——あまりにも過分に！——遣はした恩惠だ。……しかし若しお前がこの領土内に留り、

最も速かな方法で、寸時の猶豫なく、この館を退去しないならば、

天も照覽あれ、わしの怒は、今日まで、娘やお前に抱いて居た愛よりも、遙かに強いぞ……(ブランタインは彼の足許に身を投げる。)

行け、お前の詮ない辯解など聞きたくない。命惜しくば、急いでこゝを立去るがよいぞ。

と言ひ棄てゝ館の中に入る。

ブランタイン 「平伏したまゝ」生きながらの苛責より、なぜ死が來ないのか？

死ぬことは自分自身から放逐されることだ。

そしてシルヴィヤはおれ自身だ。あの人から放逐されることは、

自分から自分自身を放逐することになる。……あゝ！

死ぬに等しい放逐。

シルヴィヤが見られなければ、どこに光らしい光がある？シルヴィヤが側に居なければ、どこに喜びらしい喜びがある？

あの方が側に居るものと想像して、

「完全」の影を楽しみとすればこそだ……夜は夜とて、シルヴィヤが傍にゐなければ、

夜啼鶯の歌も、何の音楽であらう。……

晝は晝とて、シルヴィヤを打眺めなければ、わが仰ぐ太陽のないのも同然だ。……

あの人こそ私の生命。——若し私があの人美しい星の

威力で養はれ、

照らされ、育なぐまれ、

支へられなかつたら、私は生存を棄ててしまふのだ。……

領主の死の宣告から遅おそれても、それで死を遁れたのでは

ない。――

こゝに愚圖々々して居れば、死を待つ許りだし、

こゝから逃にげれば、生命から逃にげるのだ。「彼は地に顔を

埋める。」

ブローチユウスとラーンスが館から出て来る。

ブローチユウス 走つた、走つた、走つて彼を探し出せ。

ラーンス 「あちこち駆け廻つて、それから叫ぶ」ソーホ

ー！ ソーホー！ (兎追ひに何か獲物を
見付けた時の合図)

ブローチユウス 何か見えるかね？

ラーンス 探してゐる人がゐるんですよ。「彼はザランタ

インを喚よぐ。」

兎うさぎは居ねえが、どつからどこまで戀のしるしのザランタ

インですよ。(ザランタインとは又變ら
ぬ戀の記念品を意味す)

ブローチユウス 「彼の上に屈み」ザランタインかい？

ザランタイン いゝや。

ブローチユウス ぢや、誰だ？ 彼の靈たまか？

ザランタイン でもない。

ブローチユウス ぢや、なんだ？

ザランタイン 何でもない。

ラーンス 何でもないものが口を利けるかい？ 旦那、

ひつばたきませうか？

ブローチユウス 誰をひつばたきたいのだ？

ラーンス 何でもないものをです。

ブローチユウス 馬鹿、よせ。

ラーンス でもね、何でもねえものをひつばたくのだから、何にもひつばたかないやうなものでせう。お願ひ

です、一つ……「彼は杖を上げる。」

ブローチユウス こら、止せと言つたら……ザランタイン、

一寸。

ザランタイン 僕の耳は塞がつかつてゐて、いゝ報しらせせは入ら

ない。

悪い話でもう一杯だから。

ブローチユウス では無言の沈黙のうちに僕の報しらせせは葬つ

てしまはう。

これも厭いとな、聞きづらい事で、大凶と來て居るんだから。

ザランタイン 「顔を上げて」シルヴィヤさんが死にまし

たか？

ブローチユウス なんのグランタイン。

グランタイン 何のグランタイン、全くその通りだ、

神聖なシルヴィヤさんに取つては何のグランタインだ

(先のラインスの洒落さ同じく)
(まごの戀のしるしをまけて)

あの人を裏切りでもしたといふのか？

ブローチユウス なんの、グランタイン。

グランタイン なんのグランタインだ、シルヴィヤさんが

僕を裏切るやうなことでもあつたら。――

一體君の報せといふのは何だ？

ラインス 旦那、お觸れが出ましたぜ、あなたが水泡

(追放) になつたつて。

ブローチユウス 君が追放になつたといふのだ。……あゝ

それが報せだ。――

こゝから、シルヴィヤさんから、君の友人の僕から引離さ

れて。

グランタイン おゝ、その悲しみならもうとうに味つた。

この上強ひられては、食傷する。……

シルヴィヤさんは僕が追放になつたことを御存知かね？

ブローチユウス 知つて居られるとも。その宣告は

取消されないから、今も有効のままであるが、

姫君はそれを見て、俗には涙と呼ぶ、あの溶けた眞珠を

海なすほども、これに獻げられた。

涙を父君の殘酷な足下に供へ、

涙に添へて、御自身みづからをも捧げ、

手を振り絞つてお歎きなされたが、その手の白さが又よ

く似合つて

歎きの爲めに青白くなつたやうだつた。

しかし屈めた膝も、差し上げた清淨な手も、

悲しい溜息も、深い呻きも、銀を流した涙の玉も、

無情な父君の心には入ることが出来ず、

若しグランタインが捕へられたら、生かしては置かぬと

ある。……

その上、姫君が君の赦免を懇望されると、

その取なしが却つてひどい父君の怒りとなり、

遂に嚴重な牢舎に押込め、

いつまでもそこに居よと、きつい威し文句を吐かれた。

グランタイン もうよしてくれ。……それとも、君の言

はれる次の言葉が、

何か意地悪い力を以て、僕の命を奪つてくれるのなら、

若しさうなら、……どうぞこの耳に吹込み

私の果てしない悲歎の最期の挽歌にして呉れ給へ。

ブローチユウス 詮ないことを歎くのは止め、

その歎いて居ることを助ける詮議をするがよい。

時といふものはすべて好事の乳母でもあり、又養ひ親で

もある。

こゝに居たとて、姫君に逢へるではなし、

遷延すれば、君の命があぶない。

希望は戀する者の杖だ——その杖をついてこゝを立去り

それを用ひて自暴自棄な考への壓へとし給へ。

よしんばこの地は去るとも、交通は出来る。

僕の名宛で寄越しさへすれば、

君の戀人の乳白の胸へと届けて上げる。……

グランタイン 起きる。

いつまでもこゝで談議してゐる場合ぢやない。——

さあ、市の門外まで送つて行かう。……

ブローチユウスは彼を案内する。

さうして君と別れる前に、君の戀愛事件に關係した事を

何くれとなく十分相談しよう。

君はシルヴィヤさんを愛するなら、よしんば自分の爲は思

はなくとも、

身邊に氣を附けるがよい。さ、僕と一緒に行かう。

グランタイン お頼みだ、ラインス、俺のボーイに逢つ

たら、

急いで、ノース・ゲートまで来るやうに言つて呉れ。

ブローチユウス これ、早く行つて探して来い。……さあ

グランタイン。

グランタイン あゝ、なつかしいシルヴィヤさん！ 不仕

合せなグランタイン。

二人は行く。

ラインス 俺はほんの馬鹿者だ。併しだ、俺の主人が一

種の悪黨だと感付くだけの頭はある。だが、そんなこ

とはどつちにしろ一つことだ、大將がたつた一人の悪

黨ならともかくだが、(遂に二人の悪黨は仲人は契らぬといふか

の一對になる)……世間で誰一人、俺が戀にはまつてゐ

ることを知つてゐる奴は居ない。——それだつても、や

つぱり俺は戀にはまつて居る。——しかし何疋の馬に

引張らせても、その祕密を俺から引つこ抜くことは出

来ないぞ。又惚れてゐる相手は誰だつてこともね。と

にかく、女は女だ。だが、どんな女か、それは自分で

は言はない。しかし乳搾りの娘だよ。尤も生娘ではない。何度もくお産婆さんの厄介になつた女中だからね。さうだ、やつぱり女中さ。奉公して、お給金を貰つて働いてゐるからね。「かくしを探す」水スパニエル(獵犬の一種、虐待して)よりは能があるよ。——とすりや素の基督信者としちやあ偉いもんだ。……〔紙片を取り出し〕こゝにその女の氣立についての苦情(箇條)書がある。「第一條、彼女は物を取つて來たり、運んだりすることが出来る。……どうだ、馬だつて、これ以上のことは出来やしない。いや、馬は取つて來ることは出来ない。運ぶだけだ。だから、ひねくれ馬よりは結構な女さ。——「一つ彼女は乳搾りが出来る」——よろしいか、清潔な手をした娘の美しい働きだぜ。

スピードが近づく。

スピード どうだ、ラインスの殿様！ 拵(おまけ)拵(此處意譯せり)はどうした？

ラインス 拵指？ 拵指は手にあるさ。

スピード 相も變らず悪いくせだ、(道化てるこの意 味をも含ませる)意味をとつ違へてさ。……ちやその書附けに何か變つた事でもあるか？

ラインス とてもお前、聞いた事もない面黒い事件だ。

スピード え、どんなに黒い？

ラインス インキ程黒いさ。

スピード 讀まして呉れ。

ラインス よせよ、かぼちや野郎、手前には讀めない。

スピード 嘘つけ……讀めるよ。

ラインス ちや、試験をしてやらう。言つて見な、手前は誰から生れたんだ？

スピード マリヤ様、俺の祖父の件からだ。

ラインス おゝ無學文盲のなまくら男、おめいの祖母さ

んの件からだよ。……これでお前が讀めねえことが分

つた。

スピード おい、馬鹿、おい、その書附けを出して試験

をして見る。

ラインス そら……〔書附けを渡して〕聖ニコラス様(者を保護する聖者)

スピード ろまくやりますやうに！

ラインス 「第一條、彼女は乳搾りが出来る。」

スピード さうだ、男たらしも出来る。

スピード 「一つ、彼女は善きエールを造る。」(エールはイギリス人の既む

の一種)

ラインス 「そこで諺ことわざがあるのさ。「善きエール造りは恵まれる。」

スピード 「一つ、彼女は縫針ぬい針が出来る。」

ラインス 「縫針ぬい針が出来る？ さうかい、といふ位のものさ。」

スピード 「一つ、彼女は編物あみものが出来る。」

ラインス 「苦痛くるしみした(下)ッて、跡取さへ出来れば、持參金の先取りさきどりなぞあ、男おとこが何を構かまふものか。」

スピード 「一つ、彼女は洗あらつたり、こすつたりすることが出る。」

ラインス 「特別な藝能げいねいだ。かういふのは當つたり、こづいたりする必要がねえからな。」

スピード 「一つ、彼女は絲紡いと紡ぎが出来る。」

ラインス 「あれが紡いで口ずぎが出来れば、俺は泰平樂、世界中を糸の先で引張りまはすよ。」

スピード 「一つ、彼女は述べ難く名の附け難き、多くの徳を備ふ。」

ラインス 「名が附けられないといふと、さしづめ私生兒と言つた徳だね。そいつは父親ちちが分らないから、名も附けやうがねえや。」

スピード 「以下は彼女の惡癖あくへきなり。」

ラインス 「善い後からすぐに追つ掛けて來たね。」

スピード 「一つ、彼女は息の臭におきたために食前接吻しょくぜんせつぶんされ難し。」

ラインス 「フン……その缺點けいけんを治すのは朝飯前だ……さあ讀んだ。」

スピード 「一つ、彼女は甘いものが好きなり。」

ラインス 「甘いのが好き位の事は(悪い意味を却て)口中こうちゆうのくさいので埋合せになる。」

スピード 「一つ、彼女は寢言ねごとをいふ。」

ラインス 「何でもないさ、寢てゐて事を起さなければね。」

スピード 「一つ、彼女は口が重い。」

ラインス 「おゝ惡黨、そいつを悪い癖の中へ書き込むなんて……口が重いのは女のたつた一つの徳だよ。お頼みだ、それを消して、彼女の大事な徳としてくんな。」

スピード 「一つ、彼女は高慢こうまんなり。」

ラインス 「そいつも消したり……高慢はイヴ以來の遺傳で、とても脱ぬけつこはねえや。」

スピード 「一つ、彼女は齒はがない。」

ラインス 「それも構かまはん、……俺はバイの皮好かわずきだから。」

スピード 「一つ、彼女はがみく〜いふ。」

ラインス フン……一等いゝことには、噛みつかうたつて齒がねえんだ。

スピード 「一つ、彼女はしば〜酒を賞味す。」

ラインス 出来た酒が上等なら、賞味もさせるさ。あいつがしなけりや、俺がする。佳きものは賞味すべしとある。

スピード 「一つ、彼女は氣前が好過ぎる。」

ラインス 舌の氣前が好過ぎる筈はない。口が重いと書いてあるんだから。財布の點では氣前よくはさせないぞ、俺がちやんと口を締めとくから。ところで、もう一つ他の事で氣前が好いかも知れないが、そりや俺もどうすることも出来ない。……さあ、續けたり。

スピード 「一つ、彼女は智慧よりも髪の毛多く、髪の毛よりも缺點多く、缺點よりも財産多し。」

ラインス 待つた……俺は貰ふぞ……最後の箇條書を書いて、貰はうか、貰ふまいか、二三度迷つたんだが。

そのところをもう一度讀んで貰はう。

スピード 「一つ、彼女は智慧よりも髪の毛多く」——

ラインス 智慧よりも髪の毛が多い。それは證明が

できさうだ……鹽(又濃智あり)の蓋は鹽を隠して居る。

だから鹽よりも大きい。智慧の蓋をして居る髪の毛は、智慧よりもでつかい。でつかいものが、小つげなものを隠すんだからね……お次は？

スピード 「髪の毛よりも缺點多く」——

ラインス こいつは奇怪至極だ。あゝあ、こいつが消しであるといゝのだが！

スピード 「缺點よりも財産多し。」

ラインス やれ〜、この一言で缺點も有難いものになる。……よし、あの女を貰はう。で、約束である以上、何でも出来ないことはないのだから——

スピード それからどうした？

ラインス それから、よしとお前さんに話すことがある。

——お前の且ぢつが、ノース・ゲートでお待ちだよ。

スピード おれを！

ラインス お前をだつて？ 旦那はお前なんかよりやい人をお待ちになつてんだ。

スピード ぢや、行かなくちやならないかね？

ラインス 走つてかなくちやならないよ。お前あんまりこゝに長居ながるしてたから、行つたつて大方間に合ふまい。

スピード 何故早くいはないのだ？ 貴様の色文なんぞ
疫病にでも罹りやがれ！

スピード 走り去る。

ランス あいつ、俺の手紙を讀んだ爲めに、引つばた
かれるよ……

行儀の悪い奴だ、他人の内所事に鼻突つ込みやがつて！

俺も跡も追つて行かう。小僧めが油絞られるところを、

高見の見物と洒落込むのさ。

彼もあとにつづく。

第二場 ——ミラノ。領主邸の一室。

領主とスーリオ登場。

領主 士爵スーリオ、懸念には及ばない、娘は君を愛す
るやうになる。

グランタインが放逐されて、會ふことの出来ない身とな

つたのだから。

スーリオ 彼の追放以來、令嬢には殊の外私を輕蔑なさ

れ、御同席はお斷りになる、口汚なく悪口を仰しやる、

とても及び難い望みだと思つて居ります。

領主 いや、戀の果敢ない印象は、

水に刻まれた姿のやうなもので、一時の熱で

溶けて水となり、形を失うてしまふ。

やがて娘の凍てついた考も溶解して、

卑しいグランタインを忘れてしまふであらう。……

ブローテュウス登場。

どうだ、士爵ブローテュウス！ 君の同國人は

宣告通り立退きをつたか？

ブローテュウス 立退きましてございます。

領主 娘は彼の立退きをひどく歎いてゐる！

ブローテュウス そのお歎きも、程なくお忘れになりませ

う。

領主 わしもさう信ずる。が、スーリオはさう思はない

のだよ。……

ブローテュウス、君はなか／＼働きのある證據を見せたの

で

わしは君に好意を寄せてゐるが、

これは一番君に相談に乗つて貰ふのがよいやうだ。

ブローテュウス 「禮をして」御前に忠義を怠るやうにな

りましたなら、

生きて再び尊顔を拜しは致しません。

領主 君も御存知であらう、士爵スリーオと娘との間に縁組を取極めたいと、

どれほどわしが氣ばんでゐるか？

ブローチユウス 存じて居ります。

領主 それから、娘がわしの意志に楯ついて居ることも、まんざら知らないわけでもなからう？

ブローチユウス グランタインが此方に居りました頃は、さやうでございました。

領主 さうだ、それで今も頑固に強情を張つて居る……

どうしたら娘がグランタインのことを忘れて

士爵スリーオを想ふやうになるだらうかね？

ブローチユウス 最上の方法は、グランタインを誣ること
でございます

嘘つきだ、卑怯者だ、身分の卑しいものだ、

この三つは婦人が一番悪むものでございますから。

領主 併し娘は悪意でわざといふのだと思ふだらう。

ブローチユウス 敵の口からでは、さうです……

ですから、彼の友人だとお考へになつてゐられる者から遠廻しに話させなければなりませんまい。

領主 では、君にその誣り役を引受けて貰はねばならぬ。

ブローチユウス それは、御前、迷惑に存じます……

紳士たるものには面白からぬ役目ですから、

殊に親友を誣るのでは。

領主 君が譽めてもあの男に何の利益も來たさない場合

だから、

悪くいつたつて彼の損害になる筈がない。

だから、その役目は、友人のわしに懇望されてするだけのことで、

善悪とも彼には無關係だ。

ブローチユウス では致方はございません。私の力に及ぶ

ものなら、

彼を非難する言葉を盡し、

必ずほどなく彼を思切られますやう致します。

しかし、姫君の戀をグランタインから引抜いたとして、

必ずしも次にスリーオをお愛しなさるとは限りません。

スリーオ だから、姫の心を彼からほぐしつけると同時に、

それを私に巻きつけるやう、準備して下さらなくては。

でない、纏れて何の役にも立たなくなりませう。

さうするには、グランタインの價値を誂ると同じ分量に私を譽めて下さることです。

領主　それで、プローチュウス、かういふ風に我々が大膽に君を信用するのも、

グランタインの話により、

君が既に戀愛の神の堅い信者で、

容易くは謀叛心を起したり、心變りのすることがないことを承知して居るからだ……

この保證附で、君に出入の自由を與へ、

シルヴィヤと心おきなく話ができることにする。……

娘も今は元氣がなく、鬱ききつてゐる時だから、

グランタインの親友だといふので、君を迎へることであらう。

そこで君の口前一つで娘の心が變り、

グランタインを嫌つて、このわしの友人を好むやうにもならう。

プローチュウス　力の及ぶ限り、効果あるやう致しませう。

しかし、士爵スーリオ、君はどうも熱が十分でない。

君は姫君の心を捉へる鳥籠とするために、

物悲しいソネットを作り、その出來た韻律のなかに、

役立ちさうな誓言を一杯積み込む工夫をしなくてはなら

ない。

領主　さうだ。

神聖な詩歌の力は素晴らしいものだ。

プローチュウス　かう書き給へ、かの君の美の祭壇に、

この涙、この吐息、この心を捧げまつると。

インキが乾いてしまつて、涙で

濕さなければならぬやうになる迄お書きなさい。

何か感傷的な句を作つて、

さうした感情の現はれるやうにするのです……

大方、オルフェーズ(古へのスレイ)の堅琴は詩人の神経を

絲にしてゐたので

彼の金を鳴らすやうな調は、鐵石をも和らげ、

虎をも馴らし、海の巨大な怪物をも、

底知れぬ海を捨て、砂上に踊らしめたのです。……

さういふ心をかきむしる哀歌の後に、

夜になると、美はしい樂人達を伴ひ、

姫君の窓の下で、その樂器に合せて、

嘆きの曲を奏でなさい。死のやうな夜の沈黙は

さういふやさしい訴へにひたと適しませう。

これだけで、其他にはあの方を手に入れる方法はありません。

領主 この指圖で、君は戀の經驗家だと云ふことが分る。

スーリオ その御忠告を、今夜實行するため、

指揮役のブローチュウス君と二人で、

早速町へ出掛け、

音楽の巧い、人達を選びませう。……

ソネットは一首あるから、君の御忠告の

手初めの役に立たせませう。

領主 早く始めたならよからう、兩君。

彼は振向いて行きかける。

ブローチュウス 「後を追うて」夕飯後までお側に伺候し

それから後に手筈を定める事に致します。

領主 今から着手するがよい、さあ、行き給へ。

領主は夕飯にと内に入り、ブローチュウスとスーリオ

は邸を後にして行く。

第四幕

第一場

——マンチュアの國境。森を貫通する公道。

三人の山賊が弓矢を携へて、木立の繁みで見張つてゐる。グランタインとスピードが近づいて來るのが見える。

山賊甲 おい仲間、しつかりしろ。旅人が來たぞ。

山賊乙 十人居たつて尻ごみしちやいけねえ。やつつけ

ろ。

彼等は前へ出て、弓を以て遮る。

山賊丙 待て、おい、持ち物をこゝへ投げ出せ……

でない……坐らせて、身ぐるみひんむくぞ。

スピード 旦那、もう駄目ですぜ。此奴等は、

旅をする者にひどく恐がられる悪黨なんですよ。

グランタイン 「沈着に」友人諸君——

山賊甲 友人ぢやないよ、俺達は。敵だよ。

山賊乙 まあ待て！ 奴のいふことを聞かう。

山賊丙 さうだ、この鬚かけて、聞かう。立派な男だから。

ブランドイン ぢや聞き給へ。僕は取られるやうな財産を殆ど持つて居ない。

僕自身が災難に見舞はれた人間なんだ。

身代としては、このけちな着物の外には何にもない。それを諸君が奪ひ取つたら、

僕の財産全部を取つてしまふことになる。

山賊乙 何處へ行くのだ？

ブランドイン ヴェローナへ。

山賊甲 何處から来た？

ブランドイン ミランから。

山賊丙 あそこには長くゐたかね？

ブランドイン ざつと十六箇月、もつと長くゐる筈だが、
あなたが、

つむじ曲りの運命に邪魔をされてね。

山賊甲 え、放逐されたのかい？

ブランドイン さうだ。

山賊乙 どういふ罪で？

ブランドイン 繰り返していふのも苦痛の種だが、

僕は人殺しをしたんで、今では非常に後悔してゐるのだ。然し男らしく闘つて殺したので、

騙し討ちや、卑劣な奸策を用ひたわけではないんだ。

山賊甲 なあに、後悔するには及ばんよ、屹度さうなら、

だけど、そんな小つげな罪で追放されたのかね？

ブランドイン さうだ、そして追放で濟んでよかつたと思つてゐる。

山賊乙 君は外國語が話せるかね？

ブランドイン 若い時に旅行したお蔭で、仕合せとやれる。

でなかつたら、随分困つたこともあつたらうと思ふ。

山賊丙 ロビン・フッド部下の肥つた修道僧(托鉢僧タツ)の

禿げたてつぺんかけて誓ふ

この男が俺達仲間の王によさうだぜ。

山賊甲 仲間に入れよう。……おい、みんな、一寸。

彼等は離れて話す。

スピード 旦那、仲間入りなさいまし、

泥棒のうちでは立派な方でごさんすよ。

ブランドイン 黙つてろ、馬鹿！

山賊乙 一寸諷くがね、君何か頼りにするものがあるかね？

グランタイン 運任せで、他には何も無い。

山賊丙 ぢや話すが、こちとらの仲間には紳士もゐるんでね、

例へば若氣の誤りから亂暴して

お歴々の連中から追ひ出されたといふやうなんだがね。

かくいふ僕もヴェローナから追放された一人よ、

領主の近親で、大身上の後繼といふ

婦人を盗み出さうと計畫したのさ。

山賊乙 僕はマンチアからのお拂ひ箱で、

腹立ちまぎれにある紳士の心臓を突いたのさ。

山賊甲 僕もやつぱり、さうしたちつぽけな罪を犯した

んだが……

それはさうとして、肝腎の點を言ふと、かう俺達がお互の失策を述べ立てるのも、

かういふ不法な生活をして居る辯解にもならうかと思つ

たんだ。

そこで、一つには、君は風采の立派な

好い男ではあるし、又今聞けば、

語學も出来て、かういふ職業の上には、

俺達の望むところの申分のない人物だし——

山賊乙 殊には、君が追放人でもあるから言ふんだが、

どうです、俺達の大將になつちや呉れませんか？

必要な事は一つの徳なりさ、

我々同様この森の中で暮す氣はないかね？

山賊丙 考はどうだね？ 仲間入りをしませんか？

「諾」といつて、みんなの頭領になりなさい。

みんなお前さんを敬つて、言ひつけ通りになり、

司令官とも王とも思つて尊敬しますぜ。

山賊甲 しかしこれ迄に禮儀を盡すのを、輕蔑するんな

ら生かしては置かんよ。

山賊乙 生かして貰つて俺達の申込を自慢話にしようた

つて、さうはさせやしない。

グランタイン 君達の申込を受け、一緒に暮さう。

但し、か弱い女の子や、貧乏な通行人に

亂暴な眞似はせぬといふ條件つきだよ。

山賊丙 承知した、こちとらだつて、そんな悪いけちな

事は嫌ひさ……

さあ、一緒に來なさい。連中のところへ案内して、

手に入れた賈を残らず見せるから。
その賈は、俺達のこの體もろ共、みんなお前さんの心任

せた。

皆々森の中にはひる。

第二場 —— ミラン。

領主の邸の背部で側門のついでゐる石塀がある。内部には細長い花園があつて、その石塀と高い塔をしきる。外部には矮樹の植はつてゐる狭い小路。月明りの夜。

ブローチユウスが側門を開けて庭にはひる。

ブローチユウス　今まで俺はブランタインに對して不信實であつたが、

今度はスーリオに向つて、同じやうに不正なことをしなくちやならない。

彼を譽めることを口實にして、

實は自分の戀を進めてゆく便宜を得ようとするのだから……

ところで、シルヴィヤはとても美しく、とても眞實があり、

とても清淨なので、

俺のつまらない贈物なんぞで、墮せないんだ。

あなたの爲めに眞心を捧げますと言ひきつても、

御自身の友人にさへ不實な人はといつて俺をひやかす。

美しさを稱へて誓言しても、

昔愛して居たジュウリヤとの約束を捨て、

立てた誓ひを破つた事を考へなさいと来る。

何してもあの當意即妙の皮肉な應答は

その最も手柔らかなものでさへ、人の望を棄てさせるに十分だが……

それでゐて、スバニイル(犬の一種)のやうに、蹴られれば蹴られるほど、

戀は愈々募つて、何時迄も姫に向つて尾を振るのだ。

スーリオと樂手連が小路からやつて来る。

だが、スーリオがやつて来た。これから俺達は姫の居間の窓下へ行つて、

何か夕暮の樂を聞かせなくてはならん。

スーリオ　「庭にはひる」おや、士爵ブローチユウス、君は

俺達より早く忍び込んだのかね？

ブローチユウス　さうよ、スーリオ君、だつて君の知る通

り、戀といふ奴は

行けないところへでも用がありや這ひ込むからね。

スーリオ それはさうだが、まさか、君がこゝで戀して
るのぢやあるまいね。

ブローチェウス してるのだよ、でなきや、こんな所には
居らんよ。

スーリオ 誰を？ シルヴィヤさんを？

ブローチェウス さうだ、シルヴィヤさんをだ——君の爲め
にね。

スーリオ 感謝します、君の爲めに、……さて諸君、音
樂を始めよう。こゝのところ大いに元氣にやつて貰は
うぜ。

樂手達は塔の露臺の下に立つ。一人の年老いた宿屋
の亭主と、男装したジュウリヤとが、小路に現はれ
る。

亭主 時に、若いお客さん、何だかあんたさんは、おふ
さぎのやうだが、一體どうなすつたんだね？

ジュウリヤ いや、御亭主さん、どうしても氣が浮きたゝ
ないので。

亭主 では浮き／＼させて上げませう。音楽が聞えて、

おまけに、お尋ねの方にも逢へるところへ連れて行つ
て上げませう。

彼等は側門に近づく。

ジュウリヤ だがね、その人のお話聲が聲えるだらうか？

亭主 えい／＼聞えますとも。

ジュウリヤ それこそ私には音楽だよ。

音楽始まる。

亭主 お聞きなさい！ お聞きなさい！

ジュウリヤ あの人、あの中なかに居るのかい？

亭主 居ますよ、しかし、まあ黙つて音楽を聞きませう。

歌

誰か、シルヴィヤとは？ 若きをのこの

擧こりて讃ほむるか、君は何？

聖よく、美めしく、賢ましき君。

神は恵みを授け給へば、

この君こそは、讃ほめあがめらる。

めぐしきがごと、やさしき君？

やさしさにこそ、美めしさはあれ。

君の眼まなこに、戀こひ神は訪ね来て、

わが目盲しを、いやさむとなし、
やがて癒えては、そこに住へり。

さらば讃へむ、シルヴィヤ姫を、

シルヴィヤこそは、いみじき君なれと。

君に類へん人の子等は

鈍きこの世に住みてあらんや

捧げよ君に、花の冠を。

亭主 もし〜！ お前さんは先刻より餘計寂しさうだ
な？

どうしたのだえ、お前さん？ あの音楽が好きでない
見える。

ジュウリヤ 違ひます。あの音楽者が好かないので。

亭主 どうしてだね。

ジュウリヤ 調べに嘘があるからです。

亭主 どうして？ 絃の調子が外れてるかね？

ジュウリヤ さうぢやないんですよ。あの人、あんまり、

不實なので、僕の心の絃が痛むのですよ。

亭主 なんといふ鋭敏なお耳でせう！

ジュウリヤ いつそ聾だといふんだが。…あれを聞いて

ると氣が重くなります。

亭主 つまり音楽はあんまりお好きぢやないのせう。

ジュウリヤ あんなに亂調子なものは、ちつとも面白くは

ありません。

音楽の調子が、この時一變する。

亭主 お聞きなさい、あの音楽のうちには、素晴らしい、

變つた調子があるぢやありませんか！

ジュウリヤ その變つた調子が忌々しいのです。

亭主 ぢや始終一つ調子だけでやらせたいのですね。

ジュウリヤ 一人はいつでも、たつた一つ事をやつたらよ

いと思ひますね。……

それはさうと、御亭主さん、あのブローチウスといふ人

は、

その御婦人のところへ度々出入りするのですか？

亭主 あの人の下男のラーンスの話によると——あの婦

人に、それは〜お話にならないほど惚れぬいてゐる

さうですよ。

ジュウリヤ ラーンズは何處に居ますかね？

亭主 犬を探しに行きましたよ。その犬を明日、御主人
の命令で、あの女の方のところへ贈物に持つて行かな

くちやならないんださうです。

ジュウリヤ シーツ、脇へ隠れよう、連中がもう別れて歸つて行くらしい。

二人はある矮樹の下にこぞむ。

ブローチユウス (側門の處で) 士爵スリーオ、御心配には及ばん。僕がうまく説込んでね。

君にきつと成程すぐれた巧い計略だと云はせて見せるよ。

スリーオ 何處で逢はうね?

ブローチユウス グレゴリの聖者の井戸のところ。

スリーオ 左様なら。

スリーオと音楽者達は小路を下つて行つてしまふ。

塔の窓が開いて、シルヴィヤが露臺に現れる。

ブローチユウス お姫さま、夜の御挨拶を申し上げます。

シルヴィヤ 皆さん、音楽を聞かせて下さつて有難う。

どなたです、何か仰しやつたのは?

ブローチユウス お姫さま、若しあなたがこの純潔な心の眞實を知つて下さるなら、

聲だけで誰といふことが直ぐにお分りになられる者です。

シルヴィヤ ブローチユウスさんと思ひますか。

ブローチユウス ブローチユウスです、そしてあなたの忠僕なの。

シルヴィヤ で、何の御用ですか?

ブローチユウス あなたのお心を求めてゐるので。

シルヴィヤ そのお願ひは叶へてあげます。私の心はかうです——

すぐ家へ歸つて休んでお貰ひします。……

ずるい、誓言破りの、嘘つき、信實のない男!

あなたは私がそんな淺はかな、馬鹿な女と思つてるの!

偽誓言を並べ立て、多くの人を騙したあなたなぞの

お追従に乗つて騙される私と思つて?

お歸り、お歸り、歸つて、もとの戀人につぐのひをしたがよい。

がよい。

私はね、——この蒼白い夜の女王様(月を)を證人に誓ひます!

願ひを聞き入れるどころか、

その横戀慕を輕蔑します。かうして話をしてゐるのさへ

心が咎めて來ます。

ブローチユウス 成程、一人の婦人を愛したことはありま

すが、

しかしその人は死にました。

ジュウリヤ 「傍白」嘘になりますよ、私が口を開きますと、

その女は確かに葬られては居ないんですから。

シルヴィヤ その人は假に亡くなつたとして、あなたの友のブランタインさんは

生きて居りますよ。その人とは——現にあなたこそ證人——

私、婚約の間柄です。それにこんなに執拗くいひ寄つてそれでも羞かしいとは思ひませんか？

ブローチュウス ブランタインも亡くなつたと聞きました。た。

シルヴィヤ それでは私も死んだと思ふがよい、そのお墓のなかに、

私の戀も葬られるのですから。

ブローチュウス 麗しき姫君、どうか地のなかへ、それをかき探させて下さい。

シルヴィヤ あなたの戀人の墓場へ行き、その方の愛を呼び出しなさい。

それとも、せめてその方の墓所へあなたの戀も埋めたがよい。

ジュウリヤ 「傍白」耳が痛いだらうよ。

ブローチュウス お姫さま、……あなたのお心がそれほど冷酷なら、……

こんなに想ふ私のため、せめて、お部屋に掛つて居るあのお姿でもお貸しなすつて下さい。

それに向つて話しかけ、それに向つて吐息を吐き、涙も流しませう。

あなたの全き御本體が

既に他に捧げられて了つたものなら、私はほんの影です。すれば、あなたの影のお姿にでも、私の眞の戀を獻げませう。

ジュウリヤ 「傍白」もし、それが影でなくつて本物だつたら、きつとあなたは、それを騙すでせう。

そして私のやうに、影にしてしまふのでせう。

シルヴィヤ あなたなどの偶像になることは、私、本當に厭です。

しかし嘘で堅めたあなたには、影を拜んだり、嘘の姿を崇めたりすることは似つかはしいから、

朝、使ひを寄越しなさい。差し上げます。

では、お休み。「彼女は窓を鎖す」

ブローチユウス はい、寝みますでせう。朝の死刑執行を

待つみじめな罪人のやうに、不安な一夜を送りませう。

彼は側門を閉ちて小路を下つて行く。

ジュウリヤ 御亭主、歸りませう。

亭主 やれ／＼、わしは、くつすり寢込んでみましたよ。

ジュウリヤ ね、ブローチユウスさんのお宿は何處です？

亭主 手前のところですよ。……おや／＼もうかれこれ

明方らしいぞ。

ジュウリヤ まだですよ、しかし、こんなに長い夜を

寢ずに過ごした事はつひぞありませんが、こんな重つ苦

しい夜も初めてとす。

二人は行く。

第三場 — 同所。

エグラムーアが小路を下つて来て側門のそばに立停

まる。

エグラムーア シルヴィヤさんが、尋ねて来て、

頼みを聞いて呉れと仰しやつた時刻だ。

何か大事な用向があつて、私をお召しなんだ……

お姫さま／＼！

窓があいてシルヴィヤが現はれる。

シルヴィヤ だあれ？

エグラムーア あなたの忠僕、お味方、

お姫さまの御用を承りに参つたものでございます。

シルヴィヤ 士爵エグラムーア、百度千度もお早う。

エグラムーア すぐれし君、あなた様にも、御同様に……

お言ひつけに従ひまして、

どういふお役目を御命じになりますか

それを伺ひに、早朝参つた次第でございます。

シルヴィヤ おゝ、エグラムーア、あなたは名譽を重んず

る紳士です——

いゝえ、私がお追従をいふのだと思つてはいけません。

誓つて、そんな事は申しません。——

勇氣のある、賢い、情け深い、藝能のある方です。

あなたは追放に逢つたアランタインに、

私がかんりに思ひを寄せて居るか、御存知ない筈はない。

又、父が、無理無態に、私が心底から嫌ひな

あの愚かなスーリオに縁つけたがつて居られる事も御承知でせう。

あなたも戀の御経験があり、又あなたのお口からも聞いたことがあります。

それは、どんな悲しみが、胸の近くに追つて來ても、戀する婦人の亡くなられた時程悲しいことはなく、その人の墓の上で、一生獨身の誓ひをお立てなされたと仰しやつた……

士爵エグラムーア……私、ブランタインの所へ行きたいのです。

マンチニアへ御滞在中と聞きました。

しかし、道中が危険ですから、

あなたの忠實と名譽とに信頼して、連れて行つて貰ひたいと思ひます。

いゝえ、エグラムーア、父の立腹など彼れこれ説立て、はいけません。

私の悲しみ、——一人の婦人の悲しみ——を考へて下さい。

私がこゝから逃走して、非常に不潔な結婚を避けることの正しさを考へて下さい。

あんな結婚は神も運命も永く報いるに災難を以てするに決つてゐます……

どうかあなたにお願ひします 濱の砂ほどの悲歎に充ちたこの心から、お頼みします。

どうか一緒に連れて行つて下さい。それともお厭なら、今まで申したことは、黙つてゐて下さい、

すれば、一人で旅の冒険をいたしませう。エグラムーア お姫さま、やるせなきお心のうちを非常

にお氣の毒に存じます。しかもそのお苦しみも、正しさが根據である以上、お伴することに決心しました。

この身にどんなことが振り掛からうが、それは介ひませ

ん、偏へにあなたの御幸運を祈るばかりでございませう……

何時お立ちになりますか？ シルヴィヤ 今日晩

エグラムーア 何處で落ち合ひませう？

シルヴィヤ パトリック上人の庵室にしませう、あそこへ聖い懺悔に參るつもりですから。

エグラムーア 間違なく参ります、では、お姫さま、

お暇いたします。「彼は小路を上つて歸る」

シルヴィヤ 親切な士爵^サエグラムーア、左様なら。「彼女は窓を閉ぢる」

——六七時間経過する。——

第四場 —— 同所。

ラインスが踵のあたりへ犬を引張つて側門から出て来て、矮樹の下に身を投げる。

ラインス 「犬に向ひ」人様に使はれる身(犬を)が犬つころの眞似をすれば、——よいかな——碌な事はないんだよ。小犬の時から育てあげた奴^{やつ}がよ。溺れるところを救つてやつた奴^{やつ}がよ。現に盲目の男兄弟や女兄弟は、三四疋もやられちまつたんだあな。俺は此奴にものを教へてやつた——恰度人様の仰しやる通り、「犬なら、かういふ風に教へるさ」と言つた鹽梅式^{しほばいしき}にな。俺は主人から吩咐^{いっけい}かつて、シルヴィヤ様への贈物^{おくりもの}にこの犬を献上するわけなんだ。ところで俺が食堂へ入るや入らねえに、此奴め、お姫様のお膳のところへ飛んで行き、鶏の

足を失敬して了ひやがつた……いや何といふこつた、犬つころが皆様御列席の中で、行儀よくして居られないなんて！俺は——人のよく言ふ通り、本當に犬らしい顔してゐる奴、どこへ迄も犬らしい奴(何れにも懸懸味もか)が好きなんだ。……俺様が此奴よりも慥巧で、此奴のした失策^{しつさく}を背負ひ込んでやつたからよかつたんだが、でなかつたら、此奴は首を絞められて了つたに違ひない。俺が生きてるのが確かなほど確に、ひどい目に逢つたことと思ふよ。ま、皆様御判断なすつて下さい……あいつ奴、御領主様の卓子^{チャウジ}の下で、三四疋の紳士らしい犬のお仲間^めに割込んだのです。そしてちよいとその（お免なさいよ！）たれ流す時だけそこに居たのですが、何しろ部屋中が匂つて来る。「その犬を追ひ出せ！」といふ方もあれば、——「そいつはどんな犬つころだ」と仰しやるのもある。——「鞭で追出せ」と言はれたのは三番目の方、——「首を絞つてしまへ」と、今度は御領主さんだ。……俺は前々からその匂ひには慣れつこだから、クラブだなど分つてゐた。そこで犬打ち役のところへ行つて「君は、この犬をひつぱたかうといふのかね？」と尋ねると、「應——ひつぱたくん

だ」と来た。「そんなことをしちや可いけない。あれは、全くのところ、俺がさせたんだよ。」と言ふと、奴やつさん、いざこざなしに俺をひつばたいて、室やぐらから投げ出しやがった。……え、自分の家來の爲めに、こんなことをする主人が幾人いくばくありますか。いや、全くだ、誓言を立ててもよい、奴が贖物あかちを盗んだ爲めに、俺は足枷あしづかに掛つたことがあるよ。でないとな奴は死刑を執行されるんだからね。奴が鷲鳥じゆを殺した爲めに、俺は頸枷くびづかにかゝつたことがあるよ。さうしないと、奴、ひどい目に逢ふんだからね。……貴様今ぢや、そんな事を考へてゐないだらう。……いや、俺は覺えてゐるぞ、シルヴィヤ様(ジユウリヤに訂正する人もあり)にお暇乞ひをする時、ひどいたづらを俺の目の前でしやがった。俺は貴様に、いつも俺を見てろ、俺のする通りにしろと言はなかつたかい？ 一つ俺が脚あしを上げて御婦人のお裾すそに小便を引かけたことがあるかい？ 俺がそんないたづらをするのを見たことがあるのかい？

ブローチユウスとジユウリヤ(男装して)通り過ぎる。
ブローチユウス セバスチャンといふのだね。氣に入つたから、

早速何かの用事に使つて上げよう。

ジユウリヤ 何でもお好きなことに。出来るだけのことは致します。

ブローチユウス お前ならさうしてくれるだらう。……

「ラインスを見つけろ」こら、腐れ女郎くさの土百姓！

この二日といふもの、何處どこをうろついて居たのだ？

ラインス マリヤ様、わつしはお吩咐いひつけの犬をシルヴィヤ様のところへ届けました。

ブローチユウス 俺の小さな「ジユウエル」(犬の名)を何と仰しやつたか？

ラインス マリヤ様、あの方の仰しやいますには、あなたの犬はやくざ犬だから、かういふ戴き物にはやくざなお禮で澤山ですつて。

ブローチユウス しかし、受取られたか？

ラインス いゝえ、お受けにならなかつたから、かうして又連れ戻つて來たのです。

ブローチユウス 何！ 俺からだといつてこいつを差し上げたのか？

ラインス 左様で、旦那旦那、他ほかの方の栗鼠リス(ブローチユウスが)の方は、市場いちばで手にをへない腕白小僧共うしろに盗まれつち

まひました。ですから、あの方には私のを差し上げた
のです。私のは旦那のより十倍もつかいから、贈物
としてもそれだけ立派でさ。

ブローチユウス 馬鹿ツ、あつちへ行つちまへ、俺の犬を
も一度めつけて来い。

めつからなかつたら、二度と再び面を出すな。……
行けつたら……まご／＼して、俺をじらす氣か？

奴隷め、ひつきりなしに俺に恥をかゝしをる……

ラインスはクラブを曳いて行く。

セバスタヤン、お前を雇つたのは、

一つには、俺の用事を伶俐に

やつて呉れる若者が必要な爲めなんだ……

あんな愚鈍な田舎者ぢや、とてもあてにならない。……

だけれど、何よりもお前の顔や立居振舞が氣に入つたか
らだ。

俺の占ひが誤らなけりや

育ちのよさや、いゝ暮しをしたことや、誠實さなどがよ
く分る。

だから、そこを承知してこの用事をやつて貰ひたい。
すぐこの指環を持つて行つて

シルヴィヤさんに渡して来るのだ。……

これを俺に寄越した女は、俺を本當に愛して居たよ。

ジュウリヤ あなたはその人をお愛しなさらなかつたやう

ですわ、又其人のお形見も……〔指環を受取りながら〕

お亡くなりになつたのでせうね、大方？

ブローチユウス さうではない……生きてゐる筈だ。

ジュウリヤ あゝ！

ブローチユウス 何だつて大きな聲で「あゝ」なんていふ

んだ？

ジュウリヤ お可哀相でなりませんもの。

ブローチユウス どうして可哀相なんだ？

ジュウリヤ でも大方、その方のあなたへの愛は

あなたのシルヴィヤさんへの愛に劣りはしなかつたでせ

うものを……

女は女の愛を忘れてしまつた男を、夢みつゞけてゐる

し——

あなたは又、あなたの愛を何とも思はない人に夢中にな

つて居らつしやる……

愛がこんなにくはぐになつては可哀相です。

そんなことを考へてゐますと、「あゝ」といひたくなり

ます。

ブローチユウス 兎に角、この指環と、それから一緒にこの手紙を、渡してお呉れ……あれがあの人の部屋だ……

……あの人に、

お約束通り、天つ少女のお姿を要求しますといふんだ。受取つたら、すぐにわしの部屋へ持つて来て呉れ、部屋では寂しく——一人ツきりでゐるから。

彼は行く。

ジュウリヤ こんな使ひをする女が、何人あらう？

あゝ、可哀相なブローチユウス！ お前さんは

小羊の番人に、狐をお雇ひになつたのよ。

あゝ、氣の毒なお馬鹿さんね、私！ 何だつて

私を心から嫌つて居るあの人なんぞを可哀相に思ふんだらう？

あの人はシルヴィヤさんと思つて居るから、私を嫌ふのだわ。——

わ。

私はあの人を思つて居るから、あの人可哀相でならな

いのだわ……

この指環は、あの人と別れる時、

私の好意を忘れない堅めにと差上げたのでした。

それに今日は——何といふ不仕合せなお使ひだらう。

私の欲しくもないものを貰ふ爲めに

持つて行きたくないものを持つて行き、

貶したいと思ふあの人を信實だと譽めなければならな

いなんて。……

私は、主人の眞實な堅い戀人ではあつても、

主人の忠實な召使ひになることは出来ません、

自分自身に對して不實な謀叛人になれば別だが。……

ともかく、あの人に代つて口説きませう、たゞ極く冷淡

にね、

神様も御存知の通り、成功させたくない事だもの。

シルヴィヤ側門から出てくる。

お早うございます。申兼ねますが、

シルヴィヤ様にお話が出来ます所へ御案内下さいません

か。

シルヴィヤ 其人に何用がおります、若し私が其人だつ

たら？

ジュウリヤ 若し其方で入らせられますれば、御迷惑では

ございませんが、

私が使ひに参りました用件を聞いて戴きたうございま

す。

シルヴィヤ 誰から？

ジュウリヤ 私の主人、士爵^{サハ}ブローチュウスからでございます。
す。

シルヴィヤ おう……繪の御用ですね？

ジュウリヤ さやうでございます。

シルヴィヤ 「呼ぶ」アーシユラ、その私の繪を持つてお
いで。「女中がその繪を持つてくる」

これを御主人に渡してかう言つて下さい、

こんな影見たいなものよりも、移り氣で忘れてゐらつし
やるジュウリヤさんとかいふ人が、

お部屋にはよほどよく似合ひますと。

ジュウリヤ お姫さま、どうか、このお手紙を御覽なすつ
て……

これは、御免下さいまし、お姫さま、間違つて、

お渡ししてはならない方をお渡し致しました。

彼女は急いでそれを取戻し、別のを出す。

これがあなた様へのお手紙でございます。

シルヴィヤ どうか、そつちのをもう一度見せて下さい。

ジュウリヤ いけません、お姫さま、どうぞ御勘辨を。

シルヴィヤ さ、お呼びなさい……

彼女は手紙を突きかへす。

私、あなたの御主人の手紙は拜見したくありません。
分つてゐます、いろんな言ひ立てを一杯つめこんだり、
新しく探し出した誓ひの言葉を並べたりしてあるのでせ

う。そんな誓言^{ちかご}を破るなんぞは
私がこの手紙を引裂くよりもあの人にはやさしいので

す。
ジュウリヤ お姫さま、主人はこの指環を差上げると申し
ました。

シルヴィヤ それを私に寄越すなんて、恥の上塗^{うまぬり}です。
あの人^{ひと}が何百度となく言つてましたが、それはジュウリヤ
さんとかに

お別れの時に送つたのださうです。
不實なあの人の指が、その指環を汚^{けが}したにしても、
私の指は、ジュウリヤさんにそんな濟まない事など決して

致しません。
ジュウリヤ ジュウリヤがお禮を申します。

シルヴィヤ え、何ですつて？
ジュウリヤ あなたがジュウリヤのことを思つて下さるの

で、私からお禮を申します。

可哀相なあの婦人！ 主人はあまりひどいと思ひます。

シルヴィヤ あんた、その人を知つてゐますか？

ジュウリヤ 自分のことのやうによく知つて居ります……

あの人の切ない胸のうちを考へて、ほんとに、

私、何度泣いたか知れませんが。

シルヴィヤ その人は大方、プローチウスに捨てられた

と思つてゐるのでせう？

ジュウリヤ さうかと思ひます。だから悲しくつて堪らな

いのです。

シルヴィヤ 大變な美人なの？

ジュウリヤ お嬢さま、今よりはずつと綺麗だつたのです。

……

主人が愛してゐたと思つて居た頃は、

あなた様に負けない程の美人でした……

しかし、鏡を疎かにして、

日よけのマスクを放つてしまつてからは、

風が頬の薔薇を飢え死にさせ、

顔の白百合をつまみ取つてしまひ、

今では私と同じに黒くなつて居ります。

シルヴィヤ 背丈は？

ジュウリヤ 丁度わたし程です。五旬節のことでした、

餘興のペーリエントをみんなで演りましたか、

仲間の若い人達が私に女形を當つたものですから、

ジュウリヤさんの長上衣を借りて身仕度しました。

ところが、あんまり私にびつたりして居ますので、

男達はわざ／＼誂らへたやうなものだと申しました。

ですから、あの方が私と同じ位の背丈だつたと存じて居

ります。

その時は、さんざあの人を泣かせてやりました。

悲しい役をやつたものですからね……

それは、シシヤス王がアリヤドニ姫を棄てたのを、

姫が嘆くといふ筋で

それを私は涙を流してやつてのけたのです……

お可哀相にジュウリヤさんはそれに感動して

ひどく泣いてしまひました。……そしてこれは決して嘘

ではありませんが、

私も心の中で、あの方の悲みを深く思ひやりました。

シルヴィヤ ジュウリヤさんはあなたに感謝して居られま

せう。

あゝ、お可哀相に捨てられた娘さん！

お話を聞いてみると、私まで泣けて來ます……

さ、これは僅かですが、麗はしいジュウリヤさんのために

上げます、あんたはその方を愛して居るのだから。さや
うなら。

ジュウリヤ

お近付になるやうな時が來れば、其人は屹度

シルヴィヤ行く。

物靜かで、御器量ごきりやうが好くつて、なんて御立派な方でせう。

私の主人の望みは、とても遂げられまい。

あれほど捨てられた内の奥さんとの戀を尊敬して居らつ

しやるのだから……

あゝ、戀といふものは、どうしてこんな馬鹿な眞似

が出来るのだらう。

これがあの方の似顔畫……「彼女は坐る」どれ拜見いた

しませう。

こんな頭飾かぶまきがあつたら、私の顔だつて

このくらの綺麗にはなるわ。

それに畫工えがが少々お追従をやつてゐるやうでもあるし……

さもなければ、私が自分をあんまり買ひ被つてゐるのかも
知れないわ……

この人の髪は褐色だが、私のは全くの黄色なの。

だつたそれだけで、心變りをしたのなら、

私はかういふ色の假髪かづみを附ませよう。

この人の眼はガラス（首の髪法相末の世代）のやうに青いが、

私のも同じだわ。

だけど、額はこの方の方が低くつて、私の方が高い。

一體あの方の何處どこがよくて、そんなにちやほやされ、

私は見限られることになつたのだらう？

やつぱり愚かな戀の神様は、盲目めくらだからと思ふ他ほかはあり

やしない。

彼女は立上る。

さあ、魂のぬけた影法師かげ法師さ、この影のやうな繪姿に

うんと小言を言つてやりなさい（取上げなさい）

お前の戀敵こひて手だから。おゝ、こんな感覺のない形が、

あがめられたり、接吻くちスされたり、愛されたり、禮拜され

たりするののか？

若しあの方の熱中のほきつた崇拜に少しでも分別があるなら

ば、

この實體の私の方を偶像にしてくれてもいい、管なのに：私は「繪に」お前を親切に扱つて上げませう、お前の御

主人が

私にさうして下さつたのだから、……さもなかつたら、

ジョーブの神様掛けて、

お前の物の見えない眼をひつかき破つて

私の旦那に愛想をつかさせてやるのだに。

彼女は繪を運んでゆく。

第五幕

第一場

——ミランに近い僧院。夕方。

エグラムーアがマントをつけ、拍車のついた靴を穿いてシルヴィヤを待つてゐる。

エグラムーア　太陽が西の空を黄金色に染め初めた。

もうそろ／＼、シルヴィヤさんが、

托鉢僧バトリックの庵で、私と逢ふ手筈の時刻だ。

間違ひはないであらう。戀する人は

早く來るとも、時を違約へるものではない。——

それほど氣の逸るものだから。

シルヴィヤ急いで近づく。

や、おいでなされた……お姫さま、今晚は！

シルヴィヤ　アーメン、アーメン……さ、行きませう、エ

グラムーアさん。

僧院の壁沿ひの、裏門のところまで、早く。……

尾行が附いては居ないか知らん。

エグラムーア 御心配遊ばすな。森へは三リーグとはありませぬ。(は約三哩)
あそこへ着けば、もう大丈夫です。
二人は僧院を去る。

第二場 —— 同所。領主の館の一室。

スーリオとブローチユウス、ジュウリヤのセバスチャ
ンが付添うてゐる。

スーリオ 士爵ブローチユウス、シルヴィヤさんの返事は
どうだね？

ブローチユウス おゝ君、姫の返事は前よりは穩かになつ
たが、

それでも、君の風采の缺點を探してね。

スーリオ 何だつて？ —— この脚が長過ぎるとでも言
ふのか？

ブローチユウス いゝや、細すぎるんだ。

スーリオ 長靴を穿くよ、少しは丸くなるからね。

ジュウリヤ (傍白) 併し、戀といふものは嫌だとなると、
長靴で拍車を付けても、走らないものです。

スーリオ 僕の御面相を何と言つたね？

ブローチユウス 色白で、立派だぞ。(外見尤もらしくて實は
白男といふ)
にかけて)

スーリオ ぢや、あの尻輕め、嘘をついてるんだ。僕の
顔は黒いよ。

ブローチユウス しかし、眞珠は白いだらう。そして古語
に曰くさ、

色黒き男も美人の眼には眞珠なり、だと。

ジュウリヤ (傍白) 全くです、パールといへば白内障(眞珠
同字)ですが、そんなパールは婦人の眼を抜取つてしま
ひます。

私は、そんな物を見るよりか、眼をつぶつた方がいゝわ。

スーリオ 僕の話しつ振りはお氣に召すかね？

ブローチユウス 召さんよ、君が競争話をする時は。

スーリオ しかし好いだらう、平和や愛を説立てる時は。

ジュウリヤ (傍白) もつと好いのはあなたが黙つてゐる
時よ。

スーリオ 僕の武勇に就いては？

ブローチユウス おゝ君、それは言はなくつても分つてゐ
るとさ。

ジュウリヤ 「傍白」言ふ必要はありませんとも、臆病とちやんと知つて居らつしやるもの。

スーリオ 僕の素性は？

ブローチユウス 出がいくといつて居られる。

ジュウリヤ 「傍白」本當にね、殿方から出て、道化役におなりだから。

スーリオ 僕に財産といふ附物があることは考慮に入れておぬでせうね？

ブローチユウス おゝ、さうく、そしてそれを不慥に思つて居られる。

スーリオ どうして？

ジュウリヤ 「傍白」こんな頓馬が持つて居るからだとき。

ブローチユウス 附物がしてゐる人間には、財産は持てないからだよ。

ジュウリヤ 御領主様がお出でです。

領主 急いで登場。

領主 おい、士爵ブローチユウス！ おい、スーリオ！

君達のうち誰か、近頃士爵エグラムーアを見かけたものがあるか？

スーリオ 私は見ません。

ブローチユウス 私も。

領主 娘には？

ブローチユウス いゝえ、お眼にかゝりません。

領主 では、

娘はあの土百姓のワランタインの所へ逃げたのだな、そしてエグラムーアが一緒だ。

それに違ひない。ローレンス法師が滅罪苦行の爲め、森の中を迷ひ歩いてゐた時、二人を見掛けたさうだ。

男の方はよく分つたが、も一人は娘ぢやないかとの推察

だ、假面をつけてゐたので、確とは言へないさうだが……

それに娘は、今晚、パトリックの庵室で、

懺悔をすることになつて居たが——そこへも行かなかつた……

いろく考へ合せると、きつとこゝから逃げたらしい。

だから、お頼みだ、議論なぞしてゐないで、

直ぐに馬に乗り、二人が逃げたマンチュアへ抜ける山の

麓の坂の上で、

落ち合ふことにして貰ひたい。

さ、早く、御兩君、わしの後についでいた。

彼は急ぎ去る。

スリーオ 何だい、好運が後から追つ掛けて居るのに

それを逃げて行くなんて、無考へな小娘だ。

どりや、續いて行かう、何はともあれ、エグラムアに一

泡吹かせてやるんだ、

無鐵砲なシルヴィヤへの戀は二の次として。

彼は領主の後を追ふ。

ブローチュウス 俺も行かう、俺はシルヴィヤへの戀のため

だ、

一緒に行つたエグラムア憎さは二の次だ。

彼はスリーオの後を追ふ。

ジュウリヤ 私も出掛けませう。あの戀を邪魔する爲め

戀の爲めにお逃げになつたシルヴィヤ様憎いは二の次。

彼女はブローチュウスの後を追ふ。

第三場

——マンチュアの國境。森のなかの公道。

シルヴィヤが山賊共の手に捉へられてゐる。

山賊甲 まあ、我慢しな。隊長のところへ連れて行

かなくちやならないのだから。

シルヴィヤ この災難より、千倍も不幸な目に逢つてゐる

ので

これ位の辛抱は何でもありやしない。

山賊乙 さあ、連れて行け。

山賊甲 一緒に居た男は何處へ行つた？

山賊丙 べら棒に足のすばしつこい奴で、俺達を抜きを

つた……

しかしモイゼズとワリーリヤスが追つ掛けて居るよ。

お前はこの女を連れて、森の西の端れへ行つてくれ、

あそこに隊長がゐるよ。俺たちは逃げた野郎を追つ掛け

ることにしよう。——

叢林で包まれてるから、通れつこけねえや。

山賊甲 さあ、どうしても隊長の洞穴へ連れて行くから、

心配することはねえ。隊長は立派な心掛の人だ、

女に對して無法な眞似なんざあなさらない。

シルヴィヤ お、ワランタイン、……これもあなた故に

辛抱します。

彼等は森の中に入つて行く。

第四場 —— 森の他の部分。

ブランタインが公道をそろり／＼とやつて来る。

ブランタイン 慣れるといふことは、人に特殊な氣風を

生みつけるものだ！

この薄暗い荒野を、この人影稀れな森を、

俺は、繁華な雑沓の町よりもずつと我慢しよくなつた。

こゝで、只一人坐つて、誰に見られるでもなく、

夜啼鶯の戀へるやうな調べに合せて、

自分の心の苦しみや悲しみを歌ふ。

おゝ、この胸に住み給ふ君よ、

いつまでこの館を主のないまゝにして置くのですか。

やがて朽ちて、建物は倒れ、

記憶は少しも残らなくなりませう。

シルヴィヤさん、お姿を現はして、私を修繕して下さい。

やさしい森の女神よ、寂しい戀人を愛撫して下さい。

彼は黙想する、叫聲と打合ふ物音が聞える。

今日のこのわめき聲や、ざわめきは、何だらう？

きつと俺の仲間だ、あいつ等は自分の意志を法律にして

ゐるのだが、

不仕合せな通行人を追つかけて居るのだらう。

奴等は俺を敬愛して呉れるが、あの亂暴狼籍を制するに

は

隣分と骨が折れる……

お、ブランタイン、引つ込め、誰かやつて来る！

彼は退く。

シルヴィヤが着物を剥がれて森から出てくる。プロロー

チウスとセバスチヤンのジュウリヤが跡について。

プロローチウス お姫さん、あなたはこの忠僕のする事を

何によらず、

有難いとも思はれぬやうですが、私はあなたのために

命を賭けて、あなたの操を暴力で

辱しめようとしたりした男から、あなたを救つたのですぞ。

どうかこの手柄に愛で、せめてやさしい顔でも見せて

戴きたい。

これより小さい恩恵は所望しようにもありません、

あなたにしたつて、これ以下のものは出せもしますまい。

ブランタインは木蔭からシルヴィヤを認めて驚く。

ブランタイン 「傍白」これはまるで夢だ！ 目に見、――

耳には聞くが……

愛の神様、もう少し辛抱する力をお與へ下さい。

シルヴィヤ おゝ、みじめな、不仕合せな私の身の上！

ブローチュウス 不仕合せだつたのです、お姫さま、私の

参ります迄は。

併し私が参りまして、あなたをお仕合せにしました。

シルヴィヤ あなたが近くへ来て、私をこの上なく不仕合

せにします。

ジュウリヤ 「傍白」私もです、この人があなたの前へ近よ

りますと。

シルヴィヤ 假りに飢ゑた獅子に把へられ、

その餌食にならうとも

嘘つきのブローチュウスに救はれたくはなかつた。

おゝ、天よ、お裁き下さい。私はどんなにザランタイン

を戀ひ慕つて居りますことか、

あの方のお命は、私に取つて、魂同然に大切でございま

す！

それと同じ量に（それ以上なんてあり得ないもの！）

不信不實の偽誓者ブローチュウスが厭で厭で堪らない。

だからあちらへ行つてお了ひ、これ以上何もお言ひでな

い。

ブローチュウス 死に次ぐどんな危険な行爲でも、

やさしいお顔一つ見る爲には行はないでゐようか？

おゝ、これこそ決して珍しくもない戀の呪ひだ。

女がその戀してゐる者を愛することができないとは！

シルヴィヤ さういふブローチュウスが、その戀ひ慕つてゐ

る女を愛し得ないとは……

ジュウリヤの心を——そなたの最初の又最上の戀人の心

を——讀みかへして御覽なさい。

その方の爲めに、あなたは眞心を碎いて、

百千度の誓言をしたのです。その誓言は悉く

偽誓となつて了つた——私に戀をしたので。

誠實といふものを二つ持つてゐない限り、もう残つては

ゐない筈です。

又、誠實が二つあるなど云ふことは、一つもないより

ずつと悪い。

一つだけ多過ぎる二重の誠實より、なんにもないのが遙

かによいから……

贖もの！ お前は、眞友に反いた偽友です！

ブローチュウス 戀をする者が友人なんぞ氣にとめてゐら

れますものか？

シルヴィヤ とめないのはブローチユスだけよ。
ブローチユス やさしい心から、これほど言葉を盡して
も、

これ以上、態度を變へては下さらないとすれば、
武士らしく劍の切つ先に掛けても口説き落し、
戀の本質には反く方法で愛しますぞ……暴力でも。

シルヴィヤ おゝ天よ！

ブローチユス 「彼女を把へ」さ、暴力でも望みを遂げ
ねばおかんぞ。

ブランチン 悪黨！ 「飛出して彼に襲ひかゝり」亂
暴無禮なその手を放せ！

道に外れた男めが！

ブローチユス 「後退しつゝ」や、ブランチン！

ブランチン 世間並の頼み甲斐ない友人め、眞實もな
ければ、愛情もない——

かういふのが今の友人だ。背信不義の男め！

貴様の爲めに俺の望は悉く裏切られた。實際この眼で見
なかつたなら、

どうしてこれが眞實と信じられようか。もう今となつて

は、

俺には、一人の友が生きてゐるとさへ言ひ得ない。
貴様がそれを否定するのだ。

俺の右の手が、心に反いて僞誓する時、

誰を頼みにすることが出来ようぞ？ ブローチユス、
残念ながら、もうお前を信じないのは勿論、

お前の爲めに、この世間全體をも、疎んじる心になつて
了つた。

私交上の傷は一番深いものだ。おゝ、何といふ淺ましい
世の中だ。

ありとあらゆる仇の中で、友が最悪の仇であらうとは！
ブローチユス 恥かしさと罪の深さで、私は混亂してし
まつた。

許して下さい、ブランチン。若し心からの悲しみが、
犯した罪の贖ひに足るものなら、

今こゝにそれを差し出します。悪いことをしたのも眞實
だが、

それに劣らず眞實に惱んで居ります。
ブランチン それで僕も満足だ。

もう一度君を正しい友として迎へる。

悔悟されて、それでも満足しないものは、
天にも適せず、地にもふさはしくない。天も地も悔悟を
欣ぶのだから。

滅罪苦行をすれば、永遠の神の怒りも解ける……
僕の愛を平明卒直に示すため

シルヴィヤさんに於ける愛のすべてをみんな君に譲るよ。

ジュウリヤ あゝ不仕合せな！〔氣絶する〕

プローチユウス ボーイに氣をつけてくれ。

グランタイン 何、ボーイ！ えー 剽奪者！ おい！

どうしたのだ？ 顔をあげて物をお言ひ！

ジュウリヤ 私は主人からシルヴィヤ様に指環を渡して呉
れといつて頼まりました。……それを、私の怠慢から、

まだ渡してないのです。

プローチユウス その指環は何處にある、ボーイ？

ジュウリヤ こゝにあります。……これです。

プローチユウス え！ どれ……〔指環を受取つて〕

おや、これは私がジュウリヤにやつた指環だ。

ジュウリヤ おゝ、これは御免下さい。間違へました。

こちらが、シルヴィヤ様へといつてお渡しなされた指環で
ございます。〔彼女は他の指環を出す〕

プローチユウス だが、どうして、この指環をお前は持つ
てるのか？ 別れる時に、ジュウリヤにやつた指環だが。

ジュウリヤ ジュウリヤ様御自身が、私に下さつたのです。

そして、ジュウリヤ様が自分でこゝへ持つて参りました。

プローチユウス 何！ ジュウリヤ！

ジュウリヤ あなたのあらゆる誓言の的となり、
そしてその誓言を深く心の中ではぐんでゐた女を御覽

なさい。……

何度、あなたは誓言を破つて、この心の眞中を射ぬいた
ことでせう！

おゝ、プローチユウス、この着物を見て、顔を赤らめるが

よい！

私がこんな見苦しい衣装を着けたことを

面目ないと思ふがよい、もし戀故の變裝が、

恥であるならば。

憤みの目から見ても、女が姿を變へる位何でもない恥です、

男が心を變へるに較べれば。

プローチユウス 男が心を變へるに較べれば？ その通り

だ……おゝ天よ、男に浮いた心さへなければ、

彼は完全なのだが。その一つの量見違ひから

いろ／＼不埒を犯し、あらゆる罪の間を駆け廻ることに
なる。

無節操といふ奴は、氣の變るや變らぬに、もう約束を破
りだすのだ。

節操の眼で見れば、シルヴィヤさんの顔のどの色でも、
ジュウリヤの顔の中で、もつと鮮かにも見える筈だ。

グランタイン さあ／＼、雙方からお手を。

彼は兩人の手をつなぎ合わせる。

この目出度い納まり役を勤めて僕も祝福に與からう。

かういふ二人の親友がいつ迄も敵同志で居ることは情け
ないことだ。

プロイチュウス 天も保證して下さい、この悦びは永遠に

持ち傳へます。

ジュウリヤ そしてわたしも。

山賊達、領主とスーリオを引つ立て、現はれる。

山賊達 獲物だ……獲物だ……獲物だ！

グランタイン 待て、待てといへば！ これは、御領主

様だ。……

閣下にはようこそ、御不興を受けました

追放のグランタインでございます。

領主 士爵、グランタイン！

スーリオ あれ、あそこにシルヴィヤさんがある、シルヴィ

ヤさんは私のものだ。(彼は彼女の方へ進む)

グランタイン スーリオ、控へろ。命がないぞ。

俺が激怒の範囲内に來ぬがよい。

言ふな、シルヴィヤをわがものなど。重ねて言はせ、

ミランに貴様の姿は見せぬぞ。……こゝに居られるこの

方を手に入れようなど——指でも觸れて見るがよい、

この戀かけて、息つく暇も用捨はせぬぞ。

スーリオ 士爵、グランタイン、僕はこの人はどうでもい

いんだよ、僕は。

自分を愛してもゐない女の爲めに

危い目を見る奴は馬鹿だとしか思はないよ。

僕はあの人を要求しません、だからあの方はあなたのもの

のですよ。

領主 言ひやうもない卑劣な男だ、貴様は。

あれほどまでの手段を講じて置きながら、

こんな風に軽々しく娘を捨てしまふとは……

彼はスーリオから振向き。

さて、グランタイン、わが祖先の名譽に掛けて、

そなたの精神こそは、

女王の愛慕に値ひする人物と思ふ。

よつて、予は過去の不満を悉く忘れ、

不快の感じを一切取消して、そなたの追放を赦し、

比類ない手柄に鑑みて、新たな地位を宣言する。

士爵グランタイン、

そなたは紳士であつて、血統も正しい。

そなたこそはシルヴィヤを迎へるに十分値ひする人だ。

グランタイン 閣下にお禮を申します、その賜物で私は

幸福になりました。

ところで、お願がごさいます——令嬢のため——

一つの恩典を曲げてお許し下されませう。

領主 許す——そなたの爲めに——何なりとも。

グランタイン 私と共に暮し居ります之等の消放人は、

いづれも立派な天性を備へた者共にございませう。

どうぞ彼等が犯しました一切の罪をお許し下され、

追放を御赦免になりますれば、

一同改心して、禮儀を辨へ、十分善心を抱き、

立派にお役に立つ事と存じます。

領主 そなたの熱心に免じ、彼等もそなたも共に許す。

そなたは彼等の長所を知つて居る事だから、各々身の振
方を處置するがよい。……

さあ、歸らう。すべての不和や騒擾の結末として

競技を催し、饗宴を張り、稀有の祝典を舉行しよう。

グランタイン 歸ります途々、お話し申しますが、甚だ

失禮ながら、

閣下の御微笑遊ばさるゝやうな物語がございませう。……

御前、この従者をいかゞお考へでございませうか？

領主 嗜みが深さうな少年だ——顔を赤らめてゐる。

グランタイン 御前 嗜み以上の神性さへもございませう。

領主 といふのは？

グランタイン それは、歩きながらお話し致しますが、

吃驚なされるほどいろんなことが起りました。

おい、プロージュウス、自分の戀愛事件が露顯に及ぶ筋道

を聞くのも君の罪業消滅になるよ。……

それが済んだら、私共の婚禮の日をやがて君達の日とも

しよう。——

祝宴も一つ、家も一つ、互の幸福も一つ。

彼等は公道を通つて見えなくなる。

ローミオと ジュリエット

人物

- エスカラス ヴェローナの領主。
- パリス 若き貴族、領主の一族。
- モンタギュー 相敵視する兩家の家長。
- キャピュレット }
キャピュレット家の一老人。
- ローミオ モンタギューの子。
- マキューシオ 領主の一族、ローミオの友。
- ベンゾオーリオ モンタギューの甥、ローミオの友。
- チボルト キャピュレット夫人の甥。
- 僧ローレンス フランシス派のフライヤー僧。
- 僧ジョン 同じ派の僧。
- バルサザーローミオの下僕。

- サムサン } キャピュレット家の下僕。
- グレゴリ }
ピータ } ジュリエットの乳母の下僕。
- エイブラハム } モンタギュー家の下僕。
- 一藥劑師
- 三人の樂手
- パリスの侍童、他の一侍童、一役人。

- モンタギュー夫人
- キャピュレット夫人
- ジュリエット } キャピュレットの一女。
- ジュリエットの乳母

ヴェローナの市民、兩家の親族、假面舞踏者、警吏、
夜警及び従者達。
序詞役。

場所

ヴェローナ。マンチュア。



序詞

序詞役 權勢いづれ劣らぬ二名族、

我等の舞臺とする美しきヴェローナにありて

古き怨みは新しき争ひを生じ

市民の血は市民の手を汚す。

この敵視する兩家の胎内より

星に恵まれざる二人の情人生れ、

運命拙なくも戀は憐れに破れはてし

二人の死と共に、双親の争ひをも埋め了りぬ。

死と定められたる二人が怖ろしき戀の経緯、

子等が果つるまでは、何を以ても解けざりし

双親の怨怒の始終、

これを今より二時の間の我等が舞臺、

あはれ、耐へ忍びて御耳を貸したまはらば

足らざるところは、我等勵みて補ふべし。

退場。

第一幕

第一場 —— ヴェローナ。街上。

サムサンとグレゴリ登場、キャビュレット家の下僕、
劍と楯とを以て身を固む。

サムサン グレゴリ、俺達は侮辱されて黙つてゐる男で
はないぞ。

グレゴリ 無論さ、そんな奴ア碌でなしだからな。

サムサン 俺達は、赫となると、すぐひっこ抜くんだ。

グレゴリ さうよ、お前なぞあ、生きてるうちに喧嘩か

ら身を引っこ抜く算段をするんだな。

サムサン 俺は腹が立つと、すぐ眞二つにしてくれる。

グレゴリ ところが、その立つまでが、手間がとれるの

さ。

サムサン 何のすぐ立つよ、モンタギュー家の犬を見てさ
へ續なんだ。

グレゴリ 立つといふなあ、動くこつたぜ。勇氣のある

奴なら、動くどころか、ちつと踏み留^{とど}まつて相手になる。ところがさ、お前のは動くといふんだから、すぐ逃げつちまうんだな。

サムサン あの家犬め、俺様を怒らしたとなると、この俺は挺^てでも動くこつちやあない。モンタギューの下男^まだらうが、下女^{まな}だらうが、決して道を譲ることぢやあない、俺は歩道の壁際^{かき}へ頭張つてゐてくれるぞ。

グレゴリ それがお前の弱蟲^{よわむし}だつてことの證據だ、一番弱い奴が壁際^{かき}で立往生^{たてわうじやう}だ。

サムサン 全くだ。だから女は弱蟲^{よわむし}で、いつでも壁際^{かき}へ押しつけられるんだ。俺はモンタギューの男の奴を歩道の壁際^{かき}から車道^{くるまぢやう}へおつぼり出して、女をひつころがしてやるんだ。

グレゴリ おい、喧嘩^{けんか}ア主人同志、下男同志の間のことだよ。

サムサン どつちだつて、一つことだ。俺は暴^あれ放題^{ばうだい}あばれてやるんだ。男共と喧嘩^{けんか}しちまつたら、娘^{むすめ}つ子^こに手荒^{てあ}な事^{こと}をしてやるんだ。あいつらの頭^{あたま}をぶち破^{やぶ}つてくれる。

グレゴリ 娘^{むすめ}の頭^{あたま}だと？

サムサン さうだ、頭^{あたま}だらうが、鉢^{はち}（意^い女^{にょ}）だらうが、ぶち破^{やぶ}つてくれよう、意味^{いみ}のとりやうは勝手^{かたて}だ。

グレゴリ それは彼^{かれ}方^{かた}で好きな方^{かた}にするだらうよ。

サムサン きつと好^{この}くつてことさ、おれもこれで女^{むすめ}たらしてえ評判^{へいぱん}だからな。

グレゴリ お前^{まへ}が魚^{いさな}でなくて仕合^{しあは}。魚^{いさな}だつたら、棒鱈^{ぼうたら}つていふところだ。……それ、劍^{けん}を抜^ぬけ、モンタギュー家の奴^{やつ}が、二人^{ふたり}やつてきやがる。

エイブラハムとバルサザー登場。

サムサン さあ、劍^{けん}は鞘^{さや}をはづしたぞ。喧嘩^{けんか}ふつかける、俺^{おれ}が後ろ^{うしろ}の楯^{たて}になるから。

グレゴリ えッ！ 後^{あと}しざりして逃^にげるんだと？

サムサン 怖^{おそ}れるなつてことよ。

グレゴリ いやさ、俺^{おれ}は、お前^{まへ}に怖^{おそ}れるんだつてことよ！

サムサン 此^こ方^{ちかた}が理^{こと}分^{わり}になるやうにやらうぜ、彼^{あいつ}奴^{やつ}等の方^{かた}から初^はめさせろ。

グレゴリ 才^{さい}れつ違^{ちが}つたら、睨^{にら}めつけてやらう、そしてどうとも勝^かつてにさせよう。

サムサン 勝^かつてにぢやない。やれ、ばやつて見^みろだ。俺

は奴等に、指の爪を噛んでくれよう、それを黙つてりや、奴等の名折れだからな。(と行違ひざまに、サムサン、指の爪を噛んで、軽蔑の意を示す)

エイブラハム、バルサザー登場。

エイブラハム 君達は、我々に向つて指の爪を噛まれた

な？

サムサン 俺は俺の爪を噛んだよ。

エイブラハム 君達は我々に向つて噛まれたのかな？

サムサン 「グレゴリに向ひ」うんと言つても、此方の

理になるかな？

グレゴリ ならん。

サムサン いや、俺は君等に向つて噛まない、が、たゞ

噛むんだ。

グレゴリ 君は喧嘩を賣らうといふのか？

エイブラハム 喧嘩を！ いや。

サムサン 若し賣るのなら、相手になる。お前たちに負

けてたまるものか。

エイブラハム 勝ちもすまい。

サムサン うむ……。

グレゴリ 「サムサンに向ひ」勝つと言へ、且那の親類の

方が向うからやつて来る。

サムサン さうだ、勝つとも。

エイブラハム 嘘つけッ。

サムサン 抜け、男なら。グレゴリ、いつもの廣言忘れ

まいぞ。「彼等戦ふ」

ベンヴォーリオ登場。

ベンヴォーリオ 止めろ、馬鹿者共！

彼等の武器を打ち落す。

劍をひつこめろ。たはけた事をするな。

チボルト登場。

チボルト 何だと、貴様はこんな心ない下郎相手に劍を

抜くのか？

こつちへ向け、ベンヴォーリオ、貴様に死神を拜まして

やるから。

ベンヴォーリオ 俺はたゞ仲裁をしてゐたのだ、劍を收

めて、

此奴等を引き分ける手傳ひをしてくれ。

チボルト 何、抜いときながら仲裁だと！ 俺はその仲

裁といふ言葉が大嫌ひなんだ、

地獄が嫌ひなやうに、モンタキュー家の奴等がかたつばし

から嫌ひ、それから貴様が大嫌ひなんだ。

覺悟しろ、卑怯者！〔兩人戦ふ〕

兩家の者數多登場して喧嘩に加はる。それから市民
警吏、棍棒など携へて登場。

市民等 棍棒組ツ、鉗紐ツ、打て！ 叩き伏せろ！

キャピュレット家の者共を打ち据ゑろ モンタギュー家の者
を打ち据ゑろ！

老キャピュレット 寢衣のまゝにて、つゞいてその夫人
登場。

キャピュレット あの物音は何事だ？ 俺の長い劍を持て、
長い劍を！

キャピュレット夫人 杖です、杖です！ なんで長い劍な

どお求めなされるのです？

キャピュレット 劍を寄越せといへば！ モンタギューの老
いぼれ奴が出て来て、

俺の鼻つ先きに白刃を振りまはし居るわ。

老モンタギューとその夫人登場。

モンタギュー キャピュレットの悪黨め！——止めるな、

離せ。

モンタギュー夫人 鬨はうといふお心なら一足たりとも

動いてはなりません。

領主 エスカラス、従者を隨へて登場。

領主 亂を好む者共、平和の敵、

隣人の血を以て刀を汚す横道者——

言ふ事が聞えぬかな？ 〔一段と聲張り上げ〕こら、汝等
人非人、

邪まな怒りの火を消すに、

己れ自らの血管より流れ出る紫の泉を以てする者共、
刑罰の苛責恐ろしくば、血に染む手から

その用ゐ誤つた武器を投げ棄て、
怒つた領主の宣告を聴けい。

市内の騷擾は、既に三たび根もなき言葉争ひから發し、

汝老キャピュレットにより、又汝老モンタギューにより、

三たび我等の街の平安を亂した、

そしてこのヴェローナの老市民等に

その似つかはしい嚴肅な平服を脱ぎ捨てさせ、

平和のために錆びついた古い鎌鎗を

同じく古い手に握つて、汝等の錆び腐つた憎しみを引き

分けさせた。

若し汝等重ねてこの街頭を騒がすことあらば、

平和を破つた罪科は免れず、汝等の生命はないものと思へ。

今回だけは、一同引き揚げい。

汝キキビュレットは予に従つて參れ、

そして汝モンタギューは午後には

この件に關しなほ申し聞かせることあれば、

我等一同の裁判所たるアリイ・タウンに參れ。

重ねて命ず、命惜しくば一同引き揚げい。

一同退場、たゞモンタギュー及びその夫人、ベンヴォ

ーリオが残る。

モンタギュー 誰がこの古い喧嘩に、新しい糸口をつけ

たのか？

甥よ、お前は初めから傍にゐたのか？

ベンヴォーリオ 敵方の召使とあなたの召使とが、

切り合つてゐる最中に、私は通りかゝつて、

双方を引分けようと劍を抜きました。丁度その時、

あの火のやうなチボルトがもう劍を抜いて駈けて參り、

私の耳許に挑戦の言葉を述べるか述べぬに、

劍を頭の上に振り廻して空を切りました、

ところが風は何の傷も受けないので、彼を嘲笑つて音を

立てました。

そして我々が突撃の刃を交へてゐるうちに

次第に人数加はり、それらの味方して戦ふ處へ

領主がお見えになつて、双方引分けとなつたのでした。

モンタギュー夫人 おゝ、どこにローミオはゐる事だら

う。

今日そなたは彼に逢はなかつたか？

ほんとによかつた。この騒ぎに居合せなかつて。

ベンヴォーリオ 叔母さん、東の金色の窓に日輪の覗く

一時間前、

結ばれた胸を慰めようと、私は散歩に出かけました。

すると、町はづれから西の方に根を張つてゐる

無花果樹の森かげに

こんな早く御息が歩いておいでました。

で、その方へと歩んで行きましたが、私だと氣付くと、

そつと森の繁みの中にお入りでした。

物思ひの繁き時は、獨りであるたいものといふ、

私は自分の心持から推しはかつて、

あの人のあとを追はず、自分の氣持を追つて、

私から逃げて行つた人を、喜んで避けました。

モンタギュー 幾朝となくあれはあそこに行つて、

涙で鮮やかな朝露を増し、

雲に更に雲を加へる深い溜息をついてゐたと聞く。

しかし萬物を快活ならしめる太陽が、

遙か遠き東に現はれて、曙の女神の床から

黒い幕を開け初めるか初めぬに、

わしの陰氣な件は、光を避けて宅へ忍びもどり、

そつと自分の室に閉ぢ籠つて、

窓を下ろして美しい日光を厭ひ、

自分で闇をつくりをる。

かうしたむら氣は、不祥な前兆になるに相違ない、

何とか善い方法で、その原因を取り除かなければならな

い。

ベンゾォーリオ

モンタギュー

ベンゾォーリオ

たのです？

モンタギュー

させたのだが、

彼の心の相談相手は、

叔父上、その原因を御存じですか？

知りもせず、彼から聞きもしないのだ。

何とかして、根問ひしようとしなかつ

たのです？

わし自身からも、他の友人達からも、質

させたのだが、

彼の心の相談相手は、

彼れ自身の外になく——尤もどつちが眞實かわしは言ひ

たくないがね——

獨りで堅く祕密を守り、

とても探り出したり、見つけたらされるどころではない。

言つて見れば、蕾が意地悪の蟲に噛まれたやうなもので、

やさしい葉を空中に擴げる事も出来ねば、

その美しさを太陽に捧げる事も得しない。

どこから彼の悲しみが生じるのか、それさへ分れば、

知りたと思ふ心の飛び立つほどにも、勇み立つて療治

をしようものを。

ローミオ登場。

ベンゾォーリオ

し下さい。

あの人の憫みの原因を確めて見ませう。大抵なら無下に

拒絶もなざるまい。

モンタギュー

ではそこに残つて、うまい工合に、

ほんとの心持を打ち明けさせてくれたら、それこそ仕合

せだ。——さあ、奥、あちらへ行かう。

ベンゾォーリオ

お早う。

ローミオ 今日といふ日はまだそんなに早いのかい？

ベンヴォーリオ 丁度九時を打つたばかりだ。

ローミオ あゝ〜！ 物思はしい時は長いなあ、

今急いであちらへ行つたのは僕の父かい？

ベンヴォーリオ さうだ。どんな物思ひがローミオの時

を永くするのだい？

ローミオ 時の経つのも忘れさせるものを、持たないか

らさ。

ベンヴォーリオ 戀を得たといふわけか。

ローミオ いや、戀が——

ベンヴォーリオ まだ得られないとでもいふのかい？

ローミオ 戀をした女から斷られたのだ。

ベンヴォーリオ あゝ、その戀つて奴、見かけは全く優

しくて、

實はなか〜亂暴なことをやるんだからなあ！

ローミオ あゝ、その戀つて奴、いつも目隠しされて、

眼が見えない癖に、勝手に何處へでも入り込むんだか

らな！

どこぞで食事をしよう？ あゝ！ 飛んでもない騒ぎが

あつたなあ！

いや話さんでもよい、みんな聞いた。

それは多く憎みに關係したこと、が、俺はもつと愛に關

係しなければならぬ。

まあ言つて見れば、かうだ、おゝ憎みあふ愛！ おゝ愛

しあふ憎み！

おゝ無から出た有！

おゝ重い氣輕さ！ まじめな輕薄さ！

見かけのいゝ、出来そこねた混沌！

重い羽毛、明るい煤、冷たい火、病める健康！

常に覺めた眠り。かうしたものとあらう筈はなからう！

かうした愛を感じてゐるのだ、かうした事に一向愛を感

じない僕が。……

君笑つてるな？

ベンヴォーリオ いや、寧ろ泣いてるんだ。

ローミオ 頼もしい心の友よ、何を悲しんでか。

ベンヴォーリオ 君の心の壓迫を思ふからさ。

ローミオ なあに、そんなものは愛の過失だよ。

僕自身のさまざまの悩みが、この胸を重く壓へてゐるの

に

その上、君の悩みまで押しつけて

僕のを増さうとするんだ。君のこの愛は

僕の悲しみで多過ぎるのに、一層悲みを加へる事になる。

戀はね、嘆息から立ち昇る煙のやうなものでね、

その煙を拂ひのければ、火は戀人の眼に輝いてくる。

ところで邪魔されれば、その涙で海の水嵩も増す。

他に何があらう？ 戀は最も聰明な狂氣、

息の根を止める苦汁でもあれば、これを取り止める甘露

でもある。

さやうなら。

ベンヴォーリオ 待ち給へ！ 一緒に行かう。

このまゝで行つちまふのは、ひどいぜ。

ローミオ ところが、僕は僕自身を見失つてしまつたの

だよ。こゝにはゐない。

これはローミオぢやないんだ。彼はどこか他所ほかにゐる。

ベンヴォーリオ まじめに言つてくれよ、君の戀してる

のは誰だね？

ローミオ 何だつて？ じめ／＼しろと言ふのかい？

ベンヴォーリオ じめ／＼！ さうぢやない。

まじめに誰だか言つてくれといふのだよ。

ローミオ 病人に向つてまじめに遺言状を作つてお置き

と言ひ給へ。

あゝ、その「まじめに」といふ言葉は、容態のこんな

悪い男には、悪い勧告の言葉だ。

心はまじめでもあり、じめ／＼もしてるがね、従弟、僕

は或る婦人を戀してるのだよ。

ベンヴォーリオ 射たり、金的きんぎん！ て、つきりさうと腕ん

だよ。

ローミオ いやう狙ねらひ上手！ 目に立つやうな美人だよ、

僕の戀人は。

ベンヴォーリオ 目に立つやうなま的なら、わけもなく當

るぜ。

ローミオ ところが、その狙ねらひは、はづれた。あの女は

キウピットの矢では當らないんだよ。女神ダイアナの徳

をそなへ、

獨身清淨の鎧よろいにひしと身を堅めて、

戀のをさないへろ／＼矢からは、傷も立たない。

愛の言葉に圍まれても

攻め寄せる秋波に遇つても心を動かさず、

又聖者をさへ誘惑する黄金を前垂を擴げて受取るでもな

く、

おゝ、彼女こそ美の豊かな所有者だが、

死ねば美の貯へも亡んでしまふとは、ほんとに貧しい運

命といふものだ。

ベンヴォーリオ ではその婦人は、一生獨身で暮すと誓

つたのだね？

ローミオ さうだ、そしてその美を節約することが大き

な濫費になるのだ。

何故と言つて見給へ、美は彼女のあまりの嚴格さのため

に、

その美を子々孫々に傳へることが出来ないからだ。

彼女はあまりに美しく、又賢く、賢くも亦あまりに美し

くて、

僕を絶望させたから、天の祝福を得ようとしてもかなふ

まいよ。

彼女は戀はしないと誓ひを立てたが、その誓ひのために、

僕はかうしてこの話をしてゐるものゝ、實は生きながら

死んでゐるのだ。

ベンヴォーリオ 悪いことは言はぬ、そんな女の事は考

へないがいよ。

ローミオ おゝ、どうしたら考へなくなれるか、教へて

くれ給へ。

ベンヴォーリオ 君の眼に自由を與へて、

他の美人を見たらよからう。

ローミオ その方法こそ

彼女の比類のない美を餘計想ひ起させるだけだ。

美人の額を口づけするあの仕合せ者の假面は

黒いので却つて下に隠してゐる白い顔を思ひ出させる。

急に盲目となつた者は、昔見た

貴い寶を忘れようにも忘れられない。

試に優れて美しいといふ女を見せ給へ。

その美しさが何に役立たう？ たゞ心の覺書となつて

更に一段と優れてゐるあの人を思ひ出させるだけだ。

さよなら、君には僕に忘れる方法を教へることは出来な

いよ。

ベンヴォーリオ その内に教へ方の不十分なところを支

拂ふとしよう、借りたまゝ死ぬるのはいやだから。

兩人退場。

第二場 — 街頭。

キャピュレット、パリス及び従僕登場。

キャピュレット モンタギューとても私と同じやうなお咎めを受けて、謹慎の命令がありました。

尤も、我々共の年輩になれば、

穩かにするといふのにさして困難はないと思ひます。

パリス 御兩所とも名譽あるお家柄ですのに、

いつまでも仲違ひしてゐらるゝのは残念なことです。

それは兎に角、私、懇望の一件はいかゞでございませう？

キャピュレット 前申した事を、又繰返す外はありません。

娘はからきし世間見ずで

まだ十四度の年の變り目も見ないやうなですから。

もう二夏花や葉の枯れるのを見せなければ、

成熟した花嫁にはなれまいと考へてゐます。

パリス お娘よりもつと若くて仕合せな母親になつて

ゐる人もあります。

キャピュレット 早く出来たものは、早くくづれてしまふ。

大地はわしの望みとする者を皆呑込んでしまひ、残るは

あの娘たゞ一人、

彼女こそ、この世でのわしの望の綱です。

しかし、パリスさん、彼女に話して、彼女の心をお動か

しなさい。

わしの意志など、彼女の承知に較べれば、全くその一部

分なんですから。

娘さへ承知なら、彼女の選びの中に

わしの同意も賛成も入れてしまひます。……

今宵家の慣例の宴會を開き、

懇意にしてゐる澤山の客人を

招いて置きました。その中にはあなたも

大事な上客、御列席下されば、一段と光榮に存じます。

で、今宵わしの家に、

暗い空をも輝かせる地上の星の集まるのを御覽なさい。

華やかに装うた四月が、跋を引いて走る冬の後について

現はれる時、

元氣な若者の感ずるやうな楽しさ喜ばしさを

水々しい蕾の花の少女の間にまじつて

今夜わしの家であなとも

享樂することができませうぞ。みんな見、みんな聞き、

一番すぐれた女を、お採りになるがいゝのです。

よく多勢を御覽なされば、宅のなどもその一人で、

數のうちに入つても、物の數ではありますまい。

さ、一緒に参りませう。……〔従僕に向ひ〕おい、こちら、

こちら、

美しいヴェローナの街中をかけ廻り、こゝに書いてある

方々を尋ね出し「と書付を渡し」そして言ひなさい

今夜わしの家へお越し下さいますようにと。

キャピュレットとパリス退場。

従僕 こゝに書いてある人達を尋ね出せい！ 成程書いてある、靴工は物尺を以て、仕立屋は足型を以て、漁夫は筆を以て、畫工は網を以て稼げと書いてはある。な

んせ俺には、こゝに書いてある人を探し出せと言つた

ところが、どんな名が書いてあるか分らないと來てる。

まづ學者の所へ行かずばなるまい。これはよい處へ。

ペンヴェーリオとローミオ登場。

ペンヴェーリオ

愚かだ、君、一つの火は他の火の燃ゆるのを消し

一つの痛みは他の惱みで和げられる。

眩暈を治すには、逆

に廻るがよい、望みなき悲さみも他の惱みで癒えるものだ。

君の眼に新しい毒をさし、

そして古い毒を死なせたがいよ。

ローミオとジュリエット

ローミオ 車前草があればはすばらしく利くよ。

ペンヴェーリオ あれにとは何にさ。

ローミオ 醜のすり傷にさ。

ペンヴェーリオ え、ローミオ、氣でも狂つたのか？

ローミオ 氣は狂はぬが、氣狂以上に縛られてゐる。

牢屋におし込められ、食は與へられず、

笞打たれ、苛責され、——「ふと氣がつくと先の従僕が

しきりに丁寧にお辭儀してゐるので」今晚は。

従僕 いや今晚は——えい、且那樣はお讀めになりますか？

か？

ローミオ うん、この悲しい運命の中に自分の將來を讀むことが出来るよ。

従僕 それぐれえな事たら本がなくても分りませう。ですが、且那樣は御覽になるものが何でもお讀めになる

かとお聞きするのですよ。

ローミオ さうさ、其文字と言葉を知つてさへ居ればね。

従僕 正直なお言葉だ。御機嫌よう！〔と冗談ばかり言

つてる人に構つてゐられないと行かうとする〕

ローミオ 待て、俺は讀めるぞ。〔讀む〕

「マルチーノ様、同じく夫人及び令嬢方。アンセルム伯並

四七七

にその美しき御令妹達。ヴィトルヴィオ殿御後室。

ブラシエンシオ殿及びその愛らしき姪御達、マキューシ

オ殿及びその御舎弟ブランタイン殿。

わが叔父キャピュレット殿及び夫人令嬢方。美しき姪のロ

ーザライン（ローミオ感情を含めて讀む、ペンヴォー

リオ、ローミオの肩を叩くリヴィヤ。

アレンシオー殿及びその甥御チポルト殿、リューシオ

並に快活なへレナ。」

美人の集會だ、どこへ寄るのかね、この人達は？

從僕 あちら……

ローミオ どこへ？

從僕 晚餐に、私共の家へ。

ローミオ 誰の家だと？

從僕 わしの旦那の家です。

ローミオ 全くだ、それを眞先きに訊くのだった。

從僕 訊かしやらなくても、お話しませう。わしの旦那

那は大金持のキャピュレット様です。若し旦那がモンタ

ギュー家のでなければ、どうぞ、ござらしつて、杯をお

取り下さいます。では御機嫌よう！

退場。

ペンヴォーリオ キャピュレット家の慣例の宴會に君のし

んぞ慕つてゐる美しいローザラインさんが

ヴェローナ名うての美人連と會食する。

行き給へ、そこへ、そして公平な眼で、

彼女の顔と、僕の指定する二三の人とを比較して見給へ

君の白鳥を鴉と思ふようにしてあげるから。

ローミオ わが眼の厚い信仰が

かゝる虚偽を奉ずるとしたら、その時は涙が火とも變れ。

又この、しばく溺れながら曾て死にも得ぬ

透明な異端の兩眼は嘘を言うた罪に問はれて焚かれよか

し！ （妖婆は病れても死なず故に之を焚
刑に處すは古い頃の迷信である）

我が戀ふる君よりも美しい人といふのか！ 十方遍照の

太陽もこの世初まつて以來、彼女ほどの女を見ないの

だから。

ペンヴォーリオ 愚か〜！ 君が彼女を美しいと見た

のは、

他に較ぶべきものがないからのことだ、

左右の兩眼に、彼女ばかりを置いての計量だ。

けれどその水晶の秤皿の一方に、君の戀人を置き、

他的一方にこの宴席に光り輝く女を置いて比べてみた

ら、今最も美しいと見える彼女も、美しさを減ずることになるだらう。

ローミオ 行かう、そんな光景を見る爲めではないが、かの君のすぐれた美しさを楽しみたいばかりで。

兩人退場。

第三場 —— キャビュレット邸の一室。

キャビュレット夫人並に乳母登場。

キャビュレット夫人 乳母や、娘はどこにゐるえ？ こゝへ呼んでおくれ。

乳母 あれ、十二歳までの私の生娘時代を賭けて、

お出でなさる言うておきましたのに。——もし、

小羊さんえ！ もしく、小鳥さんえ！

何事もなければよいが——あのお娘としたことが、どこにゐるやら？——どうしたのです、ジュリエットさん！

ジュリエット登場。

ジュリエット まあ！ 誰が呼んでるの？

乳母 お母様ですよ。

ジュリエット お母様、参りました。

何御用なの？

キャビュレット夫人 御用はね。あの乳母や、ちよいとあ

ちらに行つておくれ、

内談があるのだから。「乳母ぶつとふくれて行きかける。

不機嫌を見て笑ひながら」

——あゝ乳母、戻つておくれ。

うっかりしてゐた、お前にも相談を聞いて貰はなくちやならなかつたのに。

お前も知つての通り、嬢ももういゝ年頃で。

乳母 知つてゐますのなんの。嬢様のお齡なら、時間ま

で言へます。

キャビュレット夫人 まだ十四にもならなかつたね。

乳母 この齒十四本賭けます——

と言つて、難澁な事には、十本は脱けて、たつた四本し

かありませんが——

十四にはならつしやりませんよ。今から幾日たつと、

初穂祭(八月)になりますのですか？

キャビュレット夫人 二週間と少し……

乳母 少しだらうがどうだらうが、一年三百六十五日の

うちで、

初穂祭の前夜が来れば、嬢様は十四におなりです。娘のシウザンとお嬢様とは——神様、キリスト教徒の魂

に、安息を與へて下さいまし——

シウザンとお嬢様とは同齡でしたが。ところで、シウザンは天國へ行きました。

私には出来過ぎた娘でした。——兎に角、先にも申しました通り、

初穂祭の前夜が来れば十四にならずしやいます。

ならつしやいますとも、神かけて、私よく覚えてゐます。

あの地震以來、今ではもう十一年になります。

お嬢様の乳離れなすつたのは——私忘れますものか——一年三百六十五日のうちで、丁度その日でしたよ。

私、乳首に苦艾を塗りつけて、

鳩小屋の壁の下で、日向ぼっこして居りました。

旦那様と奥様はあの頃マンチユアにいらつしやつた。——いゝえ、私、頭は確りしてゐます——とにかく先にも申し

ました通り、

私の乳首の苦艾を嘗めると、

苦アいもんだから、可愛いお馬鹿さん、

それはくむづがられたこと、そして乳をすぼつと放さ

れました!

途端にぐわらぐわらと鳩小屋が揺れましてね。いやもう、

逃げるなんて言つたつて駄目でした。

あれから十一年です。

あの頃嬢様は、一人立をさつしやりました。どころぢや

あない、

十字架かけて、

ちよこく走りしたり、よろつき廻つたり、

さうくその前の日だつた、額をすりむきなざつて。

あの時、私の亭主が——彼人の魂をお救ひ下さいまし!

氣さくな男でございましたが——お兒を抱き上げました

「はいく」と亭主がかう言ふんです、「お前様、うつ向

きに倒れなざるか?

もつと智慧が附かつしやると、仰向けに倒れさつしやる。

さうでせう、ジュールさん」とするとね、このお兒さん、ふ

と啼きやめて、「あい」と言はしやつた。

あゝ今では、冗談がほんとなりです!

うけあひます、私、千年生きのびたつて、

あれは決して忘れられません。「さうでせう、ジュールさん?」て、彼が申しますと、

可愛いお馬鹿さん、啼きやめて「あい」と言はしやつた。
はゝはゝ……

キャピュレット夫人　もう澤山、どうぞ静かにしておくれ。
乳母　はい〜奥様、けれど私、笑はずにはゐられませ
ん、

ふと啼き止めて、「あい」と言はしやつたかと思ふと。

それに、ほんとに、額に瘤か出来て、

若い牡鶏オウチキの卵たまごほどなのが。

あぶない打傷うちきずでした。ひどく啼かしやりました。

「はい〜」て亭主ていしゅが言ふんですよ、「お前様、うつむき
に倒れなかつたが、

お年頃になれば、仰向けに倒れさつしやろ、

さうでせう、ジュールさん？」すると、「あい」と言つて

啼き止めさしやつた。

ジュリエット　お前、もうお黙りよ、お願ひだから。

乳母　もうしまひです。神様のお恵、わけてあなた様の

上にあらせられますよう！

あなたは私の乳をお上げ申したうちの、一番可愛いお兒
さんでした。

お嫁入りなさるのを見て死ねれば、

私も本望でございます。

キャピュレット夫人　さ、その「嫁入」といふことを

話さうとしたのだよ。ねい、ジュリエットや、

お前はお嫁入がしたいか、どう？

ジュリエット　それこそ私の夢にも思はない名譽なことで
す。

乳母　名譽！ 私だけがあなたの乳母でなかつたなら、

そのお智慧は乳からお吸ひ取りなされたと言はうに。

キャピュレット夫人　なら、そろ〜結婚の事をお考へな

さい。お前よりも若くて、

このヴェローナで立派な評判の方々で、

とうに母親になつて居られる人もある。覚え違ひでなく

ば、

私がお前の母になつたのも、大方その年頃、

それにお前はまだ處女むすめだ。で、手短かに言へば、

あの凜々りんりんしいパリス様が、お前を妻つまに欲しいと言はれて

な。

乳母　立派な方、お嬢様！ それこそ世界中で——〔適
當なほめ言葉を思ひ出せず、つまる〕

ほんとに、蠟細工のやうな方。

キャピュレット夫人 ヴェローナの夏も、まだこんな花は咲かせなかつた。

乳母 全く、花ですよ、ほんとに、ほんとの花ですよ。

キャピュレット夫人 どうお考へなの？ その方を好きになれさう？

今夜の宴會でお目にかゝれますよ。

若いパリス様の顔といふ書物を繰返し讀んで、そこに美しいペンで書かれてある喜悅を見出して御覽なさい。

どこもかも釣合ひのとれた顔の形をしらべたら、何一つ缺けたところのないのをよく見るのですよ。

若しこの美しい書物にも、不審な點があつたら、傍註ほどにはたらく眼眸を御覽なさい、

この高價な戀の書物には、まだ綴ぢ目がないから、これを飾り立てるには、たゞ表紙がないだけでよ。

その表紙を作る魚はまだ海にひて、誰とも決つてゐない、美しい外部でいて

美しい内部をつゝむのは、大きな誇りだよ。

誰が眼にも榮光を分つのは、黄金の留金のなかに、黄金の物語を鎖すことなの。

お前は、あの方のものをみんな配分してこそ貰へ、お前の身に、何の減らすところはないのだよ。

乳母 減らす？ いえね、太りますよ。女は男によつて大きくなります。

キャピュレット夫人 手短かにお言ひ、パリス様を好きになれようがの？

ジュリエット なるるようにして見ませう。見て、好くことが出来るものなら。

だけど、私の眼をさう深くは射通しませんよ、あなたのお許可に力を得て、放してよいだけしか。

従僕 一人登場。

従僕 奥様、お客様がおいでです、晚餐の用意は出来ました、あなた様をお呼びで、お嬢様もお尋ねです。乳

母どのは臺所でわめき、何もかもてんやわんやです。手前もすぐ行つて御接待せにやなりません、どうぞ、

すぐにいらしつて下さい。
キャピュレット夫人 すぐ行くよ。「従僕退場」——ジュリエット、伯爵がお待ちだよ。

乳母 さあさ、仕合せな日に添へて、仕合せな夜をお求めなさいましよ。

皆々退場。

第四場 — 街頭。

ローミオ、マキユーシオ、ベンヴォーリオの三人、五六人の假面舞踏者、炬火持、その他と共に登場。

ローミオ さあ、一應斷り文句を言つて入らうか？

それとも、そんなこと抜きにして入らうか？

ベンヴォーリオ 當節そんな冗いことは流行らない。

もう勝さらうぜ、キューピットを頸巻で目隠しさせ、

韃鞣流の彩色した弓を持たせ、

案山子のやうに女共を追ひ廻すなんざあ。

それから、入場の挨拶に、前以て序曲を語記し、

後見につけて貰つて、危なつかしく述べるでもあるまいよ。

何とでも先方の好き勝手に我々を想はせて置いて

此方は此方で、床踏みならして踊りぬき、左様ならとく

るだけさ。

ローミオ 僕には炬火をくれ給へ。このしやなり、くと

調子取つて歩くやつは、性に合はん。

心がたゞもう暗いから、僕は明るいものを持たう。

マキユーシオ いや、ローミオ君、君には踊つて貰はん

くちやあならん。

ローミオ 僕は御免だ、全く。君達は軽い底の

踊り靴を持つてゐる、が僕のは眞底鉛のやうで

地面に釘づけになつて動けないんだからね。

マキユーシオ 君は戀男、キューピットの翼を借りて、

空高々と飛んで行くさ。

ローミオ 飛んでもないこと、彼の矢先にきつく射られ

て、飛ぶにも飛べず、かう縛られては

物憂い惱みを突破して、高飛びするのは覺束ない。

戀の重荷の下に、僕は段々とはまり込むばかりだ。

マキユーシオ なんだ、その中にはまり込むとは。した

ら、戀を壓しつけなくてはならない。

あんなやさしいものには、ちとひどすぎる壓迫だぜ。

ローミオ 戀がやさしいと？ 何の、荒つぽ過ぎ、

残酷すぎ、騒がしすぎ、その上棘のやうに刺しをるんだ。

マキユーシオ 戀が君に對して荒つぽければ、君も戀に

對して荒つぽくやり、刺せばこちらにも刺してやり、そして戀を屈服させるさ。

おい、僕の顔をかくす假面を貸してくれ。

と假面を着けながら、

假面のやうな面に假面は要らぬ！ 構やしない、

物見高い奴等が、どんな缺點を探さうと。

このおでこが俺に代つて赧くなつてくれるばかりだ。

ベンゾオーリオ さ、ノックして入らう。入るとすぐ

一人残らず踊るのだぞ。

ローミオ 僕には炬火。氣輕な浮れ男には

靴の踵でもつて勝手に葎を擦らせるがよい。(葎物の作られ
敷く)

僕は祖父の訓へ通りに、

蠟燭持つて見物ときめた。

いたづらもこゝらが頂上、僕はもうじたばたしない。

マキユーシオ ちえツ、じたばたするなどは捕吏の合言

葉だ、

君が「駄馬」で、戀の泥沼で、

じたばたしてれば、引張りあげてもくれように、

君はそこへ首つたけだ。……さあ、こりや晝の炬火だぜ、

ほう！

ローミオ いゝや、そんな事はない。

マキユーシオ はて、君、ぐづくして、
炬火を無駄にしてゐるのは、丁度日中の炬火みたいだと

いふことさ。

すべて物事は善意に解釋しなくてはいけない、五つの智

慧を用ゐるよりか(常識、想像力、趣味力、判断、
及び記憶力が五つの智慧)。

善意にさへ解釋すれば、判断力だけで五倍も役立つのさ。

ローミオ ところで、我々、善意を以てこの假裝舞踏會

へ行くのだが、

しかし行くのはまるで智慧のない話さ。

マキユーシオ なぜ？ それを承らう。

ローミオ 僕は昨晚夢を見た。

マキユーシオ ところで僕も見たよ。

ローミオ 成程、君のはどんな夢だね？

マキユーシオ 夢見る奴ア大抵よこしまだつて事をさ。

ローミオ 眼ればベッドに横しきにもならうさ、そして正

しい事を夢に見る。

マキユーシオ おゝ、それでこそ分つた、昨夜君はマップ

姫と臥てたな。

あの姫は妖精共の産婆役(眠つてゐる者の頭か)、やつて来る姿

と言つたら、

町役人の人差指にはまつてゐる
瑪瑙めうぼうの彫刻てうかくほどにも大きくない、
アトムアトムのやうな芥子粒かいしりゅうの一行に車を曳かせて
眠つてゐる者の鼻柱はなばしらを横切るのでだ。
車の輻やは手長蜘蛛てながくまの脚あしで出来、
幌ほろは蟋蟀せつせつの翼、
轆轤りゅうりゅうは、いつち小さい蜘蛛くまの糸、
頸輪けいりんは、透きとほつた月の光、
手にする鞭むちは蟋蟀せつせつの骨、その草紐くさじゆは豆の薄膜、
御者ごしやは小ぼけな白上衣しろえき着た蚬かき、
娘むすめの怠惰たいだな指ゆびからほじくる
丸い小蟲こむしの半分はんぶんもない。(指ゆびが何もしないでゐると)
お馬車うまぐるまは空な様ようの殻から、
造つたのは細工師さいこうしの栗鼠りすか、それとも地蟲ぢむし爺や、
大昔おほむかしから、妖精えいせいの馬車製造人ばぐるませいぞうじんはこいつらだ。
かうした行列ぎやうぎつで、姫ひめは夜な／＼
戀する男おとこの頭かぶの中なかを駈かけ廻まわると、やがて戀の夢を見るの
だ。
廷臣ていしんの膝ひざに乗ると、すぐさまへつらひの夢となり
法律家はふりしかの指ゆびを越こえると、すぐさま謝禮しゃらいの夢となり、

美人の唇の上を走ると、すぐさま口づけの夢となる。
ところでその唇をマップさん立腹りつぷくして、水腫みづはれのにさせるこ
ともある、
氣息いきが香料菓子かうりこしで汚がれてゐるからださうな。
時には姫ひめさん、廷臣ていしんの鼻の上を疾驅しやくこする、
するとすぐさま叙任じよにんを嗅かぎ出す夢を見る。
又時には、税に納める豚ぶたの尻尾しつぽを持つて來て
眠つてゐる坊ぼくさんの鼻を擦る、
と、夢に寺領てらりやうがも一つ増える。
武人ぶじんの頸筋けいすぢを駈かけることもあるが、
その時、夢に敵の喉を切り、
又は突撃とつげき、伏兵ふくへい、スペインの名刀なまや、
底ぬけの深い祝杯しゆはいを見る、と忽たちち
耳みみに轟とどろく陣太鼓ぢんたいこ、跳はび起きて目を覺さし、
驚おどろきながらも一言二言いちごんにごん祈禱しんたうを述べ、
又ぞろ眠込ねこんでしまふのさ。之が又マップのしわざだが、
夜中に馬うまの鬃げをもつれさせたり、
又だらしな女おんなの縮れた髪かみの毛けをこんがらかせたり、
こいつ一度解いかうものなら、大きな災難さいなんの前兆ぜんしやうになる。
これもこのマップのしわざだが、娘が仰向けに寝てゐると

うんと壓へて、我慢する稽古をさせ、立派な態度の女にしてくれる。

それから――

ローミオ よしてくれ、マキューシオ、もうよせ！
君は無意味なことを喋つてゐる。

マキューシオ でもあらう、夢の話だもの。

夢といふ奴は、怠惰な脳髓の子供で、

つまらぬ妄想から生れるもの、

實質は空氣の如く稀薄で、

不實な事は風にも劣らぬ、風といへば

今しがた北の凍ついた胸にじやれてるかと思へば、

腹が立つと、ふいと飛び去り、

露の滴る南に顔を向けてゐる。

ベンゾオーリオ 君のお話のこの風のおかげで、

もう晚餐は終つて、行つても遅すぎようぞ。

ローミオ 寧ろ早過ぎるのを恐れる。この胸騒ぎ、

何か大きな事變の、まだ星にひつ懸つてゐて、落ちては

來ぬが、

今宵の宴會と共に、猛然と恐ろしい進行を初め、

この胸に鎖された忌はしい生命の期間を、

不慮の死によつて

斷たうとするのかも知れない。……

だが、わが航路の舵を握り給ふ神は

この船の行く手を導いて下さるであらう！（と急に氣を

かへ）さあ、元氣な諸君。

ベンゾオーリオ 打て、太鼓だ。

一同退場。

第五場 —— キャビュレット邸の一室。

樂手等待つてゐる。給仕人等、ナブキンを持つて

登場。

給仕人甲 ポトパンめ、どこにゐやがる？ 片付けの手

傳ひもしをらん。あれで皿下げだ！ 皿拭きだ！

給仕人乙 勤めを知つてる手合が、たつた一人か二人で、

それでその連中の手が汚れてると來りやあ、けたいなこ

つちや。

給仕人甲 疊椅子を片づけて、食器棚をとけるんだ、そ

して皿に氣をつける。——お前さん、頼む、デザート

一片残しといってくれ、それから、親切氣があるなら、門

番にシユウザン・グラインドストーンとネルを入らせてくれ——アントニイ！ それからポトパンやい！

給仕人乙 あいよ、こゝだ。

給仕人甲 お前、大廣間で探したり、呼んだり、めついたり、尋ねたりしてゐるぜ。

給仕人丙 こつちにも居たり、あつちにも居たり出来ないよ。みんな、元氣を出しな。さ、働くんだ、ちよつとの間だから長命すれば、物持ちになるとさ。

皆々背後に引き退る。

キャビユレット、その夫人、ジュリエット、チボルト、その他家族の者大勢登場、來客や、假面舞踏者等に挨拶する。

キャビユレット ようこそ、方々！ 足指に

肉刺の出来てない御婦人たちが、舞踏のお相手なさりませう。——

おや、これは御婦人方！ どなたです、踊るのは嫌だと仰しやるのは？ 尻ごみなさる方は、きつと、肉刺が出来てゐるのでせう。どうです、當つたでせうがな？——〔ローミオ等に向ひ〕
ようこそ、皆さん！ 私共も昔は

假面をつけて、美しい御婦人の耳許に、お氣に召しさうな内密話を

したものだが、もう過ぎた、もう過ぎた、もう過ぎた。

ようこそお出でなされた、皆さん！——さあ、樂手共、はじめなさい。

場をあけて、場をあけて！ ずつと廣くした！ そして

嬢さん達、踊つたりく。

音樂が奏せられ、皆々踊る。

もつと灯火だ、おい給仕共。それからテーブルを疊みな

さい。

爐の火を消せ、室が熱くなり過ぎる。

あゝ、こりや、思ひがけぬよい慰樂であつたぞ——

まあお坐りなさい、まあお坐りなさい、同族のキャビユレット。

お互ひに踊りの日は過ぎた。

あれから何年たつたかな、一しよに最後に

假面を着けてから？

第二キャビユレット 誓言、三十年だ。

キャビユレット 何だと、君！ さうはならん、さうはな

らん、

ルセンシオの結婚式（よめだ）に來だ、

ペンテコーラスト祭がどんなに早く來るにしても、
やつと二十と五年だ。あの時お互に踊つたなあ。

第二キャビュレット もつともだ、もつともだ。彼の伴は
もつと年をとつてる。

もう三十だ。

キャビュレット 何を言はつしやるか？

あの子は二年前まで後見附（ごみづき）だつたぜ。

ローミオ 「傍の給仕に向ひ」あの、向うの騎士（ナイト）の手を飾

つてゐられる婦人は

どなたかね？

給仕 存じません。

ローミオ お、かの君の美しさは、炬火（たいまつ）にもつと輝けと

教へてゐる！

かの君が夜の頬に色染（ほ）ゆる風情は、

いはゞエシオピヤの黒人が耳に懸けた貴い寶玉のやう。

用ゐるにはあまりに艶麗な、地上には勿體な過ぎる美し

さだ！

かの君が、他の姫たちの中にまじつてゐる様は、

雪を欺く鳩の、鳥の群に降りたやう。

この踊がすんだら、あの方の居所（みどころ）に氣をつけ、

かの君の手に觸れて、この隠しい手を祝福しよう。

俺の心は今まで戀をしてゐたのか？ 眼よ、それは虚妄（うそ）

だと言へ！

今夜といふ今夜まで、眞の美人は見なかつたのだもの。

チポルト あの聲で察するとモンタギュー家（け）のものに相

違ない——

「從僕（じやく）に向ひ」俺の細身（ほこみ）刀を持つて來い。——不埒千萬！

奴隷め、

道化の假面（めん）に隠れて、やつて來て、

我々の宴會を輕蔑し、愚弄するつもりか？

よし、わが族の一員たる名譽にかけ、

あいつを叩き殺すのは、罪とは思はぬぞ。

キャビュレット これ、どうしたのだ、甥よ！ なせそん

なに猛（はげ）つてゐるのだ？

チポルト 叔父上、あいつはモンタギューですよ、我々の

仇の。

悪黨め、悪意を抱いて來て、

今夜の我々の宴會を愚弄しようと言ふんだ。

キャビュレット 若いローミオかな？

チポルト 彼奴やつです、悪黨のローミオです。

キャビュレット 甥よ、靜かに。ほつとくがい。

彼は品位ある紳士らしく振舞つてゐるぢやないか。

そして實際の話が、ヴェローナの町も彼を誇りとし、有徳な、品行のいゝ青年だとしてゐる。

この町中の富に代へても、このわしの家で

彼に危害を加へるやうなことをしたくない。

だから我慢して、素知らぬ顔をしてゐるがい。

わしの意志だ、それをお前が尊重するなら、

愉快さうな顔をして、そんなしかめ面かめづらはよしておくれ、

宴席には不似合だから。

チポルト いや似合ひます、あんな悪黨がお客なら、

私は勘辨出来ない。

キャビュレット 勘辨してやらなくちやならぬ。

どうしたのだ、これ！ いかんと言へば、馬鹿な。

こゝの主人はわしか、それともお前か？ 馬鹿な。

お前が勘辨しない！ 天も照覽あれ！

お前こそ、わしの客人の間に騒動を起すものだ！

平地に波瀾を起すものだ！ お前がその張本人だぞ！

チポルト けれど、叔父上、恥辱です。

キャビュレット 馬鹿な、馬鹿な。

お前はわからない兒だ。しかとさうかい？

そんな事をしちや身の爲めにならぬぞ。――

人もあらうに、お前がわしに逆らふとは！ いゝ加減に

しろ。――

〔他の客に〕うまいぞ、皆さん！――お前は全く向う見

ずだ、馬鹿だ、

さゝ、靜かにしないと――もつと灯火あかりを、灯火を！――

恥かしいぢやないか！

靜かにして居れといふに。こら！――〔他の客に〕さ、愉

快に、皆さん！

チポルト 無理強ひの我慢が、耐へられない向つ腹はらと一

緒になり、

別々の挨拶を受けて、この肉がぶり／＼する。

俺は引き下らう。しかし、この無斷侵入を、

今では甘さうに見えても、やがて苦かい／＼膽汁たんじゆに代へて

くれるぞ。

退場。

ローミオ 〔ジュリエットに向ひ〕

若しわがこの賤しき手もて

この尊き御堂を贖したのが罪であるなら——
唇といふ二人の顔赤らめた巡禮がやさしき接吻もて、は
したなき手の觸つた痕を滑らかに淨らしようと
待つて居ります。

ジュリエット　よき巡禮の君、そはあまりに御手を輕しめ
給ふもの、

それは、禮儀あつき信仰の心を示すものに。

聖者の手へさへ巡禮は觸るもの、
掌と掌とは棕櫚を印の巡禮僧の接吻とやら。

ローミオ　聖者にも唇あり、聖なる巡禮僧も亦これを持
つて居ります。

ジュリエット　さうです、けれどもそれは祈りに用ゐる習
ひなのです。

ローミオ　おゝ、さらば、わが聖者、手のする事を、唇
にもせさせ給へ。

唇がかうも祈ります、お聴き入れ下さい。さもないと信
仰が變つて絶望となるでせう。

ジュリエット　聖者の心は動きませぬ、祈りの心は酌むに
しても。

ローミオ　それならお動きなさるな、その祈りの效驗を

受けます間は。

かくしてわが罪は、あなたの唇の功徳で、淨められるの
です。

彼女に接吻しながら。

ジュリエット　ではその罪が私の唇に移つたのですか。

ローミオ　罪が移つたとか、おゝ何といふやさしいお答
めでせう！

その罪をお返し下さい。

ジュリエット　なにかと言ひこしらへては接吻なさるので
すね。

乳母　もし、お母様が、ちよいとお話を。「とジュリエット

あちらへ行く」

ローミオ　あの方のお母様とはどなた？

乳母　あれ、お若い方、

この家の奥様だがね、

立派な方で、お賢くもあり、徳もお高い、

私はその方のお嬢様にお乳をあげたので、今あなたとお
話ししてゐらつしやつたのが、そのお方です。

いゝですか、彼女を手に入れさつしやるお人は
おかねもたんと入りますぜ。「と言ひ捨てゝ行く」

ローミオ キャビュレット家の娘か？

おゝ、高價な勘定！ この生命は、敵からの借財になつた。

ペンゾォーリオ さ、歸らう、遊びは今が頂上だ。

ローミオ さうだ、私もさう思ふ。それだけ私の不安も多し。

キャビュレット まあ、皆さん、歸り支度などなさらなく
ていゝのです。

お粗末な夕食の用意が出来てゐます。——

さうですか？ では、皆さんにお禮申します。

有難うございます、御機嫌よう。——

こゝへもつと燈火を！——さあさ、俺たちも寝るとしよ
う。

あゝ、ほんとに夜が更けた。

俺も休むとしよう。

ジュリエットと乳母とを残して皆々退場。

ジュリエット こゝへ、乳母。あの方はどなた？

乳母 タイピローリオさまの後繼の息子さんです。

ジュリエット 今戸口をお出になる方は？

乳母 あれは、ペトルーシオの若様でございます。

ジュリエット そのお次の、踊らなかつた方は？

乳母 存じません。

ジュリエット 聞いて来て頂戴。——若しも御妻帯の方だ

つたら、

大方私の婚禮の床はお墓になるであらう。

乳母 「歸つて来て」ローミオといふ名で、モンタギュー

家のお一人兒、

お家とは仇敵の仲ですよ。

ジュリエット たつた一つの戀が、たつた一つの憎みから

崩え出る。

知らずあまり早う見染めて、知つたのはもう遅かつた。

不吉な戀が生れたものだ、

憎い／＼敵を愛せずに居られないとは。

乳母 え、何でございますつて、何でございますつて？

ジュリエット 一緒に踊つた人から

今しがた教へて貰つた歌の文句だよ。

奥で、「ジュリエット」と呼ぶ。

乳母 只今、只今！——

さ、あちらへ参りませう、お客人方は皆歸られました。

兩人退場。

第二一幕

序詞役登場、

序詞役　今や古き愛慾は死の床に横はり、

新しき情熱ぞ、その後嗣たらんと喘ぐ。

焦れて呻き、死なむとまで思ひしかの美女も、

ジュリエットに比べては、美しからず。

今こそローミオは愛し又愛さるゝ身となり、

互に眉目の蠱惑に心とろけたれど、

戀の惱みを訴へむは、敵と思へる人、

女も怖ろしき釣針より、愛の甘き餌を盗むのみ。

敵と思はるゝ身なれば、たやすく近づきて

なべての戀する者のすなる誓ひを告げむ事もかなはず。

女の思ひも更に劣らねど、

見染めて間なき戀人に、相見むすべもあらず。

されど戀の炎は二人の力を、時は手段を興ふれば、

限りなき危さは、限りなき樂しさを報いて、彼等は相逢

へり。

序詞役退場。

第一場

—— キャピュレット邸庭園の
塀に添へる小徑。

ローミオ登場。

ローミオ　自分の魂がこゝにあるのに、このまゝ進んで

歸ることが出来ようか。

士から出来たこの鈍い體め、立ち戻つて、お前の中心で

あるかの君を尋ねろ。

と彼は塀を昇つて、その中へ跳び込む。

ベンヴェオーリオ、マキューシオと共に登場。

ベンヴェオーリオ　〔呼ぶ〕ローミオ！ 身内のローミオ！

マキューシオ　彼奴は慳巧だよ。

間違つたら生命でも上げる、てつきり歸つて寝てゐる時

分だ。

ベンヴェオーリオ　こつちへ走つて来て、この庭の塀を跳

び越えたよ。

マキューシオ、呼んでみたまへ。

マキューシオ　呼ぶどころか、法力で、祈り出して見よ

う。

ローミオ！ 浮氣者！ 狂人！ 煩惱よ！ 戀人よ！
溜息の形を借りて姿を現はせ。

一くさり戀歌でも歌ひをれ、すれば安心するぞ。

たゞ「あゝ」と唸れ、「惚れた」、「はれた」と言つちまへ。

俺の昔なじみのヴィナスに、色よい言葉をかけてくれ、

そいつの伴の盲目の相續人、若い弓取りのキューピッドに

諷名でもつけてくれ、コフイチュア王が乞食娘に惚れ

た時、圓星をあてたあの小伴さあ！——

聞えないな、動かないな、出て来ないな、

小猿さん可愛いお馬鹿さん（ミいふほどの愛稱）死につた、では益々祈らなく

ちやならぬ。——

あゝら、ローザラインのはれやかな眼にかけ、

あの高い額にかけ、あの眞紅の唇にかけ、

あの綺麗な足、眞直な脛、ぶる／＼とふるへる太股、

且は又そのあたりの所にかけ、

ありし姿のまゝで現はれ給へと祈ります！

ベンヴォーリオ 聞いたら、怒るぞ。

マキューシオ 怒るものか。そりやね、

彼奴の女の秘密な所に、

變てこな魔物を祈り出してそれを突つ立たせ、

女にそれをぐんにやりさせろとでも言ふんなら、怒りも
しよう。

それならいたづらだからね。しかし僕の祈りは

公明正大、奴の女の名を借りて

彼に現はれ出でよといふだけだ。

ベンヴォーリオ さ、行かう、彼はあの木の間に隠れて

露つばい夜と、睦言を交さうといふんだよ。

戀は盲目といふから、暗闇が持つてこいだ。

マキューシオ 戀が盲目なら、的には當るまい。

今頃は木抵枇杷の木蔭にうづくまつて、

處女共が獨り笑ひをする時に枇杷と呼ぶ

あんな種類の果物で、俺の戀人もあればいゝにと願つて

るだらうよ。——

おゝ、ローミオ、あの女がなあ、おゝ、あの女がなあ、

おつ開いた云々で、君があれのあれだつたらなあ。

ローミオ、お休み、——せんべい蒲團へでももぐらうよ。

この野天は寒くつて寝られない。

さあ、行かうか？

ベンヴォーリオ ちやあ、行かう。めつかるまいとして

居る男を、探したつて仕様がなからな。

兩人退場。

第二場 —— キャピュレット家の庭園。

ローミオ登場。

ローミオ 自分で傷を負つたことのない奴は、他人の傷を嘲弄するものだ。

——ジュリエット、階上の窓のところに現はる。

が、待てよ！ あの窓から射す光は何だらう？

あれは東、そしてジュリエットは太陽だ！ ——

美しい太陽よ、昇つてあの嫉妬やきの月を殺してしまつてくれ。

月はもう悲しみの爲めに病んで、色青ざめてゐるが、其理由は月に仕へるそなたの方が、ずつと美しいからだ。

月の侍女なんぞにおなりなさるな、嫉妬やきだもの。

月の一生不犯の制服は、白とみどり、

フールの外誰も着やしない。脱いでおしまひよ。

あれはわが姫。おゝ！ あれこそわが戀人！

おゝ、この心を知つてくれたらなあ！ ——

口を開く、が何も言ひはしない。そんな事はどうでもよ

い。

あの目が物を言つてゐる。答へよう。

いや、あんまり向う見ずだ。私に話してゐるのではないのだから。

天上界でも一番美しい二つの星が、

何か用があるので、歸つて来るまで

その間、代りに光つてゐてくれと、あの人の目に頼んだのだ。

どうだらう、あの人の眼があそこに〔天を指して〕あつて、星があの人顔にあつたら！

丁度日光の前のラムブ同様、あの人の頬の輝かしさで、

空の星も顔色を失ふことであらう。そして天にあるあの

人の眼は、

空を貫いて、あか／＼と光を曳き、

小鳥は唄を歌うて、これは晝だと思ふだらう。 ——

あれ、手で頬を支へて居る姿！

おゝ、私があの手袋だつたら、

あの頬に觸れることが出来ように！

ジュリエット あゝ！

ローミオ 何か言つてゐる。 ——

おゝ、重ねて物を言つて下さい、光り輝やく天の御使！
全くあなたは天の御使、

あなたがわたしの頭上にあつて、この夜に榮えて赫奕たる様は、

驚きあきれ、目を白うして仰ぎ見る人間にとつて

徐ろに歩む雲を踏み

大空の只中を馳けゆく

翼ある天の御使そのまゝ、

人間は後しざりして、仰ぎ見るばかりだ。

ジュリエット おゝ、ロミオ、ロミオ！ あなたは何

だつてロミオなの？

お父様をすて、家の名なんぞもすて下さい。

それがお厭なら、せめて私の戀人だと誓言して下さい。

さうしたら、もう私は、キャピュレットでは、なくなりま

す。

ロミオ 「傍白」もつと聞いて居ようか。それともこ

こで物を言はうか？

ジュリエット 私の敵といふのは、あなたのお名前だけで

す。

あなたはやつぱりあなたです、モンタギュー家の人でなく

つても。

一體モンタギューが何だらう？ 手でもなければ、足でも

なく、

胸でも、顔でも、その他人間の體の

どんなところでもありはしない。おゝ、何か他の名前に

なつて下さい！——

しかし、名前が何んです？ 私たちが薔薇と云つて居る

ものは、

他の名前を附けたつて、いゝ匂ひは變りません。

だからロミオは、ロミオといふお名で呼ばなくても、

お名はすてゝも、

あの身に持つてゐる懐かしさは残るんですから。

ロミオ、あなたのお名を脱ぎすて

あなたのどんな部分でもないそのお名の代りに、

私といふものを取つて、私の身も心もあなたのものにし

て下さい。

ロミオ お言葉通りに、あなたをいたゞきませう。

私をたつた一言戀人と呼んで下さい。すれば、私は新に

洗禮を受け

今から決してロミオではなくなりませう。

ジュリエット あなたはどなた？ 夜の垂帳に身を隠し、

私の祕密を聞いた方は？

ローミオ 名前は

何と申上げたものか知りません。

ゆかしい聖者よ、私の名前は私自身にも厭はしいのです、

あなたの敵だから。

紙に書いてもあつたなら、その言葉を引き破つてしま

ふのに。

ジュリエット 私の耳は、その舌の操るものを

まだ百とは聞いて居ないのに、そのお聲は分ります。

あなたはローミオ、モンタギューの方ではございません

か？

ローミオ どちらでもありません、若しあなたがお嫌ひ

だと仰しやるなら。

ジュリエット どうしてこゝへ？ 又何の爲めに？

扉が高くて、登れないし、

あなたのお身分を考へれば、命はありません、

若しや家のものが、あなたをこゝで見付けでもしたら。

ローミオ 戀の軽い翼を借り、あの扉を越えました。

石のかこひも、戀をせくことは出来ません。

戀のすることなら、戀するほどの者は、何なりとやつて
のけます。

だからお家の方だとて、私をどうすることも出来ません。

ジュリエット でも、見つかつたが最後、殺されてしまひ

ます。

ローミオ あゝ、彼等の劍の二十本より、あなたのお目

が

ずつとあぶない。にこやかにさへして下されば、

彼等の敵意など

何でもないことです。

ジュリエット 世界に代へても、あなたを見つかけさせたく

ありません。

ローミオ 見つからないように、私は夜といふマントに

包まれて居ります。

そして、若しもあなたが私を愛して下さらないなら、

いつせこゝで見つかつて、彼等の憎みを受けて、この生

命を終る方が、

愛されずに、死を引き伸すよりも、ずつとまします。

ジュリエット 誰に教はつて、こゝが分つたのです？

ローミオ 戀に教はつて。戀が最初、私をつゞつて、

尋ねて見よといひました。

戀は私に智恵をかし、私は戀に、眼をかしました。(キユビ
首目だ)

私は水先案内ではありません、けれど、よしやあなたが遠くの／＼海の水に洗はれてゐる荒れた岸邊にゐらしつたにしても、

かういふ財寶の爲めになら、冒険を惜しまないでせう。

ジュリエット　御覽の通り、私の顔は夜といふ假面を着けて居ります。

でなければ、少女心の恥かしさで、私の頬は赤くなつたことをごぞいませう。

なぜつて、今夜私が喋べつて居るのをお聞きなすつた通りですもの。

出来ることなら、しかつめらしく儀式ばつて、言つたこ

とも言はぬと、

言ひたいは、山々ですが、でも、他人行儀はもうおしまひ！

あなたは私を愛して下さいますか？　知つてゐますよ、「さうだ」と仰しやるのを。

そして、お言葉を信じます。でも、若し御誓言をなさら

うとなら、

却つて偽りの證據かも知れません、戀人の誓言破りは、ジョーヴの神様も笑つて濟ますと聞きますもの。お、ロ

ーミオさん、

私をいとしいと思召すなら、正直にさう仰しやつて下さい。

それとも、私があまりに早く手に入つたとお考へなら、あなたがお言ひ寄りなされても、難かしい顔をし、つむじを曲げ、

否と申しませうよ、さうでなければ、どんなことがあつたつて。……

本當のこと、モンタギュー様、私、あんまり馴れすぎます、

ですから、あなたは私の振舞を、軽々しいとでもお考へになるか知れませんが。

でも、どうぞ信じて下さい。よそ／＼しくすることの上手な人よりも、ずっと眞實があります。

私、正直なところ、もつと／＼よそ／＼しくすべきかも知れませんが、

けれども氣のつかぬ内に、私の本當の戀ひ心を、

聞いておしまひなすつたのですもの。だから許して下さい。
い。

かうしてお心に靡いたのも、浮氣のせゐだなんて言つては厭ですよ、

暗い夜が、すっかり打明けさせてしまつたのですから。

ローミオ 姫よ、あの恵まれた月を證人として、

あの果樹の梢を、悉く銀色に染めなす月にかけて、誓ひます。――

ジュリエット お、月にあの變り易い月にかけて、誓ふのはやめて下さい、

あれは夜毎に、廻る圈を變へます、

あなたの戀も同じやうに變りでもするならばともかく。

ローミオ では、何を誓ひにかけませう？

ジュリエット 誓ふのは一切やめて下さい。

それとも「躊躇して」たつてと言はれるなら、私に取つて信仰の神とも思ふあなた御自身にかけて、誓つて下さい。

さうしたら、あなたのお言葉を信じます。

ローミオ 若しも私の魂 切なる戀が――

ジュリエット もう誓ふのは止めて下さい。私、あなたの

お言葉を聞いてゐるのは嬉しいのですが、今夜のこの約束はちつとも嬉しくありません。あまりにせはしなく、あまりに無分別、あまりに突然ですもの。

すもの。

光つたといふ間に早く消えてなくなる

稲妻にあまりにも似てゐます。……戀しいお方、お休み

なさいまし！

この戀の蕾は、夏のそよ風に育まれて、

又會ふ日には、美しい花と咲くでせう。

さやうならお休み！ 楽しい平安と休息の

私のこの胸の中にある如く、あなたのお心にも、訪れま

するよう！

ローミオ お、あなたはこんな不満足な氣持のまゝで、

私を残して行くのですか。

ジュリエット 今夜どんな満足を得ようと仰しやるのですか？

か？

ローミオ 私の引換へにあなたの戀の眞實の誓ひを。

ジュリエット ぐれいと仰しやらない内に、差上げてしま

ひました。

もう一度差上げることが出来ればようございませぬのに。

ローミオ では、引込ましたいと仰しやるのですか？

何の爲めに？

ジュリエット 惜しみなく、重ねて差上げるために。

でも、私はたゞ、私と同じく限らないものを、あなたに

も持つていたよきと思ひます。

私の獻げますものは海のやうに果しなく、

私の思ひは同じく深く、あなたに差上げれば上げる程

持つてゐるものは一層多くなります、どちらも限りがない

のですから。「乳母内から呼ぶ」

誰か内と呼んでゐます。戀しい方、さやうなら！——

乳母、すぐ！——モンタギュー様、お心變りのないよう

に。

一寸待つて、ちぎ又参りますから。

退場。

ローミオ おゝ、恵まれた、恵まれた夜！

夜のことだから何もかも夢ではないか、

實のあることにしては、どうも美し過ぎる。

ジュリエット再び階上に現はる。

ジュリエット いとしいローミオさん、もうたつた三語、

で、

今度こそ本當にさやうな事です。

あなたのお心持が浮いた戀でなく、

まこと結婚なさらうといふのなら、

明日何とかして使を出しますから、

何時、何處で、式を擧げるといふことを知らせて下さい。

すれば私のすべての運命をあなたの足下に投げ出して、

世界のどんな果てまで、良人のあなたについて参りま

す。

乳母 「内から」お嬢様！

ジュリエット 今直ぐよ。——でも、若しあなたがさうい

ふお心持でないのなら、

お願ひですから——

乳母 「内から」お嬢様！

ジュリエット すぐ行くつては。——

もうこの話はやめて、悲しみの中に私を残して行つて下

さいまし。

明日、使を差上げます。

ローミオ おゝ、この魂の救はれんことを望めば——

ジュリエット 百度千度も御機嫌よう！

退場。

ローミオ 百度千度も機嫌が悪くなる。あなたといふ光がなくなつて。

愛が愛の方へ向つて行くのは、學校の子供が書物から離れて行くやうだが、

離れるのは、浮かぬ顔して學校へ通ふと同じだ。

のろ／＼退場しかける。

ジュリエット、階上に現はる。

ジュリエット もし！ ローミオ！ もし！ お、鷹匠の聲を借りて、

このやさしい雄鷹を呼び返したいに！
束縛の身は噎れ聲、聲は立てられません。

口さへきければ、木魂が寝て居る洞穴をひつ裂いて、

あのうつろな聲を、私よりもつと、噎れる程に、

ローミオ／＼と繰返さうものを。

ローミオ！

ローミオ 私の名前を呼んでゐるのは、わが魂の君だ。

何と銀の鈴のやうに、夜に聞く戀人の聲の響くこと、

澄して聞く耳には、こよなく静かな音楽そのまゝ。

ジュリエット ローミオ！

ローミオ 戀人か？

ジュリエット 明日は何時に、使を差上げませう。

ローミオ 九時に。

ジュリエット きつと差上げます。その時まで、二十年もあるやうな氣がします。

あるやうな氣がします。

あら、忘れてしまいました。何の爲めにお呼び返ししたのか。

の。

ローミオ では思ひ出すまで、こゝに立つて居りませう。

ジュリエット あなたをいつ迄もこゝに立たせて置きたい

ために、なほのこと忘れて居りませう、

あなたと一しよにゐたいのだけは忘れないで。

ローミオ そんなら、あなたをいつ迄も忘れさせる爲め、

私はこゝにいつまでもちつとして居りませう。

こゝの他は、どこの家もみんな忘れてしまつて。

ジュリエット もうおつゝけ朝です。お歸りなさらなくてはなりません。

はなりません。

でも、いたづら娘の手飼の小鳥さん、遠くへやるのはい

や、

一寸小鳥を手から離して、

囚人の鎖のやうに糸をつけて、少し飛ばせはするが、

やがてその糸で引き戻します。

そんなにあなたの自由を愛しもし、嫉みもします。

ローミオ 私はあなたのその小鳥になりたい。

ジュリエット 私とても同じです、

でも、若しさうだつたら、可愛がり過ぎて、殺してしま

ふかも知れません。

お休みなさい。お休みなさい！ 別れといふものは、ほ

んとに楽しい、悲しいものですわね。

朝になるまで、私はお休みなさいを言ひ續けて居りませ

う。

退場。

ローミオ あなたの眼には安眠が、胸には平和が宿りま

すよう！

その安眠とも、平和ともこの私になつて、楽しい休らひ

に入りたいに！……

急いでこれから、教父の庵室へ行き、

助けを借りて、今宵のこの出来事を話すとしてしよう。

退場。

第三場

—— フライヤー僧ローレンス
の庵室。

僧ローレンス、籠を携へて登場。

僧ローレンス みどりの眼をした朝が、どす黒い夜に向

つて微笑みかけ、

光の縞で東の雲を格子にすると、

まだらな闇は泥酔者のやうによろめいて、

巨人神の火の御車輪の過ぎる晝間の路から離れてゆく。

さて、太陽が燃えたつ眼を高く進めて、

晝を歡ばせ、昨夜のしめつた露を乾かさないうちに、

この我々の柳の籃を、毒のある雑草と

貴い液汁を出す花とで、一杯にしなければならぬ。

自然の母である大地は、又自然の墓場もあり、

その埋葬所であるものが、又その母胎ともなる。

自然の母胎から、様々な種類の子供が生れ、

その胸から乳を吸つてゐるが、

皆それ／＼すぐれた所があつて、

効能のないものは一つだつてなく、しかも各々異つてゐる。

あゝ、その草や樹や石の中に存在する

力強い効能、又その眞の特質！

この世にありとあるもので、この世に對し、何か特に爲めにならぬほど悪いものは一つもなく、又いかに立派なものでも、その正しい使用を外れると、濫用の道に迷ひこんで、本然の性質に反抗するものだ。徳も適用をあやまれば不徳と變り、

不徳も次第に依つては時に立派なものとなる。

このか弱い花の滑かな皮の中には毒も棲んで居れば、藥力もあふる。

といふ理由は、これを嗅いでみれば、その香の爲めに體中が愉快になるが、

口に入れると、心臓の動きを止め、同時にすべての官能を殺してしまふ。

かうした敵對する二人の王が陣を張つてござるのは、藥草ばかりでなく、人間でも同様——即ち、美德と片意地とだ。

で、悪い方が優勢だと、

忽ちにして死の害蟲がその親木を喰つてしまふのだ。

ローミオ登場。

ローミオ 教父様、お早うございます。

僧ローレンス 祝福あらせたまへ！……

誰だえ、朝早くから、そんな優しく挨拶をするのは？ わが教子よ、釣合を失つた頭でなうて、

かう早く寢床にお早うが言へるものではない。

老人の眼は誰によらず、苦勞でまんじりともしない、

苦勞の宿るところには、眼りは決して宿らぬものだ。

だが、心に傷を知らない青年が、軽い頭腦を以て、

手足をふん伸ばすと、すぐ黄金の眼りが支配する。

だから、そなたの早起きから察すると、

何かの煩悶が起つたに相違ない。

それとも——今度はあてたぞ——

このローミオは昨夜寝なかつたのだな。

ローミオ さうなのです。眠るよりも、もつと楽しい休

らひを味ひました。

僧ローレンス 神よ、罪を許させ給へ！ ローザライン

と一緒にだつたのか？

ローミオ ローザラインと？ いゝえ、教父さん。

そんな名前も、その名前についての悩みも、忘れてしま

ひました。

僧ローレンス それでこそよい子だ。では、何處に居た

のだね？

ローミオ 二度お尋ねにならないうちに、お話しませう。

私は敵の家の宴會に行きましたところ、

そこで、いきなり、ある人が私の心に傷を與へ、

その人も亦私の爲めに傷を受けました。で、私達二人の

傷は、

あなたの御助力、聖いお藥の力で癒すことが出来るのです。

私はその敵に何の憎しみをも抱いて居りません。

私がお願ひに出たのは、その敵の爲めでもあるのですもの。

僧ローレンス はつきりと言ひなさい。意味の分るようちに。

謎めいた懺悔からは、謎めいた赦免しか得られないよ。

ローミオ では、はつきりと申しませう。私の魂の切なる戀は、

富めるキャピレットの美しいお嬢さんと決まりました。

此方ばかりでなく、あちらの思ひも一つで、

何もかも合體してゐるのですが、たゞあなたが

神聖な式を擧げて、合體させて下さる事が残つてゐるだ

けです。いつ、どこで、どうして

二人が逢つて、思ひの丈けを語りあひ、どんな誓ひを取り交したかは、

道すがらお話しします。だが、今日式を擧げること

御同意下さるだけは、是非お願ひしたいのです。

僧ローレンス 尊き聖フランシス様、これは何といふ變

りやうだ!

あんなにまで戀ひこがれてゐたローザラインを

そんなに早く見捨てゝしまつたのか? それでは若者の

戀は、

本當に心の中にあるのでなうて、目の先きだけだ。

マリヤのお兒エス様も御承知のこと、何といふ澤山の涙

が、

ローザラインの爲めに、そなたの蒼ざめた頬を洗つたこ

とやら!

戀はそれだけでは味がないと見え、それに味を附ける爲

めか、

何といふ多量の鹽辛い水が、無駄に流されたれことであら

う!

太陽はまだそなたの溜息を空から拭ひ取る暇がなく、

お前の聞き古した呻き聲は、いまだにわしの老いた耳に響いて居るぞ。

そら、こゝに、そなたの頬に、

まだ拭き取られない舊い涙のよごれが残つて居る。

お前が正真正銘のお前で、あの嘆きがお前の嘆きだつたら、

お前も、お前の嘆きも、みんなローザラインの爲めだつたのに。

お前が變つたのか？ それなら、この文句を言つて御覽——

男にかばかり力なくば、女の心移るも無理ならじ、と。

ローミオ ローザラインを戀するからと言つて、あなたは幾度かお叱りなされました。

僧ローレンス 戀して悪いと言つたのではない。溺れてはならぬと言つたのだ。

ローミオ そして戀を葬れと仰しやつた。

僧ローレンス 一つを墓に埋めて、一つを掘り出せとは言はなかつた。

ローミオ まあどうぞ、お叱り下さるな。今度戀した女は、

情に酬いるに情、戀に酬いるに戀をといふ風でござります。

前のはさうではありませんでした。

僧ローレンス おゝ、それはあの女がよう知てゐたのだ、お前の戀は誦するだけで、綴れはしないつてことを。

だが、さ、若い浮氣者、さ、一緒にお出で。

考へることが一つあるので、肩を貸して上げる。

この縁組が仕合せとよい具合になつて、

兩家のつもる怨みが、純な愛に變へまいものでもないから。

ローミオ さ、参りませう。大急ぎで済まさなくてはならないのです。

僧ローレンス 賢く、ゆつくりと、走るものは躓く習ひだ。

兩人退場。

第四場 街上。

ベンヴォーリオとマキューシオ登場。

マキューシオ ローミオの奴、一體何處へ行つたのだから

う？

昨夜、家へ歸らなかつたか？

ペンヴォーリオ 親父さんの家へは歸らなかつたんだ。

あそこの下男に聞いたがね。

マキユーシオ あゝ、ではあの青つ白い、情なし女のロ

ーザラインが、

さんぐいぢめつけるので、奴、きつとそのうち氣が狂ふぜ。

ペンヴォーリオ 老キャピュレットのみうちのチポルトが、

ローミオの親父さんの許へ手紙を突きつけたよ。

マキユーシオ 果し状だな、この命賭けて。

ペンヴォーリオ ローミオが、返事することになつてゐる。

マキユーシオ 字の書けるものなら、手紙の返答位ゐす

るだらうよ。

ペンヴォーリオ いや、さうぢやない。賣られた喧嘩な

ら買ふといふことを、手紙の主に返答するといふこと

だよ。

マキユーシオ あゝ、可哀さうなローミオ！ 彼はもう

死んでるよ。生つ白い女つ子の黒い目で突つかれ、戀唄

で耳は刺され、心臓の眞只中は、あの盲目小僧の稽古矢で引き裂かれて居る。あれで、チポルトと太刀打出來る男かい？

ペンヴォーリオ 一體、チポルトはどんな男だい？

マキユーシオ 昔ばなしの、猫の王様以上だぜ(世話にチポルトと名のある猫の王)、いゝかい。おゝ、彼こそは、武道の作法を心得

た勇敢な人間だ。彼の切込みは譜付きの唄でも歌ふやうに時間

も距離も、釣合も、ちやんと守る。半音譜休んで、一、二、そして三で、對手の胸へずふりと絹ボタ

ンをも眞つ二つにする決闘師だ。決闘師だ。

例の第一條、第二條を心得た、ちやきくの決闘師だ。

あゝ、不朽の進み突き！ 逆突き！ やツ！

ペンヴォーリオ

何だつて、それは？

マキユーシオ

あんな變てこな、舌つたらずの、おつに氣取つた口ぶりをする、この新語製造人共ア、あばた

にでもなつて斃りやあがれ！「イエス様も照覽あれ。立派な劍士！

すぐれた勇士！ 素敵もない賣女ですな！」ときやがる。え、おい、お爺さん、ほんとに悲し

い世の中ではないか、俺達があゝいふ奇妙な蠅ども、流行の一手販賣人、バルドネ・モア野郎(お許し下さいの意)、

氣障な男を表はす)

新しい型を仕入れ廻つて、古いベンチには片時も腰も下ろせないと来てゐる蠅共に惱まされるなんて！おゝ彼奴等のボン、ボン！（フランス語の生囃りをやらぬまひ）

ローミオ登場。

ベンヴェーリオ　ローミオがやつて来る。ローミオがやつて来る。

マキユーシオ　はい、い、い、ぬきの乾鯛そつくりだ。おゝ肉よ、肉よ、お前、何だつて、さう魚なんかになつたのだ！今や彼れペトラルカ得意の戀歌の中に入つて来たのかな。ローラも彼の戀人に比べれば飯焚位のもの。ところで、誓文、ローラは自分を歌にくれるちつとばかり立派な情人があつたよけだ。（ローラはペトラルカに戀せらる）

ダイドローはふしだら女、クレオパートルは色黒のジブシイ、ヘレンもヒーローも、はした女や賣女だよ。シスビーは碧い眼でちよいと可愛いが、問題にはならん。……ローミオの君、ボン・ジュール！これは、君の佛蘭西式の幅廣ズボンに對する、佛蘭西式の挨拶だよ。昨夜はまんまと贖金をつかませたね。

ローミオ　兩君、お早う。贖金つて、何かね？

マキユーシオ　つゝとすべり抜けるといふ贖金だよ。

分らないかい？

ローミオ　マキユーシオ君、許してくれ給へ　大變な用事があつたのでね。あのやうな場合ぢや、禮を曲げるのは大目に見て貰はなきやあならないよ。

マキユーシオ　といふとつまり、あのやうな場合には、つひ腰を曲げるといふことになるね。

ローミオ　では、ねんごろにするといふ意味なのか。

マキユーシオ　これは又びたりとした當て方だ。

ローミオ　これはまた御丁寧なこと。

マキユーシオ　いや、丁寧といふことに掛けては、僕は精華だよ。

ローミオ　ピンクといふと花のことだらう。

マキユーシオ　圖星！

ローミオ　それぢや、僕の舞踏靴は立派な花飾り附だ。

マキユーシオ　出來した。さあ、この洒落について來給へ。

その靴の一枚底がすりへれば、洒落だけ残つて踵が出るばかりだ。

ローミオ　おゝ底ぬけ洒落、拙さ加減で全く裸足だ。

マキユーシオ　ベンヴェーリオ、助けてくれ。俺の智慧は

落馬だ。

ローミオ 鞭と拍車、鞭と拍車(で距離けて來)、さもないと

「勝」と呼ぶぞ。

マキユーシオ

いや、君の智慧か野鴨(野鴨が)競馬(二頭の競馬で一頭が先に)は

あまの頭ほどんな所でもその後を追うて行かぬをやらうといふ

のならば、俺は降参。なぜといへ、野鴨とは馬鹿の異名、

馬鹿の點では、君の五つの智慧の一つだけにでも、俺

の全五つにあるよりも餘計にあるからさ。どうです、

野鴨(野鴨が)ぢや、ぐうの音もないだらう？

ローミオ 君が僕とどうにか一列になるのは、まあその野鴨の場合だけだらう。

マキユーシオ そんな洒落を言ふと、犬ぢやないが、君

の耳に噛み付くぞ

ローミオ いや「可愛い鴨さん、噛んでくれるな」だ。

マキユーシオ 君の頓智は全く甘林檎、ソースにすれば

大きに甘いぞ。

ローミオ ソースが甘けりや、鴨料理にやもつてこいで

はないか？

マキユーシオ おゝこれは伸縮自在のメリヤス製だね。

ローミオ 「伸びた」といへば、それは君の鼻の下だ。

それこそ天下に隠れもない大阿呆者だ。

マキユーシオ

どうだ、これは色の戀のと唸つてゐるよ

り、ずつとこの方がいゝではないか？ 今日こそ君は

人好きのする立派なローミオ、正真正銘、あるがまゝ

の君だ。女の事で泣言をいふのは、生れながらのフー

ルが、棒切れを穴のなかに隠さうと、ごろ／＼走り廻

つてるやうなものだ。

ペンヴェオーリオ

もう止めた。もう止めた。

マキユーシオ

しかけた話を際(ま)といとこで止させよう

ペンヴェオーリオ

放つて置きやあ、段々大きくなつて、

どんなことを言ひ出すかも知れないから。

マキユーシオ

おゝ、そりやあ大違ひだ。大きくどころ

か、短くしたがつてゐたところだ。話もどん底へ来た

のだ。もう議論は止めしようと思つてたのさ。

ローミオ

いよう、素敵(すて)なもの！

マキユーシオ

船だ、船だ！

ペンヴェオーリオ

二艘、二艘！ 股引と長襦袢だ。(男ミ女)

乳母 ピーター！

ピータ はい。

乳母 私の扇を。

マキユーシオ ピータさん、顔を隠しなごらんだな。

扇子の方がずっと器量好しだから、

乳母 皆さん、お早うございます。

マキユーシオ 御婦人、お晩うございます。

乳母 もう晩うございますか？

マキユーシオ いかにも。いゝかね、日時計のみだらな

手が、午すぎのしるしに届いて居る。

乳母 およし遊ばせよ！ 何といふ人でせう！

ロミーオ あのね、この人は神様が自分で甘やかす爲め

にお作りなすつた人ですよ。

乳母 あら、ほんたうに、巧いことを仰しやいますね。

「自分で甘やかす爲め」なんて。——皆さん、ロミーオ

の若様には何處へ行つたらお目に掛れます、御存知

の方はございませんか？

ロミーオ 私が知つてますが、ロミーオの若様は、あん

たさんが尋ねてお出での時よりも、尋ね當てた時には

年を取つてゐませうぜ。私が一番年の若いロミーオで

す、外にこれより悪いのはありません。

乳母 いゝことを仰しやる。

マキユーシオ なに、悪いのがいゝんだつて？ うまく

意味を取つたものだ、全く。賢い、賢い。

乳母 若しあなたがロミーオ様でございましたら、一寸

縁談(乳母一違の)をお願ひしたのでございますが、

ペンヴェオーリオ ほゝう、この人、晩餐に人を紹介(招待をま

する奴さ。

マキユーシオ お取持、お取持、お取持、ソー、ホー。

(ソー、ホーは獵場で兎の)

ロミーオ 何か獵でもあつたか？

マキユーシオ 只の更(俗語の蟻の意)ぢやございませんよ

兎にしても、レント祭の肉饅頭に入れる兎で、食べな

い中から、腐つて、毛が生えてるやつさ。〔歌ふ〕

毛のもや／＼の雌兎

毛のもや／＼の雌兎

レント祭にや似合だが

ところで兎も夜歩きすりや

煮ても焼いても食へやせぬ

若いうちから夜歩きで。——

ロミーオ、親父さんの家へ歸らないかい？ あそこで御

飯を食べることになつてゐる。

ローミオ 後から行くよ。

マキユーシオ 左様なら、お年寄り、左様なら。「歌ふ」

嬢さん、嬢さん、嬢さん。

マキユーシオとベンヴォーリオ退場。

乳母

はい、左様なら、……え、あなた、あれは何といふ無作法な素町人でせう？ 悪たれ口ばかりきいて。

ローミオ

乳母さん、あれは、喋べるのが好きな人達で一月かゝつて我慢して聞く量よりも、一分間に喋べり散す方が多いのです。

乳母

私の悪口を言つて見るがいゝ。いやといふ目に會はせてやるから。見掛けより強かつたつて、あんな奴が二十人居たつて、恐いことはない。私で駄目なら、間に合ふ人達をめぐつて来るから。下司野郎め！ 彼奴なんぞにからかはれるやうな安つばいんぢやないんだ。誰が彼奴ののらくら仲間なもんか。「ピータに向ひ」お前、側につ立つて居ながら、あいつらが私をいゝやうにするのを黙つて見て居るつてことがあるものかね。ピータ 誰もあんたをいゝやうにしてはゐませんよ。そんな事があれば、私だつて早速武器を抜きますよ、ほん

とに。喧嘩のきつかけがあり、理窟が此方になれば、誰にも負けずに引き抜きますよ。

乳母

ほんとに、口惜しくつてく、體中がぶりくする。下司野郎め！——「ローミオに向ひ」もし、あなた、今もお話ししましたやうに、お嬢様があなたをお探しせよとのことでございました。お嬢様のおことづけは、私だけに藏つて置きます、ですが、何よりも先に申上げますがね、若しあなた様が、そら世間で言ふでせう、阿呆の極樂にお嬢様をお引つ張り込みにならうといふのならば、それこそ、それ世間で言ふでせう、ほんとに不埒な仕打でございますよ。だつてお嬢様はまだお若いのですもの、ですからね、お騙しになるやうなことがあれば、それこそ、どんな御婦人にしたつて悪いことですよ、ほんとに、それこそ、非常に、邪まななされ方ですよ。

ローミオ

乳母、お前のお嬢さんによろしく言つておくれ。私はあくまでも誓ふが——

乳母

まあいゝお方、よろしうございますよ、その通り申上げますよ。本當に、本當に、さぞお喜びになります。

ローミオ 何を申上げるのかね。私の言ふことをまだ何も聞きやしないぢやないか。

乳母 あなた様があく迄も誓ふと仰せられたと申しますよ。それこそ、立派な殿方らしいお言葉だと存じます。

ローミオ 何とか算段をして、

今日の午後、懺悔のお式にお出で下さるようお傳へ下さい。

ローレンス法師の庵室で、罪の淨めを受け、結婚式を擧げることになりますから。これはお骨折賃。

乳母 いゝえ要りませんよ、一文だつてお受けしません。

ローミオ 馬鹿な。取つてお置きといへば。

乳母 今日のお晝過ぎ？ 旦那様、よろしうございます。

きつとさういふことに致しますませう。

ローミオ 一寸乳母さん。寺の垣根の背後の處へ行つて、待つてゐておくれ、

一時間の中に、私の下男に、

繩梯子のやうに編んだものを持たせてあなたの所へやる

から。

それが、夜中、祕かに私の喜びの頂點まで

私を運んでくれるものになるんだ。

左様なら。間違のないようにね。骨折丈けのことはするよ。

左様なら。お嬢さんによろしく。

乳母 御機嫌よう！ あゝもし。

ローミオ 乳母さん、何かね？

乳母 あなたの下男はお堅いですかね？ かういふことをお聞きではありませんか？

「一人をとけて、二人なら内密は大丈夫」つて。

ローミオ 大丈夫だよ。鋼鐵のやうに堅い男だから。

乳母 それでようございます。家のお嬢さんは、それは

それは可愛らしい方なんですよ。——ほんに／＼昔は

ようお喋りをするお子だつたが——あゝさう／＼、こ

の町の貴族さんで、パリス様と仰しやるのが、それはそ

れはお嬢様に御執心でね。ところがお嬢様の方ぢや、

お可哀さうに、パリス様の顔を見るよりは、ひきがへ

るを、ほんとのひきがへるを見た方がいゝと仰しやる

のですからね。わたしやね、時々パリス様の方が好い

男ですよ、なんて言つちやあお嬢様を怒らせるのです

よ。ところがね、私がさう申上げますと、本當ですよ、

お嬢様は廣い國中での一等白い敷布のやうに顔が蒼ざ

めてしまふのです。……時に、海露草とローミオとは同じ文字で初まるんぢやございませぬかね？

ローミオ さうだよ、乳母さん、それがどうしたかね？

兩方ともアールで初まるんだよ。

乳母 あれまあ人を！ それは犬の名ではございませぬか。アールはあの、その——いや、知つてます、他の字で

初まるに相違ないのです——何しろ、お嬢様はあなたとローズメリーがどうかしたといふので、何だか知らんが、面白さうな結句(句號)を作つて居られましたよ。あなたがお聞きになつたら、お喜びなさるやうな。

ローミオ お嬢さんによろしくわ。

乳母 はい、千度も申しますよ。「ローミオ退場」ピ

ター！

ピータ へい。

乳母 私の扇をもつて、先へ、さつさと。

兩人退場。

第五場 ——キャピュレット家の庭園。

ジェリエット登場。

ジェリエット 乳母を便に出した時は、時計が九時を打つて居た。

半時間の中には歸ると約束をして行つたのに。

多分逢へないのだらう。いゝえ、そんな筈はない。

おゝ、乳母は跛者なのだ！ 戀の使者は思ひをやるに限る。

思ひをかけるのは、陰鬱な丘の上から、

雲の影を追ひかへす日の光よりも十倍も早い、

だからこそ、素敏すびんつこい翼を持つた鳩が、戀の神様の車を曳き、

だからこそ、風のやうに早いキュービッドは、翼を持つて居るのだ

もうお日様は、今日の旅路たびぢの

一番高い峠に登つてゐる。九時から十二時と云へば、

三時間にもなるのに、乳母はまだ歸つて來ない。

乳母に、情なさけと、温かい若者の血潮があるならば、

鞆たもとのやうにすばしつこく動いて呉れようものを。

私の言葉は乳母をはね飛ばして、愛しい戀人のところへ一飛びに飛んで行き、

あの方のお言葉は、又私へと返つてくれればよいに。

けれど年寄といふものは、大抵死んだ人みたいに、役立たずで、のろくさで、足重で、血の氣がなくて、まるで鉛だわ。

乳母並にビータ登場。

おゝ、乳母や、どうだつたえ？

お目にかゝれたかい？ お伴をあちらへおやり。

乳母 ビータ、門のところで待つておいで。

ビータ退場。

ジュリエット さ、やさしい乳母や。——おやまあ、何だ

つて、そんな悲しげな顔をしてゐるの？

悲しい報せにしろ、嬉しうに話しておくれ。

いゝ報せなら、そんなしぶい顔で弾いて聞かせれば、

楽しい報せの樂の音も、臺なしにしちまふわよ。

乳母 あゝく、くたびれました。一寸休ませて下さい。

あゝ何て節々が痛むのだらう！ えらく駆けずり廻りま

したから！

ジュリエット お前に私の節々を上げ、私がお前の消息を

持つてればいゝにねい。

だけど、さあ、お願ひだから、聞かせて。

さゝ、乳母や、乳母や、言うて。

乳母 なんてまあ忙しない？ 一寸の間も御辛抱が出来ませんの？

私、息が切れてるのが、お分りにならないのですか？

ジュリエット どうして息が切れて居るの？

息が切れて居るといへる息があるのに。

待たせる爲めにする言譯の方が、

言譯してのお話よりも、ずつと長いわ。

報せは吉か？ 凶か？ それに返事をしておくれ。

どちらか言つて頂戴。そしたら、細かい話はゆつくり聞

くから。

安心させてね、いゝの？ わるいの？

乳母 さてく、あなたは愚かな婿選びをなさつたものだ。あなたは男の選び方を御存知ない。ローミオだつ

て！ いゝえ、あの方ちやあだめ、それはね、あの方

のお顔が、誰よりもお綺麗だとしてが、お脛の具合は、

まづ誰にも負を取らない。お手といひ、おみ足とい

ひ、お體つきといひ、言ふ程のこともないが、それ

も他に比べるものはない。あの人は禮式作法の花、と

は言へないにしても、たしかに小羊のやうに溫和しい

方だ。……あちらへ行つて、お轉婆さん、神様にお仕

へなさい。おや！ 御飯はもう済みましたか？

ジュリエット いゝえまだ。でもそんなことはもうとつくの昔に分つて居るわよ。

婚禮のことは何と仰しやつたの？ その事はどう？

乳母 あゝ、頭が痛むのなんのつて！ 何といふ頭
なんだらう、これは！

落つこつて二十にも別れてしまひさうに、つき／＼する。

「ジュリエット詮方なく近よつて頭を揉まんとすると、
ぐるりと背中をむけ」

背中、そつちの方。——おゝ、背中、背中！

わたしを使ひになど出して、人情のない、
方々駆けずり廻つたので、死にさうです！

ジュリエット ほんたうにいけないわね。體が悪いのは。
仰しやつて？

乳母 あんたの好きな方が仰しやるにはね、あの方、お

口のきゝやうは全くお立派な、丁寧な、親切な、男振
りの好い、それから本當に、氣立てのいゝ紳士のやう
で——お母様は何處？

ジュリエット お母様が何處につて！ 家に居てよ。

他に何處に行くものかね？ 變な御返事ね、

「あの方、お口のきゝやうは全くお立派な、
お母様は何處？」なんて。

乳母 まあ／＼お嬢様！

そんなにあなた熱々なの？ まあ、おたしなみなさい、
ほんとは。

それが私のつき／＼する骨痛のお薬になりますか？

もうこれから御用は御自分でなさいまし。

ジュリエット まあ何て騒ぎなのだらう！——さ、ローミ

オ様は何と仰しやつたの？

乳母 あなた、今日懺悔にいらつしやるお許しが出て居
りますか？

ジュリエット えゝ。

乳母 それなら直ぐにローレンス様の庵室へいらつしや
いまし。

あそこで、あなたを奥様になさる御良人がお待ちです。

そうら、みだらな血がもうあなたの頬つべたに上りまし
たよ。

どんな報せを聞いても、直ぐと眞赤におなりなさるんだ
から。

教會へいそいでいらつしやい。私は私で、ほかの道をゆき、

梯子を取つて來なくつちやなりません。それを傳つてあなたのお好きな方が、

暗くなると間もなく、小鳥の巢へ登つていらつしやる。

私はもうあくせくと骨を折つてあなたに悦んで貰ふのです。

だが、やがて夜になると、あなたもお骨が折れませうぞ。

さあさ、私は御飯に参りませう。あなたはすぐに庵室へおいでなされ。

ジュリエット　ではすぐにその幸運へ！——正直者の乳母や、左様なら。

兩人退場。

第六場　——僧ローレンスの庵室。

僧ローレンス並びにローミオ登場。

僧ローレンス　天はこの聖なる儀式を微笑み見そなはし、

後日、悲しみを以て、われ／＼を御讒責なさいませんうに！

ローミオ　アーメン、アーメン！　しかも、いかなる悲しみも來るなら來よ、

束の間、姫の姿を見る嬉しさは、

何に比べるものもありません。

聖なる御言葉もて、私共二人の手を結んでさへ下されば、戀を喰ひ盡す死神が、何をしようとも、

あの人を私のものと呼びさへすれば、それでもう十分です。

僧ローレンス　さうした烈しい喜びは、又烈しい最後を

遂げ、

勝ち誇つてゐる中に亡びるもの、丁度火と火薬とが、

口づけする途端に消えてしまふやうなものだ。この上もなく甘い蜜は、

甘いので却つて厭氣がさし、

口にするに食慾をうち壊す。

だから、適度に愛しなさい。長きに堪へる愛といふものはいつもさうする。

早きに過ぎるものは、のろきに過ぎるものと同様、遅く

しか到着しない。

ジュリエット登場。

姫のお出でだ。お、そんな軽い足どりでなら、永遠に

堅固な燧石を踏みへらすことはあるまい。

戀人といふものは、浮氣な夏の空氣中に、

ゆらめいてゐる陽炎の背に乗つても、

落ちはしない。あだな喜びはそれ程に軽いものだ。

ジュリエット 尊い懺悔の教父さま、今日は、とローレン

スに抱擁の禮をする」

僧ローレンス 教女よ、その御返禮は、ローミオが二人

に代つて致しませう。

ジュリエット この方にも同じやうに、さもないと、御返

禮の方が多過ぎるかも知れませんか。「とローミオに

も同様抱擁の禮をする」

ローミオ あ、ジュリエットさん、あなたの度合が、

私のほどにも充ちあふれ、それを表はす術が、

私よりもすぐれておいでならば、どうかその息で、

あたりの空氣を香ばしくして下さい。そして豊かな音楽

のやうな聲で、

この嬉しい出會に、兩人がお互に受ける

心の幸を述べて下さい。

ジュリエット 言葉よりも中味に豊かな、この心一杯の思

ひは、

その實質を誇るがい、飾りなんかんでもない。

自分の富を數へる事のできるのは、貧しい人に過ぎませ

ん。

しかし私の眞の戀はいやが上にも加はり

今はその半ばをさへ、數へることが出来ません。

僧ローレンス さ、私と一緒に行き、手短かに済まして

しまはう、

神聖な教會は二人を一つに合體させない間は、

二人で置くわけには行かないのだから。

皆々退場。

第三幕

第一場 — 街上。

マキューシオ、ベンヴォーリオ、侍童並びに下男數名
登場。

ベンヴォーリオ　マキューシオ君、もう歸らうぢやない

か。

暑くはあるし、キャピュレットの奴等は町に出て居るし、
出會うたが最後、一喧嘩はじまらずに居ないから。

こんな暑い日は狂氣じみた血が沸き立つものだからな。

マキューシオ　君のやうなのも随分居るよ、酒場の敷居

を踏ぐ時には劍をテーブルの上にかちやりと置いて、

「神よ、どうぞこいつなんぞの必要あらしめ給はぬよう

に—」

といふが、二杯目の盃が廻り出すと、全く何の必要も
ないのに、給仕人目掛けてそいつを引つこ抜くのさ。

ベンヴォーリオ　僕がそんな人間かね？

マキューシオ　おい、おい、君など、イタリー中の誰に
も劣らぬ、怒りつばい男だよ。すぐ怒つて氣難かしく
なるし、すぐ氣難かしくなつて腹を立てる。

ベンヴォーリオ　何にさ？

マキューシオ　何人ぢやない、君のやうな男が二人居た

ら、お互に殺し合ふから、直ぐにとつちも居なくなる。

君！ さうさ、君なんだ、鬚鬚が自分より多いとか、
少ないとか、そんなことでも、喧嘩をする。人がはしば

みの實を割つたというて喧嘩を初めるから、理由を聞
くと自分がはしばみ見たいな茶色の目をして居るとい

ふだけさ。そら、そんな目でなくつて、そんな喧嘩を買
ふ目が何處にある？ 卵の中味は滋養で一杯だが、君

の頭は喧嘩で一杯だ。だが、君の頭は喧嘩の爲めに打
ちのめされて、卵ぢやないが、くされ氣味だ。君は街

中で人が咳をして日向で眠つてゐた君の飼犬が目を覺
したからつて、喧嘩をしたつけれ。復活祭前に新しい

上衣を着たと云つては、仕立屋と喧嘩をしなかつたか

い？ それから又新しい靴に古いリボンを附けたと言
つて、誰かともやつたやうらう？ それにも拘らず、俺

に喧嘩をするなどお説法するなんて！

ベンゾォーリオ 僕が君見たいに喧嘩つ早けりや、誰だ

つて一時間かそこいらで、僕の生命の永代地上權を買
つちまふよ。

マキユーシオ 地上權だと痴情の一件かな！

ベンゾォーリオ や、キャピュレットの奴等がやつて來た

よ。

マキユーシオ ふん、かまふことはない。

チボルト及びその他の人々登場。

チボルト ずつと俺にくつゝいて來い、奴等に言ふこと

があるから。——

諸君、今日は、どなたかに一寸一言。

マキユーシオ 一寸一言だけか？ 一言に何か付け加へ

たらどうだね。一言と一撃とにしろ。

チボルト それは最も望むところ、機會さへ與へて呉れ

れば。

マキユーシオ 與へて貰はなくしては、自分で何か機會を

捉へる事は出來ないのか？

チボルト マキユーシオ、君は、ローミオと調子を合せ

て——

マキユーシオ 調子を合せる！ おい、貴様は俺達を藝

人扱ひにして居るな？ 藝人なら藝人でいゝが、調子

の合はないところしか聞けないぞ。「劍を叩いて」これ

が俺の樂器(文字通りにはツ)だ。こいつは貴様にてんてこ

舞をさせるぞ。畜生、調子を合せるなんて！

ベンゾォーリオ こゝは人通りの多い街中、何處か、ひ

つそりした所へでも行くか、

それとも冷靜にお互の物言ひの理由を話すか、

それが厭なら、別れてしまはう。こゝぢや皆が見てゐる

から。

マキユーシオ 見るために出來た眼だ、見たきやあ見さ

せん、

俺は人がどう思はうと、一步だつて退くんぢやあない。

俺は。

ローミオ登場。

チボルト いや、君とは仲直りする。俺の目ざす男が來

た。

マキユーシオ なに、男だと？ 間違つたら、この首は

要らない！ ローミオが君の「下男」で、君のお仕着

でも着てゐるのかい。

さ、先きに立つて決闘場へ案内しろ、ローミオはあとか

らお相手と来るわ。

へん、あなた様はその意味で仰しやるんなら「男」と呼んだつて差支ございませぬ。(あくまでローミオに代つて喧嘩を引受けようとする)

チボルト 「マキューシオに構はず」ローミオ、俺が貴様

に抱いてゐる憎しみから、

貴様のことをかうとしか言へない。——貴様は悪黨だ。

ローミオ 「なだめるやうに」チボルト、僕は君を愛さなければならぬ理由があるのです、

當然腹を立つべきその挨拶も

今は少しも意としない、僕は悪黨ぢやないんだよ。

だから、今日は別れよう。君は僕を理解しないらしい。

チボルト 何ッ、そんな事で貴様の俺へた無禮の辯解

になると思ふか。此方(こつち)を向いて抜け。

ローミオ 「劍を鞘のまゝ侍童に渡し、チボルトに近づき

その肩を叩いて」僕は斷言する、決して君に無禮をし

た覚えはない。

それどころか、君の想像以上に君を愛して居る。

その理由は追つ付け君も承知されることだらう。

だから、キ・ビュレット家の御一族——その名前は

僕自身の名前ほど懐かしいものに思つて居るのだから、

——どうかまあ怒らないで。「とそのまま去る」

マキューシオ おゝ手ぬるい、面汚(つら)いな、卑劣千萬な降

参だ!

かうなつては劍があるばかりだ。「と抜劍する」

やい、チボルト、猫まため、相手になるか?

チボルト 俺にどうしろといふのだ?

マキューシオ 猫の玉様、他でもない、お前が持つてる

といふ九つの生命(いのち)の中、たつた一つが所望(よこ)だ。それか

ら後はその場次第、残りの八つもへし潰(つぶ)してくれる。

おい、耳形(みみかたち)のつかに手をかけて、刀を鞘(さや)からつまみ出

さんのか? 愚圖(ぐず)々々してると、そつちが抜かない内

に、此方(こつち)のが貴様の耳たぶへかつ、飛ぶぞ。

チボルト 來い、相手になる。「と抜く」

「ベンヴェーリオ留めかねて、ローミオ、ローミオと二三度

呼ぶ、ローミオ馳せ來る」

ローミオ マキューシオ君、劍を收めて呉れ給へ。

マキューシオ さあ來い、お突きの手並拜見だ。

マキューシオとチボルト闘ふ。

ローミオ ベンヴェーリオ、抜け。二人の劍を叩き落せ。

兩君、恥かしいではないか、怒りを壓へ給へ！

チボルト、マキューシオ、御領主が、

ヴェローナの街で喧嘩をしてはならぬとお命じになつたではないか？

やめろ、チボルト！ マキューシオ君！ 「ローミオは無

腰だから、マキューシオの脱ぎ捨てた上衣を兩人の合せた劍の上へかける。その下をくゞつて、チボルトは、マキューシオを突く」

チボルト及びその一味退場。

マキューシオ やられた。

畜生、兩家の奴等め、やられた！

奴、逃げをつたか、何ともなくて？

ペンヴォーリオ やられたか？

マキューシオ うん、なに、引掻かれた、引掻かれた、

しかし、大丈夫だ。

伴のものは何處どこに居る？ やい、早く醫者をつれて来い。

ローミオ しつかりし給へ、君。大した傷ぢやないのだ

から。

マキューシオ さうだ、井戸程深くもなければ、教會の

戸口程廣くもない。だが、それで十分、役には立つよ。

明日僕を訪ねて見給へ。まんざら墓墓の中にゐるふのを果敢ないに云ふ）男とも言はれまい。もう間違ひなく、この世に

はおさらばだ、——畜生、兩家の奴、犬、野鼠、二十

日鼠、猫、人間様の生命いのちを取るほど引掻きやがつて！

歌法螺吹、悪黨、下司、勝ちさへすればいゝで立ち合

やあがる——「ローミオに向ひ」何だつて、君は仲へ入

つたのだ！ 俺は君の腕の下でやられたんだぜ。

ローミオ 僕は悪いようにと思つてやつたんぢやなかつ

ただが。

マキューシオ ペンヴォーリオ、何處かの家へ連れて行つ

てくれ、

氣が遠くなるから。畜生、兩家の奴等！

あいつら、俺を蛆蟲うじむしの餌食えじきにしをつた。參つた。

したゝか參つた。畜生、兩家の奴等！

マキューシオとペンヴォーリオ退場。

ローミオ 領主の近親で、

僕の親友であるマキューシオが、この僕の爲めに、

致命ちめいの傷を受けた。僕の名譽は、

チボルトの卑怯ひけつの爲めに汚れた。——チボルト、一時間

前に、

僕の身内みうちになつたのだが。おゝ麗うるはしいジュリエット
 あなたの美が私を女性化し、
 私の氣質の中にある勇者の鋼鐵ががねを柔やわらげてしまつた！

ペンヴェオーリオ再び登場。

ペンヴェオーリオ おゝ、ローミオ、ローミオ、あの勇敢

なマキューシオは死んだ！

あの仁侠な魂は、雲をも凌しのがんとしてゐたが、
 時ならぬにこの世を厭いとうて捨てた。

ローミオ 今日この不吉な運命は、来る可き幾多の日
 をも暗くするだらう。

これはほんの悲しみの初まり、他の悲しみが續いて來
 て、やがて最後となるであらう。

チボルト再び登場。

ペンヴェオーリオ そら又亂暴なチボルトが歸つて來た。

ローミオ 無事を勝ち誇つてか！ マキューシオは殺され
 たのに！

思慮深い寛大の心よ、天へ行つてしまへ、

燃えさかる復讐の憤怒ふんぬよ、俺を導いてくれ！……

さあ、チボルト、先程貴様のくれた「悪黨」の名を、
 返してやるから、受け取れ！ マキューシオの魂魄たまはは、

我々の頭上づぎやうを去る事いまだ遠からず、
 貴様の魂を道連れにしようと待つてゐる。

貴様か、俺か、二人ともにか、道連れにならなくてはな
 らないのだ。

チボルト 忌々いまくしい小わつば、こゝまで彼と道連れにな
 つて來たお前だ、

こゝからあの世へも一緒に行くがよい。

ローミオ この劍がきまりをつけるぞ。

二人闘ふ。チボルト斃れる。

ペンヴェオーリオ ローミオ、早く、早く逃げろ！

市民は騒いで居るし、チボルトは死んだ。

ほんやり立つて居ちや駄目だ、捕とらまへられた日には、
 領主は死刑を宣告しよう、何處どこかへ行つちまへ！

逃げろ！

ローミオ おゝ、俺は運命のなぶり物だ！

ペンヴェオーリオ 何を愚圖々々してゐるのか。

ローミオ退場。

市民その他登場。

市民甲 マキューシオを殺した奴は何處どこへ行つた？

その人殺しのチボルトはどつちへ突走とつつた？

ベンヴォーリオ そのチポルトはそこに寝てゐる。
市民甲 さあ早く、私と一緒に来るがいい。

領主様の名で命令する、神妙にしろ。

領主、従者と共に、モンタギュー、キャピュレット、
各々夫人その他を従へて登場。

領主 この喧嘩の發頭人は何處に居る？

ベンヴォーリオ 領主様、この血を見るに至つた騒動の

淺間しいいきさつを、残らず私は存じて居ります。

そこに轉がつて居る男は若いローミオに殺され、

その男が即ち、あなた様の御一族のすぐれたマキューシ

オを殺しました。

キャピュレット夫人 甥のチポルトだ！ おゝ私の兄弟の

子！

おゝ、領主様！ おゝ甥よ！ 良人！ おゝ、

私の親身の者の血が流されました！ 領主様、あなた様

は公平なお方。

家のものゝ血の賠償に、モンタギューの血を流して下さい

いまし。

おゝ、甥よ、甥よ！

領主 ベンヴォーリオ、誰がこの怖るべき争闘を初めた

のか？

ベンヴォーリオ チポルトでございます、こゝに殺され

て居ります、即ちローミオの手で殺されました。

ローミオは言葉穩かに喧嘩など、

詰らぬ事と切に反省を求め、且又

あなた様のお怒りを思ひまして諄々と述べ立てました。

しかしこれを述べるに、

溫和な言葉、平靜な顔色、つゝましく膝をさへ屈したの

でありましたが、

平和の聲には全く耳をふさいでゐるチポルトの

度し難い怒りを解くことかなはず、チポルトは

マキューシオの胸先目掛けて、細身の劍を突込みます。

こなたも同じく血氣盛んな勇者、烈火の如く怒り立ち怖

ろしき刃先に返へすに刃先を以てし、

何のおれがと許りに嘲笑ひ、片手を以て

死ねよと突出す氷の刃を拂ひのけ、片手はすかさず

チポルトに打返へす、彼れ又さるもの

巧みに之に應戦す。この時彼れローミオは大聲に呼はり

「止めよ、兩友！ 兩友、別れよ」と、いふより早く、

すばしこく劍を抜いて兩人必死の切先をたゞき落し、

二人の間に跳り込む。そのローミオの腕をくぐつて、チボルトが無残の一突きは、さしも剛氣のマキューシオの命を奪ひ、チボルトは逃げ去りました。

間もなく又取つて返して来るのを、

今や復讐の念勃々たるローミオは、

と見るより電光石火と切り結び、私が

劍を抜いて兩人を引分ける暇もなく、チボルトは殺されその倒れるのを見て、ローミオは踵を返して逃げてしま

ひました。

これが虚妄ならば、私の一命をお取り下さいまし。

キャピュレット夫人 この人はモンタギュー家の親戚です。

身鼻眞が眞赤な虚妄を言はせて居ります。

なんでも二十人許りの者が、この不吉な争鬭に關係して、總掛りで、この一人の命を奪つたのでございます。

私は、領主様の正しいお裁きをお願い申します。

ローミオはチボルトを殺しました。ローミオは生かして

置いてはなりません。

領主 ローミオが彼を殺し、彼はマキューシオを殺した。

マキューシオの大事な血の値は誰が支拂ふといふのか？

モンタギュー 領主様、ローミオではござりません。ロ

ーミオはマキューシオ様のお友達でございます。

あれのあやまちと申せば、法律が處分すべきチボルトの

命を

自分で始末をつけただけでござります。

領主 その罪過によつて

直ちに彼をこの地から追放に處する。

汝等が憎しみのたてひきに巻き込まれて、我等まで辛き

目に會うた。

わが血縁の者は、汝等の亂暴な騷擾の爲めに血を流して

居る。

予はこゝに重き料を課し汝等を罰し、

汝等一同に、予に與へた損失を悔いさせねば止まぬぞ。

もう泣き言や、辯解には耳を假さぬ。

涙も、祈りも、罪の償却にはならぬ。

だからもう何も言ふことはならぬ。ローミオを急いで、

こゝから立ち退かせい。

遷延して見出されでもしたら、その時が彼の最後である

ぞ。

この死骸を運び、予が命令を實行せい。

人を殺したものを許さば、慈悲が却つて仇とならう。
皆々退場。

第二場 — キャピュレット家の庭園。

ジュリエット登場。

ジュリエット 火の足の駿馬よ。

日の神様のお宿へと、早く跑けて行きなさい。

フェイトンのやうな馬鹿走りをする御者がゐて、西に向つてお前の鞭を加へ、

曇つた夜をすぐにつれて来てくれるといふに。——

戀を助ける夜よ、お前の隙間のないカーテンを擴げてうろつき者の眼を遮り、ローミオを、

噂もされず、見とがめられもせず、この私の腕の中へ飛び込むやうにしておくれ。

戀する者は自分達の美しい身の明りで、戀路の闇を照すもの、もし又、戀が盲目なら、

夜が一番ふさはしい。嚴肅な夜よ、地味な衣裳の老女よ、すつかり黒裝束で来て、

無垢の操を賭けたこの勝負を

どうしたら負けられるか、それを教へておくれ。

私の頬には、たきするもの、慣れぬ血潮を、

お前の黒いマントで蔽つておくれ。すれば物おちな戀も

次第に大膽になつて、

眞實の戀を遂げるのは、やつぱり操にかなつたことと思

ふやうにならう。

夜よ、來よ。ローミオよ、來よ。來よ、夜の間晝とも

見える君、

お前が夜の翼に乗れば、

大鵬の背に今し降りかゝつた雪よりも白く見えませう。

來よ、やさしい夜よ。來よ、愛らしい黒き眉の夜よ、

私のローミオをお渡し。ローミオが亡くなつたら、

連れて行つて、刻んで小さな星にするといふ。

したら、あの人の爲めに、天の顔は光り輝き、

世界中が夜を戀して、

けばくしいお日様など、禮拜しなくならう。——

お、私は戀の館を買ひは買つたが、

まだ自分では住み込まないし、この身に買手はあつたが

まだ賞翫されはしない。……今日の日の長いこと、

丁度新調の衣服を拵へたが、着るお許しが出ないので、

明日のお祭を待ちあぐんで

氣をいらだてる子供のやう。——おゝ、乳母だ。

乳母、繩梯子を持つて登場。

何か消息があらう、ローミオの名さへいふ舌なら、

天人の聲のやうにも響きます。——

乳母、おたよりは？ 何を持つてゐるの？ その綱、

ローミオ様を持つて行けと仰しやつたのかい？

乳母 はい、その綱でございます。

と綱を放り投げる。

ジュリエット あら！ どうしたの？ 何だつてそんなに

手を絞るの？

乳母 あゝ、何といふこと！ 亡くなつた、亡くな

つた。亡くなつた！

お嬢様、もうお終ひです。もうお終ひです！——

あゝ、あの方は逝つてしまひました。殺されまし

た。お亡くなりになりました！

ジュリエット 神様はどうして、そんなに情知らずなんだ

らう。

乳母 神様はさうでなくとも、ローミオが、情知らずな

んです。

おゝ、ローミオどの、ローミオどの！

誰がそんな事を思ひがけよう？ ローミオどのが！

ジュリエット お前は悪魔なのかい？ そんなに私を苦し

めて？ そんな唸るやうな聲は、物凄く地獄の中でわ

めくものだよ。

ローミオ様が自害なさつたのかい？ 「はい」とお言ひ。

その「はい」といふたつた一語は、鶏頭蛇の

人をにらみ殺す一目より、もつと怖ろしい毒になるよ。

私は墓に入つてしまひます、そんな「はい」があらうも

のなら、

お前に「はい」と言はせるやうな、その肺が息を止めて

しまつたのなら、

殺されなさつたのなら、「はい」とお言ひ、でないのな

ら、ないと。

短い言葉で、私の運命は決してしまふんだから。

乳母 お傷を見ました。この眼で見ました。——

おゝ神様！——この、男らしいお胸のあたりですよ。

痛ましい、血みどろな痛ましい。

胃ざめて、灰見たいに胃ざめて、體中血によごれ、

どこもかも血が凝つて、私、見ただけで、氣を喪つてしま

ひました。

ジュリエット おゝ、裂けよ、この心臓！ 憐れにも主を

失うたこの心、すぐに裂けておしまひ！

眼よ、牢屋へ行つて、二度と自由を求めまいぞ！

汚ない土なる肉體よ、元の土に還れ、この世の働きを休

めてしまふがいゝ。

そして、ローミオ様と一つに重い棺臺に乗るがいゝ！

乳母 おゝ、チボルト、チボルト、私の誰よりも親しく

したお方！

おゝ、禮儀正しい立派なチボルト様！

生きてあなたのお亡くなりになるのを見ようとは！

ジュリエット この嵐はどうしたこと？ まるで違つた方

角から吹いて来る。

ローミオは殺され、チボルトは亡くなつたのかい？

私の好きな従弟も、私のもつと好きな良人も？

若しさうなら、恐ろしい喇叭手よ、最後の審判の日の來

た報せを吹きならすがよい！

あの二人がゐなくなつて、誰が生きながらへて居られよ

う。

乳母 チボルト様はお果てなされ、ローミオ様は追放に

なりました。

チボルト様を殺したローミオ様、そのローミオ様は追放

になりました。

ジュリエット おゝ神様！ ローミオ様の手がチボルトの

血を流したのかえ？

乳母 さうです、さうです、あゝ悲しい、さうでござい

ます！

ジュリエット おゝ、花の顔で隠した毒蛇の心！

あんな美しい洞穴に、悪龍の住んでゐたためしが昔から

あつたらうか？

美しい暴君！ 天使のやうな悪魔！

鳩の羽した鴉！ 狼ほどに貪婪な小羊！

見かけは神々しく、卑しい中味！

表面に見たところと、うつて變つた

墮地獄の聖者、名譽ある悪黨！

おゝ、自然よ、そなたは、地獄で何のすることがあら

う？

あんな麗はしい肉體を持つた、いはゞ人間での極樂

その中へ悪魔の魂を宿らせてしまつて。

あんなにまで美しく装釘した書物の中に、

これほど卑しい内容の盛られたことがあるだらうか？
お、あんな偽りが、

あんな華やかな御殿に住つてゐやうとは！

乳母

男には信用も誠實も、正直もありやしません。皆な虚言家、

誓言破り、碌でなしの騙りばかりです。……

あ、下男は何處へ行つたか？ 氣つけでも少しほしいに。

こんな悲しみ、こんな歎き、こんな苦しみでは、私も老

い込んでしまひます。

ローミオの奴め、恥を掻きをれ！

ジュリエット そんなことを言ふなんて、

お前の舌は火ぶくれになつたが、い、あの方は恥を掻きにお生れになつたのではない。

あの方の額には、恥の方で恥かしがつて坐らない。

だつて、あのお額は、名譽が世界で唯一人の王となつて

坐る玉座なんだから。

お、あの方を悪く言ふなんて、私は何といふ獸類だつたのだらう！

乳母

ぢやあ、あなたは、お従弟を殺した人をお譽めにな

るのですか？

ジュリエット

私の良人である人を、悪く言へと言ふのか

い？

あ、お可哀さうに、どんな舌がああなたのお名を元通りにしよう？

にしよう？

三時でも通れ添つたあなたのお妻である私が、滅茶々に

切りさいなんだあなたのお名を？

だけど、何だつて私の従弟を殺したの？

でも、さうしなければあ従弟が、私の良人の生命を取

つたかも知れなかつた。

愚かな涙よ、お前の生れたもとの泉へ歸つておくれ。

お前の貢ぎの滴はもと悲しみのもの、

それを誤つて喜びに獻げて居る。

チポルトに殺されたかも知れなかつた私の良人は生きて

ゐる。

そして、私の良人を殺したかも知れなかつたチポルトは

死んでゐる。

ちつとも厭なことはありやしない。それなら、何だつて

私は泣くのだらう？

なんでも、チポルトが死んだといふより、もつと悪い言

葉を先に聞いた。

それが私に死ぬ思ひをさせたのだ。私は、それを忘れてしまひたい。

けれど、おゝ、私の記憶にこびりつく、

呪はれた悪行が、罪人の心を離れぬように、

「チポルトは死に、ローミオは——追放」

その「追放」、たつた一言その「追放」で

一萬人のチポルトが殺されたのも同じだ。チポルトの死は

それだけで終つたにしても、悲しみは十分だのに。

それとも、苦い悲しみは、連れが好きで、

是非他の悲しみとつれだつて來たいといふのなら、

乳母が、「チポルトが亡くなりました」と言つた時、その

後に何故

お父様、お母様、それともお二人とも、亡くなつたとは

續けなかつたのか？

さうしたら、一通りの哀しみに心を傷めただけだつたら

うに。

しかし、チポルトの死のあとに、

「ローミオが追放」と、この言葉を言ふからには、

父も、母も、チポルト、ローミオ、ジュリエット

皆な殺され、皆な死んでも同様。「ローミオが追放！」

その言葉に含まれて居る人を殺す力には、終りもなく、

限りもなく、

度も境もなく、どんな言葉を用ゐても、この悲しみは言

ひ盡されない。……

乳母や、お父さんやお母さんは何處に居られるえ？

乳母　チポルト様の死骸に縋つて、歎き悲しんで居られ

ます。

あちらへいらつしやいますか？　お伴致します。

ジュリエット　お二人は、あの人の傷を涙でお洗ひなされ

る。私の涙は

お二人のが乾いた時、ローミオの追放の爲めに盡きてし

まはう。

その綱を拾つておくれ、可哀さうな綱よ、あてがはずれ

たのよ、

お前も、私も。ローミオは追放されたんだもの。

あの方はお前を私の寢床への通ひ路にする爲めに、お造

りなされたのだに。

しかし處女の私は、男知らずの寡婦で死んでしまひませ

う。

さ、綱。さ、乳母や。私は婚禮の床へ行かう。
そしてローミオでなく、死神が、處女の私をどうともす
るがよい！

乳母 早くお部屋へいらつしやい。ローミオ様を探して
来て。

あなたを喜ばせて上げませう。あの方のみらつしやると
ころはよく存じて居りますから。

ねえ、あなたのローミオ様は今夜こゝへお越しになりま
せう。

あの方のところへ行つて参ります。ローレンス様の庵室
に隠れておいでだ。

ジュリエット おも、早う探して！ この指環を私の眞實
の騎士に差上げておくれ。

そして最後のお別れにお出で下さる様に申しておく
れ。

二人退場。

第三場 — 僧ローレンスの庵室。

僧ローレンス登場。

僧ローレンス ローミオ、出て來なさい、出て來なさい、

これ、おどく人と人目を怖れる男、

お前は難儀に見込まれて、

災厄と婚禮をしたのだ。

ローミオ登場。

ローミオ 教父様、何ごと？ 領主様の判決はどうでし

たか？

私にはどういふ未知な悲しみが近づきに

なりたがつて居るのですか？

僧ローレンス わしの可愛い教子は、

さういふ苦いお友達とちと懇ろ過ぎる。

わしは領主の判決を聞いて來ました。

ローミオ 勿論、死罪以下ではありませんまい。

僧ローレンス もつと寛大な判決が、領主の辱かち放た

れましたぞ。

肉體の死ではなく、肉體の追放だ。

ローミオ えつ、追放！ お慈悲です、「死刑」と仰しや

つて下さい。

追放の方がずつと怖ろしい顔をしてゐる、

死よりも、ずつと、ずつと。「追放」と言はないで下さい。

僧ローレンス　このヴェローナから、お前は追放されたのだ。

辛抱しなさい、世界は廣くて大きい。

ローミオ　他に世界はありません。ヴェローナの市を出れば、

どこもかも煉獄だ、苛責だ、地獄そのものだ、

こゝから追放せられるのは、世界から追放せられること、そして世界からの追放は死です。だから追放といふのは、

死刑の別の名です。死罪を追放と稱へるのは、

言つて見れば、黄金の斧で首を斬り

命を取つて置きながら、それを笑つてゐるやうなものです。

僧ローレンス　おゝ怖ろしい大罪！　おゝ言語同断な忘

恩！

お前の犯した罪は、こゝの法律ではまさに死罪だ。それを寛大な領主様が、

お前の肩を持たれ、法律は措いて

死刑といふ不吉な語を追放に變へられたのだ。

有難いお情だ、それがお前には分らないか。

ローミオ　苛責です。お情ではありません。天國は此處

に、

ジュリエットの居るところにあります。猫でも犬でも

小ぼけな二十日鼠でも、どんなつまらないものでも、

この天國に住んで、あの人を見ることができません。

それなのにローミオにはそれが許されぬ。このローミ

オより

腐肉にたかる蠅の方が、もつと値打があり、もつと位が

上で、

もつとみやびた生活が出来ます。彼等は、事によつたら、

いとしいジュリエットの世にも珍らしい白い手に握まつた

り、

あの唇から不滅の祝福を盗み取ることも出来ます。

その唇も、純潔無垢な處女の憤ましさに、

上と下とが觸れあつて、罪を犯すとも思ふのか、いつ

も眞赤になつてゐます。

けれどローミオにはそれが許されぬのです。ローミオ

は追放の身です。

蠅は自由の身、しかし私は追放の身、

それでもあなたは、追放は死でないと仰しやるのです

か？

私を殺すのに「追放」といふ言葉よりも他に

調合した毒でも、研ぎすました小刀でも、

どんな厭はしいものでもいゝ、すぐと私の始末をつける

手段はなかつたのですか？——「追放」！

おゝ、御僧よ、それは呪はれたものが地獄で使ふ言葉で

す。

吠え聲がつきものです、あなたは教への人であり、

懺悔の司罪を許す人、

私には人も知る親しい友でありながら、よくもそんな

「追放」なんといふ言葉で、私を切りさいなむ心をお持ち

でしたな！

僧ローレンス これは愚かな、狂氣せられたか、まあ私の

言ふことをお聞き。

ローミオ おゝ、又あなたは「追放」といふことを言は

れるのでせう。

僧ローレンス その言葉を避ける鎧を上げよう。

不幸な時の甘い乳、即ち哲學だ。

お前の氣が晴れるようにな。よしや身は追放でも。

ローミオ 又「追放」ですか？ 哲學なんて聞きたくも

ない！

哲學でジュリエットが出来、

市が移され、領主の判決がひつくりかへれば別、さもな

いと、

哲學なんて、爲にもならず、役にも立たないものです。

もう何にも言つて下さいますな。

僧ローレンス おゝ、さて。この狂人どには耳が

ない。

ローミオ どうしてあらう？ 賢い人に目がないのです

もの？

僧ローレンス ともかく、お前の身の振り方を話し合は

う。

ローミオ あなたには出来ません、身に感じのない事

すもの。

あなたが私ほど年若く、ジュリエットといふ戀人があり、

結婚してからたつた一時の間に、チポルトは殺され、

私のやうに愛に溺れ、私のやうに追放の身だつたら、

その時こそお話しも出来、その時こそ、このやうに、

髪をむしり、地べたに倒れ、

まだ掘られぬ墓穴の寸法を取つてもみられませう。

奥から戸を叩く音がする。

僧ローレンス 起きなさい、誰か戸を叩いてゐる。ロー
ミオや、隠れなさい。

ローミオ 隠れません。胸も張り裂ける嘆息の霧が私を
包んで、捜索の眼をくらませば別ですが。

戸を叩く音。

僧ローレンス そら、ひどく叩く！——誰です？——ロ
ミオ、起きたく。

捕まるよ——一寸お待ち下さい——起きて、

叩く音。

早く、書齋へ。——只今！——本當に

何といふ愚かしいこと！——はいく、すぐ！

叩く音。

誰だ、ひどく叩くのは？ 何處からお出でだ？ 御用は？

乳母 「内から」 入らせて下さい。さうすれば、用向は分
ります。

私はジュリエット様のところから参りました。

僧ローレンス では、よう來られた。

乳母登場。

乳母 おゝ、法師様、どうぞお聞かせ下さいまし、法師

様。

お嬢様の旦那様は何處にあらつしやいますか？ ローミ
オ様は？

僧ローレンス その地びたに、自分の涙に酔つて。

乳母 おゝ、お嬢様もその通りです。

お嬢様も丁度、その通り！

僧ローレンス おゝ、痛ましい同情、あはれな境遇！

乳母 お嬢様も丁度あゝいふ風にお突つ伏しになつて、

泣いたり、わめいたり、わめいたり、泣いたり、——お立

ちなさい。お立ちなさい、男ならお立ちなさいまし。

ジュリエット様のお爲め、あの方のお爲めと思つて、お起

きなさい、お立ちなさい。

何だつてそんなに深い歎きのなかにお落ちなされたので

すか？

ローミオ おゝ、乳母！

乳母 あゝ、あなた！ あゝ、あなた！ ねえ、死んで

しまへば、何もかもおしまひですよ。

ローミオ ジュリエットのことをお言ひだつたね？ 今ど

うして居る？

あの人は私を、ひどい人殺しと思つちや居ないかね？

極近しい人の血を流して

二人の喜びの子を汚してしまつた、

あの人は何處に？ どうして？ 私の隠し妻は

このかき消された戀を何と言つて居る。

乳母 おゝ、お嬢様は、あなた、何も仰しやらずに、

たゞ泣いて、泣いて、

さうして、床の上になうつ伏しになるかと思ふと、又跳び

起きて、

チボルトと呼び、ローミオ様と大聲に名を呼んで又倒れ

て了つたりして居られます。

ローミオ 大方その名が、

鐵砲の恐ろしい狙ひから發射したやうに

彼女を殺してしまつたのだ、その呪はれた名のローミオ

の手が、

彼女の縁者を殺したのだから。——おゝ法師よ、聞かせ

て下さい、

この肉體の、どの卑しい部分に

私の名が巢を喰つて居るのでせう？ 聞かせて下さい。

すれば、

その憎らしい處を引き裂いてしまふから。

劍を抜く。

僧ローレンス その自暴自棄の手を放せ。

それでも男か？ 姿を見れば男には相違ないが、

その涙は女々しいぞ。その亂暴な所行は

聞き分けのない獸類の怒りを示してゐる。

見かけは男だが、腹は柔弱な女人めが！

又どちらとも見えて、實は醜い獸類奴！

全くお前には驚いた。わが神聖な教派にかけて、

お前の氣質はもつと鍛へられて居ると思つて居た。

チボルトを殺し、それから自分まで殺さうといふのか？

のみならず、呪はしい憎しみの所行を我と我身に加へて

お前の命のうちに生きて居られる、あのジュリエットをも

殺さうといふのか？

何でお前は生を呪ひ、天や地を呪ふのか？

生と天と地と、その三つのものはお前の中に集まつて一

體となつてゐるが、

お前は一時にそれを失うてしまはうと欲してゐる。

愚か／＼、お前は自分の姿や愛や智慧を辱しめるものぢ

や。

譬へて見れば、お前は吝嗇者のやうに、何も彼も山ほど

持つて居りながら、

何一つ眞實の用途に用ひて、

お前の姿や智慧の飾りとしようとはしない。

お前の氣高い姿も、男の勇氣を棄て、しまへば、

一の蠟細工にしか過ぎない。

お前の大切な愛の誓ひも、いたはらうと誓つた戀人を

殺してしまへば、空ろな誓文となるのだ。

お前の智慧、これは姿や愛の飾りだが、

これが兩者を指導する道をあやまつと、

不慣れな兵士の彈藥籠にある火藥のやうに、

自分の無知から發火して、

防ぎになるものが、却つて我が身を粉砕にするのだ。

さ、元氣になれ、な！ お前のジュリエットは生きてゐる

のだ。

その人の爲めに、お前はほんの今しがたまで、死んだや

うになつてゐたではないか。

その點ではお前は幸運だ。チボルトがお前を殺さうとし

たが、

お前の方で、チボルトを殺してしまつた。その點でも幸

運だ。

死罪は免れ難いと思つた法律も、お前の味方となつて、
追放と變つた。それもお前の幸運。

實際幸運の一包が、お前の肩に降りて來たのだ。

幸運が晴着を着て、お前に愛嬌を振舞うて居るのだ。

それなのに、行儀の悪い、ふくれつ面のはした女のやう

に、

幸運に向ひ、愛人に向ひ、口を尖らして居る。

氣を附けなさい、氣を附けなさい。かういふものは得て

みじめな死方をする。

さあ、豫定の通りお前の愛人のところへ行き

部屋によち上つて、早く、慰めてやりなさい。

しかしな、氣をつけて、夜警の廻つて來る頃まで、居て

はならないよ。

マンチエアへ行けなくなつてはならない。

あの町で暮してゐれば、その内、時を見て

お前の結婚を披露し、兩家を和睦させ、

領主のお許しを受けて、お前を呼び戻せば、

今の嘆きに何萬倍する

喜びを得よう。——

乳母さん。一足先へ。お嬢さんによろしく。

それから、お嬢さんに、家中のものを早く寝かすように言つて下さい。

重い悲しみで、大方さうもしようがね。

ローミオも直ぐあとから行くから。

乳母 おゝ神様、夜つびでだつてこゝに居りますよ、

かういふ結構なお説教が承はれますなら。學問といふも

のはお偉いものですなえ！——

あの旦那様、あなたがおいでなされますとさう申します

よ。

ローミオ どうぞ、そして叱られる覺悟で行くと言つて

おくれ。

乳母 これはね、あなた、お嬢様があなた様にと仰しや

つた指環でございます。

それでは、お早く、大急ぎ、大變夜もふけましたから。

乳母退場。

ローミオ 「指環を見て」 これを見れば、私の慰めは全

く蘇ユメつてくる！

僧ローレンス 行つておいで、さやうなら。いゝかね、

お前の運命は、かうなつてゐるのだよ。

夜警が初まらぬうちに出掛けるか、

夜の引明け頃、姿を變へて立ち退くかの二つ。

マンチニアに隠れて居れば、忠實な下男を見つけて、

こゝで起る、お前の身にかゝる出来事を、

必ず時々報告させようぞ。

さ、手を。「と握手し」もう遅い、左様なら、御機嫌よう。

ローミオ どんな喜びにも憊る喜びが私を招いて居るの

でなかつたら、

あなたとかう簡單にお別れすることは悲しい事せう、

左様なら。

兩人退場。

第四場——キャピュレット家の一室。

キャピュレット、その夫人、並びにパリス登場。

キャピュレット 折悪しくかやうな變事が起つたので、娘

を説といて見る暇もありませんでした。

聞いて下され、娘は従弟いとこのチボルトが大好きでな

わしとても同じですが。——是非もない、人は皆死ぬ爲

めに生れたのです。——

もう大層遅い。今晚今夜娘は降りて参りますまい。

全くです、あなたのお出でがなかつたなら、

わしとでも、もう一時間も前に床に入つたでせう。

パリス かうした御愁傷の折柄、縁談でもございますまい。

奥様、お休みなさいまし。お嬢さんによろしく。

キャビュレット夫人 申し聞けます。そして明日の朝早く

あれの氣持を確めて見ます。

今夜は氣が重くて、垂れ籠めて居りますから。

キャビュレット 「行きかけるパリスを止めて」パリスさん

娘の心は大丈夫だと、思ひ切つて

約束しませう。何によらず、わしの言ふことは、

聞くだらうと思ひますから。いや、たしかに聞きます。

「夫人に向ひ」こりや、そなたは休む前に、娘のとこへ行

つておいで、

婿がねのパリスさんのお心をよく話しておやり。

それから、いゝかい、娘にさう言つて、今度の水曜に、

いや、お待ち！ 今日は何曜日かね？

パリス 月曜日でございます。

キャビュレット 月曜日！ いや、これはしたり！ 成程、

水曜日ぢやちと早過ぎる。

木曜日にしよう——木曜日に、この立派な貴族のところに
奥入れするのだと、あれに言ひなさい。……

準備はどうですかね？ かう急いでも差支へありません

か？

いや、大騒ぎをやらうといふのぢやあない。ほんの友達

を一人か二人位呼んで。

何故なら、チポルトが殺されて間もないこと、

盛大な宴會をすれば、彼は身寄りのものであり、

彼のことを疎略に思つて居るやうに言はれても悪い。

だから、友達も五六人ほどにして、

それぐらゐにしておきませう。しかし、木曜はどうです

ね？

パリス 私は明日が木曜日だつたらいゝと思ひます。

キャビュレット よろしい、お歸り下さい。それぢや、木

曜といふことにしませう。——

そなたは休む前にジュリエットのところへ行つて、

婚禮の日の準備をさせなさい。——

パリスさん、左様なら。……こら！ わしの部屋へ燈火

を持つて来い。……

やれ、えらく遅うなつたぞ。

もうかれこれ、お早うと言つてもよい頃だ。……
さゝお休み。

一同退場。

第五場

——キャピュレット家の庭園。

ローミオとジュリエット階上の窓口に登場。

ジュリエット　もう、いらつしやるの？　まだ夜明けには
間があります。

あなたのおど／＼したお耳に響いたのは、

あれは夜啼鷺ナイチンゲール、雲雀ピヨウではありません。

夜な／＼向うの柘榴ズクの樹の上で啼いて居ります。

ほんたうに、あなた、あれは夜啼鷺ですよ。

ローミオ　あれは雲雀、朝の先ニシキ航コれ、

夜啼鷺ナイチンゲールではありません。あれ、あの意地わるの光りの條ツギ
が、

東の空の別れ行く雲にレイス飾りをしてあります！

夜の燭光カクの星は燃え盡きて、晴れやかな晨あしたは

霧深い山の端はに、爪立ちつまたちして居ます。

早う行けば生き、留まれば死な／＼くてはなりません。

ジュリエット　あのあかりは、朝のあかりではありませんせ
ん。私、知つて居ます、私。

あれは太陽の發散する何かの流星（流星は太陽が大地から發散
させる氣體だと思へられた）

今宵あなたの炬火持となり、

マンチュアへの道筋を照すのです。
ですから、もう少し居て下さい。まだいらつしやらなく
つとも。

ローミオ　捕へられようと、死罪にならうと、

あなたさへお望みなら、私は満足です。

では、向うの空の白みは朝の暈カゲではなく、

月神シシキの額の蒼白い反射だと申しませう、

又あれは雲雀ではない、その歌聲が

頭の上高く蒼空あまぞらに響きわたりはするが。

行かうといふ氣よりも、留まりたいが一杯です。

來れ、死の神よ、喜んで迎へる！　それがジュリエットの

願ひなのだから。

どうしました？　ジュリエットさん、お話をしませう。ま

だ夜は明けません。

ジュリエット　明けました。明けました。さ、早く行つて
下さい。早く！

あれは雲雀です。調子はづれに唄つて、
耳障りな亂れ聲、不愉快な甲高聲をしてゐます。

人の話に、雲雀の聲はやさしいとやら。

併しこの雲雀はあんまりやさしくもない、私達二人を別
れ／＼にしますもの。

又人の話に、雲雀と厭いやなひきとは、目を取り換へたと申

します。(醜い雲雀の目と美しいひきがへる。)
(の目とは交換の考へを起させた。)

あゝ、聲まで取り換へてゐたらよかつたに！

あの聲こそは私達を驚かして、抱き合つた腕かじなを離れさせ、
朝を招きの獵歌かりうたで、あなたをこゝから驅り立てます。

おゝ、行つて下さい、だん／＼明るく、明るくなつて來
ます。

ローミオ 日は明るく、明るくなり、私達の悲しみは暗
く、暗くなるばかり！

乳母、部屋に入り來る。

乳母 お嬢様！

ジュリエット 乳母？

乳母 お母様が、あなたのお部屋へお越してございます

よ。

もう夜が明けました。お氣をつけ遊ばせ。

乳母退場。

ジュリエット では、窓よ、光を入れて、生命を送り出し
ておくれ。

ローミオ 左様なら、左様なら！ もう一度接吻を、そ
したら降りて行きませう。

ローミオは降りて行く。

ジュリエット では、いよ／＼往いらつしやいますか？ 戀

よ、わが良人よ、わが切に愛する君よ！

一時毎に毎日、是非お消息たよりを聞かせて下さらなくては
けません。

一分の間にも、幾日といふ思ひがします。

おゝ、そのやうに算かへて行つたら、今度

お逢ひする時には、私は随分と年をとりませう！

ローミオ 左様なら！

機會をはずさず、

私の挨拶を懐かしの君に送ります。

ジュリエット おゝ、私達は、又逢ふことが出来ると思つ

て？

ローミオ 必ずあります。今日の悲しみは

やがて來る日の楽しい話の種になりませう。

ジュリエット　おゝ神様！　何だか縁起でもないことを考

へてよ。

降りて、下に立っていらつしやるところを見ますと、

なんだか、死んで、墓穴の底に居る人でも見るやうな。

私の目がかすんでるのでせうか、それともあなたのお顔

が蒼白なのでせうか。

ローミオ　ほんとに、私の目にもあなたがさう見えます、

つひ悲しみの溜息が私達の血を吸つたのです。さやうな

ら、さやうなら！

退場。

ジュリエット　おゝ運命よ、運命よ！　誰もお前のことを

移り氣だといふ。

移り氣なら、誠實で通つたあの人に、

何の御用があるの？　運命よ、移り氣でおゐで。

したら、あの人を長く引き留めないで、

返しておくれだらうから。

キャピュレット夫人　「内から」これ、ジュリエット！

起きておいでかい？

ジュリエット　誰だらう。呼んでるのは？　お母様だらう

か？

こんなに遅くまでお休みにならなかつたのか、それとも
こんなに早くお起きになつたのか知ら？

珍らしい、何御用あつて、こゝへ入らしたのだらう？

キャピュレット夫人登場。

キャピュレット夫人　まあ、どうしたの、ジュリエット！

ジュリエット　お母様、氣分が悪いのです。

キャピュレット夫人　いつまでも従弟の死んだのを泣いて

ゐるのかね？

どうしたの？　あなたは、涙で以て彼を墓から洗ひ出さ

うといふつもりなの？

洗ひ出すことが出来るにしても、生かすことは出来やし

ない。

だから、いゝ加減におよし、悲しみも大抵にすれば、愛

の深い證據になるが、

過ぎれば、いつも、智慧の足りないしになるんだか

らね。

ジュリエット　だけれど、こんな、感じずにゐられない不

幸は存分に泣かせて置いて下さいまし。

キャピュレット夫人　そんなことをしたつて、泣かれる人

が、

生き返つて歸つてくるわけではなし。

ジュリエット　歸らないとは思つても、泣かずに居られな
いのです。

キャピュレット夫人　ねえ、お前、お前はあれの死んだの
ばかり泣いて、

あれを殺した悪者が生きて居ることをお泣きではない。

ジュリエット　お母様、悪者とは？

キャピュレット夫人　あの悪者、ローミオだよ。

ジュリエット　「傍を向いて」悪者とローミオとは大變な違

ひ、

神様、あの方を赦して上げて下さいまし！ 私は無論で

す、心から。

そのくせ、あの人ぐらゐ、私の心を痛める人はありませ
ん。

キャピュレット夫人　それは、あの二心の殺人者が生きて

居るからだよ。

ジュリエット　さうです、お母様、この、私の手の達かな
いところに居るからです。

この私の外、誰も從弟の敵討する者がなければよいに！
キャピュレット夫人　この仕返しは私達がきつとします、

心配おしでない、

だから、もう泣くことはない。私はマンチュアへ人をや
ります。

あそこには追放の縁でなしが行つて居るのだから、
彼奴に滅多にない毒藥をくれてやらう。

すると忽ち、チボルトの道連れになるよ。

さうしたら、きつと、お前も氣が濟むだらう。

ジュリエット　本當に、私、どうしても氣が濟みません、

ローミオを一目——その死顔を——一目見るまでは。

可哀相な私の胸は、身内の者のためにそんなに惱んでゐ

るのです。

お母様、毒藥を持つて行く人をさへ

見つけて下されば、調合は私がいたします。

ローミオがそれを受取つたら、すぐと

安眠出來ますように。あの人の名を聞くと、

この心がかき亂されます、それに、傍へ行けもせず、

從弟を思ふ心のたけを、殺した

その男の肉身をかきむしつて見せることもかなはず！

キャピュレット夫人　その手段はお前が工夫するがよい。

使は私が見付けるから。

だが、今日はお前にいゝお話を持つて来たのだよ。
ジュリエット いゝことなら、こんな時には耳よりですわ。

それは何ですか？ どうぞお聞かせ下さい。

キャピュレット夫人 ほんとにお前はよく氣のつくお父様
をお持ちだよ、ジュリエット。

お父様はね、お前の氣を晴らさうと思つて、
めでたい日を俄かに定めて下さつた、

お前も私も思ひがけないその日を。

ジュリエット お母様、まあ珍らしい。一體それは何日な
の？

キャピュレット夫人 ね、あなた、今度の木曜の朝早くに

あの、華車な、お若い、氣高い

パリスの伯爵様が、聖ペテロ寺院で、

仕合せにもお前を嬉しい花嫁さんにして下さるのだよ。

ジュリエット まあ！ 聖ペテロ寺院と、ペテロ様にも掛
けて申します、

私は決してあの方の嬉しい花嫁にはなりません。

何といふ忙しないこと、私の良人にならうといふ方が、
まだ私のところへ申入れにおいでよもないのに、結婚し
なくちやならないなんて。

後生です、母様、お父様にお話し下さい。

私はまだ結婚するつもりはありません。若しするなら、
憎んでゐることを御承知のあのローミオとします、

パリスよりはましです……ほんとに急なお話したこと！
キャピュレット夫人 おや、お父様がおいでになつた。自
分でお話しなさい。

さういふ返辭をお前の口からお聞きになると、どうお感

じになるか。

キャピュレット並に乳母登場。

キャピュレット 日が沈むと、空氣は露を降らせるが、
わしの甥の日没には

すぐと雨だ。

どうだ！ 噴水かね、娘？ え、まだ泣いてるのか？

相變らず大雨か？ その小さな體一つが、

船にもなり、海にもなり、風にもなつて居る。

何故かと言へばだ、お前の目は、海と呼んで差支あるま
い。

相變らず涙で満干して居るから。お前の體は船で、

その鹽辛い潮の中に浮び、風はお前の溜息だ。

ところで、風は涙に、涙は風に向つて荒れてるので、

ひよつくり和でも来ればよし、でなければ、
お前の嵐に揉まれた體を覆へしてしまふ。——〔夫人に
向ひ〕こりや！

あの事をあれに話してくれたかな？

キャピュレット夫人 え、申しました、ですがお思召は有

難いが、厭だといふのです。

愚者は、お墓とでも結婚するがいゝ！

キャピュレット まあ、静かに！

何だといふんだい！ 厭だといふのかい？ 有難うとは

言はないのかい！

誇らしいとも仕合せとも考へないのかい？

わし達が骨折つて

あんな分にすぎた立派な方を婿と選んだのに。

ジュリエット 誇らしいとは申しかねますが、有難いとは

思つて居ります。

嫌なものをどうして誇らしいと思へませう。

でも、たとひ嫌なことでも、よかれと思つてして下さい

たことは、有難いと思ひます。

キャピュレット これ！ これ！ 何を理窟なんかこねる

のだ！ 何といふ？

「誇らしい」、「ありがたい」、「ありがたい」。
それでも「誇らしくない」、「わがまゝ娘め。

有難いも、有難くないもない、誇らしいも、誇らしくな

いもない。

今度の木曜までに、その結構な脚の節でも調べて置いて、

パリと一緒には聖ペテロの寺院へ行くんだ。

厭なら、ハイドル(罪人ヶ刑場)へ乗せても引つ張つて行く。

見たくでもない、青つ面の泣き虫め！ この引きずりめ！

この白蠟面め！〔キャピュレット、ジュリエットを打たんと

す〕

キャピュレット夫人 まあ、浅ましい、あなたは氣でも狂

つたのですか？

ジュリエット お父様、ひざまづいてお願ひいたします。

どうかお心を鎮めて、たつた一言私の申しますことを、

お聞き下さいまし。

キャピュレット 黙りをれ、お引きずりめ！ わがまゝな

不孝者！

いゝか、言つとくぞ、木曜日に教會へ行くんだ。

それが厭なら、以後わしの顔を見ようと思ふな。

いゝや、何も言ふことはない。答へる事はない、返事は

要らぬ。

この指がむづ／＼する。——これ奥、俺達は神様がこの子供一人しかおさづけ下さらなかつたのを怨みに思つてゐたが、

今となれば、此奴一人だけでも多過ぎる。

此奴のあることが却つて呪はしい。

恥かしいと思へ、下司女！

乳母　まあお嬢様がお可哀さうに！

旦那様、そんな口ぎたなく仰しやるものではありません。

キャピュレット　そりや、どうして、お利巧どの？　黙れ。

しやべりたいなら、むだ口仲間のところへ行つてやるがいゝ。あつちへ行け。

乳母　私、何も悪い事言ひやしません。

キャピュレット　はい／＼、さやうなら。

乳母　物を言つちやいけないんですか？

キャピュレット　黙れ、つべこべと阿呆めが！

むだ口仲間と酒でも飲みながら、誤託でも並べるがいゝ

こゝには用はない。

キャピュレット夫人　あなた餘り昂奮して居らつしやる。

キャピュレット　え、神も照覺、氣も狂ふわい。

晝も夜も、寝ても醒めても、仕事をしても遊んで居ても一人で居ても多勢と居ても、わしの心配は

彼女にいゝ配偶を見付けるといふことばつかり。

そして今、立派な御身分で、

結構な領地はあり、年こそ若けれ、教育も立派な、

世にいふ、名譽ある才能でぎ／＼詰め込んだ

男とはかうもあらうと思はれるほどに釣合の取れた紳士

を見付けてやつた。

すると、汚らはしいべそかきの阿呆、

泣き蟲の傀儡めが、丁度運の向いた潮時に

「お嫁には行きません。——好きになれませぬ。

年がゆきませぬ。後生ですから、堪忍して下さい」とぬかしくさる。

だが、お嫁に行くのが厭なら厭で、許してもやらう。

勝手なところへ行つて、草でも食つて居たらよからう。

もう家には置かないから。

よく氣を付けなさい、よく考へなさい、わしは冗談を言

つてるのではないよ。

木曜はもうちきだ。胸に手を當てゝ、よく考へなさい。

お前がわしのものなら、わしの好きな者にお前をくれてやる。

さうでなければ、首をくゞらうと、乞食をしよう、飢ゑて路傍で死なうと目由だ。

わしの魂に誓つて言ふ、わしは決して娘だとも思はず、わしの物何一つ、お前の役に立つと思つてはならんぞ。嘘ぢやない。よく考へるがいゝ。一旦誓つた事は決して變へぬから。

退場。

ジュリエット　雲の中から私の悲しみの底を覗いて、哀れ

と思す方はないのか？

おゝ、やさしいお母様、私を捨てないで下さいまし！

この婚禮を一月なり一週間なり、延して下さいまし、

それが出来なければ、婚禮の新床を

チポルトの寢て居るあの暗いお靈屋の中にこさへて下さいまし。

いますし。

キャピュレット夫人　何にも言ふんぢやないよ、一言だつ

てお前と話したくないから。

お前の好きなやうにおし。私もう知らないから。

退場。

ジュリエット　おゝ神様！——乳母や、何とかとりとめる途はないだらうか！

愛する良人はこの世に、神への誓ひは天國に在る。

良人が、この世を去つて、

天國から送つてくれなければ、その誓ひがどうしてこの

世へ、

戻つて来よう？　慰めておくれ。智慧を貸しておくれ。

——
あゝ、あゝ、天までが、私みたいな、

か弱いものに、悪だくみをなざるなんて！

お前は何と考へる？　何か一言でも嬉しい言葉を話して

くれないの？

乳母や、慰めてよ。

乳母　えゝ、これがいい慰めですよ。

ローミオ様は追放のお身、世間がどうならうと、

歸つて来て、何とも言ふ筈がありません。

もし又歸つて来るにしても、こつそりやつて来る外はありませぬ。

そこで、かういふ風になりました以上、

あの伯爵と御結婚なさるが上分別だと思ひますよ。

お、あの方は本當に可愛い方!

ローミオなんて あの方に比べものにもなりません。驚
だつて、

パリス様のお目のやうに、青くつて、生々して居て、
綺麗ではございませんよ。この心柄に誓ひます、

こんどの御縁組はきつとお仕合せです。

前のよりは、圖抜けてゐますもの。萬一さうでないに
しろ、

前のは死んでしまひました。死んでゐないにしても、死

んだ方がましですもの、

この世に生きてはゐても、あなたの何の役にも立ちませ
んから。

ジュリエット それは本心で言ふのかえ?

乳母 え、本氣です。

嘘でも言つたら、それこそ天罰を受けます。

ジュリエット さうともぞ。

乳母 え、?

ジュリエット まあ、お前、本當に吃驚するほど立派に慰

めておくれでしたわ。

あちらへ行つて、お母様にね、私、お父様を

御立腹させて悪かつたから、ローレンス様の庵室へ、
懺悔をして、罪を許していただきに行つたと言つておく
れ

乳母 承知いたしました。いゝお考へでございます。

退場。

ジュリエット 老惡魔! お、極惡の鬼婆!

私に誓を破らせようとするのと

前には幾千度となく比べものゝないやうに、

譽めたゝへたその同じ舌で、私の夫の悪口を言ふのと、

どつちがよけい罪だらう?——相談相手はもうお止め、

お前と私の心とは、これからは別々だよ。

私はローレンス様のところへ行つて、救ひの道を聞いて

来よう。

何もかも破れても、死ぬるだけの力は、この身に残つて

ゐる。

退場。

第四幕

第一場 —— 僧ローレンスの庵室。

僧ローレンス並にパリス登場。

僧ローレンス 木曜日ですと？ 幾日もありませんな。

パリス 舅しよとのキャビュレットどのが、その日にしたいと言つて居ります。

私にも別段それを延ばす事情もないので。

僧ローレンス 令嬢の氣持はまだ知らないと言つたな。

これは穩たゆまかでない、どうも好このもしいない。

パリス チポルトの死を法外に泣き悲しんで居られるので、

私の意中を語る暇ひまは殆んどなかつたのです、

愛の神ヴィナスは涙の家では笑顔あかほを見せません。

ところであの人の父親は、娘があんなにまで、

悲しみに身を任まかせることを危険なことと考へられ、

御自分一個の分別で、私達の婚禮を急がせ、

それで以て涙の洪水を喰ひ止めようとなすつたのです。

獨り籠ひこつてあまり思ひ過ひごしてゐることも、

慰め相手でもあれば、追つ拂ふことも出来ませうかう。

これで、この急いそぐ理由わけがお分りでございませう。

僧ローレンス 「傍白」遅らさなければならぬ理由わけを、知

らない身ならいゝのだが。……

あれ、令嬢が、こちらへやつて來られる。

ジュリエット登場。

パリス いゝ所でお目に懸りました、いとしい、わが妻！

ジュリエット でもございましてせう、私が人妻になり

ましたらば。

パリス 今度の木曜には、その「なりましたらば」が、き

つとならねばならぬことになりますよ。

ジュリエット きつとならねばならぬものなら、なりもし

ませう。

僧ローレンス それこそ確かな道理だ。

パリス あなたは教父様に懺悔を聞いて戴きに見えたの

ですか？

ジュリエット その御返事をするにはあなたに懺悔をす

ることになりませう。

パリス　教父様に私が好きだといふことを隠さないで言つて下さい。

ジュリエット　あなたに懺悔致します、私、或るお方が大好きですと。

パリス　その或る方とは屹度私のことでせうな。

ジュリエット　若しさうとすると、それは餘計値打があることになりませう、

あなたに面と向つてどなく、居ないところで言ふのですから。

パリス　可哀さうに、あなたのお顔は涙で大層お糞れた。ジュリエット　涙がそれほどの事をしたつて、大した手柄ぢやありません。

その意地悪がなくなつて、もと／＼いゝ顔でもありませんもの。

パリス　そんなことを仰しやつて、あなたこそ涙で汚すよりも餘計お顔に濟みませんよ。

ジュリエット　本當のことを言ふのは、謔にはなりません、

そして私の言つたことは、私に面と向つて言つた事です。

パリス　あなたのお顔は私のものです。それをあなたは誹りました。

ジュリエット　さうかも知れませんが。私の顔は私のものぢやないのですもの。……

教父様、今お手際でみらつしやいますか、でなければ夕の彌撒に参りませうか？

僧ローレンス　いや、物思ひの教女よ、今暇です。——パリスさん、一寸こゝを外して戴きませう。

パリス　これは／＼お勤めの邪魔になつてはならない！ジュリエットさん、木曜の朝早くお起ししますよ。

では、それまで左様なら、この聖い接吻もしまつて置いて下さい。

退場。

ジュリエット　おゝ戸を閉めて、そして閉めてしまつたら、こゝへ来て、一緒に泣いて下さいまし。望みも絶え、手段も絶え、救ひも絶えました。

僧ローレンス　あゝ、ジュリエット、仰しやらすともあなた悲しみは分つて居る。

わしもどうしてよいか分らない。あなたは、否でも應でも、今度の木曜にはあの伯爵と婚

禮しなければならず、

どうあつても延ばすわけにゆかぬと聞きました。

ジュリエット 法師様、そんな話を聞いたなんぞと仰しや

つて下さいませぬ。

どうしたら、さうせずに済むか、それが教へて戴けない

位ゐなら。

あなたのお智慧で、何とか助かる手段てだてが考へつかぬもの

なら、

どうぞ私の決心を上分別だと仰しやつて下さいませし。

さすれば、私、この短剣ですぐこの縁組を破ります。

神様が、私とローミオの心を結びつけ、あなたが二人の

手を結んで下さいました。

あなたがローミオに結びつけて下さつたこの手が、

他の證書の封印を捺おししたり、

眞實な私の胸が、ふたこころ二心を抱いて、

あだし男に磨こく位ゐなら、この短剣で胸も手も切つてし

まひませぬ。

ですから、あなたの長い間の御経験から、

さし當つての智慧をお貸し下さいませし。それも出来ない

としましたら、

このきつい苦難と私との間に、

むごたらしいこ 短剣が審判官となり、

あなたのお年齢と智慧の力で、私一人の面目を立て

て

下されなかつたものを、さばいてお目にかけます。

さ、早く、仰しやつて。私は死にたいのです、

あなたに、よい御思案もございませんでしたら。

僧ローレンス まあ、お待ち、教女ひなめよ。希望のやうなもの

が見えて来た。

尤も、それを果たすには、私達が避けようとして居るこ

とが並々ならぬものだけに、

死物狂ひの動作しんぶつくるひのどうさが要るんだがな。

パリス伯と一緒に居る位ゐなら、

一層死んでしまふといふ意志の力がそなたにあるなら、

この辱はにかしめを免れるためには、

死ぬと同様の事も、そなたにやつてやれぬ事はないやう

だ。

死神とも組み打ちして、この辱はにかしめを遁のがれようといふの

だから、

断行する決心なら、その手段てだては教へて上げる。

ジュリエット　おゝ、パリスと結婚する位なら、向うのあの塔の上から跳べと言つて下さい、追象の出る道を歩け、蛇のゐる洞に潜めと言つて下さい。吠え狂ふ熊と一緒に繋いで下さい。

から／＼と鳴る死人の骨や、臭い脚や、

黄ろい顔なしの頭蓋骨が四邊一杯に散らかつてゐる

墓所へ夜な／＼私を閉め込んでも下さいまし。

それとも新佛の墓へ入つて、

死人と一緒に墓衣で姿を隠せと仰しやつて下さい。

聞いたばかりで身の毛のよだつこと下さへ、

可愛い人の無垢な妾として生きる爲めになら、

私、怖いとも心配とも思はずに、見事やり遂げます。

僧ローレンス　では、まあ静かに。家へ歸つて、愉快さうな顔をして、

パリスと結婚することを承知下さい。明日は水曜。

明日の晩は一人で寝る工夫して、

部屋に乳母も寝かさぬがよい。

この硝子鏡を持つて行つて、寢床へ入つたら、

この薬水を飲んでしまひなさい。

と、忽ちそなたの血管に、

冷たい、眠いやうな氣が傳はつて来る。いつもの脈が搏たなくなつて、止んでしまふ。體は冷え、呼吸は止まり、どうしても生きて居る證據はなくなる。

唇や頬の蒼白色も褪せて、

青白い灰と變り、眼の窓は下りて、

死神が生命の日ざしを鎖した時のやうに

體のどの部分も、しなやかさの支配を奪はれて、

硬くこはばり、冷たくなつて、一見死人そのまゝになる。

かうしたこの死の假の姿となつたまゝ、

四十と二時過ぎ、

それから、氣持のいゝ眠りから覺めるやうに目が覺める。

さて、朝になつて花婿が來、

そなたを床から起さうとすると、そなたは死んで居る。

すると、わが國の習慣に依つて、

棺臺の上に、晴着を着て、掛物もかけず、

キャビレット家の一族がみんな臥て居る、

あの昔ながらの墓穴に連れて行かれる。

そのうち、そなたが目覺ます頃までには、

わしが手紙をやつて、ローミオにこの計畫を知らせ、

こゝへ來させる。そしてわしと二人で、
そなたが目覺ますのを待つて居て、その晩すぐ
ローミオがそなたをマンチュアへ連れて行く。
かうすれば、目前の恥辱を免れることが出來よう、
氣が變るか、女々しい恐怖の爲めに、
實行の勇氣が減れば兎も角もだが。

ジュリエット 下さい、下さい！ おゝ、怖ろしいなんて
私には仰しやいますな！

僧ローレンス 靜かに。歸つたら、十分に覺悟してかゝ
るので、マンチュアへは急ぎ僧をやり、
あなたの御良人に宛て、私の書面を贈ることにしよう。
ジュリエット 戀よ、私に力を與へて下さい！ すれば力
がきつと救ひを與へてくれませう。

教父様、さやうなら！

第二場——キャピュレット家の大廣間。

キャピュレット、キャピュレット夫人、乳母並に二人の
下男登場。

キャピュレット こゝに書いてあるだけのお客さんと呼ん
でおいで——〔下男甲退場〕

おい、お前は腕利きの料理人を二十人ほど雇つて來い。

下男乙 全部腕利きを揃へて御覽に入れます、自分の指
が嘗められるか、嘗められねえか、試して見ますから。
キャピュレット どうして、そんなことをするのか？

下男乙 全くですよ、旦那、自分の指が嘗められねえや
うなのは、碌な料理人ぢやござえませぬ。ですから、
そんなやうな奴は連れて參りやしません。

キャピュレット 行つた、さあ行つた。〔下男乙退場〕
まだ随分と準備の出來ないものがあるぞ。

え、娘はローレンスさんの所へ行つたかい？

乳母 はい、おいでになりました。

キャピュレット ふん、あの方のことだ、娘の爲めになる

事があるかも知れん。

あいづ、氣むづかしい、我儘者だ。

ジュリエット登場。

乳母 あれ、お嬢様が晴やかなお顔付で、懺悔から歸つ
ていらつしやいました。

キャピュレット どうした、強情つばり！ 何處をほつ、

いて居たんだ。

ジュリエット あなたや、あなたのお言ひつけに

叛いて悪かつたといふことを

教はつて居りました。ローレンス様の

お言葉に従ひまして、こゝにかうひれ伏し、

お父様のお許しを願ひます。御免下さいまし。お願ひで

ございます！

これからは、いつでもお父様のお言ひつけ通りにいたします。

キャピュレット 伯爵の所へ使をやり、明日の朝、この縁

を結びたいとかう言ひなさい。

ジュリエット あの若様には、ローレンス様の庵室でお目

に掛り

しとやかといふ鬨を越えぬほどの、

相應しい愛のしるしを差上げました。

キャピュレット さうか、それはよくした。よくした。さ

あお立ち。

さうなくてはならぬ。——わしはともかく伯爵に逢はう。

こら、行けと言へば、そしてあの方をこゝへお連れ申せ。

いや、神様も照覽あれ！ あの尊い法師は、

この市中で誰も彼も恩義を受けてゐる。

ジュリエット 乳母や、一緒に部屋へ来て、

私が明日着たらいゝと思ふ

晴着を選び出しておくれでないか？

キャピュレット夫人 いえ、木曜までいゝ、まだ日は十

分にあります。

キャピュレット いや、乳母、一緒に行つておやり、私達

は明日教會へ行くことにしよう。

ジュリエット並に乳母退場。

キャピュレット夫人 支度が間に合ひかねませう。もうす

ぐ夜ですもの。

キャピュレット なあに、わしが駆けずり廻つて、

萬事必ずちやんとして見せよう。

そなたもジュリエットのところへ行つて、着附の手傳ひを

しなさい。

今夜わしは寝ないぞ。まあいゝから、任して置きなさい。

今度だけは主婦の役割を勤めるから。——おい、こら！

みんな表へ行つてしまつた。よし、わしが自身で

パリス伯のところへ出掛け、明日の準備をして貰はう。

胸の重荷もこれで下ろした。

あの我儘者があゝも改心してくれたからだ。
皆々退場。

第三場 —— ジュリエットの部屋。

ジュリエットと乳母登場。

ジュリエット さうね、その着物が一番いいわ。それはさ

うと、乳母や、

後生だから、今夜は私一人つ切りにして置いておくれ。
だつて、私いろくお祈りをして、

神様の御心を和らげ、私の身の上に微笑んで戴かねばなり

ません、

お前もよく御存じの、私は邪まで、罪だらけなもの。

キャビュレット夫人登場。

キャビュレット夫人 え、忙しいかね、どう？ 手を貸し

ませうか？

ジュリエット いえ、お母様、いゝのよ、明日の儀式に

入用なだけはもう選んでしまひました。

ですから、どうか、もう私一人つ切りにして、

乳母も、今夜はお母様のお部屋に置いて下さいな。

突然の儀式で、

さぞお手不足でございませうから。

キャビュレット夫人 ではお休み。

床へ入つてゆつくりお休み。疲れてちや駄目だから。

キャビュレット夫人と乳母退場。

ジュリエット 左様なら！ 又何時お目にかゝれますこと

やら。

かすかな、冷たい恐怖が、この血管中にぞく／＼して、
生命の熱を凍らせてしまひさうだ。

もう一度二人を呼び戻し、慰めて貰はうかしら。……

乳母や！ ——こゝへ来て貰つたつて仕方がない。

私の陰惨なこの一場は、私一人で演らなければならぬ。

さあ、續よ。

この混合薬が何の効能もなかつたらどうだらう？

さうしたら私、明日の朝、結婚する事になるのだらうか？

いえ／＼、——これが禁止役になる、——お前はそこに轉

がつておゐで。「と短剣を下に置きながら」

若しかすると、毒藥だつたら？ 法師が、

私を殺さうと、巧みに設けた毒だつたら？

前に私をローミオ様と結婚させたのだから、

今度又結婚としては、自分の顔に關はると思つて。

さうぢやないか知ら。いや、そんなことのある筈はない。今日が日まで、あらたかな方で通つた人ですもの。

ひよつと、墓の中に置かれてから、

ローミオ様が助けに來ないさきに、

目を覺ましたら？ それこそ怖ろしい！

墓窖の中で、息が詰りはしないだらうか？

あの汚れた口へは、淨い空氣が入らないのだから。

そしてあそこで、ローミオ様が來ないうちに、窒息して

死んだら？

よしんば、死なないにしても、ありさうな事、

死と夜の身の毛のよだつ想像が、

其處の怖ろしさと一緒になつて——

墓窖で、昔からの納骨所であれば、

幾百年もの間の、

死んだ先祖の骨が詰つて居り、

血まみれなチポルトが、土に歸つてまだ間もなく、

墓衣を着けて腐りかゝつて居り、又人の話に聞くと、

夜の或る刻限には、精靈が出入りするといふ——

あゝ、あゝ、若しかすると、

その忌はしい臭ひと、またそれを聞いたら、生きた人間

は狂亂するといふ、土から引き抜かれる曼陀羅華のや

うな叫び聲(マンドラゴラは根の形人體に似て抜く時本文のやうな異象ありと迷信する)で私の目を

覺ますのが早すぎたら——

おゝ、目は覺ましたが、かういふ忌はしい恐怖に圍まれて

氣が顛倒するやうなことはないだらうか？

心が狂つて先祖の手足に戯れたら？

切りさいなまれたチポルトの墓衣を引き脱がしたなら？

猛り狂つて、遠い昔の御先祖達の骨を、

棍棒のやうに振りまはして、絶望のこの脳味噌をたゞき

出したなら？

おゝ、あれ、彼處に！ 従弟の亡靈が、

自分を細身刀の先で刺したローミオ様を

探して居るやうな氣がする。——お止し、チポルト、お

止し！——

ローミオ様、参りますよ！ これを、私、あなたの爲め

に飲みます。

寢床に倒れる。

第四場 —— キャピュレット家の廣間。

キヤビュレット夫人と乳母登場。

キヤビュレット夫人　これ、この鍵を持つて行つて、もつ

とお薬味を取つて来ておくれ、乳母や。

乳母　料理部屋では棗椰子や、まるめるが要ると言うて

居ります。

キヤビュレット登場。

キヤビュレット　さあ、動いた、動いた、動いた！ 二番

鶏が鳴いたぞ。

明けの鐘は鳴つた。もう三時だ。

アンヂェリカや、焼き物はいゝかね。(アンヂェリカは夫人乳母の何れを指すが不明)

費用など構ふことはない。

乳母　彼方へ行らつしやい、ほんに忙しいお方です、

あちらへ。

寢床にお入りなさい、本當に、明日は御病氣が出ますよ。

今夜お休みになりませんと。

キヤビュレット　なんの、なんの。えッ！ 俺はもつとつ

まらないことで、

これまでにも夜明ししたことがあるが、病氣になどなつ

たことはない。

キヤビュレット夫人　成程、あなたは若い時には随分と夜

歩き屋でゐらした。

今ならそんな夜明しは、夜明ししても見張つて差し上げ

ますよ。

キヤビュレット夫人と乳母退場。

キヤビュレット　嫉妬婆さん、嫉妬婆さん！

三四人の下男、焼串、丸太棒、籠など持つて登場。

おい、こら、

何だ、それは？

下男甲　料理番が要るといふんですが、旦那、何だか私

や知りません。

キヤビュレット　急いだ。急いだ。「下男甲退場」やい、

もつと乾いた丸太棒を持つて来い。

ピータを呼べ。彼奴が在場を教へてくれるから。

下男乙　これでも丸太棒ぐれえめつける頭はくつゝけて

居ります。

そんなことで、ピータの迷惑は掛けません。

退場。

キヤビュレット　やれく、巧いことを言つたな。陽氣な

娼婦の餓鬼奴！

棒を探すにやもつてこいのほんくらだ。「下男乙退場」や、これは、夜が明けたぞ。

今に伯爵が樂手を連れてやつて来る。「奥にて音楽」さうすると言つて居たから。もう来たぞ。——
乳母！——これ！ おい、こら！ 乳母といふに！

乳母再び登場。

さあ、ジュリエットを起して、早く、飾り立てるんだ、俺はパリスどのお話をして来るから。——早く、大急ぎ、大急ぎ、お婿さんがもう来るぢやないか。
大急ぎだといへば。

兩人退場。

第五場 ——ジュリエットの部屋。

ジュリエット、ベッドの上に横はつてゐる。

乳母登場。

乳母

お嬢様！ お嬢様つたら！ ジュリエット様！……

よくお休みになつて、この人は。……

これ、小羊さん！ もし、お嬢様！ どうしたの、お寢坊さん！

もし、お嬢さんたら！ お嬢様！ いゝ方！ ね、花嫁さん！……

おや、うんともすんとも仰しやらないの？ 成程、少しでも眠てのよとなさる譯だ。

一週間分寝ておんでなさい。きつと明日の晩パリス伯爵様が火繩銃をお立てなされたら、

碌々休む暇もありはしないから。——はてな、マリヤ様、アーメン、何てまあ、よくお休みになつて居ること！

是非、起さなくつちや。……お嬢様、お嬢様、お嬢様！

……

さうだ、伯爵様に寝てみらつしやるところをお見せするが、いゝわ。

さうしたらびつくりして飛び起きなさるでせう。さうぢやありませんか？

カーテンを引きのける。

おや、着物を着たままで！ 衣裳を着けて、又横になつたの！

どうしたつて起さなくつちや。……お嬢様！ お嬢様！ お嬢様！……

あら、あら！ 誰か、誰か！ お嬢様がお亡くなりでございます！

おゝ、こんな悲しい目を見ようとは！

これ、氣付けに強い酒を、おゝ！ 旦那様！ 奥様！

キヤビュレット夫人登場。

キヤビュレット夫人 どうしたの、こゝの騒ぎは？

乳母 おゝ、何といふ悲しい日！

キヤビュレット夫人 何事なの？

乳母 御覽下さい、御覽下さい！ おゝ悲しい！

キヤビュレット夫人 おゝ、おゝ！ 娘、私のたつた一つ

の生命、

生き返つておくれ。目をお開け。でなきやあ、私もお前

と一緒に死んぢまふから！

誰か来ておくれ！ 誰かお呼び。

キヤビュレット登場。

キヤビュレット 何といふことだ、ジュリエットを出さない

か、お嬢様がおいでだ。

乳母 亡くなられました、おかくれです、お亡くなりになり

なりました。あゝ悲しい！

キヤビュレット夫人 あゝ悲しい、死にました、死にまし

た。死んでしまひました！

キヤビュレット これ！ わしにお見せ。……おゝ！ 冷

たくなつてゐる。

もう血は動かず、手足もこはゞつて居る。

生命とこの唇は、とつくの昔に別れ／＼になつた。

死神があれの上に降りた様は、時ならぬ霜が、

野邊で一番しをらしい花に降りかゝつたやうだ。

乳母 何といふ悲しい日！

キヤビュレット夫人 何といふ悲しい時！

キユビュレット 死神めは、こゝから彼女をひつさらつて、

俺を嘆かせたが、

この舌まで縛つて、物も言はせない。

ローレンスとバリス、樂手をつれて登場。

僧ローレンス さ、花嫁御は教會行きの支度、が調ひまし

たかな？

キヤビュレット 一行く支度は出来ましたが、二度と歸つて

は参りません。

婿どの！ あなたの婚禮の前夜、

死神様があなたの妻と添臥をしましたよ。見て下さい、

あそこに寝て居ります、

花と見た娘も、彼のために色褪せました。

今では死神がわしの養子、わしの後嗣。

わしの娘は、死神が娶つてしまひました。わしも死んで、

何もかも死神にくれてやります。生命も身代も、皆な死

神のものだ。

パリス 長い間、今朝の顔を見たいと憧れてゐたのに、

こんな光景を見せてくれるのか？

キャピュレット夫人 呪はしい、不仕合せな、情ない、憎

らしい今日といふ日！

「時」が、その辛い不斷の巡禮の中でも、

初めて會つたほどの一番悲しいこの時間！

たつた一人の、たつた一人の可愛い兒、

樂しみと、慰めの一粒種、

それを酷たらしい死神が見えぬ所へ、攫つて行つてしま

ひました！

乳母 おゝ悲しい！ おゝ悲しい、悲しい、悲しい！

こんな悲しい日に、こんなつらい日に、

私は一度も、一度も、逢つたことはありません！

おゝこの日！ この日！ この憎らしい日！

こんな不吉な日を見たことがない。

おゝ悲しい、おゝ悲しい今日の日！

パリス 騙され、仲を裂かれ、誣ひられ、憎まれ、殺さ

れたのだ！

憎いとも憎い死神め、お前の爲めに騙された。

残酷な／＼お前にすつかり背負投を喰はされた！

おゝ戀人よ！ おゝ生命よ！ いや、生命ではない、死

んでしまつた戀人よ！

キャピュレット 見下げられ、苦しめられ、憎まれ、迫害

され、殺されたのだ！

慰め難い時よ、何だつてお前は今頃来て、

わし達の祝ひを殺すのか、殺すのか？

おゝ娘よ！ おゝ娘よ！ わしの魂、もう今ではわしの

娘ではない！

お前は死んだのだ！ あゝ、わしの娘は死んだのだ。

そして、娘と一緒に、わしの喜びはすつかり埋められて

しまつた！

僧ローレンス 靜かに、これ、恥かしいことぢや！ 混亂

を治すものは、

かうした混亂の中にはないぞよ。この美しい娘御は、

天と、それからあなたと、兩方のものだった。ところが、

今はすっかり天のものとなつた。

その方が娘御にはいゝのだ。

娘御の中のあなたの持分もつぶんを死から守ることは出来ない。ところが、天は永遠の生命の中にその持分を保留ほりぞなされる。

あなたがお望みになる一番のことは、お嬢さんの出世だつた。

いゝ御身分になられゝばそれがあなたの天國だつた——

それなのに今あなたは、お嬢さんが出世なされ——

雲の上までも、天そのもの程にも、登られたのを見て、

お泣きになるのか？

おゝさういふ愛し方ではお兒を不祥に愛しなさるといふもので、

娘御が安らかにゐられるのを見て、却つて氣を狂はしたといふもの。

結婚してから長命するのが良縁だとは言へない。

却つて、若く結婚して死ぬ方が良縁といふもの。

涙を拭うて、この美しい死骸の上に、

迷迭香ミセギクを挿し、習慣しよはんに従つて、

晴着はれぎを着せて教會へお運びなさい。

愛に溺れた人情は皆人に嘆けとは命ずるが、

弱い情の涙は理智の笑ひ草になる。

キャピュレット 祝ひにと命じて置いた一切を、

本来もとの役目を止めて、不吉な式に變へるがよい。

祝ひの樂がくは、憂鬱な鐘の音に、

婚儀の祝杯は、悲しい埋葬の馳走に、

嚴げんかな讚美歌は、陰氣な挽歌に變へてしまへ。

婚姻の花は、葬られる死骸に役立たうし、

何も彼も、反對たいごぢや。

僧ローレンス さあ、内へお入りなさい——。奥さん、

あなたも御一緒に。——

パリスさん、あなたも、——皆さん、

この美しい死骸を墓所迄送つて行く用意をして下さい。

神様は、あなた方に何か悪いことがあつたので、不機嫌

な顔に向けて居られる。

その高い御意志みごいしに逆らつて、これ以上お怒らせ申しては

ならない。

退場。

キャピュレット、キャピュレット夫人、パリス並に併
樂手甲 樂器をしまつて、歸つてもいゝのだらう。

乳母 あゝ、皆さん、しまつて下さい、しまつて。

御覽の通り、お氣の毒なわけですから。

乳母退場。

樂手甲 はい、これは全く、お氣の毒な粹です、修繕したがよろこばいませう。

ビータ登場。

ビータ 樂人、おゝ樂人さん、「心の安き」を一つ頼むよ、「心の安き」を。おゝ、俺を生かして置かうといふのなら、「心の安き」をやつてくれえ。

樂手甲 何だつて「心の安き」をやるんです？

ビータ おゝ樂人さん、だつて俺の心は自分で「わが心憂ひに充つ」を奏つてるからだよ。おゝ、何か愉快な悲しみの曲をやつて、俺を慰めてくれえ。

樂手甲 悲しみの曲は駄目だよ。今は音楽などをやる時

ぢやない。

ビータ ぢや、やらねえのか？

樂手甲 やらん。

ビータ やらなきや、みつしりくれてやるぞ。

樂手甲 何をさ？

ビータ 大丈夫、金ぢやあないぞ。

お前達にや、門カド附けの名をくれてやる。

樂手甲 ぢやお前さんにも從僕の名をあげるよ。

ビータ ぢやあ從僕の腰の物が貴様の脳天に參るぞ。俺は貴様の調子外れに我慢がならねえ。ひとつ調子シヤをたたき直してくれよう、どうだ、直つたか。

樂手甲 いや、直つた、直つた。

樂手乙 お願ひです、その刃物ハモノは引つ込めて、智慧の方を出して貰ひませう。

ビータ では智慧で參るぞ！ 鐵の智慧で貴様達を打ちのめして、鐵の刃物は引つ込めてやらう。男らしく返

答しろ。

〔唄ふ〕

かきむしる悲しみに、胸いたみ。

うれはしき憂ひに、心沈む、

その時、樂は、銀の音もて――

何んだつて「銀の音」だの、何んだつて「樂は銀の音もて」だ？ どうかね、サイモン・キャットリンゲ？ (一種の統でもある、名を知らぬ故でたために言ふ) (樂器の名)

樂手甲 それはね、あんた、銀貨にはいゝ音があるからだよ。

ピータ 駄目！——ヒュー・レベック(三絃提琴の名でもある) お前はど

う？

樂手乙 「銀の音」とはね、音樂家は銀貨の爲めに演奏するからだよ。

ピータ これも駄目と——ジエームス・サウンドポスト

(此樂器の腹のし、んはりでもある) お前はどうかね？

樂手丙 實は、何と申していゝやら。

ピータ おゝ、これは甚だ失禮いたしました、お前さん達は唄歌ひだつたのだ、わしが代つて答へて上げる。「樂は銀の音もて」といふのはな、音樂家といふのは、鳴らしたつて、金貨にはならないからだよ——

〔唄ふ〕

その時樂は銀の音もて

急ぎ來つて救ひを與ふ。

ピータ退場。

樂手甲 あいつ、何といふやくざ野郎だらう！

樂手乙 くだばつちまへ、畜生！——さあ、入らう。

お悔客の來るのを待つて、御馳走にでもありつかうよ。

皆々退場。

第五幕

第一場 —— マンチュア。街頭。

ローミオ登場。

ローミオ 若し眠なりがらに見る媚びるやうにも眞實らしい幻想が、信じてよいものなら、

私の見た夢は、嬉しい消息の近い前兆だ。
この胸の主人は、心安らかにその王座に就き、

今日は日がな一日、例にない元氣で、
楽しい想ひに、足が地につかない。

夢に、私の死んであるところへジュリエットがやつて來た、
死人が物を考へるなんて、可笑しな夢さ。

それから私の唇へ接吻して、生命を吹込んだので、
私は生き返り、王様になつたのだ。

あゝ／＼！ 遂げられた眞の戀なら、どんなに楽しいことであらう。

その影だけでも、かうも嬉しいのだから！

バルサザー登場。

あゝ、ヴェローナからの消息だ！——どうだ、バルサ

ザー！

お前、法師からの手紙を持って来たのではないのか？

姫はどうかね？ 父上はお達者か？

私のジュリエットはどうして居る？ それをもう一度尋ね

るのだ。

彼女さへ無事なら、何も悪いことなどありやうはないの

だから。

バルサザー それなら、至極無事で居らつしやいます。

何も悪いことなど、ありやうはございません。

お體はキャピュレット家の納骨堂に眠つて居られますし。

魂は天の御使達と一緒に生活してゐらつしやいます。

私はあの方が御一族の墓所に入られたのを見まして、

すぐさま大急ぎでお報せに参りました。

このやうな悪い報せを持つて参つて、申譯ありませんが、

何事によらずお報せするのは、お言ひつけになつた私の

役目でございますから。

ローミオ それは眞實か？ では、星よ、もうお前を信

じないぞ！——

ローミオ お前は私の宿を知つてゐる。インキと紙を

持つて来ておくれ。

それから早馬を雇つて貰ひたい、私は今夜立つ。

バルサザー 且那樣、お願ひでございませう、どうぞお氣

をお鎮め下さいませし。

お顔色も蒼白めて険しく、何かお思ひ詰めになつてゐら

つしやるやうに見えます。

ローミオ 馬鹿な、お前の思ひ違ひだ。

あちらへ行つて、言ひつけたことをするがいゝ。

お前、法師のお手紙は持つて居ないのだね？

バルサザー 持つて居りません、且那樣、

ローミオ どうでもいゝわ。さ、行つて、先刻言つた馬

を雇ふのだ。ちき一緒になるから。

バルサザー退場。

おゝ、ジュリエット、今夜は一緒に寝るのだ。

この上はその方法だが……おゝ悪心よ、お前は素ばしつ

こく。

絶望した人間の考への中に入つて来るのだらう！

さうく、この邊りに藥屋があつたつけ、

奴はこゝいらに住んで居た筈だ。この間見た時は、

ずた／＼の襤褸を着、額を伏せて

藥草を選りわけてゐたが、顔は瘡せ細り、鋭い貧乏に骨まですりへらされてゐた。

そして、その貧しい店頭には、龜の甲が掛つて居り、剝製の鰐魚や、いやな形をした

魚の皮などがあつた。棚のまはりには

みすぼらしいほど僅かの空箱、

緑色の壺、膀胱、氣の抜けた種子、

荷繩の残りや、古びた齋微なんぞを

まばらに散らかして、見窄しく店を飾つて居た。

この貧しさを見て、私は獨語を言つたものだ、

マンチユアでは毒を賣れば早速死刑だが、

それでも、今もし毒を求める人があつたら、

こゝにそれを賣る男が居るぞと。

おゝ、その時の考へが、私のこの必要を豫言したのかも

知れない。

そしてあの貧しい男から、そいつを賣つて貰はなくしては

ならぬ。……

かうと、これがその家に違ひない。

休日だから、貧乏店も閉つてゐるな。——

おゝい！ 藥屋ツ！

藥屋登場。

藥屋 誰だね、そんな大きな聲をして。

ローミオ こゝへおいで、君。君の貧乏は分つてゐる。

さ、この四十兩を取つて、

毒を一匁ほど賣つてくれないか、

血管中を悉く行き渡るしろもので、

世にあき果てた飲主を、すぐ死なしてしまふやつ、

若しくは五體から息を逐出すことの素早さは、

激しい火藥が火を受けて、

恐ろしい大砲の筒から飛び出すほどなのが欲しいのだ。

藥屋 さういふ生命取りの藥は持つては居ります。でも

マンチユアの法律では、

それを賣つたものは、誰でも死罪でございます。

ローミオ 丸裸で、困り切つてゐても、

それでも死ぬのは怖いのか？ 飢は煩に、

窮迫は眼に、侮辱貧困は背にぶら下つて居る。

この世も、この世の掟も、君の味方ぢやない。

この世が君を金持にするやうな掟を出さない以上、

いつそそんな掟を破つて貧乏を止め、これを取つて置く

がよい。

薬屋 本心ではないが、貧乏が御言葉に従はせませす。

ロミーオ その本心に拂ふのぢやない、貧乏に拂つて上げるのだ。

薬屋 これをお好きな飲みものの中へ入れて、飲んでしまひなさい。お前さんに

二十人力があつても、忽ち片づいてしまひます。

ロミーオ さあこれがお金、人の魂にはこの方がもつと悪い毒だ。

この厭な世間で、ひどい人殺しをやるのはこれで、

君が賣つてはいけないこのけちくさい複合薬ではない。

毒を賣るのは私で、君の賣るものは何でもありはしない。

さやうなら、食物を買つて肥るがいよ……

さあ、毒ではない興奮劑よ、一緒に

ジュリエットの墓まで行かり。そこでお前に是非用があるのだから。

兩人退場。

第二場 —— 僧ロレンスの庵室。

フライヤー僧ジョン登場。

僧ジョン フランシス宗の法師様！ もし〜。

僧ロレンス登場。

僧ロレンス あれはジョン僧の聲に違ひない。—— マンチュアから、よく歸つてお出でだ。ロミーオの返事は？

それとも心持を手紙にしてあるなら、それを見せて下され。

僧ジョン いや、同伴にしようと思つて、同じ宗旨の跣

足僧を探しに出かけ、

この市で病家を見舞つて居るのを見つけましたところ、

町の検疫官は、私共兩人が、

怖ろしく疫病のはやつてゐる

僧院にゐた者と疑ひ

戸といふ戸に封印をして、出してはくれません。

で、マンチュアへの急用も、そこで停められてしまひまし

た。

僧ロレンス では誰がロミーオのところへ私の手紙を持つて行つてくれたのだ？

僧ジョン 送るわけに行きませんでし。—— こゝにか

うして持つて居ります。——
あなたのところへお届けする使も見付けられませんか
た、

それ程皆傳染を怖がつてみたのです。

僧ローレンス 何といふ不合せな運命だらう！

これは、容易ならぬ用件を記した大事な手紙だ。打ち棄
てゝ置くと、

どんな事をしてかさうも知れぬ。御坊は、あちらへ行つ
て、

鐵の槌を見つて、すぐ

私の庵室に持つて来て下され。

僧ジョン はい、すぐ持つて参りませう。

退場。

僧ローレンス さあ、一人で墓所へ行かなければならぬ。

この三時間内に美しいジュリエットは目を覺ませう。

この事件を少しもローミオに知らせなかつたと聞いたら

さぞわしを怨むことであらう。

だがマンチュアへはもう一度手紙を遣り、

ローミオが来る迄は、わしの庵室へかくまつて置かう。

可哀さうに、生きた死骸となつて、死人の墓所の中に閉

ぢ込められて居なさる！

退場。

第三場

墓地。その中に、キャビュ
レット家に屬する墓所。

パリス、侍童をつれ、花束と炬火を携へて登場。

パリス その炬火をくれ。お前は向うへ行つて、離れて

お出で。——

いや、それは消してくれ、他人に見られたくないから。

あその水松の木の下に、ずつと身を伏せ、

このうつろな地面に耳を押し付けてゐるがよい。

どんな足でも、この墓地を歩けば、

穴を掘るので土がゆるみ、和いであるから、

聞き落とす事はない。それから口笛を吹いて、

誰か来たといふ合図にするのだ。

その花も寄越せ。言ひつけ通りにするのだぞ、さあ。

侍童 「傍白」かういふ墓場に一人居るのは

随分怖いけれども、まあやつて見るとしよう。

退場。

パリス 麗はしい花の君、花をもつて君の新床に撒きちらさう。

おゝ、可哀想に！ 御身の天蓋は土塊と石だ。

それを私は、夜毎に匂ひの高い水で濕らし、なほ足らなければ、嘆きに絞る涙をそへよう。

君のために擦ぐる手向は

君の墓に花を撒いて泣くことだ。

侍童、口笛を鳴らす。

ボーイが、何かやつて来た知らせをしてゐるな。

どんな忌はしい足が、今夜この邊をさまよつて、

俺の、眞の愛の儀式を邪魔するのだらう？

え、炬火を持つてくる！——夜よ、暫く俺を隠して呉れ。

パリス退く。

ロミーオとバルサザー、炬火、鶴嘴その他を持つて

登場。

ロミーオ その鶴嘴と螺旋廻を此方へくれ。

これ、よいか、この手紙を渡しておく。明朝早く

間違ひなくそれを父上にお届けするのだぞ。

燈火をよこせ。お前の命にかけ、きつと言つて置くが、

どんなものも見ようと、聞かると、遠く離れてゐて、

俺のすることに邪魔をしてはならんぞ。

俺がこの死の床に下りて行くのは、

一つは、戀人の顔を見る爲めだが、

それよりも、彼女の死んだ指から、貴重な指輪を抜き取

つて、それを

大事な用に使はなくてはならないからだ。だから彼方、

行つて居る。

もし疑ひの心を起して立ち歸り、

何をするだらうなぞと、窺ひでもしたが最後、

神かけて、貴様をずた／＼に切り割き、

この飢ゑた墓地に四肢五體を撒き散らすぞ。

時刻が時刻だから、俺の目論見は、殘忍兇暴で、

飢ゑた虎や、吼え狂ふ海よりも、

更に烈しく、少しも假借はしないぞ。

バルサザー はい／＼參ります、お邪魔は致しません。

ロミーオ それでこそ俺に對する友愛があるといふもの

だ。これを取つて置け。(金を與へる)

無事で暮すがいい。ぢや、さやうなら。

バルサザー 「傍白」何と仰しやつても、私はこの邊に隠

れて居よう。

お顔つきも心配だし、何をなさるか知れやしない。

退場。

ローミオ 汝死の子宮奴、汝憎みてもあまる胃の腑奴、お前は地上に於ける無上の滋味を貪り食ひをつたが、かうして俺はお前の腐つた顎を無理に引開け、

と霊屋の戸口をこぢ開けながら、

憎みのあまりに、もつと食物を詰め込んでくれるぞ。

パリス あれは追放になつた高慢なモンタギューだな。

俺の戀人の従弟を殺し、その悲しみの爲めに

かの美しい君は死んだと取沙汰されてゐる。

こゝへ来たのは、死體に向つて何か意地悪い侮辱を

加へる爲めだらう。引捕へてくれる。——〔進み出る〕

やい、非道なモンタギュー、兎悪な所行を止めろ！

怨みを死骸にまで及ぼさうとは、

墮地獄の悪黨め、引つ立てる。

溫和しくついて來い、生かしては置かれぬ奴だ。

ローミオ 生きて居られない身だから、こゝへ来たのだ。

善良温厚な青年、命知らずにはかまふものぢやない。

早く立ち退いて、わしの事はほつて置きなさい。こゝに

居る死人のことを考へて

怖ろしく思ふがよい、お願ひだ、青年、
わしを強ひて激せしめて、

この上罪を犯させてくれるな。おゝ、行つてくれ給へ！
神かけて、わしは自分よりも、君をいとしく思ふ。

わしは、こゝで自分の身を殺すために來てゐるのだから。

さ、愚圖々々しないで行きなさい。生き永らへて、後で、
狂人の情で、危ないところを遁れたと言ひなさい。

パリス どんなに頼んでも無駄だ。

お前を重罪犯人として引つ捕へる。

ローミオ 俺を怒らせる氣か？ そんなら、小僧、かう

してくれる！

二人闘ふ。

侍童 おゝ神様、闘つてゐる！ 行つて夜警を呼んで來

よう。〔退場〕

パリス あゝ、やられた。——〔驚れる〕情があるなら、

廟を閉いて、私をジュリエットの側に寝かして呉れ。

パリス、息絶える。

ローミオ おゝ、承知したぞ。——どれ、顔を檢べて見

よう。

あの瘡^いせた、忌^いらしい怪物^が、

あなたを隠妻^{かきよめ}として、この暗闇^{くらやみ}の中に闇^かつて置くのでは

なからうか？

それが氣になるから、私はあなたといつ迄も一緒に居ませう。

そして、このほの暗い夜の宮殿から

二度と立ち去ることではない。こゝに、かうして、

あなたの侍女^{さむらひ}の蛆蟲^{むし}と一緒に留まつて居りませう。おゝ、

こゝで

私は永遠の眠りに就き、

薄蓮^{うすれん}の星の軌^きをば

この世に倦き果てた肉身から拂ひのけよう。——眼よ、

お前の最後のものを見るがよい！

腕よ、お前の最後の抱擁^{だうよう}を！そして唇^{くちびる}、おゝ、

息の戸の唇よ、人の命を永^{とこし}へに買ひ占める死の證文に

天下晴れての接吻^{くちくち}の封印^{ふういん}をしてくれ！

さあ来い、苦^{くる}い指揮者よ、恐^{おそ}ろしい案内者よ！

汝、絶望の水先案内よ。すぐさま、

荒れはてた海に、病み果てたこの小舟を、波の碎ける岩

角に乗り上げてくれ！

いざ、わが戀人のために！〔毒藥を飲む〕——おゝ、正

直な藥屋よ！

お前の藥は利^ききが早い。——かう接吻^{くちくち}と一緒に私は死ぬ

る。〔死す〕

墓地の向うの端に、僧^{そう}ローレンス、提灯^{ていとう}、鶴嘴^{つるすず}、鋤

を携へて登場。

僧^{そう}ローレンス、フランシス聖人様、どうぞお守り下さい

まし！まあ今夜は何度、

この老いの足が墓石に躓^{つまず}いた事やら！——誰だ？

バルサザー、怪しいものではございません。あなた様を

よく存じて居ります。

僧^{そう}ローレンス、御身^{ごみ}の上に祝福！何だね、あの燈火^{とうか}は？

用もないのに、蛆蟲^{むし}や、眼のない骸骨^{がいこつ}を

照して居るではないか？何だか

キャピュレット家のお靈屋^{たまご}で燃えて居るやうだが。

バルサザー、左様でございます、法師様。そして、あそ

こには私の主人で、

あなたの愛しておいでなさる方が居られます。

僧^{そう}ローレンス、誰が？

バルサザー、ローミオ様でございます。

僧ローレンス 入つてから、どれくらゐ経つ？

バルサザー たつぷり三十分程。

僧ローレンス 私と一緒に墓穴に来て下さい。

バルサザー それは行かれませんか。

主人は私があちらへ行つたものと許り思つて居ります。殺す時まで言つて私を囮うたされました、若しも居残つて、

何をしてゐるか見ようものならと。

僧ローレンス では、こゝに居なさい。わし一人で行く。

——何だか心配になつて来た。

おゝ、何か、不祥な事がありさうで心配でならない。

バルサザー 私はこの水松いんげんの木の下で寝て居ると、

主人と誰かど勝負をして、

主人がその男を殺された夢を見ました。

僧ローレンス ローミオ！〔進む〕

おゝ、これは何といふ血だ？ 御靈屋おたまやの石の入口を染め

て居るが。

この主のない、血の凝りついた二本の刀、

これが、かういふ平和の場所に、棄てゝあるのはどうし

たといふのだらう？〔墓の中へ入る〕

ローミオだ！ おゝ、眞實まことだ！ ——もう一人は誰だ？

や、パリスも？

しかも血に染まつて！ あゝ、何といふ無残な時刻が、こんな悲しい機會を興へる罪を造つたのだらう！——

や、姫が身動きするぞ。〔ジュリエット覺める〕

ジュリエット おゝ、有難い法師様！ 私の人は何處に？

私の行く處は、よく覚えてゐます。

さうだ、そこへ私は来て居ります。——私のローミオは？

奥にて物音がする。

僧ローレンス 何か物音が聞える。——さ、貴女、

こんな死や、疫病や、不自然な眠の巢すからお出なさい。

私達が抵抗することの出来ないずつと大きな力が、

折角の目論見もくろみを壊してしまひました。さ、お出なさい。

あなたの良人まことは、あなたのお胸のところまで死んで居られ

ます。

それからパリスどものも。さあ、あなたのお身は

聖い尼僧の仲間に入れてあげませう。

番人が来るから、話は後にして、

さ、行きませう、ジュリエット様。〔又物音がする〕

——もうかうしては居られない。

ジュリエット あちらへお出でなさい、

私は行きませんから。——

これは何だらう？ 戀しい方の手に握られてゐる盃だ。辨つた、毒を飲んで非業の最期をお遂げになつたのだ。

おゝ、情けない！ みんな飲んで了つて、

私の爲めに少しも残して下さらないんだもの！ あなた

の唇に接吻キスしませう。

もしかしたら、毒がまだ残つてゐて、

その妙薬で、私は死ぬことか出来るかも知れない。(ロー

ミオを接吻する)

まだ唇は温かい。

夜警甲 「奥で」侍童さん、案内しなさい。どつちだ？

ジュリエット え、入聲がする。では早く。——おゝ、嬉

しい短剣！ 「ローミオの短剣を急ぎ取り」

お前の鞘はこれです。(と我身を突く) こゝでお休息やすみみ、

そして私を死なして下さい。(ローミオの體の上に倒れ

て死ぬる)

夜警、パリスの侍童と共に登場。

侍童 こゝです。その炬火たいぎの燃えてるところです。

夜警甲 地面は血だらけだ。墓はち地を探して見ろ。

誰かあちらへ行つて、見つけ次第かまはず取り押へろ。

兩三人退場。

何といふ有様だ！ こゝに伯爵が殺されてみらつしやる。

そしてジュリエット様は、

埋められてからもう二日にもなるのに

今死んだやうに血を流して、温いまゝである。

領主様へ報せに行つて来い。キャピュレット家へも走れ！

モンタギューを起して来い。——他のものは探せ。——

他の夜警二三退場。

かういふ悲しみが散ばつて居る地盤は見えるが、

併しこの無残な悲しみの本當の地盤は、

詳しく調べて見なければ分らない。

バルサザーを連れて、二三の夜警再び登場。

夜警乙 これはローミオの召使です。墓場で見つけまし

た。

夜警甲 領主様がいらつしやる迄、しつかり押へて置け。

僧ローレンスを連れて、今一人の夜警再び登場。

夜警丙 この僧侶は、震へながら溜息を吐いて、泣いて

居りました。

墓地の方から出てくるところを引捕へて、

この鴉嘴と鋤を取り上げました。

夜警甲 甚だ怪しい奴だ、その坊主も留めて置け。

領主及び従者大勢登場。

領主 どんな椿事がかうも早く起つて、

朝の休息から我等を呼び出すのか。

キャピュレット、その夫人、その他登場。

キャピュレット 何だつて、皆が表であんなに金切聲を出

すのだらう？

キャピュレット夫人 街路で「ローミオ」と叫ぶものもあ

れば、

「ジュリエット」といふもの、「パリス」とわめくものもあ

り、そしてみんな

大聲を擧げて、家のお靈屋の方へ走つて参ります。

領主 我等の耳を驚かすこの恐怖の叫び聲は何事だ？

夜警甲 領主様、こゝにパリス伯爵が殺されておいで

す。

それからローミオ様も死んで居られます。前に死なれた

筈のジュリエット様が

まだ體温のあるまゝ、新しく殺されて居られます。

領主 探し尋ねて、どうしてかういふ兇悪な人殺しが起

つたか確める。

夜警甲 こゝに僧侶と、それから、殺されたローミオ様

の召使が居ります。

かういふ死人の墓を發くに、都合のいゝ

道具を持つて居ります。

キャピュレット おゝ天よ！ おゝ妻よ、あれを見るがよ

い、娘の體から血が流れてゐる！

この短劍が處を間違へたのだ、見ろ、

モンタギューの背にある住家は空で、(當時、劍を

娘の胸を間違つて鞘にして居るわ！

キャピュレット夫人 おゝ何といふことでせう！ この死

様は。

年老いたこの身を、墓へ急がす鐘でございます。

モンタギューその他登場。

領主 あゝ、モンタギュー、あなたは早く起きられたが

見るものといふのは、あなたの後嗣が時ならず早く寝ら

れた姿だ。

モンタギュー あゝ、御前、私の妻は昨夜死にました。

件が追放の身となつた悲みがあればの息の根を止めました

これ以上どんな悲みが一緒になつて、この年老いた身を

さいなむのでございませうか？

領主 あれを見たら、分るであらう。

モンタギュー おゝこの不所存者奴が！ 父を押しつけ

て墓へ急ぐとは、何といふ作法知らずだ。

領主 怒りの口を暫らく封じなさい。

先づこの疑惑を一掃し、

その原因、その發端、その眞の經過を突き止めよう。

その上でわしが皆々の悲歎を率ゐて

死の眞只中へでも突き進むことにする。暫らく辛抱し、

不幸を以て忍耐の奴隷としようではないか。――

嫌疑者一同を引き出せ。

僧ローレンス 私こそ最大の、と言つて力のない點では

最小のものでございますが、

時と云ひ、所と云ひ、私にすべて不利な爲め、

この恐ろしい人殺しの第一の嫌疑者でございます。

こゝに立ちまして、罪を問はれる私を辯解もし、

辯解される私を責めても居ります。

領主 ではこの件につき知るところをすぐさま申せ。

僧ローレンス 簡単に申し上げます、息吐く時も短うござ

いますから、

長々申しまする暇はございません。

そこに死んで居りますローミオは、あのジュリエットの
良人、

そしてそこに死んで居られる方は、ローミオの操正しい

妻でございます。

私がお二人の婚禮を取結びました。そしてお二人の祕密

の結婚日が

チポルト様の最期の日で、その時ならぬ死のため、

花婿はこの市から追放になりました。

ジュリエット様の悲歎に暮れておいでなされたのは、チポ

ルト様の爲めではなく、この方の爲めでした。

〔キャピュレットに向ひ〕あなた様はその悲しみの圍みを解

かうと思召し、

パリス伯爵と無理強ひに

結婚させようとなされました。そこで姫は私のところへ

やつて參られ、

氣が狂つたやうなお顔で、この二度目の結婚を

遁れる道を教へてくれ、

さもなければ、私の庵室で自殺して了はうと言はれます。

そこで、私は、法術によつて習ひ覺えた

催眠劑を差上げましたところ、望み通り

利目があつて、姫は死人の姿と

なられました。一方私はローミオ様へ書状を認め、

この恐ろしい宵こそは

薬の力の消える時だから、こゝへ来て、

假の墓場から、あの方を連れ出す手傳ひをしてくれと書

きました。

ところが、この手紙を持つて行く役目の男、即ち僧のジ

ンは、

ふとしたことから途で喰ひ止められ、昨夜になつて、

私の手紙を持ち歸つたのでございます。そこで私はたつ

た一人

姫が目覺すと定つてゐた時刻に、

御一族の墓穴からお連れ申さうと思つて、やつて参りま

した。

私の心算は、姫を私の庵室に隠して置いて、

機を見計つてローミオ様のところへ送る考へてございま

した。

ところが私が参りました時は、姫が目覺まされる時よ

りも

一二分前でございましたが、氣高いパリス様も

誠あるローミオ様も、こゝに非業の最後を遂げて居られ
ました。

その中、姫がお目覺めになられましたので、私は、こゝ
をお出なさい、

天命の致すところは是非なしと耐へて下さいとお頼みし
ました。

ところがその時物音がしたので、私は驚いて墓を出まし
たが、

姫は失望の餘り、私と一緒に行くことを承知なさらず、
御自害されたものと見えます。

私の存じて居りますことはこれだけでございます。その
結婚のことは、

姫の乳母が承知して居ります。

少しでも私のために過ちが生じたものとの御裁斷があり
ますれば、この老いの命を、

やがて来る天命よりも幾時か前に、
最も厳しい法律の面に照し、犠牲にして下さいますよう、
お願ひ致します。

領主 我々はいつもそなたを高徳の人と思つて居た。一

ローミオの召使は何處に居る？ この件につき、申述べ

るところはどうだ？

バルサザー　私は主人に、ジュリエット様の亡くなられた

報せを持つて参りました。

するとローミオ様は早馬でマンチチアから、

こゝの、このお靈屋へ参られました。

このお手紙を、早朝、父上様に差上げてくれとお命じに
なり、

御自身には墓穴へお入りになりながら、あちらへ行かな
ければ、

生かして置かぬぞと脅されましたので、そのまゝ残して
参りました。

領主　その手紙を見よう。これへ出せ。――

夜警を起した伯爵の侍童は何處に居る？――

こら、お前の主人はこゝで何をしたのか？

侍童　主人は奥様の墓に撒くため、花を持つて入らつし

やいました。

そして私に、向うへ行つて居れとのことでした
から、さう致しますと、

間もなく一人、燈火を持つて墓を開きに来る者がありま
す。

暫らくすると、主人はその者に向つて劔を抜きました。

そこで私は走つて、夜警の人を呼びに参つのでございま
す。

領主　この手紙によつて、法師の言葉の偽りでないこと
が分つた。

二人の戀の経路、婦人の死の報知、みな眞實であること
を證據だてゝある。

それからこゝにかり書いてある、貧乏な藥屋から
毒藥を購ひ求め、それを持つて、

この墓穴で、死んだジュリエットの側に眠らうと思つてや
つて來たと。――

これらの仇敵同士は何處に居る？――キャピュレット！

――モンタギュー！

見い！　何といふ懲罰が、そなた達の憎しみの上に降つ
たとか！

天は戀を以てそなた達の喜びの種を殺す手段を見出され
たのだ。

そして、私も亦、そなた達の不和を見通してゐた爲めに、
身内を二人までも亡くした。皆々罰せられたのだ。

キャピュレット　おゝモンタギューの兄弟、お手を執らせて

下さい、

これが娘の結納ゆめなです。これ以上他に望みはございません。

モンタギュー いや、私はもつと差上げるものがござい

ます。

私は、姫の像を純金でお建てしたい。

ヴェローナの市まちが、ヴェローナといふ名で知られる限り、どんな像だつて、眞實で操正まことしいジュリエットの像ほど尊敬されるものはないといふことに致しませう。

キャピュレット 娘の傍には、それに劣らぬローミオどのの立派な像を建てませう。

可哀さうに、二人は私達の不和の犠牲になりました！

領主 物悲しげな静けさが朝と共にやつて来た、

太陽も、悲しみのために、頭かぶを現はさない。

さあ、あちらに行つて、この悲しい事々を語り続けよう。

許すべき者もあれば、罰すべき者もある。

悲しき物語は多いが、

このローミオとジュリエットの物語にまさるものはあるまい。

一回退場。